

仙台市文化財調査報告書第 386 集

仙 台 城 跡

—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書VI ——

2011 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会



川内駅部Ⅰ区西側 V層上面(古段階)全景(南東から)



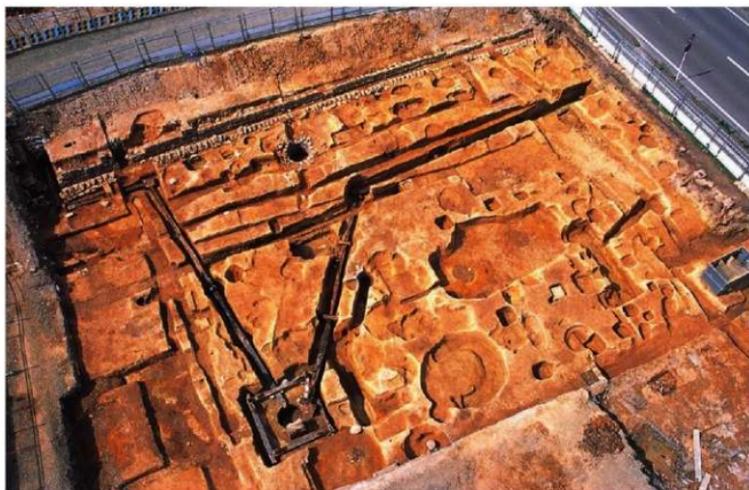
川内駅部Ⅰ区西側 V層上面(新段階)全景(南東から)



川内駅部Ⅰ区 SX8 石組柵状遺構（南東から）



川内駅部Ⅰ区西側 階段状遺構（北東から）



川内駅部Ⅰ区西側 全景（南東から）



川内駅部Ⅱ区南西側 土坑群全景（東から）



川内駅部Ⅱ区東側 IV層上面全景（南から）



川内駅部Ⅱ区 池Ⅰ鍋島出土状況（北東から）

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、高速鉄道東西線事業を推進し、高速鉄道南北線や、JR、バスと連携した公共交通ネットワークを形成することにより、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めております。

高速鉄道東西線の計画路線内には仙台城跡や関連した遺跡があり、さらに新しい遺跡が発見されることも予測されたことから、仙台市教育委員会では事業主体者の仙台市交通局と協議を重ね、平成16年度より確認・試掘調査を実施してまいりました。このうち仙台城跡は、仙台城二の丸跡の北方に位置し、近世絵図によると伊達家家臣の屋敷地に相当します。平成16年から18年にかけて実施した確認調査及び試掘調査により、多くの近世遺構が発見されることが予想され、平成19年度には約1年にわたる本格的な発掘調査を実施いたしました。調査の結果、仙台城をとりまく武家屋敷の様相を示す貴重な資料が得られております。本報告書はこの20年度の本発掘調査の成果をまとめたもので、高速鉄道東西線関係の本報告書の6冊目となります。

これまで、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

平成23年3月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例言

1. 本書は仙台市高速鉄道東西線建設に伴い実施した川内 B 遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が国際文化財株式会社へ委託して実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 原河英二・主濱光朗・結城慎一の監理のもとに、国際文化財株式会社 長林 大・辻本 彩が担当した。
4. 本書の第 3・4 図の絵図・地図の掲載にあたっては、所蔵機関の許可を得ている。
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまなご協力を賜った。記して謝意を表す次第である（敬称略順不同）
菅原弘樹（奥松島縄文村歴史資料館） 藤沢 敦（東北大学埋蔵文化財調査室） 松本秀明（東北学院大学）
渡邊慎也（雑華文庫主宰） 斎藤報恩会 東北歴史資料館 宮城県図書館 東北大学
仙台市博物館 仙台市歴史民俗資料館 仙台市交通局 仙台市建設局
6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
7. 遺物の墨書等の確認は鶴岡幸子氏、倉橋真紀氏、栗原伸一郎氏、坂田美咲氏（仙台市博物館）のご教示を得た。
8. 石製品の石材については、蟹沢聡史 東北大学名誉教授（理学博士）に鑑定していただいた。
9. 陶磁器の年代等の確認は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤 洋の協力を得た。

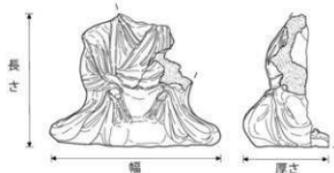
凡例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第 1 図は、国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」の一部と、1 万分の 1 地形図「青葉山」「仙台駅」の一部を合成して使用した。
3. 図中の座標値は日本測地系（第 X 系）座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度（T.P.）を示している。
6. 遺構図は 1/40 縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構図において、■（トーン）は礫を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
SA：柱列跡、SB：建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、P：ピット、SX：カマド跡・性格不明遺構
A：縄文土器、F：丸瓦・軒丸瓦、G：平瓦・軒平瓦、H：その他の瓦、I：陶器・瓦質土器・土師質土器
J：磁器、K：石器・石製品、N：金属製品、O：自然遺物、P：土製品、X：その他の遺物
10. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 としたが、瓦は 1/4、土製品、石製品、金属製品は 2/3、古銭は原寸で表示した。また、木製品は適宜縮尺を調整している。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、軸葉部の境は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線の場合は、展開し図上復元したものである。
12. 陶磁器類の遺物観察表には備考に「ロクロ成形」の記載は行っていない。また、法量の表示で（）書きの数値は残存値である。
13. 報告書内で使用している尺・寸の長さは「1 尺 = 30.3cm」、「1 寸 = 3.03cm」とした。
14. 遺物図のトーン及び法量の基準は次頁のとおりである。

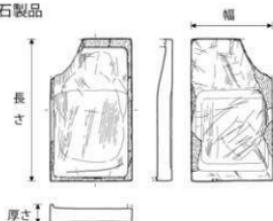
陶磁器 土師質土器 瓦質土器



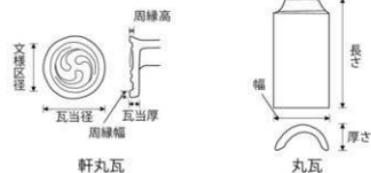
土製品



石製品

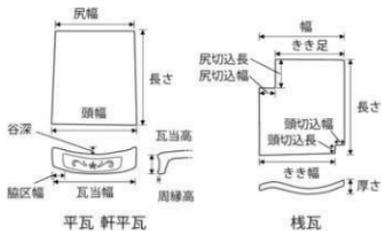
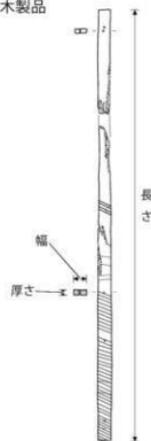


瓦

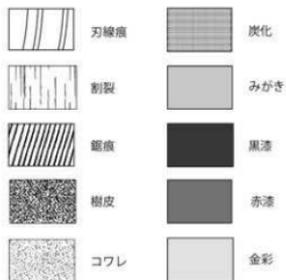


瓦・土製品・石製品 割れ

木製品



漆器刷の計測部位は陶磁器類に準じる



本文目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	3
1 現地調査	3
2 整理作業	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査方法	13
第1節 調査方法	13
1 現地調査	13
2 整理作業	13
3 遺構名称について	13
第2節 調査区グリッドの設定	14
第4章 基本層序	15
第1節 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区	15
第2節 立坑部	16
第5章 検出遺構と遺物	21
第1節 川内駅部Ⅰ区	21
1 V層上面検出遺構とV層出土遺物	21
〈V層上面古段階の遺構〉	21
〈V層上面新段階の遺構〉	34
2 IV層上面検出遺構とIV層出土遺物	58
3 III層上面検出遺構とIII層出土遺物	88
第2節 川内駅部Ⅱ区	132
1 V層上面検出遺構	132
2 IV層上面検出遺構	150
3 III層上面検出遺構とIII層出土遺物	239
第3節 立坑部	256
1 III層上面検出遺構とIII層出土遺物	256
第6章 自然科学分析	269
第1節 仙台城跡の植物化石群	269
第2節 仙台城跡出土木材の樹種同定	279
第3節 仙台城跡出土の動物遺体	286
第7章 出土遺物と検出遺構について	289
第1節 出土遺物について	289

1	出土した陶磁器について	289
2	SX21・池1出土の銅高埴について	296
第2節 検出された整地層と遺構について		298
1	各整地層の年代と遺物の接合関係について	298
2	区画施設について	301
3	整地層と検出遺構のまとめ	309
第8章 まとめ		311
引用・参考文献		312

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図	3	第 41 図	SD25 溝跡平面図・断面図	45
第 2 図	河岸段丘分布図	5	第 42 図	SD27 溝跡平面図・断面図	46
第 3 図	絵図	8	第 43 図	SD42 溝跡平面図・断面図	46
第 4 図	絵図	9	第 44 図	SE7 井戸跡平面図・断面図・立面図・出土遺物	47
第 5 図	安政3-6年(1856~1859) 「安政補正改年編(南園)」に見られる通りと名称	10	第 45 図	SK17 土坑平面図・断面図	48
第 6 図	周辺遺跡分布図	12	第 46 図	SK25 土坑平面図・断面図	48
第 7 図	グリッド設定図	14	第 47 図	SK27 土坑平面図・断面図	49
第 8 図	Ⅱ区Ⅲd 層埋積状況模式図	16	第 48 図	SK40 土坑平面図・断面図	49
第 9 図	各調査区柱状図及び対応関係	16	第 49 図	SK55 土坑平面図・断面図	50
第 10 図	川内駅部Ⅰ・Ⅱ区調査区壁断面図	17	第 50 図	SK60 土坑平面図・断面図	50
第 11 図	川内駅部Ⅰ・Ⅱ区立坑部調査区壁断面図	18	第 51 図	SK69 土坑平面図・断面図	50
第 12 図	立坑部調査区壁断面図	19	第 52 図	SK82 土坑平面図・断面図	51
第 13 図	I KV 層上面古段階遺構配置図	21	第 53 図	SK99 土坑平面図・断面図	51
第 14 図	SA2 柱列跡・SD34 溝跡平面図	22	第 54 図	SK121 土坑平面図・断面図	52
第 15 図	SA2 柱列跡・SD34 溝跡断面図	23	第 55 図	SX14 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	52
第 16 図	SA2 柱列跡・SD34 溝跡出土遺物	24	第 56 図	SX17 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	53
第 17 図	SA4 柱列跡平面図・断面図・出土遺物	25	第 57 図	SX43 性格不明遺構平面図・断面図	54
第 18 図	SA4 柱列跡出土遺物	26	第 58 図	SX43 性格不明遺構出土遺物(1)	55
第 19 図	SD31 溝跡平面図・断面図	27	第 59 図	SX43 性格不明遺構出土遺物(2)	56
第 20 図	SD46 溝跡平面図・断面図	28	第 60 図	ビット・V層出土遺物	57
第 21 図	SK40 土坑平面図	28	第 61 図	SA6 柱列跡平面図・断面図	58
第 22 図	SK83 土坑平面図・断面図	29	第 62 図	I KV 層上面遺構配置図	59
第 23 図	SK93 土坑平面図	29	第 63 図	SA6 柱列跡断面図	61
第 24 図	SK96 土坑平面図・断面図	29	第 64 図	SA6 柱列跡出土遺物	62
第 25 図	SK98 土坑平面図・断面図	30	第 65 図	SD7 溝跡平面図・断面図	63
第 26 図	SK113 土坑平面図・断面図	30	第 66 図	SD7 溝跡出土遺物	64
第 27 図	SX28 性格不明遺構平面図・断面図	31	第 67 図	SD9 溝跡平面図・断面図・出土遺物	65
第 28 図	SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	32	第 68 図	SD10 溝跡平面図・断面図・出土遺物(1)	66
第 29 図	SX37 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	33	第 69 図	SD10 溝跡出土遺物(2)	67
第 30 図	SA5 柱列跡・SD15 溝跡・SX11 硬化面平面図	34	第 70 図	SD11 溝跡平面図・断面図	68
第 31 図	I KV 層上面新段階遺構配置図	35	第 71 図	SD11 溝跡出土遺物	69
第 32 図	SA5 柱列跡平面図・断面図	37	第 72 図	SD12 溝跡平面図・断面図・出土遺物	69
第 33 図	SA5 柱列跡断面図	38	第 73 図	SD36 溝跡平面図・断面図	70
第 34 図	SA5 柱列跡断面図・出土遺物	39	第 74 図	SD40 溝跡・SX35 石組塀 平面図・断面図・立面図・出土遺物	71
第 35 図	SD15 溝跡平面図・断面図・立面図	40	第 75 図	SK11 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)	72
第 36 図	SD15 溝跡立面図・出土遺物	41	第 76 図	SK11 土坑出土遺物(2)	73
第 37 図	SD15 溝跡出土遺物	42	第 77 図	SK11 土坑出土遺物(3)	74
第 38 図	SD15 溝跡出土遺物	43	第 78 図	SK12 土坑平面図・断面図	74
第 39 図	SX11 硬化面平面図・断面図	43	第 79 図	SK12 土坑出土遺物	75
第 40 図	SB3 建物跡平面図・断面図	44	第 80 図	SK15 土坑平面図・断面図・出土遺物	76

第 81 图	SK20 土坑平面图·断面图	77	第 137 图	SE2 上水桶平面图	123
第 82 图	SK21 土坑平面图·断面图	77	第 138 图	SE2 上水桶断面图·出土文物	124
第 83 图	SK24 土坑平面图·断面图	78	第 139 图	木桶 1 平面图·断面图	125
第 84 图	SK30 土坑平面图·断面图	78	第 140 图	木桶 1 出土文物	126
第 85 图	SK39 土坑平面图·断面图	79	第 141 图	木桶 2 平面图·断面图·出土文物	127
第 86 图	SK47 土坑平面图·断面图	79	第 142 图	木桶 3 平面图·断面图	128
第 87 图	SK53 土坑平面图·断面图·出土文物	80	第 143 图	木桶 4 平面图·断面图	129
第 88 图	SK95 土坑平面图·断面图	80	第 144 图	木桶 4 出土文物	130
第 89 图	SX5 性格不明遺構平面图·断面图·出土文物	81	第 145 图	Ⅲ層出土文物 (1)	130
第 90 图	SX6 性格不明遺構平面图·断面图·出土文物	82	第 146 图	Ⅲ層出土文物 (2)	131
第 91 图	SX8 性格不明遺構平面图·立面图	83	第 147 图	SB4 建物跡平面图·断面图	132
第 92 图	SX8 性格不明遺構断面图	84	第 148 图	Ⅱ区V層上面遺構配置图	133
第 93 图	SX10 性格不明遺構平面图·断面图	85	第 149 图	SB4 建物跡平面图·断面图·出土文物	135
第 94 图	階段状遺構平面图	85	第 150 图	SD24 溝跡平面图·断面图	136
第 95 图	階段状遺構断面图·立面图·出土文物	86	第 151 图	SD24 溝跡出土文物 (1)	137
第 96 图	Ⅳ層出土文物	87	第 152 图	SD24 溝跡出土文物 (2)	138
第 97 图	I 区Ⅲ層上面遺構配置图	89	第 153 图	SD48 溝跡平面图·断面图	138
第 98 图	SA1 柱列跡·SA3 柱列跡平面图·断面图	91	第 154 图	SD50 溝跡平面图·断面图	139
第 99 图	SA1 柱列跡断面图·出土文物	92	第 155 图	SK37 土坑平面图·断面图	139
第 100 图	SA3 柱列跡断面图	93	第 156 图	SK48 土坑平面图·断面图	140
第 101 图	SA3 柱列跡出土文物	94	第 157 图	SK49 土坑平面图·断面图	140
第 102 图	SA7 柱列跡平面图·断面图·出土文物	95	第 158 图	SK61 土坑平面图·断面图	141
第 103 图	SB1 建物跡平面图	96	第 159 图	SK62 土坑平面图·断面图	141
第 104 图	SB1 建物跡断面图	97	第 160 图	SK72 土坑平面图·断面图	141
第 105 图	SD3 溝跡断面图	98	第 161 图	SK78 土坑平面图·断面图	142
第 106 图	SD3 溝跡平面图·立面图	99	第 162 图	SK81 土坑平面图·断面图	142
第 107 图	SD3 溝跡出土文物	100	第 163 图	SK84 土坑平面图·断面图	143
第 108 图	SD8 溝跡平面图·断面图	101	第 164 图	SK94 土坑平面图·断面图·出土文物	143
第 109 图	SE1 井戶跡平面图·断面图·立面图·出土文物	102	第 165 图	SK109 土坑平面图·断面图	144
第 110 图	SE3 井戶跡平面图·断面图	103	第 166 图	SK111 土坑平面图·断面图·出土文物	144
第 111 图	SE6 井戶跡平面图·断面图·出土文物	104	第 167 图	SK114 土坑平面图·断面图	145
第 112 图	SK1 土坑平面图·断面图	104	第 168 图	SK115 土坑平面图·断面图	145
第 113 图	SK2 土坑平面图·断面图·出土文物 (1)	105	第 169 图	SK116 土坑平面图·断面图	146
第 114 图	SK2 土坑出土文物 (2)	106	第 170 图	SK117 土坑平面图·断面图	146
第 115 图	SK3 土坑平面图·断面图	107	第 171 图	SK119 土坑平面图·断面图	146
第 116 图	SK3 土坑出土文物	108	第 172 图	SK122 土坑平面图·断面图	147
第 117 图	SK4 廃棄土坑平面图·断面图	109	第 173 图	SK123 土坑平面图·断面图	147
第 118 图	SK4 廃棄土坑出土文物 (1)	110	第 174 图	SK124 土坑平面图·断面图	148
第 119 图	SK4 廃棄土坑出土文物 (2)	111	第 175 图	SK127 土坑平面图·断面图	148
第 120 图	SK4 廃棄土坑出土文物 (3)	112	第 176 图	SX46 性格不明遺構平面图·断面图	149
第 121 图	SK5 土坑平面图·断面图·出土文物	113	第 177 图	SX48 性格不明遺構平面图·断面图	149
第 122 图	SK6 土坑平面图·断面图	114	第 178 图	SB2 建物跡平面图·断面图	150
第 123 图	SK7 土坑平面图·断面图	114	第 179 图	Ⅱ区Ⅳ層上面遺構配置图	151
第 124 图	SK8 土坑平面图·断面图	114	第 180 图	SD14 溝跡平面图·断面图·出土文物 (1)	153
第 125 图	SK9 土坑平面图·断面图	115	第 181 图	SD14 溝跡出土文物 (2)	154
第 126 图	SK13 土坑平面图·断面图	115	第 182 图	SD38 溝跡平面图·断面图·出土文物	155
第 127 图	SK14 土坑平面图·断面图	116	第 183 图	SD26 溝跡平面图·断面图	156
第 128 图	SK16 土坑平面图·断面图	116	第 184 图	SD28 溝跡平面图·断面图	156
第 129 图	SK18 土坑平面图·断面图·出土文物	117	第 185 图	SD37 溝跡平面图·断面图·出土文物	157
第 130 图	SK19 土坑平面图·断面图	118	第 186 图	SD39 溝跡平面图·断面图	158
第 131 图	SK22 土坑平面图·断面图·出土文物	118	第 187 图	SD43 溝跡平面图·断面图·出土文物	159
第 132 图	SK26 土坑平面图·断面图·出土文物	119	第 188 图	SD44 溝跡平面图·断面图	160
第 133 图	SK28 土坑平面图·断面图	120	第 189 图	SD49 溝跡平面图·断面图	160
第 134 图	SK29 土坑平面图·断面图·出土文物	120	第 190 图	SK41 土坑平面图·断面图	161
第 135 图	SK33 土坑平面图·断面图·出土文物	121	第 191 图	SK43 土坑平面图·断面图	161
第 136 图	SK34 土坑平面图·断面图·出土文物	122	第 192 图	SK44 土坑平面图·断面图	161

第 193 图	SK59 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	162	第 249 图	SK50 性格不明遺構平面圖·断面圖·出土遺物	198
第 194 图	SK64 土坑平面圖·断面圖	162	第 250 图	古段階池 1·2·SD33 構跡·竹樋平面圖 吉·跡段階断面圖	201
第 195 图	SK64 土坑出土遺物 (1)	163	第 251 图	新段階池 1·2·SD33 構跡·竹樋平面圖·断面圖	203
第 196 图	SK64 土坑出土遺物 (2)	164	第 252 图	池 1 出土遺物 (1)	206
第 197 图	SK65 土坑平面圖·断面圖	165	第 253 图	池 1 出土遺物 (2)	207
第 198 图	SK66 土坑平面圖	165	第 254 图	池 1 出土遺物 (3)	208
第 199 图	SK66 土坑断面圖·出土遺物	166	第 255 图	池 1 出土遺物 (4)	209
第 200 图	SK67 土坑平面圖·断面圖	166	第 256 图	池 1 出土遺物 (5)	210
第 201 图	SK67 土坑出土遺物	167	第 257 图	池 1 出土遺物 (6)	211
第 202 图	SK68 土坑平面圖·断面圖	167	第 258 图	池 1 出土遺物 (7)	212
第 203 图	SK68 土坑出土遺物	168	第 259 图	池 1 出土遺物 (8)	213
第 204 图	SK70 土坑平面圖·断面圖	168	第 260 图	池 1 出土遺物 (9)	214
第 205 图	SK70 土坑出土遺物	169	第 261 图	池 1 出土遺物 (10)	215
第 206 图	SK71 土坑平面圖·断面圖	169	第 262 图	池 1 出土遺物 (11)	216
第 207 图	SK71 土坑出土遺物 (1)	170	第 263 图	池 1 出土遺物 (12)	217
第 208 图	SK71 土坑出土遺物 (2)	171	第 264 图	池 1 出土遺物 (13)	218
第 209 图	SK71 土坑出土遺物 (3)	172	第 265 图	池 1 出土遺物 (14)	219
第 210 图	SK73 土坑平面圖·断面圖·出土遺物 (1)	173	第 266 图	池 1 出土遺物 (15)	220
第 211 图	SK73 土坑出土遺物 (2)	174	第 267 图	池 1 出土遺物 (16)	221
第 212 图	SK74 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	175	第 268 图	池 1 出土遺物 (17)	222
第 213 图	SK75 土坑平面圖·断面圖	175	第 269 图	池 1 出土遺物 (18)	223
第 214 图	SK75 土坑出土遺物	176	第 270 图	池 1 出土遺物 (19)	224
第 215 图	SK76 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	176	第 271 图	池 1 出土遺物 (20)	225
第 216 图	SK77 土坑平面圖·断面圖·出土遺物 (1)	177	第 272 图	池 1 出土遺物 (21)	226
第 217 图	SK77 土坑出土遺物 (2)	178	第 273 图	池 1 出土遺物 (22)	227
第 218 图	SK80 土坑平面圖·断面圖	178	第 274 图	池 1 出土遺物 (23)	228
第 219 图	SK86 土坑平面圖·断面圖	179	第 275 图	池 1 出土遺物 (24)	229
第 220 图	SK87 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	180	第 276 图	池 1 出土遺物 (25)	230
第 221 图	SK88 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	181	第 277 图	池 1 出土遺物 (26)	231
第 222 图	SK89 土坑平面圖·断面圖	182	第 278 图	池 2 出土遺物 (1)	231
第 223 图	SK90 土坑平面圖·断面圖	182	第 279 图	池 2 出土遺物 (2)	232
第 224 图	SK91 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	183	第 280 图	池 3 平面圖	233
第 225 图	SK101 土坑平面圖·断面圖	183	第 281 图	池 3 断面圖·出土遺物 (1)	234
第 226 图	SK101 土坑出土遺物	184	第 282 图	池 3 出土遺物 (2)	235
第 227 图	SK102 土坑平面圖·断面圖	184	第 283 图	池 3 出土遺物 (3)	236
第 228 图	SK102 土坑出土遺物	185	第 284 图	Ⅱ区血槽上面遺構配置圖	237
第 229 图	SK103 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	185	第 285 图	SD29 溝跡平面圖·断面圖·出土遺物	239
第 230 图	SK105 土坑平面圖·断面圖	186	第 286 图	SK45 土坑平面圖·断面圖	240
第 231 图	SK106 土坑平面圖·断面圖	186	第 287 图	SK50 土坑平面圖·断面圖	240
第 232 图	SK107 土坑平面圖·断面圖	187	第 288 图	SK51 土坑平面圖·断面圖	241
第 233 图	SK108 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	187	第 289 图	SK52 土坑平面圖·断面圖	241
第 234 图	SK110 土坑平面圖·断面圖	188	第 290 图	SK63 土坑平面圖·断面圖	242
第 235 图	SK112 土坑平面圖·断面圖	188	第 291 图	SK79 土坑平面圖·断面圖	242
第 236 图	SK7 性格不明遺構平面圖·断面圖·出土遺物 (1)	189	第 292 图	SK85 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	243
第 237 图	SK7 性格不明遺構出土遺物 (2)	189	第 293 图	SK92 土坑平面圖·断面圖	243
第 238 图	SK21 性格不明遺構平面圖·断面圖	190	第 294 图	SK92 土坑出土遺物	244
第 239 图	SK21 性格不明遺構出土遺物 (1)	191	第 295 图	SK100 土坑平面圖·断面圖	244
第 240 图	SK21 性格不明遺構出土遺物 (2)	192	第 296 图	SK100 土坑出土遺物	245
第 241 图	SK21 性格不明遺構出土遺物 (3)	193	第 297 图	SK104 土坑平面圖·断面圖	245
第 242 图	SK24 性格不明遺構平面圖·断面圖	194	第 298 图	SK118 土坑平面圖·断面圖·出土遺物	246
第 243 图	SK25 性格不明遺構平面圖·断面圖	194	第 299 图	SK12 性格不明遺構平面圖·断面圖	246
第 244 图	SK27 性格不明遺構平面圖·断面圖·出土遺物	195	第 300 图	SK15 性格不明遺構平面圖·断面圖·出土遺物	247
第 245 图	SK33 性格不明遺構平面圖·断面圖	196	第 301 图	SK19 性格不明遺構平面圖·断面圖	248
第 246 图	SK44 性格不明遺構平面圖·断面圖·出土遺物	196	第 302 图	SK19 性格不明遺構出土遺物	249
第 247 图	SK45 性格不明遺構平面圖·断面圖	197	第 303 图	SK32 性格不明遺構平面圖·断面圖	250
第 248 图	SK47 性格不明遺構平面圖·断面圖	197			

第 304 図	木樋 5 平面図・断面図	250	第 329 図	SX43 と SK77 の主要珪藻分布図	273
第 305 図	Ⅲ c 層出土遺物 (1)	251	第 330 図	No.18 の火山ガラスの屈折率傾度分布	274
第 306 図	Ⅲ c 層出土遺物 (2)	252	第 331 図	試料 18 の細粒砂粒子の状況	274
第 307 図	Ⅲ c 層出土遺物 (3)・Ⅲ d 層出土遺物 (1)	253	第 332 図	仙台城跡より産出した花粉化石と寄生虫卵	277
第 308 図	Ⅲ d 層出土遺物	254	第 333 図	仙台城跡から産出した珪藻化石	278
第 309 図	Ⅲ d 層出土遺物 (3)	255	第 334 図	仙台城跡出土木材の顕微鏡写真 (1)	283
第 310 図	SD2 溝跡平面図・断面図	256	第 335 図	仙台城跡出土木材の顕微鏡写真 (2)	284
第 311 図	立坑部Ⅲ層上面遺構配図	257	第 336 図	仙台城跡出土木材および種実の顕微鏡写真	285
第 312 図	SD3 溝跡平面図・断面図	259	第 337 図	仙台城跡出土の動物遺体	288
第 313 図	SD5 溝跡平面図・断面図	259	第 338 図	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層出土陶磁器産地別比率	291
第 314 図	SD6 溝跡平面図・断面図・出土遺物	260	第 339 図	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層上面遺構出土 陶磁器産地別比率	292
第 315 図	SD7 溝跡平面図・断面図・出土遺物	261	第 340 図	V層・V層上面遺構 IV層出土遺物	293
第 316 図	SD8 溝跡平面図・断面図	261	第 341 図	IV層上面遺構出土遺物	294
第 317 図	SK1 土坑平面図・断面図	262	第 342 図	IV層上面遺構 III層出土遺物	295
第 318 図	SK2 土坑平面図・断面図	262	第 343 図	Ⅲ層・Ⅲ層上面遺構出土遺物	296
第 319 図	SK3 土坑平面図・断面図	263	第 344 図	池Ⅰ新段階出土 鍋島焼	297
第 320 図	SK4 土坑平面図・断面図	263	第 345 図	川内駅部Ⅱ区 遺物の接合関係	299
第 321 図	SK5 土坑平面図・断面図・出土遺物	264	第 346 図	川内駅部Ⅰ区Ⅰa期の区画施設	302
第 322 図	SX11 性格不明遺構平面図・断面図	264	第 347 図	川内駅部Ⅰ区Ⅰb期の区画施設	303
第 323 図	Ⅲ層出土遺物 (1)	265	第 348 図	川内駅部Ⅱ区Ⅰb期の区画施設	303
第 324 図	Ⅲ層出土遺物 (2)	266	第 349 図	川内駅部Ⅱ区Ⅱa期の区画施設	304
第 325 図	Ⅲ層出土遺物 (3)	267	第 350 図	川内駅部Ⅱ区Ⅱb期の区画施設	305
第 326 図	Ⅲ層出土遺物 (4)	268	第 351 図	川内駅部Ⅰ区Ⅲa期の区画施設	306
第 327 図	仙台城跡試料採取地点	269	第 352 図	仙台城跡出土遺構時期別変遷模式図	307
第 328 図	仙台城跡の主要花粉分布図	272			

表 目 次

第 1 表	屋敷洋領者関連絵図人名	10	第 12 表	仙台城跡から出土した木製品および加工材の樹種	280
第 2 表	仙台藩の家格	10	第 13 表	仙台城跡出土加工材および木製品の種類の出土表	281
第 3 表	遺跡地名表	12	第 14 表	仙台城跡から出土した種実	282
第 4 表	川内駅部Ⅰ・Ⅱ区土層観察表	20	第 15 表	仙台城跡出土動物遺体種名表	286
第 5 表	立坑部土層観察表	20	第 16 表	仙台城跡の動物遺体判定結果	287
第 6 表	SA3 土層観察表	205	第 17 表	仙台城跡出土遺物数量一覧表	289
第 7 表	池Ⅰ・Ⅱ・SD33 溝跡・竹樋土層観察表	94	第 18 表	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区陶磁器産地別数量一覧表	291
第 8 表	仙台城跡の分析試料と分析項目	269	第 19 表	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区陶磁器産地別数量一覧表	292
第 9 表	仙台城跡の分析試料の堆積物の特性	270	第 20 表	川内駅部Ⅱ区 遺物の接合関係表	299
第 10 表	仙台城跡より産出した花粉化石の一覧表	271	第 21 表	I a 期検出遺構対応表	301
第 11 表	珪藻分析結果一覧表	273	第 22 表	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区区画施設方位	306

写 真 目 次

写真 1	SX21 性格不明遺構出土 鍋島焼	297
------	-------------------	-----

写 真 図 版 目 次

図 版 1	川内駅部壁面 (1)	315	図 版 10	川内駅部Ⅰ区V層 (7)	324
図 版 2	川内駅部壁面 (2)	316	図 版 11	川内駅部Ⅰ区V層 (8)	325
図 版 3	川内駅部壁面 (3) 立坑部壁面	317	図 版 12	川内駅部Ⅰ区V層 (9)	326
図 版 4	川内駅部Ⅰ区V層 (1)	318	図 版 13	川内駅部Ⅰ区V層 (10)	327
図 版 5	川内駅部Ⅰ区V層 (2)	319	図 版 14	川内駅部Ⅰ区V層 (11)	328
図 版 6	川内駅部Ⅰ区V層 (3)	320	図 版 15	川内駅部Ⅰ区V層 (12)	329
図 版 7	川内駅部Ⅰ区V層 (4)	321	図 版 16	川内駅部Ⅰ区V層 (13)	330
図 版 8	川内駅部Ⅰ区V層 (5)	322	図 版 17	川内駅部Ⅰ区V層 (14)	331
図 版 9	川内駅部Ⅰ区V層 (6)	323	図 版 18	川内駅部Ⅰ区V層 (15)	332

图版 19	川内峡部 I 区 V 层 (16).....	333	图版 74	川内峡部 II 区 IV 层 (14).....	388
图版 20	川内峡部 I 区 V 层 (17).....	334	图版 75	川内峡部 II 区 IV 层 (15).....	389
图版 21	川内峡部 I 区 V 层 (18).....	335	图版 76	川内峡部 II 区 IV 层 (16).....	390
图版 22	川内峡部 I 区 IV 层 (1).....	336	图版 77	川内峡部 II 区 IV 层 (17).....	391
图版 23	川内峡部 I 区 IV 层 (2).....	337	图版 78	川内峡部 II 区 IV 层 (18).....	392
图版 24	川内峡部 I 区 IV 层 (3).....	338	图版 79	川内峡部 II 区 IV 层 (19).....	393
图版 25	川内峡部 I 区 IV 层 (4).....	339	图版 80	川内峡部 II 区 IV 层 (20).....	394
图版 26	川内峡部 I 区 IV 层 (5).....	340	图版 81	川内峡部 II 区 IV 层 (21).....	395
图版 27	川内峡部 I 区 IV 层 (6).....	341	图版 82	川内峡部 II 区 III 层 (1).....	396
图版 28	川内峡部 I 区 IV 层 (7).....	342	图版 83	川内峡部 II 区 III 层 (2).....	397
图版 29	川内峡部 I 区 IV 层 (8).....	343	图版 84	川内峡部 II 区 III 层 (3).....	398
图版 30	川内峡部 I 区 IV 层 (9).....	344	图版 85	川内峡部 II 区 III 层 (4).....	399
图版 31	川内峡部 I 区 IV 层 (10).....	345	图版 86	立坑部 III 层 (1).....	400
图版 32	川内峡部 I 区 IV 层 (11).....	346	图版 87	立坑部 III 层 (2).....	401
图版 33	川内峡部 I 区 IV 层 (12).....	347	图版 88	立坑部 III 层 (3).....	402
图版 34	川内峡部 I 区 IV 层 (13).....	348	图版 89	川内峡部 I 区出土文物 (1).....	403
图版 35	川内峡部 I 区 IV 层 (14).....	349	图版 90	川内峡部 I 区出土文物 (2).....	404
图版 36	川内峡部 I 区 III 层 (1).....	350	图版 91	川内峡部 I 区出土文物 (3).....	405
图版 37	川内峡部 I 区 III 层 (2).....	351	图版 92	川内峡部 I 区出土文物 (4).....	406
图版 38	川内峡部 I 区 III 层 (3).....	352	图版 93	川内峡部 I 区出土文物 (5).....	407
图版 39	川内峡部 I 区 III 层 (4).....	353	图版 94	川内峡部 I 区出土文物 (6).....	408
图版 40	川内峡部 I 区 III 层 (5).....	354	图版 95	川内峡部 I 区出土文物 (7).....	409
图版 41	川内峡部 I 区 III 层 (6).....	355	图版 96	川内峡部 I 区出土文物 (8).....	410
图版 42	川内峡部 I 区 III 层 (7).....	356	图版 97	川内峡部 I 区出土文物 (9).....	411
图版 43	川内峡部 I 区 III 层 (8).....	357	图版 98	川内峡部 I 区出土文物 (10).....	412
图版 44	川内峡部 I 区 III 层 (9).....	358	图版 99	川内峡部 I 区出土文物 (11).....	413
图版 45	川内峡部 I 区 III 层 (10).....	359	图版 100	川内峡部 I 区出土文物 (12).....	414
图版 46	川内峡部 I 区 III 层 (11).....	360	图版 101	川内峡部 I 区出土文物 (13).....	415
图版 47	川内峡部 I 区 III 层 (12).....	361	图版 102	川内峡部 I 区出土文物 (14).....	416
图版 48	川内峡部 I 区 III 层 (13).....	362	图版 103	川内峡部 I 区出土文物 (15).....	417
图版 49	川内峡部 I 区 III 层 (14).....	363	图版 104	川内峡部 I 区出土文物 (16) · II 区出土文物 (1) ·	418
图版 50	川内峡部 I 区 III 层 (15).....	364	图版 105	川内峡部 II 区出土文物 (2).....	419
图版 51	川内峡部 I 区 III 层 (16).....	365	图版 106	川内峡部 II 区出土文物 (3).....	420
图版 52	川内峡部 I 区 III 层 (17).....	366	图版 107	川内峡部 II 区出土文物 (4).....	421
图版 53	川内峡部 II 区 V 层 (1).....	367	图版 108	川内峡部 II 区出土文物 (5).....	422
图版 54	川内峡部 II 区 V 层 (2).....	368	图版 109	川内峡部 II 区出土文物 (6).....	423
图版 55	川内峡部 II 区 V 层 (3).....	369	图版 110	川内峡部 II 区出土文物 (7).....	424
图版 56	川内峡部 II 区 V 层 (4).....	370	图版 111	川内峡部 II 区出土文物 (8).....	425
图版 57	川内峡部 II 区 V 层 (5).....	371	图版 112	川内峡部 II 区出土文物 (9).....	426
图版 58	川内峡部 II 区 V 层 (6).....	372	图版 113	川内峡部 II 区出土文物 (10).....	427
图版 59	川内峡部 II 区 V 层 (7).....	373	图版 114	川内峡部 II 区出土文物 (11).....	428
图版 60	川内峡部 II 区 V 层 (8).....	374	图版 115	川内峡部 II 区出土文物 (12).....	429
图版 61	川内峡部 II 区 IV 层 (1).....	375	图版 116	川内峡部 II 区出土文物 (13).....	430
图版 62	川内峡部 II 区 IV 层 (2).....	376	图版 117	川内峡部 II 区出土文物 (14).....	431
图版 63	川内峡部 II 区 IV 层 (3).....	377	图版 118	川内峡部 II 区出土文物 (15).....	432
图版 64	川内峡部 II 区 IV 层 (4).....	378	图版 119	川内峡部 II 区出土文物 (16).....	433
图版 65	川内峡部 II 区 IV 层 (5).....	379	图版 120	川内峡部 II 区出土文物 (17).....	434
图版 66	川内峡部 II 区 IV 层 (6).....	380	图版 121	川内峡部 II 区出土文物 (18).....	435
图版 67	川内峡部 II 区 IV 层 (7).....	381	图版 122	川内峡部 II 区出土文物 (19).....	436
图版 68	川内峡部 II 区 IV 层 (8).....	382	图版 123	川内峡部 II 区出土文物 (20).....	437
图版 69	川内峡部 II 区 IV 层 (9).....	383	图版 124	川内峡部 II 区出土文物 (21).....	438
图版 70	川内峡部 II 区 IV 层 (10).....	384	图版 125	川内峡部 II 区出土文物 (22).....	439
图版 71	川内峡部 II 区 IV 层 (11).....	385	图版 126	川内峡部 II 区出土文物 (23).....	440
图版 72	川内峡部 II 区 IV 层 (12).....	386	图版 127	川内峡部 II 区出土文物 (24).....	441
图版 73	川内峡部 II 区 IV 层 (13).....	387	图版 128	川内峡部 II 区出土文物 (25).....	442

图版 129	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (26)·····	443	图版 139	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (36)·····	453
图版 130	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (27)·····	444	图版 140	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (37)·····	454
图版 131	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (28)·····	445	图版 141	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (38)·····	455
图版 132	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (29)·····	446	图版 142	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (39)·····	456
图版 133	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (30)·····	447	图版 143	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (40)·····	457
图版 134	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (31)·····	448	图版 144	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (41)·····	458
图版 135	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (32)·····	449	图版 145	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (42) 立坑部出土遺物 (1)·····	459
图版 136	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (33)·····	450	图版 146	立坑部出土遺物 (2)·····	460
图版 137	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (34)·····	451	图版 147	立坑部出土遺物 (3)·····	461
图版 138	川内駅部Ⅱ区出土遺物 (35)·····	452	图版 148	立坑部出土遺物 (4)·····	462

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局が仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が行われた。その結果、高速鉄道東西線事業計画予定路線内における周知の遺跡及び遺跡範囲外の状況把握のため、先ず確認調査及び試掘調査を実施し、その結果を踏まえて本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

以上の協議事業に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成16年度の対象地域は、高速鉄道東西線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18箇所の調査区を設定し、総面積448㎡の調査を実施した。平成17年度の調査対象地域は仙台城跡及びその周辺地区、川内A遺跡隣接地区、西公園地区で、22箇所の調査区を設定し、総面積421㎡の調査を実施した。このうち川内駅部（この確認・試掘調査での便宜的区割りのE・F区）は、平成17年7月25日から8月30日の間、6箇所（144㎡）の確認調査が実施された。その結果、一部で近世の遺跡の存在が確認され、さらにその広がりが見え、その他の部分でも深く掘り込まれた遺跡の残存が確認された。また、亀岡トンネル立坑部の位置が当初予定地より東側へ変更になったことから、仙台市教育委員会は仙台市交通局と協議をし、平成19年度に本調査を実施することとなり、平成19年4月2日より本調査を開始した。

第2節 調査要項

調査要項

遺跡名：仙台城跡（宮城県遺跡登録番号01033）

所在地：仙台市青葉区川内41・43 地内

調査原因：高速鉄道東西線路線・工事に伴う事前調査

調査主体：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）

調査担当：文化財課調査係主査 原河 英二（平成19年度）

文化財課調査係主査 佐藤 洋（平成19年度）

文化財課調査係主事 廣瀬真理子（平成19年度）

調査組織：国際航業株式会社（平成19年度）

国際文化財株式会社（平成21～22年度）

調査体制 主任調査員 園村雅敏（平成19年4月～平成20年3月）

調査員 関 美男（平成19年9月～平成20年1月）

雨宮瑞生（平成19年4月～平成19年12月）

川又理枝（平成19年4月～平成20年3月）

長林 大（平成19年4月～平成20年3月）

調査補助員 田中美穂（平成19年4月～平成20年1月）

第2節 調査要項

朝日向忠久（平成19年4月～平成19年8月）

菅野 梢（平成19年9月～平成20年3月）

調査期間：平成19年4月23日～平成20年1月28日（現地調査）

平成20年2月2日～3月17日（整理作業）

調査面積：3800㎡

報告書作成要項

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査係主査 原河英二（平成21年度）

文化財課調査指導係主査 主濱光朗（平成22年度）

文化財課調査指導係専門員 結城慎一（平成22年度）

調査組織：国際文化財株式会社

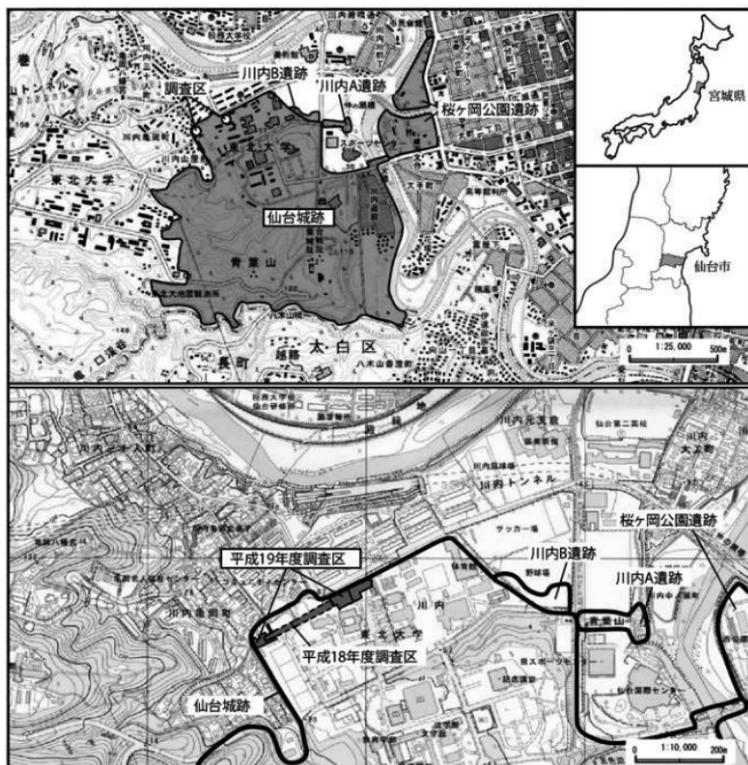
主任調査員 長林 大（平成21年4月～平成22年3月・平成22年5月～平成23年3月）

調査補助員 渡邊香織（平成21年4月～平成22年3月）

辻本 彩（平成22年5月～平成22年11月）

作成期間：平成21年度4月1日～平成22年3月19日

平成22年度5月1日～平成23年3月11日



第1図 遺跡位置図

第3節 調査概要

1 現地調査

調査は平成16年から平成17年に行われた試掘調査を受けて、平成19年4月23日から平成20年2月1日まで現地調査を行い、平成20年2月2日～3月17日まで現地での基礎整理作業を行った。現地調査日数は189日、基礎整理作業日数は30日で、調査面積は川内駅部2900㎡、亀岡トンネル立坑部900㎡である。

川内駅部は西側を平成18年度の調査のⅢ区に隣接し、南西側は平成15年度に東北大学埋蔵文化財調査室が行った調査区に隣接している。調査区は最近まで東北大学川内キャンパスの一部として使用されており、調査区内の西側には南北に横断している緊急通路が存在している。この緊急通路が調査によって消滅してしまうことから、消防法の規定により新たな緊急通路の確保が必要となった。そのため、調査区内の西側をⅠ区、東側をⅡ区とし調査時

第3節 調査概要

期をずらしてⅠ区から調査することとなった。調査は、Ⅱ区に緊急通路を移設した後、試掘調査の成果を基に基本層を確認しつつⅠ区の表土層を重機により除去した。また、Ⅰ区の西側には近代に造られた高さ約4mの石垣が南北方向に縦断しており、表土層の除去と並行して重機による撤去作業を行った。旧日本陸軍第二師団の建物と盛土を除去している段階で、石垣より西側においては昨年と同様に近世の整地土(Ⅲ～Ⅴ層)が確認できたが、石垣より東側に関しては近代の造成の際に大部分が削平され、基盤層(Ⅵ層)直上における遺構確認となった。重機による表土除去後、人力掘削を開始し利水関係の施設、溝跡、柱列等が確認された。9月11日からⅠ区西側の一部を埋め戻しⅡ区に移設した緊急通路を再度移設し、9月26日より重機によるⅡ区の表土除去作業を行った。Ⅱ区の東端は、Ⅰ区と同様に近代に造られた高さ4.8mの石垣により分断されており、石垣より東側は近代の造成の際に削平され、近世の整地土・遺構は確認できなかった。この調査区の南西側と石垣より西側の広範囲に近世の良好な整地土(Ⅲ層・Ⅳ層)を確認したため、以下は人力による掘下げを行った。Ⅱ区では近世の池、溝、土坑群等が確認された。また、Ⅰ区の石垣の西側において指標テラフである十和田a火山灰を含む層が確認され、その下層から縄文土器一片が出土したため、1月17日に調査区南壁付近にトレンチを設定し確認作業を行ったが、遺物・遺構は確認できなかった。川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区においては、2月1日に土層サンプル採取、壁面土層記録を行い、全調査過程を終了した。2月2日より現地事務所において写真・遺構図等の基本整理作業・撤収工を行い3月17日に撤収作業を終了した。

立坑部は東側が平成18年度調査のⅠ区に隣接し、地下鉄東西線が青葉山に潜るトンネルの坑口に相当する部分である。当初、調査区は川内キャンパスを巡る市道の西側の亀岡トンネル立坑部と、東側のキャンパス内と民家部分を合わせた亀岡トンネル開削部に分けられていた。7月の終わりに、調査区内の民家の撤去が終わり市道東側の亀岡トンネル開削部の調査に入った。しかし、トンネルの設計変更により立坑部が東に移動し、その後、先の谷川流路の変更がなされ、調査区は3度の設定変更を行い現在の亀岡トンネル立坑部の調査範囲となった。7月30日から重機により表土を除去した。表土を除去している過程で調査区の北半分は、谷川の氾濫対策に作られたカルバート放水路により削平されていることを確認し、調査対象範囲は半分の南側と北側の一部のみとなった。調査範囲において良好な整地土(Ⅲ層)を確認したため、以下は人力による掘下げを行った。立坑部では近世の溝、土坑等を検出した。立坑部は12月27日に埋め戻しを終了した。

2 整理作業

整理作業及び報告書作成作業は、平成21年度4月から2カ年にわたって実施した。平成21年度は出土遺物の1次・2次整理及び遺構図面の編集、調整を行い、翌年度に版組して報告書の作成を実施した。出土遺物は内法54.5cm×33.6cm×15cmの平箱に約175箱である。大部分を近世から近代の陶磁器と瓦が占め、その他に土師質土器、瓦質土器等や杭・柱痕・板材等を主体とした木製品等が見られる。また、縄文土器の破片が1点ある。出土遺物は水洗い・注記した後、取り上げ番号毎に内容を確認し、遺物台帳に記載した。陶磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦等は器種・器形・文様等により分類し接合を行った。接合した後さらに産地別に分類し、取り上げ番号毎にそれぞれの破片数をカウントした。また、産地・時期が判別でき、遺構や土層の性格が判断できるもの等について抽出し、実測・写真撮影に耐えられるように破損箇所に樹脂を充填して補強・復元を行った。金属製品等は付着している泥土や錆を落とし、陶磁器類と同様に分類・カウント・抽出を実施した。木製品は、洗浄後水漬けて保存し、器種・形状等で分類し、加工痕の見られるものについて抽出した。抽出遺物については、それぞれ種別ごとに登録し、実測・デジタルトレースによる遺物図作成及び写真撮影を行い遺物観察表を作成した。

遺構についても現場で計測・作成された遺構図面を確認し、検出面・堆積土・出土遺物等を確認して、その所属年代・性格を検討し、遺構図の作成を行った。

第2章 位置と環境

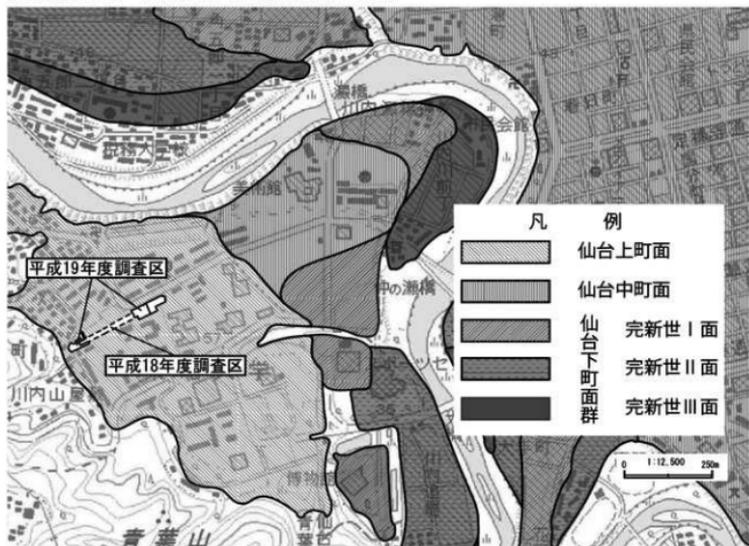
第1節 地理的環境

仙台城跡は、仙台市青葉区川内に所在する。本調査区（川内駅部・亀岡トンネル立坑部）は広瀬川の蛇行と侵食によって形成された青葉山から北東に張り出す緩く傾斜した仙台上町面に立地し、仙台城二の丸（東北大学川内キャンパス）の北西部にあたる。北側は約300mで広瀬川に至る。

調査地の標高はもっとも西側の立坑部で約70m、東側の川内駅部Ⅱ区が55.7mを測り、高低差約14.3mの傾斜地に位置している。また、川内駅部Ⅱ区より東側には東北大学構内と東北大学グラウンドを分ける高さ約10m強の近代に造られた石垣があり、その石垣は仙台上町面と仙台中町面の段丘崖部分に当たっている。

広瀬川の形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面・仙台上町面・仙台中町面・仙台下町面（完新世Ⅰ面～Ⅲ面）の順に7面に区分される。各段丘面の形成時期は、それぞれ、台ノ原面：約10万年前、仙台上町面：約2.6万年前、仙台中町面：約1.6万年前、仙台下町面（完新世Ⅰ面）：約9100～9500年前、仙台下町面（完新世Ⅱ面）：約2010年前とされている。また、仙台下町面（完新世Ⅲ面）の形成時期については完新世Ⅱ面の形成から近世期の間に形成されたものと考えられる（松本・熊谷2010）。

平成18年度の調査では、立坑部の東側に位置する亀岡トンネル開削部Ⅰ区（Ⅰ区）の自然堆積層下部（Ⅵc層）において仙台上町面の段丘礫層が確認されている。また、立坑部の西側に位置する青葉山に連なる開口部の谷から開析土が土石流となって一部堆積している状況も確認されている。



第2図 河岸段丘分布図（松本・熊谷2010の図を一部変更して使用した）

第2節 歴史的環境

本調査区は、「仙台城跡」の遺跡範囲内にあり、当該遺跡の北辺にあたる。西方の丘陵には縄文時代を主青葉山B遺跡、青葉山E遺跡(第6図-22・23)、南東には経ヶ峯伊達家墓所(第6図-5)や茂ヶ崎城跡(第6図-11)が分布している。また、さらに茂崎城跡の丘陵麓付近には愛宕山横穴墓群(第6図-15・16)、大年寺山横穴墓群(第6図-17)が所在する地域である。

慶長5年(1600)の12月24日に伊達政宗は、新しい居城として国分氏の千代城がある青葉山に縄張りを行い名前を「仙台城」と改めている。普請総奉行には後藤孫兵衛信康・川島豊前宗泰・金森内膳・原次右衛門・真柳十介の5名が任命され、慶長6年(1601)1月11日に普請が開始されている。同日、政宗は図を示し城下の屋敷割を行い、川島宗泰・金森内膳を奉行とし、これに当たらせている。また政宗は、普請が開始された3ヵ月後の慶長6年(1601)4月14日にはそれまで居城であった岩出山から仙台城に居を移しているのであるが、本丸の中心となる全ての建築物が完成したは、慶長15年(1610)のことである。二の丸の普請は寛永13年(1636)に政宗が死去し、伊達忠宗が二代藩主となった後の、寛永15年(1638)9月4日に開始された。敷地は本丸の西側に位置する伊達宗泰(政宗の四男)の屋敷跡に造営されることとなった。二の丸の造営に伴い、それまで本丸で行われていた藩政・諸儀式のほとんどは二の丸へと移され、同時に藩主の居所も二の丸へと移っている。

また、この二の丸が造営された頃、その北側には政宗の長女五郎八姫が元和6年(1620)から寛文元年(1661)に死去するまで居住した西屋敷があった。四代藩主伊達綱村の時代になると大規模な増築改行われ、この西屋敷の敷地も二の丸の中奥として取り込まれるのである。そして、文化元年(1804)の火災により二の丸は焼失するが、文化6年(1809)には復興され幕末まで仙台城の中核として機能していくのである。

仙台城とその周辺に広がる屋敷割の当時の状況を知るものとして現存する最古のものは正保2・3年(1645・1646)に製作された「奥州仙台城絵図」(第3図-1)である。本丸は「本丸山城」と記載され、その西側には「二の丸」、北隣には「西屋敷」を確認することが出来る。この仙台城の北側には侍屋敷と記載されており、家臣の屋敷が広がっている。本調査区はこの家臣の屋敷が広がる一角にあっていると推定される。

では、本調査区は、絵図で見られる武家屋敷のどの部分にあっているのだろうか。本調査区周辺が描かれた絵図は、正保2・3年(1645・1646)「奥州仙台城絵図」から明治元年(1868)「明治元年現状仙台城市之絵図」まで11枚の絵図(第3図-1～8・第4図-9～11)に武家屋敷の屋敷割りの変遷を見ることが出来る。また、明治8年(1875)「宮城県仙臺町地引圖」から明治26年(1893)「仙台市測量全図」(第4図-12～15)の4枚の明治以降の絵図に明治以降の周辺の土地利用の変遷を辿ることができる。しかし、明治26年の(1893)「仙台市測量全図」(第4図-15)の絵図に見られるように、このころ、調査区周辺が第二師団により大規模な用地改修が行われ、近世の絵図に見られる、通り等の町割りは見られなくなってしまう。調査においても、絵図に見られる近世の道路面等は確認されておらず、調査区的位置を推定することは困難である。近年、調査区周辺の近世の発掘調査が進み、それらの調査等の成果から調査位置の推定が試みられている。これらの成果を参考に、本調査区的位置についても考えてみたい。

本調査区の川内駅部Ⅱ区の南側に隣接する区域は、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターによって調査が行われている。調査によって、近世の道路面等は確認されていないが、近世の柱列跡、溝跡、池跡等が確認されている。また、二の丸裏門の「台所門」を基準に、「千貫橋」を渡って北に延びる通りの「裏下馬通」を現在の地図に推定復元し、調査区的位置を「大堀通」、「裏下馬通」、「亀岡通」、「中ノ坂通」の4つの通りに囲まれた区域内(第5図)の一角が調査区位置と考えられている。平成18年度には本調査区の川内駅部Ⅰ区の西側に隣接する区域「仙台城跡」が調査されており、やはり近世の柱列跡、溝跡、池跡等が検出されている。この仙台城跡

の調査では、区画施設と考えられる柱列跡と溝跡の検出、建物跡等が調査によって確認されなかった理由から、調査位置は、安政3～6(1856～1859)「安政補正改革仙府絵図」(第4図-10)に見られる「亀御殿」と「伊達式部」の屋敷境付近ではないかと推定されている。本調査においては、柱列跡、溝跡、池跡等とともに、建物跡が検出されているが、検出された建物跡は、簡易的な柱列跡で、人が生活を行っていた屋敷跡の一部とは考えにくく、柱列跡、溝跡等の検出状況から、やはり18年度の「仙台城跡」の報告と同様に、本調査区の位置は屋敷境付近が考えられる。また、立坑部の調査では、明治26年(1893)「仙台市測量全図」(第4図-12～15)の左端に見られる沢跡と考えられる落ち込みを確認し、本調査区に隣接する両調査区の推定位置と近代の沢跡の位置から「大堀通」、「裏下馬通」、「亀岡通」、「中ノ坂通」の4つの通りに囲まれた区域周辺(第5図)と近世から近代初頭の絵図に見られる「大堀通」から西側に位置する沢跡付近が調査区が位置する範囲であると推定される。

では、近世において調査区周辺と考えられる範囲には、どのような地位の家が屋敷を拝領していたのであろうか、絵図からその変遷を辿って見たい。(第3図-1～第4図-9～15)

まず、仙台藩においては家団の秩序を維持するために独自の家格制を持っている。家格とその序列は、一門・一家・準一家・一族・宿老・着座・太刀上・召出・平土・粗土・卒となる。また、平土の多くは大番組に属する大番士などの家臣で、平土の中でも知行高や由緒により序列が設定され、登城した際に控える部屋の名前をとって、上位から虎之間番士・中之間番士・次之間番士・広間番士に分けられていた。本調査区にあたる川内地区は、片平丁・中島丁と同じく上級家臣の屋敷が配置されており、一門から平土が屋敷を拝領している地域になっている。屋敷拝領者の家格と知行高が不明なものもあるが、拝領者と家格についての傾向は次の通りである。

寛文4年(1664)の「仙台城下絵図」(第3図-2)から元禄4・5年(1691・1692)の「仙台城五層掛絵図」(第3図-6)では、一門である伊達肥前(宗房)と虎之間の吉田覺左衛門・濱田兵十郎、中之間の渋谷権七郎を除いて、屋敷の規模はさほど変わらず部分的に空白地も見受けられる。拝領者は伊達肥前(一門宮床伊達 407貫103文)、永沼作左衛門(召出 101貫463文)、成田作太夫(広間 30貫文)、青木掃部(召出 36貫104文)、中村伊右衛門(格式不明 48貫612文)、吉田長太夫(虎之間 60貫497文)、白石七十郎(虎之間 30貫文)、山崎平太左衛門(虎之間 102貫613文)、宮内権六(召出 36貫文)、吉田覺左衛門(虎之間 3貫944文4両4人)、遠山帯刀(格式不明 200貫文)、佐々豊前(着座 303貫657文)、渋谷権七郎(中之間 15貫940文)、大河内源太夫(召出 90貫文)、濱田兵十郎(虎之間 33貫313文)となり、家格は一門と召出から広間の間に序列する者で知行高は最低でも3貫文以上の者が屋敷を拝領している。但し、吉田覺左衛門については平土の中でも最上位に位置する虎之間に比べるものよりも非常に家禄が低く、敷地も狭い。これは召抱えられてから隠居して国番を勤めるまで江戸番を勤め藩領内に居なかったためであろうか。加増は隠居して国番を勤めた後の寛文4年(1664)と延宝元年(1673)の計2回、3貫944文のみである。

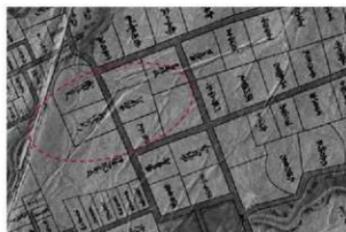
享保9年(1724)の「仙台城下絵図」(第3図-7)と宝暦10～明和3年(1760～1766)の「仙台城絵図」(第3図-8)においては少し様相が変わる。大堀通りの東側は屋敷割りが細くなり拝領者の名前も多くなる。屋敷拝領者の家格と知行高については不明な者の方が多く、高橋丈之助(虎之間 30貫文)、松井元亮(内科医師 30貫文)、市川三右衛門(虎之間 30貫文)、志茂博之助(次之間 6貫20文)となり、やはり平土以上の者が屋敷を拝領している。家格と知行高が不明な者に関しても、上級家臣が屋敷を拝領する地域であることを考慮したならばやはり平土以上のものが屋敷を拝領していたものと考えられる。

次に大堀通りの西側であるが、享保9年(1724)以前の絵図においては召出から平土の者も屋敷を拝領していた地域であったが、この頃から拝領者は、泉田(一家 141貫447文)、伊達肥前(一門宮床伊達 807貫103文)、貞樹院(五代藩主吉村生母)、大町将監(一族 300貫文)、伊達出羽(一門宮床伊達 807貫103文)となり、一族以上または、仙台藩主に縁のある者の名前しか見られなくなる。享保9年(1724)に見られる伊達肥前(村興)

第2節 歴史的環境



1. 正保2・3年(1645～1646)「奥州仙台城絵図」 斎藤報忠会所蔵



2. 寛文4年(1664)「仙台城下絵図」 宮城県図書館所蔵



3. 寛文8・9年(1668・1669)「仙台城下絵図」 第二高等学校所蔵



4. 延宝6～8年(1678～1680)「仙台城下大絵図」 宮城県図書館所蔵



5. 延宝9～天和年間(1681～1683)「仙台城下絵図」 仙台市歴史民俗資料館所蔵



6. 元禄4・5年(1691～1692)「仙台城下五里採絵図」 斎藤報忠会所蔵



7. 享保9年(1724)以降「仙台城下絵図」 東北歴史博物館所蔵



8. 宝暦10～明和3年(1760～1766)「仙台城下絵図」 斎藤報忠会所蔵

第3図 絵図(---が調査区推定範囲) (阿刀田1936、高倉ほか1994・2005)



9.天明6年～寛政元年(1786～1789)「仙台城下絵図」 仙台市博物館所蔵



10.安政3～6年(1856～1859)「安政補正改革仙台絵図」 (複製消失)



11.明治元年(1868)「明治元年景状仙台城市之図」

仙台市博物館所蔵



12.明治8年(1875)「宮城郡仙臺町地引圖」 宮城南公文書館所蔵



13.明治13年(1880)「宮城縣仙臺區全圖」 歴史民族資料館所蔵



14.明治15年(1882)「榴葉區及近傍村落之圖」 仙台市博物館所蔵



15.明治26年(1893)「仙台市測量全圖」 仙台「雑学文庫」所蔵

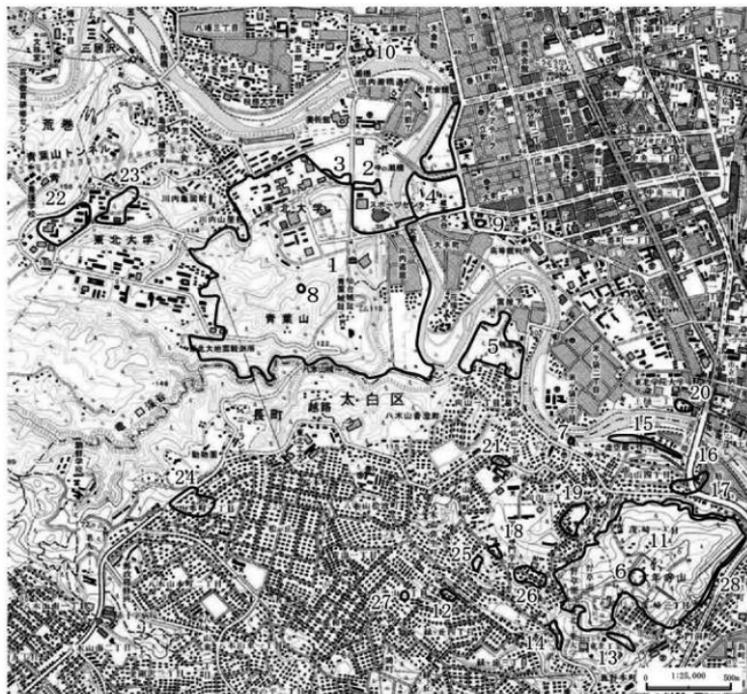
第4図 絵図(---○---が調査区推定範囲)(阿刀田1936、高倉ほか1994・2005)

と貞樹院（松子）は五代藩主伊達吉村の弟と母である。また、村興の父であり、伊達忠宗の八男に当たる宗房は延宝6～8年(1760～1766)頃まで大堀通りの西側に屋敷を拝領していたが、延宝9年～天和年間(1681)の頃には南六軒丁の付近に屋敷替えがなされており、元禄4・5年(1691・1692)には長男である伊達助三郎(村房)が家督を継いでいる。この助三郎(村房)が五代藩主伊達吉村である。元禄8年(1695)に助三郎(村房)が四代藩主伊達綱村の跡継ぎになるにあたり、小栗川家の養子となっていた弟の村興が呼び戻され家督を継いでいる。伊達吉村が藩主になった宝永元年(1704)には300貫文の加増、正徳4年(1714)には100貫文加増され、都合807貫103文となり、母である貞樹院と共に川内地区に屋敷を拝領していた。宝暦10～明和3年(1760～1766)には村興の跡を伊達出羽(村嘉)が継いでいる。その際、貞樹院の屋敷であった敷地は村嘉の屋敷内に統合されている。

天明6年～寛政元年(1786～1789)の「仙台城下絵図」(第4図-9)と安政3年～6年(1856～1859)の「安政補正改革仙府絵図」(第4図-10)になると、大堀通りの東側は拝領者名が少なくなり、拝領屋敷が大きくなるものも見受けられる。屋敷拝領者の家格と知行高が不明なものも数名いるが、和田内記(着座 161貫428文)、小原助解由(一族 50貫文)、市川三治(虎の間 30貫文)、藤間仲左衛門(広間 7貫47文)、久世平八郎(虎の間 64貫624文)、喜多山大市(召出 300表)となる。また、安政3年～6年(1856～1859)の絵図の裏下馬通りと中ノ坂通りが交差する付近に「小学校」の文字が確認できる。これは別名「振徳館」とも呼ばれ、当時、勾当台通表小路にあった藩校の「養賢堂」の支校であり、嘉永4年(1851)に主にその周辺の武家屋敷に住む子弟の教育を行うために建てられたものである。経営には当時の学頭添役(副学頭)があたっている。大堀通りの西側は、一家以上または仙台藩主に縁のある者の名前のみとなる。拝領者は泉田大綱(一家 141貫447文)、伊達六郎(一門 807貫 103文)、伊達式部(一門 2100貫文)である。

安政3年～6年(1856～1859)の絵図では亀岡御殿と記載された屋敷がある。これは、弘化4年(1847)に「太夫人亀岡邸(当時亀岡御殿ト称ス)二移居ス」(『薬山公次家記録巻之七』)とあり、十三代藩主伊達慶邦の母である栄心院が住んでいる。文久2年(1862)には、「延寿婦人亀岡邸二移居ス」(『薬山公次家記録巻之二十二』)という記述から、十三代藩主伊達慶邦の正室である延寿院が移り住んでいることがわかる。明治元年(1868)「誠忍誠惶謹言乃子亀岡邸二移居ス」(『薬山公次家記録巻之二十八』)という記述が残っており、戊辰戦争降伏後に十三代藩主伊達慶邦とその子が謹慎場所として仙台城から亀岡御殿に移り住んでいる。その後、慶邦とその子は、「其藩儀過日被仰渡之通城地被 召上、慶邦父子於東京謹慎被仰候出格至仁之」(『行政官沙汰書』)とあるように、東京で謹慎となっている。その頃の絵図として、明治元年(1868)の「仙台城市之絵図」(第4図-11)がある。亀岡御殿とその周辺の武家屋敷が描かれ、明治2年(1869)に明治政府により仙台城が勤政庁になるものの、明治3年(1870)には、伊達慶邦の養女である徳子が亀岡御殿に移り住んでいる(『人生田康日記』)。少なくともこの頃まで調査区周辺は武家屋敷が建ち並んでいたものと考えられる。

明治4年(1871)の廃藩置県後、仙台城は管轄が明治政府の兵部省に移され、東北鎮台となり、後に仙台鎮台と改められている。明治8年(1875)の「宮城郡仙台町地引図」(第4図-12)には武家屋敷ごとの区別は見受けられなくなり、亀岡御殿があった位置には鎮台病院の記述が確認できる。明治13年(1880)の「宮城県仙台区全図」(第4図-13)では大堀通りより西側は勅業試験場になっている。明治15年(1882)の「仙台区及近傍村落之図」(第4図-14)においては武家屋敷が建ち並んでいた一帯には陸軍省用地と記載され、明治21年(1888)には第二師団が置かれることとなる。この明治15年(1882)以降、大規模な用地改修が行われたとみられる。明治26年(1893)の「仙台市測量全図」(第4図-15)では明治15年(1882)までほぼ変わらなかった通りの位置が変更され、周りには軍の施設が建ち並び、昭和20年(1945)8月15日の終戦まで軍の所用地となっている。戦後は進駐米軍総司令部(GHQ)が駐留し、昭和32年(1957)に返還された後は、東北大学川内キャンパスとなり現在に至っている。



第6図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格	番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	仙台城跡	中世・近世	青葉区川内・荒巻	城跡跡	16	愛宕山縄文墓群B・C地点	古墳・奈良	太白区向山4丁目他	横穴墓
2	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山2丁目	武家屋敷・散布地	17	大平ヶ山縄文墓群	古墳	太白区向山4丁目	横穴墓
3	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷・散布地	18	八木山縄文遺跡	弥生・奈良・平安	太白区八木山町	集落跡
4	萩ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区萩ヶ岡公園	武家屋敷・散布地	19	萩ヶ丘遺跡	縄文・奈良	太白区萩ヶ丘	散布地
5	萩ヶ岡伊達家墓所	近世	青葉区墓屋下	墓所	20	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋1丁目	散布地
6	大年寺跡	近世	太白区茂ヶ崎1丁目	墓所	21	向山高森遺跡	縄文中期	太白区八木山町	散布地
7	長徳寺城跡	中世	青葉区向山2丁目	板碑	22	青葉山庄遺跡	縄文・中・晩・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
8	川内古碑群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑	23	青葉山B遺跡	縄文・中・弥生・奈良・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
9	五平山向大神宮の板碑	中世	青葉区百平1丁目	板碑	24	松ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山町1丁目	散布地
10	藤ヶ崎徳文水十年板碑	中世	青葉区庄町	板碑	25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山町	散布地
11	茂ヶ崎城跡	中世	太白区茂ヶ崎1丁目他	城跡跡	26	萩ヶ丘B遺跡	縄文	太白区萩ヶ丘・長編	散布地
12	青山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	散布地	27	南山二丁目B遺跡	縄文・縄文	太白区青山2丁目	散布地
13	茂ヶ崎縄文墓群	古墳末・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓	28	朽土手	近世	太白区茂ヶ崎3丁目他	埋没跡土手
14	二ツ沢縄文墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓					
15	愛宕山縄文墓群A地点	古墳	太白区向山4丁目他	横穴墓					

第3表 遺跡地名表

第3章 調査方法

第1節 調査方法

1 現地調査

調査方法は東北大学のアスファルト・盛土層、進駐米軍総司令部（GHQ）盛土層（I層）及び近代初頭・日本陸軍第二師団整地層・盛土層（II層）を重機で除去し、以下は人力掘削により調査を実施した。川内駅部の調査区は緊急道路の移設に関連して西側をI区、東側をII区として調査を行った。また、川内駅部の調査と並行して亀岡トンネル立坑部の調査も行った。計測作業は、日本測地系座標に基づいて設置された基準点から、今回調査に使用可能な位置に新点を設置し、グリッドの設定及び、遺構の計測・遺物出土地点の計測を行った。使用機材はトータルステーション：SOKKIA SET4、電子平板：福井コンピューター社フルートレンドVを使用し、必要に応じてクラボウ社製のデジタル写真解析ソフト：クラベスGを使用して図面の作成を実施した。

写真撮影は、作業開始前、遺構検出状況、土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況、全景写真を35mm一眼レフカメラを使用してカラーリバーサル及びモノクロの2種類のフィルムで撮影した。また、補助として500万画素以上のデジタルカメラで、調査写真と同一カットのほか、作業状況などを撮影し、調査日誌に添付するなどして日々変化する遺跡の状況を記録した。また、調査区的全景撮影は遺構検出状況及び完掘状況を、20mの高所作業車を使用して撮影を行った。

出土遺物については、調査区毎に1番から取り上げ番号を付し、遺物取り上げ台帳に調査区・出土地点（グリッド・遺構No.）・層位・内容・出土年月日等の情報を記載した。

2 整理作業

整理作業では出土遺物は水洗し十分乾燥させた後、取り上げ時に記載した遺物カードの内容を注記し、接合を行った。注記の内容は、遺跡番号（O1033）-調査次（HB1）-調査年次（2）-調査区略号（1:川内駅部1区 2:川内駅部II区 3:亀岡トンネル立坑部）-出土地点（遺構名）-取り上げ番号 の順に記載した。破片の接合にはセメダインC及びバラロイドB72を使用した。接合作業後、遺物の器種、産地等を分類しながら破片数を数え、出土遺構や土層の性格を判断可能な主要遺物について抽出し、遺物の登録を実施した。登録した遺物については、写真撮影及び遺物実測に耐えられるようにモビニール、エレホン、マールライト等を用いて欠損部の充填・復元を行った。遺物写真は1000万画素級のデジタル一眼レフカメラを用いて、正面のほか、見込、高台内文様等必要に応じて数方向からの撮影を実施した。遺物実測は、外形及び断面を従来手法で実測し、デジタルトレススする際に、並行してオルソイメージャー（完全正射影・深焦点撮影システム）を使用して得られた集付や掛分け等の文様を画像処理して重ね合わせ遺物図を作成した。遺物のデジタルトレス及び編集にはAdobe社製の「Illustrator」を、画像処理には同社の「Photoshop」を使用した。

遺構平面図・断面図は、トータルステーション及び福井コンピューター社製の電子平板「フルートレンド」で計測・描画した図面データをAdobe社「Illustrator」で編集・調整を行い作成した。また、遺構・遺物の図版、写真図版のレイアウト及び報告書の編集作業にはアドビ社製「InDesign」を使用した。

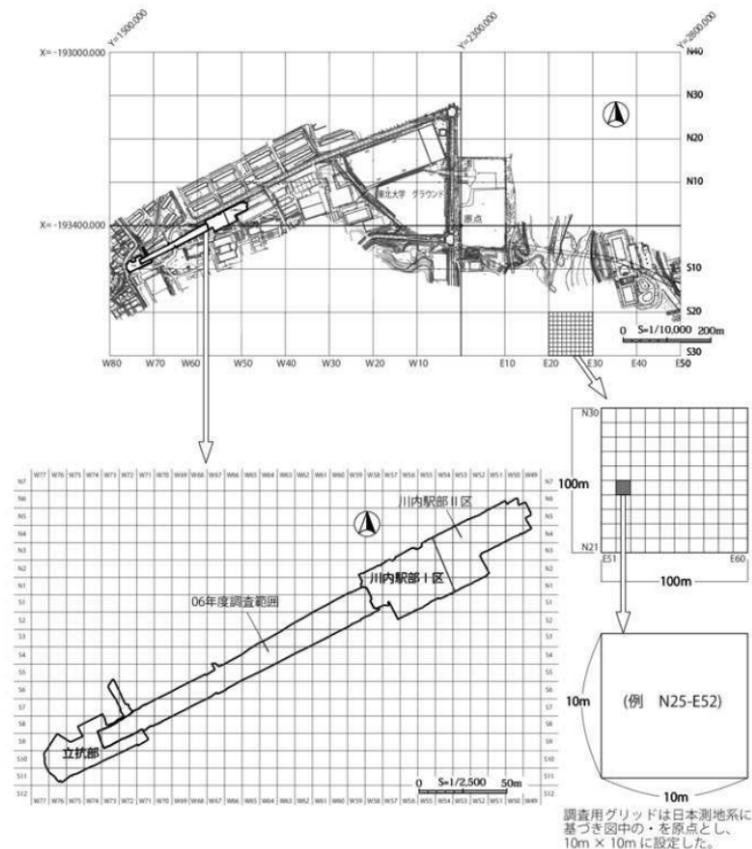
3 遺構名称について

遺構番号は川内駅部・亀岡トンネル立坑部ごとに遺構種別毎、検出順に1番から通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示したとおりである。

第2節 調査区グリッドの設定

第2節 調査区グリッドの設定

高速鉄道東西線計画に係わる青葉山地区、川内地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドが平成17年度の川内A遺跡調査時に設定されており、今回調査でもそのグリッドに準拠して調査を実施した。日本測地系：X=193400m、Y=2300mの座標点を原点として、10m単位の方眼を設定し、東西南北それぞれの方向へE1・W2・S3・N4というように方位記号と番号を付した。S-Nの方向の番号とE-W方向の番号2つを組み合わせ、N1-W6といったようなグリッド名とし表記した。



第7図 グリッド設定図

第4章 基本層序

基本層序は川内駅部Ⅰ区、Ⅱ区と立坑部とは高低差が10m以上あり、堆積状況が異なるため個別に層名をつけている。以下それぞれの基本層序について調査区ごとに述べる。それぞれの対応関係については第9図に示した。また、今回の調査区は平成18年度調査区の続きに当たるため、合わせた柱状図を作成している。

第1節 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区

基本層は大別して6層、細別35層が確認されている。Ⅰ層、Ⅱ層はⅠ区、Ⅱ区共に確認されており、Ⅰ層が東北大学とGHQによる盛土層である。Ⅱ層はⅡa～Ⅱe層の5層に細別され、Ⅱa層は第二師団以降の盛土で、Ⅱb～Ⅱeまでの4層が明治初頭の頃と思われる整地土である。Ⅰ層、Ⅱ層以下に堆積するⅢ層～Ⅴ層までが近世～近代初頭の整地土で、いずれも東側に向かって緩やかに傾斜している。また、各層は近代の造成により削平されているため、調査区内の一定箇所のみ確認された。Ⅵ層は自然堆積層でⅥa～Ⅵjの13層に細別される。Ⅵc層褐色シルト層には10世紀前半に降下した十和田a火山灰層が含まれていた。では、次に近世の各整地層と時期区分について述べたい。

Ⅲ層は、Ⅲa～Ⅲdの4層に細別され、全て確認された場所が異なる。Ⅲa層は黄灰色シルト質砂でⅠ区の石垣より西側のみで確認できる。Ⅲa、Ⅲc層の直下に堆積し、そのほとんどが近代の造成の際に削平されている。Ⅲc層は黄灰色シルト質砂でⅡd層直下に堆積し、近代の造成の際に削平されるものの、Ⅱ区の東側の広範囲に確認された。また、Ⅲb層はⅢc層によって埋められた遺構の窪地部分に堆積しており、堆積状況から整地面を平坦にするため部分的に使用された整地土と考えられる。Ⅱ区北壁面、池3の上層において確認できる。Ⅲd層は黒褐色シルト質砂で炭化物を多量に含んでいる。Ⅱ区南西側の広範囲に確認され、Ⅱe層の直下に堆積する。Ⅱ区南西において検出した土坑群の上層部分に厚く堆積し、Ⅱ区の南西側を遺構と一緒に、一度に整地した整地土であると考えられる。(第8図) 遺物は主に19世紀初頭から19世紀中頃の陶磁器が出土している。

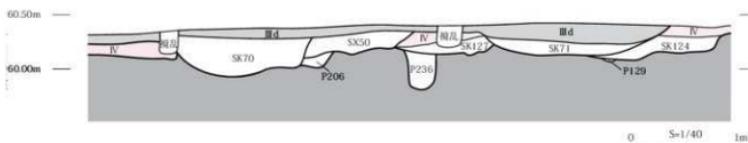
Ⅳ層は、Ⅳa1～Ⅳe層の6層に細別され、Ⅲ層と同様に確認された場所が異なる。Ⅳa1層、Ⅳa2層はともに暗灰色砂質シルト、Ⅳb層はぶい黄褐色砂質シルト、Ⅳc層は褐色シルトで、いずれもⅠ区の石垣より西側で確認された。Ⅳd層は褐色シルトでⅡ区の東側において確認する。池などの大型遺構やその他の遺構に削平されているため、Ⅲc層よりも確認範囲は狭くなる。Ⅳe層は黄灰色シルトでⅡ区南西において確認された。Ⅳd層と同様に大型遺構に削平されているため、確認範囲はⅢd層よりも狭くなる。Ⅳ層はⅢ層の直下に堆積し、Ⅳ層を切る遺構の堆積土の中にⅢ層相当の堆積土が確認できる。遺物は主に18世紀前半から19世紀代の陶磁器が出土している。

Ⅴ層は、Ⅴa1～Ⅴc層の6層に細別され、Ⅴa1層は灰黄褐色シルト、Ⅴa2層は黄灰色シルト、Ⅴb1層は灰黄褐色砂質シルト、Ⅴb2層は黄灰色砂質シルト、Ⅴb3層はぶい黄色シルト、Ⅴc層は暗灰色シルトでⅠ区の石垣より西側の一部において確認され、Ⅱ区においてⅤ層は確認されなかった。Ⅴ層上面において時期の異なる柱列と区画溝を検出している。もっとも古い時期と考えられるSA2とSD34の上層に暗灰色シルトの整地土を確認する。調査区の壁面において同一層を確認できないことから、部分的に盛られた整地土であると判断する。遺物は16世紀末から18世紀前半の陶磁器が出土している。また、Ⅱ区ではⅤ層を確認できなかったもののⅣ層下から掘りこまれている遺構が確認でき、遺構の堆積状況と出土遺物からⅤ層上面で検出した遺構と同時期の遺構であると判断する。以上のことから川内駅部Ⅰ区、Ⅱ区においてはⅢ層からⅤ層の3面の整地層が確認でき、堆積状況と出土遺物から各整地面の時期は、Ⅲ層19世紀初頭～中頃、Ⅳ層18世紀前半～19世紀初頭、Ⅴ層17世紀前半～後半と考えられる。

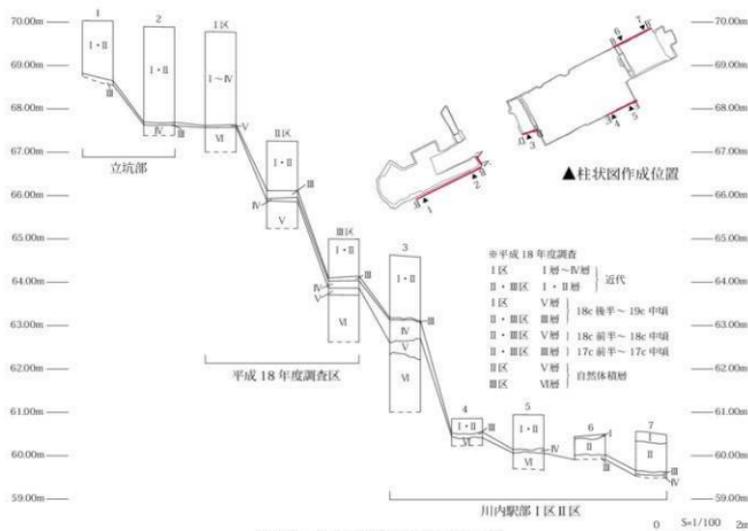
第2節 立坑部

基本層は大別して4層、細別14層が確認されている。川内駅部と同様に1層は東北大学とGHQの盛土層である。Ⅱ層はⅡa～Ⅱf層の6層に細別される。いずれも第二師団以降の盛土層であり、Ⅱf層は明治26年（1893年）の「仙台市測量全図」（図4-15）まで見られる沢を埋め立てた土層である。Ⅲ層が近世～近代初頭と考えられる整地面である。Ⅳ層は自然堆積層でⅣa～Ⅳeに細別される。立坑部において十和田a火山灰層は確認できなかった。近世の整地面であるⅢa層、Ⅲb層は共に褐灰色シルトで、Ⅲb層上面には腐食物が広がる。遺物は主に18世紀中頃～19世紀の陶磁器が出土している。

立坑部において近世の整地面は1面しか確認できなかった。堆積状況と出土遺物から、19世紀初頭から19世紀中頃の整地面であると考えられる。



第8図 Ⅱ区Ⅲd層堆積状況模式図



第9図 各調査区柱状図及び対応関係

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I 1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	互礫多量、黄褐色土粒多量、暗褐色シルトとの混合土 粘土を部分的に含む
II a	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒、径 5.0 ~ 10 cm 以下の礫多量
II b	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径 0.5 ~ 2cm 程度の炭化物少量 互片散見 径 0.3 ~ 0.5cm の礫散見 酸化鉄分微量
II c	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分少量 炭化物物量
II d	10YR4/1	褐色	シルト	ややあり	あり 2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 径 0.5 ~ 1cm 程度の炭化物少量 酸化鉄分少量
II e	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり 2.5Y6/4 におい黄灰色シルト少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
III a	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり 砂粒、1 ~ 2cm の礫少量
III b	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質砂	あり	ややあり 径 0.2 ~ 0.5cm の炭化物少量 径 0.1 ~ 0.2cm の白色粒少量
III c	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	ややあり	あり 径 0.1 ~ 0.5cm の白色粒少量
III d	2.5Y3/1	黒褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり 径 0.3 ~ 0.5cm の炭化物多量 酸化鉄分微量
IV a1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり 砂粒多量、5cm 程度の礫散見
IV a2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり 砂粒多量 酸化鉄分微量
IV b	10YR5/4	におい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 砂粒多量、5cm 程度の礫多量
IV c	7.5YR4/4	褐色	シルト	あり	あり 5 ~ 10 cm の礫少量
IV d	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり 酸化鉄分微量
IV e	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり 酸化鉄分微量 径 0.3 ~ 0.5cm の炭化物物量
V a1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり 黒褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径 0.2 ~ 0.8cm の炭化物物量 径 1 ~ 5cm の礫散見
V a2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり 2.5Y6/3 におい黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
V b1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径 0.2 ~ 0.8cm の炭化物物量 径 1 ~ 5cm の礫散見
V b2	2.5Y3/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり 酸化鉄分微量
V b3	2.5Y6/3	におい黄褐色	シルト	なし	あり 酸化鉄分微量 径 0.2 ~ 0.5cm の白色粒散見 一部灰オリーブ色にグライ化
V c	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 2.5Y6/3 におい黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量 一部暗灰黄色にグライ化
V a	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	あり 白色砂粒含む
VI b1	10YR3/2	暗褐色	シルト	あり	ややあり 砂粒多量
VI b2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり 径 1 ~ 3cm の礫少量 2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分多量
VI b3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 径 0.1 ~ 0.3cm の白色粒少量
VI b4	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	あり 酸化鉄分多量 径 1 ~ 3cm 程度の礫少量
VI c	10YR5/1	褐色	シルト	ややあり	ややあり 径 10mm 以上の礫多量
VI d	10YR2/1	黒色	シルト	あり	あり 砂粒・1 ~ 2cm の礫少量
VI e	5Y4/1	黄灰色	シルト	あり	あり 5Y3/1 オリーブ黒色シルト少量
VI f	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	あり 2.5Y3/1 黒褐色シルト少量
VI g	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	あり	あり 5Y4/1 灰色にグライ化
VI h	10YR4/3	におい黄褐色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分微量
VI i	2.5Y7/4	浅黄色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分少量
VI j	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	あり	5B5/1 青灰色にグライ化

第 4 表 川内駅部 1・2 区土層観察表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 互礫多量 黄褐色土粒多量 暗褐色シルトとの混合土
II a	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	なし	なし 褐色色砂質シルト・灰黄褐色砂質シルト・黄灰色砂質シルトが互層状に堆積 5cm ~ 10cm の礫少量
II b	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径 10cm 以下の礫多量
II c	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径 10cm 以下の礫多量
II d	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 酸化鉄分少量
II e	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径 5 ~ 10cm 程度の礫少量 酸化鉄分少量
II f	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり 褐色色砂質シルト多量 におい黄灰色シルト多量 腐食物物量
III a	10YR4/1	褐色	シルト	なし	あり 砂粒多量 酸化鉄分微量
III b	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり 砂粒多量 土層に腐食物物多量 酸化鉄分微量
IV a	2.5Y6/2	灰黄褐色	シルト	やや	あり 酸化鉄分微量
IV b	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	やや	あり 酸化鉄分微量
IV c	10YR5/1	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 径 1 ~ 3cm の礫散見
IV d	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分微量
IV e	10YR5/4	におい黄褐色	なし	ややあり	砂粒（粗粒と 1 ~ 15 cm 大の礫からなる）

第 5 表 立坑部土層観察表

第5章 検出遺構と遺物

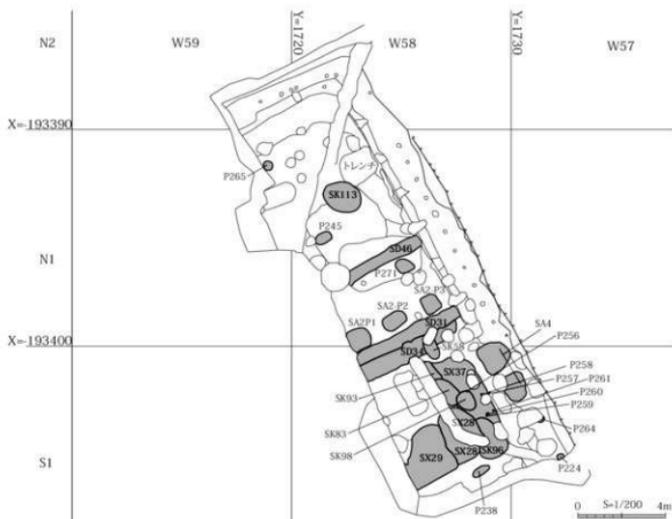
第1節 川内駅部Ⅰ区

1 V層上面検出遺構とV層出土遺物

川内駅部Ⅰ区においてV層（整地土）は石垣より西側においてのみ確認でき、Ⅰ区の東側においてはⅣ層相当の直下がⅥ層（基盤層）になるため、V層の堆積土は確認できなかった。ただし、Ⅵ層（基盤層）より掘り込まれた遺構同士の切り合い関係及び遺構の堆積土にⅣ層相当の堆積が認められる遺構は、V層上面遺構と同時期の遺構と判断した。V層の時期は、V層内より16世紀末～17世紀末の遺物が出土することから、17世紀前半～17世紀後半にかけての整地層であると判断した。また、前述したとおり、調査の段階においてV層上面で検出したSA2・SD34の上層に暗灰黄色シルトを主体とした整地土の堆積と範囲を確認し、この整地土によって埋められた遺構と、この整地土の上層から掘り込まれている遺構を確認した。各遺構内からの出土遺物に時期差はほとんど見受けられなかったが、このV層上面に堆積する整地土の堆積状況から遺構の時期差を確認した。そのため、川内駅部Ⅰ区の石垣より西側は、SA2・SD34と同様の堆積状況が確認できた遺構に関しては、17世紀代の遺構の中でもっとも古い段階の遺構とし、V層上面古段階の遺構配置図として作成した。このほかのV層上面において検出した遺構は、V層上面新段階の遺構として遺構配置図を作成した。また、部分的な整地土の範囲はSX22の遺構番号を付し、V層上面新段階の遺構配置図（第32図）にその範囲を破線で示した。

〈V層上面古段階の遺構〉

V層上面古段階の遺構はⅠ区の石垣より西側において検出した。柱列2条、溝3条、土坑6基、ピット14基、性格不明遺構3基の遺構を検出した。検出状況と出土遺物から、17世紀前半頃の遺構と考えられる。



第13図 Ⅰ区V層上面古段階遺構配置図

第1節 川内駅部1区

(1) 柱列跡

1) SA2 柱列跡・SD34 溝跡 (第14図～16図、図版4-1～5-4)

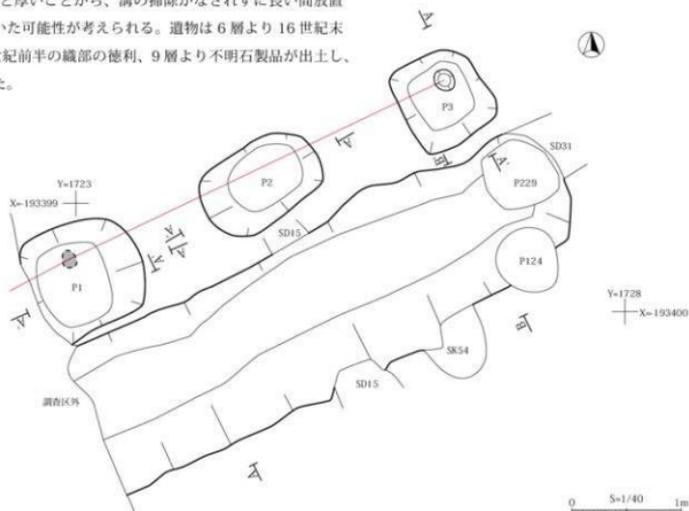
N1-W58・N1-W59 グリッドに位置し、南西から北東方向に平行して延びる、柱列跡と溝跡である。

(SA2) 柱列跡

南西から北東方向にSA2-P1～3の3基の柱穴が、SD34の北側に平行して並ぶ柱列跡である。長さは約4.48mを測り、柱間の寸法は約1.92m(6尺3寸)が考えられ、主軸方向はN-62°-Eを示す。P1の西側は調査区外へと延び、遺構の中央部北側の底面付近において柱痕を確認した。P3は上層遺構のP207に削平されるが、遺構の北東隅の底面付近において柱痕を確認している。P2においては柱痕の痕跡は確認できなかった。P1、P3の両遺構とも断面において柱痕は確認できなかったが、遺構底面において確認できた柱痕の径は16～20cmを測る。掘り方の規模は、長軸0.86～1.14m、短軸0.72～1m、深さ62～69cmを測る。主軸方向はN-61°-Eを示す。平面形はP1が不整な円形で、P2が不整な楕円形、P3が隅丸正方形を呈する。断面形はU字状ないし逆台形で、底面は平坦である。掘り方の堆積土はいずれもシルトないし砂質シルトを基調としている。遺物は出土していない。

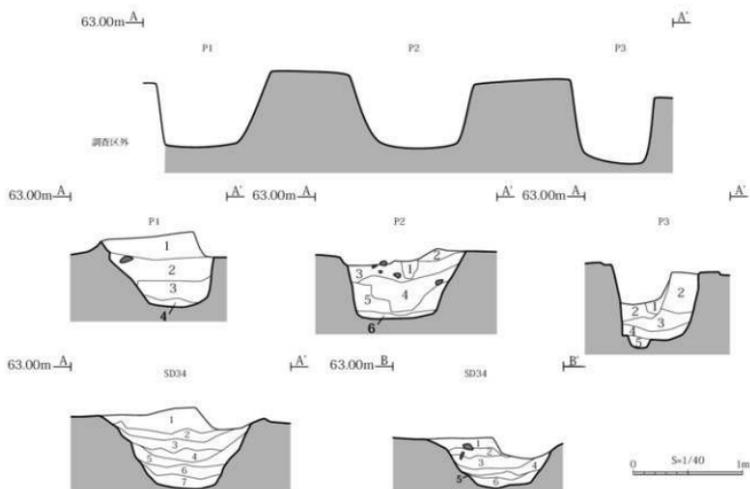
(SD34) 溝跡

南西から北東方向にSA2と並行して直線的に延びる素掘りの溝跡である。南西側は調査区外へと延び、上層遺構のSD15・31、SK58、P229に遺構の一部を削平され、北東側は丸く収束する。確認された規模は、長さ5.08m、上端幅1.42～1.64m、下端幅51～67cm、深さ44～71cmを測り、主軸方向はN-62°-Eを示す。断面形はやや開いたU字状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は11層からなり、1層、2層が暗灰黄色シルトを主体とした部分的な整地土、3層、4層がシルト、5～11層が粘土質シルトである。堆積状況から1～4層までが人為的に埋め戻された堆積土であると考えられる。5層～11層が溝の使用時期に底面に堆積した沈殿物層で、堆積厚が38～56cmと厚いことから、溝の掃除がなされずに長い間放置されていた可能性が考えられる。遺物は6層より16世紀末～17世紀前半の織部の徳利、9層より不明石製品が出土し、図示した。



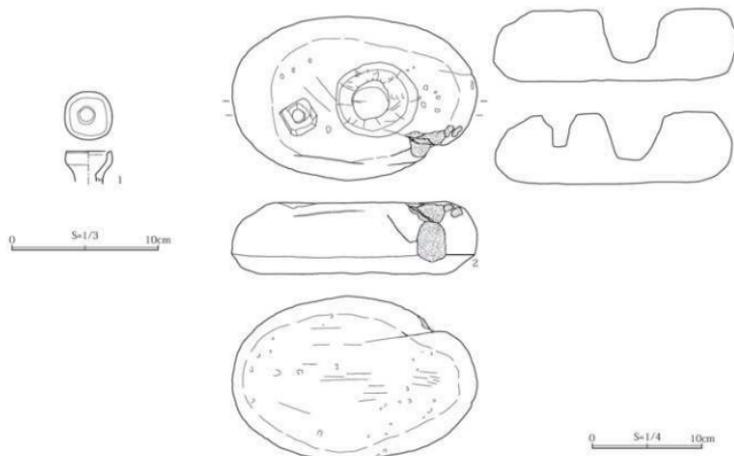
第14図 SA2 柱列跡・SD34 溝跡平面図

また、平成18年度調査において確認した南西から北東方向に直線に並ぶ5基の柱穴(SA15)と、それと平行して直線的に35.5m延びる区画溝(SD39)と同一の遺構であることが確認された(第7章・第346図)。



遺構名	経名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
P2	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	径3～5mmの炭化物微塵 残砂	
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	2.5Y6/4に赤い黄色砂質シルト少量 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト微塵 炭化鉄分微塵	
	3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト少量 径5～8mmの炭化物少量 炭化鉄分微塵 埋積土の約1/2が7.5Y4/1灰色にグラウ化	
	4	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	径5～10mmの2.5Y5/1オリーブ灰色砂質シルトブロック少量 5Y4/1灰色砂質シルト微塵 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト微塵 径5mm程度の炭化物微塵 炭化鉄分微塵	
	5	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	炭化鉄分微塵
	6	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	
	7	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化鉄分微塵
P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径約1mmの白色粒少量 炭化鉄分少量 径1～3mmの微塵
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化鉄分多量 2.5Y2/1黒色砂質シルト少量 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト少量 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト微塵 炭化鉄分微塵
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y2/1黒褐色砂質シルト少量 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト微塵
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト微塵 炭化鉄分微塵
P3	1	10YR4/3	にん黄褐色	シルト	あり	あり	径約1cmの5Y7/B黄色シルトブロック微塵 径約1cm程度の砂微塵 中央に径約10mmの礫あり
	2	7.5YK4/3	褐色	シルト	あり	あり	径約5cmの砂微塵 炭化物微塵
	3	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	径約5cmの砂微塵
SD34	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質砂	ややあり	あり	炭化鉄分少量 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト微塵 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト微塵
	2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト質砂	ややあり	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 炭化鉄分少量 2.5Y2/1黒色砂質シルト微塵 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト微塵
	3	2.5Y3/4	黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト微塵 炭化鉄分微塵
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト微塵 5Y5/3灰オリーブ色シルト質砂微塵 炭化鉄分微塵
	5	5Y5/3	灰オリーブ色	シルト質砂	ややあり	あり	下部に幅2～3cmの深さで10YR4/1暗灰色シルト質砂が帯状に露まる
	6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質砂	あり	あり	炭化鉄分多量 5Y4/2灰オリーブ色にグラウ化
	7	5Y3/1	オリーブ黒	砂質シルト	あり	ややあり	2.5Y5/3黄褐色砂質シルト多量 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト少量 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト微塵 炭化鉄分微塵
	8	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	ややあり	2.5Y2/1黒色砂質シルト少量 炭化鉄分微塵
9	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	あり	炭化鉄分微塵	

第15図 SA2柱列跡・SD34溝跡断面図



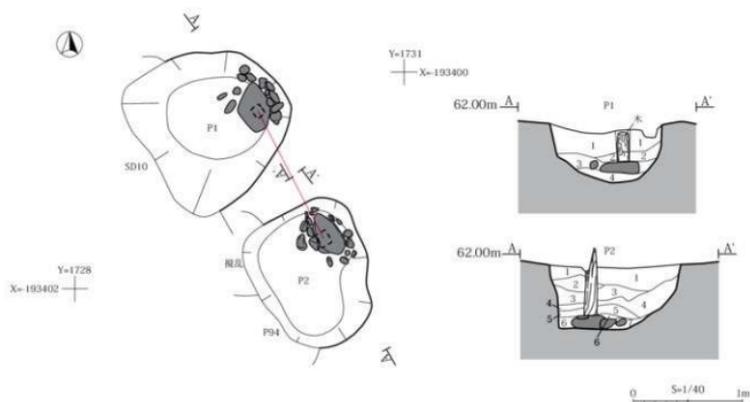
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	89-1	SD34 6層	陶器	花生?	口縁~ 頸部	やや粗	3.1	-	2.1	瀬戸・美濃	17c前半	縄部?花生か 灰釉 買入有	J-1

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
2	89-2	SD34 9層	石製品	22.1	14.9	6.65	1465	瀬灰岩	不明 表・裏面に工具痕有 表面2か所の孔に工具痕有 彫のような道具? 小さい穴は瀬灰岩の含有物が成形時にほじき出された跡と思われる	K-1

第16図 SD34 溝跡出土遺物

2) SA4 柱列跡 (第17図～18図、図版5-5～8)

N1-W58～S1-W57・W58 グリッドに位置し、南東から北西方向に2基の柱穴が並ぶ柱列である。総長は3.02mを測り、柱間の寸法は1.36m(4尺5寸)を測る。主軸方向はN-30°-Wを示す。東側は近代の造成の際に上層部が削平され、西側が上層遺構のSD10、SK55、P94に削平されている。柱材には約11.4×12.9cmと11.5×12の角材が使用されている。掘り方の規模は、長軸1.27～1.59m、短軸1.06～1.57m、深さは0.64～1.01mを測る。平面形は不整な楕円形で、P1の断面形はU字状を呈し、底面は平坦である。P2の断面形は歪な逆台形で、底面は平坦である。堆積土はP1が7層からなり、シルトを基調とする堆積土で、6層には長さ44cm、幅24cm、厚さ12cmの礎板石が据えられ、周りには径8～14cmの根固め石が充填されている。P2の堆積土は4層からなり、シルトを基調とする堆積土で、3層には長さ44cm、幅25cm、厚さ11cmの礎板石が据えられ、周りには径4～15cmの根固め石が充填されている。遺物はP1の6層と7層から木製の楔が出土し、図示した。



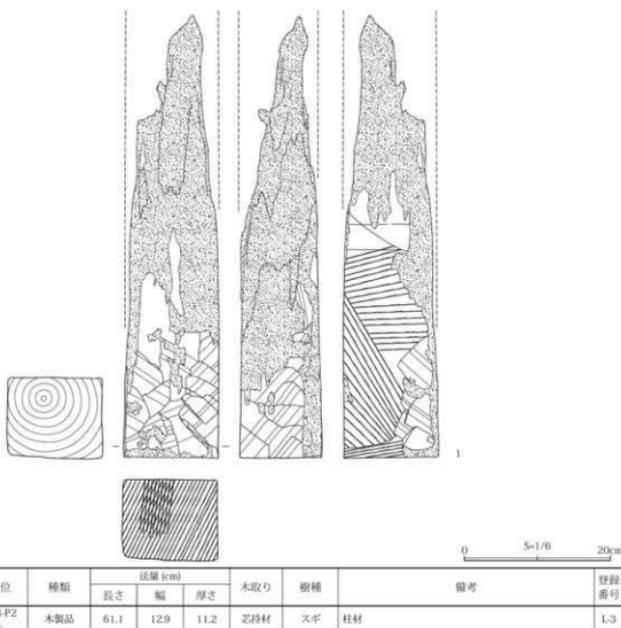
遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
SA4-P1	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	10YR4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 酸化鉄分多量 径3～5mmの白色粒少量
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 10YR4/1 砂質シルト少量 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト微量
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径5～8cmの粗面石あり
	4	5G4/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	あり	なし	5Y3/1 オリーブ黒砂質シルト微量 酸化鉄分極微量 グライ化
SA4-P2	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 10YR4/2 灰黄褐色シルト少量 径3～5mmの白色粒少量 酸化鉄分少量
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト微量
	4	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径3～5mmの白色粒少量 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト微量 径1～2cmの粗面石
	5	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	6	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y2/1 黒色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	7	2.5Y4/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1/3が7.5Y4/2 灰オリーブ色にグライ化



0 S=1/6 20cm

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	89-3	SA4-P1 7層	木製品	14.9	3.2	2.1	分割材	アスナロ属	樫	L-1
2	89-4	SA4-P1 6層	木製品	17.4	3.2	1.9	分割材	針葉樹	樫	L-2

第17図 SA4柱列跡平面図・断面図・出土遺物



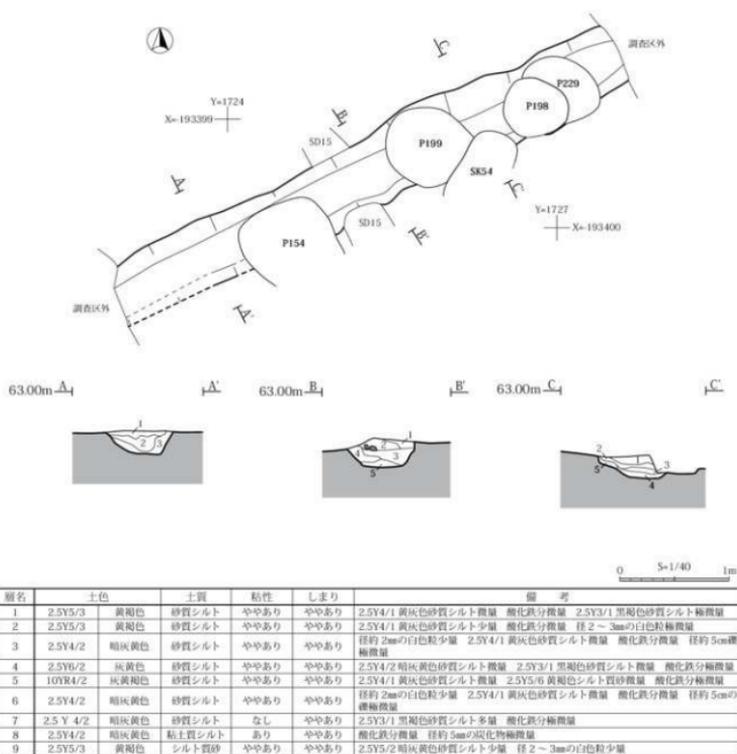
第18図 SA4柱列跡出土遺物

(2) 溝跡

1) SD31 溝跡 (第19図、図版6-1～4)

N1-W58・S1-W58 グリッドに位置する。SD34 の掘り下げ中に、断面において SD31 の堆積を確認したため、急速、再検出作業を行い、遺構プランを検出した。そのため、SD34 として掘下げてしまった西側半分の上端と下端は検出できなかった。この部分は、上端、下端共に破線で表記している。

南西から北東方向に直線に走る素掘りの溝である。北東側は近代の造成の際に壊され、南西側は調査区外へと延び、上層遺構の SD15、P154・198・199・229 に一部を削平されている。SD34、SK54 と重複しており、SD31 が古い。残存する規模は、長さ 5.1m、上端幅 60～71cm、下端幅 24～38cm、深さ 22～27cmを測り、主軸方向は N-68°-E を示す。断面形は逆台形を呈し、底面は東側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は 9 層からなり、1～4 層は V 層整地土相当のシルト、5～7 層はシルト、8 層は粘土質シルトである。堆積状況から 1～7 層は人為的に埋め戻された堆積土で、8 層は溝の使用時期に底面に堆積した沈殿物層と考えられる。9 層は南壁が崩れ落ちたものである。遺物は出土していない。また、本遺構は、平成 18 年度の調査において検出されていないため不明な部分もあるが、下層の SA2 と SD34 とほぼ同方向の主軸方向を示し、SD34 を埋め戻した後に SD34 の北壁を再度利用して造られていることから、規模は縮小するものの SD34 と同じ性格の区画溝の可能性が考えられる (第 7 章 第 346 図)。

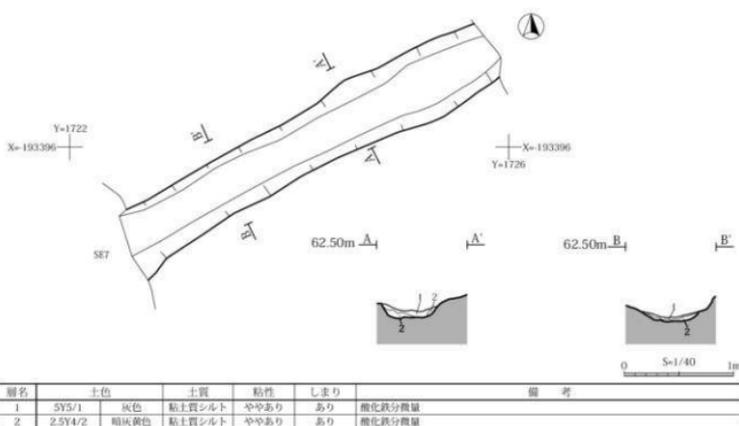


第19図 SD31 溝跡平面図・断面図

2) SD46 溝跡 (第20図、図版6-5~8)

N1-W58グリッドに位置し、両壁は上層遺構のSX43、南西側は上層遺構のSE7、北東側は近代の造成の際に削平に削平されている。確認された規模は、長さ3.37m、上端幅52~64cm、下端幅28~36cm、深さ9~13cmを測り、主軸方向はN-60°Eを示す。断面形は浅い皿状を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層からなり、粘土質シルトである。堆積状況から溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層と考えられる。遺物は出土していない。また、平成18年度の調査において確認された、長さ37.5mの区画溝(SD55)と同一の南西から北東に直線に延びる素掘りの溝跡であることが確認された(第7章 第346図)。

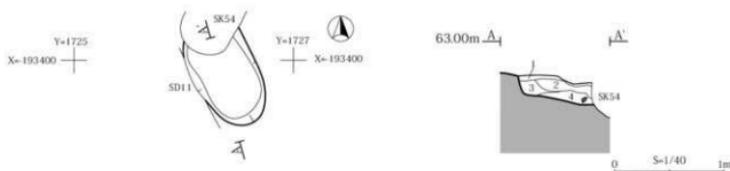
第1節 川内駅部1区



第20図 SD46 溝跡平面図・断面図

5) SK58 土坑 (第21図、図版17-7・8)

N1-W58～S1-W58グリッドに位置する。東側は上層遺構のSD10に削平され、北側も同じく上層遺構のSK54に削平される。残存する規模は、長軸72cm、短軸59cm、深さ23cmを測り、主軸方向はN-32°-Wを示す。平面形は楕円形と考えられ、断面形は逆台形が推測される。底面は平坦である。堆積土は4層からなり、1層～4層まで砂質シルトである。遺物は出土していない。



第21図 土坑平面図・断面図

2) SK83 土坑 (第22図、図版7-3・4)

S1-W58グリッドに位置し、西側は上層遺構のSD11・15に削平され、南東側はSK98と重複し、本遺構が新しい。残存する規模は、長軸1.52m、短軸71cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形が考えられ、断面形は皿状を呈し、底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



第22図 SK83 土坑平面図・断面図

3) SK93 土坑 (第23図、図版7-5・6)

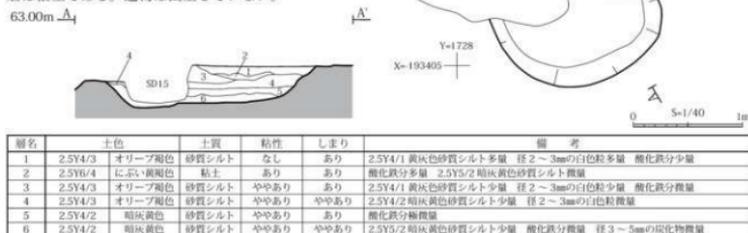
S1-W58 グリッドに位置し、西側は上層遺構のSD15に削平され、東側も同じく上層遺構のSK83に削平される。残存する規模は、長軸 1.14m、短軸 37cm、深さ 11cmを測る。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形と考えられ、底面は平坦である。堆積土は2層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



第23図 SK93 土坑平面図・断面図

4) SK96 土坑 (第24図、図版7-7・8)

S1-W58 グリッドに位置し、西側は上層遺構のSD15に削平され、東側も同じく上層遺構のP211に削平される。残存する規模は、長軸 1.99m、短軸 1.37m、深さ 36cmを測り、主軸方向は N-22° - W を示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は6層からなり、1層と3～6層は砂質シルト、2層は粘土である。遺物は出土していない。

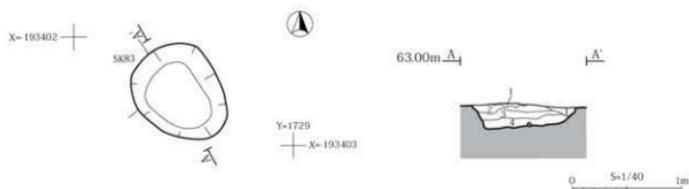


第24図 SK96 土坑平面図・断面図

第1節 川内駅部1区

5) SK98 土坑 (第25図、図版8-1・2)

S1-W58グリッドに位置し、北東側はSK83と重複し、SK98が新しい。規模は、長軸96cm、短軸78cm、深さ22cmを測り、主軸方向はN-35°-Wを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層からなり、シルトである。遺物は出土していない。

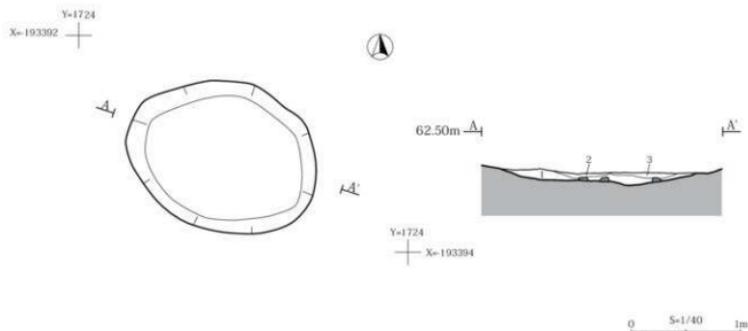


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/2 灰黄色シルト微量 径3~5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト多量 酸化鉄分少量
4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト多量 径3~5mmの炭化物少量 酸化鉄分微量 径5mm以上の礫含む

第25図 SK98 土坑平面図・断面図

6) SK113 (土坑 (第26図、図版8-3・4)

N1-W58グリッドに位置し、規模は、長軸1.78m、短軸1.40m、深さ12cmを測り、主軸方向はN-68°-Wを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は浅い皿状を呈する。底面は中央付近にやや起伏があるものの、ほぼ平坦である。堆積土は3層からなり、1層には炭化物が堆積し、2層と3層はシルトである。遺物は出土していない。



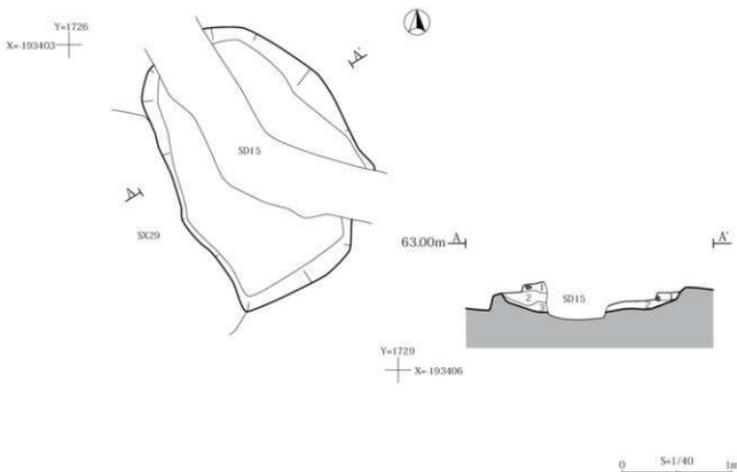
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y2/1 黒色	炭化物	なし	なし	
2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量 径約5mmの礫含む

第26図 SK113 土坑平面図・断面図

(4) 性格不明遺構

1) SX28 性格不明遺構 (第27図、図版8-5・6)

S1-W58 グリッドに位置し、遺構のほぼ中心を上層遺構のSD15によって削平され、西側はSX29と重複し、SX28が新しい。残存する規模は、長軸2.42m、短軸1.75m、深さ15cmを測る。平面形は不整形な楕円で、断面形は皿状を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層からなり、砂質シルトである。遺物は16世紀末～17世紀初頭の唐津産の灰軸碗、在産産の瓦質の火鉢片が1点出土している。細片のため図示していない。



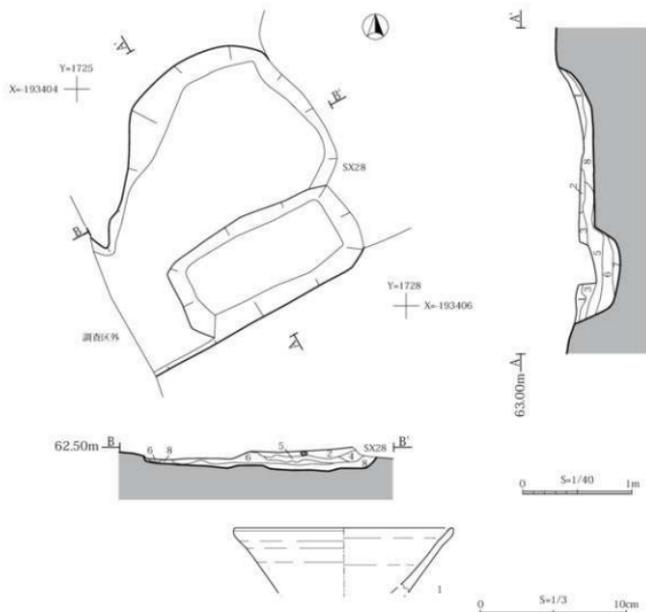
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～6mmの炭化物微量 径2～3mmの白色粒微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/4にぶい黄色シルト質砂微量 酸化鉄分微量 径3～5mmの炭化物微量 径3～5mmの白色粒微量
3	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	5GY/1緑灰色シルトブロック微量(グライ化)

第27図 SX28 性格不明遺構平面図・断面図

2) SX29 性格不明遺構 (第28図、図版8-7～9-2)

S1-W58 グリッドに位置し、東側はSX28と重複し、SX29が古い。西側は調査区外へと伸びる。残存する規模は長軸2.40m、短軸2.26m、深さ14cmを測る。また、遺構の南東側には長軸88cm、短軸45cm、深さ52cmの隅丸長方形の落ち込みがある。平面形は不整形で、底面は平坦でなく落ち込み部分で段差がつくため西側の壁は急な角度で立ち上がり、東側の壁面は緩やかに立ち上がる。堆積土は8層からなり、1～4層はシルトで、V層整地土相当の人為的に埋め戻された堆積土である。5層～8層は砂質シルトで各層には有機物が混入し、堆積状況から遺構が埋められる前に堆積した沈殿物層と考えられる。遺物は1層より産地不明の推鉢が1点出土している。

第1節 川内駅部1区



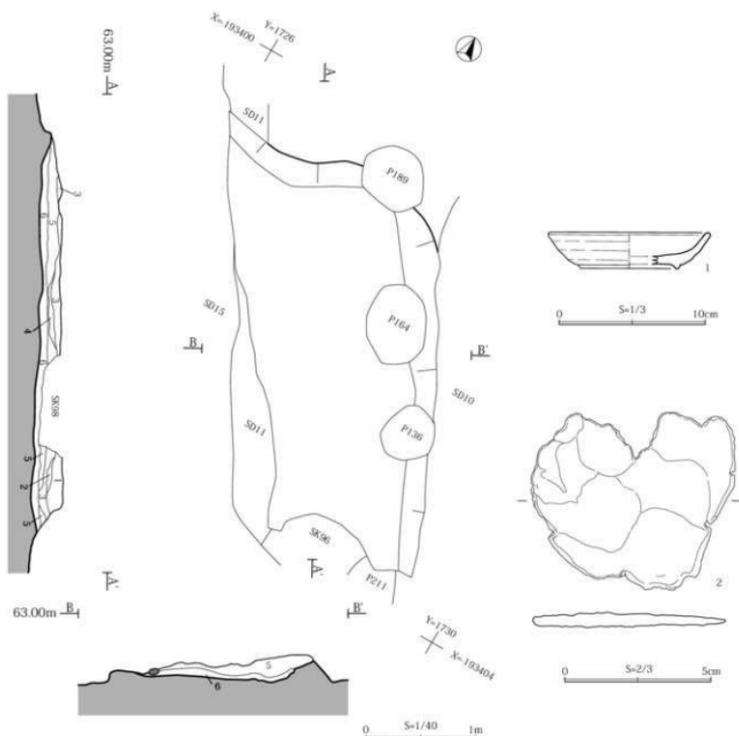
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分微量 径約 5mm の硬微塵
2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/4 に近い黄色中粒砂多量 径 3 ~ 5mm の礫多量 有機物少量 酸化鉄分極微量
3	2.5Y4/1 黄褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり	5Y5/3 黄褐色砂質シルト微量 有機物少量 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト極微量
4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト少量
5	5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	有機物少量
6	10Y3/1 黒褐色	有機物層	ややあり	なし	5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 底面に約 1cm の有機物層の層りあり
7	7.5Y3/2 黒褐色	砂礫層	なし	ややあり	径 5 ~ 8mm の礫多量
8	5Y4/1 灰色	砂質シルト	あり	あり	5Y3/1 オリーブ褐色少量 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	89-6	1層	陶器	甕鉢	口縁~体部	やや粗	(16.5)	-	(4.5)	不明	近世	鉄輪 ロケロ・左	12

第 28 図 SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

3) SX37 性格不明遺構 (第 29 図、図版 9-3 ~ 5)

S1-W58 グリッドに位置し、西側は上層遺構の SD15 に削平され、東側も同じく上層遺構の SD10 に削平される。北側は P189 と重複し、SX37 が古い。残存する規模は、長軸 3.78m、短軸 1.82m、深さ 28cm を測る。平面形は不明で、断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は 6 層からなり、1 ~ 5 層は V 層整地土相当のシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。6 層はシルトで有機物を多量に含み、堆積状況から遺構が埋められる前に堆積した沈殿物層と考えられる。遺物は 16 世紀末 ~ 17 世紀前半の志野産の皿と、不明鉄製品 1 点が出土し、図示した。



順名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/3 灰黄色シルト少量 酸化鉄分少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト微量
2	2.5Y7/3 灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
3	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト微量 酸化鉄分微量
4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト微量 酸化鉄分微量
5	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト多量 酸化鉄分少量
6	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色腐食物多量 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
						胎土	口径	底径					器高
1	89-7	1層	陶器	皿	L線~高台	やや粗	(11.05)	(6.80)	(2.52)	志野	17c中	志野輪 買入有	I-3

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
2	89-8	6層	金属製品	7.0	6.17	0.5	(28.21)	不明	N-1

第29図 SX37 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

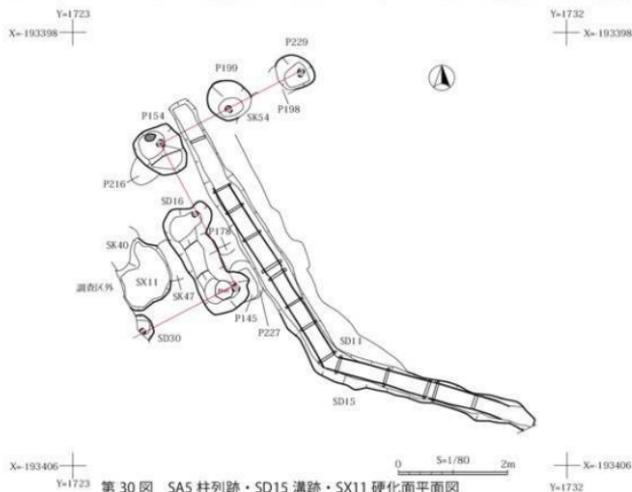
〈V層上面新段階の遺構〉

V層上面新段階の遺構は、柱列跡2条、溝跡4条、井戸跡1基、土坑12基、ピット35基、性格不明遺構6基を検出した。堆積状況と出土遺物から17世紀前半～17世紀後半にかけての遺構と考えられる。また、SX22は暗灰黄色シルトを主体としたV層上面に部分的に盛られた整地土である。そのため、その分布範囲を破線で遺構配置図(第32図)に示した。

(1) 柱列跡

1) SA5 柱列跡・SD15 溝跡・SX11 硬化面 (第30図、図版10-1～11-6)

SA5(柱列跡)、SD15(溝跡)、SX11(硬化面)は、個々の遺構の性格は異なるが、検出状況から武家屋敷跡に伴う一連遺構であると考えられるため、1つの遺構図として図化している。ただし、個々の遺構図と記述は別途行っている。



第30図 SA5 柱列跡・SD15 溝跡・SX11 硬化面平面図

(SA5) 柱列跡 (第30・32～34図、図版10-1～11-6)

N1-W58グリッドに位置する。柱列跡は、上層遺構のP141・145・202に削平される。また、一部がSK54、P178・216・227と重複するが、SA5が古い。調査段階において個々に遺構番号を付して調査していたため、整理作業段階において、新たにSA5の遺構番号を付している。このSA5はSD16・30(布掘り)とP154・199・P229の3基の柱穴と2基の布掘りから構成され、南西方向から、途中鉤形に曲がりながら北東方向に抜ける柱列跡である。総長は9.42mを測り、主軸は南西から北東方向がN-62°-E示し、南東から北西方向はN-31°-Wを示す。各遺構の規模については布掘りを含む柱列であるため個々の形状ごとに記述する。

また、平成18年度の調査において確認された総長9.73mのSA16と同一の柱列跡であり、本年度の調査において確認したSD30(布掘り)はSA16-溝3の北端にあたることが確認された。(第7章 第347図)

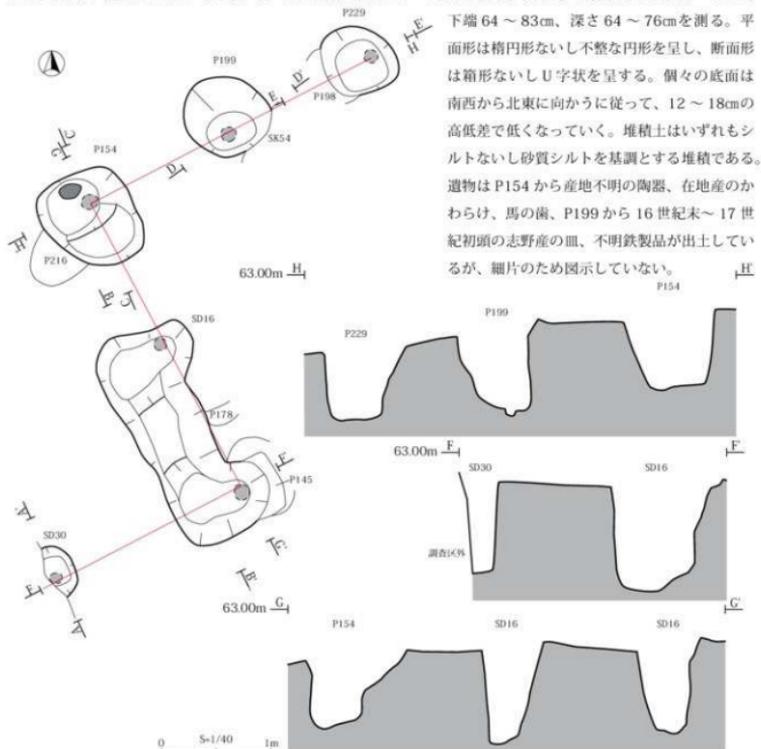
SD16・30(布掘り)

SA5の南側に位置し、東西方向から北側に方向を変え、L字型に並ぶ布掘りの柱列である。また、SD30の北側はP154接続し、このP154を始点にして東北方向に柱列の方向が変わる。柱間の寸法は1.88m(6尺2寸)で、

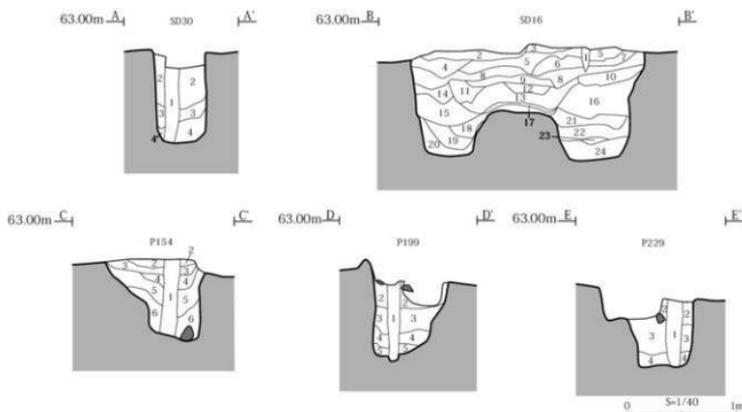
P154とSD30の柱間は1.46m(4尺8寸)となり、柱痕の径は12cmを測る。SD16の掘り方の規模は、長さ2.21m、幅68～92cm、深さ64～99cmを測る。平面形は両端部が突出するコの字状を呈し、断面形は両端を深く掘り窪め、中央を浅くした段状を呈する。堆積土は24層からなり、シルトないし砂質シルトを基調とする堆積である。SD30は平成18年度の調査において確認されており、今回の調査で確認した範囲は遺構の北端部にあたる。そのため平成18年度に確認した規模と合わせた規模を記述する。掘り方の規模は、長さ2.28m、幅42～56cm、深さ1.02～1.06mを測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形を呈する。底面は平坦である。堆積土は4層からなり、シルトないし砂質シルトを基調とする堆積である。底面には径8～15cmの根固め石が充填されている。遺物はSD16の8層から煙管の吸い口と、永楽通貨が出土し、図示した。

P154・199・229

SA5の北側に位置し、東西方向に並ぶ柱列跡である。また、P154はSD30と接続し、南側へと柱列の方向が変わる。柱間の寸法は1.46m(4尺8寸)で、柱痕の径は12～16cmを測り、掘り方の規模は、上端66～98cm、



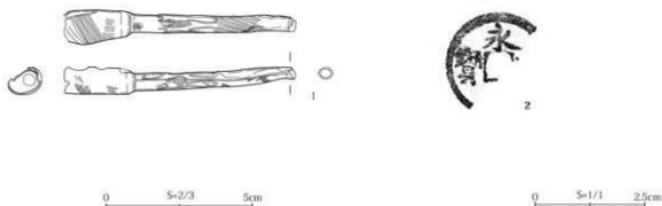
第1節 川内駅部1区



遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
SA5-P229	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	10YR4/3 オリーブ褐色砂質シルト多量 酸化鉄分多量 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径3～5mmの炭化物少量 約径3mmの礫粒少量	
	2	10YR 4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	2.5Y6/3 に近い黄色砂質シルト少量 径約5mmの炭化物少量 酸化鉄分少量 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量	
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト多量 2.5Y6/3 に近い黄色砂質シルト少量 径約5mmの炭化物少量	
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分少量	
SA5-P199	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト多量 径約3mmの炭化物少量 径約2mmの白色粒少量 柱痕	
	2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	径2～3mmの炭化物少量 径1～2mmの白色粒少量 酸化鉄分微量	
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量	
	4	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	径1～3mmの白色粒少量	
	5	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	あり	酸化鉄分微量	
SA5-P154	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分多量 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト微量 径3～5mmの白色粒少量 径2～3mmの礫粒少量 径5～10mmの炭化物粒少量 瓦片含む 柱痕	
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分少量
	3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト微量 径5～8mmの炭化物粒少量
	5	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト多量 酸化鉄分微量 径2～3mmの白色粒少量
	6	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径3～5mmの炭化物粒少量 酸化鉄分微量
SA5-SD16	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト微量
	2	10Y4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 2.5Y6/4 に近い黄色砂質シルト少量 径2～3mmの白色粒少量 径3～5mmの炭化物粒少量 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり	径約3mmの白色粒少量 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト微量 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量
	4	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト少量 2.5Y2/1 黒色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト多量 径2～3mmの白色粒少量 2.5Y6/4 に近い黄色砂質シルト微量
	6	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	なし	ややあり	2.5Y2/1 黒色砂質シルト微量 径2～3mmの白色粒少量
	7	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	あり	2.5Y6/4 に近い黄色砂質シルト微量 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	8	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	なし	ややあり	径3～5mmの白色粒多量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 2.5Y2/1 黒色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	9	7.5Y/2	灰オリーブ色	シルト	なし	ややあり	5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
	10	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径約2mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
	11	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	なし	あり	7.5Y/2 灰オリーブ色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	12	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	なし	あり	5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト少量 酸化鉄分微量
	13	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	なし	あり	2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト多量 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト多量 径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
	14	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	なし	あり	径2～3mmの白色粒少量 2.5Y3/1 砂質シルト微量
	15	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	なし	あり	5Y4/2 灰オリーブ黒色砂質シルト少量

第33図 SA5 柱列跡断面図

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
SA5-SD16	16	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 5Y4/2 灰オリーブ砂質シルト少量 酸化鉄分少量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト微量
	17	5Y2/1	黒色	シルト	あり	あり	酸化鉄分極微量
	18	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	5Y2/1 黒色砂質シルト少量
	19	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト質砂	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分微量
	20	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量
	21	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量
	22	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	あり	
	23	5Y2/2	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	ややあり	
	24	5Y4/1	灰色	砂質シルト	あり	ややあり	5Y4/2 灰オリーブ色砂質シルト多量
	SA5-SD30	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり
2		10YR4/3	灰・黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 2cm 以下の 10YR4/1 暗灰色シルトブロック多量 径 3mm 以下の粗砂微量
3		2.5Y6/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/2 灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
4		2.5Y5/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 2.5Y3/1 黒褐色シルト極微量



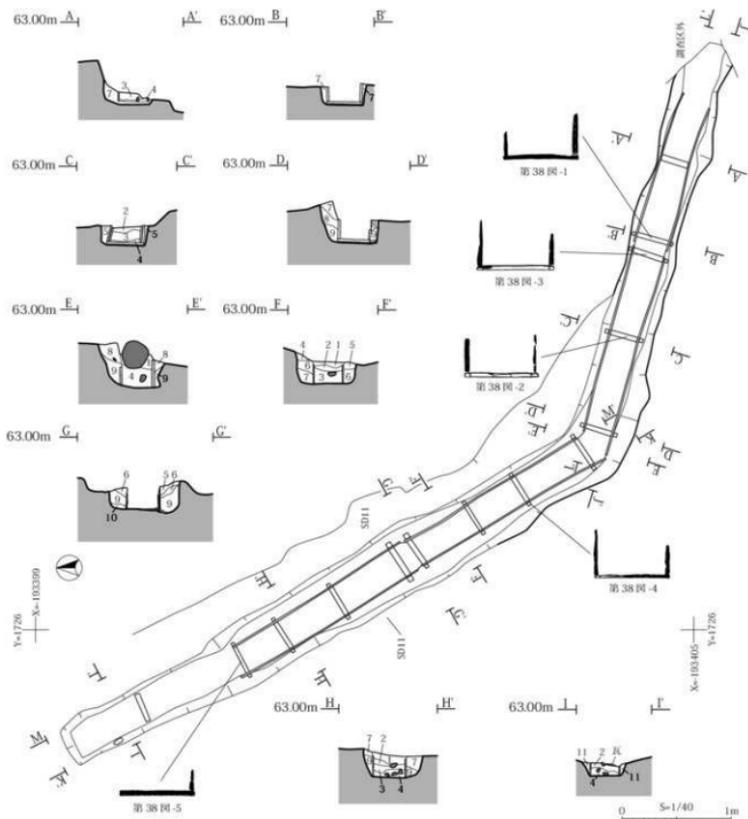
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	89-9	SD16-8層	金属製品	7.90	1.00	0.1	(4.16)	煙管吸口 彫刻文有	N-2
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重量		
2	89-10	SD16-8層	永楽通寶	1408年	(2.30)	0.6	(1.55)	中世末期～近世初期	N-3

第34図 SA5 柱列断面図・出土遺物

(SD15) 溝跡 (第30・35～38図、図版11-7～14-1)

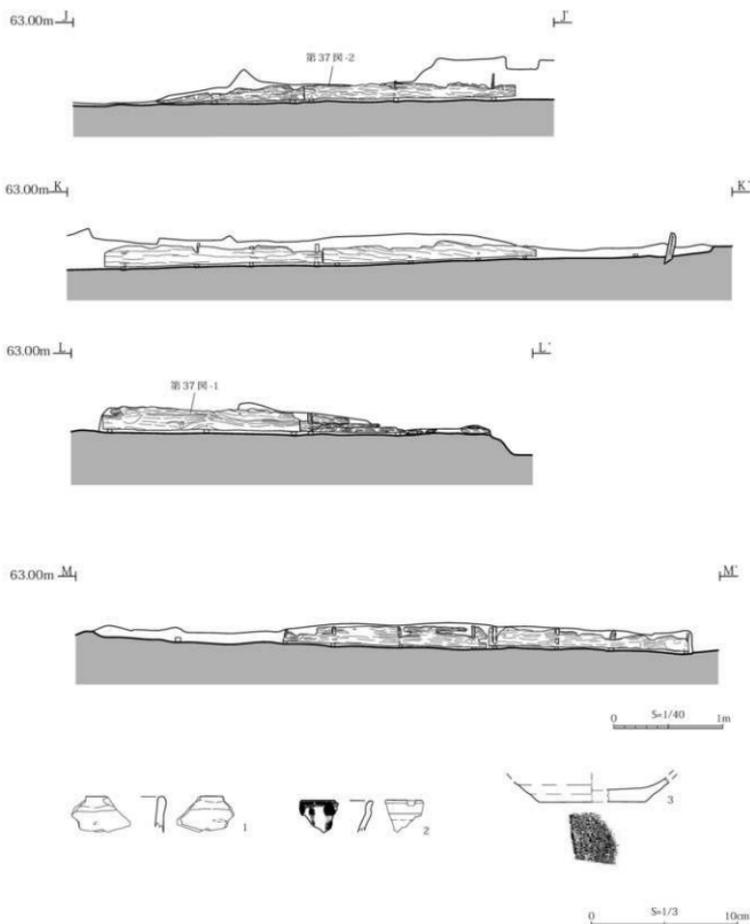
N1-W58～S1-W57 グリッドに位置する。上層遺構のSD11に削平され、南東側は近代の造成の際に削平されている。総長は9.67mを測り、主軸は北西から南東方向はN-30°-Eを示し、南側の屈曲部より先はN-73°-Eを示す。平面形はくの字状を呈し、南西側はP154付近で収束する。屈曲部より先の南東側は調査区外へ延びるものと推測される。溝の内面には、長さ約1.8m、幅約17.2cm、厚さ約1～1.6mの板材2枚と、長さ約22～35cm、幅約2.4～4cm、厚さ約14.4～17.6cmの角材をコの字状に組んだものを3ないし4つ使用して、箱状に組み上げ、それを4つ溝に据え側板としている。側板と側板の内幅は23.6～27.6cmを測り、深さ12～37cmを測る。掘り方の規模は、上端幅44～60cm、下端幅34～56cm、深さ12～40cmを測る。断面形は箱形ないし逆台形を呈し、底面は南東側へ緩やかに傾斜する。堆積土は11層からなり、1層、2層は砂質シルトで人為的に埋められた堆積土である。3層、4層は砂質シルトと砂がラミナ状に堆積し、溝が使用されていた時期の水性堆積である。5層～11層はシルトで、掘り方の埋土である。遺物は2層から在地産のかわらけ、3層から16世紀末～17世紀初頭の志野産の碗が2点出土し、図示した。

第1節 川内駅部1区



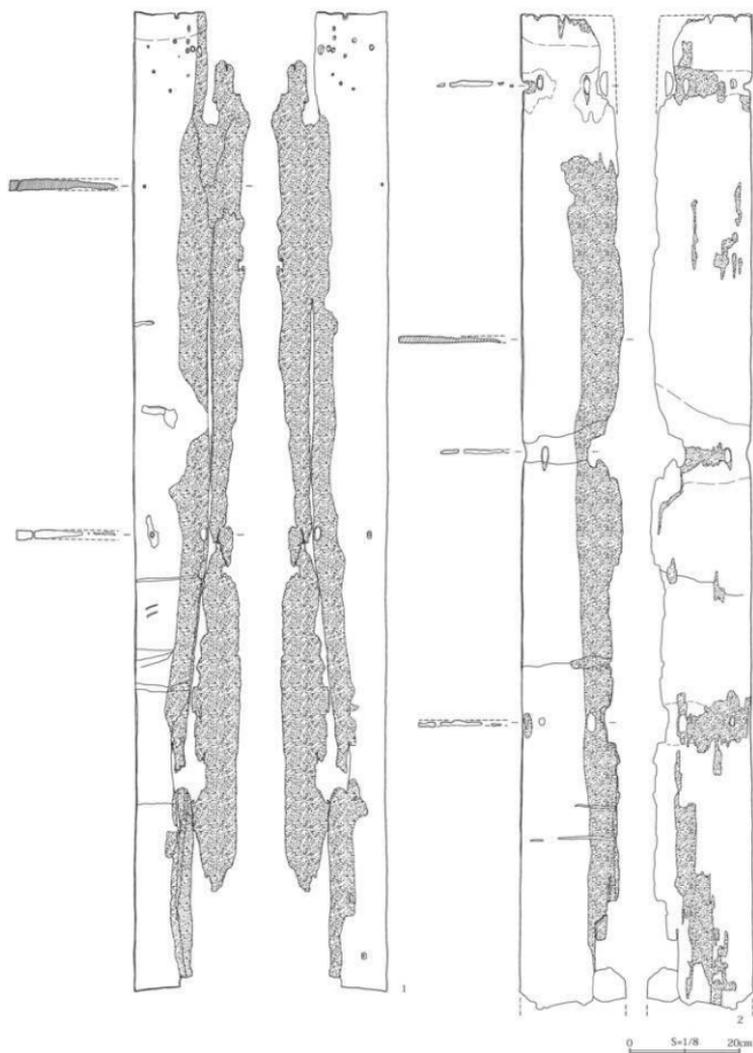
順号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~3mmの炭化物微量 腐食物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	
3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	中粒砂	なし	なし	2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂がラミナ状に堆積 酸化鉄分多量 水性堆積土
4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄分多量 径2~3mmの礫少量 水性堆積土
5	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分極微量
6	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 2.5Y7/2灰黄色シルト少量 径2~3mmの礫少量
7	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4に深い褐色中粒砂少量 酸化鉄分少量 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト微量
8	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	径1~3mmの白色粒少量 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
9	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 径1~2mmの白色粒少量 酸化鉄分微量 径約1cm・長さ約6cmの木刺あり 掘り方
10	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト少量 径2~3mmの白色粒少量 酸化鉄分極微量
11	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト多量 径3~5mmの白色粒微量 径約5mmの炭化物極微量 酸化鉄分極微量

第35図 SD15 満跡平面図・断面図・立面図

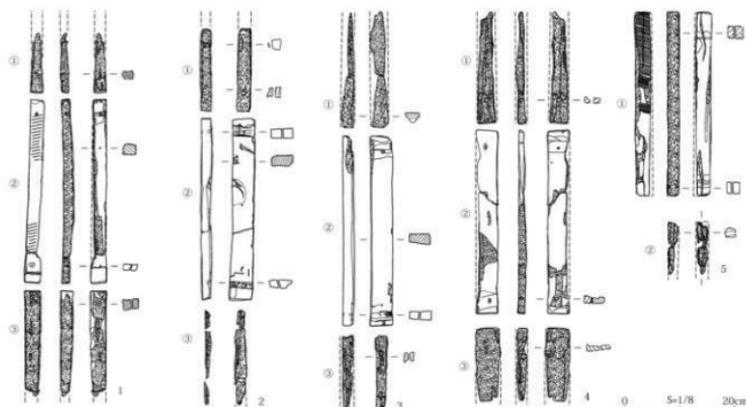


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	90-1	3層	陶器	煎茶碗	口縁部	やや粗	-	-	2.5	志野	16c 末～17c 初頭	志野軸 貫入有	14
2	90-2	3層	陶器	碗?	口縁～体部	やや粗	-	-	2.2	志野	16c 末～17c 初頭	志野軸 鉄絵	15
3	90-3	2層	土師瓦 土器	かわら 鉢	底部～体部	やや粗	-	(7.2)	1.7	在地	近世	ロクロナデ 底部(転車切)直有	16

第36 図 SD15 溝跡立面図・出土遺物



第37図 SD15 溝跡出土遺物

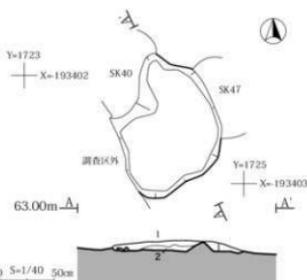


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	90-9	-	木製品	180.7	20.9	2.0	縦目	クワ	板材 溝側板 第37圓に立面固有 釘穴	L-4
2	90-10	-	木製品	183.7	19.3	1.2	縦目	クワ	板材 溝側板 第37圓に立面固有 釘穴	L-5
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	90-4	-	木製品	① 11.1 ② 34.0 ③ 19.5	① 2.3 ② 3.0 ③ 2.9	① 1.7 ② 1.9 ③ 2.2	分割材	スズ	部材 第35圓に立面固有 釘穴4有	L-6
2	90-6	-	木製品	① 15.4 ② 33.6 ③ 17.5	① 2.6 ② 4.1 ③ 2.3	① 2.0 ② 2.0 ③ 1.0	分割材	針葉樹	部材 第35圓に立面固有 釘穴4有	L-7
3	90-5	-	木製品	① 21.4 ② 35.1 ③ 14.3	① 3.0 ② 4.0 ③ 2.3	① 2.2 ② 2.0 ③ 2.0	分割材	針葉樹	部材 第35圓に立面固有 釘穴3有	L-8
4	90-7	-	木製品	① 20.8 ② 34.0 ③ 13.6	① 3.2 ② 3.9 ③ 4.6	① 1.6 ② 1.4 ③ 1.8	分割材	針葉樹	部材 第35圓に立面固有 釘穴5有	L-9
5	90-8	-	木製品	① 34.0 ② 9.6	① 2.8 ② 2.0	① 2.2 ② 2.0 ③ 2.0	分割材	スズ	部材 第35圓に立面固有 釘穴2有	L-10

第38図 SD15 溝跡出土遺物

〈SX11 硬化面〉(第30・39図、図版15-1・2)

N1-W58グリッドに位置し、遺構の北側を上層遺構のSK40、東側をSK47に削平されている。SA5-SD30の北側に位置し、SA5の柱列に伴う硬化面である。残存する規模は、長軸1.21m、短軸96cm、厚さ10cmを測る。平面形は不整形で、断面形状は遺構の中心が盛り上がり、北側と南側に向かって緩やかに傾斜するレンズ状を呈する。底面の北側には10cmほどの高まりが見られ、堆積状況から、構築の際に底面の整形を行わずに、V層整地土上面に直接盛られたと考えられる。堆積土は2層からなり、灰オリーブ色のシルトである。1層は良く締まり硬化している。遺物は出土していない。



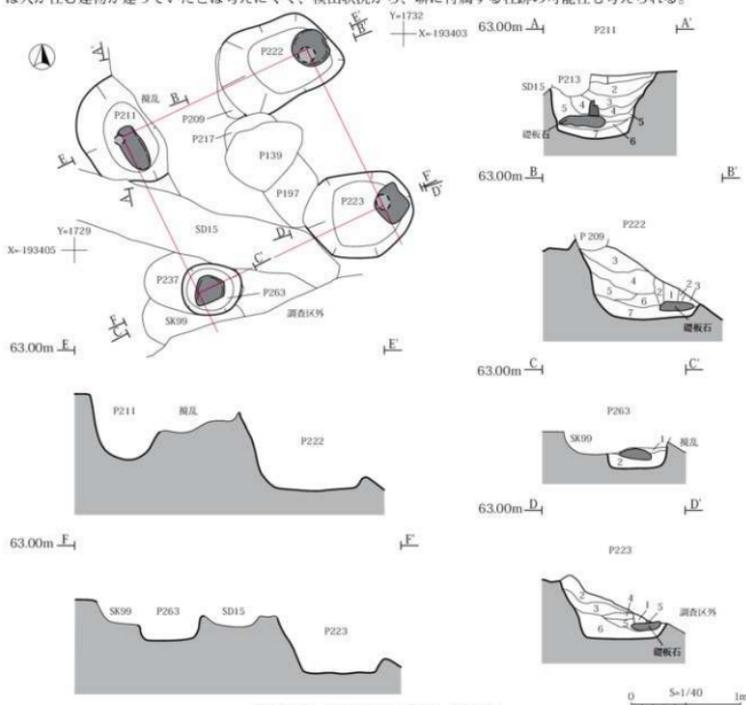
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	灰オリーブ色 砂質シルト	なし	硬化	2.5Y6/4 オリーブ黄色シルト多量 2.5Y4/1 灰色砂質シルト少量 2.5Y5/4 オリーブ色砂質シルト微量 酸化鉄分微量 径3～5mmの白色粒少量
2	2.5Y5/2	灰オリーブ色 砂質シルト	なし	ややあり	2.5Y5/4 オリーブ色砂質シルト多量 径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量

第39図 SX11 硬化面平面図・断面図

(2) SB 建物跡

1) SB3 建物跡 (第40図、図版15-3～16-2)

S1-W57・W58グリッドに位置し、P211・222・223・263の4基の柱穴から構成される建物跡である。北東側は近代の造成の際に削平され、SD15、SK99、P197・209・217・237と重複しており、SB3が古い。東西1間、南北1間を検出し、柱間はいずれも1.88m(6尺2寸)を測る。検出状況から、南側の調査区外へ延びる可能性が考えられる。P263では礎板石のみ検出し、柱痕は確認できなかった。北東から南西方向を基準とした主軸方向はN-63°-Eを示す。柱痕の径は8～15cmを測る。掘り方の規模は、長軸0.56～1.08m、短軸52～81cm、深さ19～66cmを測り、底面の高さは、東側に位置するP222・223は西側に位置するP211・263より32cmほど低くなっている。礎板石には、長さ35.6～44.8cm、幅20～32.8cm、厚さ6～11.2cmの扁平な自然石が使用されている。平面形は隅丸長方形ないし楕円形で、断面形は箱形ないし逆台形を呈し、底面は平坦であるが、堆積土は砂質シルトを基調とする堆積である。遺物はP211から不明木製品、P22から瓦片が出土しているが、細片のため図示していない。このSB3は底面の高低差から傾斜地に建てられた可能性が考えられる。また、柱痕の規模からは人が住む建物が建っていたとは考えにくく、堀に付属する柱跡の可能性も考えられる。



第40図 SB3 建物跡平面図・断面図

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
P211	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト少量 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト少量 径1~3mmの白色砂粒
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~3mmの炭化物微塵 酸化鉄分微塵 径約1mmの礫粒微塵
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微塵
	5	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	ややあり	ややあり	5Y4/1 灰色砂質シルト多量 径2~3mmの白色粒多量 2.5Y4/2 柱面あり
	6	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y5/3 黄褐色中細砂質シルト 径約30mmの根石含む 根石あり方
	7	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	あり	ややあり	酸化鉄分微塵 根石あり方
P222	1	7.5YR2/3	暗黒褐色	礫食物	なし	なし	角柱が露出したもの 柱面
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト微塵 10YR4/3 に ぶい・黄褐色砂質シルト微塵 径2~3mmの白色粒微塵
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト多量 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト多量 径3~ 5mmの白色粒微塵 酸化鉄分微塵
	4	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 2.5Y6/3 黒褐色砂質シルト少量
	5	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
	6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径約3mmの白色粒微塵 酸化鉄分微塵
	7	10YR4/3	ぶい・黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径約8mmの炭化物微塵 径約30mmの根石あり 約1/2がグライ化
P263	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微塵
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微塵 径約30mmの根石含む
	1	7.5YR2/3	暗黒褐色	礫食物	なし	なし	角柱が露出したもの 柱面
P223	2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 2.5Y6/3 にぶい・黄褐色砂質シルト少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 2.5Y6/3 にぶい・黄褐色砂質シルト少量
	4	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微塵
	5	2.5Y5/2	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/3 にぶい・黄褐色砂質シルト微塵 径約30mmの根石あり
	6	10YR4/3	ぶい・黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量 約1/3が7.5Y5/2 オリーブ黒色にグライ化

(3) SD 溝跡

1) SD25 溝跡 (第41図、図版16-3・4)

S1-W58 グリッドに位置する。東西方向から屈曲して南北方向に延びるL字状を呈する素掘りの溝跡である。北側は上層遺構のSD7・11に削平され、北東側の一部がSD27と重複しており、SD25が古い。西側は調査区外へ延び、北側はSD7・11に削平されているため、溝の範囲は確認できなかった。また、調査区南壁直下において検出したため溝の南肩も確認できていない。屈曲部の西側の主軸方向はN-65°E、東側はN-33°Wを示す。残存する



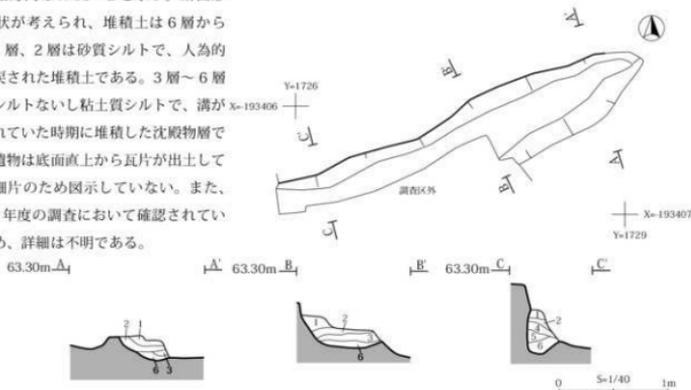
第41図 SD25 溝跡平面図・断面図

2) SD27 溝跡 (第42図、図版16-5~8)

S1-W58 グリッドに位置し、南西から北東方向に走る素掘りの溝跡である。北側は上層遺構のSD7に削平され、東側はSD25と重複しており、SD27が新しい。西側は調査区外へ延びる。また、調査区南壁面直下において検出したため、溝の南肩の一部は確認できていない。残存する規模は、長さ3.60m、上端幅73cm、下端幅42cmを測

第1節 川内駅部1区

り、主軸方向はN-63°-Eを示す。断面形はU字状が考えられ、堆積土は6層からなり、1層、2層は砂質シルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。3層～6層は砂質シルトないし粘土質シルトで、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は底面直上から瓦片が出土している。細片のため図示していない。また、平成18年度の調査において確認されていないため、詳細は不明である。

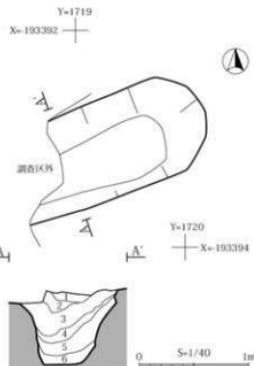


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 2.5Y6/3 に示す 黄色砂質シルト少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	酸化鉄分少量
3	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y6/3 に示す 黄色砂質シルト少量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト少量
5	10YR4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	酸化鉄分少量 径約 3mm の炭化物微量
6	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	2.5Y6/3 に示す 黄色砂質シルト少量 酸化鉄分少量

第42図 SD27 溝跡平面図・断面図

3) SD42 溝跡 (第43図、図版17-1・2)

N1-W58・W59 グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に伸びる素掘りの溝跡である。南西側は調査区外へ延び、北東側は丸く収束する。確認された規模は、長さ1.43m、上端幅90cm、下端幅41～54cm、深さ70cmを測る。主軸方向はN-66°-Eを示す。断面形はU字状を呈し、底面は平坦である。堆積土は6層からなり、1層～4層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。5層は有機物、6層は粘土質シルトである。堆積状況から溝が使用されていた時期に底面に堆積した沈殿物層と考えられる。遺物は2層から不明鉄製品1点と、5層から17世紀代の唐津産の口折皿が1点出土しているが、細片のため図示していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR 5/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分少量 径約 5mm の炭化物微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり 径3～5mm の白色粒多量 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト少量 径2～5mm の炭化物少量 酸化鉄分少量
3	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	あり 2.5Y7/3 浅褐色砂質シルト少量 腐食物微量 酸化鉄分少量
4	2.5Y6/2	黄灰色	砂質シルト	なし	あり 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量 酸化鉄分少量
5	7.5Y3/2	黒褐色	なし	あり	有機物(密) 酸化鉄分少量 5Y3/2 砂質シルト微量 径約 3mm の炭化物微量
6	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	なし	あり 酸化鉄分少量

第43図 SD42 溝跡平面図・断面図

(4) SE井戸跡

1) SE7井戸跡(第44図・図版17-3・4)

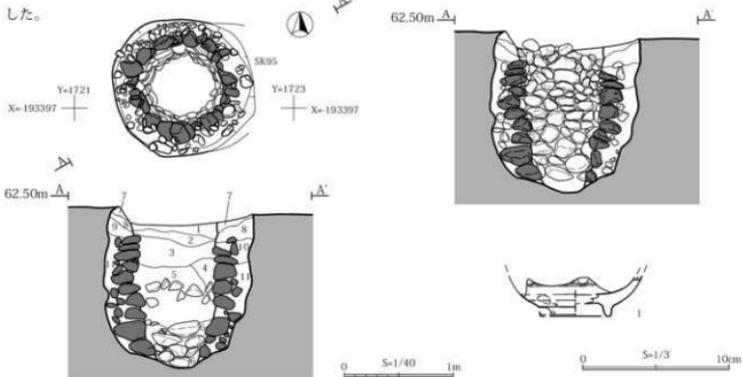
N1-W58グリッドに位置し、上層遺構のSK95に削平される。作業の安全面から、約1mのみ人力により掘下を行った。そのため全面調査終了後に重機による断り切りを行い、下層の確認作業を行った。東側はSX43と重複しており、SE7が新しい。井側が石組の井戸跡である。

〈掘り方〉 平面形は不整な円形を呈し、断面形は底面中心部がやや落ち込み、歪なU字状を呈する。規模は、上端直径1.36m、下端直径78cm、深さ1.52mを測る。

〈井側構造〉 井側には面取りのされていない、長さ16～30cm、幅14～22cm、厚さ8～20cmの扁平な自然石が積まれている。隙間には径5～8cm程度の石が詰められている。上端の内径は約80cm、下端の内径は約60cmを測り、側面はほぼ垂直に立ち上がる。

〈裏込め〉 裏込めは5層からなり、7層～11層までVI層由来の暗オリーブ色シルトないし砂質シルトを基調とする堆積で、径5～12cmの礫が微量に含まれる。

〈堆積土〉 堆積土は6層からなり、1層～6層まで砂質シルトを基調とした堆積で、人為的に埋め戻された堆積土である。また、5層、6層には径5～20cm大の礫が多量に堆積している。堆積状況から、井側の石を崩して中に落とす込んだものと考えられる。遺物は、6層から17世紀中頃～17世紀後半の肥前産の磁器が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	酸化鉄分微量 腐食物体微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり 酸化鉄分少量 底面に腐食物体少量
4	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	酸化鉄分微量
5	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	径1.5～20cmの礫多量
6	2.5Y4/1	黄灰色	砂	なし	径5～20cmの礫多量
7	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	酸化鉄分微量 径3～5mmの白色粒少量
8	2.5Y 3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	径3～5mmの礫含む
9	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	なし	ややあり 径2～5mmの礫極微量
10	5Y4/ 1	灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり 径3～5cmの礫微量 酸化鉄分微量
11	5Y4/3	暗オリーブ色	シルト	ややあり	あり 径5～10cmの礫微量 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(mm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	90-11	6層	磁器	碗	高台～体部	密	-	(4.9)	(2.8)	肥前	17c 中～17c 後半	染付有 ロクロ; 右	J-1

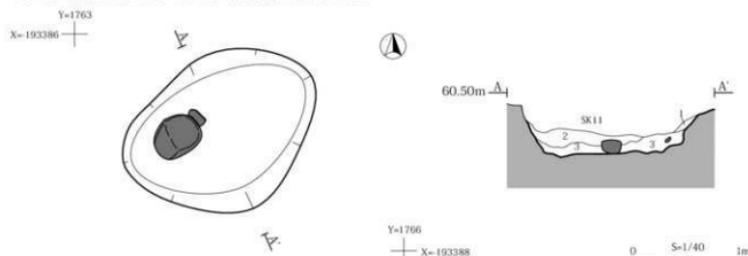
第44図 SE7井戸跡平面図・断面図・立面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

(5) SK土坑

1) SK17土坑 (第45図、図版17-5・8)

N2-W54グリッドに位置し、遺構の上部を上層遺構のSK11に削平されている。残存する規模は長軸1.89m、短軸1.44m、深さ32cmを測り、主軸方向はN-63°Eを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。底面は北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層はシルトでIV層相当の整地土である。2層はシルト、3層はVI層由来の明黄褐色シルトを主体とした堆積である。遺物が出土していないため時期決定は難しいが、堆積状況から本遺構は、SK11に削平されることにより掘りこみ面は確認できないものの、1層にIV層相当の整地土が堆積することが断面において確認できたため、IV層によって、整地する際に一緒に埋められた遺構であると判断した。また、底面直上において、長さ44cm、幅56cm、厚さ30cmの礫を検出しているが、破棄されたものなのか、掘えられたものなのかは判断できなかった。

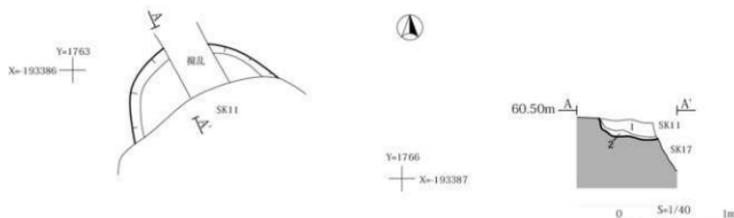


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黄灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/6明黄褐色シルト微量 2.5Y5/1黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
3	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄灰色シルト少量 2.5Y4/2明黄褐色シルト少量 径18~44cmの礫含む

第45図 SK17土坑平面図・断面図

2) SK25土坑 (第46図、図版17-6・8)

N2-W54グリッドに位置し、遺構の中央を視乱で削平され、南側を上層遺構のSK11に削平される。また、SK11に削平されることによりSK17との切り合い関係は確認できなかった。残存する規模は、長軸1.43m、短軸54cm、深さ18cmを測る。平面形は円形、断面形は箱形を呈すると考えられる。底面はやや起伏するが平坦である。堆積土は2層からなり、シルトである。遺物は出土していない。

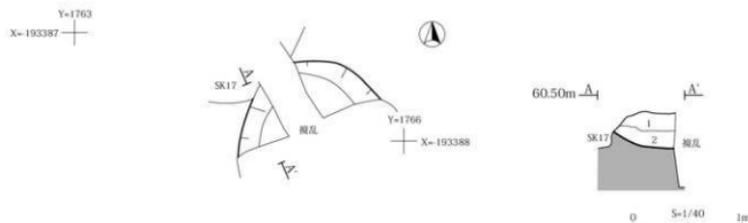


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	なし	あり	2.5Y6/6明黄褐色シルト微量
2	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	なし	あり	2.5Y3/1黒褐色シルト少量 酸化鉄分微量

第46図 SK25土坑平面図・断面図

3) SK27 土坑 (第47図、図版17-7・8)

N2-W54 グリッドに位置し、遺構の中央と南側を掘乱に削平され、北側はSK17と重複しており、SK27が古い。残存する規模は、長軸1.39m、短軸58cm、深さ31cmを測る。平面形は不整形な円と考えられ、断面形は皿状を呈すると推測される。堆積土は2層からなり、1層、2層共にシルトである。遺物は出土していない。



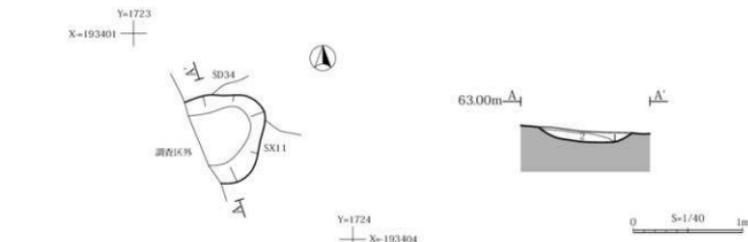
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3 にごい黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	10YR4/2 灰黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量

第47図 SK27土坑平面図・断面図

3) 土坑

1) SK40 土坑 (第48図、図版18-1・2)

S1-W58 グリッドに位置し、西側は調査区外へと延び、北側はSD34、SX11と重複しており、SX11より新しくSD34より古い。残存する規模は、長軸86cm、短軸67cm、深さ10cmを測る。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈し、底面は緩やかに北側に傾斜している。堆積土は2層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



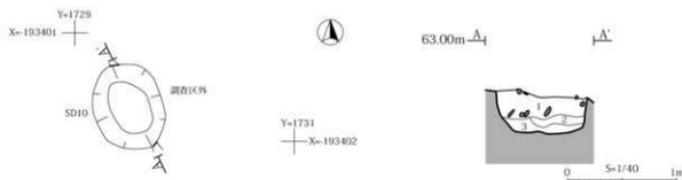
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量 10YR3/2 黒褐色砂質シルト微量
2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y6/4 にごい黄色砂質シルト微量 10YR3/2 黒褐色砂質シルト極微量

第48図 SK40土坑平面図・断面図

4) SK55 土坑 (第49図、図版18-3・4)

S1-W58 グリッドに位置する。東側を近代の造成の際に削平され、西側は上層遺構のSD10に削平される。残存する規模は、長軸86cm、短軸64cm、深さ38cmを測り、主軸方向はN-28°-Wを示す。平面形は楕円形と考えられ、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、砂質シルトである。遺物は17世紀後半頃と考えられる肥前産の陶器が1点出土しているが、細片のため図示していない。

第1節 川内駅部1区



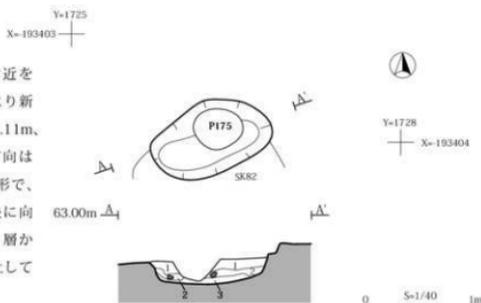
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト多量 酸化鉄分少量 径3～5mmの白色粒少量 径約5mmの礫少量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 径2～3mmの白色粒少量
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの白色粒多量 酸化鉄分少量

第49図 SK55 土坑平面図・断面図

6) SK60 土坑

(第50図、図版18-5・6)

S1-W58 グリッドに位置し、中央付近をP175、南側はSK82と重複し、SK82より新しく、P175より古い。規模は、長軸1.11m、短軸66cm、深さ22cmを測り、主軸方向はN-71°-Eを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形を呈する。底面は中央に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



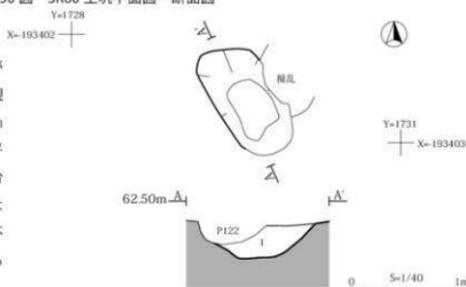
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分多量 径2～3mmの白色粒少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2～3mmの礫少量 酸化鉄分少量
3	2.5Y3/1	黒灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの炭化物少量 酸化鉄分少量

第50図 SK60 土坑平面図・断面図

7) SK69 土坑

(第51図、図版18-7・8)

S1-W58 グリッドに位置し、南側がP122と重複しており、SK69が古い。規模は、長軸92cm、短軸56cm、深さ31cmを測り、主軸方向はN-30°-Wを示す。平面形は不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層で、砂質シルトである。遺物は産地不明の播鉢と瓦片が1点ずつ出土しているが、細片のため図示していない。

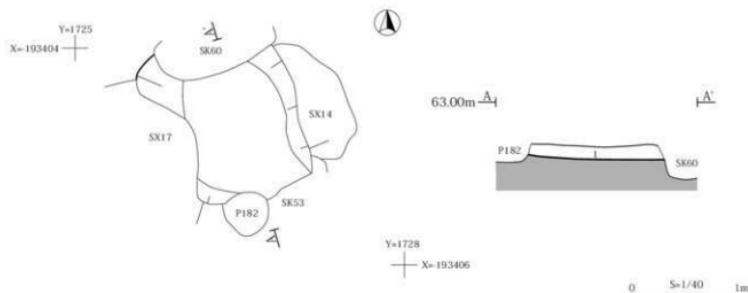


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y6/3にふい黄色砂質シルト多量 径2～5mmの白色粒多量 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径約1cmの礫少量

第51図 SK69 土坑平面図・断面図

8) SK82 土坑 (第52図、図版19-1・2)

S1-W58グリッドに位置し、東側はSX14、西側はSX17、北側はSK60、南側はSK53、P182、と重複しており、SX14より新しく、その他の遺構より古い。残存する規模は、長軸1.48m、短軸1m、深さ14cmを測り、主軸方向はN-52°-Wを示す。平面形は不整な楕円形、断面形は皿状と考えられる。底面は平坦である。堆積土は単層で、砂質シルトである。遺物は出土していない。

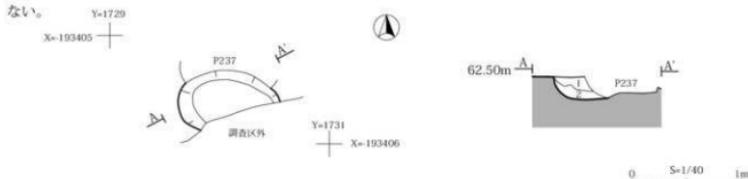


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	オリブ褐色 砂質シルト	あり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 2.5Y6/4 に近い黄色砂質シルト少量 腐化鉄分少量 径5～8mmの炭化物粒少量 一部2.5GY4/1 暗オリブ灰色にグライ化

第52図 SK82 土坑平面図・断面図

9) SK99 土坑 (第53図、図版19-3・4)

S1-W58～S1-W57グリッドに位置し、南側は調査区外へ延び、東側はP237と重複しており、SK99が古い。残存する規模は、長軸87cm、短軸44cm、深さ20cmを測り、主軸方向はN-70°-Eを示す。平面形は楕円形で、断面形は皿状と考えられる。底面は平坦である。堆積土は2層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



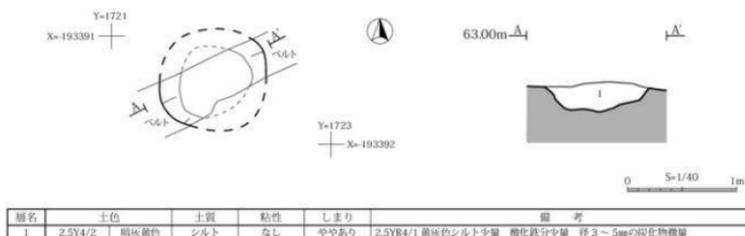
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 腐化鉄分多量 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト極少量
2	2.5Y6/2	灰黄色 砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト多量 腐化鉄分少量

第53図 SK99 土坑平面図・断面図

10) SK121 土坑 (第54図、図版19-5・6)

N1-W58グリッドに位置し、北壁掘り下げ中に検出した遺構である。遺構の北側と南側の上端と下端は、V層整地掘り下げ時に一緒に掘り下げてしまったため、確認できていない。その部分の上端、下端はともに破線で表記している。残存する規模は、長軸86cm、短軸46cm、深さ20cmを測り、主軸方向はN-54°-Eを示す。平面形は隅丸正方形と考えられ、断面形は歪な逆台形を呈する。底面には中央部に浅い落ち込みが見られる。堆積土は単層でシルトである。遺物は出土していない。

第1節 川内駅部1区

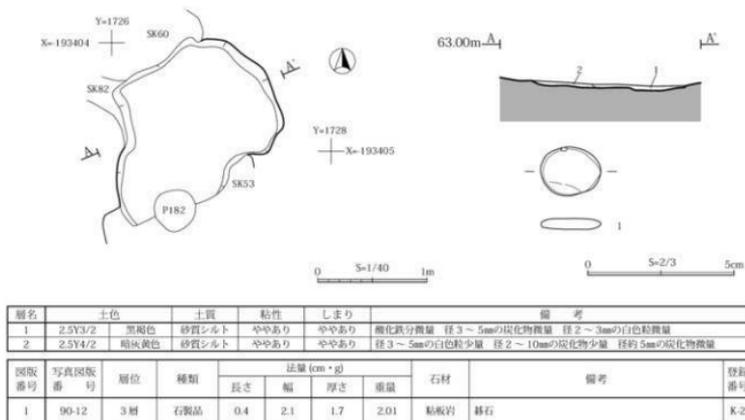


第54図 SK121土坑平面図・断面図

(6) 性格不明遺構

1) SX14 性格不明遺構 (第55図、図版19-7・8)

S1-W58グリッドに位置し、北側はSK60・82、南側をSK53、P182と重複しており、SX14が古い。残存する規模は、長軸1.70m、短軸1.26m、深さ6cmを測る。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈し、底面にはやや起伏が見られる。堆積土は、2層からなり、砂質シルトである。遺物は1層から碁石、2層からは不明木製品が出土している。そのうち碁石を1点図示した。

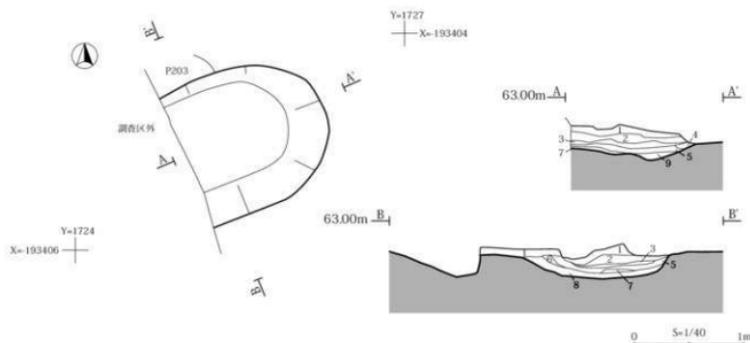


第55図 SX14性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

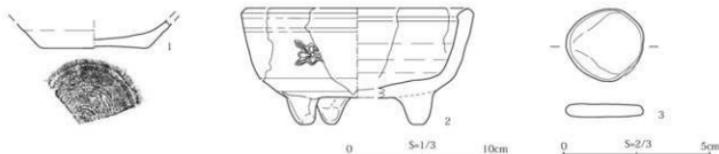
2) SX17 性格不明遺構 (第56図、図版20-1~6)

S1-W58グリッドに位置し、遺構の一部を上層遺構のP120・169に削平され、北側はP203と重複しており、SX17が新しい。西側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸1.65m、短軸1.26m、深さ31cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は逆台形を呈する。底面は、ほぼ平坦で東側の一部に浅い落ち込みが見受けられ

る。堆積土は9層からなり、1層と2層はIV層相当の砂質シルトで人為的に埋められた堆積土である。4層と6層～9層はシルト、3層は炭化物、5層は砂の堆積である。堆積状況から4層以下の堆積は遺構の埋められる前に堆積した沈殿物層であると考えられる。遺物は1層より在地産の瓦質土器2点、2層からは在地産の土師質土器2点と碁石が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量 径2～3mmの白色粒微量 一部2.5Y4/2暗灰黄色にグライ化
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂少量 径3～8mmの炭化物微量
3	2.5Y3/1 黒褐色		なし	なし	炭化物 2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂微量
4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト多量 径3～10mm度の炭化物少量 径2～3mmの白色粒微量 酸化鉄分微量
5	2.5Y4/3 オリーブ褐色	中粒砂	なし	なし	酸化鉄分微量
6	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/2黒褐色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
7	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
8	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分多量 2.5Y4/1 暗灰黄色シルト微量 径3～8mmの炭化物微量
9	5Y3/2 オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5G4/1にグライ化した砂質シルト少量 酸化鉄分微量



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	91-1	2層	土師質土器	かわらけ	底部～体部	やや粗	-	7.2	1.9	在地	近世	口ケラナ字 底面(ヒ)糸切り痕有	17
2	91-2	1層	瓦質土器	火入れ	口縁～脚部	粗	(15.0)	(10.0)	9.1	在地	近世	ヘラ削り 底部に回転糸切り痕有 型押し「花文」有	18

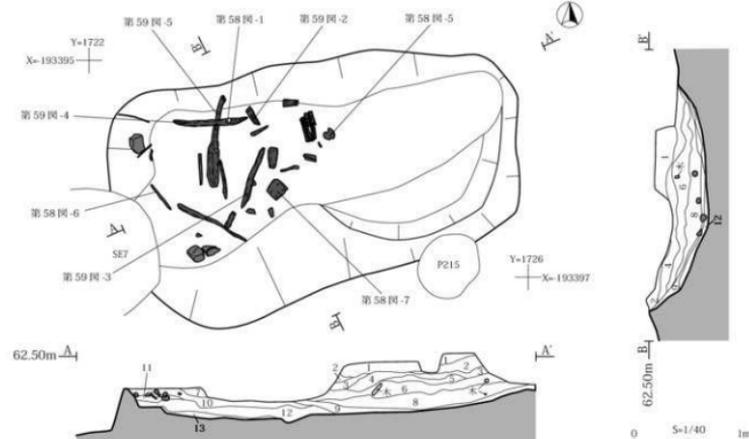
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
3	91-3	2層	石製品	0.5	2.7	2.5	4.68	粘板岩	碁石	K-3

第56図 SX17 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

3) SX43 性格不明遺構 (第57～59図、図版20-7～21-5)

N1-W58グリッドに位置する。北側を上層遺構のSX8に削平され、南側はP215に、西側はSE7と重複しており、SX43が古い。残存する規模は、長軸3.43m、短軸2.38m、深さ20～60cmを測る。主軸方向はN-67°-Eを示す。平面形は不整形な楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は13層からなり、1層、2層は砂質シルトでIV層整地土相当、3層～5層は砂質シルトで人為的に埋められた堆積土である。6～9層と11層、13層は砂質シルトと砂で、各層には腐食物またはピビアナイト化した微細な骨が含まれている。10層、12層は砂質シルトで、12層からは獣骨が1点出土している。遺物は8層から金箔瓦、9層の直上では小枝などの植物遺体・木製品等と一緒に16世紀末～17世紀初頭の志野産の碗等が出土し、図示した。

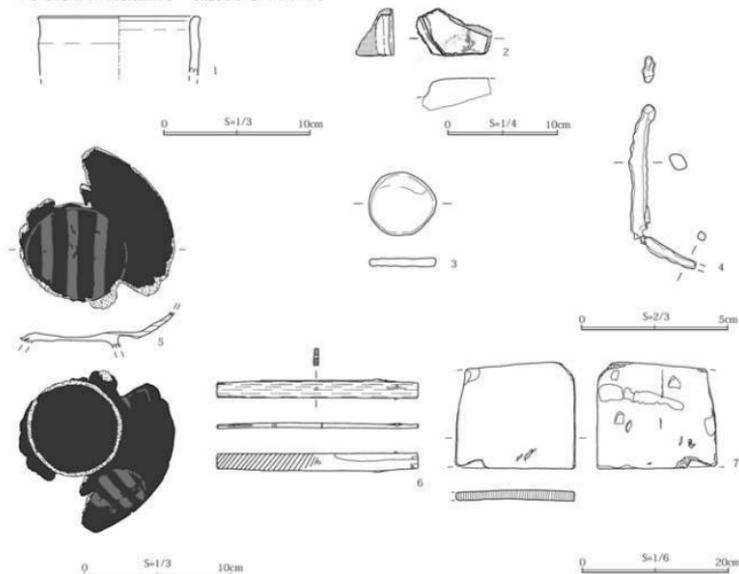
また、9層において目視より魚骨を確認したため、土壌を採取し、フルイによる選別作業と自然科学分析(珪藻分析・寄生虫卵分析・花粉分析)を行った。その結果、選別作業において47種の魚骨・貝とクリの果皮破片、カキノキの種子、キュウリ属メロン仲間等の種子を採取した。自然科学分析ではクリ属、サイカチ属の花粉が比較的高率で出現し、寄生虫卵は合計3097個/㎡検出されている。寄生虫卵の結果のみを見た場合、トイレ遺構の可



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径2～3mmの白色粘多量 酸化鉄分多量 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量
2	2.5Y4/2 暗黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2～3mmの白色粘多量 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
3	2.5Y5/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	腐食物微量 一部7.5Y5/1褐色にグラウイ化
4	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/2暗黄灰色砂質シルト微量 径2～3mmの白色粘粒微量酸化鉄分微量 腐食物微量
5	2.5Y5/2 暗黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
6	2.5Y2/1 黒色	シルト質砂	ややあり	ややあり	2.5Y3/1黒褐色と10YR3/2黒褐色腐食物を帯状に含む 酸化鉄分微量 ピビアナイト化した骨を微量
7	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y6/3に赤い黄褐色砂質シルト微量 径2～3mmの白色粘粒微量 酸化鉄分微量 底面に7.5YR3/2黒褐色腐食物を帯状に含む
8	7.5Y5/2 灰オリーブ色	砂	なし	ややあり	腐食物微量 腐食外微量 木片微量
9	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	腐食物多量 風化した木片多量 ピビアナイト化した骨少量 酸化鉄分微量
10	2.5Y4/2 暗黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 径2～3mmの白色粘少量 酸化鉄分少量 2.5Y6/3に赤い黄褐色砂質シルト微量 径0.5～1cmの炭化物微量 径3～5cmの炭塊
11	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂	なし	なし	酸化鉄分多量
12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分多量 径約1cmの炭塊
13	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト少量 7.5Y3/2オリーブ黒色シルト質砂少量 酸化鉄分微量 ピビアナイト化した骨微量

第57図 SX43 性格不明遺構平面図・断面図

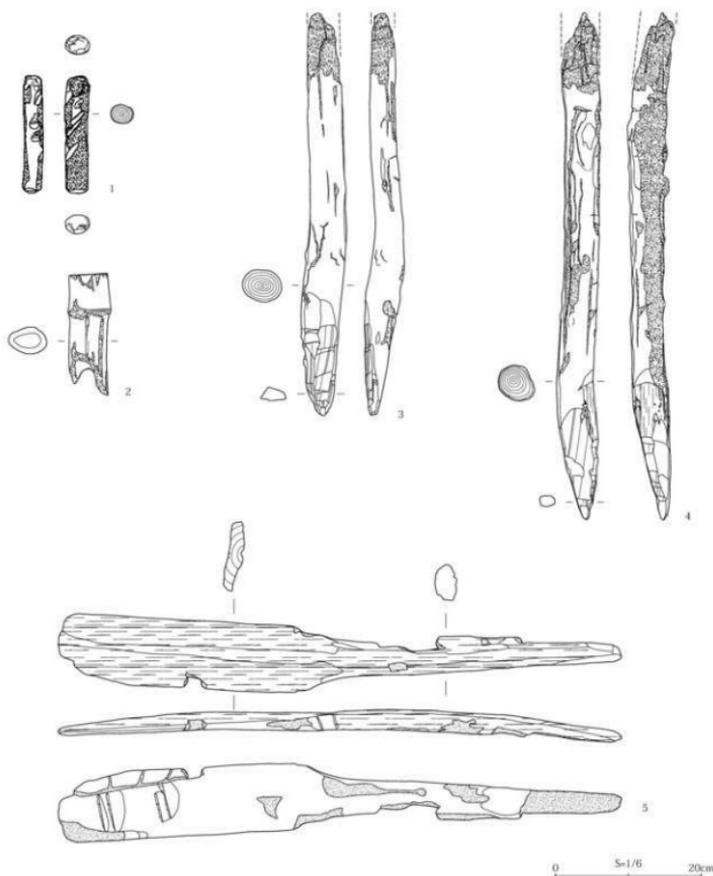
能性も考えられるが、これらの結果と6～13層までの堆積状況と出土遺物を踏まえ検討した結果、本遺構は生活ゴミ等を廃棄した廃棄土坑の可能性も考えられる。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土			産地	時期	備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	91-4	9層	陶器	抹茶碗	1縁～ 体部	やや粗	(11.1)	-	(4.1)	志野	16c末～17c 初頭	志野物 買入有	L-9
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
2	91-5	8層	瓦	(3.85)	(6.58)	(3.45)	ヨコナデ金箔付着	H-1					
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号				
				長さ	幅	厚さ	重量						
3	91-6	9層	金属製品	-	2.3	0.3	(11.94)	不明金属製品	N-4				
4	91-7	8層	金属製品	5.7	0.6	-	(4.11)	釘	N-5				
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号			
				口径	底径	器高							
5	91-10	6層	漆器	残存長 (10.6)	-	高さ (2.5)	縦木取り	アサ楡	椀	L-11			
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号			
				長さ	幅	厚さ							
6	91-9	8層	木製品	27.6	2.6	0.7	框目	アスナロ属	板材	L-12			
7	91-8	8層	木製品	14.8	16.4	1.3	框目	タリ	板材	L-13			

第58図 SX43 性格不明遺構出土遺物 (1)

第1節 川内駅部1区

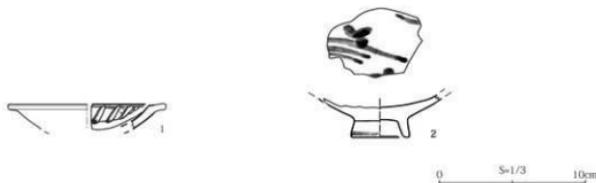


図版 番号	写真図版 番 号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	91-11	6層	木製品	16.3	3.2	2.6	芯持材	クリ	不明 両端に切断痕	L-14
2	91-12	9層	木製品	16.9	5.8	3.7	-	タケ亜科	杭 側面に釘穴	L-15
3	92-1	9層	木製品	55.7	5.4	4.7	芯持材	クリ	杭	L-16
4	92-2	9層	木製品	70.3	5.2	5.4	芯持材	クリ	杭	L-17
5	92-3	9層	木製品	76.9	9.5	3.0	板目	コナラ亜属コナラ節	竊?	L-18

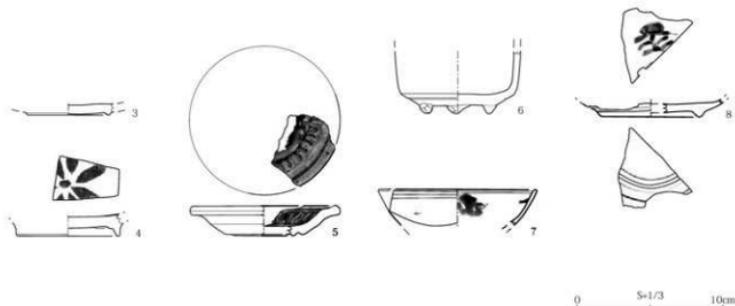
第59図 SX43 性格不明遺構出土遺物 (2)

(6) V層出土遺物 (第60図、図版92-4~12)

V層からの出土遺物は、総数17点出土した。内訳は磁器4点、陶器7点、土師質土器2点、丸瓦・軒丸瓦3点、その他の瓦1点である。陶磁器に関してはいずれも16世紀末~17世紀後半頃の遺物で、V層上面において検出した遺構から出土した遺物との間に時期差は見られない。出土した遺物から依存状態の良いもの数点図示した。また、V層上面検出のピット内より出土した遺物も参考遺物として図示している。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	92-4	F265 1層	陶器	折縁皿	上縁~ 体部	やや密	(11.3)	-	1.7	瀬戸・ 美濃	16c末~ 17c初頭	灰輪 内さざ文 (内さざ菊文)	I-10
2	92-5	F265 1層	磁器	皿	高台~ 体部	密	-	4.0	(2.9)	肥前	17c前半	染付草花文 貫入有 (初期伊万里)	J2



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
3	92-8	N1-W58	陶器	皿	高台部	粗	-	(5.7)	(0.8)	志野	16c末~ 17c初頭	志野輪	I-11
4	92-9	N1-W58	陶器	皿	高台	粗	-	7.05	1.55	織部	17c前半	青磁部 鉄絵	I-12
5	92-6	N1-W58	陶器	折縁皿	上縁~ 高台	やや粗	(10.2)	(4.2)	(2.1)	瀬戸・美濃	16c末~ 17c初頭	灰輪 貫入有 さざ文 (内さざ菊文)	I-13
6	92-10	N1-W59	陶器	香炉	体部~ 脚部	やや粗	-	(5.0)	(4.3)	河原	17c中頃	鉄輪 3足 回転糸切り筋有 口クロ:右	I-14
7	92-11	N1-W59	磁器	碗	上縁~ 体部	密	10.8	-	2.5	中国	16c末~ 17c前半	中国青花碗 染付有	J3
8	92-12	N1-W58	磁器	皿	高台~ 体部	密	-	(7.0)	(1.25)	肥前	17c前半	染付草花文 磨縁 (初期伊万里)	J4

第60図 ピット・V層出土遺物

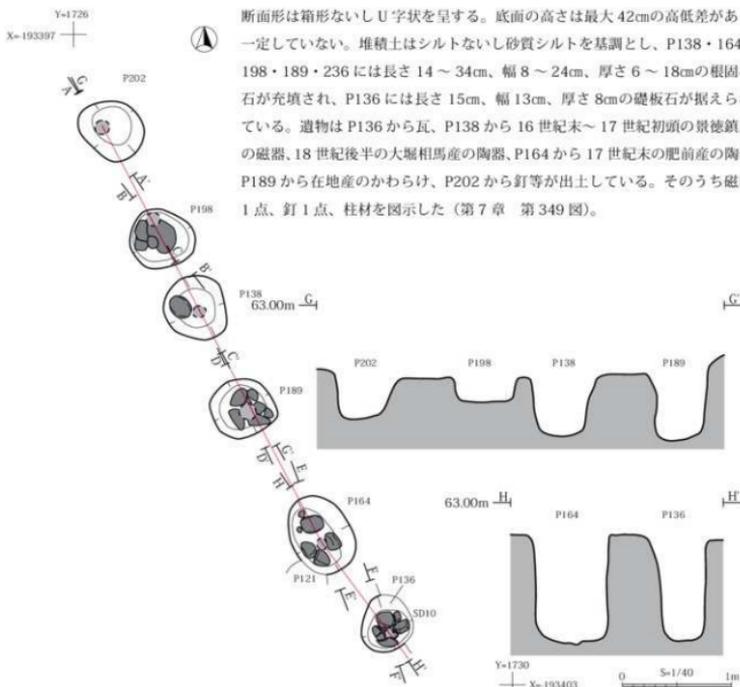
2 IV層上面検出遺構とIV層出土遺物

川内駅部1区においてIV層は、1区の石垣より西側と1区南東側部のごく一部において検出している。柱列跡1基、溝跡7条、土坑13基、性格不明遺構5基、ピット59基、階段状遺構1基の遺構を検出した。出土遺物から18世紀前半～19世紀前半頃にかけたの遺構と考えられる。

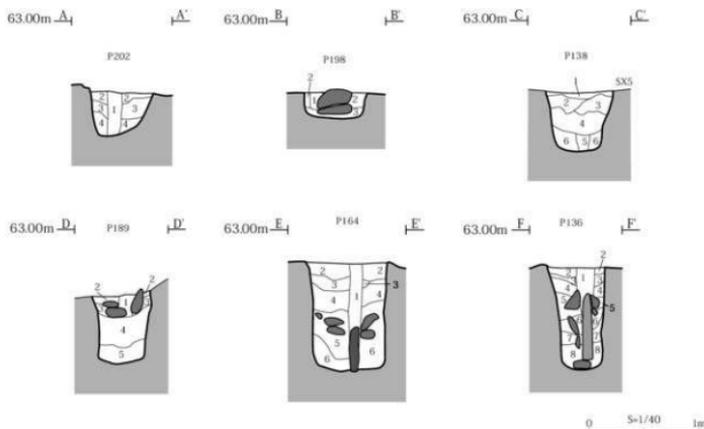
(1) 柱列跡

1) SA6 柱列跡 (第61・63～64図、図版22-1～23-5)

N1-W58～S1W58グリッドに位置し、P136、138、164、189、198、202の6基の柱穴から構成され、南東端部がやや屈曲する柱列跡である。北西側は上層遺構のSK3に遺構の上部を削平され、SD10、P211と重複しており、P211より新しく、SD10より古い。北側は階段状遺構手前で柱列は終り、南東側はSD10と重複するため、柱列跡は確認できなかったが、検出状況から調査区外へ延びると考えられる。総長は5.78mを測り、柱間の寸法は96cm(3尺1寸)の半間を基準とし、屈曲部に位置するP189とP164の柱間は1.4m(4尺6寸)を測る。柱痕径は8～16cmを測る。屈曲部より北西側の主軸方向はN-27°Eを示し、南東側はN-37°Eを示す。掘り方の規模は、長軸51～73cm、短軸48～56cm、深さ24～98cmを測る。平面形は不整な円形ないし楕円形を呈し、断面形は箱形ないしU字状を呈する。底面の高さは最大42cmの高低差があり一定していない。堆積土はシルトないし砂質シルトを基調とし、P138・164・198・189・236には長さ14～34cm、幅8～24cm、厚さ6～18cmの根固め石が充填され、P136には長さ15cm、幅13cm、厚さ8cmの礎板石が据えられている。遺物はP136から瓦、P138から16世紀末～17世紀初頭の景徳鎮産の磁器、18世紀後半の大塚相馬産の陶器、P164から17世紀末の肥前産の陶器、P189から在地産のかわらけ、P202から釘等が出土している。そのうち磁器1点、釘1点、柱材を図示した(第7章 第349図)。



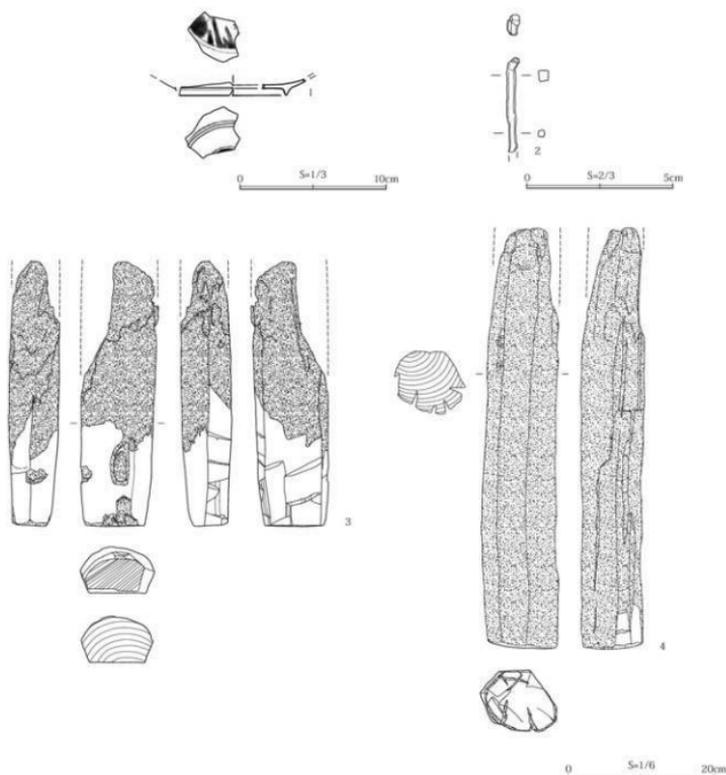
第61図 SA6 柱列跡平面図・断面図



遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
P202	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト少量 2.5Y2/1 黒色砂質シルト微量 酸化鉄分微量 柱面
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径3～5mmの白色粒少量 2.5Y6/3に おこす黄色シルト少量 酸化鉄分微量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径3～5mmの炭化物微量 径約3mm白色粒微量
	4	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	5Y2/1 黒色砂質シルト微量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト微量 径約1 cmの炭化物微量
P198	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR4/1 砂質シルト少量 酸化鉄分微量 柱面
	2	2.5Y4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト微量 2.5Y3/1 黒褐色シルト微量 酸化 鉄分微量 径約30cmの楕円石含む
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 径約20cmの楕円石あり
P138	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2～3mmの炭化物少量
	2	10YR4/2	暗灰黄色	シルト	あり	なし	2.5Y3/1 黒褐色シルト少量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄 分少量 径約5cmの楕円石含む
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄分少量 径約3cmの楕円石含む
	4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	なし	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
P189	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y3/1 黒褐色シルト微量
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/3におこす黄色シルト微量 酸化鉄分微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量 柱面
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
	5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量 径15～20cmの楕円石含む
P164	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量 径10～20cmの楕円石含む
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	底面に10YR5/3暗褐色に腐食した木材残存 柱面
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 径3～5mmの炭化物 楕円石
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト微量 酸化鉄分微量 径3～5mmの白色粒微 量 径3mm程度の炭化物微量
P136	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 径約15cmの楕円石を含む
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2～3mmの白色粒少量 径約20cmの楕円石含む
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 柱材・楕円石 含む 柱面
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト少量 径2～3mmの白色粒微量
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径3～5mmの白色粒微 量
	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
	7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 楕円石あり
	8	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量 径20～30cmの楕円石含む

第63図 SA6 柱列跡断面図

第1節 川内駅部1区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	93-1	P138 2層	磁器	皿	高台~ 体部	滑	-	(7.4)	(1.13)	岩穂跡	16c 末~ 17c 前	染付有	J-5
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号				
				長さ	幅	厚さ	重量						
2	93-2	P202 3層	金属製品	(3.3)	(0.39)	(0.4)	(1.13)	釘		N-6			
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号			
				長さ	幅	厚さ							
3	93-3	P164 1層	柱材	36.6	10.0	6.8	分割材	クワ	P164 断面6角形	L-19			
4	93-4	P136 1層	柱材	58.2	10.3	8.7	分割材	クワ	P136 断面6角形	L-20			

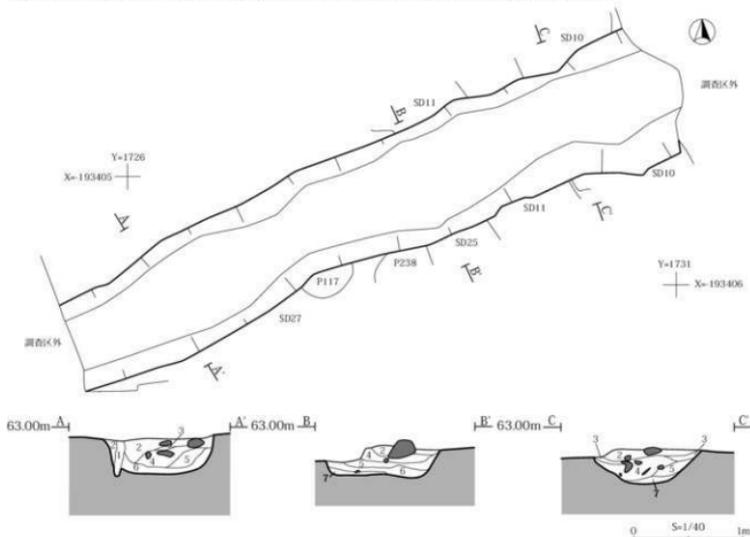
第64図 SA6柱列跡出土遺物

(2) 溝跡

1) SD7 溝跡 (第65・66図、図版24-1～5)

S1-W57～S1-W58グリッドに位置し、南西から北東方向に直線に走る素掘りの溝跡である。西側は調査区外へ延び、東側は近代の造成の際に削平されている。SD10・11・25・27、P117・238と重複しており、SD7が新しい。確認された規模は、長さ5.80m、上端幅0.9～1.05m、下端幅46～82cm、深さ27～44cmを測り、主軸方向はN-66°-Eを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は北東に向かってに緩やかに傾斜する。堆積土は7層からなり、1層は砂質シルトで根掘乱である。2層、3層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。4～7層は砂質シルトないし粘土質シルトで、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層と考えられる。遺物は底面直上より16世紀末～17世紀初頭の唐津産の皿、17世紀代の肥前産の磁器、飾り瓦等が出土し、そのうち、陶器3点、磁器2点、瓦2点を図示した。

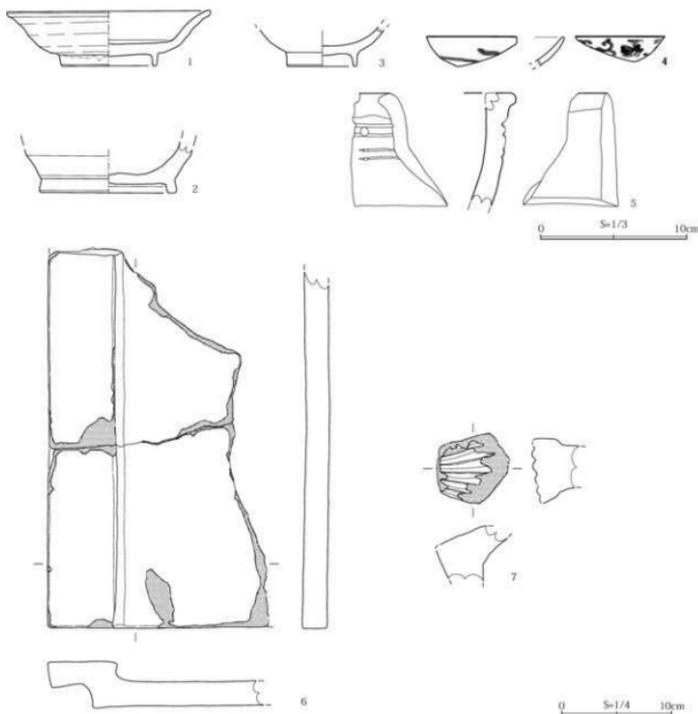
また、本遺構は、平成18年度調査のⅢ面上層で確認されたSD4とほぼ同位置において検出したが、検出レベルがSD4の検出レベルよりも44cm低く、溝底面のレベルも68cm低いことから別遺構であると判断した。本調査のⅢ面上層においては、近代の建物基礎により近世の整地面が大きく削平されていたため、SD4と同一と思われる溝跡は確認できなかった。また、平成18年度の調査で本遺構と繋がる溝は確認されていない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	根掘乱
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり
4	2.5Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト	なし	なし
5	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし
6	2.5Y43/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり
7	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり

第65図 SD7 溝跡平面図・断面図

第1節 川内駅部1区



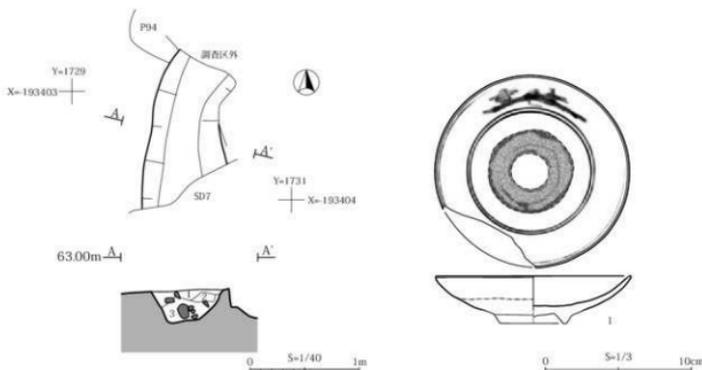
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	93-5	7層	陶器	皿	上縁～高台	やや粗	(14.5)	(6.55)	3.8	樹津	16c 末～17c 初	灰輪 漆喰ぎ面有	I-15
2	93-7	1層	陶器	鉢	高台～体部	やや粗	-	(9.4)	(3.55)	瀬口・栗森?	18c 代?	外面へラ削り 高台に重ね焼き 道有 見込みは伊行着 煎焼	I-16
3	93-6	7層	磁器	白磁皿	高台	密	-	4.8	(2.7)	肥前	17c 代		J-6
4	93-8	2層	磁器	皿	上縁～体部	密	-	-	(1.95)	肥前	17c 後半～18c 初葉	染付唐草文 蔓草	J-7
5	93-9	7層	瓦質土器	火入れ	口縁	粗	-	-	(6.5)	在地	近世		I-17

図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	93-11	1層	板瓦	(32.25)	(20.3)	(4.3)	横幅:(6.25) きき幅:(15.7) ココナデ 接合痕有	H-2
7	93-10	2層	舞り瓦	(6.5)	(6.6)	(5.5)	外面:へラ状工具による文様成形 内面:へラ状工具による成形 ナデ	H-3

第 66 図 SD7 溝跡出土遺物

2) SD9 溝跡 (第 67 図、図版 25-1～3)

S1-W58 グリッドに位置し、東側にやや弧を描いて南から北側方向に延びる素掘りの溝跡である。北側は近代の造成の際に削平され、北側は P94、南側は SD7 と重複しており、P94 より新しく、SD7 より古い。残存する規模は、長さ 1.40m、上端幅 62～65cm、下端幅 26～27cm、深さ 30cm を測り、主軸方向は N-12°-W を示す。断面形は逆台形を呈し、底面は北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は 3 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層は砂、3 層は砂質シルトで径 1～3cm の礫を多量に含んでいる。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 3 層から 17 世紀後半の波佐見産の皿、瓦片が出土している。そのうち磁器 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径 1～5cm の礫多量
2	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	なし	ややあり	酸化鉄分微量
3	10YR4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄分多量 径 1～3cm の礫多量 径約 10cm の礫微量

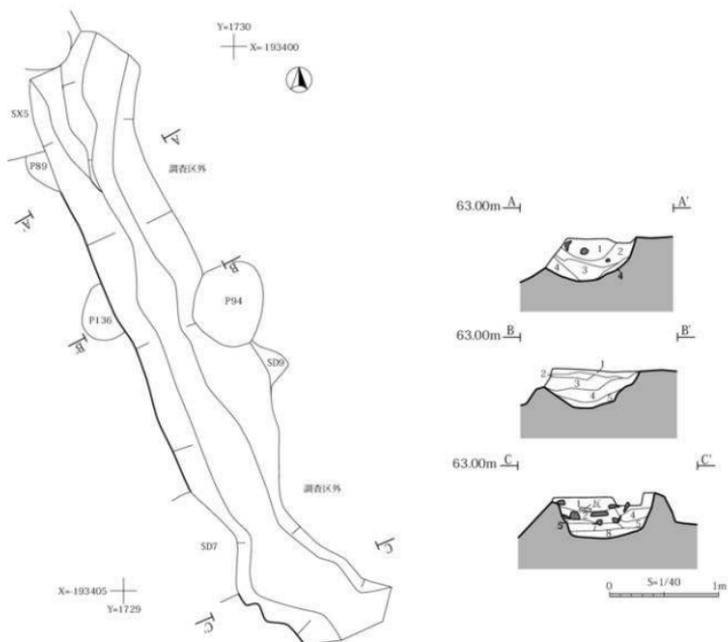
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	94-1	3層	磁器	皿	1.5段～高台	密	13.4	4.6	3.3	波佐見	17c 後半	染付山水文? 蛇ノ目輪割ぎヘラケズリ	J8

第 67 図 SD9 溝跡平面図・断面図・出土遺物

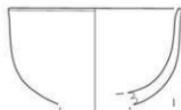
3) SD10 溝跡 (第 68・69 図、図版 25-4～7)

S1-W57～S1-W58 グリッドに位置し、両端部が東側にやや弧を描いて南東から北東方向に延びる素掘りの溝跡である。北側と東側は近代の造成の際に削平され、南側は調査区外へと延びる。SD7・9、P89・93・94、SX5 と重複しており、P93 より新しく、その他の遺構より古い。残存する規模は、長さ 5.98m、上端幅 0.5～1m、下端幅 12.8～74cm、深さ 33～43cm を測り、主軸方向は N-26°-W を示す。断面形は U 字状ないし逆台形を呈する。底面は北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は 8 層からなり、1～4 層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。5～8 層は粘土質シルトで、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は 1 層から 18 世紀後半の波佐見産の磁器、3 層から 18 世紀後半の肥前産の磁器、6 層から 17 世紀末の肥前産の陶器等が出土し、そのうち、陶器 2 点、磁器 4 点、土師質土器 1 点、瓦 1 点を図示した。

第1節 川内駅部1区

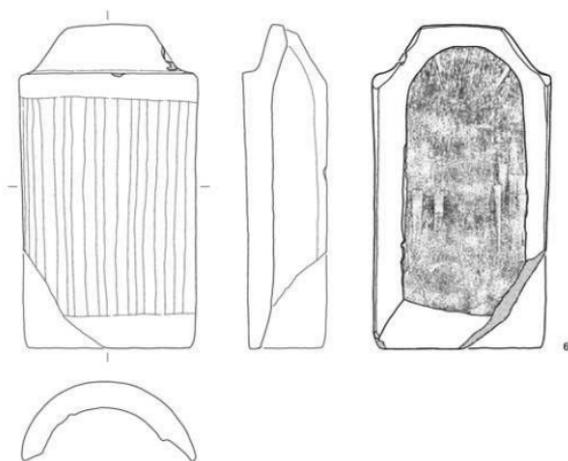
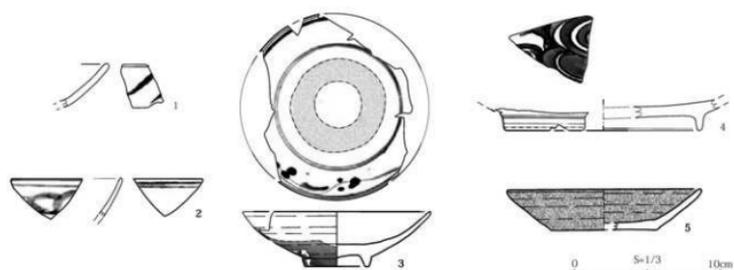


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径5～10mmの礫少量 瓦片微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径5～20mmの礫多量 酸化鉄分少量
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/4 に 混 黄色砂少量 酸化鉄分微量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y6/4 オリーブ色中粒砂微量 径3～5mmの灰化物微量
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄分微量 灰化物微量
6	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	2.5Y6/3 に 混 黄色砂質シルトを帯状に含む 2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂微量 酸化鉄分微量
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	なし	2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂多量 酸化鉄分微量 径約5mmの礫微量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	94-2	6層	陶器	碗	口縁～体部	やや粗	11.9	-	(6.62)	肥前	17c 末	買入有	I-18
2	94-3	1層	陶器	磁鉢	口縁部	やや粗	(27.0)	-	(5.3)	岸家	17c	灰輪 鉄輪 榑目1条7本	I-19

第68図 SD10 溝跡平面図・断面図・出土遺物 (1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	94-4	1層	陶器	皿	口縁部	やや密	-	-	13.01	唐津	16c 末~17c 初	鉄絵	I-20
2	94-5	1層一括	磁器	碗	口縁部	密	(11.6)	-	2.7	不明	19c	染付 二重開線	J-9
3	94-6	1層	磁器	皿	口縁~高台	やや密	12.95	4.40	3.8	波佐見	18c 後半	染付草花文 蛇の目輪測ぎ	J-10
4	94-7	3層	磁器	皿	体部~高台	密	-	(13.5)	(2.1)	肥前	18c	染付龍文? 開線 二重開線	J-11
5	94-8	1層一括	土師質土器	かわらけ	口縁~底部	やや粗	(13.25)	(7.3)	2.85	在地	近世	ロクロナデ 底部ヘラナデ? ロクロ: 左	I-21
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
6	94-9	2層	丸瓦	29.9	16.3	7.3	瓦幅: 7.7 深幅: (7.5) 玉縁長: 4.5 斜長: 25.5 外面: ヨコナデヘラケズリ 内面: 型押し成形 コピキ B 布目圧痕ヘラ状工具による削り痕有?	F-1					

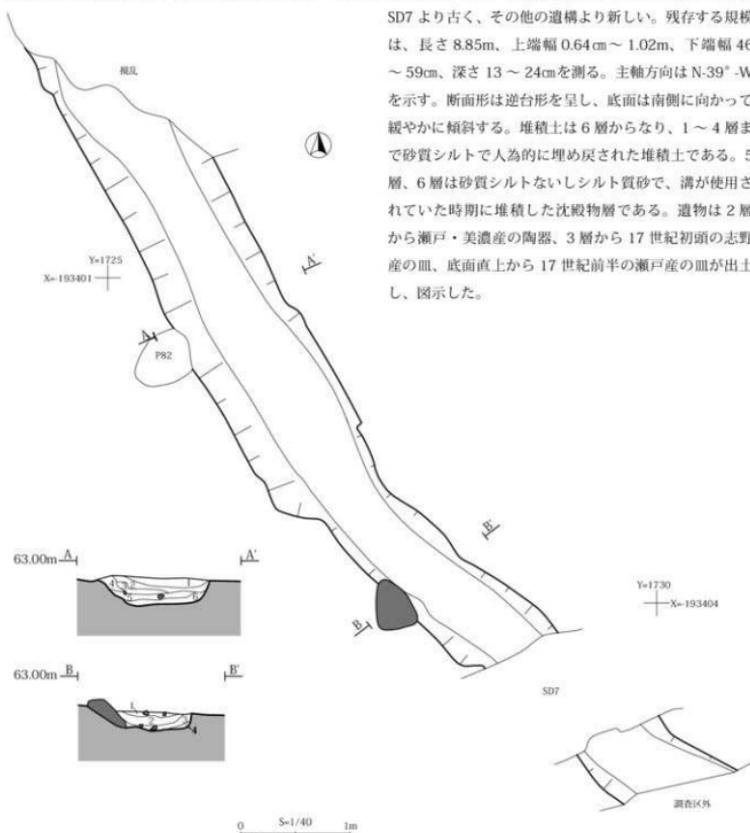
第69図 SD10 溝跡出土遺物 (2)

第1節 川内駅部1区

4) SD11 溝跡 (第70・71図、図版26-1～5)

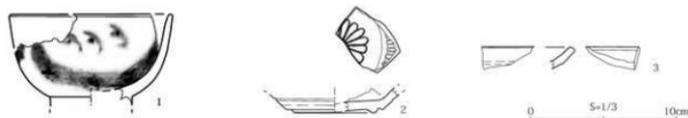
N1-W58～S1-W58 グリッドに位置し、東側にやや弧を描きながら北西から南東方向に走る素掘りの溝跡である。北側は近代の擾乱に削平され、南側は調査区外へと延びる。南側がSD7、中央付近SK20、P81と重複しており、

SD7より古く、その他の遺構より新しい。残存する規模は、長さ8.85m、上端幅0.64cm～1.02m、下端幅46～59cm、深さ13～24cmを測る。主軸方向はN-39°-Wを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は6層からなり、1～4層まで砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。5層、6層は砂質シルトないしシルト質砂で、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は2層から瀬戸・美濃産の陶器、3層から17世紀初頭の志野産の皿、底面直上から17世紀前半の瀬戸産の皿が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 径1～2mmの礫混量
2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト多量 酸化鉄分少量 径1～2mmの礫混量
3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径3～10mmの炭化物混量 径2mm程度の炭化物混量
4	5Y4/1 灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量
5	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/4 オリーブ色中粒砂多量 (一部分ミラ状の堆積) 酸化鉄分少量
6	2.5Y4/3 暗オリーブ色	シルト質砂	なし	ややあり	2.5Y4/3 暗オリーブ色砂質シルト少量 酸化鉄分少量

第70図 SD11 溝跡平面図・断面図

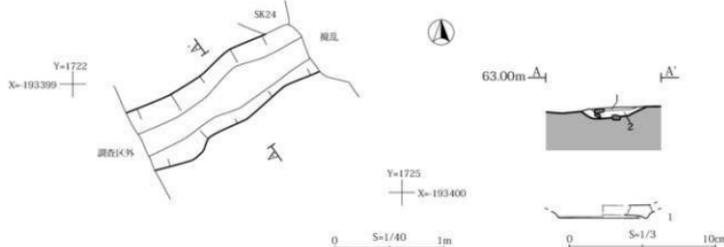


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	94-10	2層	陶器	碗	口縁～胴部	やや粗	(11.2)	-	(6.3)	瀬戸・美濃	近世	呉須鉄絵(鳥) 買入有	I-22
2	94-11	6層	陶器	皿	体部～胴部	やや密	-	(5.6)	(1.7)	瀬戸	17c前	緑釉 菊印文輪花皿	I-23
3	94-12	3層	陶器	皿	口縁～体部	やや粗	-	-	1.5	志野	17c初	志野輪	I-24

第71図 SD11 溝跡出土遺物

5) SD12 溝跡 (第72図、図版27-1・2)

N1-W58グリッドに位置し、南西から北東方向に伸びる素掘りの溝跡である。東側は近代の擾乱に削平され、北側はSK24と重複し、SD12が古い。西側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ1.77m、上端幅52～60cm、下端幅19.6～32cm、深さ11cmを測り、主軸方向はN-60°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層共に砂質シルトである。遺物は17世紀初頭の志野産の皿、在地産のかかわり、瓦等が出土している。そのうち陶器1点を図示した



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2S5Y/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～10cmの硬塊量 径2～5mmの白色粒微量 酸化鉄分微量 径約5mmの炭化物粒微量
2	2S5Y/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	径4～6cmの硬塊量 径1～10mmの白色粒微量

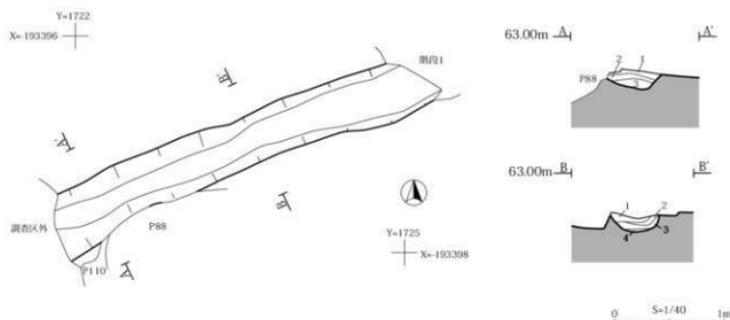
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	95-1	2層	陶器	皿	底部	粗	-	(6.2)	(0.9)	志野	17c初	志野輪 買入有	I-25

第72図 SD12 溝跡平面図・断面図・出土遺物

6) SD36 溝跡 (第73図、図版27-3～5)

N1-W58グリッドに位置し、南西から北東方向に直線に走る素掘りの溝跡である。北東側は階段状遺構、南側はP88、110と重複し、P110より新しく、その他の遺構より古い。西側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ3.91m、上端幅44～54cm、下端幅16～38cm、深さ15～22cmを測り、主軸方向はN-68°-Wを示す。断面形はU字状ないし逆台形を呈する。堆積土は4層からなり1層は砂質シルト、2層～4層はシルト質砂である。遺物は出土していない。

第1節 川内駅部1区



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	腐化鉄分少量 2.5Y5/4 黄褐色中粒砂微量 径2～3mmの白色粘粒量 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトを帯びに含む
2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト微量 腐化鉄分微量 Aセクション3層に対応
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト質砂	なし	ややあり	2.5Y4/1 黄褐色シルト質砂多量 径2～3mmの白色粘粒微量
4	2.5Y5/3	黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径5～10mmの5Y6/4に近い黄褐色シルト質砂ブロック微量

第73図 SD36溝跡平面図・断面図

7) SD40 溝跡・SX35 石組拵 (第74図、図版27-6～28-3)

N1-W58グリッドに位置する。SD40、SX35と別々の遺構番号を付しているが、SD40内に堆積する堆積土がSX35の遺構内に入り込み、同時期に埋め戻されたと考えられることから、溝跡とそれに付属する石組拵と考えられる遺構である。また、調査においてSD40以外にSX35に接続する溝跡は確認できなかった。

〈SD40〉 溝跡

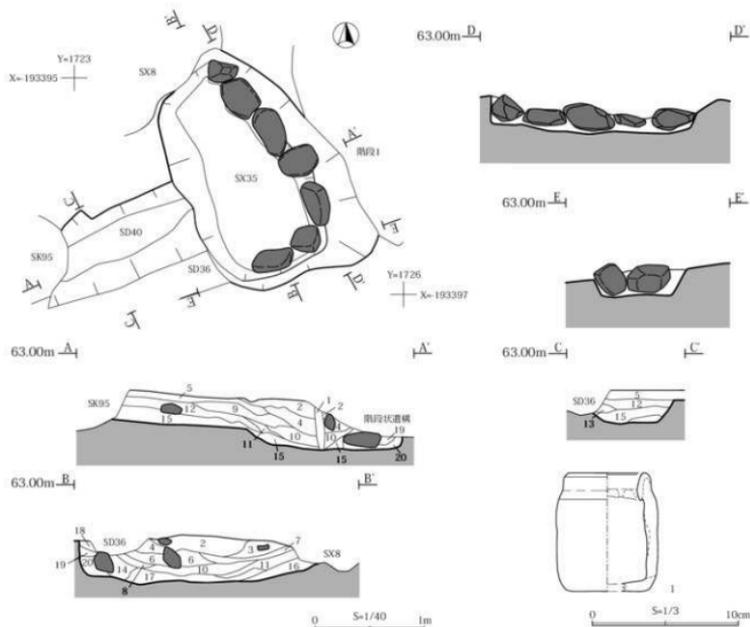
南西から北東方向に直線的に伸び、北東側がSX35(石組拵)と接続する素掘りの溝跡である。南側はSD36、西側はSK95と重複しており、SD40が古い。残存する規模は、長さ1.50m、上端幅71.6cm、下端幅14～34cm、深さ24cmを測り、主軸方向はN-68°-Eを示す。断面形は逆台形を呈し、底面はSX35(石組拵)に向かって緩やかに傾斜する。

〈SX35〉 石組拵

南西側がSD40と接続し、南側と東側の底面に、長さ28～50cm、幅18～23cm、厚さ10～22cmの自然石が配置された石組拵である。当初、北側に隣接するSX8と石組拵が並列するため、同一遺構の可能性が考えられたが、本遺構の掘り方がSX8の掘り方と重複し、SX35がSX8より古いことが確認でき、さらに底面の高さもSX8より約24cm低いことから、別遺構であると判断した。残存する石組みの規模は、側壁の内法が長軸2m、短軸92cm、深さ42cmを測る。掘り方の規模は、長軸2.35m、短軸1.49mを測る。平面形は不整形で、主軸方向はN-32°-Wを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

〈堆積土〉

堆積土は17層からなり、1～15層は砂質シルトないしシルト質砂を基調とする堆積で、人為的に埋め戻された堆積土である。16層、17層はシルト質砂ないし粘土質シルトで、溝と石組拵が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は5層から在地産の播鉢、7層から16世紀末～17世紀初頭の唐津産の陶器、10～16層で在地産の焼塩壺が出土している。そのうち焼塩壺1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量 粘
2	2.5Y4/2 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト少量 径2~3mmの白色粒少量 径3~5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
3	5 Y 3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	なし	あり	径3~5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
4	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径2~3mmの白色粒少量 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト微量 酸化鉄分微量
5	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	径1~3mmの白色粒少量 径0.3~1cmの礫少量 酸化鉄分微量
6	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	あり	径3~5mmの炭化物少量 2.5Y6/2 灰黄色シルト微量 径約24cmの礫含む
7	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径2~3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
8	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト質砂	なし	ややあり	酸化鉄分微量
9	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径1~2mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
10	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト微量 径1~3mmの白色粒微量 酸化鉄分微量
11	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 径約3cmの礫含む
12	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 2.5Y6/3 近い黄色シルト微量 径3~5mmの炭化物微量
13	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
14	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト質砂	なし	ややあり	酸化鉄分極微量
15	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径約20cmの礫含む 酸化鉄分微量
16	2.5T3/1 黒褐色	シルト質砂	ややあり	なし	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径3~5mmの炭化物微量
17	2.5Y4/1 暗灰黄色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/2 灰黄色シルト少量 径3~5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
18	10YR4/3 近い黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト微量
19	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト微量
20	10YR4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分多量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	95-2	10 層	土師器 土甕	焼酎甕	口縁~ 底部	粗	(5.8)	5.7	8.27	在地	近世	ヨコナテ 前田南有	1.26

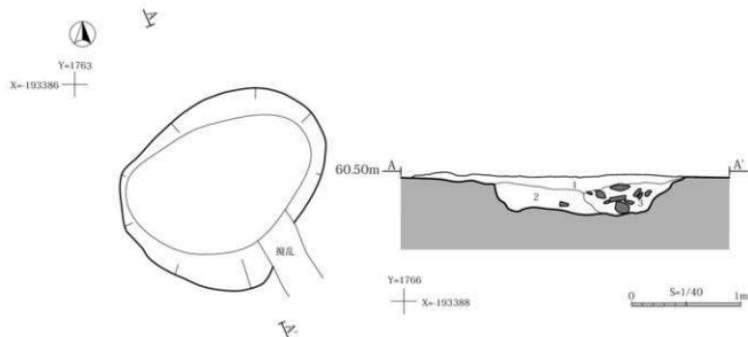
第74図 SD40 溝跡・SX35 石組樹平面図・断面図・立面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

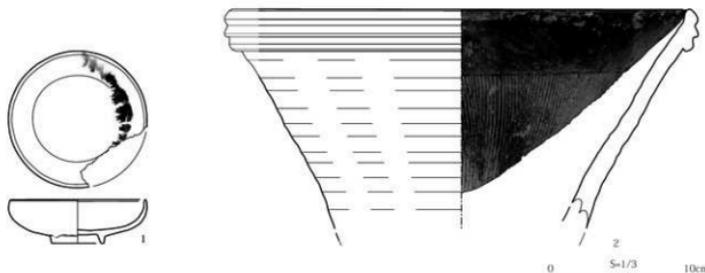
(3) 土坑

1) SK11 土坑 (第75～77図、図版28-4～29-2)

N2-W54 グリッドに位置し、東側を一部掘乱に削平される。規模は、長軸 1.98m、短軸 1.63m、深さ 34cmを測る。平面形は主軸方向 N-47° - E を示す不整な楕円形で、断面形は歪な逆台形を呈する。底面にはやや起伏が見られる。堆積土は3層からなり、1層は黒褐色砂質シルトに炭化物を少量含むⅢ層整地土相当の堆積土である。2層はシルトで径6～18cm程度の礫を少量含んでいる。3層はシルトである。遺物は、1層から18世紀後半の肥前産の磁器、19世紀前葉頃の大塚相馬産の陶器、19世紀代の堤産の焙烙・播鉢、在地産の灯明皿・瓦質の蚊遣り等が出土している。そのうち陶器8点、磁器3点、土師質土器4点、瓦質土器1点、土製品1点、金属製品1点を図示した。

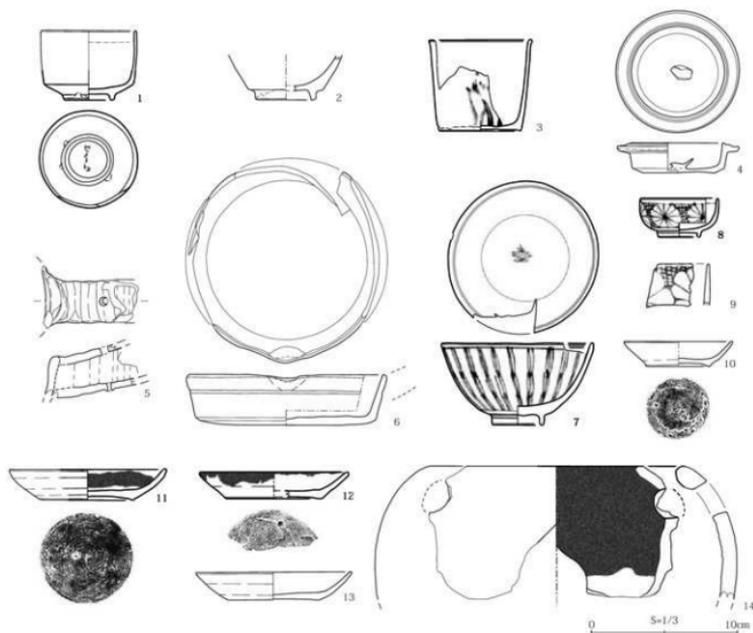


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径0.3～1cm炭化物少量 径1～5cmの礫微量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	径6～18cmの礫少量 径3mm～1cmの炭化物微量 2.5Y7/6明黄褐色シルト微量
3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	2.5Y7/6明黄褐色シルト微量 径1～8cmの礫微量 径3～5mmの炭化物微量



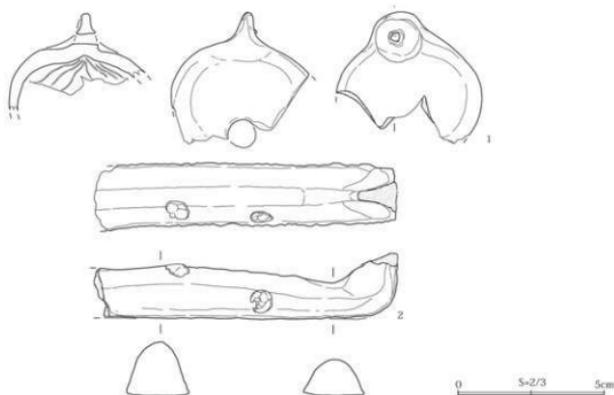
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	95-3	1層	陶器	皿	口縁～高台	密	9.4	3.6	3.05	大塚相馬	19c 前半	白磁輪 胎輪流し	1-27
2	95-4	1層	陶器	播鉢	口縁～体部	粗	(32.5)	-	(15.2)	堤	19c	鉄輪 脚11条 13本	1-28

第75図 SK11 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	95-5	1層	陶器	両唇	口縁～高台	密	6.6	3.5	4.8	大塚相馬	18c 後半～19c 初	灰輪 高台内面書「セイワ」	I-29
2	95-6	1層	陶器	碗	体部～高台	密	-	(4.2)	(3.1)	大塚相馬	18c 後半	白瀬輪	I-30
3	95-7	3層	陶器	蕎麦搦口	口縁～高台	密	7.05	5.65	6.3	大塚相馬	18c 後半～19c 初	灰輪 鉄輪有 草花文	I-31
4	95-10	1層	陶器	蓋	口縁～底部	やや密	6.3	4.9	2.05	不明	19c 前半	鉄輪	I-32
5	95-11	1層	軟質陶輪肉器	焙烙	把手	やや粗	-	-	-	堀	19c		I-33
6	95-12	1層	軟質陶輪肉器	焙烙	口縁～高台	やや粗	13.7	12.4	3.5	堀	19c 前半		I-34
7	95-14	1層	磁器	碗	口縁～高台	密	(10.4)	3.6	5.6	肥前	19c	見込み虫文様 模接面有	J-12
8	95-8	1層	磁器	鉢	口縁～高台	密	5.4	2.9	2.7	肥前	18c 末～19c 初	染付菊花文 化粧具として可能性	J-13
9	95-9	1層	磁器	両唇	口縁部	-	-	-	(3.0)	肥前	18c 後半～19c 初	染付菊花米罌文	J-14
10	95-13	1層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	やや密	(7.5)	4.4	1.7	在地	近世	ロクロ：左 回転糸切面有	I-35
11	96-1	1層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粗	10.8	6.3	2.1	在地	18c 後半	ロクロ：左 回転糸切面有 口縁内部面付着 ヨコナデ	I-36
12	96-2	1層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(10.2)	(6.7)	1.85	在地	近世	ロクロナデ 面付付着 回転糸切面有	I-37
13	96-3	1層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	密	10.7	6.3	1.9	在地	近世	ロクロ：右 ミガサキ ヨコナデ	I-38
14	96-4	1層	瓦質土器	炊違り	口縁	粗	(18.3)	-	(9.2)	在地	近世	ミガサキ 内面：襷付着有	I-39

第76図 SK11土坑出土遺物(2)

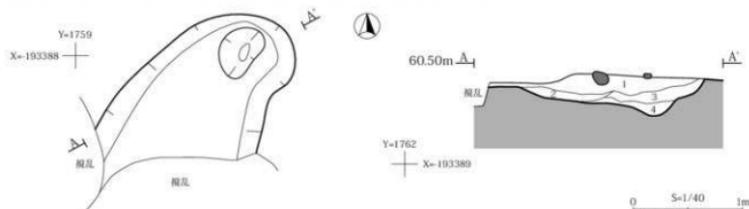


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			重量
1	96-5	1層	土製品	土鈴	5.0	5.25	(30.1)	土鈴 型押し後ナデ 胎面直有	P-1
2	96-6	2層	金属製品	(10.4)	7.15	1.85	(157.4)	不明	N-7

第77図 SK11土坑出土遺物(3)

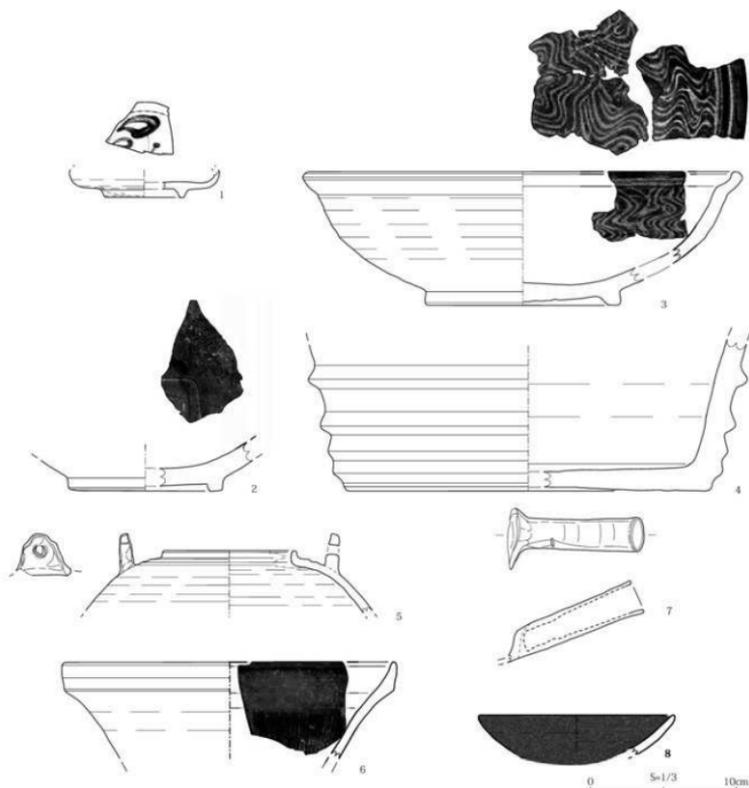
2) SK12土坑(第78・79図、図版29-3・4)

N2-W55～N2-W54グリッドに位置し、南側と北側は近代の掘込に削平され、北側はSK39と重複し、SK12が新しい。残存する規模は、長軸1.67m、短軸1.31m、深さ35cmを測る。平面形は不整な楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、北側端部には浅い落ち込みがあり段状を呈する。堆積土は4層からなり、1層はシルトで径5～15cm程度の礫を含み、2層～4層もシルトである。遺物は1層から17世紀代の岸産産の播鉢、18世紀前半の唐津産の鉢、19世紀前半の大塚相馬産の陶器、堤産の焙烙、土鈴、不明鉄製品等が出土している。そのうち陶器7点、土師質土器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	礫化鉄分多量 径5～15cmの礫多量
2	2.5Y6/3 におい・黄白色	シルト	なし	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 礫化鉄分少量
3	2.5B6/4 におい・黄白色	シルト	なし	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト多量 礫化鉄分多量

第78図 SK12土坑平面図・断面図



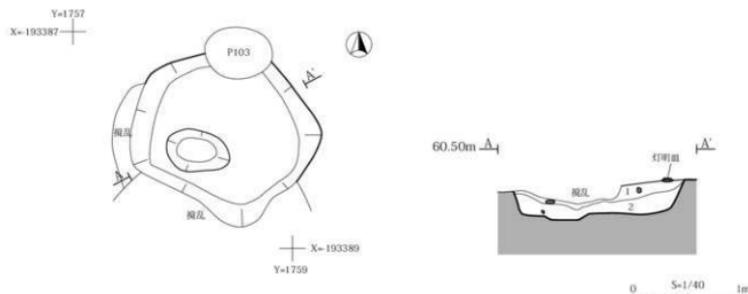
図版 番号	写真図版 番 号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録 番号		
						口径	底径					器高	
1	96-7	1層	陶器	皿	高台～ 体部	やや密	-	(5.5)	(1.9)	大塚粗馬	19c前	灰釉 鉄絵 目直1つ有	I-40
2	96-8	1層	陶器	鉢?	高台部	やや粗	-	(10.55)	(3.4)	肥前	18c以降	灰釉に網毛目文 目直1有	I-41
3	96-9	1層	陶器	鉢	口縁～ 高台	粗	(30.2)	(13.4)	(9.25)	唐津	17c後～18c 前	灰釉 網毛目(灰釉 白化粧) 胎土目1つ有	I-42
4	96-10	1層	陶器	切立鉢	体部～ 底部	やや粗	-	(24.8)	(10.4)	在地	18c～19c	胎内(村田調)灰釉系 ロク口:左	I-43
5	96-12	1層	陶器	土瓶	口縁	やや粗	(9.20)	-	(5.4)	在地	19c	鉄釉 軸ヌグイ	I-44
6	96-13	1層	陶器	磁鉢	口縁～ 体部	やや密	(23.0)	-	(6.7)	在地? 塚堂?	17c初?	胎土(里) 鉄釉 軸1条8本 ロク口:右	I-45
7	96-11	1層	軟質磁 軸陶器	磁烙		やや粗	-	-	(5.8)	埴	19c	透明釉	I-46
8	96-14	1層	土師瓦 土器	灯明皿	口縁～ 体部	やや粗	(13.35)	-	(2.7)	在地	近世	ロクロナデ ロク口:左	I-47

第79図 SK12土坑出土遺物

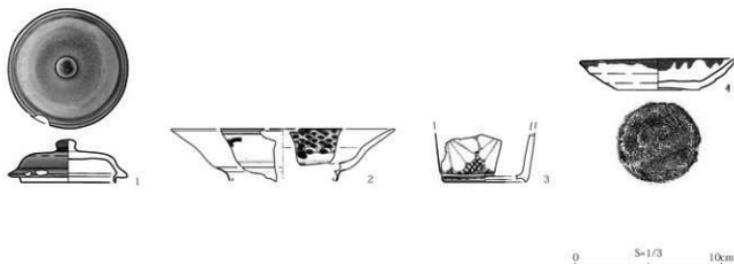
第1節 川内駅部1区

3) SK15 土坑 (第80図、図版29・5・6)

N2-W 55 グリッドに位置しており、南側を近代の掘込に削平され、北側は P103 と重複し、SK15 が古い。規模は、長軸 1.66 m、短軸 1.53 m、深さ 36 cm を測り、主軸方向は N-1°-E を示す。平面形は不整な円形で、断面形は逆台形を呈する。底面は南西側にビット状の浅い落ち込みが見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は 2 層からなり、1 層は粘土質シルト、2 層が VI 層由来の黄褐色シルトである。遺物は 1 層から、16 世紀末～17 世紀初頭の中国産の皿、18 世紀後半の肥前産の磁器、大塚相馬産の陶器、18 世紀代の在産の灯明皿が出土している。そのうち陶器 1 点、磁器 2 点、土師質土器 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色土ブロック多量 径 1～5cmの礫含む
2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	あり	あり	クワイ化 シルト質粘土層量

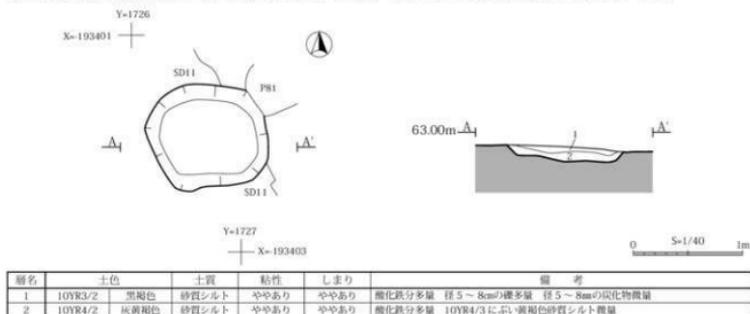


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	97-1	1層	陶器	蓋	つまみ～縁部	やや密	6.5	-	2.95	大塚相馬	18c 後半	灰釉 貫入有	J-48
2	97-2	1層	磁器	皿	口縁～体部	密	(15.3)	-	(3.6)	中国	16c 末～17 層	青花皿 染付 青海波文 二重圈	J-15
3	97-3	1層	磁器	蕎麦箸 口	高台～体部	密	-	(5.7)	(3.4)	肥前	18c 後	染付菊花・水霞文 照線	J-16
4	97-4	1層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	10.65	5.7	2.15	在産	18c 代	16c 末切歯有 ヨコナデ 口縁部 油懸付有	J-49

第80図 SK15 土坑平面図・断面図・出土遺物

4) SK20 土坑 (第 81 図、図版 29-7・8)

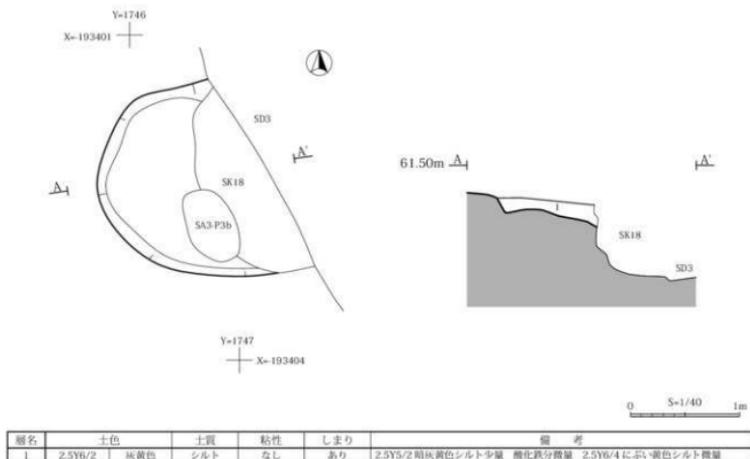
S1-W58 グリッドに位置し、SD11、P81 と重複しており、SD11 より新しく、P81 より古い。規模は、長軸 1.08 m、短軸 98cm、深さ 14cm を測り、主軸方向は N-83°-E を示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状を呈する。底面は緩やかに東側に傾斜する。堆積土は 2 層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



第 81 図 SK20 土坑平面図・断面図

5) SK21 土坑 (第 82 図、図版 30-1)

S1-W56 グリッドに位置し、東側は上層遺構の SA3-P3b、SD3、SK18 に削平されている。残存する規模は、長軸 1.88m、短軸 90cm、深さ 22cm を測り、主軸方向は N-61°-E を示す。平面形は楕円形、断面形は逆台形と考えられ、堆積土は単層の灰黄色シルトである。遺物は出土していない。

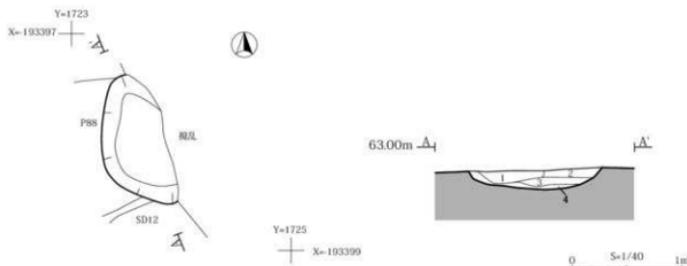


第 82 図 SK21 土坑平面図・断面図

第1節 川内駅部1区

6) SK24 土坑 (第83図、図版30-2～4)

S1-W58 グリッドに位置し、東側は近代の攪乱に削平され、西側はSD12、P88と重複し、SK24が新しい。残存する規模は、長軸1.26m、短軸59cm、深さ20cmを測る。平面形は不整な楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。堆積土は4層からなり、砂質シルトである。遺物は1層から在地産の播磨が1点出土しているが、細片のため図示していない。

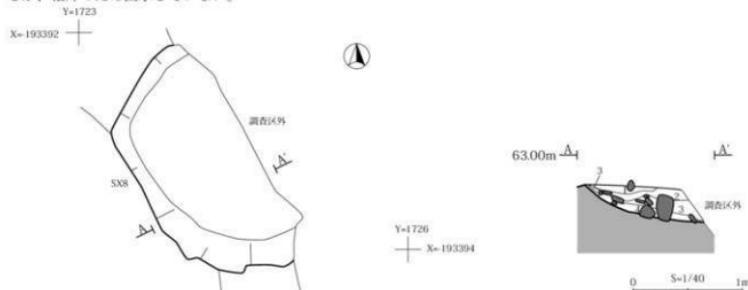


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量 2.5Y7/2 灰黄色シルト微量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	10YR5/1 灰黄色シルト少量 酸化鉄分少量
3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト微量 径3～5mmの炭化物微量
4	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト多量 酸化鉄分微量

第83図 SK24 土坑平面図・断面図

7) SK30 土坑 (第84図、図版30-5・6)

N1-W58 グリッドに位置しており、東側は近代の造成の際に削平され、西側はSX8と重複しており、SK30が新しい。残存する規模は、長軸2.29m、短軸1.08m、深さ32cmを測る。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状と考えられる。底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は4層からなり、1層、2層はシルト質砂、3層、4層は砂質シルトで、径5～25cmの礫を多量に含んでいる。遺物は3層から19世紀代の瀬戸・美濃の磁器が出土しているが、細片のため図示していない。

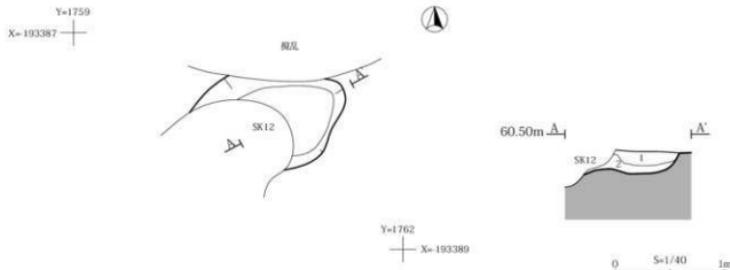


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4 暗灰黄色	シルト質砂	あり	なし	
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト質砂	なし	あり	径1～2cmの礫微量 径約5mmの白色粒微量 径2～3mmの炭化物輪微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径5～25cmの礫多量 酸化鉄分少量
4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量

第84図 SK30 土坑平面図・断面図

8) SK39 土坑 (第85図、図版30-7・8)

N1-W54 グリッドに位置し、北側は近代の擾乱に削平され、南側はSK12と重複し、SK39が古い。残存する規模は、長軸84cm、短軸59cm、深さ20cmを測る。平面形は不整な楕円形、断面形は皿状と考えられる。底面はやや起伏があり、南西側は緩やかに傾斜している。堆積土は2層からなり、1層は砂質シルト、2層はシルトである。遺物は1層から18世紀後半以降の肥前産の磁器、19世紀代の在地産の陶器が出土しているが、細片のため図示していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	径3~5mmの灰化物少量 酸化鉄分少量

第85図 SK39 土坑平面図・断面図

9) SK47 土坑 (第86図、図版31-1・2)

S1-W58 グリッドに位置し、規模は、長軸77cm、短軸70cm、深さ7cmを測り、主軸方向はN-28°-Wを示す。平面形は不整な円形で、断面形は浅い皿状を呈する。底面は南側に緩やかに傾斜し、南西側に浅い落ち込みが見られる。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は出土していない。



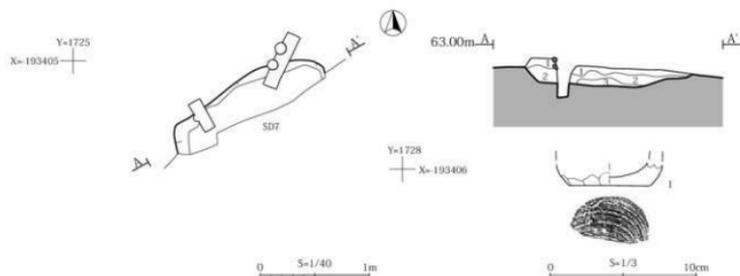
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/4 に近い黄灰色砂質シルト微量 酸化鉄分微量 径5~8mmの灰化物微量

第86図 SK47 土坑平面図・断面図

10) SK53 土坑 (第87図、図版31-3・4)

S1-W58 グリッドに位置し、南西側を近代の擾乱に削平され、南側はSD7と重複し、SK53が古い。残存する規模は、長軸1.54m、短軸40cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形状は南西側に緩やかに立ち上がり、北東側は段状を呈する。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、砂質シルトである。遺物は3層から17世紀代の在地産の焼塩壺が出土し、図示した。

第1節 川内駅部1区



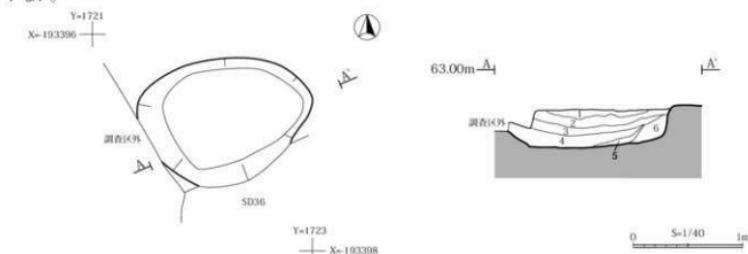
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	オリブ褐色 砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径3~8mmの炭化物微量 径3~5mmの遊戯鏡
2	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~8mmの炭化物少量 酸化鉄分微量
2	5Y3/1	オリブ黒 砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)		産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径				
1	9F-5	3層	土加瓦 土器	焼磁産	底部	やや粗	(5.6)	(1.5)	在地	17c代	へう調整 回転車切り痕有	1-50

第87図 SK53土坑平面図・断面図・出土遺物

11) SK95土坑(第88図、図版31-5・6)

N1-W58グリッドに位置しており、南西側は調査区外へと延び、南側はSD36と重複しており、SK95が古い。残存する規模は、長軸1.59m、短軸1.23m、深さ35cmを測り、主軸方向はN-88-Eを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形と考えられる。底面は平坦である。堆積土は6層からなり、2層が粘土である他は砂質シルトである。遺物は18世紀代の肥前産の磁器、在地産のかわらけ、丸瓦が2点出土している。細片のため図示していない。



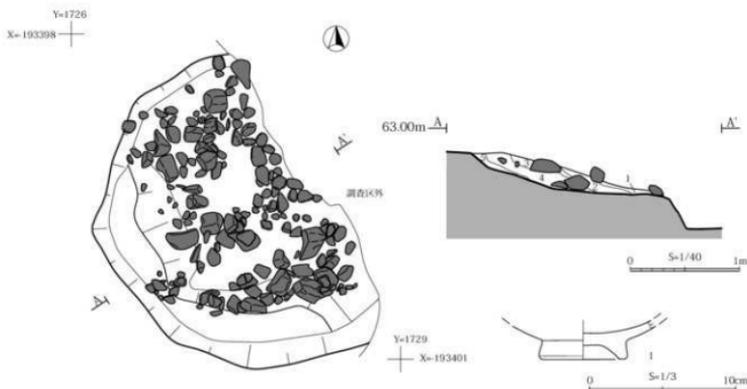
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	オリブ褐色 砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径2~3mmの白色粒少量 酸化鉄分少量 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量
2	2.5Y6/4	にがい黄褐色 粘土	あり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト微量
3	2.5Y4/3	オリブ褐色 砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径2~3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
4	2.5Y4/3	オリブ褐色 砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径2~3mmの白色粒微量
5	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分極微量
6	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分微量 径3~5mmの炭化物微量

第88図 SK95土坑平面図・断面図

(4) 性格不明遺構

1) SX5 性格不明遺構 (第89図、図版31-7～32-3)

N1-W5～S1-W58 グリッドに位置し、東側は近代の造成の際に削平されている。残存する規模は、長軸 3.02m、短軸 1.99m、深さ 32cm を測る。断面形は皿状と考えられる。底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は 4 層からなり、砂質シルトで、径 3～28cm 程度の打ち砕かれた礫や、扁平な自然石が多量に含まれている。堆積状況から、礫を廃棄した廃棄土坑の可能性が考えられる。遺物は 17 世紀後半の唐津産の碗、在地産の瓦片が出土している。そのうち陶器を 1 点図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径 3～16cm の礫少量 礫化鉄分微量
2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径 3～14cm の礫少量
3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径約 28cm の礫含む 礫化鉄分微量
4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径 6～24cm の礫含む
5	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	礫化鉄分微量

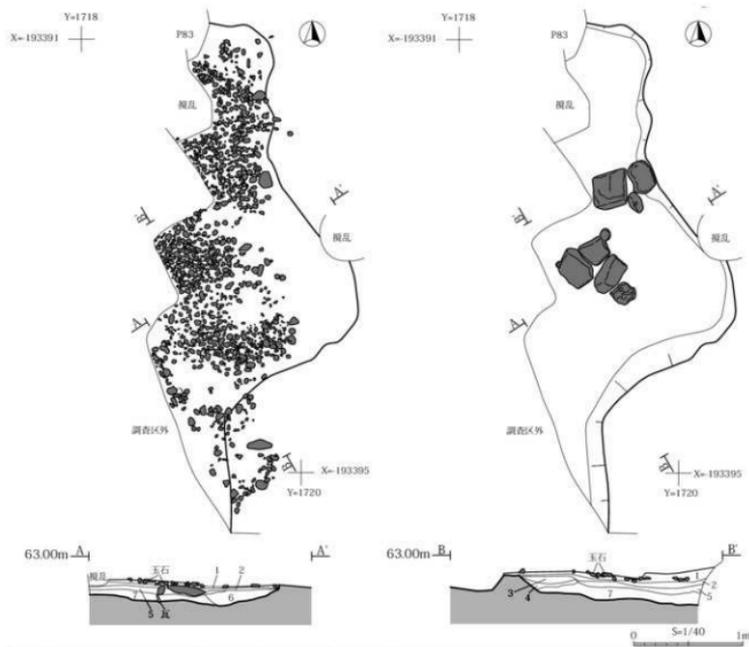
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	97-6	4層	陶器	碗	高台	やや粗い	6.05	(2.7)		唐津	16c末～17c初	長石軸	151

第89図 SX5 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

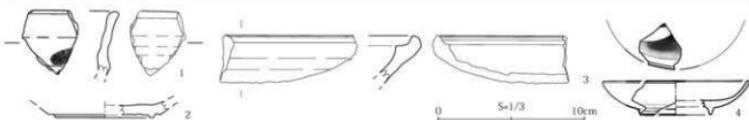
2) SX6 性格不明遺構 (第90図、図版32-4～33-2・34-1)

N1-W59～N1-W58 グリッドに位置しており、玉石が敷きつめられた石敷き遺構である。北側は近代の造成時に削平され、西側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸 3.10m、短軸 1.96m、深さ 36cm を測る。断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏があるものの平坦面を呈する。堆積土は 5 層からなり、1 層は 4～8cm 程度の玉石を含むシルト質砂、2・4・5 層は砂質シルトである。また、シルト質からなる 3 層には、長さ 20～38cm、幅 12～24cm、厚さ 6～12cm の扁平な自然礫が含まれている。検出状況からこの礫は、下層の地盤が緩い箇所に据えられた構架材の礫であると考えられる。遺物は玉石直上から 16 世紀中頃の瀬戸・美濃産の皿、17 世紀～18 世紀代の肥前産の皿、他に 1 層から在地産の播鉢等が出土している。そのうち陶器 3 点、磁器 1 点を図示した。

第1節 川内駅部1区



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/1	黄灰色シルト質砂	なし	あり	径4～8cmの玉石多量 径0.5～1cm炭化物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	なし	あり	径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
3	2.5Y7/4	浅黄色シルト質砂	あり	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分微量
4	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量
5	10YR4/2	灰黄褐色砂質シルト	あり	あり	酸化鉄分微量 炭化物多量径 径約40cmの燧含む
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色砂質シルト	あり	あり	径約5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色砂質シルト	ややあり	ややあり	径0.2～1cmの炭化物微量 10YR4/3に赤い黄褐色シルトを相混に含む

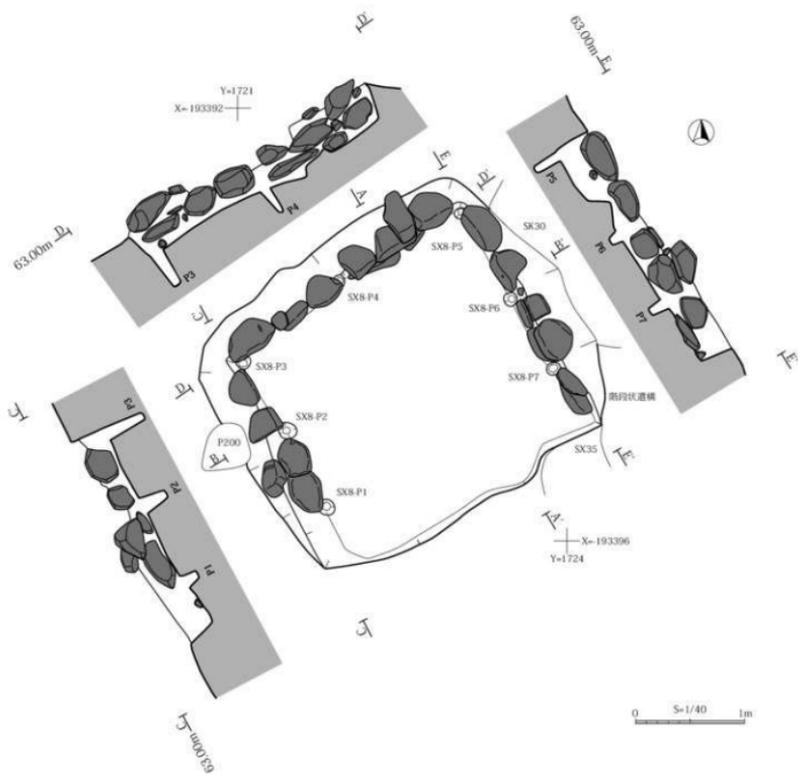


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		器高	産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径					
1	97.7	1層	陶器	碗?	口縁～体部	やや粗	-	-	4.5	志野	17c前半	玉石直上 志野輪 鉄胎有	I-52
2	97.8	1層	陶器	皿	高台部	やや粗	(6.8)	(1.15)	-	瀬戸・美濃	16c中	玉石直上 灰胎 貫入有 輪壳付	I-53
3	97.9	1層	陶器	楕鉢	口縁部	粗	-	-	(3.25)	在地	近世	鉄胎	I-54
4	97.10	1層	磁器	皿	口縁～高台	密	(10.0)	(4.95)	(2.4)	肥前	17c～18c	玉石直上 染付有	J-17

第90図 SX6 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

3) SX8 性格不明遺構 (第91・92図、図版33-3～34-5)

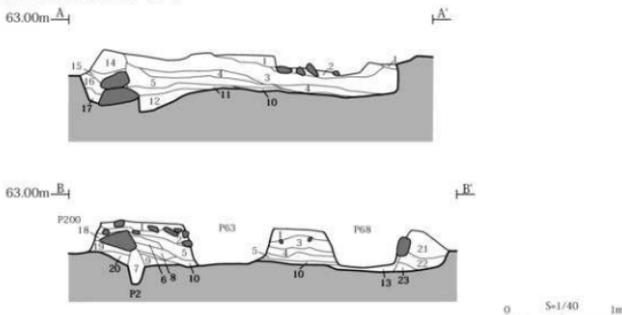
N1-W58 グリッドに位置する。長さ 15 ～ 42cm、幅 16 ～ 32cm、厚さ 10 ～ 24cm の自然石が 1 段から 3 段積み、コの字状に配置された石組柵状遺構である。上層遺構の SD4、P63・68・200 に削平され、北東側は SK30、南側は SX35 と重複しており、SX35 より新しく、SK30 より古い。本遺構に接続する溝跡は確認できなかった。石組みの規模は、側壁の内法が、長軸 2.48m、短軸 2.46m、深さ 26 ～ 41cm を測る。また、石と石の隙間の底面には径 12.4 ～ 16cm の杭が、0.72 ～ 1.2m の間隔で 7 本打ち込まれている。底面は南側に緩やかに傾斜する。掘り方の規模は、長軸 3.38m、短軸 1.99m を測り、主軸方向は N-56°-E を示す。平面形は隅丸正方形を呈し、断面形は箱形を呈する。底面は中央付近から北側に緩やかに傾斜し、14cm 落ち込んでいる。堆積土は 23 層からなり、1 層



第91図 SX8 性格不明遺構平面図・立面図

第1節 川内駅部1区

～11層は砂質シルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。12～23層も砂質シルトで掘り方である。遺物は16世紀末～17世紀初頭の志野産の皿、18世紀代の瀬戸・美濃の碗、在地産の播鉢・かわらけ、不明木製品等が出土しているが、細片のため図示していない。



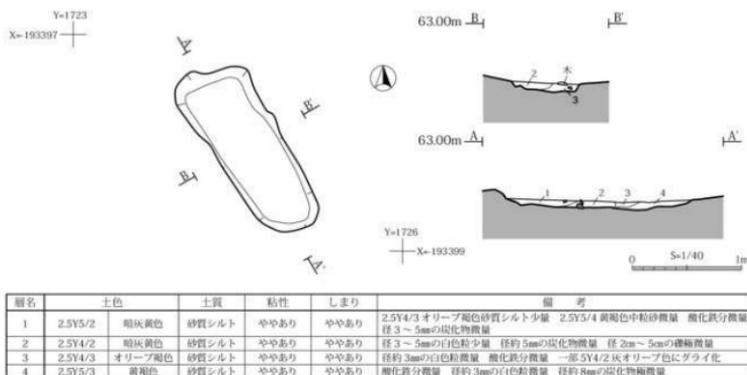
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径3～5mmの白色粒少量 径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径15～20cmの礫多量 酸化鉄分少量
3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径2～3mmの白色粒多量 酸化鉄分少量 径約3mmの炭化物微量
4	2.5Y4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト少量 径3～4mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
5	2.5Y3/1 黒褐色	なし	ややあり	ややあり	有機物多 酸化鉄分多量 径5～8mmの炭化物少量
6	10Y4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量 径2～3mmの白色粒微量 径3～5mm炭化物微量
7					SX8-P2 杭
8	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR3/2 黒褐色砂質シルト少量 径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分少量
9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR3/1 黒褐色砂質シルト微量
10	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径2～3mmの白色粒微量
11	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄分微量
12	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト微量 酸化鉄分少量
13	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
14	2.5Y4/1 黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 径約1cmの礫微量 径3～5mmの炭化物微量
15	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分微量 径約20cmの礫石含む
16	2.5Y4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～3mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
17	2.5Y4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト多量 径約30cmの礫石含む
18	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 径3～5mmの白色粒多量 10YR3/2 黒褐色砂質シルト少量 径約3cmの礫石含む
19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 10YR3/2 黒褐色砂質シルト微量
20	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量
21	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～3mm白色粒多量 酸化鉄分微量 径約18cmの礫石含む
22	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量
23	2.5Y6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト少量 酸化鉄分微量

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
SX8-P1	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量 径約1cmの礫物微量
SX8-P2	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
SX8-P3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト微量
SX8-P4	1	10YR4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄分少量
SX8-P5	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 砂質シルト微量 酸化鉄分微量
SX8-P6	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量 径約6cmの礫含む
SX8-P7	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量

第92図 SX8 性格不明遺構断面図

4) SX10 性格不明遺構 (第93図、図版35-1・2)

N1-W58 グリッドに位置し、上層は近代の擾乱により削平されている。規模は、長軸1.76m、短軸63cm、深さ7cmを測り、主軸方向はN-33°-Wを示す。平面形は不整な長方形で、断面形は浅い皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は4層からなり、砂質シルトである。遺物は17世紀前半の瀬戸の菊皿、18世紀後半～19世紀前半の大塚相馬の土瓶、瓦片等が出土している。細片のため図示していない。

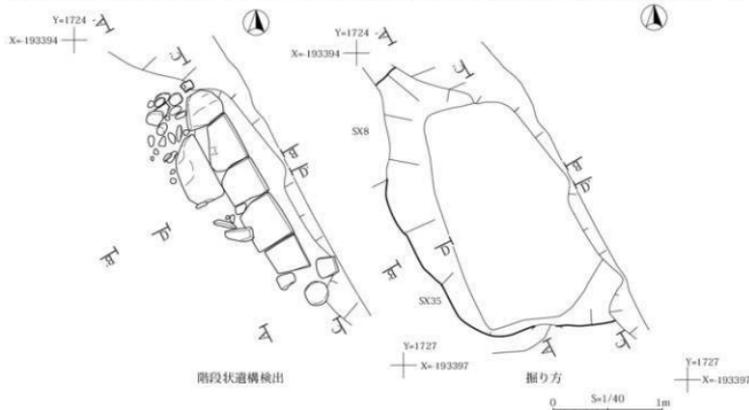


第93図 SX10 性格不明遺構平面図・断面図

(5) 階段状遺構

1) 階段状遺構 (第94・95図、図版35-3~7)

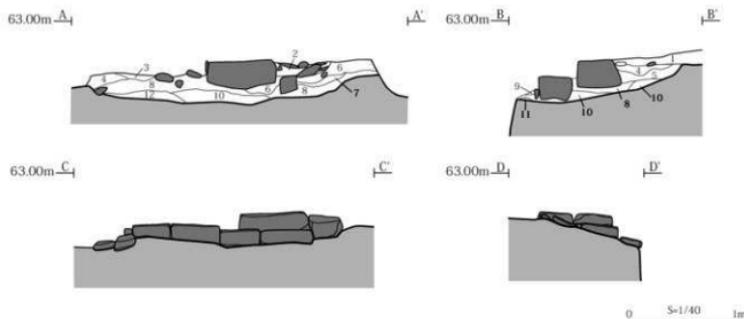
N1-W8 グリッドに位置し、長さ34~62cm、幅30~42cm、厚さ21~25cmに加工された間知石が交互に二段積まれた階段状を呈する遺構である。近代の造成の際に本遺構の東、南側は大きく削平され、西側はSX8・35と重複しており、SX35より新しく、SX8より古い。視乱と遺構の重複により、1段目は4つ、最上段は1つの踏み石しか確認できなかった。1段目の北端には長さ36cm、幅30cm、厚さ23cmの袖石が残存している。残存する規模は、長軸2m、短軸6.44cm、高さ32.4cmを測る。1段の蹴上げの高さは15.6cmを測り、踏み幅は30~34cmを測る。主軸方向はN-62°-Eを示す。掘り方の規模は、長軸2.8m、短軸1.56m、深さ49.6cmを測る。平面



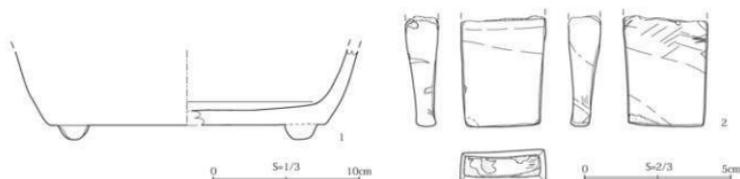
第94図 階段状遺構平面図

第1節 川内駅部1区

形は不整形で、断面形は皿状を呈する。底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は12層からなり、1層は暗灰黄色砂質シルトでIV層整地土である。2層は砂質シルトで径10～20cmの礫を多量に含むことから、袖石部分の裏込め石の可能性が考えられる。3層～12層は砂質シルトないしシルトを基調とする堆積で、踏み石を据える際に盛られたと考えられる。また、堆積土内には打ち砕かれた間知石の破片が含まれている。これは、踏み石を据える際に石の側面を調整した時に出た破片と考えられる。遺物は1層から在地産の火入れ、砥石が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	IV層整地土
2	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径10～15cmの自然石多量 径10～20cmの砕けた間知石多量
3	2.5Y3/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	礫化鉄分少量 径1～3mmの白色鉄屑量
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト少量 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト微量 礫化鉄分微量
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト多量 2.5Y6/3の白色鉄屑少量
6	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 径2～3mmの白色鉄屑少量 径約10cmの瓦片含む
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト少量 径約8cmの礫含む
10	10YR4/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1砂質シルト多量 礫化鉄分少量 径2～3mmの白色鉄屑少量
11	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	なし	しまり	2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト少量 礫化鉄分微量
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト微量 礫化鉄分微量



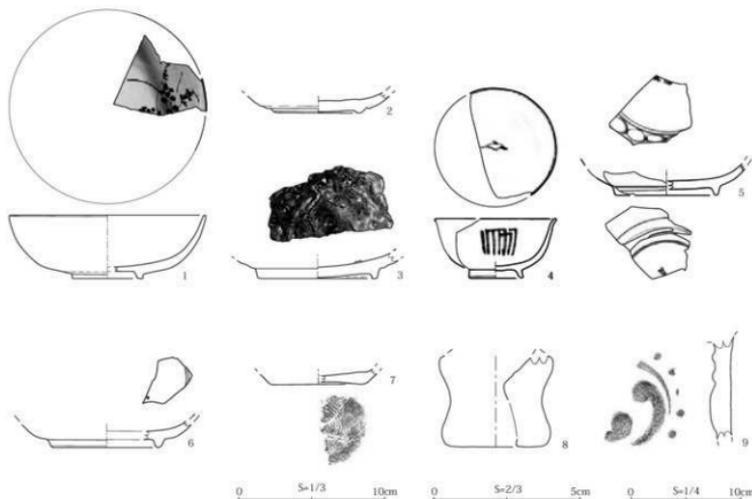
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	97-11	1層	瓦質土器	火鉢	胴部・脚部	やや粗	-	(19.0)	(8.2)	在地	近世	ヘラミガキ 3足脚	I-55

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			
2	97-12	1層	石製品	砥石	3.82	2.9	(1.15)	砥石 押磨有	K-4

第95図 階段状遺構断面図・立面図・出土遺物

(6) IV層出土遺物(第96図、図版97-13~98-2)

IV層からの出土遺物は、総数110点出土した。内訳は磁器19点、陶器15点、土師質土器2点、瓦質土器2点、軒平・平瓦18点、軒丸・丸瓦9点、その他の瓦44点、土製品1点である。陶磁器に関しては17世紀前半~18世紀後半頃の遺物が出土している。出土した遺物から遺存状態の良いものを数点図示した。また、19世紀中頃の瀬戸・美濃産の磁器が出土しており、後世の混入遺物と考えられるが、参考遺物として1点図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	97-13	N1-W58	陶器	碗	口縁~高台	やや密	(13.5)	(4.8)	4.4	肥前?	18c後半	灰釉 貝類 鉄絵 草花文	I-56
2	97-14	N1-W58	陶器	皿	高台~体部	粗	-	6.05	(1.4)	志野	17c末~18c前半	志野輪	I-57
3	97-15	S1-W58	陶器	皿	高台	粗	-	(8.2)	(1.7)	総織部	17c前半	緑釉 内面隠刻有 鳥文(サギ?) ロクロノ右	I-58
4	97-18	S1-W57	磁器	碗口縁	口縁~高台	密	(8.3)	3.7	4.15	瀬戸・美濃	19c中	染付 蘭氏香文 見込み: 足生文 口縁有	J-18
5	97-19	S1-W58	磁器	皿	体部~高台	密	-	(7.1)	(2.2)	渡在見	18c代	染付 内面隠刻 二重開脚 輪刻草文? 見込みコンチャ印四片花 高台内縁	J-19
6	97-16	N1-W58	磁器	皿	高台~体部	密	-	(7.5)	(1.8)	肥前	18c	染付	J-20
7	97-17	N1-W58	土師質土器	かわらけ	底部	やや粗	-	(6.4)	(1.0)	在池	近世	ロクロナデ 底面印転糸切り痕有	I-59

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
8	98-1	N1-W58	土製品	3.15	(3.92)	-	22.04	不明 底径: 3.5	P-2

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
9	98-2	N1-W59	軒丸瓦	(5.5)	(8.1)	3.45	造丸三巴文(右巻) 江戸初期 外面: 型押し成形後指による調整・ハナシ砂付着 内面: ココナデ指痕痕有	F-2

第96図 IV層出土遺物

3 Ⅲ層上面検出遺構とⅢ層出土遺物

川内駅部1区において、Ⅲ層は1区の石垣より西側と1区南東端部のごく一部において検出した。柱列跡3条、建物跡1棟、溝跡3条、上水施設1基、井戸跡3基、土坑21基、性格不明遺構2基、ピット35基の遺構を検出した。Ⅲ層内及びⅢ層上面遺構から出土した遺物から19世紀前半～19世紀中頃にかけての整地面と遺構であると考えられる。また、1区のⅢ層上面において検出した遺構は、丁度、幕末～明治時代への転換期と考えられる整地面と地山直上において検出した遺構であり、調査段階において近世に属する遺構が、明治に属する遺構かの判断が困難であった。そのため整理段階において、遺構の切り合い関係及び出土遺物から明治期の遺構であると考えられるが、時期の不確かな遺構に関しては、Ⅲ層上面遺構として記載している。なお、調査において検出した黒褐色砂質シルトと径5～10cm程度の礫が敷きつめられた硬化面は、SX4（道路跡）として調査を行っているが、調査段階では、時期については判断できていなかった。整理段階において、明治以降の遺物の出土の確認と、断面の再確認によって、調査区西側で検出した、礫とコンクリートによって構築された近代溝跡の上部に硬化面が堆積することが確認できたため、検出した硬化面は第二師団時以降の道路跡であると判断した。そのため、Ⅲ層上面遺構配置図にその範囲のみを示した。

(1) SA 柱列跡

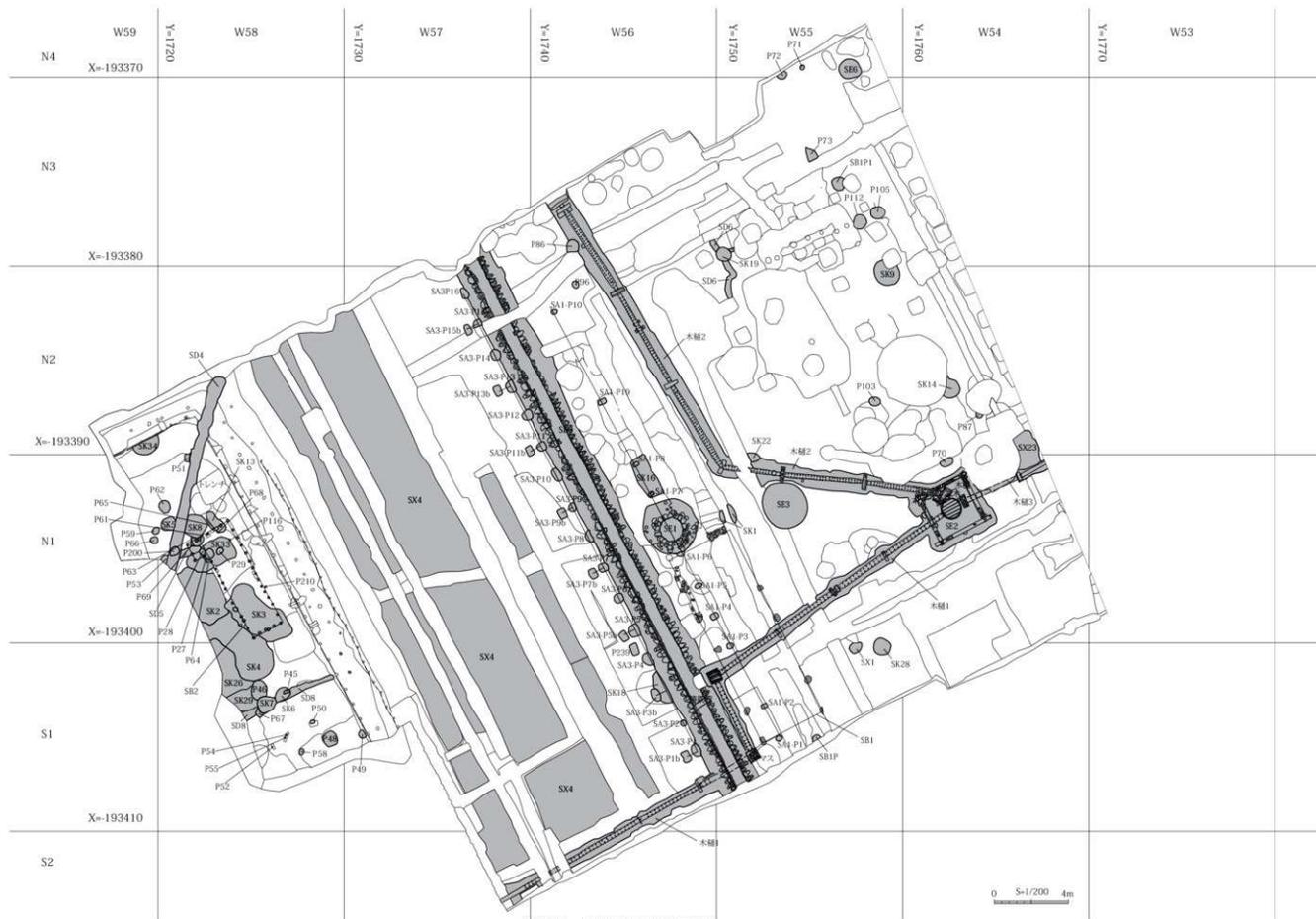
1) SA1 柱列跡（第98・99図、図版36-1～6・38-1）

S1-W55～N1-W56グリッドに位置し、SD3の東側に平行して並び、SA1-P1～SA1-P10の10基の柱穴で構成された柱列跡である。検出状況から、両端部は調査区外へ延びるものと考えられる。北西側と南東側は近代の擾乱によって削平される。SK16と重複しており、SA1が新しい。P2・3、P8・9・10の間では柱穴を検出できなかった。また、中央付近はSE1と一緒に掘り上げてしまったため柱穴は検出できていない。検出長は25.8mを測り、柱間の寸法は1.85m（6尺1寸）を測る。柱痕はSA1-P3・7においては確認できなかった。確認した柱痕の径は9～11cmを測る。また、SA1-P7・10には長さ12～20cm、幅12cm、厚さ10～16cmの礎板石が据えられている。掘り方の規模は、長軸32～46cm、短軸14～31cm、深さ16～53cmを測り、主軸方向はN-28°-Wを示す。平面形は楕円形ないし隅丸正方形、断面形は箱形ないし皿状を呈する。底面はほぼ平坦であるが、P8のみ中央部が一段下がる段状を呈している。堆積土はⅥ層由来の黄色シルトを基調とする。検出状況と出土遺物から、敷地を区画する崩跡であり、明治期の可能性が考えられる。遺物はP1の最下層から19世紀中以降の瀬戸・美濃の磁器が出土し、図示した。

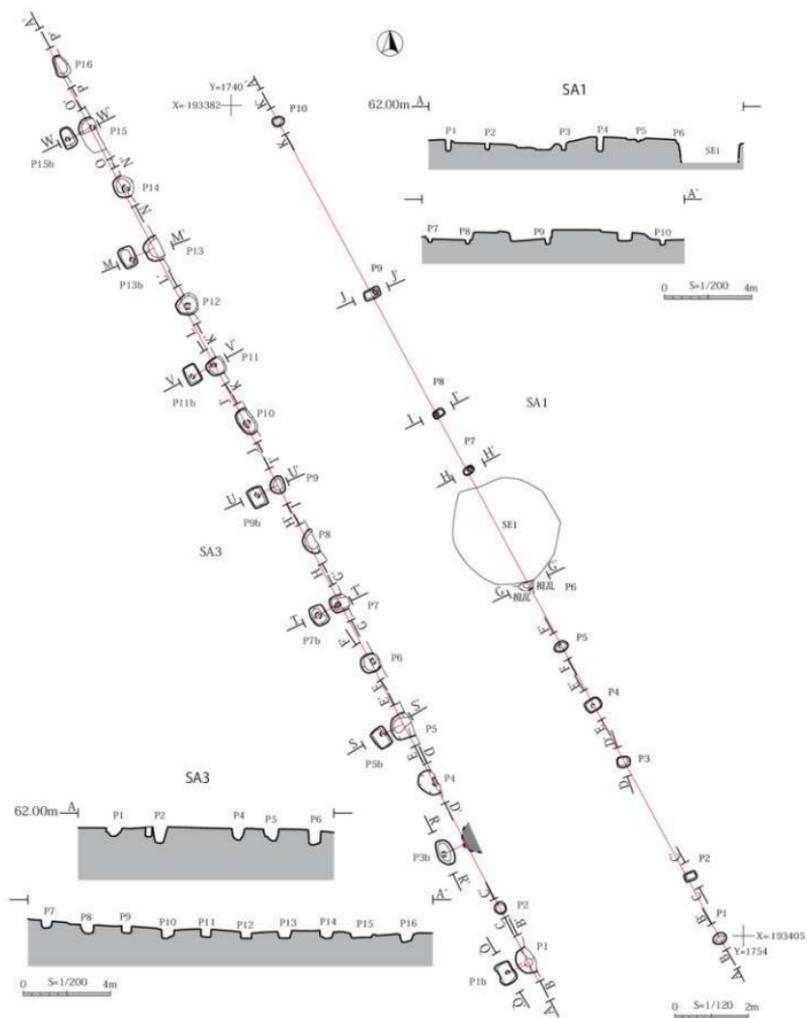
2) SA3 柱列跡（第98・100図、図版36-7～37-8）

S1-W55～N1-W56グリッドに位置する。SD3の西側に平行して並び、24基の柱穴から構成される柱列跡で、東側には1間ごとに控え柱を伴っている。検出状況から両端部は調査区外へ延びるものと考えられる。またSA3-P3は調査において確認できなかったが、控え柱を伴っているため、近代の擾乱か、SD3に削平されている可能性が考えられる。そのため、SA3-P3は推定位置を破線図に示した。

近代の擾乱に一部を削平され、東側はSD3と重複しており、SA3が古い。検出長は28mを測る。直線的に並び柱間の寸法は1.80m（5尺9寸）を測り、控え柱までの柱間の寸法は70cm（2尺3寸）を測る。柱痕はSA3-P3・4・10～15、SA3-P1b～15bにおいて確認でき、径は15～25cmを測る。SA3-P7には長さ32cm、幅23cm、厚さ12cmの礎板石が据えられている。掘り方の規模は、長軸47～76cm、短軸33～55cm、深さ12～69cmを測り、主軸方向はN-27°-Eを示す。平面形は楕円形ないし隅丸長方形と考えられ、断面形は箱形ないし逆台形を呈する。堆積土はⅥ層由来の黄褐色シルトを基調とする。検出状況と出土遺物から、敷地内を区画する崩跡であり、明治期の可能性が考えられる。遺物は、18世紀後半の肥前産の磁器、19世紀中頃の瀬戸・美濃産の磁器、19世紀代の大相馬産の陶器、鉄釘が出土している。そのうち、磁器3点、陶器1点を図示した。

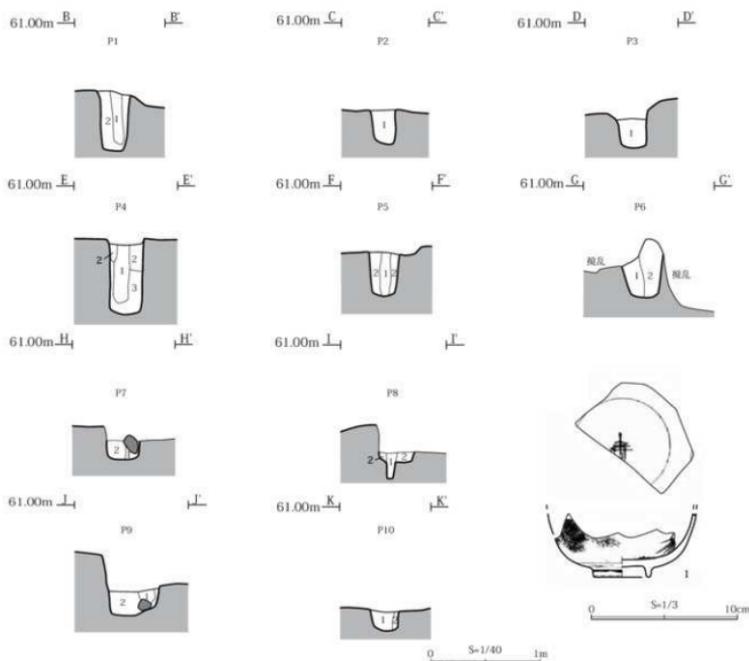


第97図 I区Ⅲ層上面遺構配置図



第98図 SA1柱列跡・SA3柱列跡平面図・断面図

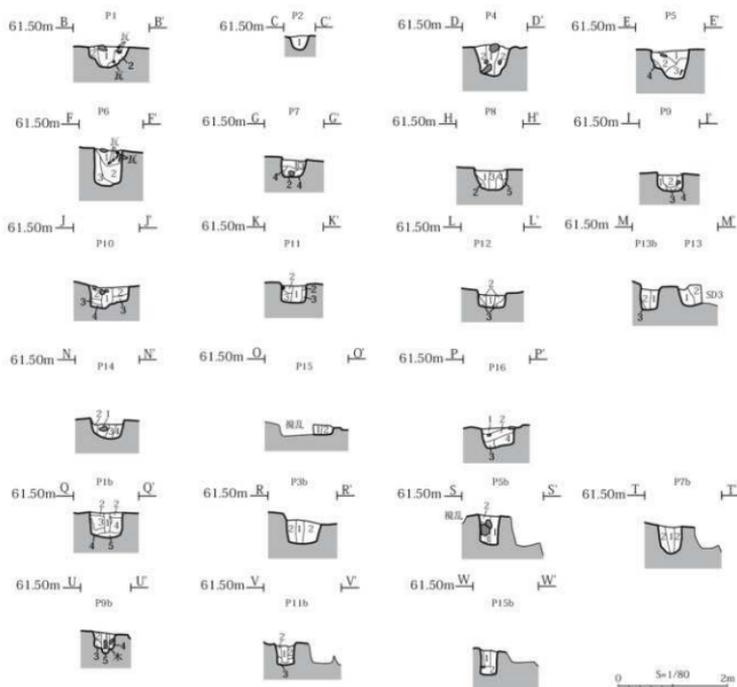
第1節 川内駅部1区



遺構名	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		1	2				
P1	1	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
	2	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	なし	あり	10YR6/4 に赤い黄褐色砂礫多量
P2	1	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
P3	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	あり	2.5Y6/4 に赤い黄褐色少量 酸化鉄分少量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に赤い黄褐色少量 酸化鉄分少量
P4	2	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に赤い黄褐色少量 酸化鉄分少量
	3	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に赤い黄褐色少量 酸化鉄分少量
	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量
P5	2	2.5Y6/4	に赤い黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
P6	2	2.5Y6/4	に赤い黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量
	1	2.5Y6/3	に赤い黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
P7	2	2.5Y7/4	浅黄色	シルト	ややあり	あり	5Y8/1 灰白色シルト少量 酸化鉄分少量
	1	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	なし	あり	2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少量
P8	2	2.5Y7/4	浅黄色	シルト	ややあり	あり	5Y8/1 灰白色シルト少量 酸化鉄分少量
	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
P9	2	2.5Y6/4	に赤い黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
	1	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 径約15cmの礫含む
P10	2	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に赤い黄褐色少量

図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	98-3	覆土下層	磁器	碗	胴部-底部	密	-	(3.95)	(4.4)	瀬戸-美濃	10c中	染付有 見込み陶絵「寿」	J-21

第99図 SA1 柱列跡断面図・出土遺物



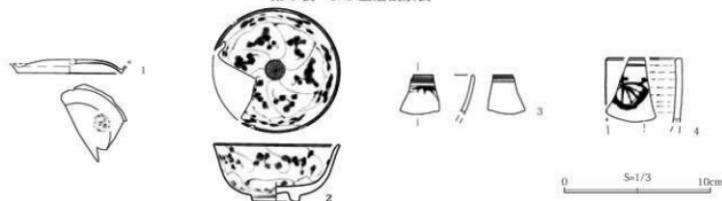
遺構名	別名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P1	1	2.5Y4/1	黄灰色シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 2.5Y6/1 黄灰色シルト少量 瓦片含む
	2	2.5Y7/4	浅黄色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト多量 酸化鉄分少量
P2	1	2.5Y4/1	浅黄色シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 柱礎
	1	2.5Y4/1	灰黄色シルト	なし	ややあり	2.5Y3/1 黄褐色シルト少量 酸化鉄分少量 柱礎
P4	1	2.5Y4/1	灰黄色シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト多量 2.5Y3/1 黄褐色シルト少量
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 径約1cmの黄灰色粘土土塊 柱礎
P5	1	2.5Y4/1	黄褐色シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量 径約1cmの黄褐色粘土土塊
	2	7.5YR4/4	褐色シルト	あり	あり	径10cm以下の礫多量 瓦片多量 5Y7/6 黄褐色シルト極微量
P6	1	7.5YR3/3	暗褐色シルト	あり	あり	径約5mmの灰化物極微量
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	あり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量
	1	5YR4/3	にぶい赤褐色シルト	あり	ややあり	酸化鉄分微量
P7	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色シルト	あり	ややあり	灰色粘土上 径10cm未満の砂礫微量
	3	10YR4/4	褐色シルト	あり	ややあり	径5cm未満の小礫少量
	4	7.5YR4/6	褐色シルト	あり	あり	径約5mmの礫極微量
	1	2.5Y4/1	灰黄色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト多量 2.5YR/1 灰白色シルト少量
P8	2	7.5YR3/3	暗褐色シルト	あり	ややあり	径1cm未満の黄白色粘土粒少量
	3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色シルト	強い	あり	灰色粘土土少量混入
	4	10YR3/4	暗褐色シルト	あり	なし	酸化鉄分微量
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
	1	2.5Y5/4	黄褐色シルト	あり	あり	
P9	2	2.5Y5/1	黄褐色シルト	あり	ややあり	
	3	5Y5/1	灰色シルト	あり	ややあり	
	4	2.5Y6/3	にぶい黄褐色シルト	あり	ややあり	礫含む

第100図 SA3 柱列跡断面図

第1節 川内駅部1区

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P10	1	2.5V4/2	暗灰褐色	シルト	ややあり	2.5V7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分多量
	2	2.5V4/6	オリーブ褐色	シルト	あり	酸化鉄分微量
	3	2.5V3/3	暗オリーブ褐色	シルト	あり	径 5cm未満の礫微量 酸化鉄分微量
P11	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	径約 5mmの礫微量
	2	2.5V4/3	オリーブ褐色	シルト	ややあり	2.5V7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分少量
	3	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	あり	
P12	1	7.5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	普通 径 2cm未満の白粒子微量 径約 10mmの砂微量
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり 径 3cm未満の灰黄色粒子少量 酸化鉄分少量
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり
P13	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり 径 5cm未満の黄白色シルトブロック少量 径 3cm以下の礫少量
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり
	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	あり	径 20cm未満の礫含む
P14	2	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	あり	ややあり 径 1cm未満の白粒子微量
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり 径 5cm未満の礫微量
	4	5Y4/4	暗オリーブ色	シルト	あり	径 5cm未満の礫微量 酸化鉄分微量
P15	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	なし 2.5V5/3 黄褐色シルト微量
	1	7.5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	径 3cm未満の小礫を少量混入 全体的に青色にグライ化している
P16	2	2.5V4/6	オリーブ褐色	シルト	あり	径約 10mmの砂少量 黄灰色粒ブロックを多量 酸化鉄分微量
	3	2.5V3/3	暗オリーブ褐色	シルト	あり	あり 灰色粘質土少量混入
	4	2.5V3/3	暗オリーブ褐色	シルト	あり	あり 径 5cm未満の小礫微量 酸化鉄分微量
P1b	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 柱斑
	2	10YR6/6	明黄褐色	シルト	なし	酸化鉄分少量
	3	2.5V3/3	黄褐色	シルト	あり	2.5V5/1 黄灰色シルト微量
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	なし 2.5V5/3 黄褐色シルト少量
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり 2.5V4/1 黄褐色少量
P3b	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量
	2	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色シルト少量
	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量
P5b	2	2.5V4/2	暗灰褐色	シルト	あり	酸化鉄分少量
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 酸化鉄分少量
	4	10YR4/4	褐色	シルト	あり	酸化鉄分微量
P7b	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	なし 径 3cmの礫微量 柱斑
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	あり	2.5V4/1 黄褐色少量 酸化鉄分少量
P9b	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 柱斑
	2	10YR6/6	明黄褐色	シルト	なし	酸化鉄分微量
	3	2.5V3/3	黄褐色	シルト	あり	あり 2.5V5/1 黄灰色シルト微量
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	較らぬ 2.5V5/3 黄褐色シルト少量
	5	2.5V6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量
P11b	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 柱斑
	2	2.5V3/3	黄褐色	シルト	あり	あり 2.5V4/1 黄褐色少量 酸化鉄分微量
	3	10YR6/6	明黄褐色	シルト	なし	酸化鉄分微量
P13b	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 柱斑
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり
P15b	1	2.5V4/1	黄褐色	シルト	ややあり	2.5V4/1 黄褐色少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 柱斑
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分少量

第6表 SA3 土層観察表

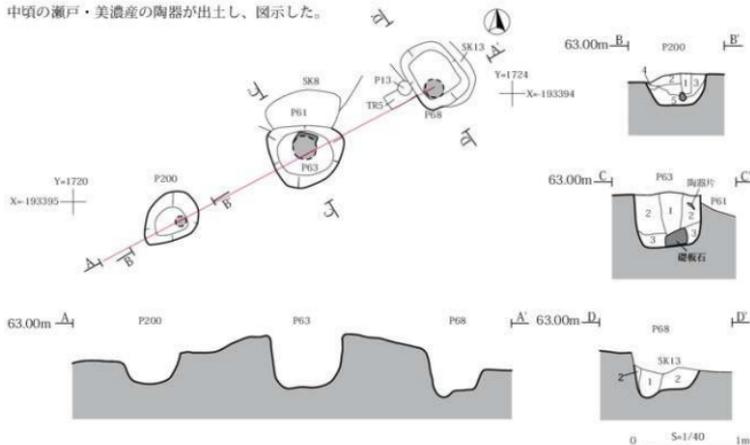


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	98-4	P5	陶器	蓋?	底部~体部	やや肌	(7.20)	-	(0.92)		19c	大塚相馬?	I-60
2	98-5	P7	磁器	碗状碗	口縁~高台	密	8.65	3.20	4.00		19c中	草花文 見込みに渦文	J-23
3	98-6	P5	磁器	碗	口縁~体部	密	-	-	2.70		肥前	18c後 渦文? 2重渦線	J-22
4	98-7	P5	磁器	香炉	口縁部~体部	密	(5.2)	-	(4.4)		肥前	18c後 染付有 ロウロ:左	J-24

第101図 SA3 柱列跡出土遺物

3) SA7 柱列跡 (第102図、図版38-2～39-2)

N1-W58グリッドに位置し、P63・68・200の3基の柱穴から構成される柱列跡である。SK13、P61と重複しており、SA7が古い。東西への拡がりは確認できなかったが、検出状況から西側に延びるものと考えられる。検出長は3.28mを測る。柱間の寸法は1.32m(4尺3寸)を測り、柱痕径は20cmを測る。主軸方向はN-62°-Eを示す。掘り方の規模は、長軸63～68cm、短軸47～66cm、深さ26～47cmを測り、P63の底面には長さ20cm、幅18cm、厚さ15.2cmの礎板石が据えられている。平面径は不整な円形ないし隅丸長方形で、断面形は箱形ないし逆台形を呈する。底面はほぼ平坦であるが、P68は礎板石が据えられていなかったため、柱痕が据えられていた箇所が一段落ち込んでいる。堆積土は砂ないし砂質シルトを基調とする堆積である。遺物はP63の2層から17世紀中頃の瀬戸・美濃産の陶器が出土し、図示した。



遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P200	1	2.5Y6/2	灰黄色 砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量 柱痕
	2	2.5Y6/1	黄灰色 砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分多量
	3	2.5Y5/1	黄灰色 砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量
	4	2.5Y5/3	黄褐色 砂質シルト	なし	ややあり	径1～2mmの白色砂少量 酸化鉄分微量
	5	2.5Y5/1	黄灰色 砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y6/3に混入黄色砂質シルト微量 径2～5cmの繊維量
P63	1	2.5Y5/4	黄褐色 細粒砂	なし	あり	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト多量 径3～5mmの炭化物微量 柱痕
	2	2.5Y4/3	暗灰黄色 細粒砂	なし	あり	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
	3	2.5Y4/3	暗灰黄色 細粒砂	なし	ややあり	径1.5cm大の樹石含む
P68	1	10YR4/2	暗黄灰色 砂質シルト	ややあり	しまり	2.5Y5/4黄褐色細粒砂少量 酸化鉄分少量 柱痕
	2	2.5Y5/4	黄褐色 細粒砂	なし	ややあり	酸化鉄分少量
	3	2.5Y3/2	暗褐色 砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (mm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
I	98-8	P63 2層	陶器	大鉢	1琳	粗	(32)9	-	(5.1)	瀬戸・美濃	17c 中頃	P63 縁輪破片、鉄銘(笠原跡)	141

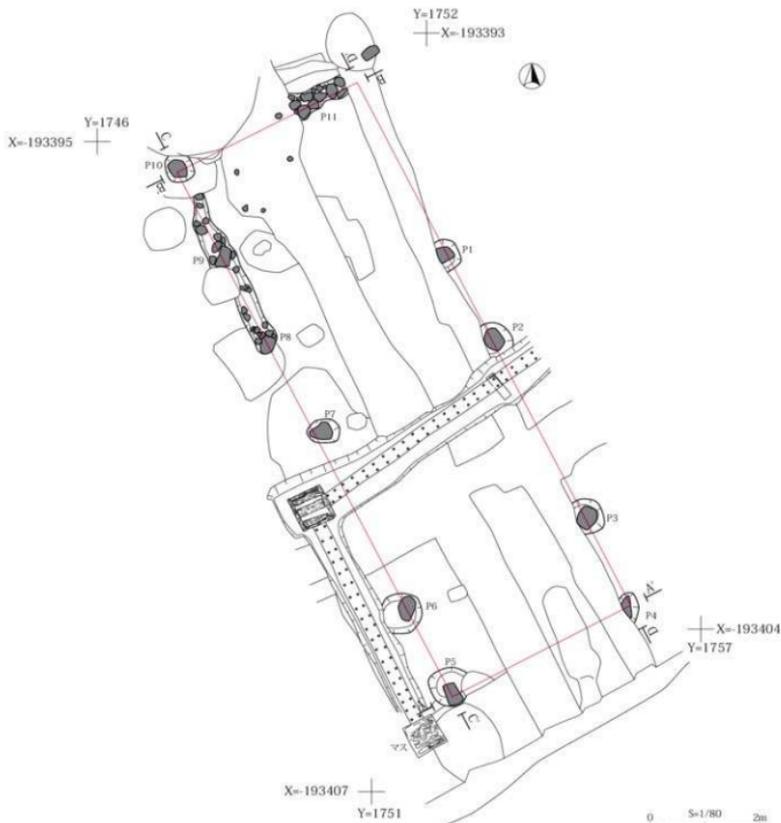
第102図 SA7 柱列跡平面図・断面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

(2) SB 建物跡

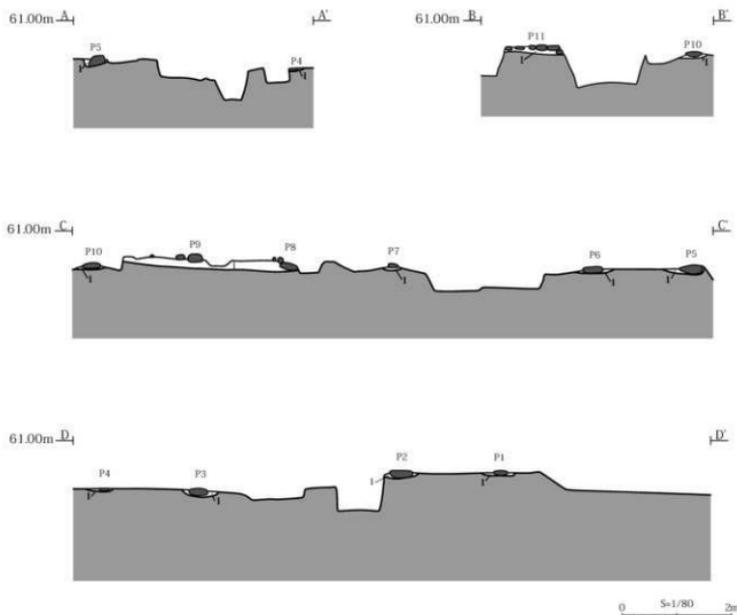
1) SB1 建物跡 (第103・104図、図版39-3)

調査区中央部東側 N1-W55～S1-W55 グリッドに位置する。長さ 28～38cm、幅 17.6～28cm、厚さ 9.6～20cm の礎石と、径 4.8～14cm の礎が充填された 2 基の石敷き遺構を含む 11 基の遺構から構成された建物跡である。また石敷き遺構には、P1～7・10 に据えられた礎石と同様の大きさの石が同じ柱間で据えられ、礎石であることが確認できた。そのため、西側の礎石には P8、東側の礎石には P9 の遺構番号をそれぞれ付した。P11 は東西ともに近代の攪乱に削平されているため確認できなかった。P2・3、P6・7、P11・1 の間も攪乱に削平されて



第103図 SB1 建物跡平面図

いるため、礎石は確認できていない。残存する規模は、桁行6間（10.92m）、梁行2間（3.64m）が考えられ、柱間の寸法は1.82m（6尺）を測る。桁行を基準とした主軸方向はN-27°-Wを示す。P1～P7・10の平面形は円形を、断面形は皿状を呈する。P8・9・11の平面形は隅丸長方形と考えられ、断面形は逆台形を呈する。堆積土はP1～7・10は砂質シルトを基調とし、P8・9・11はVI層由来の明黄褐色シルトを基調とする。本遺構は、検出状況から明治期の建物跡であると考えられる。遺物は出土していない。



遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P1	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分微量
P2	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト少量
P3	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量
P4	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分少量
P5	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分少量
P6	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト少量
P7	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量
P8・9	1	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	径8～20mmの礫多量 2.5Y 4/2 暗灰黄色シルト少量
P10	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量 酸化鉄分微量
P11	1	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	径8～24mmの礫多量 2.5Y 4/2 暗灰黄色シルト少量

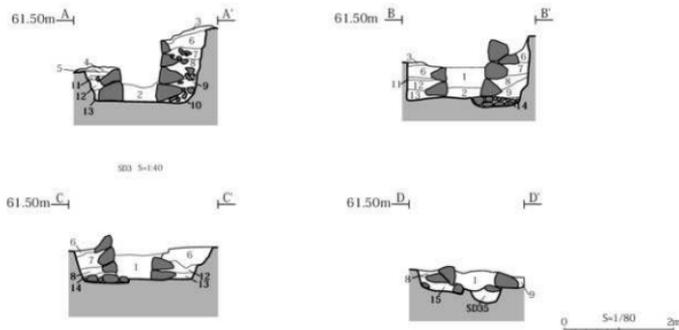
第104図 SB1 建物跡断面図

第1節 川内駅部1区

(3) SD溝跡

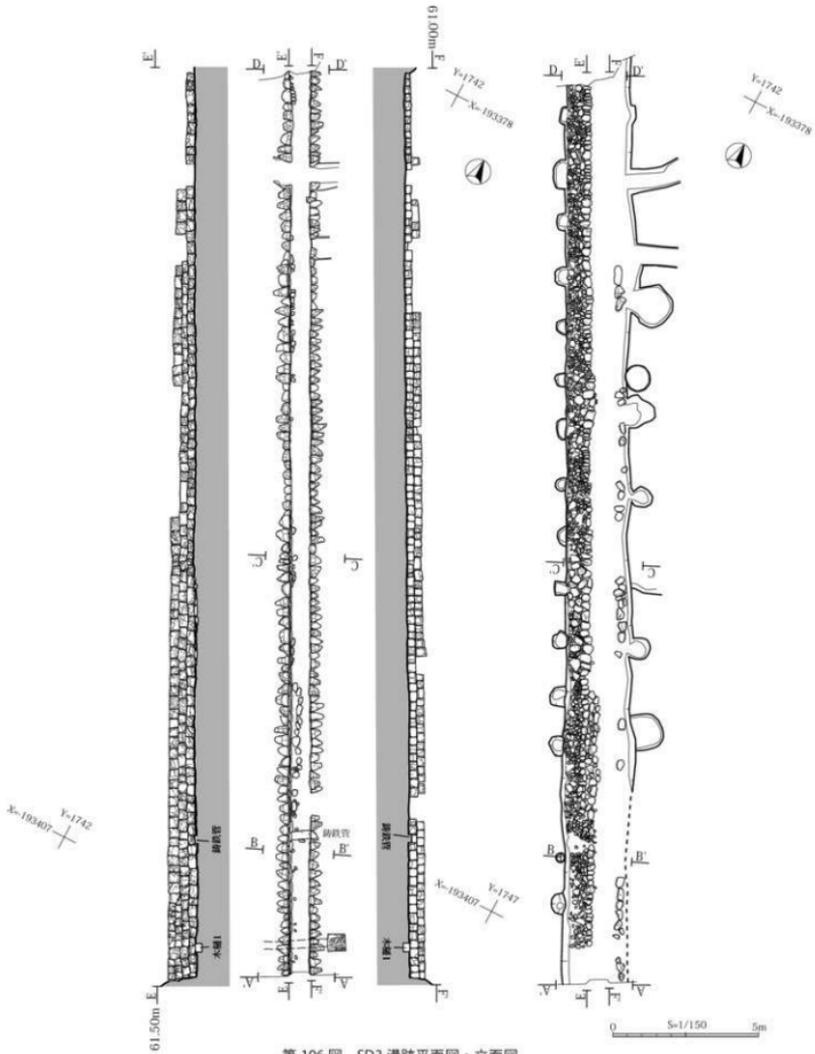
1) SD3溝跡 (第105～107図、図版39-4～40-5)

N2-W58～S1-W55グリッド位置する。南東から北西方向に直線的に走り、溝の両端部は調査区外へと延びる石組溝跡である。側面には直角三角形に成形された長さ18～45cm、幅27～42cm、厚さ24～36cmの間石が西側に1段ないし4段、東側には1段ないし2段積まれている。北西側は近代の造成の際に上段部が削平され、南東側は木樋1、溝の掘り方はSA3と重複しており、SA3より新しく、木樋1より古い。また、木樋1や配管を通す際に石組を一度崩し、組み直した痕跡が数箇所確認できた。総長は31.35mを測る。側石と側石の内面の上端幅は66～76cm、下端幅56～62cm、深さ0.84～1.2mを測り、主軸方向はN-27°-Wを示す。底面は緩やかに北側に傾斜する。掘り方の規模は、上端幅2.32～2.52m、下端幅1.96～2.0m、深さ1.24～1.32mを測る。堆積土は14層からなり、1層、2層はVI層由来の暗灰黄色シルトないし黒褐色シルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。掘り方は12層からなり、4層、5層はシルトで、6層～13層はVI層由来の明黄褐色シルトないし砂質シルトを基調とする堆積で、7層から10層には径5～15cmの礫が充填されている。14層は礫層で長さ5～30cm、幅5～25cm、厚さ3～18cmの自然石が敷き詰められており、検出状況から石組の基礎と考えられる。遺物は堆積土内から明治時代の磁器、硬質陶器、瓦片、レンガ片が出土し、掘り方からは、18世紀中頃の肥前産の磁器、在産地の瓦質土器、瓦片等が出土している。そのうち磁器3点、瓦質土器1点、瓦2点、金属製品1点を図示した。本遺構は、堆積土内から近代の遺物が出土し、また調査区南北両壁面の観察から、近代の造成の際に埋め戻されていることが確認できた。これらのことから明治の初頭～後半頃に使用されていた溝跡であると考えられる。



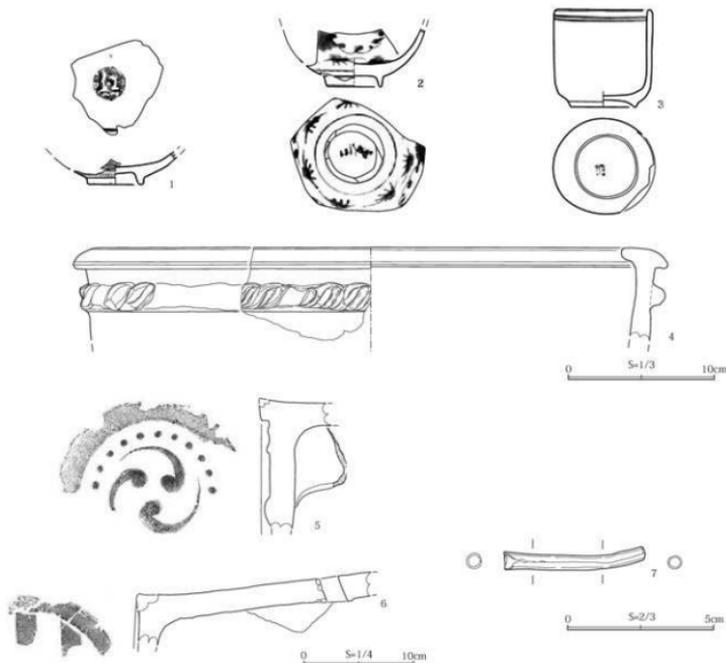
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	2.5Y6/6明黄褐色シルト多量 2.5Y3/1灰褐色シルト多量 礫少量 瓦片少量 レンガ含む
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	粒積物多量 2.5Y6/6明黄褐色シルト微量 レンガ片含む
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	2.5Y6/6明黄褐色シルト極微量
6	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	径1～2mmの礫少量 酸化鉄分少量
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	径5～12mmの礫少量 2.5Y3/3黄褐色砂少量
8	2.5Y3/3	黄褐色	砂質シルト	なし	径5～15cmの礫微量 2.5Y3/3黄褐色砂少量 酸化鉄分微量
9	2.5Y3/3	褐色	砂質シルト	なし	径5～15cmの礫少量 2.5Y3/3黄褐色シルト微量
10	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	2.5Y3/3黄褐色シルト多量 径5～15cmの礫少量
11	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	2.5Y6/3にふい黄色シルト微量 2.5Y4/1黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
12	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y6/3にふい黄色シルト微量
13	2.5Y6/3	にふい黄色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量
14			礫		礫層(径5～30cm) 礫部に2.5Y6/6明黄褐色シルトが入る

第105図 SD3溝跡断面図



第106図 SD3 溝跡平面図・立面図

第1節 川内駅部1区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	98-9	2層	磁器	碗	高台～体部	密	-	3.85	(3.3)	瀬戸・美濃	明治	染付有 意文	J-25
2	98-10	2層	磁器	碗	高台～体部	密	-	(3.8)	(4.05)	肥前	18c中	染付草花・雲文 二重圈線	J-26
3	98-11	2層	磁器	湯呑	口縁～高台	密	6.6	4.45	6.8	不明	近代	二重圈線 高台内に印有	J-27
4	98-12	8層	瓦質土器	火鉢	口縁～体部	やや粗	38.2	-	6.4	在地	近世	ミガキ ハリツケ ロクロナデ	I-02

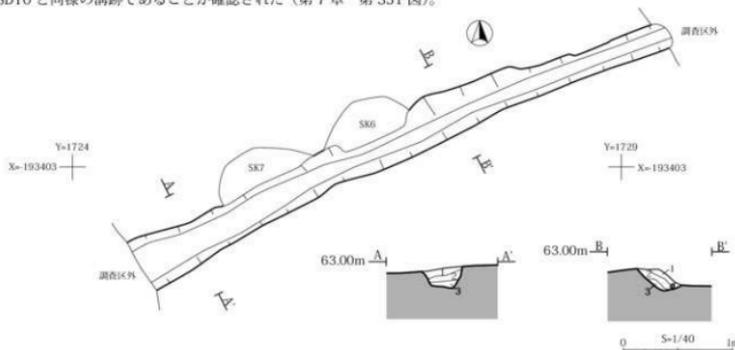
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
5	98-13	8層	軒丸瓦	(7.8)	(16.9)	(11.8)	文様区径:(12.7) 瓦当厚:2.8 周縁高:2.1 筒縁高:0.6 遺珠三巴文(左巻) 外面:型押し成形後指による調整 ヘラケズリ 内面:ヨコナデ	F-3
6	98-15	1層	軒丸瓦	(21.45)	(9.65)	(7.8)	周縁高:(4.8) 文様区径:(2.55) 瓦当径:(4.35) 三引内文外面:型押し成形後指による調整 ナデヘラケズリ 雲母粉付着 内面:布目圧痕有 コビキB ナデ	F-4

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
7	98-14	1層	金属製品	5.85	(0.52)	0.1	(2.02) 煙管吸口	N-8

第107図 SD3 溝跡出土遺物

2) SD8 溝跡 (第108図、図版41-1～3)

S1-W58グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に伸びる素掘りの溝跡である。上層部と東側は近代の造成の際に削平され、南西側はSK7、P45・47と重複しており、SD8が古い。残存する規模は、長さ5.28m、上端幅26～50cm、下端幅10～32cm、深さ21cmを測り、底面は平坦である。堆積土は3層からなり、1層、2層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。3層は砂質シルトで溝が使用されていた時期に底面に堆積した沈殿物層である。遺物は出土していない。また、平成18年度の仙台城跡の調査において確認された総長29mのSD10と同様の溝跡であることが確認された(第7章 第351図)。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3 にかい・黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/4 黄褐色中粘砂少量 酸化鉄分少量
3	10Y3/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色シルト質砂を微量含む 酸化鉄分微量
4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	10YR3/2 黒褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量

第108図 SD8 溝跡平面図・断面図

(4) 井戸跡

1) SE1 井戸跡 (第109図、図版41-4～7)

N2-W56グリッドに位置し、井側に石が組まれた石組の井戸跡である。上層部は近代の擾乱により削平されている。作業の安全面から、1.4mのみ人力により掘下げ作業を行った。そのため全面調査終了後、重機による断ち割りを行い、4mの深さまで確認作業を行ったが、井戸の底面は確認できなかった。

〈掘り方〉平面形は不整な円形を呈し、断面形はやや外反して緩やかに立ち上がる。規模は、上端直径2.92m、下端直径2.12m、深さは4m以上である。

〈井側構造〉井側には面取りされた、長さ22～36cm、幅12～26cm、厚さ10～36cmの石が積まれている。隙間には径5～10cmの石が詰められている。上端の内径は約1.27m、下端の内径は約78cmを測る。側面はやや外反して緩やかに立ち上がる。

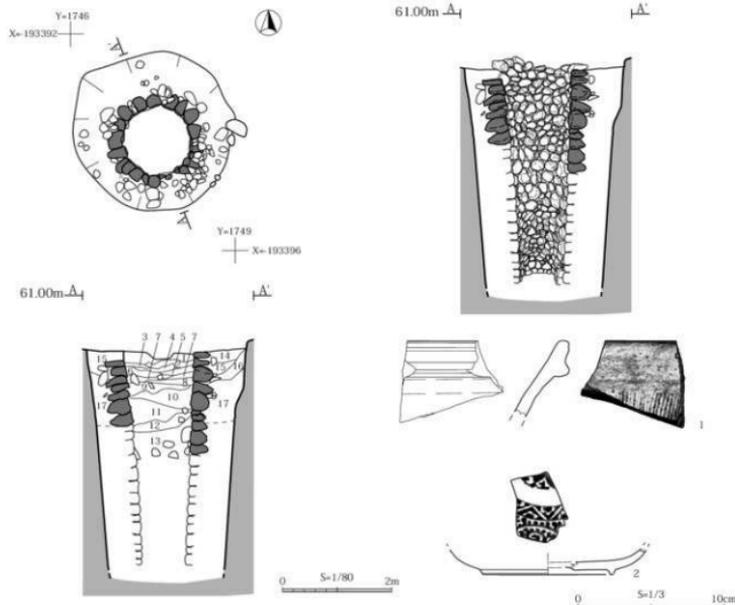
〈裏込め土〉14層から17層まで観察可能であった。堆積土はVI層由来の明黄褐色シルトを主体として、暗灰黄色ないし黄灰色シルトを含む堆積土である。

〈堆積土〉堆積土は13層からなり、VI層由来の黄褐色シルトないし暗褐色シルトを基調とする堆積土で、人為的に埋め戻された堆積土である。

〈出土遺物〉遺物は、堆積土上層部に近代の陶磁器、レンガ等が含まれているが、出土状況から近代の造成の際に

第1節 川内駅部1区

混入したものと考えられる。18世紀代の肥前産の磁器、時期不明の在地産の播鉢、瓦等が出土している。掘り方からは18世紀～19世紀代の肥前産の磁器が出土している。そのうち陶器1点、磁器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径約5cmの10YR5/3にふい、黄褐色シルトブロック少量 径約4cmの礫少量
2	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄分少量 径約4cmの礫少量
3	7.5YR5/8 暗褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分少量
4	10YR5/4 にふい、黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径約3cmの10YR5/8黄褐色シルトブロック少量
5	10YR5/3 にふい、黄褐色	シルト	なし	ややあり	酸化鉄分少量
6	10YR7/6 明黄褐色	シルト	あり	あり	
7	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	10YR6/8明黄褐色シルトを帯状に含む
8	10YR5/3 にふい、黄褐色	シルト	なし	あり	10YR4/2灰黄褐色粘土ブロック少量
9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	あり	あり	10YR6/4にふい、黄褐色シルト少量 10YR5/6黄褐色シルト少量
10	10YR3/4 暗褐色	シルト	あり	あり	径3～1.5cmの礫少量 10YR3/2黄褐色シルト少量
11	10YR3/4 暗褐色	シルト	あり	あり	10YR3/2黒褐色粘土少量 径約5mmの炭化物少量
12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	あり	あり	10YR5/8黄褐色シルト少量 径約6cmの礫少量
13	10YR5/1 褐色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量
14	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄褐色シルト少量 径1～5cmの礫少量
15	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/6明黄褐色シルト少量
16	2.5Y 6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
17	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2暗灰黄色シルト少量 2.5Y5/3黄褐色砂少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (mm)		産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径				
1	99-2	1層	陶器	播鉢	口縁部	粗	-	(5.25)	在地	19c	鉄輪 轆 1巻 8本	I-63
2	99-1	1層	磁器	皿	高台～体部	密	-	(9.0) (1.8)	肥前	18c中～後	安仁朝由井文 肥ノ日輪門高台 二重周縁	J-28

第109図 SE1井戸跡平面図・断面図・立面図・出土遺物

2) SE3 井戸跡 (第 110 図、図版 42-1・2)

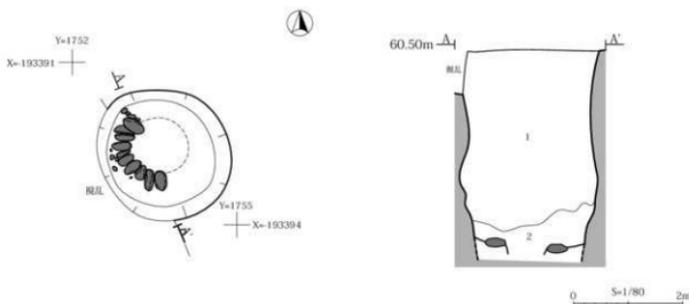
N1-W55 グリッドに位置しており、底面に水溜施設を持つ素掘りの井戸跡である。西側を攪乱に削平され、北側は SD4 と重複しており、SE3 が古い。作業の安全面から 1.3m のみ人力による掘下げ作業を行った。そのため全面調査終了後、重機による断ち割り作業を行い、3.82m の深さまで確認作業を行ったが、井戸の底面は確認できていない。また、3.6m 掘り下げた部分で直径約 40cm の自然石が円形状に組まれた石籠を検出した。検出状況から井戸底の水溜施設と考えられる。

〈掘り方〉平面形は不整な円形を呈し、壁は、ほぼ垂直に立ち上がるが、部分的に壁が崩れ落ち内湾する箇所が見受けられる。規模は、上端直径 2.4m、下端直径 2m、深さは不明である。

〈水溜施設〉上端から 3.6m 掘り下げた深さで検出している。施設上端の内径は 76cm を測り、掘り方の上端径は 2m である。深さは確認できていない。

〈堆積土〉堆積土は 2 層からなり、1 層、2 層ともに VI 層由来の明黄褐色シルトを主体とする堆積土である。下層部分の一部はグライ化している。

〈出土遺物〉遺物は堆積土上層付近でレンガ片が 1 点出土しているが、近代の造成の際に混入したものと考えられる。また瓦片が出土しているが、細片のため図示していない。



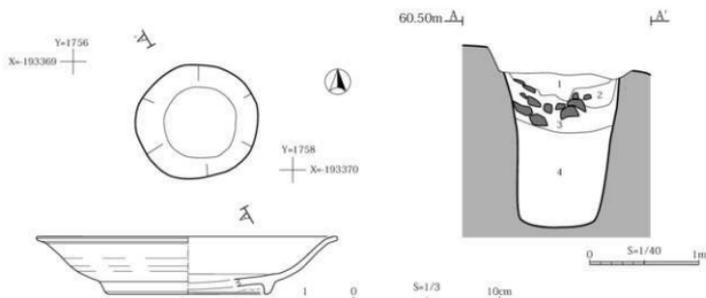
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/6	明黄褐色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量
2	2.5Y6/6	明黄褐色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 明黄褐色シルト多層 2.5Y3/1 黒褐色シルト少量 一部グライ化

第 110 図 SE3 井戸跡平面図・断面図

3) SE6 井戸跡 (第 111 図、図版 42-3・4)

N4-W55 グリッドに位置する素掘りの井戸である。遺構上部を近代の攪乱によって削平されている。掘り方の規模は、上端直径 1.25m、下端直径 68cm、深さ 1.39m を測る。平面形は不整な円形を呈し、壁はやや外反して立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、1・2 層は VI 層由来の黄褐色シルトを主体とし、3 層、4 層は砂質シルトで、3 層には長さ 8 ~ 18cm、幅 8 ~ 10cm、厚さ 5 ~ 10cm の自然石が充填され、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は底面直上から 17 世紀代の肥前産の皿が出土し、図示した。

第1節 川内駅部1区



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/6	明黄褐色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト多量 2.5Y3/1 黒褐色シルト少量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト	あり	ややあり	径3~5cmの硬塊
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	径10~32mmの礫多量 酸化鉄分少量
4	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	あり 酸化鉄分少量

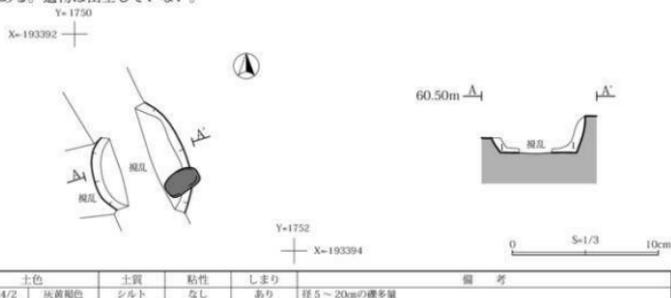
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	99-3	4層	磁器	端反り皿	1層~高台	密	(20.6)	(11.4)	4.0	肥前	17c	白磁	J-29

第111図 SE6井戸跡平面図・断面図・出土遺物

(5) 土坑

1) SK1土坑 (第112図、図版42-5・6)

N1-W56グリッドに位置しており、遺構の上層と中央部を近代の攪乱によって削平されている。残存する規模は、長軸1.08m、短軸86cm、深さ34cmを測る。平面形は楕円形、断面形は皿状と考えられる。堆積土はシルトの単層である。遺物は出土していない。

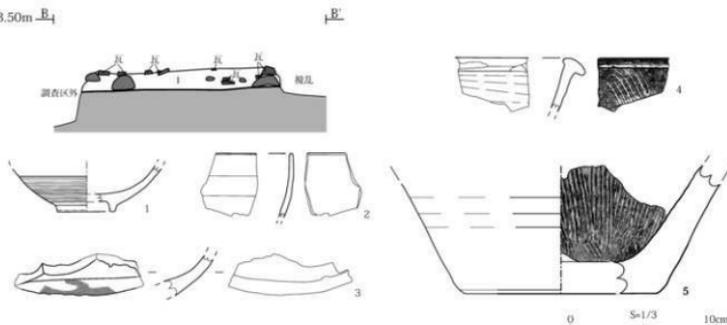


第112図 SK1土坑平面図・断面図

2) SK2土坑 (第113・114図、図版42-7~43-4)

平成18年度の調査においては、近代の攪乱に削平されていたため本遺構は確認されていない。調査区西端N1-W58グリッドに位置する。主に瓦を廃棄した廃棄土坑である。東側はSK3、南側はSK4、北側はSK33と重複しており、SK4より新しく、他の遺構より古い。西側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸3.27m、短軸1.81m、

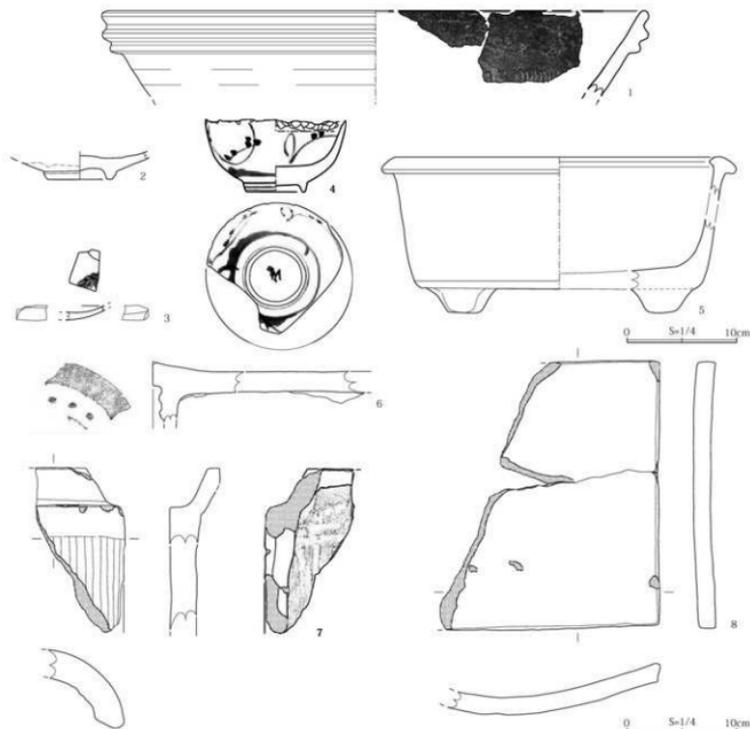
深さ 22cm を測る。平面形は不整形形で、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、遺物に混ざって砂質シルトが堆積する。遺物は、近世の軒平瓦 1 点、軒丸瓦 1 点、平瓦 214 点、丸瓦 37 点、板棚瓦 32 点、板状瓦 1 点、道具瓦 1 点、不明瓦 722 点、合計 1009 点の瓦と、18 世紀中頃～19 世紀前半頃の大塚相馬産の掛分け碗、在地産の播鉢、土師質土器、瓦質土器が数点出土している。そのうち陶器 6 点、磁器 3 点、瓦質土器 1 点、瓦 3 点を図示した。

63.50m Δ 63.50m Δ 

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考									
					径 5～15cm の瓦片少量	径 3～10cm の襖少量	径 3～8cm の灰化物微量							
1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり										
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法庫 (cm)	口径	底径	器高	産地	時期	備考	包録番号
1	99-4	1層	陶器	碗	胴部～高台	密		10.2	(4.0)	(3.2)	大塚相馬	18c 中以降	鉄輪 灰輪 掛分け碗	144
2	99-5	1層	陶器	碗	胴部～体部	密	-	-	-	4.4	大塚相馬	18c	灰輪 買入有	145
3	99-7	1層	陶器	碗	体部	やや粗	-	-	-	2.8	小野粗馬	18c 後半	灰輪 油煙付着有	146
4	99-6	1層	陶器	播鉢	胴部～体部	やや密	-	-	-	3.75	厚宮	17c 後半	鉄輪	147
5	99-8	1層	陶器	播鉢	体部～底部	やや粗	-	(13.2)	(8.9)		在地?	近世	鉄輪 欄干 1 条 7 本 ロクロ: 左	148

第 113 図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)

第1節 川内駅部1区



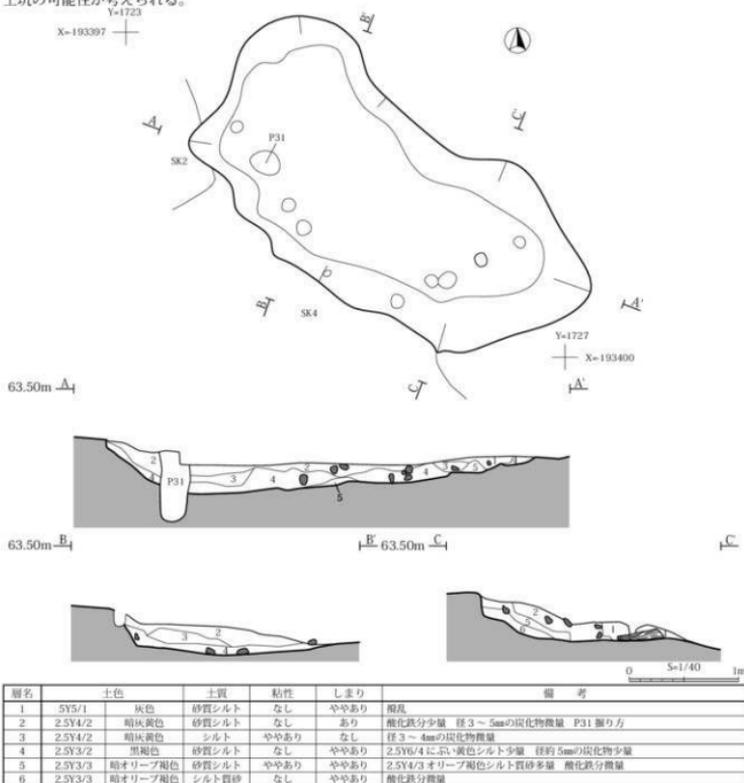
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	99-11	1層	陶器	器縁	口縁	粗	(37.2)	-	5.9	在地	近世	鉄輪 磨目1条10本	I-69
2	99-9	1層	磁器	皿	高台	密	-	4.55	(1.9)	波佐見	17c 後半	蛇の目輪測ぎ	J-30
3	99-10	1層	磁器	皿	体部	密	-	-	1.0	肥前	17c 後半	染付有 蛇の目輪測ぎ?	J-31
4	99-12	1層	磁器	碗	口縁~高台	密	9.6	4.1	5.0	波佐見	18c 後半	染付草花文 口縁部うろかき痕有 ハナシ付付着	J-32
5	99-13	1層	瓦葺土器	手あぶり(火鉢)	口縁~器部	粗	(24.4)	(19.8)	(10.85)	在地	18c以降	ヘラミガキ ロコロナデ	I-70

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	99-15	1層	軒丸瓦	(8.4)	(9.9)	(5.56)	瓦当径:(4.4) 文様区径:(2.2) 瓦縁高:0.8 瓦縁幅:2.2 器縁:凹文(左巻)外周:管押し 内面:コビキBヨコナデヘラズリ 布目仕直	F-5
7	99-14	1層	丸瓦	(15.2)	(8.2)	(7.2)	瓦幅:(8.1) 瓦長:(11.5) 瓦縁長:(3.0) 外面:ヨコナデヘラズリ 内面:コビキBヘラミガキ?布目仕直	F-6
8	99-16	1層	平瓦	(24.85)	(20.1)	(4.7)	瓦深:2.9 ヨコナデ	G-1

第114図 SK2土坑出土遺物(2)

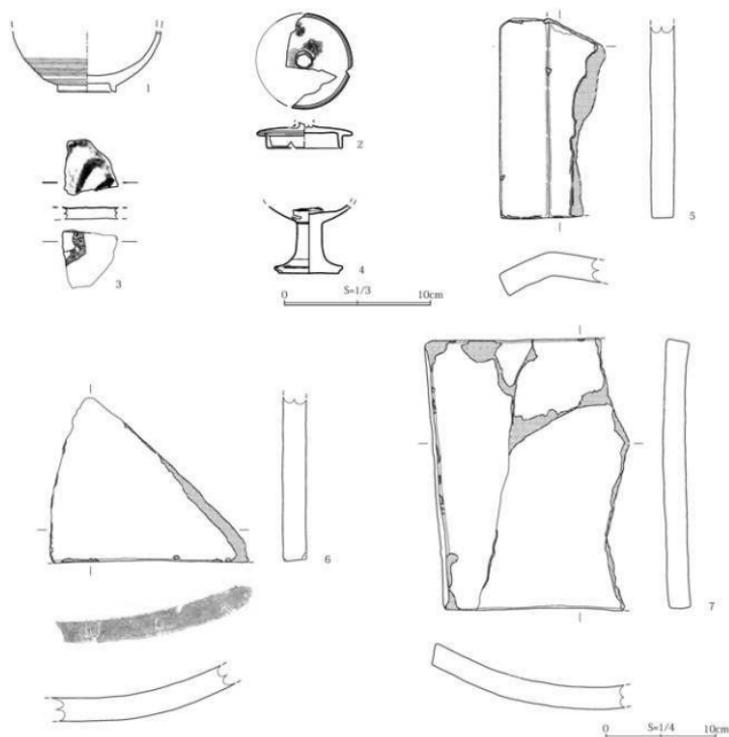
3) SK3 土坑 (第115・116図、図版43-5～8)

N1-W58 グリッドに位置し、上層部と東側は近代の掘削に削平され、西側はSK2・3、P31と重複しており、SK2・3より新しく、P31より古い。残存する規模は、長軸3.91m、短軸1.80m、深さ48cmを測り、主軸方向はN-69°-Wを示す。平面形は不整形で、断面形は逆台形を呈する。底面は北西側に緩やかに傾斜する。堆積土は6層からなり、1層、2層と4層、5層は砂質シルト、3層はシルト、6層はシルト質砂である。遺物は2層以下の各層から、近世の軒平瓦2点、軒丸瓦2点、平瓦20点、丸瓦4点、棧瓦2点、板状瓦1点、輪違い1点、道具瓦1点、不明瓦38点、合計71点の瓦と、18世紀中頃～19世紀前半頃の犬堀相馬産の掛分け碗・蓋、18世紀代の肥前産の仏飯具、16世紀末～17世紀前半の志野産の皿、在地産の漆鉢、不明木製品等が出土している。そのうち陶器3点、磁器1点、瓦3点を図示した。また、遺物の出土量はSK2・4と比べると少量であるが、廃棄土坑の可能性が考えられる。



第115図 SK3 土坑平面図・断面図

第1節 川内駅部1区



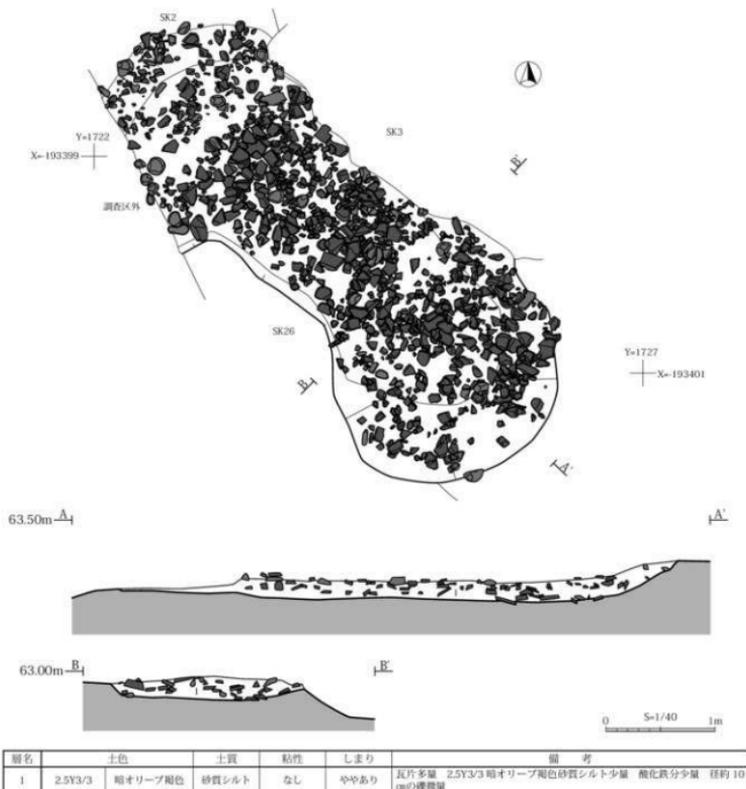
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	100-1	4層	陶器	部分付碗	高台~ 体部	中々密	-	4.0	4.25	大塚相馬	18c 中以降	灰輪・鉄輪 貫入有	I-71
2	100-3	2層	磁器	蓋	体部~ 縁部	中々密	5.2	-	1.6	大塚相馬	19c 前半	土胎付付(赤胎 緑輪) 貫入有	J-33
3	100-2	4層	陶器	皿	底部	中々密	-	-	0.8	志野	16c 末~17c 初	絵志野皿	I-72
4	100-4	6層	磁器	仏飯瓦	脚部~ 底部	密	-	4.05	(4.65)	肥前	18c	透明釉染付有 紅輪赤切歯有	J-34

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
5	100-5	3層	椀瓦	(18.2)	(15.25)	(5.25)	弧深: (3.05) ヨコナデ 刷印有	H-4
6	100-6	3層	平瓦	(18.2)	(15.25)	(5.25)	弧深: (3.05) ヨコナデ 刷印有	G-2
7	100-7	2層	平瓦	25.2	(18.75)	(6.0)	弧深: (3.95) ヨコナデ	G-3

第116図 SK3 土坑出土遺物

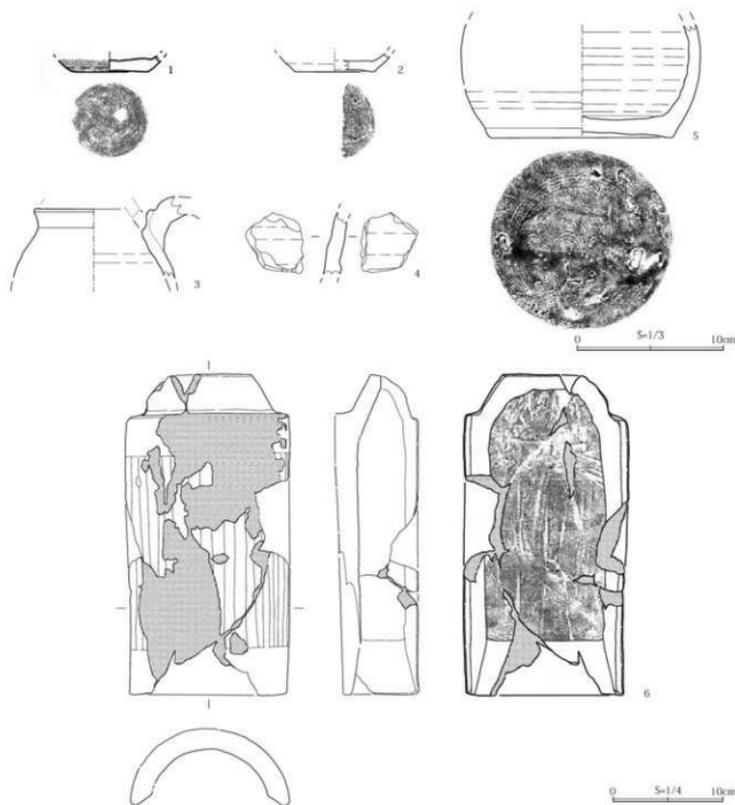
4) SK4 廃棄土坑 (第117～120図、図版44-1～8)

N1-W58～S1-W58 グリッドに位置する。主に瓦を廃棄した廃棄土坑である。北側はSK2、東側はSK3、西側はSK26と重複しており、SK26より新しく、SK2・3より古い。西側は一部調査区外へと伸びる。残存する規模は、長軸5.11m、短軸2.13m、深さ36cmを測る。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層で遺物に混ざって砂質シルトが堆積する。遺物は近世の平瓦97点、丸瓦74点、板瓦108点、不明瓦816点、合計1095点と、瀬戸・美濃の中世陶器、19世紀前半の堤焼きの油壺、18世紀代の在地産の壺、在地産の土師質土器等が出土している。そのうち、陶器2点、土師質土器2点、瓦7点を図示した。



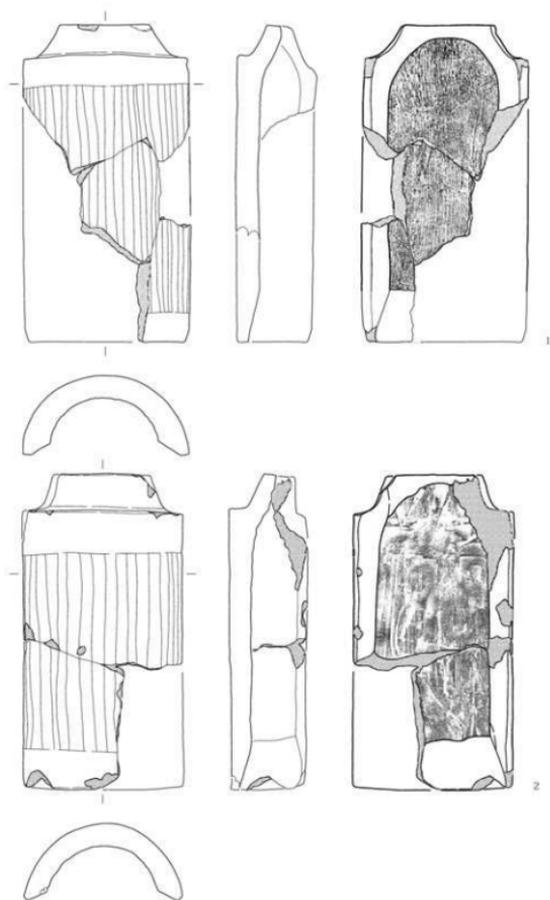
第117図 SK4 廃棄土坑平面図・断面図

第1節 川内駅部1区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	100-8	1層	土師瓦 土器	灯明皿	底部～ 体部	中～粗	-	5.35	(1.18)	在地	近世	ロクロナデ 油燈付着 底部回転糸切り痕有	ロクロナデ 右	1-73
2	100-9	1層	土師瓦 土器	かわら 埴	底部～ 体部	中～粗	-	(5.5)	(1.2)	在地	近世	ロクロナデ 底部回転糸切り痕有	ロクロナデ 左	1-74
3	100-11	1層	陶器	油壺	口縁～ 体部	中～粗	(8.2)	-	(5.7)	埴	19c 前半	鉄輪 (鉄輪下地) と重畳		1-75
4	100-12	1層	陶器	瓶	体部	中～粗	-	-	(4.2)	瀬戸	中世?	灰輪		1-76
5	100-10	1層	陶器	壺	胴部～ 底部	中～粗	-	12.4	(7.8)	在地	18c 代	鉄輪灰輪 ロクロナデ 右 目皿6つ有 回転糸切り痕有		1-77
図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考					登録番号		
				長さ	幅	厚さ								
6	100-13	1層	瓦葺	29.65	15.05	7.1	灰輪: (7.7) 頭輪: (14.3) 玉縁長: 3.55 外面: ヨコナデヘラケズリ 内面: コビキBヘラ切り機ヨコナデ 布目目皿重ヘラ取工具による底部破有					F-7		

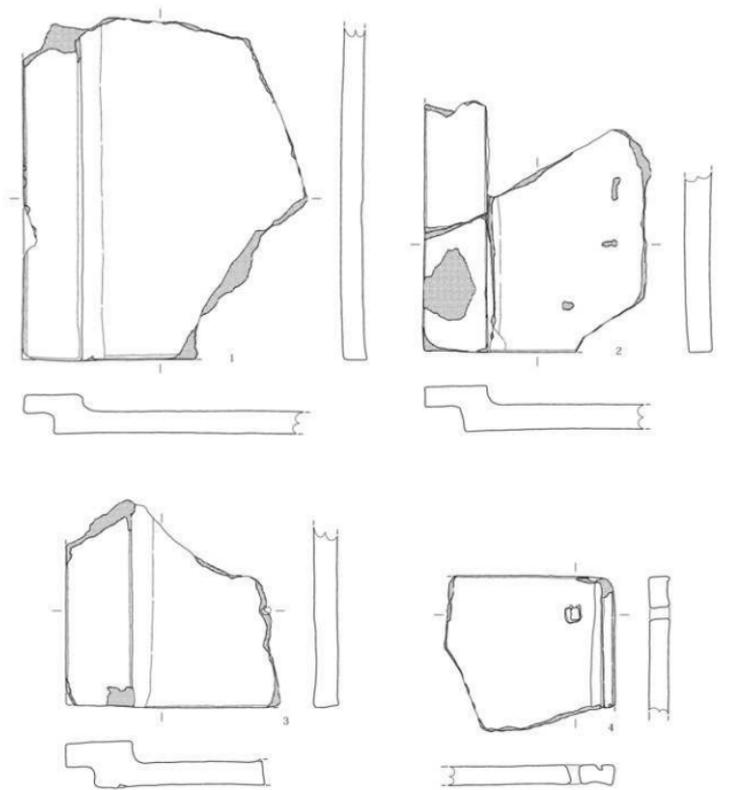
第118図 SK4 鹿棄土坑出土遺物 (1)



図版 番号	写真図版 番号	部位	種類	法量 (cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	101-1	1層	丸瓦	29.4	15.15	7.4	瓦幅：8.15 頭幅：44.2 玉縁長：2.8 胴長：26.5 外面：ヘラミガキナデ 内面：コビキB布目付遺 指頭面有	F-8
2	101-2	1層	丸瓦	(29.25)	14.65	7.1	瓦幅：7.25 頭幅：14.35 玉縁長：3.4 胴長：25.0 外面：ヨコナデヘラケズリ 内面：コビキBヘラ切り後ナデ 布目付遺ヘラ工具による成形痕有	F-9

第119図 SK4 鹿棄土坑出土遺物 (2)

第1節 川内駅部1区



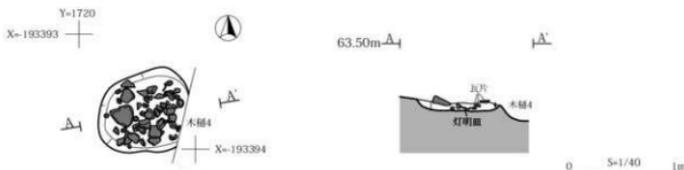
0 S=1/4 10cm

図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	101-3	1層	板屋瓦	(26.0)	(31.7)	3.65	枚幅: 5.35 きき幅: (22.9) 外面: ヨコナデ 内面: ナデによる粗い調整	H-5
2	101-4	1層	板屋瓦	(23.15)	(20.9)	4.25	枚幅: 5.7 きき幅: (16.4) ヨコナデ	H-6
3	101-5	1層	板屋瓦	(19.1)	(19.6)	4.35	枚幅: 6.0 きき幅: (15.55) ヨコナデ釘穴1残 内面にヘラ状工具による溝有	H-7
4	101-6	1層	板屋瓦	(14.45)	(15.6)	1.7	外面: ヨコナデヘラ切りによる溝有 内面: 板材(台)の痕有り	H-8

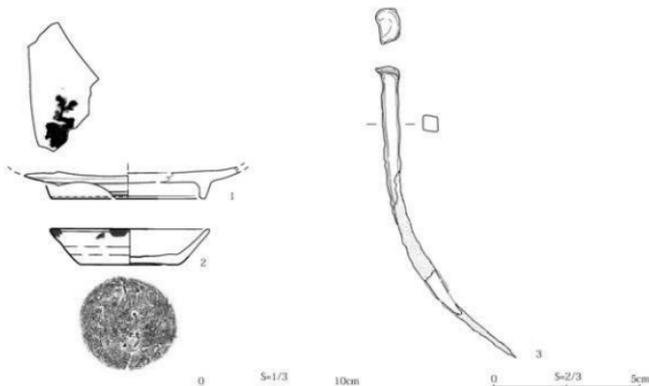
第120図 SK4 廃棄土坑出土遺物 (3)

5) SK5 土坑 (第 121 図、図版 45-1・2)

N1-W58 グリッドに位置し、東側は木樋 4 と重複し、SK5 が古い。残存する規模は、長軸 84cm、短軸 70cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整な円形と考えられ、断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は単層で、砂質シルトに瓦片が多量に含まれている。遺物は 17 世紀末～18 世紀前半の肥前産の磁器、在地産の灯明皿、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち磁器 1 点、土師質土器 1 点、金属製品 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	径 3～5cm の磁少量 木の屑少量 10YR5/6 黄褐色砂質シルト微量 径 3～5mm の炭化物微量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	101-7	1層	磁器	皿	底部		(10.65)	(2.2)		肥前	17c末～18c前半	染付松文(貝類 鉄絵) 買入有	J-35
2	101-8	1層	土師質土器	灯明皿	L部～底部	やや粗	(10.9)	6.8	2.5	在地	近世	油燈付着 底部に糸系切り痕有り	I-78

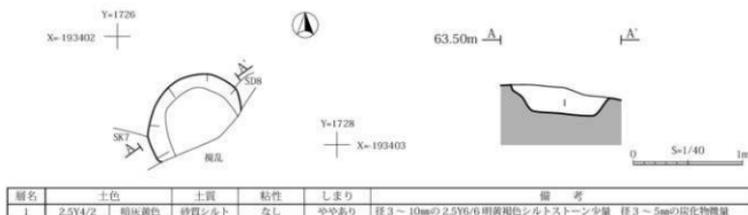
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ	重量			
3	101-9	3層	金属製品	(3.3)	(0.39)	(0.4)	(1.13)	釘		N-9

第 121 図 SK5 土坑平面図・断面図・出土遺物

6) SK6 土坑 (第 122 図、図版 45-3・4)

S1-W58 グリッドに位置しており、南側を近代の掘削に削平され、SK7、SD8 と重複しており、SK6 が新しい。残存する規模は、長軸 95cm、短軸 62cm、深さ 26cm を測り、主軸方向は N-46° E を示す。平面形は不整な円形と考えられ、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は出土していない。

第1節 川内駅部1区



第122図 SK6 土坑平面図・断面図

7) SK7 土坑 (第123図、図版45-5・6)

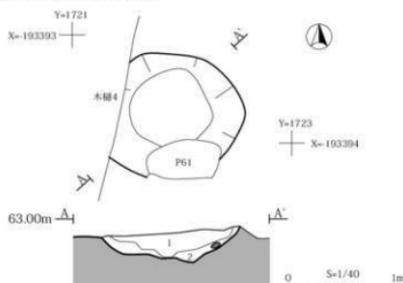
S1-W58 グリッドに位置し、南東側は近代の掘乱に削平され、北側の一部はSK6、南側はSD8と重複しており、SD8より新しく、SK6より古い。残存する規模は、長軸1.06m、短軸86cm、深さ37cmを測る。平面形は不整な楕円形、断面形は逆台形が考えられる。堆積土は4層からなり、1層と3層は砂質シルトで径約15cmの礫を含んでいる。2層、4層はシルトである。遺物は出土していない。



第123図 SK7 土坑平面図・断面図

8) SK8 土坑 (第124図、図版45-7・8)

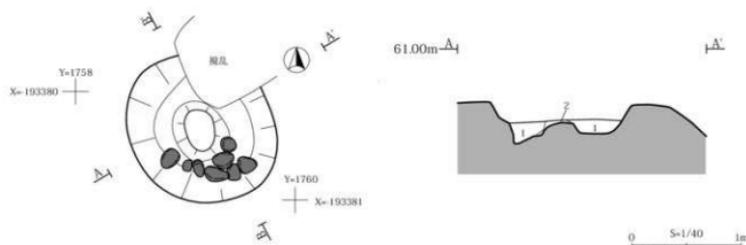
N1-W58 グリッドに位置し、北東側は木樋4、南側はP61と重複しており、SK8が古い。残存する規模は、長軸1.26m、短軸1.20m、深さ33cmを測り、主軸方向はN-47°-Eを示す。平面形は不整な楕円形と考えられ、断面形は逆台形を呈する。底面は南西側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともに砂質シルトである。遺物は出土していない。



第124図 SK8 土坑平面図・断面図

9) SK9 土坑 (第 125 図、図版 46-1・2)

N2-W55 グリッドに位置し、北側の一部を近代の攪乱に削平されている。残存する規模は、長軸 1.43m、短軸 1.30m、深さ 30cm を測り、主軸方向は N-28°-W を示す。平面形は円形と考えられ、断面形は両端を掘り窪め、中央を浅くした W 字状を呈する。堆積土は 2 層からなり、シルトである。また、底面の一部には径 10～24cm の礫が堆積している。検出状況から、本遺構は植栽痕の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

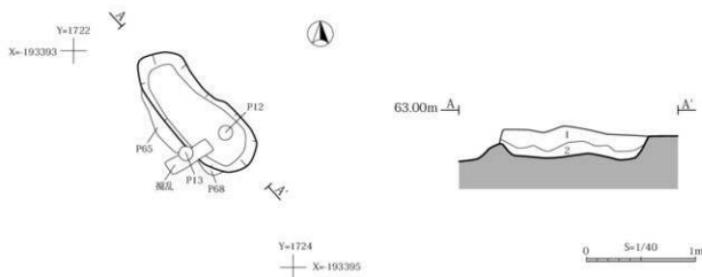


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 2.5Y6/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分少量
2	2.5Y6/4 にぶら黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量

第 125 図 SK9 土坑平面図・断面図

10) SK13 土坑 (第 126 図、図版 46-3・4)

N1-W58 グリッドに位置しており、北側を近代の攪乱に削平され、P65・68 と重複しており、SK13 が新しい。残存する規模は、長軸 1.37m、短軸 56cm、深さ 28cm を測り、主軸方向は N-44°-W を示す。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形と考えられる。底面は南側にやや起伏が見られ、北東側に緩やかに傾斜している。堆積土は 2 層からなり、砂質シルトである。遺物は出土していない。



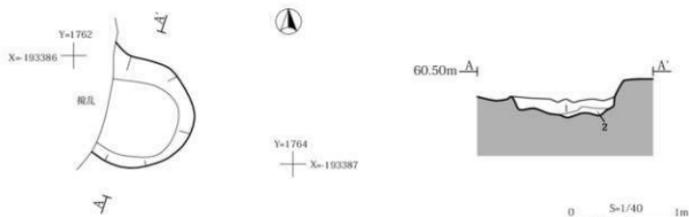
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 径 5～8mm の礫少量
2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト少量

第 126 図 SK13 土坑平面図・断面図

第1節 川内駅部1区

11) SK14 土坑 (第127図、図版46-5・6)

N2-W54グリッドに位置し、西側を近代の擾乱に削平される。残存する規模は、長軸1.01m、短軸80cm、深さ20cmを測る。平面形は不整な楕円形、断面形は逆台形と考えられる。底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。

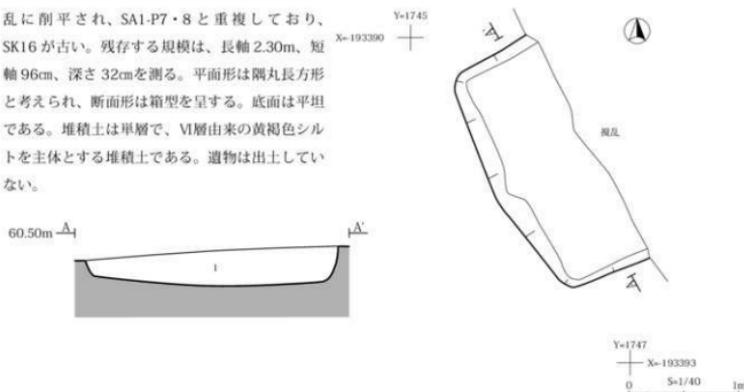


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰色シルト	なし	あり	2.5Y4/2暗灰黄色シルト多量 酸化鉄分少量
2	2.5Y5/3	黄褐色シルト	なし	あり	酸化鉄分少量 2.5Y5/2暗灰黄色シルト微量

第127図 SK14土坑平面図・断面図

12) SK16 土坑 (第128図、図版46-7・8)

N1-W56グリッドに位置し、北東側を近代の擾乱に削平され、SA1-P7・8と重複しており、SK16が古い。残存する規模は、長軸2.30m、短軸96cm、深さ32cmを測る。平面形は隅丸長方形と考えられ、断面形は箱型を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層で、VI層由来の黄褐色シルトを主体とする堆積土である。遺物は出土していない。



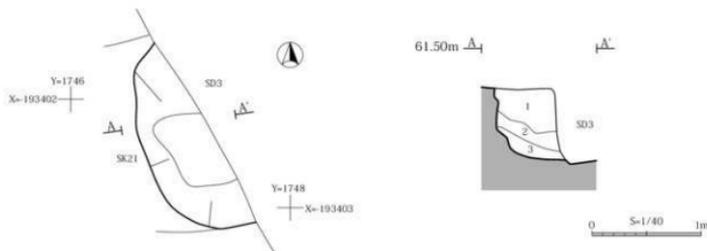
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3	黄褐色シルト	ややあり	あり	酸化鉄多量 2.5Y6/4に赤い黄色シルト少量 2.5Y5/1黄灰色シルト微量

第128図 SK16土坑平面図・断面図

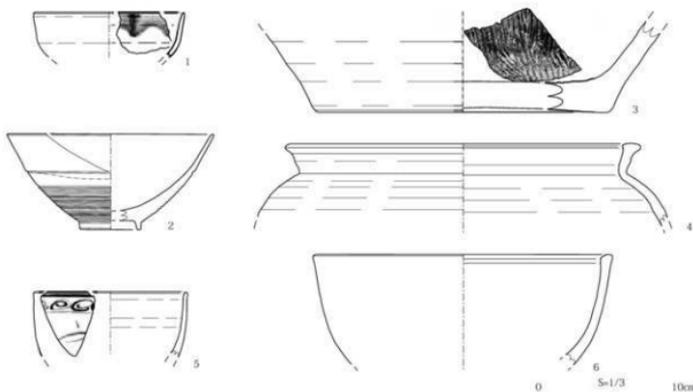
13) SK18 土坑 (第129図、図版47-1・2)

S1-W56グリッドに位置し、北東側をSD3に、南西側はSA3-P3b、SK21と重複しており、SK21より新しく、SA3-P3bより古い。残存する規模は、長軸1.89m、短軸67cm、深さ65cmを測る。平面形は不整な楕円形と考えられ、南側の壁面は、底面から急な角度で立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、シルトである。

遺物は17世紀～18世紀代の肥前産の磁器、18世紀代の大堀相馬産の碗、19世紀代の堤産の播鉢、18世紀～19世紀代の在産の甕等が出土している。そのうち陶器5点、磁器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量
2	2.5Y5/1	黄灰色シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/4 浅黄緑シルト少量 酸化鉄分少量
3	2.5Y4/1	黄灰色シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y7/4 浅黄緑シルト極微量



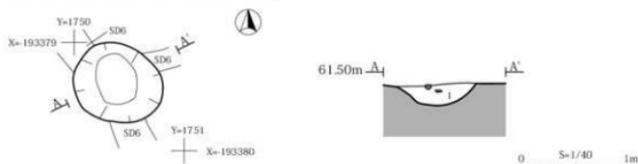
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	101-10	1層	陶器	碗	口縁～体部	密	10.3	-	3.1	大堀相馬	19c前	灰輪 買入有	I-79
2	101-12	1層	陶器	碗	口縁～高付体部		14.2	(4.2)	6.6	大堀相馬	18c	灰輪 鉄輪 買入有	I-80
3	101-14	1層	陶器	播鉢	体部～底部	粗	-	(20.0)	(6.3)	堤?	19c?	鉄輪 ロク口:右 使用直有 紙油 埋地直有 回転糸切直有	I-81
4	101-15	1層	陶器	甕	口縁～体部	粗	(24.4)	-	(5.7)	在池?	18c～19c	鉄輪 ロク口:右	I-82
5	101-11	1層	磁器	碗	口縁～体部	密	(21.6)	-	(3.5)	肥前	17c代	染付萬文? 陶線 ロク口:右	J-36
6	101-13	1層	磁器	香炉	口縁～胴部	密	(20.5)	-	(7.6)	有田・波佐見?	近世	青磁 買入有	J-37

第129図 SK18土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

14) SK19 土坑 (第130図、図版47-3・4)

N3-W55グリッドに位置し、中央付近はSD6と重複しており、SK19が新しい。規模は、長軸88cm、短軸76cm、深さ20cmを測り、主軸方向はN-34°-Wを示す。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は出土していない。

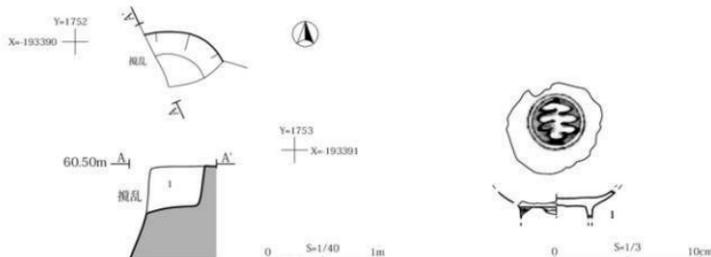


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR3/4	暗褐色 砂質シルト	ややあり	なし	2.5YR3/4 明褐色粘質土プロック少量 酸化鉄分少量

第130図 SK19土坑平面図・断面図

15) SK22 土坑 (第131図、図版47-5・6)

N1-W55～N2-W55グリッドに位置し、遺構のほぼ全体を近代の掘乱に削平されている。残存する規模は、長軸52cm、短軸52cm、深さ40cmを測る。平面形は不明で、断面形は箱型を呈する。堆積土は単層のシルトである。遺物は1層から17世紀代の肥前産の磁器が出土し、図示した。



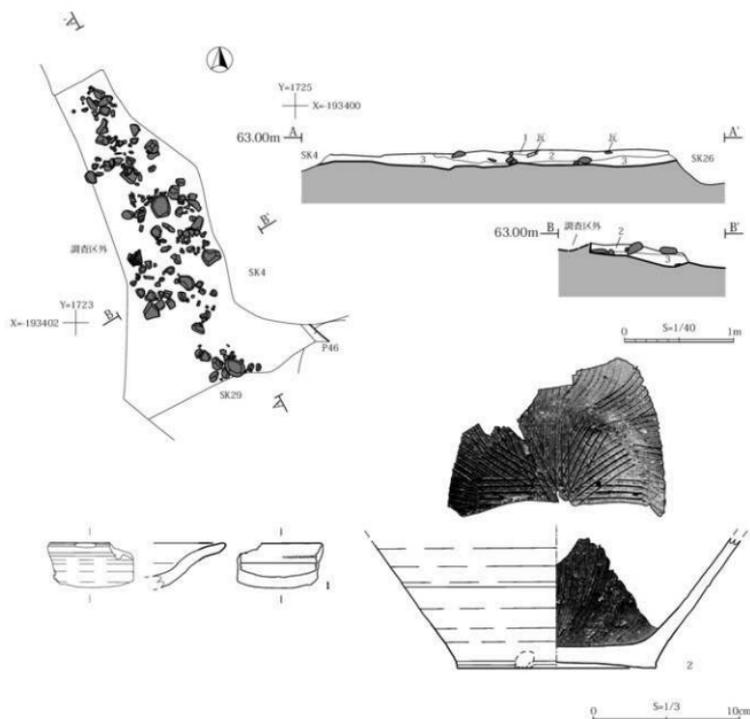
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
					酸化鉄分多量 径3～5mmの白色粒少量	径3～5mmの炭化物微量
1	2.5Y5/1	黄灰色 シルト	なし	あり	酸化鉄分多量 径3～5mmの白色粒少量	径3～5mmの炭化物微量

図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	102-1	1層	磁器	碗 or 鉢	高台	密	-	-	(1.95)	肥前	17c代	染付有 二重圓縁	J-38

第131図 SK22土坑平面図・断面図・出土遺物

16) SK26 土坑 (第132図、図版47-7～48-2)

S1-W58グリッドに位置しており、東側はSK4、南側はSK29、P46と重複しており、本遺構が古い。西側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸3.18m、短軸1.71m、深さ15cmを測り、主軸方向はN-29°-Wを示す。平面形は不明で、断面形は皿状を呈すると考えられる。底面はやや起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は3層からなり、1層は砂質シルトで、径5～10cmの礫と瓦片を多量に含んでいる。2層、3層は砂質シルトである。遺物は2層から17世紀初頭の唐津産の皿、3層から17世紀代の丹波産の播鉢が出土し、図示した。また、平成18年度の調査においては近代の掘乱に削平されていたため、本遺構は確認されていない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考			
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5～10cm程度の礫多量	瓦片多量	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径2～5cm程度の礫微量	瓦片微量	酸化鉄分微量
3	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	植物遺体微量	底面に厚さ1cm程度の2.5Y3/2黒褐色砂質シルトを帯状に含む	

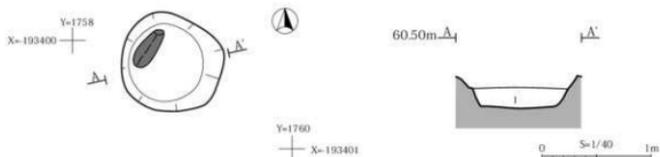
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	102-2	2層	陶器	皿	L球部	粗	-	-	(3.1)	唐津	17c初頃	灰軸 鉄絵	1483
2	102-3	3層	陶器	楕鉢	体部～底部	やや粗	-	(13.6)	(8.95)	丹波	17c代	丹波鉄化粧 墨目1条7本 口クロ：右 胎頭痕有 わら敷有 回転糸切痕有	1484

第132図 SK26土坑平面図・断面図・出土遺物

17) SK28土坑(第133図、図版48-3)

N1-W55～S1-W55グリッドに位置し、規模は、長軸93cm、短軸85cm、深さ18cmを測る。平面形は不整形円形で、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層でVI層由来の黄灰色シルトを主体とする。また堆積土には、長さ40cm、幅18cm、厚さ16cmの礫が含まれている。遺物は出土していない。

第1節 川内駅部1区

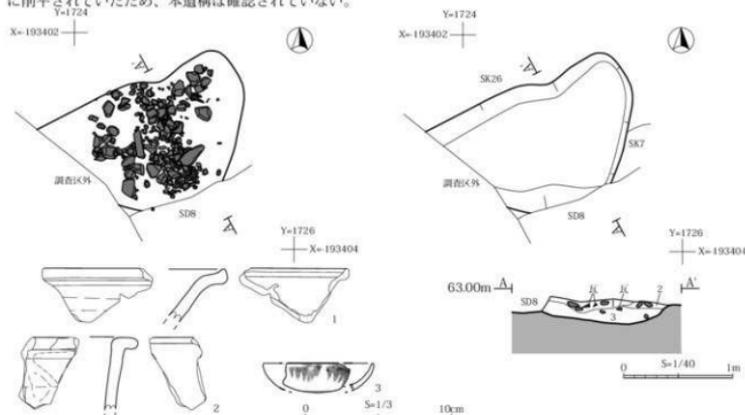


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1	黄灰色シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量

第132図 SK28土坑平面図・断面図

18) SK29土坑 (第134図、図版48-4～6)

N1-W58グリッドに位置し、南東側はSD8、SK7、北西側はSK26と重複しており、SK26より新しく、他の遺構より古い。西側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸1.63m、短軸1.20m、深さ24cmを測り、主軸方向はN-62°-Eを示す。平面形は不整な楕円形、断面形は逆台形が考えられる。堆積土は3層からなり、1層はシルト質砂である。2層は砂質シルトで径10cmの礫と瓦片を多量に含んでいる。3層も砂質シルトである。遺物は2層から17世紀末～18世紀前半の肥前産の磁器、3層から17世紀末～18世紀初頭の美濃産の陶器、岸産産の陶器等が出土している。そのうち陶器2点、磁器1点を図示した。また、平成18年度の調査においては近代の掘削に削平されていたため、本遺構は確認されていない。



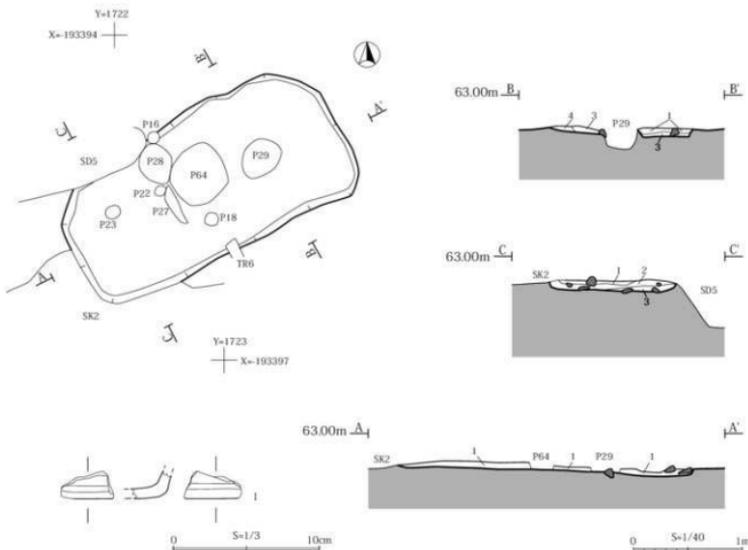
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色シルト質砂	ややあり	ややあり	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/4黄褐色中粒砂多量 径約10cmの礫多量 瓦片多量 酸化鉄分多量
3	2.5Y3/2	黒褐色砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト多量 酸化鉄分少量 径1～2cmの炭化物微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (mm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	102-4	3層	陶器	鉢	口縁～体部	やや粗	-	(3.7)	美濃	17c末～18c初	折鉢鉢	I-86	
2	102-5	3層	陶器	鉢	口縁～体部	やや密	-	-	5.05	岸産	17c後半	鉄軸	I-87
3	102-6	2層	磁器	仏飯具	口縁部	密	(7.6)	-	(1.9)	肥前	17c末～18c前半	袋付陶片文 陶器	J-112

第134図 SK29土坑平面図・断面図・出土遺物

19) SK33 土坑 (第 135 図、図版 48-7 ~ 49-4)

N1-W58 グリッドに位置し、北西側は SD5、遺構中央部を P28・29・64 と重複しており、SK33 が古い。規模は長軸 2.68m、短軸 1.39m、深さ 8cm を測り、主軸方向は N-62°-E を示す。平面形は隅丸長方形、断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、1 層～4 層まで砂質シルトである。遺物は 2 層から 16 世紀末～17 世紀初頭の織部の向付等が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色 砂質シルト	なし	あり	7.5YR4/4 褐色砂質シルト多量 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量
2	2.5Y4/3	暗オリーブ色 砂質シルト	あり	あり	酸化鉄分少量 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト微量 径 3～5mm の炭化物微量
3	2.5Y4/3	暗オリーブ色 砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト微量
4	2.5Y4/1	黄灰色 砂質シルト	なし	あり	径 5～10mm の礫少量 酸化鉄分少量

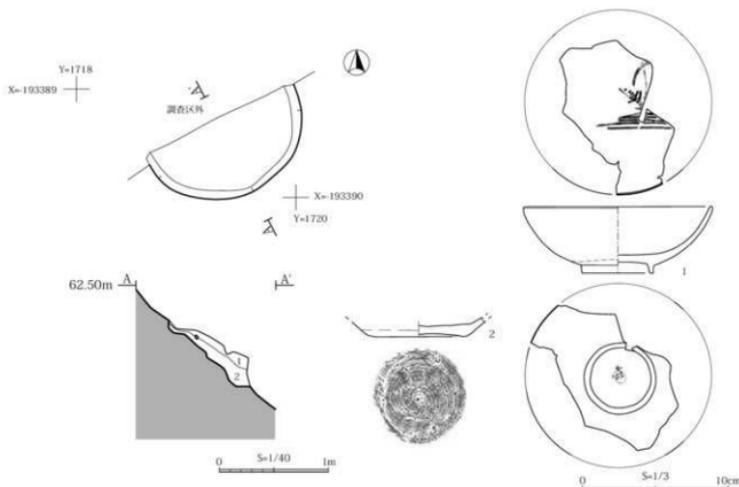
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	102-7	2層	陶器	向付?	底部	粗	-	-	(1.9)	織部	16c 末～17c 初頭	織軸	1488

第 135 図 SK33 土坑平面図・断面図・出土遺物

20) SK34 土坑 (第 136 図、図版 49-5 ~ 8)

N2-W59 グリッドに位置しており、遺構のほぼ全体を近世の造成の際に削平されている。残存する規模は、長軸 1.50m、短軸 75cm、深さ 62cm を測る。平面形は不明で、南壁面は底面より緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は 2 層からなり、1 層は VI 層由来の黄褐色シルトを主体とする堆積土である。2 層は砂質シルトである。2 層から 17 世紀後半の肥前産の陶器、在地産のかわらけが出土し、図示した。

第1節 川内駅部1区



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	なし	あり	2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト少量 酸化鉄分少量 径3~8mmの白色粒少量
2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5~10mmの炭化物少量 径2~5mmの白色粒少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	102-9	2層	陶器	平碗	上縁~高台	やや密	12.9	4.9	4.6	肥前	17c末~18c前半	京焼風肥前 鉄絵 高台に刷印有	149
2	102-8	2層	土師質土器	かわらけ	底面~体部	やや粗	-	6.6	1.31	在地	近世	ロクロナデ ロクロナデ 底面が転車切り後ナデ	190

第136図 SK34土坑平面図・断面図・出土遺物

(6) 上水施設

1) 上水施設 SE2上水桶・上水榭1~4・木樋1~4 (第137~144図、図版50-1~52-8)

上水桶1基、上水榭4基、木樋3条から構成され、調査区全体に巡る上水施設である。また、調査区北西端部N1-W58~N2-W58グリッドに位置する木樋4は、前述の上水施設と距離が離れており接続関係は見られないが、木樋の構造等から、別の上水施設に伴う木樋もしくは調査区外のどこかで分岐した筋遣いの木樋の可能性が考えられる。本遺構の時期は、検出状況と出土遺物から明治期に下るものと考えられる。

〈SE2上水桶〉

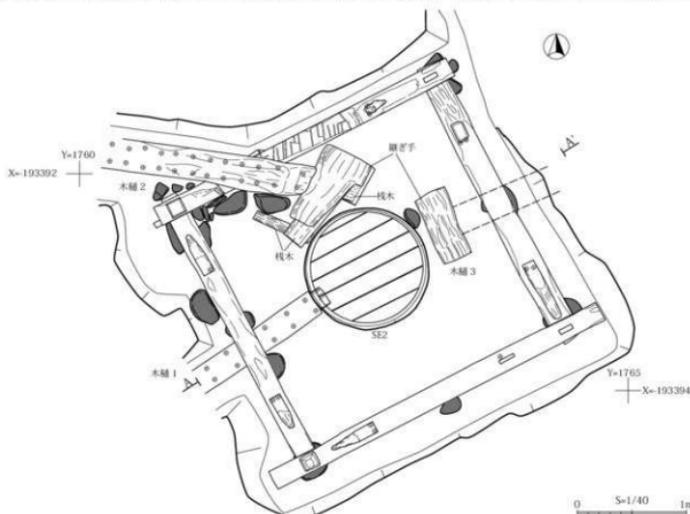
N1-W54グリッドに位置する木樋1、木樋2、木樋3が接続する上水桶である。桶の側面は残存していなかったため確認できなかったが、壁面において箍を3条、底面において長さ0.5~1.02m、幅6.0~16.8cm、厚さ8.8cmの7枚の板材を円形に組んだ桶の底が確認できた。このことから、井戸側の内径は1.04m、深さ1.42mと推測される。また、掘り方を46cm掘り下げた段階で、長さ2.85~3.36m、幅19.2~23.2cm、厚さ18.0~19.6cmの角材が井桁状に組まれた外郭施設を検出した。角材の下部には径22~34.0cmの扁平な自然石が据えられ、上部の四隅には支柱が据えられていたと考えられる柄穴と、それを支えるための横木が確認できた。検出状況から上水桶に伴う上屋の基礎構造であると判断した。掘り方の規模は、上屋の基礎部分が長軸3.66m、短軸3.44m、深さ72.8

cmを測り、上水桶の掘り方の上端の直径は2.0m、下端直径1.6m、深さ1.76mを測る。南北の長軸方向はN-32°・Wを示す。平面形は上屋の掘り方部分が正方形を呈し、上水桶の掘り方は不整な円形を呈する。断面形は遺構中央部分が桶を埋設するために掘り窪められているため段状を呈する。底面は平坦である。堆積土は13層からなり、1層、2層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。3層～13層は掘り方でVI層由来の明黄褐色シルトを基調する堆積土である。1層から近代瓦が大量に出土し、2層からは19世紀中頃～19世紀後半以降の瀬戸・美濃産の磁器、近代の瓦等が出土している。そのうち磁器3点を図示した。

〈木桶の接続状況〉

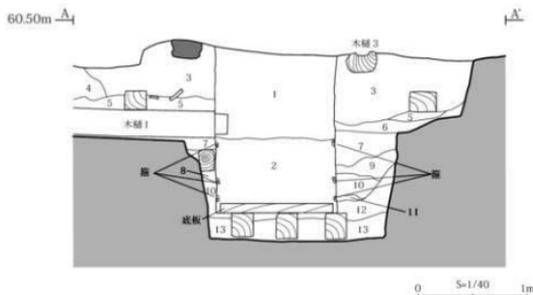
桶に接続する木桶1～3はそれぞれ接続の仕方と接続レベルが異なる。南西方向から接続する木桶1は、桶の底面から約60cmの高さで、直接桶の側壁に接続している。北西側から接続する木桶2は、木桶1より約66cm上部に位置し、桶には直接接続せずに、桶の48cm手前で継ぎ手に接続する。継ぎ手から桶に接続する箇所は破損しているため確認できなかったが、箱状の物が接続していたと考えられる。北東側から接続する木桶3は、SE2に繋がる木桶が攪乱で壊され直接確認できなかったが、SE2において検出した継ぎ手の位置と方向から、SE2に接続すると考えられる。木桶2よりも20cm上部に位置し、木桶2と同様に、桶の36cm手前で継ぎ手に接続した後、桶へと接続している。これらの状況から、一番下に位置する木桶1は木桶自体を基盤層上に設置でき、直接桶に接続させても、桶に負荷がさほどかからないとも考えられる。それに対し、木桶2、3は木桶1と高低差をつけるために、上屋の基礎構造や破材を使って木桶の高さを調節しているため、木桶の重さを分散させるための接地面が少なくなっていることから、桶が破損することを避けるために、継ぎ手を使用していたものと考えられる。

また、桶に接続する木桶1～3の長さの違いから次のような給水状況が考えられる。まず、1番下位に位置する木桶1から桶に水が給水され、桶の中で水が溜まり水位が上がった後、木桶2、3に配水されていたと考えられる。



第137図 SE2上水桶平面図

第1節 川内駅部1区



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦片多量 酸化鉄分多量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	端材多量 瓦片少量 塵少量
3	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 径3~5mmの白色粒多量 酸化鉄分少量
4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
5	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
6	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト微量
7	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分微量
8	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	径3~5mmの反応物多量 酸化鉄分微量
9	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 酸化鉄分微量
10	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
11	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/6 明黄褐色シルト多量
12	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト微量 グライ化
13	5Y5/1 灰色	シルト	ややあり	あり	木材含む(基礎) グライ化

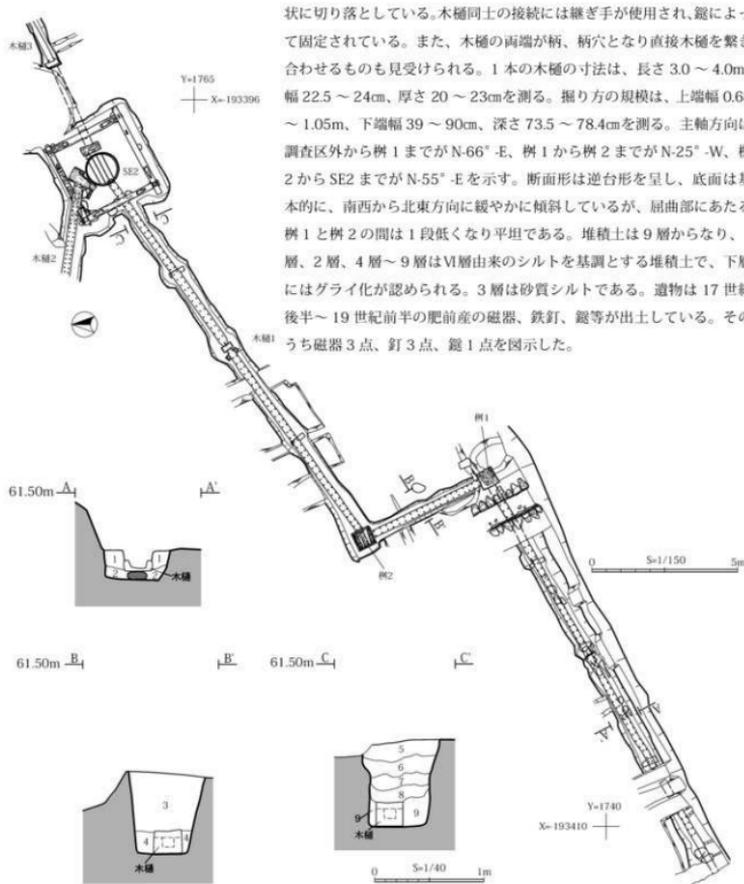


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法測 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	102-10	2層	磁器	陶香	口縁~ 器台	密	9.0	3.2	4.0	瀬戸・ 美濃	19c 中~ 19c 後半	陶付仏堂文	J-39
2	102-11	2層	磁器	蓋	口縁~ つまみ	密	7.0	-	2.6	不明	19c 中~ 19c 後半	陶付家文	J-40
3	102-12	2層	磁器	蓋	口縁~ つまみ	密	6.5	-	2.0	不明	19c 中~ 19c 後半	陶付家文? 横線痕あり	J-41

第138図 SE2 上水桶断面図・出土遺物

〈木桶1〉(第139・140図、図版51-1~3)

S2-W57~N1-W54 グリッドに位置する。8本の木桶と2つの樹から構成され、総長34.86mの給水木桶である。攪乱で一部削平される。SD3と重複し、木桶1が新しい。南西から北東に直進し、上水樹1に接続し北西に向きをかえる。さらに約4m直進した後、上水樹2に接続し北東方向に向きを戻し13.8m直進した後、SE2(上水桶)へ接続する。木桶の構造は材を凹形に削り貫き蓋をした後、釘で止め、木桶同士を接続させる両端部は直角三角形

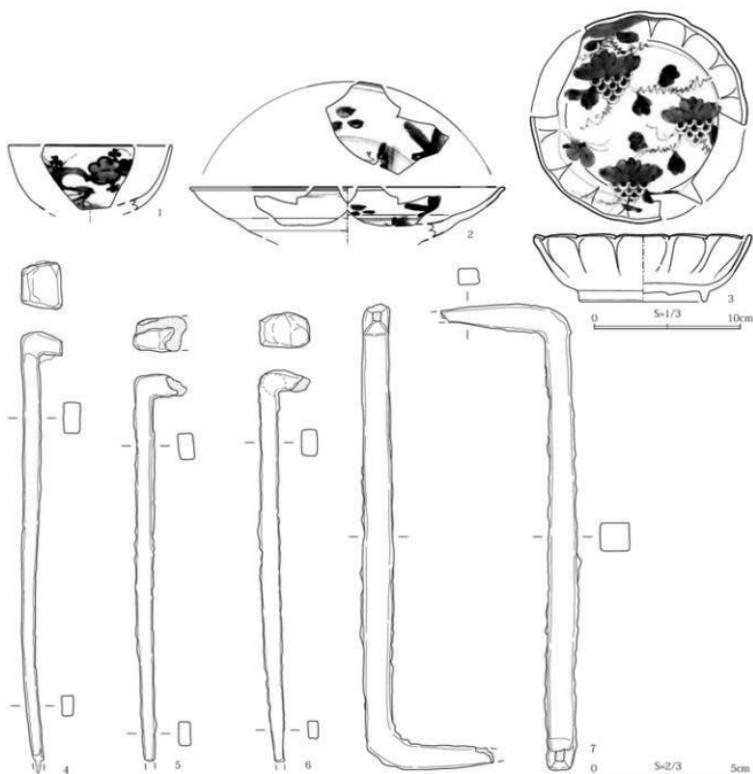


状に切り落としている。木樋同士の接続には継ぎ手が使用され、鏝によって固定されている。また、木樋の両端が柄、柄穴となり直接木樋を繋ぎ合わせるものも見受けられる。1本の木樋の寸法は、長さ3.0～4.0m、幅22.5～24cm、厚さ20～23cmを測る。掘り方の規模は、上端幅0.68～1.05m、下端幅39～90cm、深さ73.5～78.4cmを測る。主軸方向は調査区外から樹1までがN-66°-E、樹1から樹2までがN-25°-W、樹2からSE2までがN-55°-Eを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は基本的に、南西から北東方向に緩やかに傾斜しているが、屈曲部にあたる樹1と樹2の間は1段低くなり平坦である。堆積土は9層からなり、1層、2層、4層～9層はVI層由来のシルトを基調とする堆積土で、下層にはグライ化が認められる。3層は砂質シルトである。遺物は17世紀後半～19世紀前半の肥前産の磁器、鉄釘、鏝等が出土している。そのうち磁器3点、釘3点、鏝1点を図示した。

第139図 木樋1平面図・断面図

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/2 明灰黄色シルト多量酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
3	2.5Y6/3 近い黄色	砂質シルト	なし	あり	径1～3cmの礫微量 酸化鉄分微量
4	5Y5/3 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
5	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 5Y7/2 灰白色シルト微量 グライ化
6	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	5Y7/2 灰白色シルト少量 2.5Y5/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量 グライ化
7	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	5Y7/2 灰白色シルトブロック少量 酸化鉄分微量 グライ化
8	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 グライ化
9	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	5Y5/1 灰白色シルト多量 グライ化

第1節 川内駅部1区



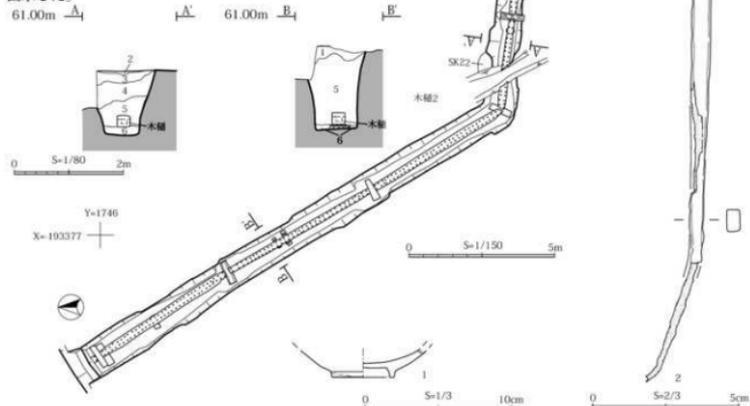
図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	103-1	一括	磁器	碗	口縁～ 胴部	密	(11.2)	-	(4.5)	波色瓦	18c 中	染付梅文	J-42
2	103-2	一括	磁器	皿	体部	密	(21.6)	-	(3.5)	肥前	17c 後半? 18c 初	中皿 (20cm 以上) 前脚 買入有	染付 團扇 二 J-43
3	103-3	一括	磁器	輪花皿	口縁～ 高台	密	14.9	8.8	4.6	肥前	18c 末～19c 前	染付菊に雲文 蛇の目四高台 傍観者有	J-44

図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	103-4	一括	金属製品	(15.35)	1.4	1.05	(35.91)	釘 上部に麻?付着	N-10
5	103-5	一括	金属製品	(13.48)	(1.8)	(0.9)	(31.02)	釘	N-11
6	103-6	一括	金属製品	(13.6)	(1.75)	(0.9)	(27.42)	釘 上部に麻?付着	N-12
7	103-7	一括	金属製品	16.2	(4.4)	1.0	(93.02)	釘	N-13

第140図 木樋1出土遺物

〈木樋2〉(第141図、図版51-2)

N2-W54～N5-W55グリッドに位置する。7本の木樋から構成され、総長28.3mの配水木樋である。近代の攪乱で一部削平され、SE3、SK22と重複しており、木樋2が新しい。SE2(上水桶)から西方向に約11.8m直進した後、屈曲し北西方向に向きをかえ、16.50mさらに直進し、調査区外へと延びる。木樋の構造は、木樋1と同様である。1本の木樋の寸法は、長さ4.25～5.67m、幅21～33cm、厚さ21.6～29.6cmを測る。掘り方の規模は、上端幅0.87～1.31m、下端幅0.46cm～1.06m、深さ0.58～1.05mを測る。主軸方向は、屈曲部より東側がN-83°-W、西側がN-32°-Wを示す。断面形状は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は6層からなり、1層は砂質シルト、2層～6層はVI層由来のシルトを基調とする堆積土である。遺物は18世紀代の大堀相馬産の陶器、鉄釘等が出土している。そのうち陶器1点、釘1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/6明黄褐色シルト少量 径0.5～1cmの礫微量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	5Y7/2	灰白色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2暗灰黄色シルト多量 酸化鉄分微量 グライ化
4	5Y7/2	灰白色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 グライ化
5	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y8/1灰白色シルト多量 酸化鉄分多量
6	2.5Y7/3	黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 グライ化

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	103-9	5層	陶器	碗	高台	密		(4.3)	(2.0)		大堀相馬	18c代	灰輪 買入有	I-91

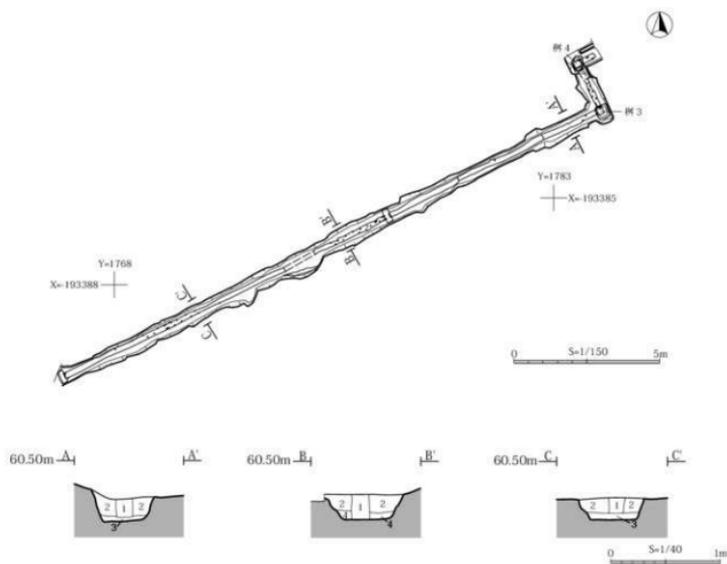
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ	重量			
2	103-8	一括	金属製品	(166)	1.6	1.0	(34.38)	釘		N-14

第141図 木樋2平面図・断面図・出土遺物

第1節 川内駅部1区

(木樋3) (第142図、図版52-1～3)

N2-W54～N5-W55グリッドに位置し、Ⅱ区まで延びている。木樋の遺存状態は良くないが、推定8本の木樋から構成される配水木樋と考えられ、総長は43.47mを測る。近代の攪乱で削平されているため、SE2との接続は確認できなかったが、SE2内において検出した継ぎ手の位置と方向から、SE2(上水樋)の東側に接続すると考えられる。SE2から北東方向に約38.7m直進し、樹3に接続した後、北西方向に向きを変える。そこから、3.47m直進し樹4に接続して北東方向に向きを戻し、1.27m直進し調査区外へと延びる。木樋の構造は、木樋1と同様である。1本の木樋の寸法は、長さ3.47～3.69m、幅33.6～34.5cm、厚さ18～24cmを測る。掘り方の規模は、上端幅58～72cm、下端幅38～46cm、深さ20～30cmを測る。主軸方向はSE2から樹3までがN-65°-E、樹3から樹4までがN-26°-W、樹4から調査区外へ延びる木樋はN-64°-Eを示す。断面形は壁面がやや外反して立ち上がり、底面は北西側に緩やかに傾斜する。堆積土は4層からなり、1層は黄灰色シルトで木樋の残骸を含んでいる。2層～4層もシルトである。遺物は18世紀代の大塚相馬産の陶器、鉄釘等が出土しているが、細片のため図示していない。

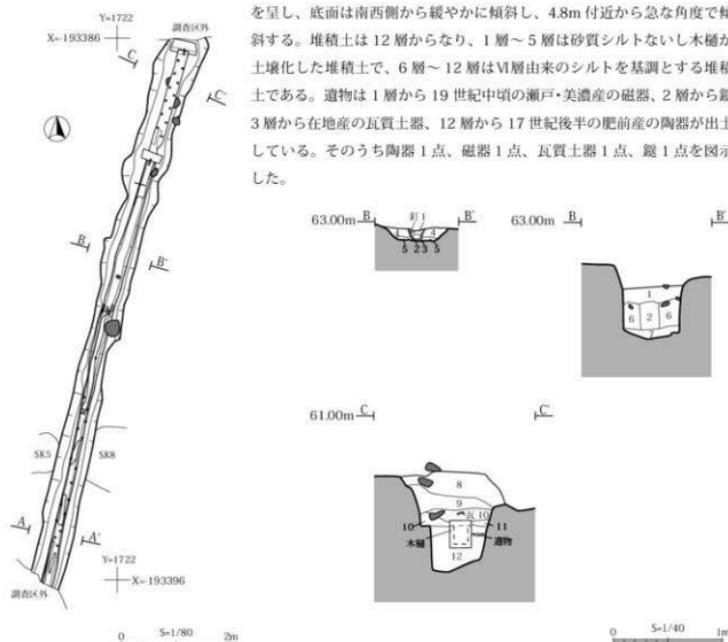


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	本樋の残骸含む 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
3	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量

第142図 木樋3平面図・断面図

〈木桶4〉(第143図・144図、図版52-4～8)

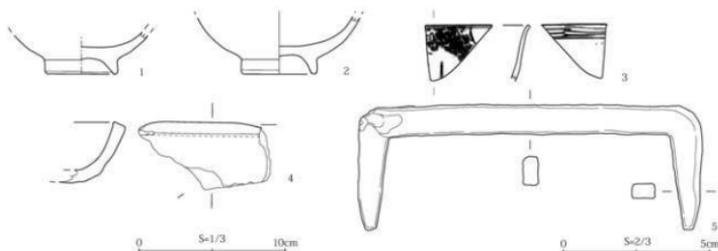
N1-W58～N2-W58グリッドに位置する。平成18年度に確認された、南西から北東方向に走る総長16.28mの4号木桶と同一の木桶である。SK5・8、P200と重複しており、木桶4が新しい。木桶の遺存状態は良くないが、推定4本の木桶から構成され、木桶1～3とは距離が離れるものの、木桶の構造等から、同じ性格を持つ配水木桶であると考えられる。総長は10.50mを測り、N2-W58グリッド付近から約45°の斜面を下り調査区外へと延びている。1本の木桶の寸法は、長さ2.04～2.96m、幅18～20cm、厚さ26cmを測る。掘り方の規模は上端幅60～96cm、下端幅36.8～59cm、深さ12～92cmを測る。主軸方向はN-14°-Eを示す。断面形は逆台形ないし箱形を呈し、底面は南西側から緩やかに傾斜し、4.8m付近から急な角度で傾斜する。堆積土は12層からなり、1層～5層は砂質シルトないし木桶が土壌化した堆積土で、6層～12層はVI層由来のシルトを基調とする堆積土である。遺物は1層から19世紀中頃の瀬戸・美濃産の磁器、2層から鋳、3層から在地産の瓦質土器、12層から17世紀後半の肥前産の陶器が出土している。そのうち陶器1点、磁器1点、瓦質土器1点、鋳1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分微量。
2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	層1～2cmの埋埋層。木の組織層。
3	2.5Y3/2 黒褐色	腐食土	なし	なし	木桶が土壌化したもの。(木桶本体)
4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	厚0.5cm程度の炭化物微量。木の根少量。
5	2.5Y6/3 に近い黄色	砂質シルト	なし	なし	底面に木桶残骸あり
6	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	厚1cm程度の埋埋層。
7	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
8	2.5Y7/4 浅黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分少量 一部グライ化
9	2.5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト微量 酸化鉄分微量 グライ化
10	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰オリーブ色シルト少量 グライ化
11	2.5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	
12	2.5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト多量 遺物含む グライ化

第143図 木桶4平面図・断面図

第1節 川内駅部1区



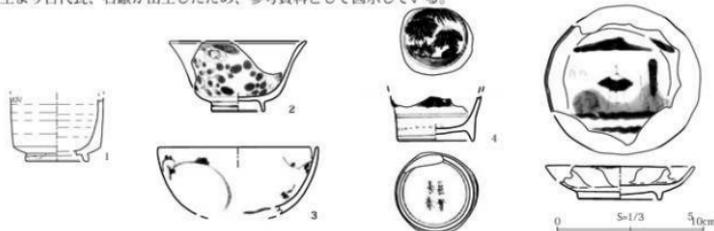
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	103-10	4層	陶器	碗	高台～体部	やや粗	-	5.0	(2.65)	肥前	17c末	透明釉 貫入有	I-92
2	103-11	掘り方	陶器	碗	高台	やや密	(11.1)	5.2	(3.95)	肥前	17c後半～	灰釉	I-93
3	103-13	1層	磁器	端反碗	口縁～脚部	密	-	-	(3.9)	瀬戸・美濃	19c中頃	染付有	J-45
4	103-12	3層	瓦質土器	十徳	脚部～体部	-	-	-	4.2	在地	近世	三方弁 煎頭直有	I-94

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			
5	103-14	-	金属製品	11.8	1.0	0.1	(57.9)	籠	N-15

第144図 木桶4出土遺物

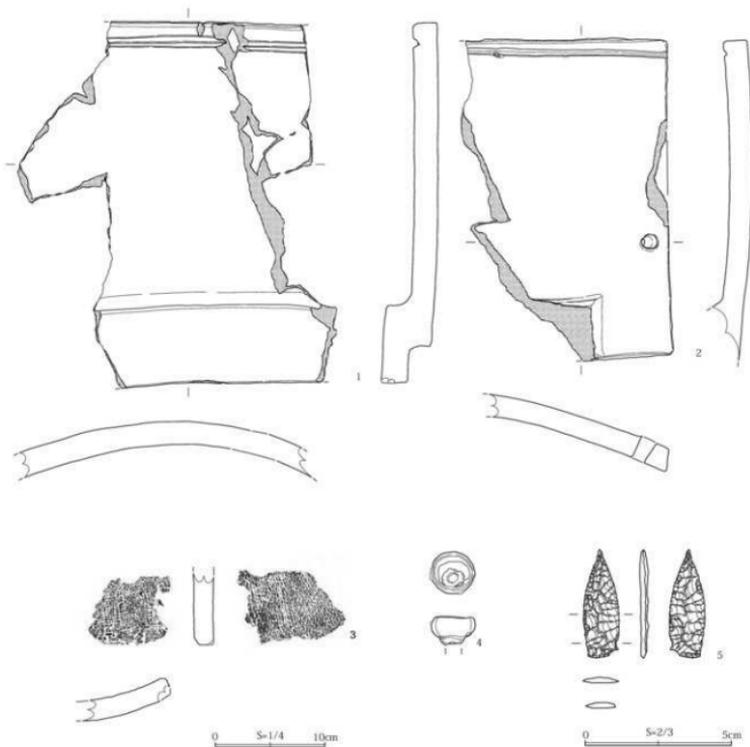
(6) Ⅲ層出土遺物 (第145・146図、図版103-15～104-5)

Ⅲ層からの出土遺物は、総数282点出土した。内訳は磁器71点、陶器45点、土師質土器6点、軒平・平瓦44点、軒丸・丸瓦16点、その他の瓦87点、土製品2点、金属製品9点、石製品2点である。陶磁器に関しては18世紀前半～19世紀中頃の遺物が出土している。出土した遺物から遺存状態の良いものを図示した。また、整地土より古代瓦、石叢が出土したため、参考資料として図示している。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	103-15	N2-W55・54	陶器	小型茶碗	高台～体部	やや密	-	(4.35)	(4.4)	産地不明	18c以降	灰釉 煎釉流し掛付 貫入有	I-95
2	103-17	N2-W55・54	磁器	端反碗	口縁～高台	密	(9.45)	3.65	4.80	瀬戸・美濃	19c	染付草花文 煎釉 二重煎釉 見込み岩文?	J-46
3	103-16	N1-W58	磁器	碗	口縁～体部	密	(10.90)	-	(4.65)	波佐見	18c中	染付草花文	J-47
4	103-18	N1-W58	磁器	碗?	体部～高台	密	-	5.25	(3.10)	肥前	19c中頃	染付○×文岩・竹文? 高台内「富貴長寿」	J-48
5	103-19	N1-W59	磁器	皿	口縁～高台	密	10.15	5.75	2.3	肥前	19c前半	染付楼閣山水文口縁部:口縁有	J-49

第145図 Ⅲ層出土遺物 (1)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	104-1	N1-W58	信州瓦	33.8	29.1	5.2	残幅：7.15 長さ幅：(22.05) 外面：残部面取り 残接合後ヨコナデ 全体的にヨコナデによる調整 内面：残接合後ヨコナデ 部による斜め調整	H-9
2	104-2	N1-W58	角残瓦組 (29.95)	(19.4)	7.1		長さ足：(29.05) 弧深：5.0 横瓦 全体的にヨコナデ 穴 1溝 1条	H-10
3	104-3	N1-W58	平瓦	(6.73)	(9.2)	1.8	古代瓦 外面：叩き目 内面：布目圧痕	G-4

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	104-4	N1-W58	金属製品	1.0	1.5	0.5	(1.21)	埋管火口	N-16

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	104-5	N1-W58	石器	3.8	1.2	3.0	1.30	石器 基部欠損後再加工 石材：珉質頁岩	K-5

第146図 川層出土遺物 (2)

第2節 川内駅部Ⅱ区

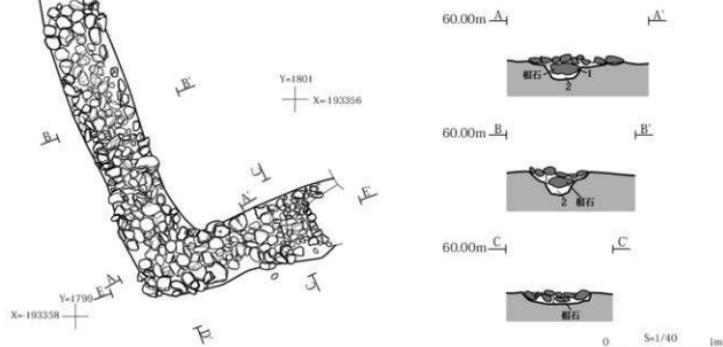
1 V層上面検出遺構

第4章で述べたように、本調査においてV層整地土はI区の石垣より西側のごく一部のみ確認でき、Ⅱ区においてV層整地土は確認できていない。しかし、調査においてVI層（基盤層）直上より掘り込まれている遺構を確認し、遺構の切り合い関係から、これらの遺構をV層新段階上面遺構とし、V層新段階上面遺構配置図を作成した。建物跡1基、溝跡3条、土坑23基、性格不明遺構5基、ピット21基を検出した。堆積状況と出土遺物から17世紀中頃～17世紀後半かけての遺構と考えられる。

(1) 建物跡

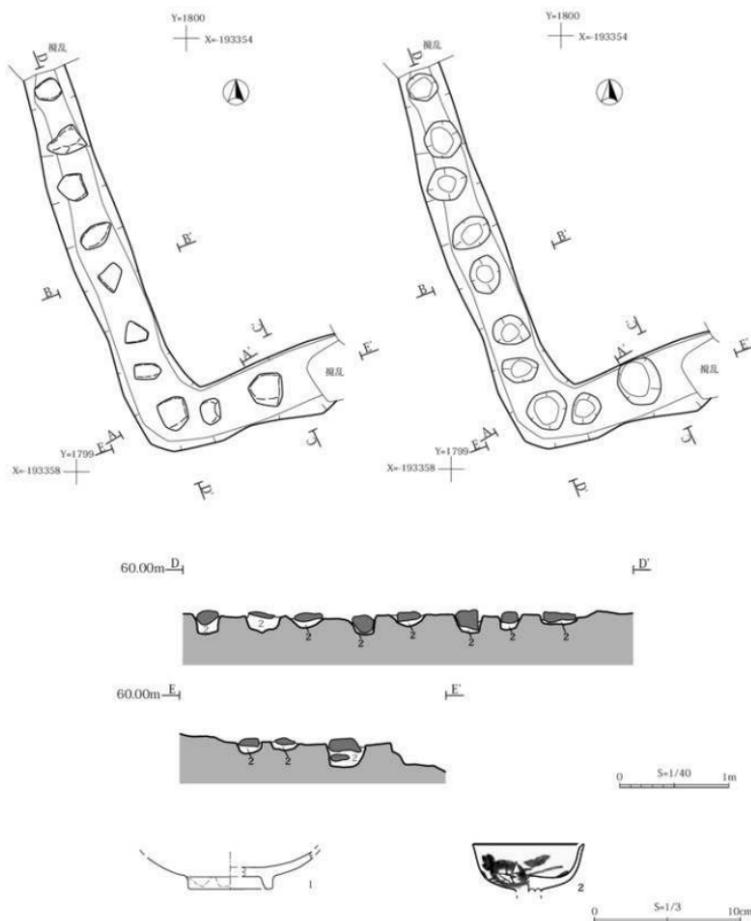
1) SB4 建物跡 (第147・149図、図版53-1～54-1)

N5-W50～N5-W51グリッドに位置する。東側と北側を近代の攪乱で削平されているが、東側は調査区外へ延びるものと考えられる。調査段階ではSD23の遺構番号を付して調査を行ったが、整理段階において再度検討した結果、建物の基礎の可能性が考えられるため、SB4の遺構番号を新たに付している。平面形はL字状を呈し、総長は5.72mを測る。主軸方向は屈曲部の北側がN-20°-Wを示し、東側がN-71°-Eを示す。調査において礎石と考えられる石は確認できなかったが、溝状の掘り方の中に、径4.8～22cmの礫が敷きつめられている。また、礫の下には更に掘り方があり、長さ22.4～32.8cm、幅16～30cm、厚さ4.8～18cmの礫が約48cm(1尺6寸)の間隔で10箇所据えられており、検出状況から、基礎を安定させるために据えられた下部構造と考えられる。掘り方の規模は上端幅44.8～56.8cm、下端幅23.2～48cm、深さ6.0～11.2cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。基礎の下部構造の掘り方は長軸27.2～38.0cm、短軸20～36cm、深さ8.0～20.0cmを測る。平面形は不整な円形を呈し、断面形は箱形ないし皿状を呈する。堆積土は3層からなり、1層は礫層で、2層、3層は砂質シルトを基調とする堆積土である。遺物は1層より17世紀後半～18世紀代の肥前産の磁器が出土している。そのうち、陶器1点、磁器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	細灰黄色 シルト質砂	ややあり	あり	径0.5～1mmの炭化物少量
2	2.5Y4/1	黄灰色 砂質シルト	あり	あり	径約5mmの2.5Y6/4に近い黄灰色シルトブロック少量 径5mmの炭化物少量

第147図 SB4 建物跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	104-6	1層	陶器	鉢	高台-体部	中々密	-	0.8	2.6	大塚粗馬	18c代	灰釉	I-06
2	104-7	1層	磁器	仏教具	体部	密	-	-	1.1	肥前	18c?	染付草花文 貫入有	J-50

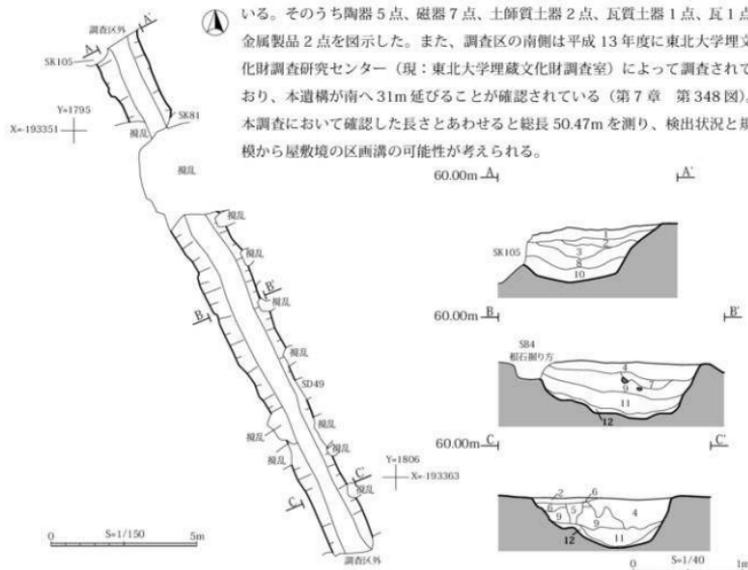
第149図 SB4 建物跡平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

(2) 溝跡

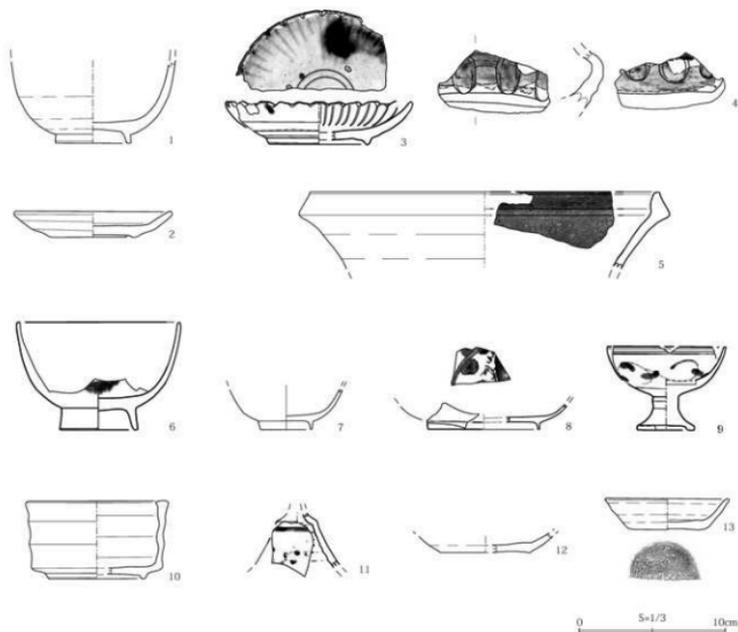
1) SD24 溝跡 (第150～152図、図版54-2～8)

N6-W51～N4-W50グリッドに位置し、南東から北西方向に直線的に走る総長19.47mの素掘りの溝跡である。一部を近代の掘削で削平され、SB4と重複しており、SD24が古い。両端部は調査区外へと延びる。規模は、上端幅1.39～1.78m、下端幅0.49～1.02mを測り、主軸方向はN-25°Eを示す。断面形は壁面がやや外反して立ち上がり、底面は平坦ないし東側が一段高くなり段状を呈する。堆積土は12層からなり、1～4・6～9層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。5層は根植乱、10層～12層はシルトで、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は1層から17世紀後半の肥前産の磁器、2層から16世紀末～17初頭の中国産の磁器、17世紀後半頃の丹波産の播鉢、17世紀後半の瀬戸・美濃産の皿、17世紀後半～18世紀初頭の岸産産の陶器、天聖元寶銭、3層から17世紀後半の肥前産の陶器、17世紀後半以降の志野産の皿、4層から飾り瓦等が出土している。そのうち陶器5点、磁器7点、土師質土器2点、瓦質土器1点、瓦1点、金属製品2点を図示した。また、調査区の南側は平成13年度に東北大学理文化財調査研究センター(現:東北大学理文化財調査室)によって調査されており、本遺構が南へ31m延びることが確認されている(第7章 第348図)。本調査において確認した長さとおわせると総長50.47mを測り、検出状況と規模から屋敷境の区画溝の可能性が考えられる。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	径1～2mmの灰白色粒少量 0.5～1mmの炭化物少量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト多量 径0.5～1mmの炭化物微量
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/3 黄褐色シルト 径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
4	2.5Y3/2	黄灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分少量
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	根植乱
6	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰色シルト微量 酸化鉄分微量
7	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
8	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
9	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
10	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/3 にぶい黄色シルト微量 酸化鉄分微量
11	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
12	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト少量

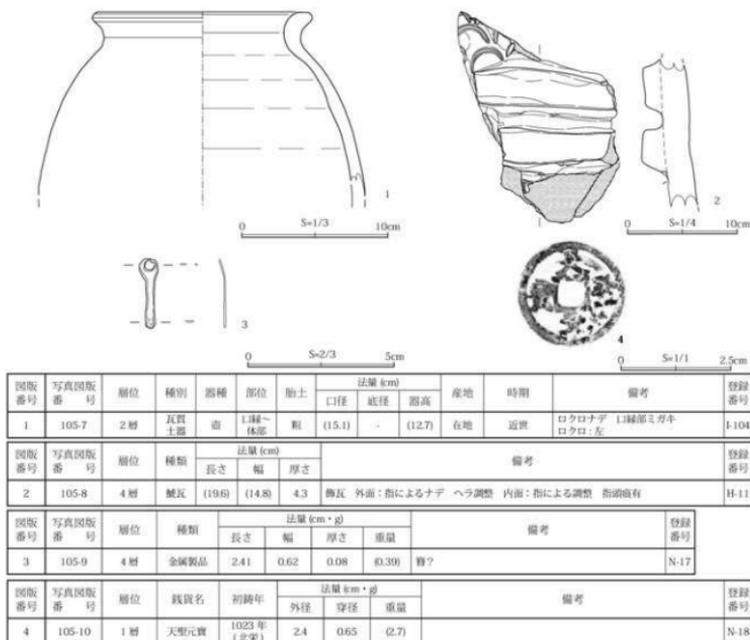
第150図 SD24 溝跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	104-8	3層	陶器	碗	体部～高台	やや密	-	5.25 (5.75)	肥前	17c 後半	灰輪	I-97	
2	104-9	3層	陶器	皿	口縁～高台		10.8	(5.8)	1.8	志野	17c 後半以降	志野輪 ロク口:左	I-98
3	104-12	2層	陶器	皿	口縁～高台		(12.8)	7.0	3.0	瀬戸・美濃	17c 後半	灰輪 緑輪 貫入有 ロク口:左	I-99
4	104-10	2層	陶器	鉢	底部	粗	-	-	(3.7)	岸田	17c 後半～18c 初期	灰輪 体部凹凸有	I-100
5	104-11	2層	陶器	楕鉢	口縁～高台	やや粗	(24.0)	-	(5.3)	丹波?	17世紀後半?	鉄輪 轆1条7本	I-101
6	104-14	1層	磁器	貝蓋手鏡?	口縁～高台	密	(11.25)	5.35	7.5	肥前	17c 後半	染付 本製品の形を踏襲	J-51
7	104-13	1層	磁器	白磁碗	体部～高台	密	-	3.55	(2.75)	肥前	18c 代		J-52
8	105-1	2層	磁器	皿	体部～高台	密	-	(7.7)	(1.7)	中国	16c 末～17c 前	染付 圈線	J-53
9	105-2	1層	磁器	仏眼貝	口縁～高台	密	(8.15)	4.0	5.8	肥前	17c 後半	染付露文	J-54
10	105-4	1層	磁器	青磁香炉	口縁～高台	密	(9.7)	(6.7)	5.4	肥前	不明	青磁	J-55
11	105-3	1層	磁器	瓶	体部	密	-	-	(3.8)	肥前	17c 後?	土胎付け (赤絵・緑輪)	J-56
12	105-5	2層	土師質土器	かわらけ	体部～底部	やや粗	-	(6.2)	(1.35)	在地	近世	ロクロナデ 回転糸切道有 ロク口:左	I-102
13	105-6	2層	土師質土器	皿	口縁～底部	やや粗	(8.5)	(5.2)	2.15	在地	近世	ロク口:右 ロクロナデ 回転糸切道有	I-103

第151図 SD24溝跡出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



第152図 SD24 溝跡出土遺物 (2)

2) SD48 溝跡

(第153図、図版55-1・2)

N4-W51 グリッドに位置し、上層部を上層遺構の池2に削平されている。残存する規模は、長さ2.9m、上端幅34～70cm、下端幅24.8～50cm、深さ5～27cmを測る。主軸方向はN-38°-Wを示す。平面形は不整形で、底面は両端部が掘り窪められ、中央が浅くなり段状を呈する。堆積土は3層からなり、シルトである。遺物は出土していない。また、本遺構は形状から布掘りの可能性が考えられるが、周辺に対となる柱穴跡は確認できなかった。



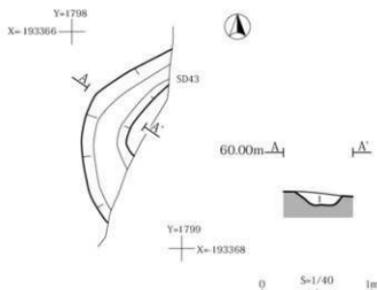
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	径0.5～1cmの炭化物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量

第153図 SD48 溝跡平面図・断面図

3) SD50 溝跡

(第154図、図版55-3・4)

N4-W51 グリッドに位置し、南東から北東に弧を描く。残存長1.15mの素掘の溝跡である。両端部を上層遺構のSD43に削平され、北東側へ延びる範囲は確認できなかった。残存する規模は、上端幅23.2～44cm、下端幅10.8～22cm、深さ12cmを測る。断面形はやや開いたU字状を呈し、底面はやや起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は灰黄褐色シルトで人為的に埋戻されたものである。遺物は出土していない。



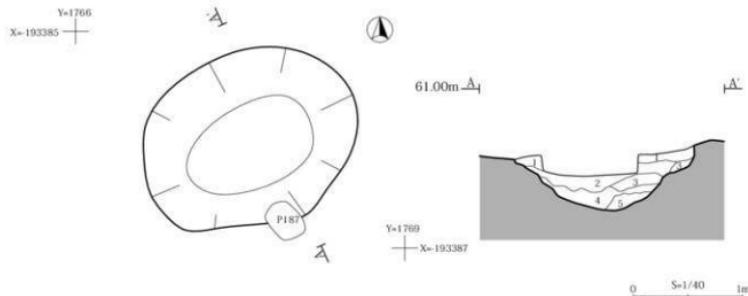
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	2.5Y7.6明黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量

第154図 SD50 溝跡平面図・断面図

(3) 土坑

1) SK37 土坑 (第155図、図版55-5・6)

N2-W54 グリッドに位置し、遺構の中央部を近代の視乱で削平され、南側を上層遺構のP187に削平されている。SK61と重複しており、SK37が古い。規模は、長軸2.05m、短軸1.63m、深さ60cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形状は北側の壁面が緩やかに立ち上がり、南側の壁面は段状を呈する。底面は中心に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は6層からなり、1層～6層までシルトである。遺物は2層から漆器碗が出土しているが、皮膜だけのため図示していない。



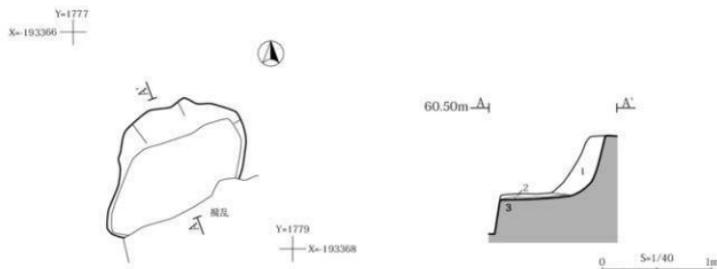
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	あり 2.5Y7.3浅黄色シルト微量 径1～3mmの白色粒少量 径2～3mmの炭化物微量
2	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト多量 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり 2.5Y4/1黄灰色シルト微量 酸化鉄分少量
4	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり 2.5Y3/1黒褐色シルト少量 酸化鉄分少量
5	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり 2.5Y7.6明黄褐色シルト多量 2.5Y6/1黄灰色シルト微量 酸化鉄分少量

第155図 SK37 土坑平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

2) SK48 土坑 (第156図、図版55-7・8)

N3-W53グリッドに位置し、遺構の大半を近代の擾乱で削平されている。残存する規模は、長軸1.60m、短軸95cm、深さ57cmを測る。平面形は不整形で、断面形は逆台形と考えられる。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。

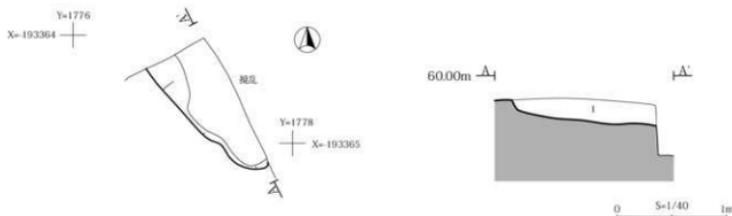


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 径2～8mm程度の礫少量 径3～5mmの炭化物微量
2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2灰黄色砂質シルト微量 径2～3mmの炭化物極微量
3	2.5Y7/3 浅灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

第156図 SK48土坑平面図・断面図

3) SK49 土坑 (第157図、図版56-1)

N3-W53グリッドに位置し、東側、北側ともに近代の擾乱で削平されている。残存する規模は、長軸1.32m、短軸60cm、深さ14cmを測る。平面形は不明であり、断面形は皿状と考えられる。底面は北側に緩やかに傾斜する。堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y8/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2暗灰黄色シルト少量 2.5Y7/6明黄灰色シルト微量 酸化鉄少量

第157図 SK49土坑平面図・断面図

4) SK61 土坑 (第158図、図版56-2・3)

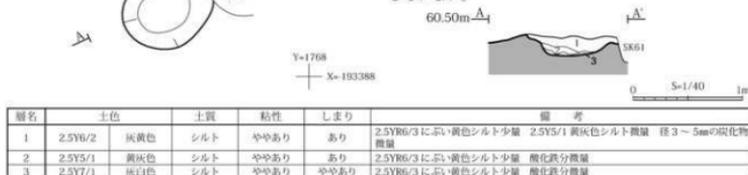
N2-W54グリッドに位置し、上層遺構のP187に削平され、北側はSK37、南西側はSK62と重複しており、SK62より新しく、SK37より古い。残存する規模は、長軸81cm、短軸62cm、深さ43cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底面は中心に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は17世紀後半の肥前産の陶器等が出土しているが、細片のため図示していない。



第158図 SK61 土坑平面図・断面図

5) SK62 土坑 (第159図、図版56-4)

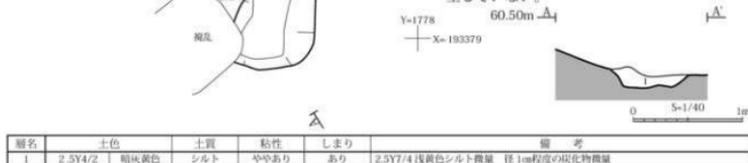
N2-W54グリッドに位置し、北東側はSK61と重複しており、SK62が古い。規模は、長軸1.0m、短軸68cm、深さ20cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形状は壁面がやや外反して立ち上がり、上部は外側に開き段状を呈している。堆積土は3層からなり、1層~3層までシルトである。遺物は17世紀後半の肥前産の陶器が出土しているが、細片のため図示していない。



第159図 SK62 土坑平面図・断面図

6) SK72 土坑 (第160図、図版56-5・6)

N3-W53グリッドに位置し、北側と西側を攪乱で削平され、上層部は上層遺構のSX24に削平されている。北西側はSK94と重複しており、SK72が新しい。残存する規模は、長軸1.36m、短軸74cm、深さ22cmを測り、主軸方向はN-16°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。底面にはやや起伏が見られる。堆積土は単層のシルトで、遺物は出土していない。



第160図 SK72 平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

7) SK78 土坑 (第161図、図版56-6)

N2-W53グリッドに位置し、北側はSK84と重複しており、SK78が古い。規模は、長軸94cm、短軸88cm、深さ18cmを測り、主軸方向はN5°-Eを示す。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。堆積土は単層のシルトで、遺物は出土していない。

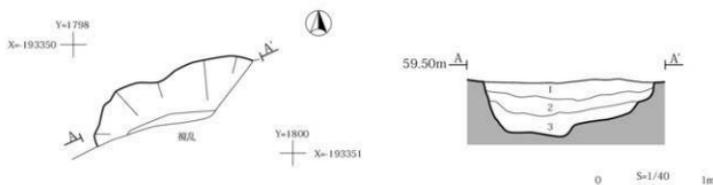


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	なし	あり	2.5Y5/2暗灰黄色シルト少量 径3～5mmの白色粘粒量 炭化炭分微量

第161図 SK78 土坑平面図・断面図

8) SK81 土坑 (第162図、図版56-7・8)

N5-W53グリッドに位置し、遺構の大半を近代の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸1.60m、短軸52cm、深さ49cmを測る。平面形・断面形は大きく削平されているため不明である。堆積土は3層からなり、1層～3層まで砂質シルトである。遺物は出土していない。

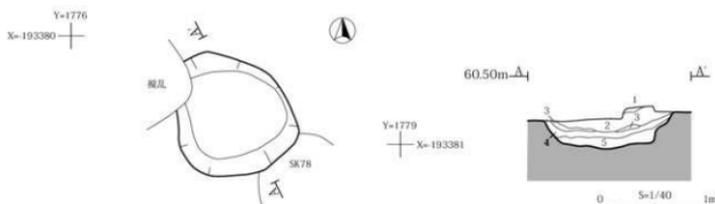


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	あり	径5mmの炭化物少量 径2～3mmの2.5Y8/1灰褐色の粘土少量
2	2.5Y4/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	あり	径5mmの2.5Y6/4にぶい黄褐色シルト質砂ブロック少量 径2～3mmの2.5Y8/1灰褐色の粘土少量
3	2.5Y4/2	黄灰色 砂質シルト	ややあり	あり	径2～3mmの2.5Y7/4黄褐色粘土質シルトブロックを下部に少量 径5～10mmの炭化物少量 径2～3mmの2.5Y8/1灰褐色の粘土少量

第162図 SK81 土坑平面図・断面図

9) SK84 土坑 (第163図、図版57-1)

N2-W53グリッドに位置し、北西側と中央部を近代の攪乱で削平され、南側はSK78と重複しており、SK84が新しい。規模は、長軸1.22m、短軸1.06m、深さ37cmを測り、主軸方向はN44°-Wを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は歪な逆台形を呈する。底面はやや起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は5層からなり、1層～5層までシルトである。遺物は出土していない。

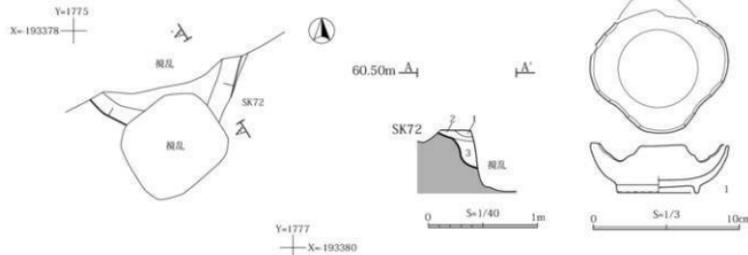


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	なし	ややあり	径0.3～1mmの炭化物微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	なし	ややあり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト少量 径0.3～1mmの炭化物微量
3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/1 黄灰色シルト少量
5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量

第163図 SK84土坑平面図・断面図

10) SK94土坑 (第164図、図版57-2)

N3-W53グリッドに位置し、北側と南側を近代の掘削で削平され、東側はSK72と重複しており、SK94が古い。残存する規模は、長軸1.42m、短軸34cm、深さ35cmを測る。平面形は楕円形が考えられ、断面形状は壁面がやや外反して立ち上がり、上部は外側に開き段状を呈する。底面は北側に緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は1層から17世紀後半頃の波佐見産の青磁が出土している。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	径3～5mmの炭化物微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	105-11	1層	磁器	変形鉢(向付)	口縁～底	密	9.6	(5.7)	3.4	波佐見?	17c 後半	青磁	J-57

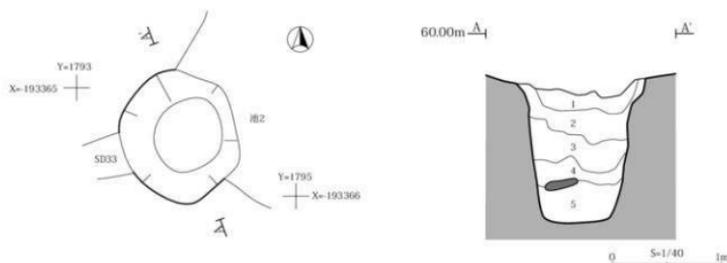
第164図 SK94土坑平面図・断面図・出土遺物

11) SK109土坑 (第165図、図版57-3・4)

N5-W51グリッドに位置し、東側を上層遺構の池2に、西側をSD33に削平されている。残存する規模は、長軸1.24m、短軸1.03m、深さ1.04mを測り、主軸方向はN-13°-Eを示す。平面形は不整な円形を呈し、断面形はやや外反して立ち上がる筒状を呈する。底面は平坦である。堆積土は5層からなり、1層～5層までシルトである。1層～4層は人為的に埋め戻された堆積土で、5層は、遺構が開口していた時期に底面に堆積した沈殿物層である。

第2節 川内駅部Ⅱ区

遺物は近世の瓦片が出土しているが、細片のため図示していない。また、土坑として調査を行っているが、遺構の形状から素掘りの井戸の可能性も考えられる。

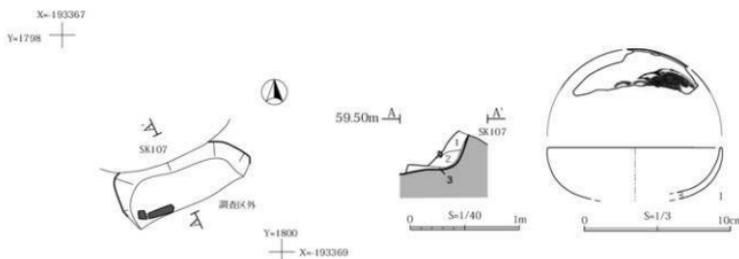


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/3 浅黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/3 浅黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 径約 32mmの礫含む
5	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

第 165 図 SK109 土坑平面図・断面図

12) SK111 土坑 (第 166 図、図版 57-5・6)

N4-W51 グリッドに位置し、北側は上層遺構のSK107に削平され、南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 1.26m、短軸 42cm、深さ 43cmを測る。平面形は不明で、断面形は逆台形が考えられる。堆積土は 3 層からなり、1 層はシルト質砂、2 層は砂質シルト、3 層は木質層である。遺物は 1 層から 18 世紀中頃の京焼の陶器が出土している。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/1 黄灰色	シルト質砂	ややあり	あり	径 2～5mmの 2.5Y7/3 浅黄灰色シルトブロック少量 径 1～3mmの灰白色粒子少量 径 2～5mmの炭化物少量
2	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	あり	ややあり	径 2～3mmの 2.5Y7/3 浅黄灰色シルトブロック少量 径 5mmの炭化物少量
3	10YR3/2 黒褐色	木質	ややあり	ややあり	10YR5/1 灰褐色砂質シルト少量 腐食した木片、小枝等を主体

図版番号	写真図版号	層位	種別	器種	部位	法障 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
						胎土	口径	底径					器高
1	105-12	1層	陶器	平碗	1.15m～体部	やや密	(11.95)	-	(3.55)	京焼	18c中	上絵付け 呉須 緑輪 貫入有	E-105

第 166 図 SK111 土坑平面図・断面図・出土遺物

13) SK114 土坑 (第167図、図版57-7・8)

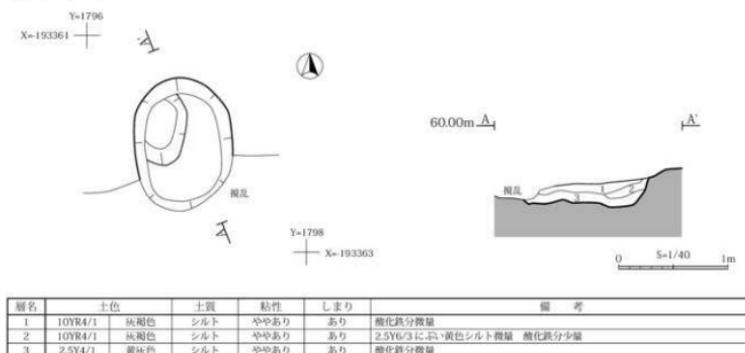
N4-W50～N4-W51 グリッドに位置し、上層部を上層遺構のSX47に削平されている。残存する規模は、長軸1.05m、短軸76cm、深さ35cmを測り、主軸方向はN-23°-Wを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形状は南壁が緩やかな角度で、北壁は急な角度で立ち上がり、上部が外側に開く段状を呈する。底面は中央部に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなりシルトである。遺物は出土していない。



第167図 SK114土坑平面図・断面図

14) SK115 土坑 (第168図、図版58-1・2)

N4-W51グリッドに位置し、南側を近代の掘削で削平されている。残存する規模は、長軸1.28m、短軸88cm、深さ26cmを測り、主軸方向はN-3°-Wを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形と考えられる。底面はやや起伏が見られ、北西側は浅く落ち込んでいる。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。



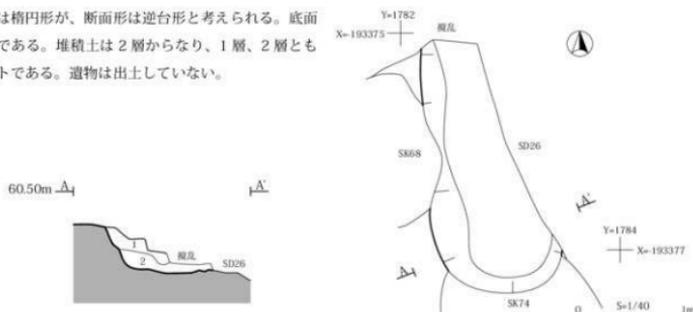
第168図 SK115土坑平面図・断面図

15) SK116 土坑 (第169図、図版58-3・4)

N3-W52グリッドに位置し、北側を近代の掘削で削平され、東側、西側、南側を上層遺構のSD26、SK68・74に削平されている。残存する規模は、長軸3.02m、短軸98cm、深さ40cmを測り、主軸方向はN-18°-Wを示す。

第2節 川内駅部Ⅱ区

平面形は楕円形が、断面形は逆台形と考えられる。底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量 2.5Y6/3 に近い黄色シルト微量

第169図 SK116土坑平面図・断面図

16) SK117 土坑 (第170図、図版58-5・6)

N2-W53グリッドに位置し、西側を近代の掘乱で削平されている。残存する規模は、長軸84cm、短軸56cm、深さ20cmを測り、主軸方向はN-85°-Wを示す。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/3 近い黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 2.5Y7/6 浅黄色シルト少量 酸化鉄少量
2	2.5Y7/6 浅黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄少量

第170図 SK117土坑平面図・断面図

17) SK119 土坑 (第171図、図版58-7・8)

N4-W51グリッドに位置し、東側は近代の掘乱で削平されている。残存する規模は、長軸87cm、短軸36cm、深さ25cmを測る。削平が激しいため、平面形、断面形はともに不明である。底面は平坦である。遺物は出土していない。

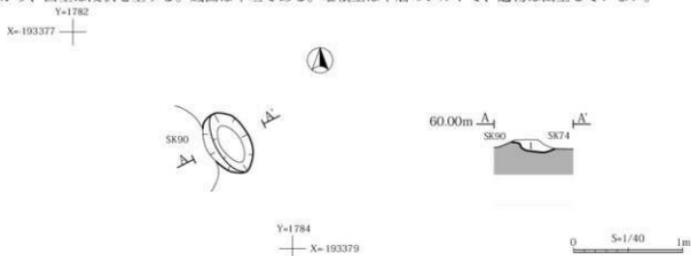


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR6/1 暗灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄多量 10YR4/2 灰黄褐色シルト少量 2.5YR7/6 明黄褐色シルト微量 径約3mmの白色粒少量
2	10YR4/1 暗灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量 10YR5/1 褐灰色シルト微量 2.5YR7/6 明黄褐色シルト微量

第171図 SK119土坑平面図・断面図

18) SK122 土坑 (第172図、図版59-1・2)

N3-W52グリッドに位置し、上層部を上層遺構のSK74・90に削平されている。残存する規模は、長軸62cm、短軸40cm、深さ10cmを測り、主軸方向はN-24°-Wを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形状は東壁が緩やかに立ち上がり、西壁は段状を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層のシルトで、遺物は出土していない。

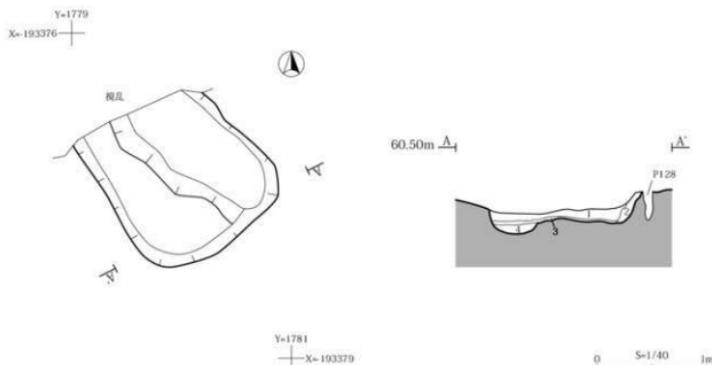


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6明灰褐色シルト微量 酸化鉄分微量

第172図 SK122土坑平面図・断面図

19) SK123 土坑 (第173図、図版59-3・4)

N3-W53グリッドに位置し、北側を近代の植込で削平され、上層部を上層遺構のSK73に削平されている。南西側はP128と重複しており、SK123が古い。規模は、長軸1.94m、短軸1.68m、深さ34cmを測る。底面は東側がやや深く掘り窪められ、西側が一段高くなる段状を呈する。堆積土は4層からなり、1層～4層はシルトで、4層は腐食物を含んでいる。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。



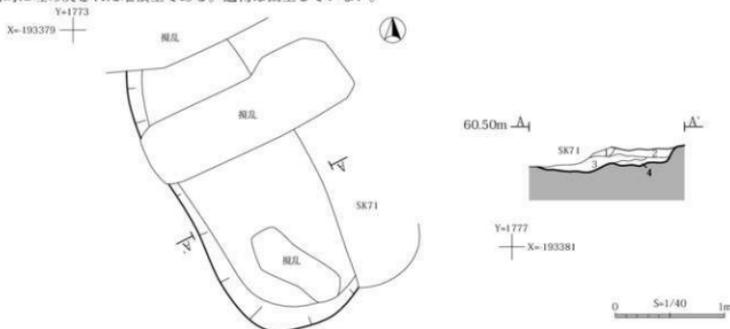
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1黄灰色シルト少量 径3～5mmの炭化物微量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量 2.5Y3/1黒褐色シルト微量
3	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
4	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	ややあり	炭化物多量 腐食物少量 酸化鉄分微量

第173図 SK123土坑平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

20) SK124 土坑 (第174図、図版59-5・6)

N2-W52～N3-W53 グリッドに位置し、北側と南側の一部が近代の攪乱で削平され、東側は上層遺構のSK71に削平されている。残存する規模は、長軸2.76m、短軸1.26m、深さ46cmを測る。平面形は楕円形、断面形は逆台形と考えられる。底面は東側がやや深く掘り窪められ、西側は一段高くなり段状を呈する。堆積土は4層からなり、1層、2層は黄灰色シルトでIV層整地土相当の堆積土である。3層、4層は暗灰黄色シルトで、いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

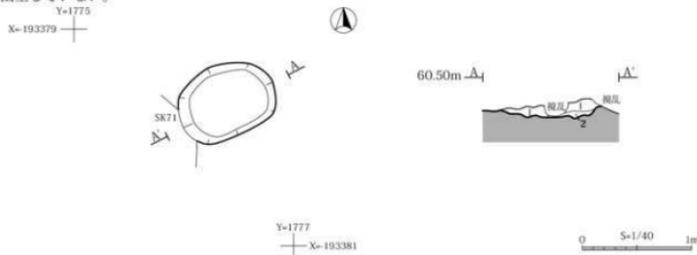


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 2.5Y6/6 明黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量
4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分極微量

第174図 SK124 土坑平面図・断面図

21) SK127 土坑 (第175図、図版59-7・8)

N3-W53 グリッドに位置し、南側を近代の攪乱で削平され、南西側を上層遺構のSK71に削平されている。残存する規模は、長軸92cm、短軸68cm、深さ14cmを測り、主軸方向はN-64°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状と考えられる。底面にはやや起伏が見られる。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。



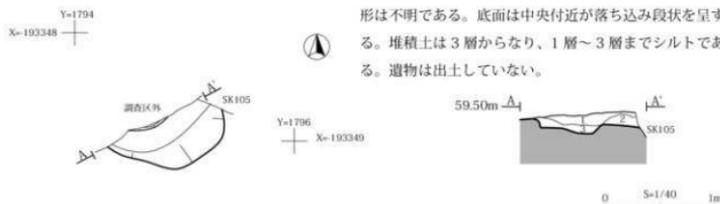
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト微量 酸化鉄分微量

第175図 SK127 土坑平面図・断面図

(3) 性格不明遺構

1) SX46 性格不明遺構 (第176図、図版60-1・2)

N6-W51 グリッドに位置し、北側は調査区外へ延び、東側は上層遺構のSK105に削平される。残存する規模は、長軸1.10m、短軸48cm、深さ20cmを測る。主軸方向はN-72°-Eを示す。平面形は楕円形が考えられるが、断面形は不明である。底面は中央付近が落ち込み段状を呈する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。

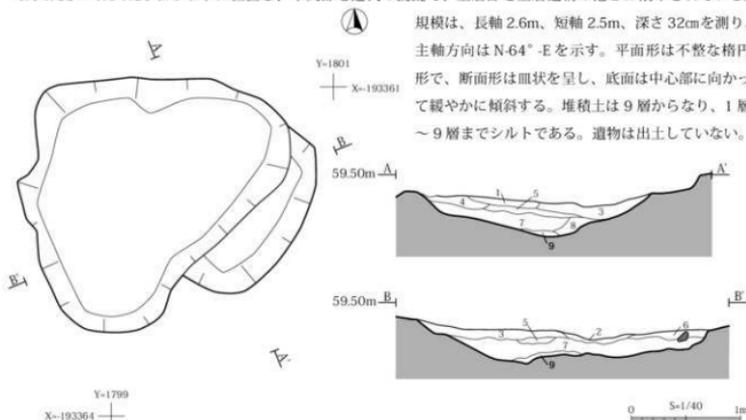


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量

第176図 SX46 性格不明遺構平面図・断面図

2) SX48 性格不明遺構 (第177図、図版60-3～6)

N4-W50～N4-W51 グリッドに位置し、中央部を近代の攪乱で、上層部を上層遺構の池2に削平されている。規模は、長軸2.6m、短軸2.5m、深さ32cmを測り、主軸方向はN-64°-Eを示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状を呈し、底面は中心部に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は9層からなり、1層～9層までシルトである。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y8/4	淡黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
3	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量
4	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト多量 酸化鉄分少量
5	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
6	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック微量 酸化鉄分微量
7	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	10YR4/1 暗灰色シルト少量 酸化鉄分少量
8	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
9	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	あり	2.5G7/1 明オリブ灰色シルト微量 酸化鉄分微量

第177図 SX48 性格不明遺構平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

2 IV層上面検出遺構

川内駅部Ⅱ区において、IV層は南西側の一部と東側において検出している。建物跡1基、溝跡11条、土坑33基、性格不明遺構18基、池跡3基、ピット48基の遺構を検出した。IV層とIV層上面遺構出土の遺物から18世紀前半～19世紀前半頃にかけたの遺構と考えられる。

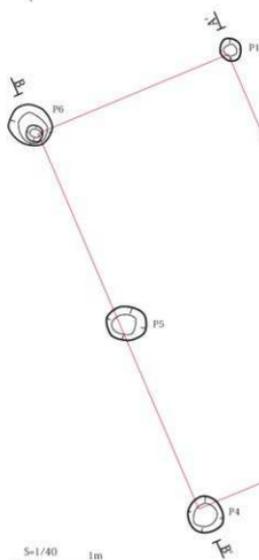
(1) SB建物跡

1) SB2建物跡（第178図、図版61-1）

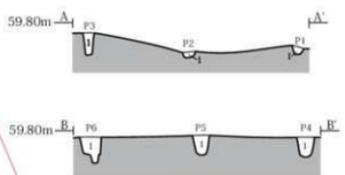
N5-W51グリッドに位置し、南東から北西方向に直線に延びるSD38と平行して並ぶ建物跡である。また、SB2-P6がSD38と重複しているが、SD38を掘り下げる際に一緒に掘り下げてしまったため、SB2との切り合い関係は確認できていない。遺物も出土していないため不明な点も多いが、検出状況と遺構内にIV層相当の堆積土が認められることからIV層上面の時期に属する遺構であると判断した。

SB2-P1～SB2-P6の6基の柱穴から構成される建物跡である。規模は、桁行2間（3.8m）、梁行1間（1.9m）で、柱間の寸法は1.90m（6尺3寸）を測る。掘り方の規模は、長軸22～40cm、短軸19～36cm、深さ12～47cm

Y=1793
X=193357



を測り、桁行を基準とした主軸方向はN-23°-Wを示す。柱痕はSB2-P6の底面においてのみ確認でき、径は14cmを測る。平面形は不整な円形を呈し、断面形はU字状を呈する。底面は柱痕を確認したSB2-P6は段状を呈するが、SB2-P1～P5は平坦で、深さもほぼ一定である。堆積土は単層で暗灰黄色シルトを基調とするIV層相当の堆積土である。遺物は出土していない。



0 S=1/80 2m

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P1	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
P2	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2暗灰黄色シルト少量
P3	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4に赤い黄色シルト少量
P4	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
P5	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4に赤い黄色シルト多量
P6	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4に赤い黄色シルト多量

第178図 SB2建物跡平面図・断面図

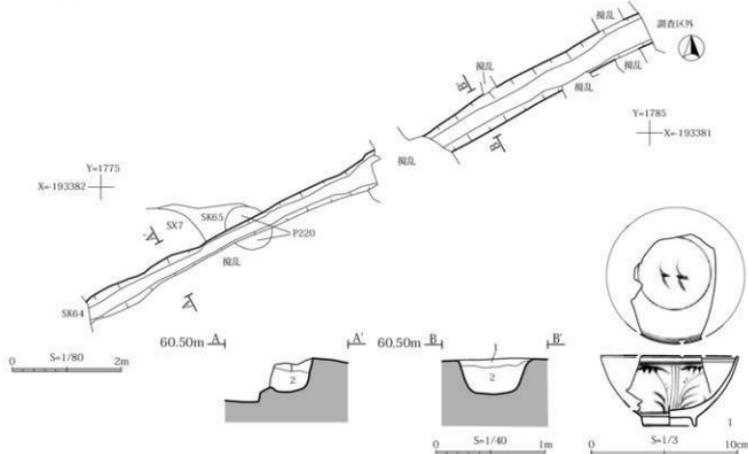
(2) SD 溝跡

1) SD14・SD38 溝跡 (第180～182図、図版61-2～62-1)

調査段階においては個々に調査を行っているが、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）の調査により確認された鍵の手状を呈する長さ7.9m、幅80cm、深さ14cmを測る4号溝と、今回の調査において確認したSD14・38の主軸方向がほぼ同方向を示し、底面の高さもほぼ同一であることを確認する。これらのことから、現代の工事に伴う削平により両遺構が接続することは確認できなかったが、4号溝と今回の調査において確認されたSD14の東側と、SD38の南側が接続することが考えられ、武家屋敷を区画するL字状を呈する総長29.23mの区画溝跡と考えられる（第7章 第350図）。

(SD14) 溝跡 (第180・181図、図版61-2～4)

N2-W52～N2-W53グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に、総長10.74m延びる素掘りの溝跡である。南西側は途中、近代の視乱で削平され、遺構の広がりは確認できなかった。また、SK64・65、SX7、P220と重複しており、SK64より古く、他の遺構より新しい。北東側は平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターの調査によって確認された4号溝に接続する。残存する規模は、上端幅14～32.8cm、下端幅10～18cm、深さ26cmを測り、主軸方向はN-63°-Eを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は北東側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、1層、2層はともにシルトである。遺物は18世紀前半～18世紀後半の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土製品等が出土している。そのうち、磁器4点、土製品1点を図示した。

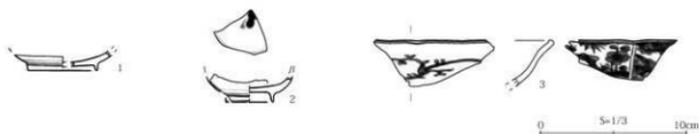


順号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/2	灰黄色シルト	なし	あり	2.5Y6/3にふい、黄褐色シルト少量 酸化鉄分微量 一部グライ化
2	10YR4/2	灰黄褐色シルト	なし	あり	2.5Y7/4浅黄色シルト少量 径3～5mm炭化物微量 酸化鉄分微量 一部グライ化

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	105-13	2層	磁器	碗	L1段～高台	密	φ41	3.65	4.9	肥前	18c 後半	染付耳文	J-58

第180図 SD14 溝跡平面図・断面図・出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	105-14	2層	磁器	碗	高台	密	-	(4.8)	(1.35)	肥前	18c代	染付 四線 二重四線	J-59
2	105-15	2層	磁器	碗	体部～高台	密	-	(3.3)	(1.75)	瀬戸・美濃	19c	染付草花文 伎樂痕有	J-60
3	105-16	2層	磁器	輪花皿	口縁～体部	密	-	-	(3.2)	肥前	18c前～中	染付蔓文 梅竹文	J-61

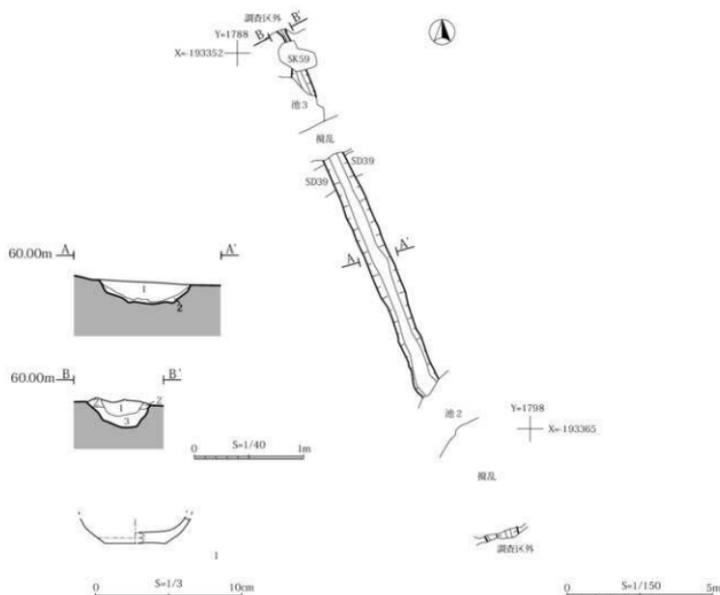


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	106-1	2層	土製品	7.50	(3.75)	(3.27)	(35.69)	土人形 型押し成形	P-3

第181図 SD14溝跡出土遺物(2)

〈SD38〉溝跡(第182図、図版61-5～62-1)

N4-W51～N5-W 51・52グリッドに位置し、南東から北西方向に直線的に、総長10.59m延びる素掘りの溝跡である。近代の掘削で削平され、SD39、SK59、池2・3、P170と重複しており、SD39より新しく、他の遺構より古い。また、重複するSB2と一緒に掘下げてしまったため、切りあい関係は確認できなかった。北西側は調査区外へ延び、南東側は平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター(現:東北大学埋蔵文化財調査室)の調査によって確認された4号溝に接続すると考えられる。残存する規模は、上端幅18～90cm、下端幅8～60cm、深さ18～24cmを測る。主軸方向はN-22°-Wを示す。断面形は皿状ないし逆台形を呈し、底面は北西側に緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層、2層はシルト、3層は砂質シルトで人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は18世紀～19世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の大塚相馬産の陶器等が出土している。そのうち陶器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径0.5～1mmの炭化物検微量
2	2.5Y4/2 明灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/6明灰褐色シルト検微量
3	2.5Y4/1 2.5Y4/2	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2灰黄色シルト少量 2.5Y7/6明灰褐色シルト微量

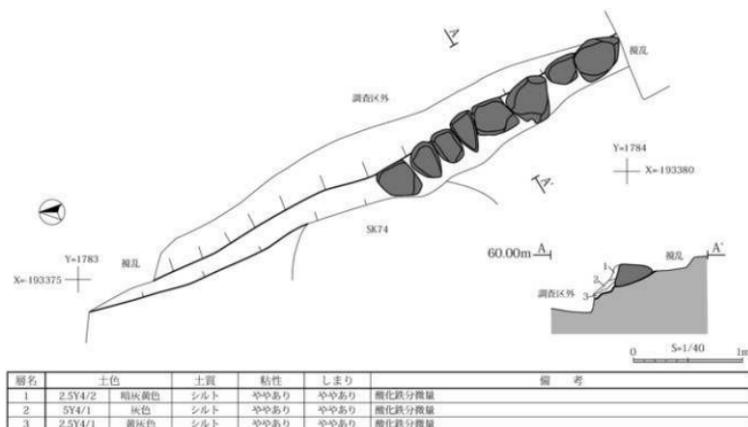
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (mm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	106-2	1層	陶器	不明	底部	やや密		(4.2)	(1.85)		大塚相馬?	19c	胎輪 底面に砂付着	I.106

第182図 SD38 溝跡平面図・断面図・出土遺物

2) SD26 溝跡 (第183図、図版62-2・3)

N3-W53グリッドに位置し、南東から北西方向に直線的に、総長4.62m延びる石組の溝跡である。南、西、北側はともに近代の掘削で削平され、東側の肩は本来なら調査区外に展開したものと考えられるが、現代の工事に伴う削平により確認できなかった。また、西側の側石も北側の約半分は削平され残存していない。SK74と重複しており、SD26が古い。残存する側面の側石は、長さ33～42cm、幅20～46cm、厚さ12～20cmを測り、加工されていない自然石が1段並んでいる。残存する内面の幅は19.2～42.4cm、深さ32cmを測り、主軸方向はN-30°-Wを示す。掘り方の規模は、上端幅40.8～68cm、深さ20cmを測る。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。

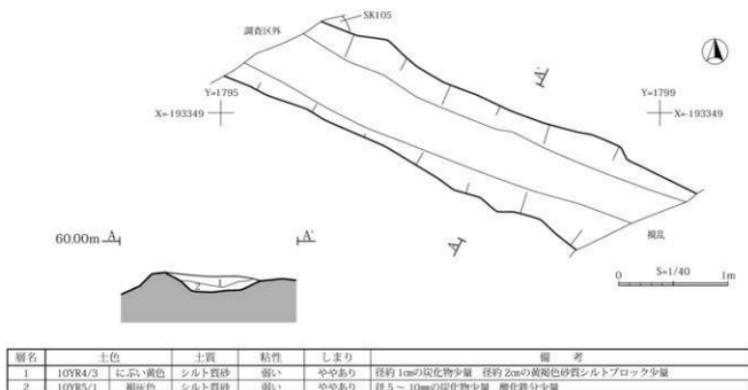
第2節 川内駅部Ⅱ区



第183図 SD26 溝跡平面図・断面図

3) SD28 溝跡 (第184図、図版62-4・5)

N6-W51 グリッドに位置し、北西から南東方向に直線的に、総長 3.76m 延びる素掘りの溝跡である。南西側は攪乱で削平され、北西側は調査区外へと延びる。また、SK105 と重複しており、SD28 が古い。残存する規模は、上端幅 0.78 ~ 1m、下端幅 35 ~ 50cm、深さ 14cm を測り、主軸方向は N-65°-W を示す。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。

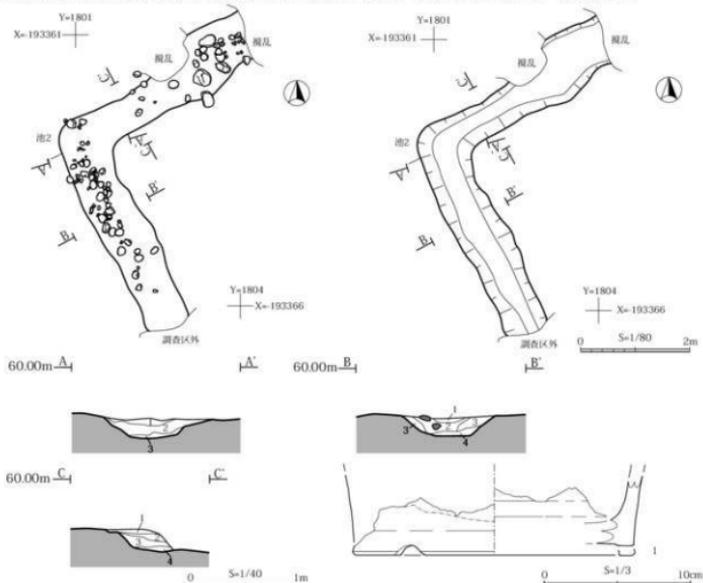


第184図 SD28 溝跡平面図・断面図

4) SD37 溝跡 (第185図、図版62-6～63-2)

N4-W50グリッドに位置し、南東方向から途中、北東方向に屈曲し、L字状を呈する赤堀りの溝跡で、総長は7.30mを測る。南側は調査区外へ延び、屈曲部より東側は一部を近代の掘乱で、端部は近代の造成の際に削平され、北側は池2の新段階、SD45と重複しており、SD37が新しい。残存する規模は、上端幅0.76～1.2m、下端幅22.4～88cm、深さ18.8cmを測る。断面形は逆台形ないし皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は4層からなり、1層、2層はシルトで径4～40cmの礫を多量に含んでいる。3層、4層はシルトである。遺物は1層から19世紀前半の瀬戸・美濃産の植木鉢が出土しており、図示した。

また、現代の工事に伴う削平により両遺構が接続することは確認できなかったが、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）の調査によって確認された上端幅35～65cm、下端幅15～45cm、深さ14cmの10号溝と主軸方位がほぼ同方向を示し、底面の高さもほぼ同一であることを確認した。これらの確認状況から、SD37は、武家屋敷に伴う区画溝の可能性が考えられる（第7章 第350図）。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y5/1	灰色シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1	暗灰黄色シルト	なし	あり	酸化鉄分微量 2.5Y7/6 浅灰色シルト極微量
3	2.5Y4/1	暗灰黄色シルト	なし	あり	径約4～16cmの礫多量 2.5Y4/2暗灰黄色シルト少量
4	2.5Y4/1	暗灰黄色シルト	なし	あり	酸化鉄分微量

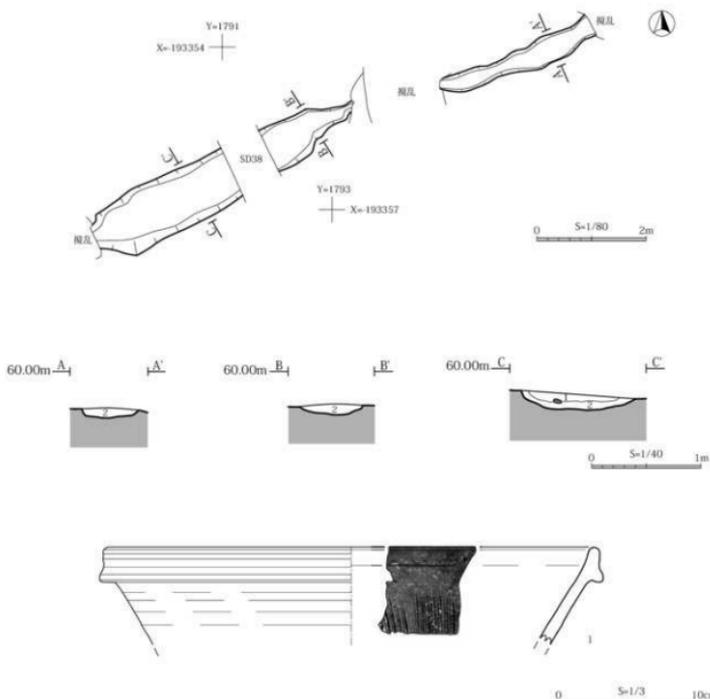
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号		
						胎土	口径	底径						
1	106-3	1層	陶器	植木鉢	体部～底部	中々粗	-	(19.4)	(5.5)		瀬戸・美濃	19c 前半	鉄軸	I-107

第185図 SD37 溝跡平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

5) SD39 溝跡 (第186図、図版63-3～6)

N5-W51～N5-W52グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に、総長8.26m延びる素掘りの溝跡である。南西側と北東側は近代の掘削で削平され、中央付近はSD38と重複しており、SD39が古い。残存する規模は、上端幅0.28～1.04m、下端幅12.8～81.6cm、深さ16cmを測り、主軸方向はN-62°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は2層から在地産の播鉢、土質土器が出土している。そのうち播鉢を1点図示した。



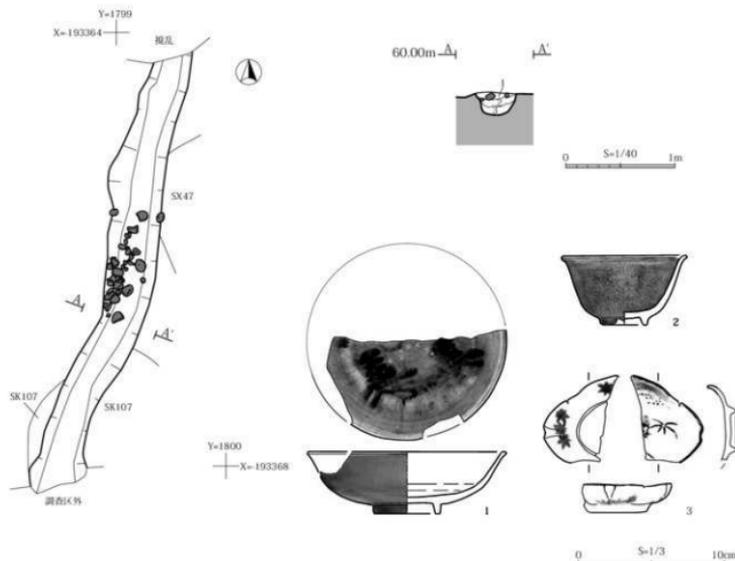
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y5/1	灰色	シルト	なし	あり 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	106-4	2層	陶器	播鉢	口縁～体部	やや粗	33.80	-	67.50	在地	近世	鉄輪 ロクロ左 樽1兼7本	1-108

第186図 SD39溝跡平面図・断面図

6) SD43 溝跡 (第187図、図版63-7・8)

N4-W51 グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に、総長 4.42 m 延びる素掘りの溝跡である。南西側は現代の工事に伴う掘込に削平され、確認できていない。南東側は近代の掘込で削平され、SK47・107 と重複しており、SD43 が新しい。残存する規模は、上端幅 36.8 ~ 52 cm、下端幅 14 ~ 31 cm、深さ 21 cm を測り、主軸方向は N-15°-W を示す。断面形は U 字状を呈し、底面は平坦である。堆積土は 3 層からなり、1 層、2 層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。3 層はシルトで、溝が使用されていた時期に堆積した沈殿物層である。遺物は 1 層より 18 世紀中頃の肥前産の磁器、18 世紀後半 ~ 19 世紀初頭の大型相馬産の陶器が出土している。そのうち陶器 2 点、磁器 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	5Y5/1	灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量 径約 8mm の礫含む
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

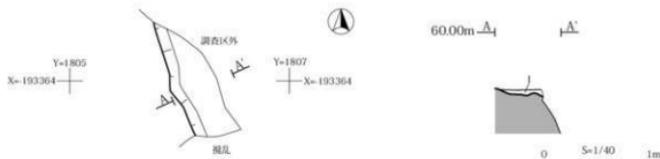
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	106-5	1層	陶器	皿	口縁~高台	やや密	13.65	4.55	4.3	大型相馬	19c 初頭	灰輪 貫入有	I-109
2	106-6	1層	陶器	燗碗	口縁~高台	やや密	8.6	3.20	4.90	大型相馬	18c 後半~19c 初頭	白陶輪 貫入有 高台: 面取り有	I-110
3	106-7	1層	磁器	変形皿(壺形)	口縁~高台	密	-	-	2.0	肥前	18c 中	染付紅葉文 型紙摺り	J-62

第187図 SD43 溝跡平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

7) SD44 溝跡 (第188図、図版64-1・2)

N4-W50グリッドに位置し、南西から北東に直線的に、総長1.04m延びる素掘りの溝跡である。遺構の大半を近代の掘削で削平され、両端部は調査区外へと延びる。また、現代の工事に伴う削平により両遺構が接続することは確認できなかったが、調査区の南側は平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）の調査により確認されており、本遺構が南へ11.4m延びることが確認されている。残存する規模は、上端幅42cm、下端幅32cm、深さ5cmを測り、主軸方向はN-22°-Wを示す。断面形は皿状と考えられ、底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。

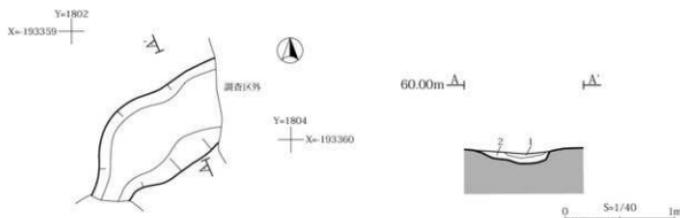


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量

第188図 SD44 溝跡平面図・断面図

8) SD49 溝跡 (第189図、図版64-3)

N4-W51グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に、総長1.48m延びる素掘りの溝跡である。西側、東側はともに近代の造成の際に削平されている。また掘削より西側への広がりも確認できなかった。残存する規模は、上端幅34～81cm、下端幅14～51.2cm、深さ8.8cmを測る。断面形状は南側の壁面が底面より緩やかに立ち上がり、北側の壁面は急な角度で立ち上がる。底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。



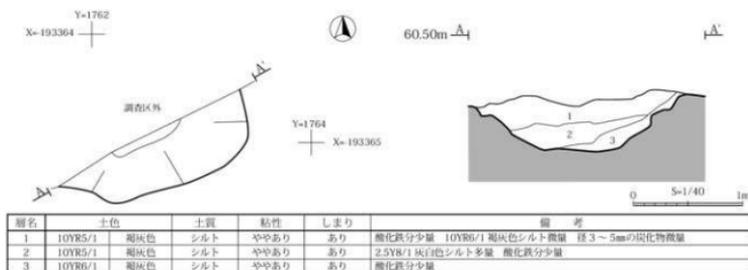
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y5/1 灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

第189図 SD49 溝跡平面図・断面図

(3) 土坑

1) SK41 土坑 (第190図、図版64-4)

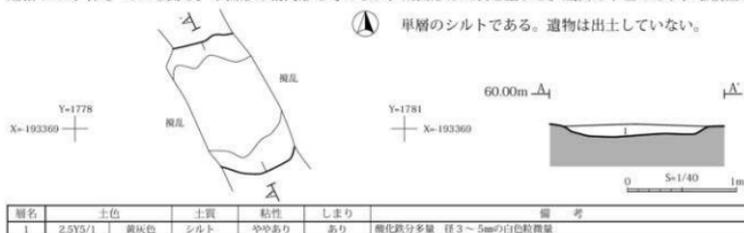
N4-W54グリッドに位置し、上層部を近代の掘削で削平され、北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸1.88m、短軸56cm、深さ76cmを測る。平面形は不明で、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。



第190図 SK41 土坑平面図・断面図

2) SK43 土坑 (第191図、図版64-5)

N4-W53グリッドに位置し、東側、西側ともに近代の攪乱によって削平されている。残存する規模は、長軸1.34m、短軸74cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。



第191図 SK43 土坑平面図・断面図

3) SK44 土坑 (第192図、図版64-6)

N3-W52グリッドに位置し、東側を近代の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸1.22m、短軸46cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は4層からなり、1層はⅢ層相当の堆積土で、炭化物を含む褐灰色シルトである。2層、4層はシルト、3層は砂質シルトである。遺物は出土していない。

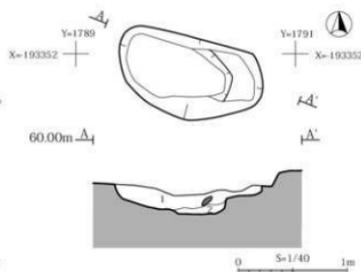


第192図 SK44 土坑平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

4) SK59 土坑 (第193図、図版64-7・8)

N5-W51～N5-W52グリッドに位置し、西側はP190と重複しており、SK59が新しい。規模は、長軸1.40m、短軸84cm、深さ24cmを測り、主軸方向はN-68°-Wを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は西側の壁がやや外反して立ち上がり、東側の壁は階段状に立ち上がる。底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、シルトである。遺物は在地産の陶器が1点出土し、図示した。



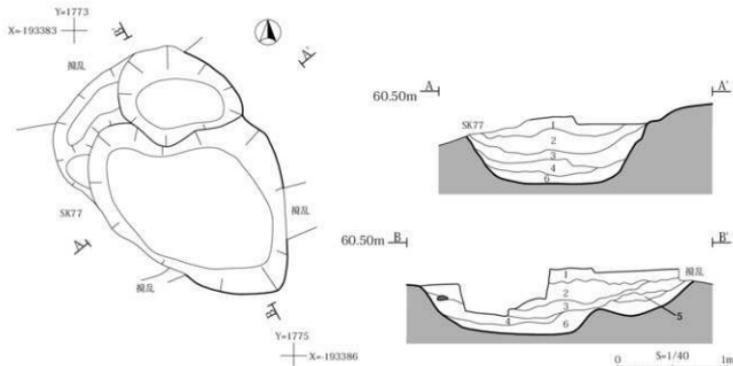
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黄褐色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量 径3～5mmの炭化物微量 径8cm程度の礎穴む
2	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	106-8	1層	陶器	小甕 or 壺	口縁-体部	やや粗	65.7	-	3.15	在地	近世	鉄輪 灰輪	I-111

第193図 SK59土坑平面図・断面図・出土遺物

5) SK64 土坑 (第194～196図、図版65-1～4)

N2-W53グリッドに位置し、北側と南側を近代の掘削で削平され、西側はSK77、SX7、南側はP131と重複しており、SK64が古い。規模は、長軸2.55m、短軸1.62m、深さ62cmを測り、主軸方向はN-37°-Wを示す。平面は不整形で、断面形状は南側が掘り窪められ、北側は一段高くなり段状を呈する。底面は平坦である。堆積土は6層からなり、1層、2層は黒褐色シルト質砂でⅢ層粘地上に相当する。3層～5層はシルト、6層は有機物を多量



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径5～8mmの炭化物微量
2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径0.5～2cmの炭化物少量
3	2.5Y3/1 黄灰色	シルト	なし	あり	2.5Y5/2暗灰褐色シルト少量
4	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	なし	あり	腐食物多量
5	2.5Y3/2 黄灰色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
6	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	なし	あり	腐食物多量

第194図 SK64土坑平面図・断面図

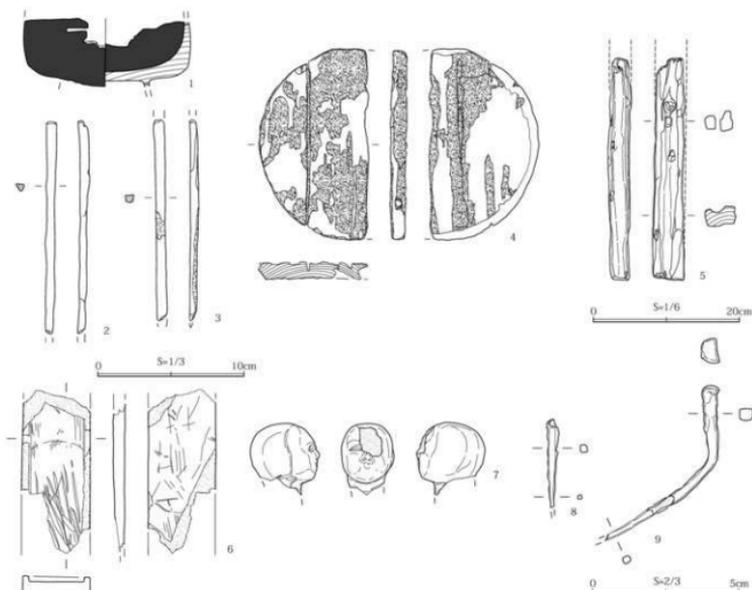
に含むオリープ黒色シルトで、堆積土内に有機物や遺物を多量に含むことから廃棄土坑の可能性が考えられる。遺物は1層から18世紀前半～19世紀前半の肥前産の磁器、19世紀代の大塚相馬産の陶器、鉄釘、2層から18世紀後半の肥前産の磁器、18世紀後半～19世紀代の大塚相馬産の陶器、4層から19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土人形、5層から17世紀後半の肥前産の磁器、6層から漆器検等が出土している。そのうち、陶器4点、磁器7点、木製品4点、石製品1点、土製品1点、金属製品1点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	106-9	1層	陶器	碗	高台	やや密	-	(4.08)	1.55	大塚相馬	19c?	灰釉ヘラケズリ 貫入有	J-112
2	106-10	1層	陶器	盃	体部・高台	やや密	-	(5.0)	(4.0)	瀬戸・美濃	19c?	鉄輪 ヘラケズリ	J-113
3	106-11	6層	陶器	密	口縁・高台	密	4.95	3.5	3.8	大塚相馬	19c	鉄輪 灰釉 ロクロ・右	J-114
4	106-12	2層	陶器	皿	口縁・高台	密	12.7	4.4	4.6	肥前	18c後半～19c初	灰釉 鉄輪 (松文?) ロクロ・左	J-115
5	107-1	2層	磁器	小杯?	体部・高台	密	-	3.00	(2.2)	肥前	18c後半?	染付花文	J-63
6	107-2	2層	磁器	端反碗	口縁・高台	密	(10.3)	(3.85)	5.15	肥前	18c 後	絵文 鉄輪ぎ直有	J-64
7	107-3	4層	磁器	端反碗	口縁・高台	密	(8.25)	3.55	(4.45)	瀬戸・美濃	19c	染付花文 團縁 二重團縁 写込みに藍文	J-65
8	107-6	4層	磁器	広車碗	口縁・高台	密	(12.0)	(6.9)	6.3	瀬戸・美濃	19c	染付鳥文 鉄輪ぎ直有	J-66
9	107-4	1層	磁器	磨舌瓶	口縁・高台	密	1.50	-	7.75	肥前	18c前半代	染付草文?	J-67
10	107-7	1層	磁器	皿	口縁・高台	密	(13.6)	(9.6)	3.45	肥前	18c 後～19c 初	染付青草文 草花文 藍の目四角	J-68
11	107-5	5層	磁器	皿	口縁・高台	密	9.8	5.1	2.45	肥前	17c後半	染付輪縁文	J-69

第195図 SK64土坑出土遺物(1)

第2節 川内駅部Ⅱ区

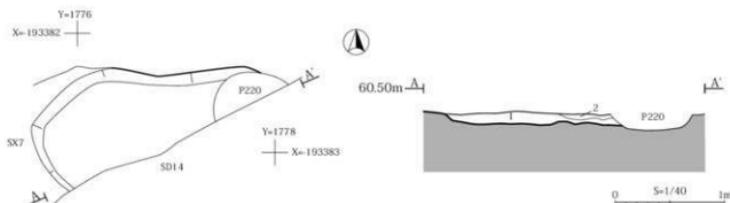


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高				
1	107-8	6層	漆器	(11.4)	-	(4.7)	横木取り	ブナ属	桶	L-21
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
2	107-9	6層	木製品	(14.7)	0.7	0.6	分割材	-	箸?	L-22
3	107-10	6層	木製品	(13.9)	0.7	0.6	分割材	-	箸?	L-23
4	107-11	6層	木製品	26.5	(14.9)	2.2	板目	スズ	容器 底板 側面に釘穴2ヶ	L-24
5	108-1	6層	木製品	(30.8)	4.3	2.9	分割材	スズ	角材	L-25
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
6	108-2	1層	石製品	(5.7)	2.3	(0.6)	(8.12)	粘板岩系	縦 磨面有 横石に転用	K-6
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ	重量			
7	108-3	4層	土製品	(2.5)	1.8	2.35	(8.27)	人形	型押し成形	P-4
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ	重量			
8	108-4	1層	金属製品	(3.15)	(0.22)	(0.22)	(1.0)	釘		N-19
9	108-5	1層	金属製品	(7.7)	(0.85)	(0.4)	(4.57)	釘		N-20

第196図 SK64土坑出土遺物(2)

6) SK65 土坑 (第 197 図、図版 65-5)

N2-W5 グリッドに位置し、東側は P220、西側は SX7、南側は SD14 と重複しており、SK65 が古い。残存する規模は、長軸 2.21 m、短軸 91 cm、深さ 12 cm を測る。平面は不整形で、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は 3 層からなり、すべて砂質シルトである。遺物は出土していない。

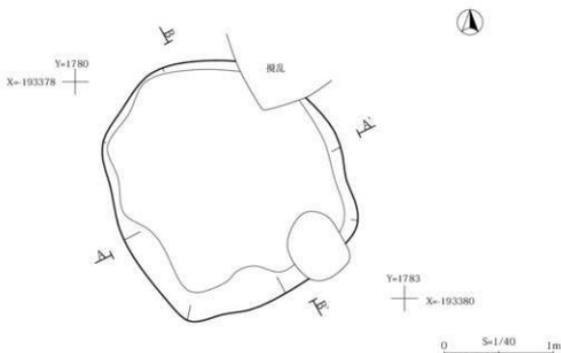


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 径 5 ~ 5mm の炭化物微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	径 3 ~ 5mm の炭化物少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径 3 ~ 5mm の炭化物微量

第 197 図 SK65 土坑平面図・断面図

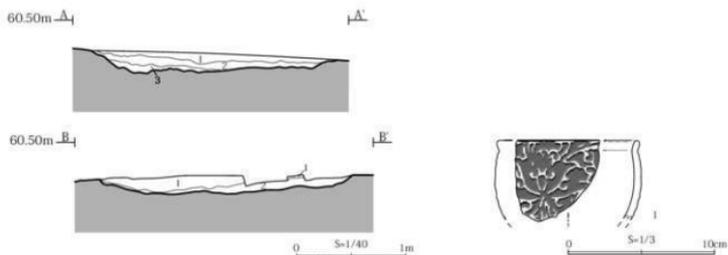
7) SK66 土坑 (第 198・199 図、図版 65-6 ~ 8)

N3-W52 グリッドに位置し、北側を近代の掘削で削平され、南側は P248 と重複しており、SK66 が古い。残存する規模は、長軸 2.38 m、短軸 2.16 m、深さ 20 cm を測り、主軸方向は N-60°-E を示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏が見られ、北側に緩やかに傾斜する。堆積土は 3 層からなり、1 層は灰オリーブ色砂質シルト、2 層は灰オリーブ色砂質シルトで炭化物を微量に含み、3 層も砂質シルトである。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 3 層から 18 世紀後半 ~ 19 世紀前半の京焼の陶器、18 世紀中頃 ~ 19 世紀前半の小野相馬、大堀相馬産の陶器、17 世紀後半 ~ 18 世紀後半の肥前産の磁器、18 世紀 ~ 19 世紀代の瀬戸・美濃産の陶器・磁器、在地産の瓦、火打石等が出土している。そのうち陶器を 1 点図示した。



第 198 図 SK66 土坑平面図

第2節 川内駅部Ⅱ区



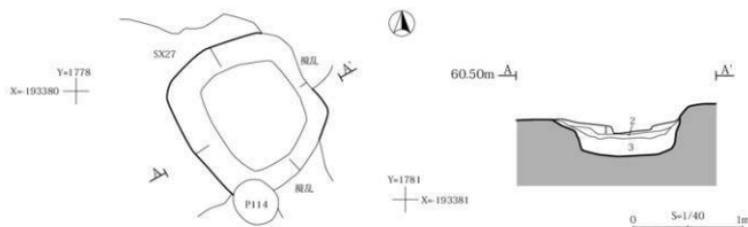
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	ややあり	炭化物多量 10YR6/6 胡黄褐色焦土ブロック少量 2.5Y7/2 灰黄色灰少量
2	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト微量 径5～8mmの炭化物微量
3	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	あり	5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト微量 酸化鉄分微量 径1cm程度の炭化物微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	108-6	2層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	(9.7)	-	5.5	京焼	18c 後半～19c 前半	外面：襷織輪？ 内面：白化後透明輪	I-116

第199図 SK66 土坑断面図・出土遺物

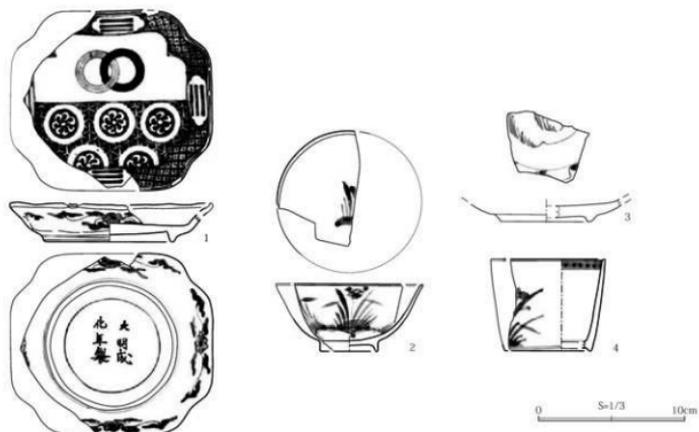
8) SK67 土坑 (第200・201図、図版66-1～3)

N2-W52～N3-W53グリッドに位置し、南側を近代の攪乱で削平され、P114、SX27と重複しており、SX27より新しく、P114より古い。残存する規模は、長軸1.43m、短軸1.22m、深さ48cmを測り、主軸方向はN-32°-Wを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は東側の壁面が急な角度で立ち上がり、西側の壁面は段状を呈する。堆積土は4層からなり、1層は黒褐色シルト質砂のⅢ層整地土相当の堆積土で、2～4層はシルトである。1層、2層は人為的に埋め戻された堆積土であるが、3層、4層は腐食物を少量含み、堆積状況から廃棄土坑の可能性が考えられる。遺物は1層から17世紀中頃～18世紀後半の肥前産の磁器、19世紀代の大塚相馬産の陶器、瀬戸・美濃産の陶器、在地産の土師質土器、鉄製品等が出土している。そのうち、磁器4点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	5Y2/1	黒色	炭化物	なし	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト多量 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト少量 炭化物ブロック微量
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト微量 炭化物ブロック微量

第200図 SK67 土坑平面図・断面図

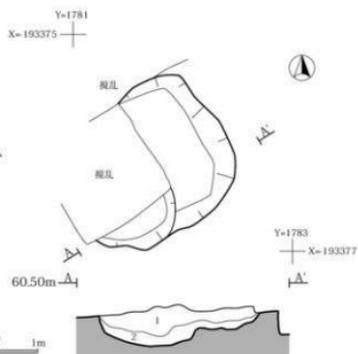


図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法麗 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	108-7	1層	磁器	変形皿	口縁～ 高台	密	(14.07)	9.05	2.75	肥前	17c 中～後半	染付草花文 輪郭ぎ文 捻花文 二重線線「大明成化年製」	J-70
2	108-8	1層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	(10.0)	(4.0)	4.7	肥前	18 c 前半～ 中頃	染付草花文	J-71
3	108-9	1層	磁器	皿	体部～ 高台	密	-	(6.3)	1.6	肥前	17c 中葉	見込みに柳? 口縁部刷目文 タタミ付けに砂付着	J-72
4	108-10	1層	磁器	高台 口	口縁～ 高台	密	(7.8)	(6.0)	(6.4)	肥前	18c 後半	染付草花文 二重線線	J-73

第201図 SK67土坑出土遺物

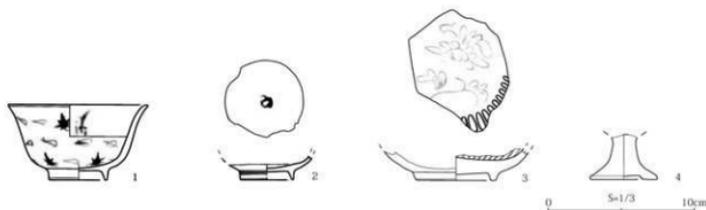
9) SK68 土坑 (第202・203図、図版66-4・5)

N3-W52グリッドに位置し、西側を近代の攪乱で削平される。残存する規模は、長軸1.50m、短軸1.22m、深さ35cmを測る。断面形状は壁面が東側、西側ともにやや外反して立ち上がる。底面は西側がやや深く掘り窪められ、東側が1段浅くなる段状を呈する。堆積土は2層からなり、黄灰色シルトの堆積土である。遺物は1層から17世紀前半の波佐見産の青磁、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片等が出土している。そのうち磁器4点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト少量 径5～10mm程度の炭化物少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	なし	あり	2.5Y7/2 浅灰色砂質シルト多量 径5～10mm程度の炭化物少量 径5cm程度の炭化物ブロック

第202図 SK68土坑平面図・断面図

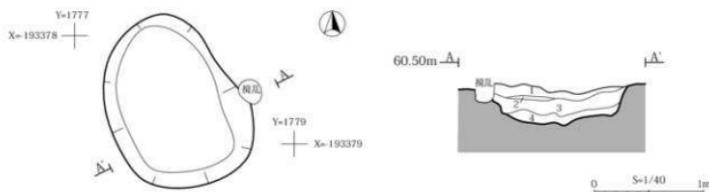


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	109-1	1層	磁器	端反碗	口縁～高台	密	9.5	4.0	5.25	瀬戸・美濃	19c	染付紅葉文?	J-74
2	109-2	1層	磁器	碗	体部～高台	密	-	3.7	(1.62)	瀬戸・美濃	19c	染付有 隠線 二重隠線	J-75
3	109-3	1層	磁器	皿	体部～高台	密	-	5.5	2.2	波佐見	17c前半	青磁 シノ字成形 菊化型押し 初瀬伊万里	J-76
4	109-4	1層	磁器	仏教具	胎部～底部	密	-	4.6	(2.9)	肥前	18c		J-77

第203図 SK68土坑出土遺物

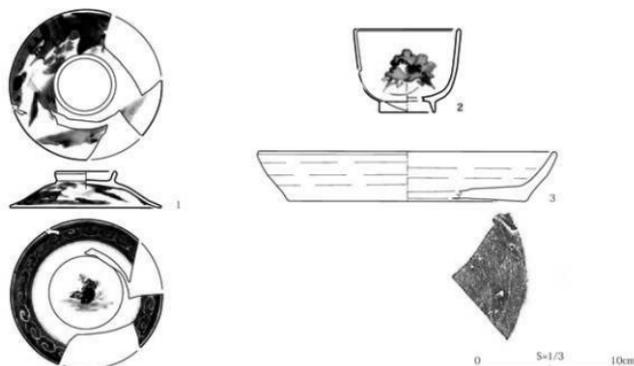
10) SK70土坑(第204・205図、図版66・7・8)

N3-W53グリッドに位置し、東側の一部が近代の攪乱で削平され、SX50と重複しており、SK70が新しい。残存する規模は、長軸1.62m、短軸1.18m、深さ34cmを測り、平面形はN-70°-Eを示す。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈する。底面は起伏が見られ、中央付近がやや落ち込む。堆積土は4層からなり、1層は黄灰色シルト、2層～4層は暗灰黄色シルトである。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は1層から19世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、在地産のかわらけ、3層から19世紀前半の肥前産の磁器、4層から19世紀前半～19世紀中頃の肥前産の磁器等が出土している。そのうち磁器2点、土師質土器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	なし	あり	径0.5～1cmの炭化物微量
2	2.5Y4/1 暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y7/6明黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量
3	2.5Y4/1 暗灰黄色	シルト	なし	あり	径0.5～1cmの炭化物微量 2.5Y7/6明黄褐色シルト極微量
4	2.5Y4/1 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6明黄褐色シルト微量 2.5Y6/3に示す黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量

第204図 SK70土坑平面図・断面図

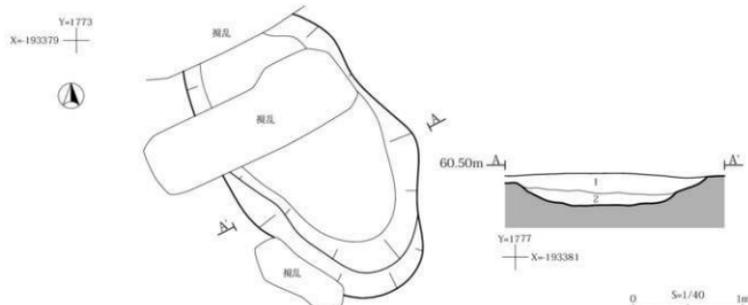


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	109-5	4層	磁器	蓋	上縁～高台	密	10.4	4.2	2.5	肥前	10c前～中	染付山水様文芸?	J-78
2	109-6	3層	磁器	碗	上縁～高台	密	7(3)	3(8)	5.8	肥前	10c前	染付花文	J-79
3	109-7	1層	瓦質土器	かわらけ	上縁～底部	粗	20(6)	16(4)	3(48)	在地	近世	ロウロナデ 回転糸切歯有	J-117

第205図 SK70 土坑出土遺物

11) SK71 土坑 (第206～209図、図版67-1～4)

N2-W52～N2-W53 グリッドに位置し、北側と南側の一部を近代の掘削で削平されている。残存する規模は、長軸 2.70m、短軸 2.07m、深さ 58cm を測る。平面形は不整な楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、主軸方向は N-31°-W を示す。堆積土は 2 層からなり、1 層は黒褐色シルト質砂でⅢ層整地土相当の堆積土である。2 層はシルトである。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 1 層から 16 世紀後半

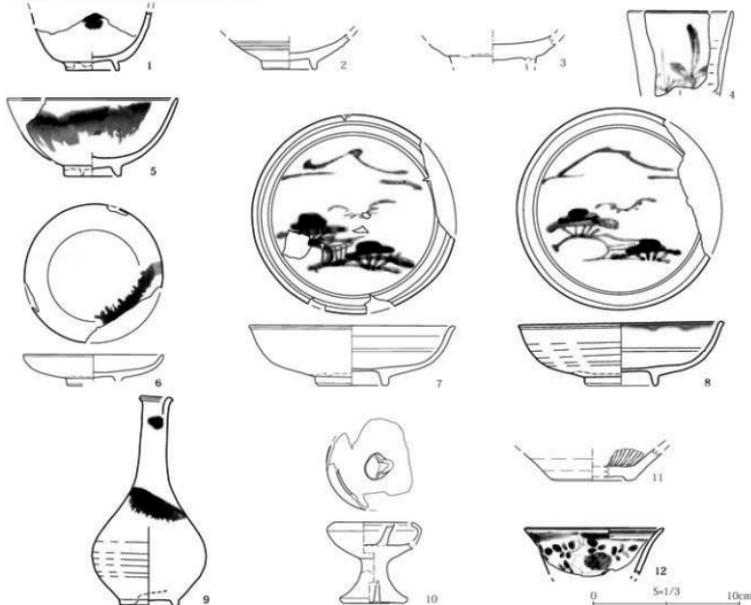


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径 3～8mm の炭化物少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分少量

第206図 SK71 土坑平面図・断面図

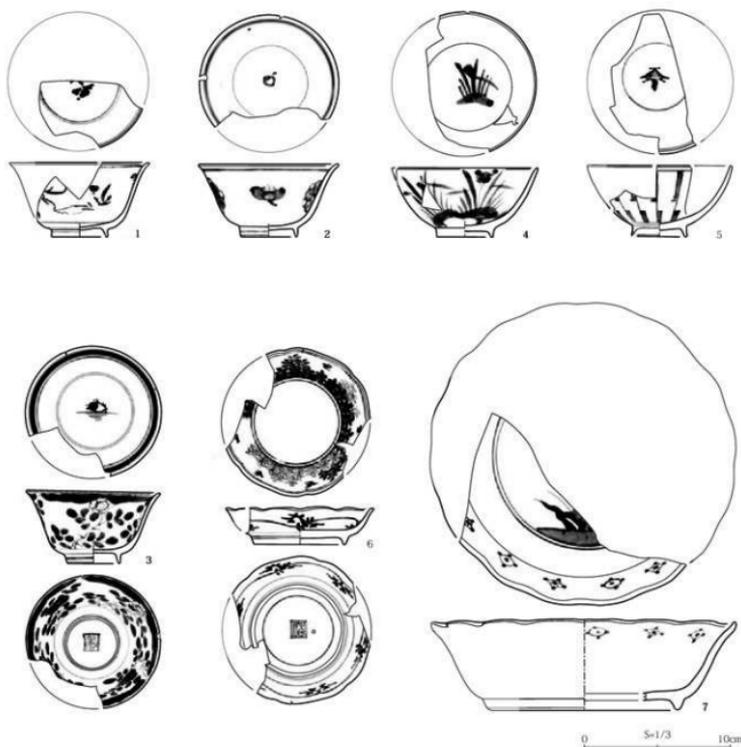
第2節 川内駅部Ⅱ区

～17世紀初頭の瀬戸・美濃産の陶器、17世紀後半～18世紀後半の肥前産の磁器、18世紀中頃～19世紀前半の大塚相馬産の陶器、19世紀代の在産地の土人形、鉄製の簪等が出土している。そのうち、陶器11点、磁器8点、土製品1点、金属製品3点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(mm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	109-8	2層	陶器	碗	体部～高台	やや密	-	3.65	(4.1)	大塚相馬	19c中	白濁輪 緑輪	I-118	
2	109-9	2層	陶器	碗	掛け分輪	体部～高台	やや密	-	3.75	2.4	18c中以降	鉄輪 灰輪 貫入有 掛け分け輪	I-119	
3	109-10	1層	陶器	碗	体部	やや粗	-	-	(1.85)	-	不明	近世	灰輪	I-120
4	109-11	1層	陶器	猪口	口縁～体部	やや密	(7.2)	-	(5.9)	-	19c前	白濁輪 鉄輪 草花文 ロケロ:左	I-121	
5	109-12	2層	陶器	碗	口縁～高台	やや密	(11.65)	3.85	5.45	大塚相馬	19c初頭	白濁輪 緑輪・黒輪流し掛け	I-122	
6	109-13	1層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	9.6	3.75	2.2	大塚相馬	19c初頭	白濁輪 緑輪流し掛け 貫入有	I-123	
7	110-1	1層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	14.1	5.0	4.15	大塚相馬	18c後半～19c初頭	白濁輪 鉄輪	I-124	
8	110-2	2層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	14.02	5.0	4.45	大塚相馬	19c前半	白濁輪 鉄輪	I-125	
9	110-3	2層	陶器	瓶	口縁～高台	密	2.25	4.0	14.55	大塚相馬	19c前半	黒輪 白濁輪	I-126	
10	110-4	1層	陶器	薬罫	口縁～底部	やや密	(5.4)	4.6	5.6	大塚相馬	19c前	鉄輪 回転糸切頭有	I-127	
11	110-5	1層	陶器	皿	体部～高台	やや粗	-	(5.6)	(2.2)	瀬戸・美濃	16c末～17c初?	灰輪 シノギ成形	I-128	
12	110-6	1層	磁器	碗	口縁～体部	密	(9.5)	-	(3.25)	瀬戸・美濃	19c	染付草花文 模範ぎ形有	J-80	

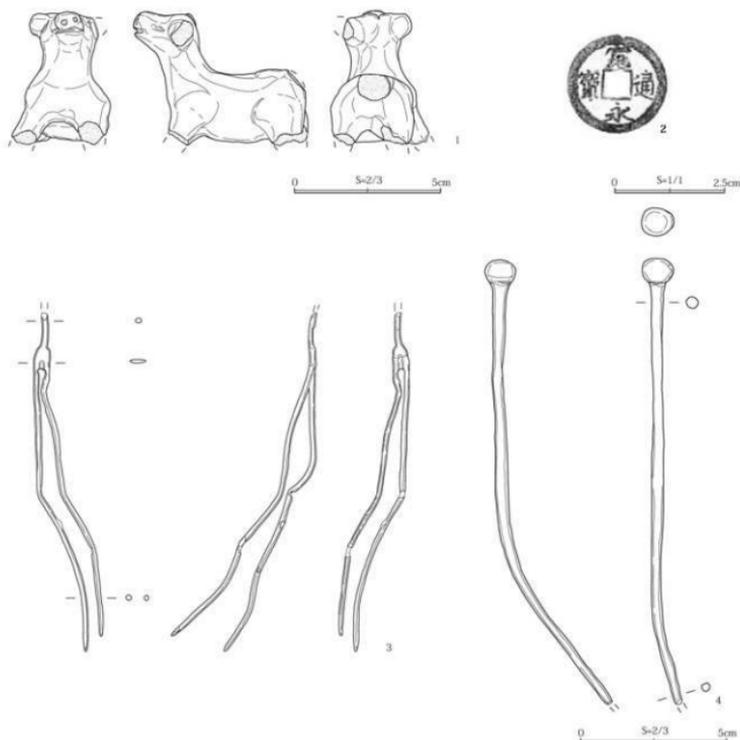
第207図 SK71土坑出土遺物(1)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	110-7	1層	磁器	端反碗	口縁～ 高台	密	9(9)	3.85	5.15	肥前	19c 前半代	染付草花文 見込みに花?	J-81
2	110-8	1層	磁器	端反碗	口縁～ 高台	密	9.6	3.9	5.1	瀬戸・ 美濃	19c 中頃	染付梅文 見込み染付有	J-82
3	110-9	1層	磁器	端反碗	口縁～ 高台	密	9.3	3.65	5.05	瀬戸・ 美濃	19c 中頃	染付草花文	J-83
4	111-1	2層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	10(10)	3(8.5)	4.8	肥前	18c 後	染付有	J-84
5	111-2	2層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	10(10)	3(9)	(4.95)	肥前	18c 後	染付有 見込みに昆虫文 團縁 二	J-85
6	111-4	2層	磁器	輪花皿	口縁～ 高台	密	10.1	6.3	2.5	肥前	17c 末～18c 前	染付鳥に草文 目取1つ有 高台内に二重鈴の題?	J-86
7	111-3	2層	磁器	輪花鉢	口縁～ 高台	密	2(2)	13(2)	6.4	肥前	17 c 後半	輪花鉢 草花文?	J-87

第208図 SK71 土坑出土遺物(2)

第2節 川内駅部Ⅱ区

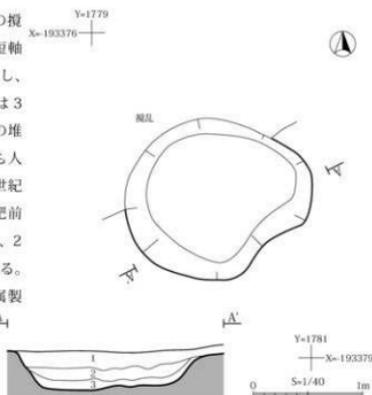


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	111-5	2層	土製品	4.60	3.40	5.95	(38.85)	犬型押し成形	P-5	
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
					外径	穿径	重量			
2	111-6	1層	寛永通寶	1668年	2.2	0.62	(1.71)	新寛永	N-21	
図版番号	写真図版番号	層位	種類	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重量		
3	111-7	1層	金属製品	-	11.75	0.5	0.2	(3.99)	簪	N-22
4	111-8	1層	金属製品	-	13.5	0.15 ~ 0.35	0.13	(16.51)	火箸	N-23

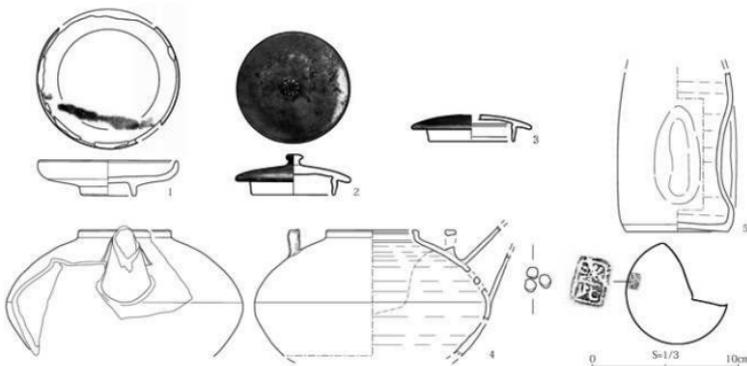
第209図 SK71土坑出土遺物(3)

12) SK73 土坑 (第 210・211 図、図版 67-5・6)

N3-W52～N3-W53 グリッドに位置し、北側は近代の擾乱で削平されている。残存する規模は、長軸 1.68m、短軸 1.47m、深さ 36cm を測る。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は 3 層からなり、1 層は黒褐色シルト質砂でⅢ層整地土相当の堆積土である。2 層、3 層はともにシルトである。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 1 層から 18 世紀後半～19 世紀中頃の大塚相馬産の陶器、19 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の堤産の焙烙、在地産のかわらけ、2 層からガラス製の簀、3 層から金属製品等が出土している。そのうち、陶器 6 点、磁器 2 点、土師質土器 1 点、金属製品 5 点、ガラス製品 1 点を図示した。



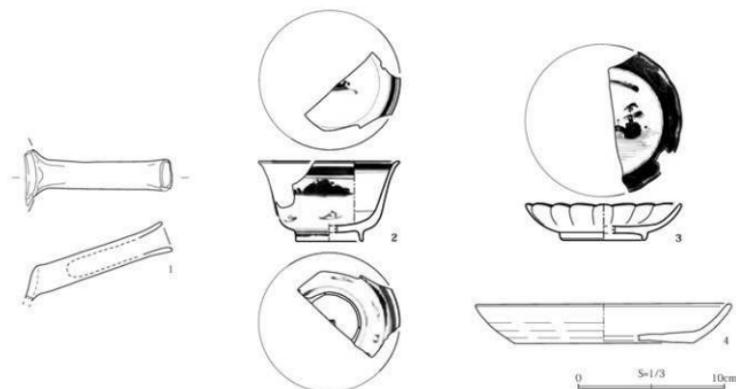
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径 5～8mm の炭化物少量
2	10YR3/1 黒褐色	シルト	ややあり	あり	薪食物残渣 燻化鉄分微量
3	10YR3/2 黒褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄褐色シルト少量 燻化鉄分少量



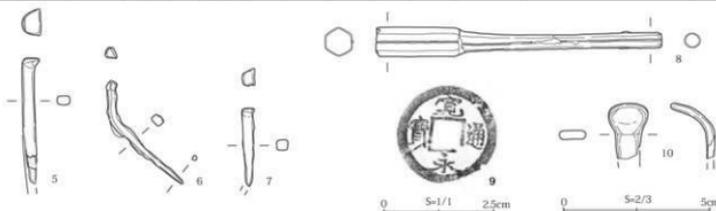
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	112-1	1層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	9.5	3.85	2.45	大塚相馬	19c 前半	白濁輪 磨輪痕し掛け 創印あり (不明)	I-129
2	112-2	1層	陶器	土瓶蓋	つまみ～底面		5.7	-	2.8	大塚相馬	19c 中	緑輪 買入有	I-130
3	112-3	1層	陶器	蓋	体部～縁部		5.85	-	(1.8)	大塚相馬	19c 中	緑輪	I-131
4	112-4	1層	陶器	土瓶	口縁～体部	密	(6.3)	-	(8.7)	大塚相馬	18c 後半以降	白濁輪 買入有	I-132
5	112-5	1層	陶器	徳利	体部～底面		-	7.05	(11.0)	不明	近世	白濁輪 or わら焼輪 底部刻印有 (ラテラ右) 創印有 (不明)	I-133

第 210 図 SK73 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	112-0	1層	軟質陶胎陶器	焙烙	肥子	中々粗	-	-	(5.55)	堀	19c		F-134
2	112-7	1層	磁器	碗・碗	口縁～高台	密	(9.6)	(4.6)	5.55	瀬戸・美濃	19c	染付山・朝田付舟文 陶線 二重陶線	J-88
3	112-8	1層	磁器	梅花皿	口縁～高台	密	(10.6)	(5.8)	2.55	肥前	19c前	染付山水焼圓文 口縁有	J-89
4	112-9	1層	土師質土器	皿?	口縁～底部	粗	(17.5)	(12.2)	2.75	在地	近世	口タロナデ ロケロ・左	F-135

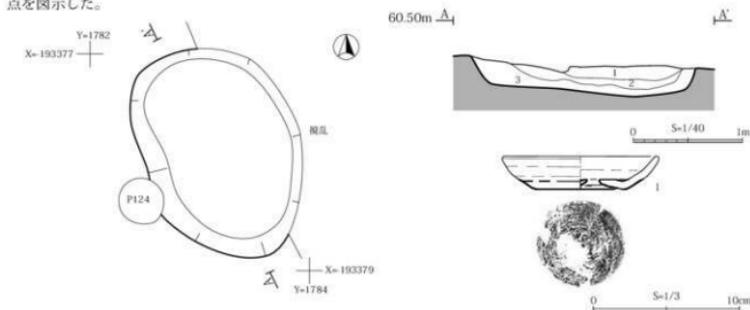


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				口径	底径	器高	重量		
5	112-10	3層	金属製品	(2.7)	(0.6)	(0.35)	(1.25)	釘	N-24
6	112-11	3層	金属製品	(4.35)	(0.9)	(0.4)	(3.26)	釘	N-25
7	112-12	3層	金属製品	4.75	(0.4)	(0.4)	(1.47)	釘	N-26
8	113-1	3層	金属製品	9.8	1.25	0.33	(7.95)	煙管吸口	N-27
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重量		
9	113-2	3層	寛永通寶	1668年	2.25	0.65	(1.71)	新寛永	N-28
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	113-3	2層	ガラス製品	(1.52)	1.4	0.3	(14.0)	簪	X-1

第211図 SK73土坑出土遺物(2)

13) SK74 土坑 (第 212 図、図版 67-7・8)

N3-W52 グリッドに位置し、東側は近代の擾乱で削平される。SD26、P124 と重複しており、SD26 より新しく、P124 より古い。規模は、長軸 2.13m、短軸 1.59m、深さ 24cm を測り、主軸方向は N-42°-W を示す。平面形は楕円形を呈し、断面は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は 3 層からなり、1 層は砂質シルトで炭化物を多量に含んでいる。2 層はシルト、3 層はVI層由来の暗灰黄色シルトを基調とした堆積土である。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器、1 層から 18 世紀後半～19 世紀前半の大塚相馬産の陶器、19 世紀代の堤産の焙烙、在地産の底部に穿孔があるかわらけ等が出土している。そのうち、かわらけ 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト	なし	ややあり	炭化物多量 10YR6/6 明黄褐色焦土ブロック少量 2.5Y7/2 灰黄色灰少量
2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	炭化炭分少量
3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y5/1 暗灰黄色シルト少量 炭化炭分少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	113-4	1層	土師瓦	かわらけ	1縁～底部	やや粗	(10.7)	6.2	2.3	在地	近世	ロケウ 右 ロケウナデ 18世紀末磁器 底部に穿孔有	1-136

第 212 図 SK74 土坑平面図・断面図・出土遺物

14) SK75 土坑 (第 213・214 図、図版 68-1～3)

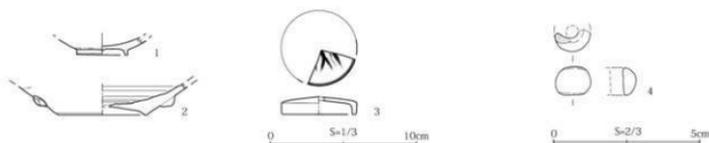
N5-W51 グリッドに位置し、SK76・87、P240 と重複しており、SK75 が新しい。規模は、長軸 92cm、短軸 76cm、深さ 12cm を測り、主軸方向は N-37°-E を示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形状は東側の壁面が緩やかに立ち上がり、西側は段状を呈する。堆積土は単層でシルト質砂である。遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器、18 世紀後半以降の大塚相馬産の陶器、トンボ玉、瓦片等が出土している。そのうち、陶器 3 点、トンボ玉 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	ややあり	あり	径 1～3cm の炭化物少量 径 1～2mm の鏝少量

第 213 図 SK75 土坑平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区



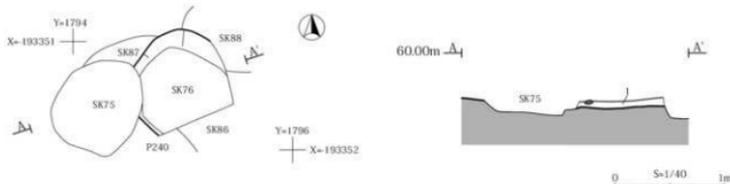
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	113-5	1層	陶器	碗	体部～高台	中～密	-	3.55	(1.21)	大塚相馬	18c後～	鉄輪 貫入有	I-137
2	113-6	1層	陶器	土瓶	底部	中～密	-	(6.2)	(2.2)	大塚相馬	18c後半～	鉄輪 ヘラ削り	I-138
3	113-7	1層	磁器	合子蓋	口縁～体部	密	(5.1)	-	(1.22)	肥前	18c代	袋付草文 遺物	J-90

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			重量
4	113-8	1層	ガラス製品	0.95	(1.3)	0.6	1.32	トシボ玉	X-2

第214図 SK75土坑出土遺物

15) SK76土坑 (第215図、図版68-4～6)

N5-W51グリッドに位置し、南側は近代の擾乱で削平される。SK75・87・88、P240と重複しており、SK75より古く、他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸90cm、短軸84cm、深さ8cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は18世紀代の肥前産の磁器、19世紀前半の大塚相馬産の陶器、在地産のかわらけ等が出土している。そのうち、陶器1点、かわらけ1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	径0.5～2mmの炭化物少量 径1～2mmの礫少量

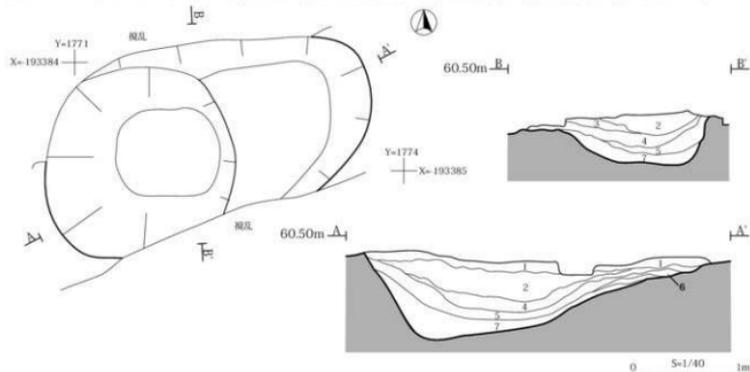


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	113-9	1層	陶器	土鍋	口縁～把手	中～密	(21.4)	-	(5.4)	大塚相馬	19c前半(下層を除外)	鉄輪 ロケロ・右	I-139
2	113-10	1層	土師質土器	皿	口縁～高台	中～粗	6.3	3.80	1.5	在地	近世	ロケロ・右 ロケロナデ 回転取付有	I-140

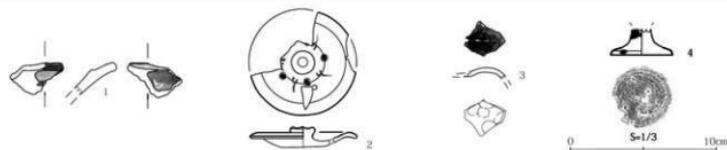
第215図 SK76土坑平面図・断面図・出土遺物

16) SK77土坑(第216・217図、図版68-7～69-1)

N2-W53グリッドに位置し、北側、南側ともに近代の擾乱で削平される。SK64、SX31、P131と重複しており、SX31より古く、他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸3.1m、短軸1.6m、深さ80cmを測り、主軸方向はN-63°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は東壁が緩やかに立ち上がり、西、北壁はやや外反して立ち上がる。北壁は上部が外側に開き段状を呈する。堆積土は7層からなり、1層、2層はシルト質砂で地人為的に埋め戻された堆積土である。3層、5層、6層はシルト、4層は黒褐色シルトで腐食物を多量に含んでいる。7層はVI層由来の黄褐色シルトを基調とする堆積土でグライ化が認められる。4層に腐食物を多量に含むことから、廃棄土坑の可能性が考えられる。遺物は19世紀前半～19世紀中頃の瀬戸・美濃産の磁器、産地不明の水滴、瓦片等が出土している。そのうち、陶器4点、磁器3点、土師質土器1点、金属製品2点、石製品1点を図示した。



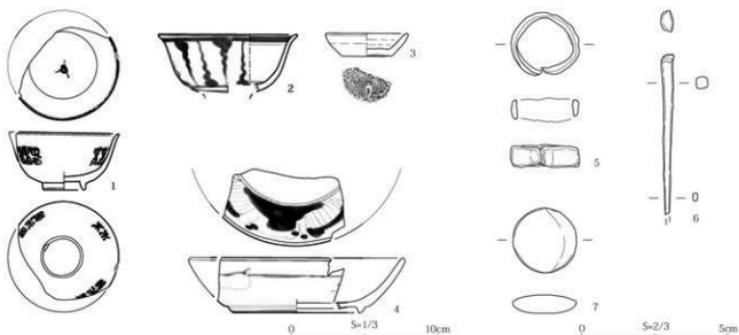
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径5～8mmの炭化物微量 径約1～5cmの破片量
2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径5～8mmの炭化物少量 径約1～5cmの破片量
3	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/1 黒褐色シルト質砂微量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	腐食物多量 酸化鉄分微量
5	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	5Y6/2 灰オリーブ色シルト微量 腐食物微量 酸化鉄分微量 グライ化
6	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	ややあり	5Y5/1 灰色シルト微量 グライ化
7	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	ややあり	5Y5/1 灰色シルト少量 腐食物微量 グライ化



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	113-11	4層	軟質陶 輪陶器	皿		やや粗	-	-	1.95	不明	近世	折縁の皿 縁輪 陶師印	I-141
2	113-12	4層	陶器	蓋	つまみ ～底部	やや密	-	-	7.3	大塚 相馬	19c 中頃	白濁輪 貫通・鉄釘有貫入有 回転糸切面有 ロクロ:右	I-142
3	113-13	1層	陶器	水盥? or 香合	上部	やや密	-	-	0.7	不明	近世	縁輪 型押 指頭痕有	I-143
4	113-14	4層	陶器	仏具 底座	脚部～ 底座	やや密	-	-	4.3	大塚 相馬	19c	鉄輪 ロクロ:右	I-144

第216図 SK77土坑平面図・断面図・出土遺物(1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	113-17	4層	磁器	碗状陶	口縁～高台	密	(7.6)	2.9	4.05	瀬戸・美濃	19c前～中	染付源氏香文 口縁有 見込み染付有	J-91
2	113-15	4層	磁器	碗状陶	口縁～高台	密	(9.5)	-	(4.0)	瀬戸・美濃	19c	染付有 陶線 二重陶線	J-92
3	113-16	4層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	粗	(5.65)	(3.45)	1.6	在地	近世	ロクロ：左 ロクロナデ 右転糸切磁有	J145
4	113-18	4層	磁器	皿	口縁～高台	密	(14.8)	(8.8)	3.8	肥前	19c	染付草花文 胴道2種有 陶線 二重陶線 ハナシ染付有	J-93

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	113-19	4層	金属製品	-	2.35	1.65	3.32	不明(リング状)	N-29
6	113-20	4層	金属製品	(5.55)	(0.7)	(0.4)	2.74	釘	N-30

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
7	113-21	4層	石製品	0.65	2.2	2.2	4.27	粘板岩	礫石	K-7

第217図 SK77土坑出土遺物(2)

17) SK80土坑(第218図、図版69-2・3)

N3-W53グリッドに位置し、北西側と東側の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸75cm、短軸59cm、深さ26cmを測る。断面形は逆台形と考えられる。堆積土は3層からなり、1層は黒褐色シルト質砂でⅢ層整地土相当の堆積土である。2層、3層はシルトで、いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

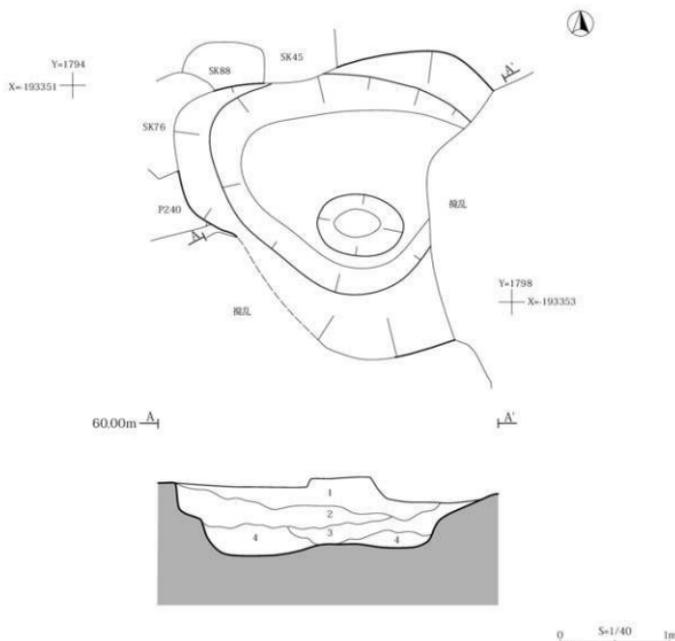


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	炭化物少量
2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	径0.3～1cmの炭化物粒微量
3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	径0.3～1cmの炭化物粒少量 酸化鉄分少量 径約8cmの礫含む

第218図 SK80土坑平面図・断面図

18) SK86 土坑 (第 219 図、図版 69-4・5)

N5-W51 グリッドに位置し、遺構の大半を上層遺構の SK45 と近代の掘乱で削平される。SK76・88、P240 と重複しており、SK76 より古く、他の遺構より新しい。また、西側の一部は掘乱で削平され、遺構の上端は検出できなかった。その箇所は破線で図に示した。残存する規模は、長軸 2.74m、短軸 2.32m、深さ 72cm を測り、主軸方向は N-17°-E を示す。平面は不整形で、断面形状は壁面が階段状に立ち上がっている。底面は西側が掘り窪められ段状を呈する。南側には一部ピット状に落ち込んだ箇所が見られる。堆積土は 4 層からなり、1 層、3 層はシルト、2 層、4 層もシルトであるが VI 層由来の黄褐色シルトブロックを含んでいる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考
1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルトブロック少量 径 3~5cm の炭化物極微量
3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
4	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6 明黄褐色シルトブロック少量 酸化鉄分少量

第 219 図 SK86 土坑平面図・断面図

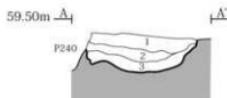
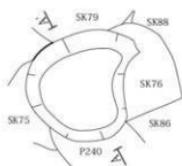
19) SK87 土坑 (第 220 図、図版 69-6~8)

N5-W51 グリッドに位置し、遺構の上層部を上層遺構の SK79 で削平され、西側は SK75・76・86・88、P240 と重複しており、SK87 が古い。規模は、長軸 1.08m、短軸 90cm、深さ 35cm を測る。平面形は不整な円形が考え

第2節 川内駅部Ⅱ区

られ、断面形は逆台形を呈する。底面は中央付近に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は2層から礫石、3層から18世紀後半以降の大堀相馬産の陶器等が出土している。そのうち、陶器1点、磁器2点、石製品1点を図示した。

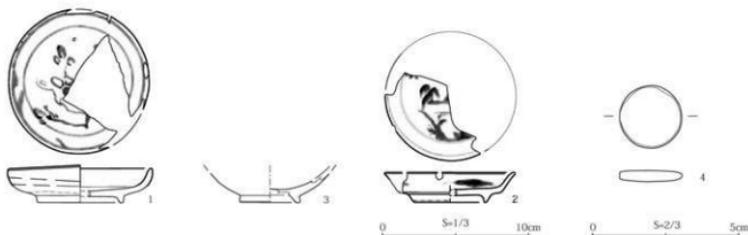
Y=1793
X=193350



Y=1796
X=193353

0 S=1/40 1m

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	25Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分微量
2	25Y4/2 暗黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量
3	10YR5/1 暗灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量



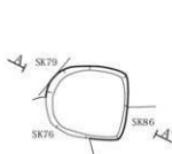
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	114-1	3層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	9.85	5.9	2.6	大堀相馬	18c中頃	灰輪 鉄胎草花文 目釘2残存 口ノコ:右	I-146
2	114-3	3層	陶器	碗	高台～体部	やや密	-	(4.1)	(2.0)	大堀相馬	18c後～	灰輪 貫入有	I-147
3	114-2	3層	磁器	皿	体部～高台	密	(8.9)	(5.0)	2.1	肥前	18c中?	染付草花文	J-94
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号			
				長さ	幅	厚さ	重量						
4	114-4	2層	石製品	0.4	2.15	2.2	3.09	粘板岩	礫石		K-8		

第220図 SK87土坑平面図・断面図・出土遺物

20) SK88 土坑 (第 221 図、図版 70-1・2)

N5-W55 グリッドに位置し、SK76・79・86・87 と重複しており、SK88 が古い。規模は、長軸 76cm、短軸 66cm を測り、主軸方向は N-59°-E を示す。平面形は隅丸正方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。底面は西側に緩やかに傾斜する。堆積土は 3 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層、3 層はシルトである。遺物は 2 層から丸瓦が出土しており、図示した。

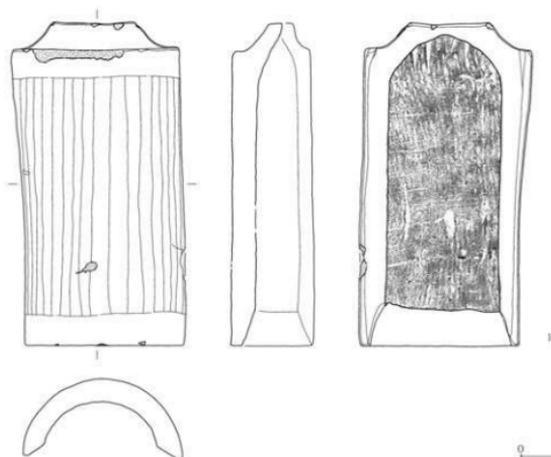
Y=1794
X=193350



Y=1797
X=193352

0 1/40 1m

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	細灰色 砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 丸瓦含む
2	10YR5/1	細灰色 シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分多量 丸瓦含む
3	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量



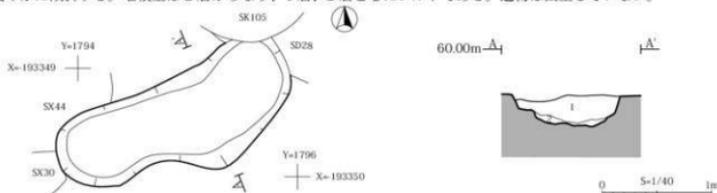
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	114-5	2層	丸瓦	300	15.8	5.2	瓦幅: 7.40 瓦幅: 14.50 側長: 27.60 玉縁長: 2.50 表面: 型押し、ヘラケズリ 玉コナ平 内面: 型押し、コビキ 右目付直	F-10

第 221 図 SK88 土坑平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

21) SK89 土坑 (第222図、図版70-3・4)

N6-W51 グリッドに位置し、北側はSD28、SK105、西側はSX30・44と重複しており、SX30・44より新しく、他の遺構より古い。残存する規模は、長軸2.27m、短軸96cm、深さ23cmを測る。平面は不整形で、断面形状は北側は急な角度で立ち上がり、南側は段状を呈する。主軸方向はN-62°-Eを示す。底面はやや起伏が見られ、北側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。

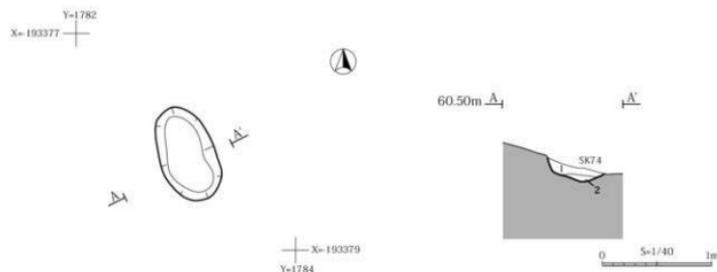


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	黄灰色	シルト	ややあり	2.5Y7/3 浅黄色シルト微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量

第222図 SK89土坑平面図・断面図

22) SK90 土坑 (第223図、図版70-5・6)

N6-W51 グリッドに位置し、SK74と重複し、SK90が古い。残存する規模は、長軸90cm、短軸52cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形で、底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は出土していない。

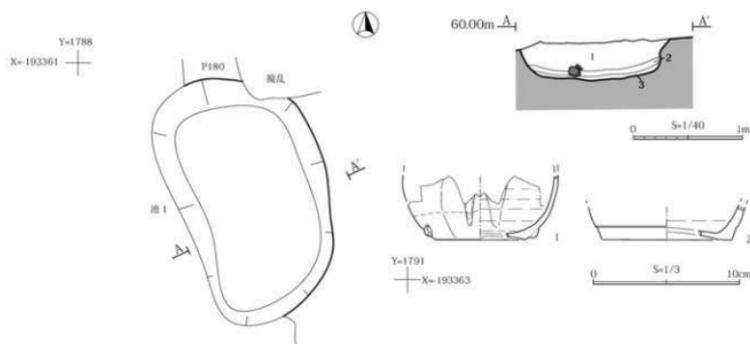


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり 酸化鉄分少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量 2.5Y7/3 浅黄色シルト微量

第223図 SK90土坑平面図・断面図

23) SK91 土坑 (第224図、図版70-7・8)

N4-W51 ~ N4-W52 グリッドに位置し、東側の一部を近代の擾乱で削平される。北側はP180、西側は池1の古段階、池1の新段階と重複しており、池1の古段階より新しく、他の遺構より古い。残存する規模は、長軸2.32m、短軸1.38m、深さ32.8cmを測る。主軸方向はN-19°-Wを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。堆積土は3層からなり、1層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。2層、3層もシルトで遺構が開口していた時期に底面にたまった沈殿物層である。遺物は18世紀~19世紀代の大瀬相馬産の陶器が出土している。そのうち、陶器2点を図示した。



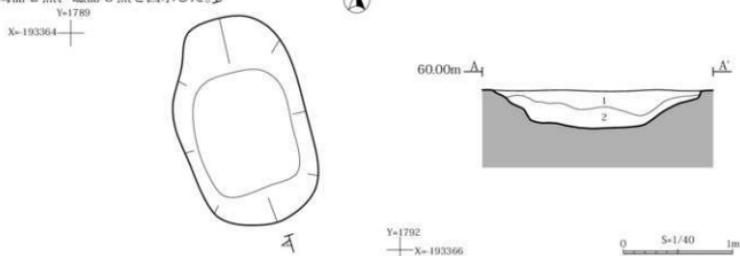
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/4 浅黄色シルト少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/1 黄灰色シルト少量
3	5Y6/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/4 浅黄色シルト極微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	114-6	1層	陶器	土瓶	体部～底部	やや密	-	(6.2)	(4.35)	大塚相馬	18c 後半～19c 前	白陶軸 一部無軸	I-148
2	114-7	1層	陶器	甕?	底部	やや密	-	(8.8)	(2.25)	大塚相馬	18c～19c	鉄軸	I-149

第224図 SK91 土坑平面図・断面図・出土遺物

24) SK101 土坑 (第225・226図、図版71-1・2)

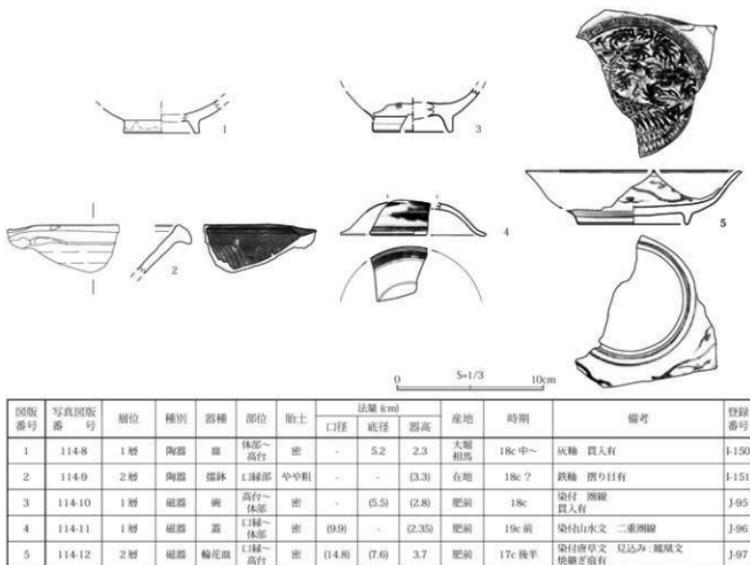
N4-W51 グリッドに位置し、P278と重複しており、SK101が古い。規模は、長軸1.84m、短軸1.19m、深さ36cmを測り、主軸方向はN-17°-Wを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は1層から18世紀～19世紀前半の肥前産の磁器、18世紀中頃以降の大塚相馬産の陶器、2層から17世紀後半の肥前産の磁器、在地産の播鉢等が出土している。そのうち、陶器2点、磁器3点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量
2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰色シルト少量 酸化鉄分少量

第225図 SK101 土坑平面図・断面図

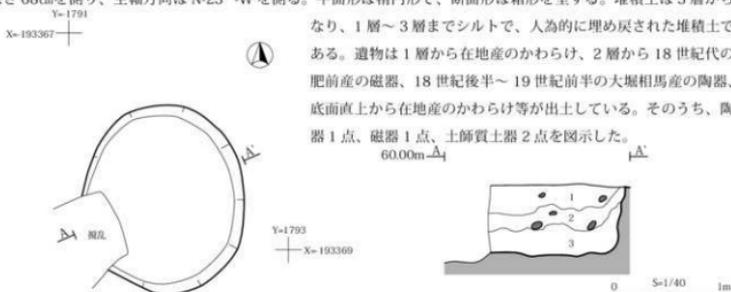
第2節 川内駅部Ⅱ区



第226図 SK101 土坑出土遺物

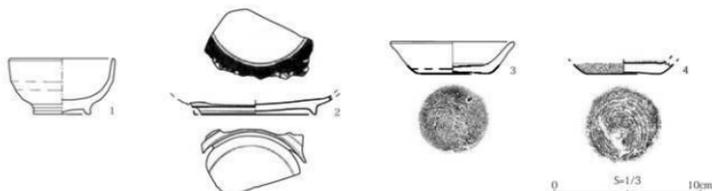
25) SK102 (第227・228図、図版71-3・4)

N4-W51 グリッドに位置し、西側を近代の擁壁で削平されている。残存する規模は、長軸 1.70m、短軸 1.45m、深さ 68cmを測り、主軸方向は N-23°-W を測る。平面形は楕円形で、断面形は箱形を呈する。堆積土は 3層からなり、1層～3層までシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は 1層から在産のかわらけ、2層から 18 世紀代の肥前産の磁器、18 世紀後半～ 19 世紀前半の大塚相馬産の陶器、底面直上から在産のかわらけ等が出土している。そのうち、陶器 1 点、磁器 1 点、土師質土器 2 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量 径約 10～20mmの礫石
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分多量
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量

第227図 SK102 土坑平面図・断面図

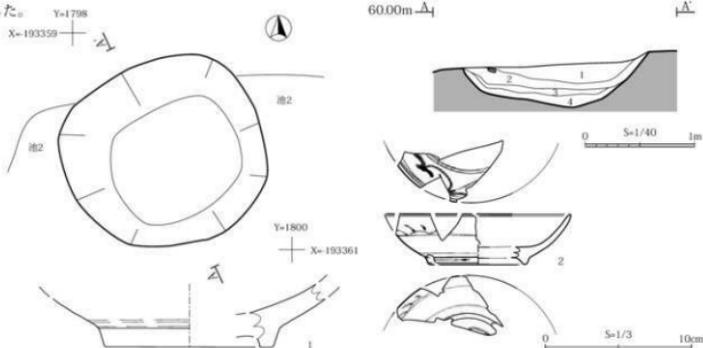


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	115-1	2層	陶器	碗	口縁～高台	やや粗	(7.25)	(3.95)	3.85	大塚相馬	18c 後～19c 前	灰釉 貫入有	F-152
2	115-2	2層	磁器	皿	高台	-	(8.4)	(1.3)	肥前	18c	染付 陶繪 二重陶繪 貫入有	J-98	
3	115-3	3層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粗	8.5	4.8	2.2	在池	近世	ロクロ口 左 回転糸切痕有	F-153
4	115-4	1層	土師質土器	かわらけ	底部	やや粗	-	5.1	(1.3)	在池	近世	ロクロナデ 回転糸切痕有 ロクロ口 左	F-154

第228図 SK102 土坑出土遺物

26) SK103 土坑 (第229図、図版71-5・6)

N4-W51～N4-W52グリッドに位置し、南側は池2の古段階と重複しており、SK103が新しい。規模は、長軸1.79m、短軸1.74m、深さ68cmを測り、平面形は円形、断面形は深鉢状を呈する。堆積土は4層からなり、1層～4層までシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は1層から産地不明の鉢、2層から18世紀中頃～18世紀後半の波佐見産の磁器、在地産の土師質土器、瓦等が出土している。そのうち、陶器1点、磁器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量 径 3mm程度の炭化物微量
2	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト少量 酸化鉄分多量 径 2～5mmの炭化物微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分多量
4	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/2 灰黄色シルト少量 2.5Y7/4 浅黄色シルト微量 酸化鉄分微量

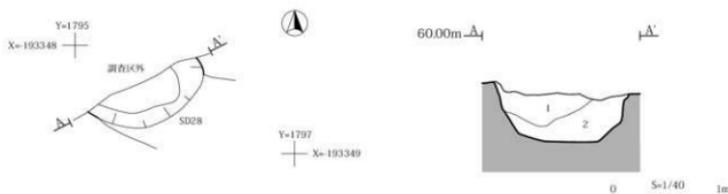
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	115-5	2層	陶器	鉢?	高台	やや粗	-	(11.6)	(4.32)	不明	近世	鉄釉 灰釉 ロクロ口 右	F-155
2	115-6	1層	磁器	皿	口縁～高台	産	(12.8)	(6.8)	(3.5)	波佐見	18c 中～後	染付唐草文 陶繪 二重陶繪	J-99

第229図 SK103 土坑平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

27) SK105 土坑 (第230図、図版71-7)

N6-W51 グリッドに位置し、SD28と重複しており、SK105が古い。北側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸1.10m、短軸40cm、深さ50cmを測る。断面形は逆台形を呈し、底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

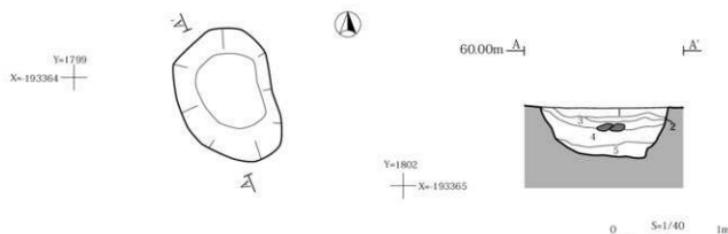


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y3/1 黒褐色シルト微量 酸化鉄分微量
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰色シルト少量 酸化鉄分微量

第230図 SK105土坑平面図・断面図

28) SK106 土坑 (第231図、図版71-8～72-2)

N4-W50 グリッドに位置し、規模は、長軸1.28m、短軸88cm、深さ48cmを測り、主軸方向はN-23°-Wを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は逆台形で、底面は南側に緩やかに傾斜する。堆積土は5層からなり、1層、2層は砂質シルト、3層～5層は粘土質シルトであり、3層には、径約10cmの礫を少量に含んでいる。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は、在地産の土師質土器、瓦片等が出土しているが、細片のため図示していない。



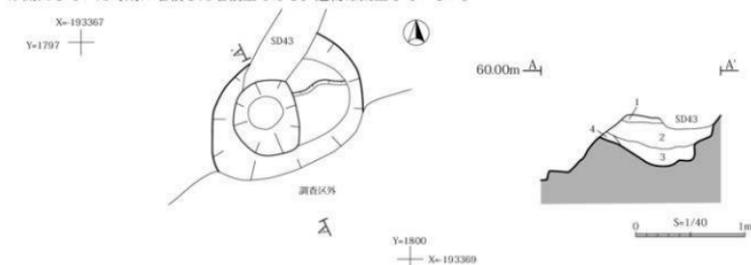
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1～2mmの2.5YR6/3 黄色シルトブロック少量 径0.5～4mmの炭化物少量
2	10YR5/1 暗灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径0.5～2mmの炭化物少量
3	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径2～4cmの10YR7/2 赤い黄褐色シルト質粘土ブロック少量 径約10cmの礫少量 径5～10mmの炭化物少量
4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径約5mmの10YR7/2 赤い黄褐色シルト質粘土ブロック少量 径約1mmの炭化物少量
5	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径約5mmの炭化物微量

第231図 SK106土坑平面図・断面図

29) SK107 土坑 (第232図、図版72-3・4)

N4-W51 グリッドに位置し、南側を現代の工事に伴う削平により削平され、北側はSD43と重複しており、SK107が古い。残存する規模は、長軸1.6m、短軸1.06m、深さ48cmを測り、主軸方向はN-54°-Eを示す。平面形は楕円形が考えられ、断面形状は西側の底面が深く掘り窪められているため段状を呈する。堆積土は4層から

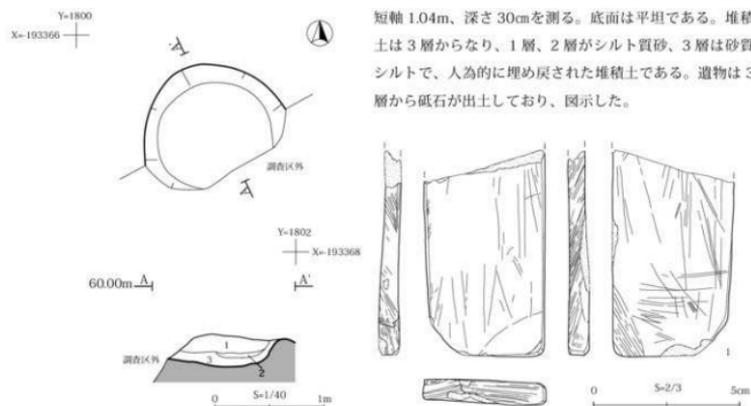
なり、1層は砂質シルト、2層はシルト質砂で人為的に埋め戻された堆積土である。3層は粘土質シルトで、遺構が開口していた時期に堆積した堆積土である。遺物は出土していない。



第232図 SK107土坑平面図・断面図

30) SK108土坑 (第233図、図版72・5・6)

N4-W50グリッドに位置し、南側を現代の工事に伴う削平により削平されている。残存する規模は、長軸1.35m、短軸1.04m、深さ30cmを測る。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、1層、2層がシルト質砂、3層は砂質シルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は3層から砥石が出土しており、図示した。



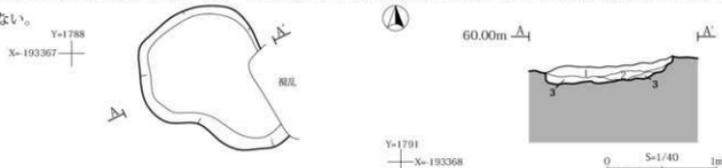
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	115-7	3層	石製品	7.1	4.15	0.7	(37.6)	石炭灰山 質砥石	砥石 推定有	K-9

第233図 SK108土坑平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

31) SK110 土坑 (第234図、図版72-7・8)

N4-W52グリッドに位置し、東側を近代の掘削で削平されており、残存する規模は、長軸1.52m、短軸1.16m、深さ22cmを測る。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏が見られるものの平坦である。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

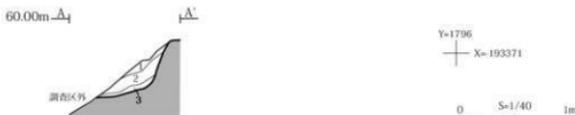


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1	黄灰色シルト	ややあり	あり	
2	2.5Y6/1	黄灰色シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト微量
3	2.5Y7/1	灰白色シルト	ややあり	あり	5Y7/4 浅黄褐色シルト少量 酸化鉄分微量

第234図 SK110土坑平面図・断面図

32) SK112 土坑 (第235図、図版73-1・2)

N3-W51～N4-W51グリッドに位置し、南側を現代の工事に伴う削平により削平されている。残存する規模は、長軸1.12m、短軸65cm、深さ47cmを測る。底面は南側に緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層はシルト質砂、2層は砂質シルト、3層はシルトで、いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は19世紀代の大堀相馬産の陶器が出土しているが、細片のため図示していない。



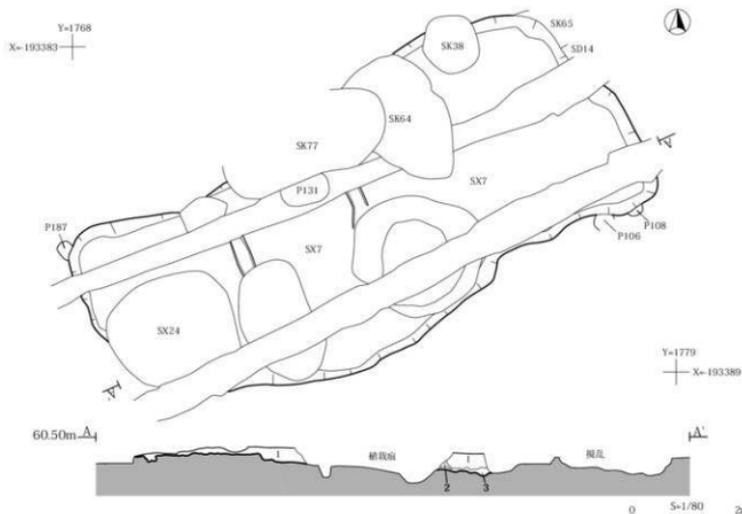
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y6/1	黄灰色シルト質砂	ややあり	あり	径約2mmの炭化物少量 径1～2mmの灰白色粒子少量
2	2.5Y5/1	黄灰色砂質シルト	ややあり	ややあり	径2～5mmの炭化物少量 径1～2mmの灰白色粒子少量
3	2.5Y4/1	黄灰色粘土質シルト	あり	ややあり	径約2mmの灰白色粒子少量 径約1mmの炭化物少量

第235図 SK112土坑平面図・断面図

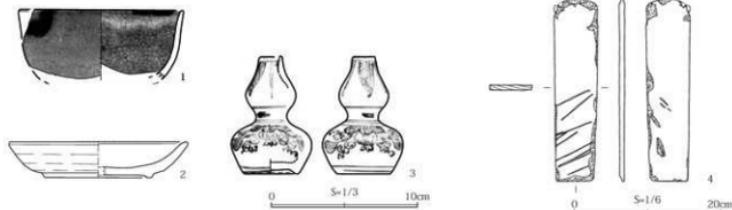
(4) 性格不明遺構

1) SX7 性格不明遺構 (第236・237図、図版73-3～5)

N2-W53グリッドに位置し、遺構の中央付近を近代の掘削と上層遺構の木樋3に削平され、SD14・SK38・64・77・P106・108と重複しており、SX7が古い。残存する規模は、長軸5.40m、短軸2.28m、深さ38cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は不整形な隅丸長方形で、断面形は皿状が考えられる。底面はやや起伏が見られ、中央付近に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は16世紀末～17世紀初頭の志野産の陶器、17世紀後半の肥前産の磁器、19世紀前半の大堀相馬産の陶器、在地産の瓦質土器等が出土している。そのうち陶器2点、磁器1点、瓦質土器1点、木製品1点を図示した。



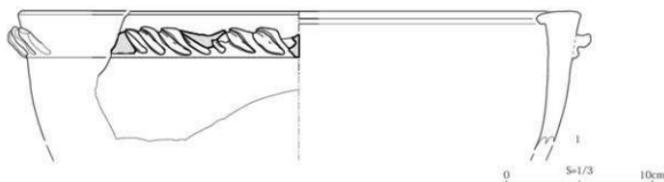
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	径3～5mmの炭化物微量
2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	115-9	1層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	(11.2)	-	(4.8)	大畑粗馬	19c前	灰輪 鉄輪 呉須 貫入有	I-156
2	115-8	1層	陶器	皿	口縁～高台	やや粗	(12.2)	(7.2)	2.5	志野	16c末～17c初頭	志野輪 貫入有 ロケロ:左	I-157
3	115-10	1層	磁器	振り出し	口縁～高台	密	1.5	3.6	8.2	肥前	17c後半	染付菊菊文 (中国の模倣)	J-100
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号			
				口径	底径	器高							
4	115-11	1層	木製品	25.4	6.0	0.7	板目	針葉樹	板材		L-26		

第236図 SX7 性格不明遺構横断面・断面図・出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区

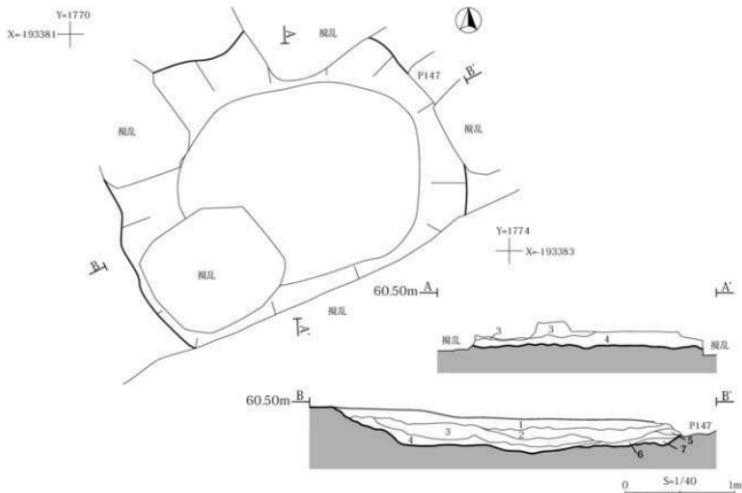


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	115-12	1層	瓦質土器	火入れ	口縁- 体部	やや粗	φ38.4	-	伊豆	在地	近世	ミガキ ヨコナデ	1158

第 237 図 SX7 性格不明遺構出土遺物 (2)

2) SX21 性格不明遺構 (第 238 ~ 241 図、図版 73-6 ~ 74-2)

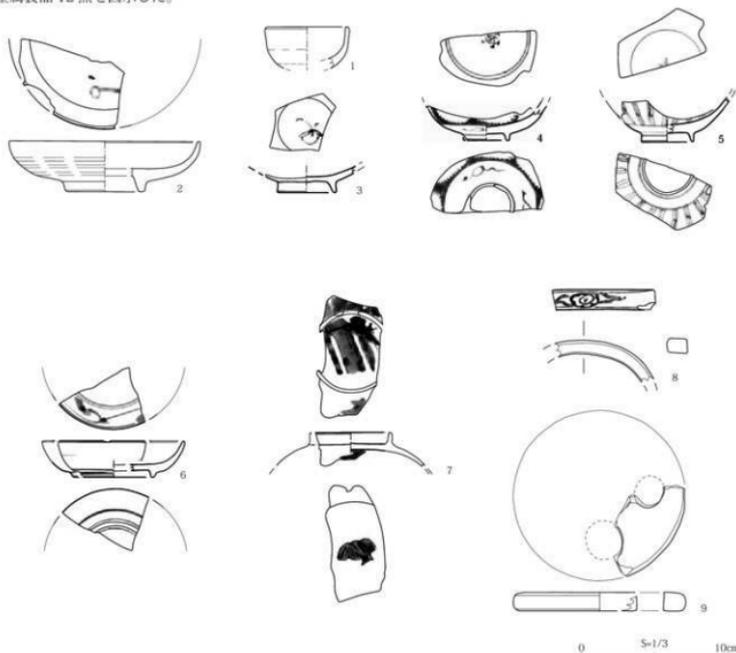
N2-W53 グリッドに位置し、遺構の一部を近代の掘乱で削平されている。P147、SX25・31 と重複しており、P147 より古く、他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸 3.04m、短軸 2.38m、深さ 36cm を測り、主軸方向は N-63° -E を示す。平面形は不整形な隅丸正方形が考えられ、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は 7 層からなり、1 層、2 層は黒褐色シルト質砂でⅢ層整地土相当の堆積土である。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径 3 ~ 5mm の炭化物微量 径 1 ~ 3cm の縄文む
2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量 径 0.5 ~ 1cm の炭化物微量 径 1 ~ 8cm の縄文む
3	5Y5/1 灰色	シルト	ややあり	あり	5Y4/1 灰色シルト少量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	径 0.3 ~ 1cm の炭化物微量 酸化鉄分微量 腐食物微量
5	5Y3/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/3 オリーブ黄色シルト少量
6	2.5Y 4/2 灰オリーブ色	シルト	ややあり	あり	2.5Y 4/1 灰色シルト少量
7	2.5Y 4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/2 灰オリーブ色シルト少量

第 238 図 SX21 性格不明遺構平面図・断面図

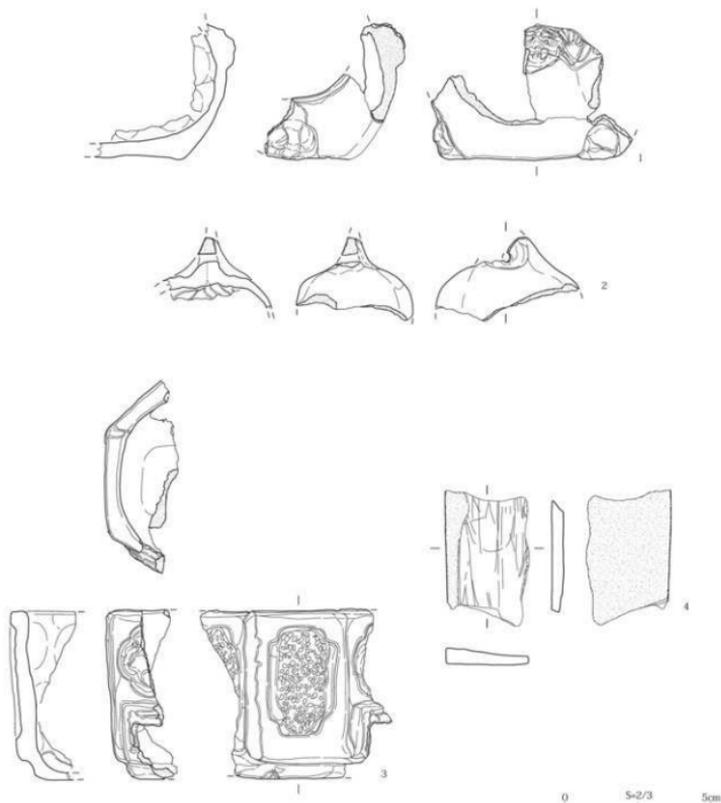
3層～7層まではシルトである。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は各層から18世紀代の肥前産の磁器、18世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、18世紀後半～19世紀前半の大塚相馬産の陶器、在地産の瓦質土器、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器2点、磁器6点、瓦質土器1点、土製品3点、石製品1点、金属製品12点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	115-14	2層	陶器	碗	口縁～ 体部	粗	-	-	-	瀬戸・ 美濃	18c	灰輪 ヘラケズリ 買入有 ロケロ:左	J-159
2	115-13	4層	陶器	皿	口縁～ 高台	中～密	(13.0)	(5.4)	(3.5)	大塚相 馬	18c 後～19c 前	灰輪 ヘラケズリ ロケロ:右	J-160
3	115-15	1層	磁器	碗	高台	密	-	(4.1)	(18.2)	肥前	18c 後	見込み；趾出文 陶線 胡羅ぎ直有	J-101
4	116-1	3層	磁器	碗	体部～ 高台	密	-	(3.1)	(2.4)	肥前	18c 後	染付雪輪文	J-102
5	116-2	2層	磁器	碗	体部～ 高台	密	-	(3.6)	3.1	肥前	18c 後	陶線 三重陶線 買入有	J-103
6	116-3	2層	磁器	皿	口縁～ 高台	密	φ8.0)	(5.6)	2.5	肥前	18c 中～後	染付蔓文 陶線 二重陶線	J-104
7	116-4	1層	磁器	蓋	体部～ 高台	密	-	(5.6)	2.4	肥前	18c ?	染付竹に鳥文(雀?) 見込みに鳥	J-105
8	116-5	4層	磁器	把手	上部～ 底部	中～密	-	-	-	肥前?	18c～19c代	鉄輪	J-106
9	116-6	1層	瓦質土器	皿皿	上部～ 底部	粗	-	(11.5)	(1.3)	在地	近世	ヨコナデ	J-161

第239図 SX21 性格不明遺構出土遺物 (1)

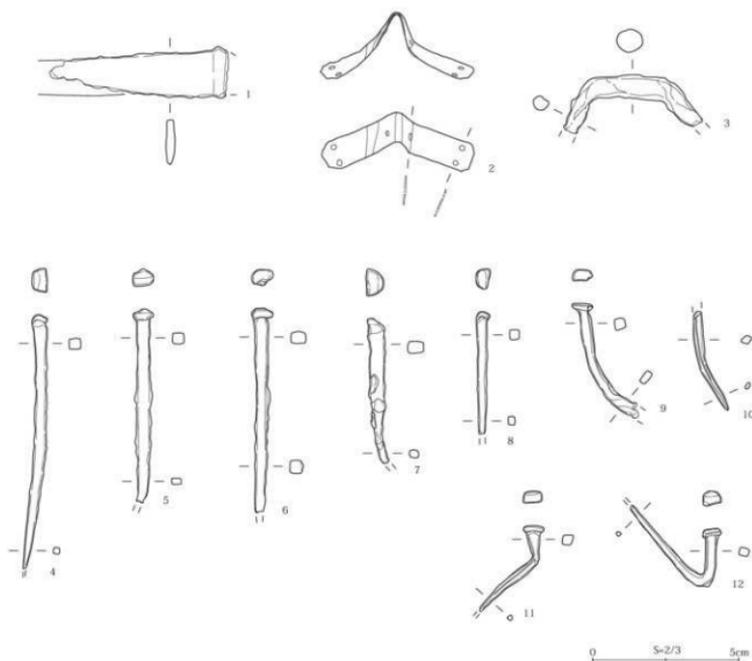
第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	116-7	2層	土製品	(4.7)	(6.9)	9.5	(33.11)	かゆり? 水掛け? 型押し成形後十字調整 節頭直有	P-6
2	116-8	2層	土製品	(2.9)	(4.9)	(0.42)	(13.47)	土鈿 型押し成形後十字調整 成形直(しぼり有)	P-7
3	116-9	4層	土製品	5.87	6.6	0.7	(52.84)	七輪? 型押し成形後調整 節頭直有	P-8

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
4	116-10	4層	石製品	0.6	2.95	0.4	(8.88)	粘板岩	破 節直有(砥石に転用)	K-10

第240図 SX21 性格不明遺構出土遺物(2)



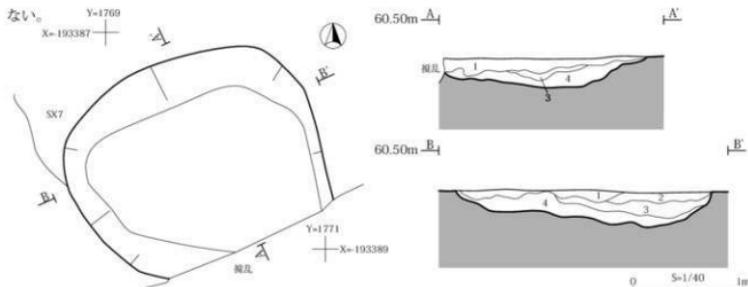
図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録 番号
				口径	底径	器高	重量		
1	116-11	1層	金属製品	(6.12)	(1.55)	(0.25)	(8.34)	刀子 刀那	N-31
2	116-12	4層	金属製品	5.2	2.25	0.01	(1.77)	留め金具	N-32
3	116-13	1層	金属製品	4.75	0.8	0.9	(6.54)	釘	N-33
4	116-14	1層	金属製品	(8.82)	(0.8)	(0.4)	(6.77)	釘	N-34
5	116-15	2層	金属製品	(6.72)	(0.7)	(0.4)	(4.94)	釘	N-35
6	117-1	1層	金属製品	(7.12)	0.45	0.4	(6.63)	釘	N-36
7	117-2	1層	金属製品	3.02	0.55	0.4	(3.83)	釘	N-37
8	117-3	1層	金属製品	(4.29)	(0.7)	(0.35)	(2.66)	釘	N-38
9	117-4	1層	金属製品	(4.0)	(0.7)	(0.35)	(2.3)	釘	N-39
10	117-5	2層	金属製品	(3.42)	(0.2)	(0.25)	(0.72)	釘	N-40
11	117-6	1層	金属製品	(3.95)	(0.7)	(0.75)	(1.25)	釘	N-41
12	117-7	1層	金属製品	(5.6)	0.6	(0.29)	(1.95)	釘	N-42

第241図 SX21 性格不明遺構出土遺物(3)

第2節 川内駅部Ⅱ区

3) SX24 性格不明遺構 (第242図、図版74-3～5)

N2-W53～N2W-54グリッドに位置し、南側、北側ともに近代の擾乱で削平されている。SX7と重複しており、SX24が新しい。残存する規模は、長軸3.18m、短軸2.47m、深さ39cmを測り、主軸方向はN-25°-Wを示す。平面形は不整な円形が考えられ、断面形は逆台形を呈する。底面はやや起伏が見られ、西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は4層からなり、1層～4層までシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

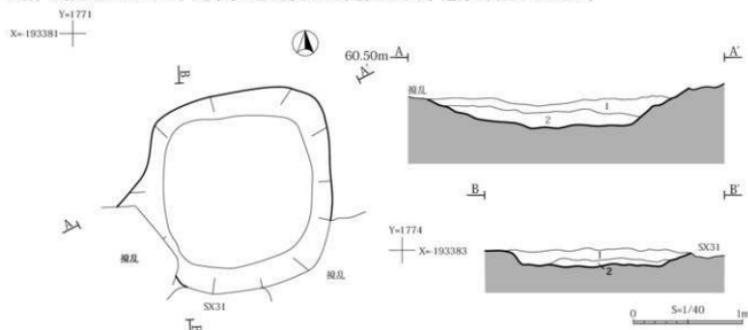


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色シルト微量
2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	5Y7/4 浅黄色シルト少量 礫化鉄分微量
4	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト微量

第242図 SX24 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX25 性格不明遺構 (第243図、図版73-8～74-2)

N2-W53グリッドに位置し、南側の一部を近代の擾乱で削平され、SX21・31と重複しており、SX25が古い。残存する規模は、長軸1.96m、短軸1.82m、深さ22cmを測り、主軸方向はN-19°-Wを示す。平面形は不整な隅丸正方形を呈し、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏が見られるものの平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトで、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

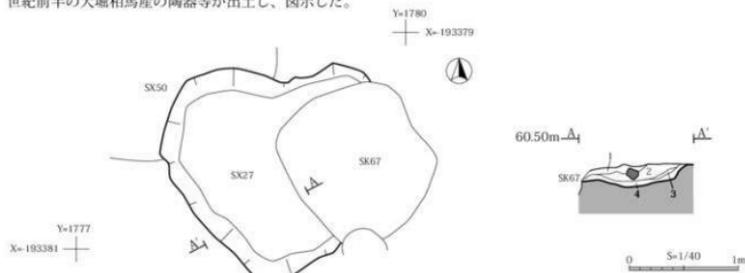


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	層3～5mmの炭化物微量 5Y7/4 浅黄色シルト微量
2	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/4 浅黄色シルト微量 層3～5mmの炭化物微量

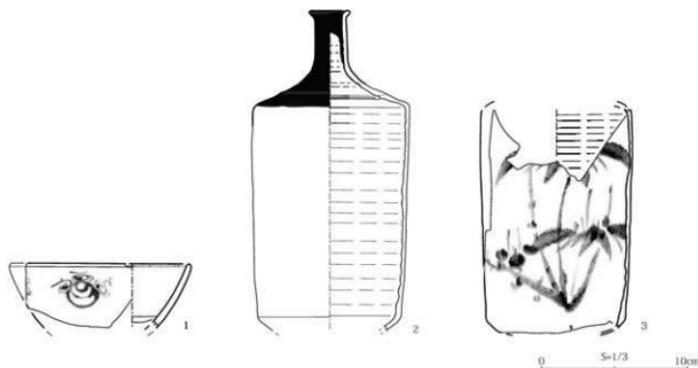
第243図 SX25 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX27 性格不明遺構 (第244図、図版74-7・8)

N2-W53～N3-W54 グリッドに位置し、東側はSK67、北西側はSX50と重複しており、SX50より新しく、SK67より古い。残存する規模は、長軸2.08m、短軸2.03m、深さ19cmを測り、主軸方向はN-26°-Eを示す。平面形は不整形形で、断面形は皿状と考えられる。底面はやや起伏が見られ、東側に緩やかに傾斜する。堆積土は4層からなり、1層、2層はシルト質砂、3層、4層はシルトである。遺物は19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、19世紀前半の大塚相馬産の陶器等が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径0.5～1cmの炭化物少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質砂	なし	あり	径1～8cmの礫微塵 2.5Y7/4 浅黄色シルト極微塵
3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	なし	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/4 浅黄色シルト微塵



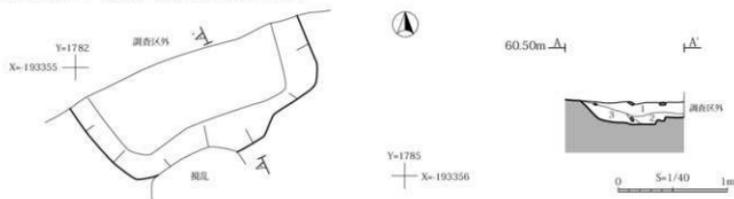
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	117-8	1層	陶器	碗	口縁～体部	やや粗	(12.4)	-	(4.48)	瀬戸・美濃	19c	輪平:白化粧襷肌頭・異紋(宝珠文)	E-162
2	117-10	1層	陶器	油壺	口縁～体部	やや密	2.80	-	(22.1)	大塚相馬	19c前半	黒輪 白漆繪	E-163
3	117-9	1層	陶器	油壺	体部	やや密	-	-	(15.4)	大塚相馬	19c前半	灰輪 異胎輪 草花文	E-164

第244図 SX27 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

5) SX33 性格不明遺構 (第245図、図版75-1・2)

N5-W52グリッドに位置し、南側は近代の攪乱で削平され、北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸2.32m、短軸98cm、深さ22cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底面は平坦で、堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。

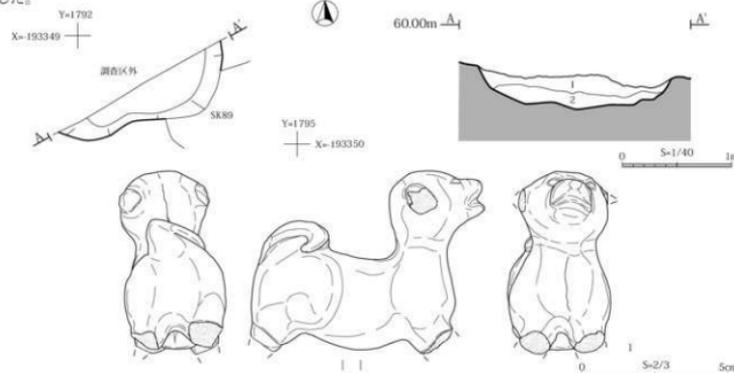


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	径5～10mmの炭化物少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径1～2mmの白色粒少量 径1～5mmの炭化物少量
3	10YR6/1	褐色灰色	シルト	ややあり	ややあり	

第245図 SX33 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX44 性格不明遺構 (第246図、図版75-3)

N6-W51グリッドに位置し、南側はSK89と重複しており、SX44が古い。北側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸1.69m、短軸49cm、深さ30cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は1層から土製品が出土し、図示した。



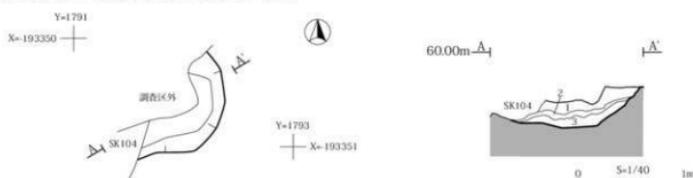
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y4/2	褐色黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2	褐色黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	117-11	1層	土製品	(6.35)	(3.59)	3.25	(80.1)	犬型押し成形 底面に空気抜き穴あり	P-9

第246図 SX44 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

7) SX45 性格不明遺構 (第247図、図版75-4)

N5-W51 グリッドに位置し、北西側は調査区外へと延びる。南西側はSK104と重複しており、SX45が古い。残存する規模は、長軸1.11m、短軸56cm、深さ26cmを測る。断面形は逆台形を呈する。堆積土は3層からなり、1層～3層までシルトである。遺物は出土していない。

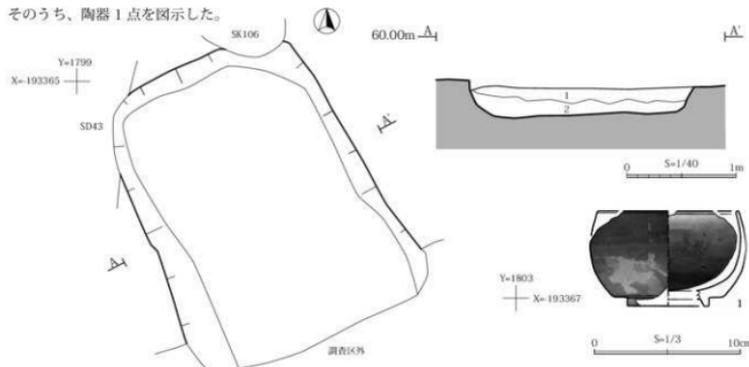


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y3/2暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量
3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y6/6明黄褐色シルト微量

第247図 SX45 性格不明遺構平面図・断面図

8) SX47 性格不明遺構 (第248図、図版75-5・6)

N4-W50・W51 グリッドに位置し、北側はSK106と重複しており、SX47が古い。南側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸2.84m、短軸2.06m、深さ27cmを測り、主軸方向はN-26°-Wを示す。平面形は隅丸長方形と考えられ、断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は1層から19世紀前半～中頃の大塚相馬産の陶器、18世紀代の小野相馬産の陶器、在地産のかわらけ等が出土している。そのうち、陶器1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量

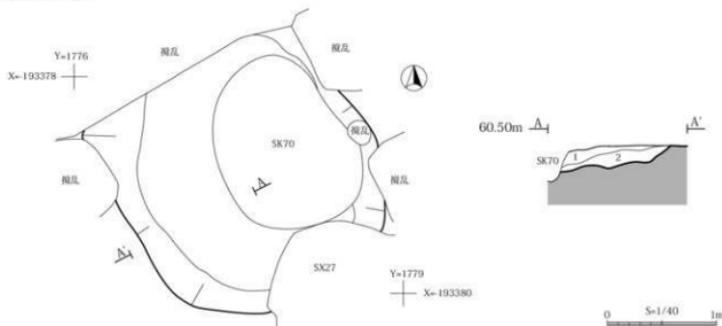
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	117-12	1層	陶器	碗	口縁～高付	密	(9.7)	(5.6)	6.6	大塚相馬	19c前～中	氏種 撰人有蓋物?	E105

第248図 SX47 性格不明遺構平面図・断面図

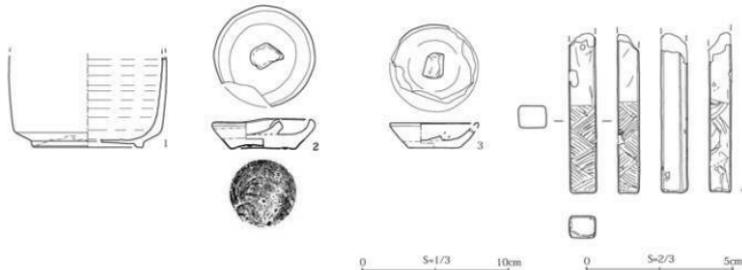
第2節 川内駅部Ⅱ区

9) SX50 性格不明遺構 (第249図、図版75-7・8)

N2-W53・N3-W53 グリッドに位置し、北・東・西側を近代の掘削で削平される。SK70、SX27と重複しており、SX50が古い。残存する規模は、長軸2.31m、短軸2.28m、深さ20cmを測る。底面はやや起伏が見られる。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は1層から19世紀前半～19世紀中頃の大塚相馬産の香炉、19世紀代の在産の灯明皿、2層からガラス製の筭等が出土している。そのうち、陶器3点、ガラス製品1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	ややあり	あり	酸化鉄分微量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	117-13	1層	陶器	香炉	高台・体部	やや密	-	(7.6)	(6.3)	大塚相馬	19c 前半～19c 中頃	黒輪 煎類	I-166
2	117-14	1層	陶器	灯明皿	L縁～底部	やや粗	6.9	4.5	2.1	在産	19c 前半	煎輪 ロケロ：右 回転率切直有	I-167
3	117-15	2層	土師瓦 土器	灯明皿	L縁～底部	やや粗	6.1	3.5	1.7	在産	近世	ロケロ：左 ロケロ底面後口クロナデ 回転率切直有	I-168
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号				
				長さ	幅	厚さ	重量						
4	117-16	2層	ガラス製品	5.5	0.95	0.75	(2.92)	筭		X-3			

第249図 SX50 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

(5) 池跡

1) 池1、池2・SD33溝跡・竹樋(第250～279図、図版76-1～80-1)

N3-W53～N4-W50グリッドに位置し、池1、池2、SD33(溝跡・竹樋)から構成される遺構である。池1の17層(腐食物層)直上において池の護岸と考えられる石列と杭列を検出した。また、この17層(腐食物層)以下の下層には粘土質シルト層が厚く堆積し、時期の異なる池がもう一基あることを確認した。池2においては、時期の異なる2基の池のプランを検出し、当初の池を一部縮小して造り変えられていることを確認した。池1、池2に接続するSD33においても、素掘りの溝から竹樋に造り変えられたことを確認し、本遺構は新旧二段階に分かれることが確認された。そのため、池1は17層より下層の堆積を古段階の池跡、上層の堆積を新段階の池跡とし、池2は切り合い関係から、池の北側の一部が突出するプランを古段階の池跡、それよりも一回り小さく造り変えられた池を新段階の池跡とし、SD33は素掘りの溝跡を古段階の溝跡、竹樋に造り変えられたものを新段階の溝跡として図で示した。また、出土遺物から、古段階の池跡(第250図)は18世紀中頃～19世紀前半、新段階の池跡(第251図)は19世紀前半頃に使用されていたものと考えられる。

〈古段階の池跡〉

池1

池2の西側に位置し、北、南、西、中央部を近代の攪乱で削平される。SK91・97と重複しており、池1古段階が古い。水を給水するための溝跡は確認できなかった。また、遺構の南西側はSD33と接続し、SD33の底面が池2に向かって緩やかに傾斜することから、池1から池2に水が配水されていたものと考えられる。残存する規模は、長軸14.56m、短軸10.40m、深さ1.2mを測り、主軸方向はN-27°-Wを示す。平面形は不整形な楕円形が考えられ、断面形は皿状を呈し、底面は中央部に向かって緩やかに傾斜する。池の南東側と西側には、長軸2.35～6.24m、短軸72～84cm、深さ40～48cmの隅丸長方形ないし溝状を呈すると考えられる落ち込みが3箇所見受けられる。堆積土は17層～26層の10層からなり、17層は廃材等を多量に含む腐食物層で、18層～26層は粘土質シルトを基調とする堆積土で沈殿物層である。この沈殿物層は最大84cm堆積しており、状況から、池を使用しなくなった後も埋め戻されずに開口したまま放置されていた可能性が考えられる。17層直上に堆積する廃材等はそのころに廃棄されたものと考えられる。遺物は17層から漆器碗、19層から18世紀代の波佐見産の磁器、20層から16世紀末～17世紀初頭の中国産の磁器、18世紀前半～18世紀後半頃の肥前産の磁器、軒平瓦、土製品、鉄製の簀、24層から漆器碗、25層から17世紀末～18世紀初頭の在地産の焼塩壺、かわらけ、漆器碗、26層から刀子等が出土している。そのうち、陶器28点、磁器38点、土師質土器1点、瓦質土器1点、瓦1点、土製品1点、金属製品2点、木製品25点を図示した。

池2

池1の東側に位置し、南側は近代の攪乱で削平され、SD37・38・47、SK103・126と重複しており、SD38より新しく、他の遺構より古い。水を排水するための溝跡は確認できなかった。遺構の西側は配水溝のSD33と接続し、池1から水が給水されていた。残存する規模は、長軸8.16m、短軸2.88m、深さ16cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は不整形で、断面形状は壁面が急な角度で立ち上がる。底面は北側に向かって緩やかに傾斜しており、堆積土は10層～12層の3層からなり、シルトである。遺物は出土していない。

SD33溝跡

遺構の中央部を近代の攪乱で削平され、西側は池1と接続し、東側は池2と接続する。SK109と重複しており、SD33古段階が新しい。検出状況から、池1から池2に水を配水するための素掘りの配水溝であると考えられる。残存する規模は、長さ3.4m、上端幅1.08～1.76m、下端幅0.88～1.56m、深さ26.5cmを測り、主軸方向はN-71°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、底面は東側に緩やかに傾斜する。堆積土は5層～7層の3層からなり、

第2節 川内駅部Ⅱ区

シルトである。遺物は出土していない。

〈新段階の池跡〉

池1

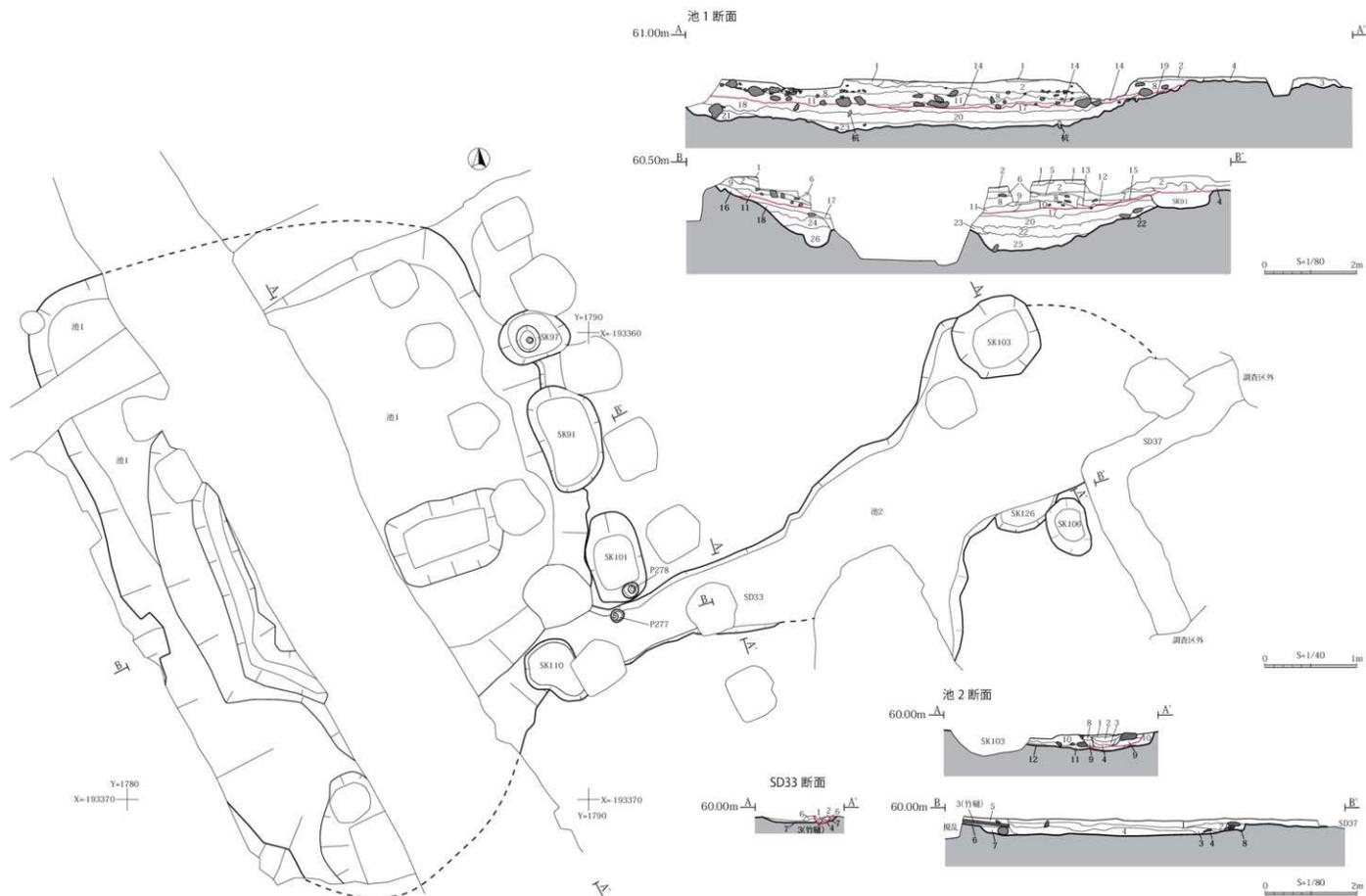
池2の西側に位置し、遺構の南東側でSD33（竹樋）と接続し、池2に配水していたものと考えられる池跡である。北、南、西、中央部を近代の攪乱で削平される。池の底面には径3.5～5.7cmの杭が池の起伏に沿うように打ち込まれているが、杭間の間隔は約2～84cmと一定していない。また、池の北東側と南東側には長さ6.4～48cm、幅6.3～32cm、厚さ5～20cmの礎と、南西側の一部に長さ1.32mの板材が配置されており、検出状況から、杭と礎と板材は池の護岸施設であると考えられる。中央部と北側、西側が近代の攪乱と上層遺構のSK100に削平される。SK91・97と重複しており、池1新段階が新しい。残存する規模は、長軸14.95m、短軸10.24m、深さ33.6cmを測り、主軸方向はN-27°-Eを示す。平面形は不整な楕円形と考えられ、断面形は皿状を呈し、底面は中央部に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は13層からなり、1層、2層は黄灰色シルト質砂を基調とする堆積土で、皿層整地土の堆積土である。3層～8層はシルト質砂、9層はシルトで約5～72cmの礎を多量に含んでいる。いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。10層～16層は池の使用時期に底面に堆積した沈殿物層である。遺物は、2層、6層、8層～12層の各層から、16世紀末～17世紀初頭の唐津産の陶器、18世紀中頃の京焼の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、18世紀～19世紀代の瀬戸・美濃産の陶磁器、18世紀～19世紀代の大瀬相馬産の陶器、人形等が出土している。特記遺物として、9層と11層から、17世紀中頃の同一個体の鍋島焼の皿が出土している。なお、17層直上において木製品を多量に検出しているが、17層の上層部はⅡ期の池の底面にあたるため、出土状況図は新段階の遺構図（第251図）に図示した。そのうち、陶器9点、磁器7点、土師質土器2点、瓦1点、土製品1点、金属製品1点、木製品48点を図示した。

池2

池1の東側に位置し、南側は近代の攪乱で削平され、SD37・38・47、SK126と重複しており、SD38より新しく、他の遺構より古い。遺構の西側でSD33（竹樋）と接続し、池1から水が配水されていたと考えられる池跡である。池の北側と南側の壁際には、池の護岸として、長さ1.12～1.68m、幅8～29.6cm、厚さ10～12cmの板材が配置され、部分的に杭による固定がされている。また、南側の板材の上部には長さ16.8～36cm、幅14.4～24cm、厚さ8～15cmの礎が据えられている。池の西側のSD33（竹樋）の水口部分には、長さ8～28cm、幅10.4～16.8cm、厚さ5～21cmの石が据えられ、そのすぐ南側には長さ27～60cm、幅20～48cm、厚さ23～30cmの石が配置され水道が造られている。東側にも同様に長さ33.6～54.4cm、幅20～32cm、厚さ11.2～15cmの石が据えられ水口が造られている。検出状況から排水口と考えられるが、その先に延びる溝跡は確認できなかった。残存する規模は、長軸8.08m、短軸5.04m、深さ28～36cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は南西から北東方向に弧を描く形状で、断面形は壁面が急な角度で立ち上がる。底面は中央付近から南側と東側の水口に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は9層からなり、1層～3層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。4層はシルトで池の使用時期に堆積した沈殿物層で、5層、6層はシルトでSD33の掘り方、6層～10層はシルトで池の掘り方の堆積土である。遺物は1層から18世紀後半の肥前産の磁器、19世紀前半の大瀬相馬産の陶器、2層から19世紀前半～後葉の瀬戸・美濃産の磁器、3層から19世紀前半～中頃の肥前産の磁器、4層から17世紀末～18世紀後半の肥前産の磁器、18世紀中以降の小野相馬産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の陶磁器等が出土している。そのうち、陶器6点、磁器8点、土師質土器1点、瓦2点、木製品1点を図示した。

SD33（竹樋）

西側は池1に、東側は池2に接続しており、池1から池2へ配水するための竹樋である。遺構の中央部を近代の攪乱で削平されている。西側はSK110と重複しており、SD33が古い。竹樋は遺存状態が悪く皮膜のみが確認さ



第250図 古段階 池1・2・SD33溝跡・竹樋平面図 古・新段階断面図



第251図 新段階 池1・2 SD33溝跡・竹樋平面図・断面図

れた。直径は6.5cmを測り、掘り方の規模は、長さ4.15m、上端幅29.7～39.4cm、下端幅13.7～21.5cm、深さ16cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面は西側から東側方向に緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、シルトである。遺物は出土していない。

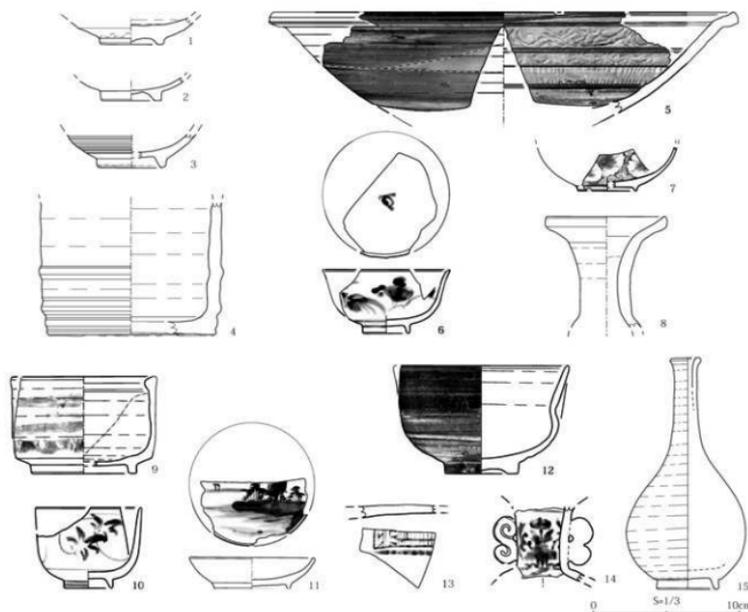
遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
池1	1	2.5Y5/1	黄灰色 シルト質砂	なし	あり	2.5Y6/4 に近い黄灰色シルト少量
	2	2.5Y5/1	黄灰色 シルト質砂	なし	あり	径1～2mmの白色粘土少量
	3	2.5Y5/1	黄灰色 シルト質砂	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 径約3～8mmの礫含む
	4	2.5Y4/1	黄灰色 シルト質砂	なし	ややあり	酸化鉄分少量
	5	2.5Y4/1	黄灰色 シルト質砂	なし	あり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量
	6	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト質砂	なし	あり	酸化鉄分少量 径約20mmの礫含む
	7	2.5Y4/1	黄灰色 シルト質砂	なし	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量 径1～5cmの礫含む
	8	5Y4/1	灰色 シルト質砂	ややあり	ややあり	径1～2mmの白色粘粒少量
	9	5Y5/2	灰オリーブ色 シルト	ややあり	ややあり	径5～60mmの礫多量 陶器少量 5Y5/1 灰色シルト質砂少量
	10	5Y4/1	灰色 シルト	ややあり	ややあり	5Y6/2 灰オリーブシルト少量 径5～8mmの礫含む
	11	5Y3/1	オリーブ灰色 シルト	ややあり	あり	5Y5/2 灰オリーブ色シルト少量
	12	5Y5/2	灰オリーブ色 シルト	ややあり	ややあり	5Y4/1 灰色シルト少量 酸化鉄分少量
	13	10YR5/1	黒褐色 シルト	ややあり	ややあり	腐食物少量含む
	14	2.5Y4/1	黄灰色 粘土質シルト	ややあり	ややあり	砂少量含む 腐食物少量 酸化鉄分少量
	15	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	ややあり	腐食物少量含む
	16	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
	17	2.5Y2/1	黒色 腐食物	なし	あり	木炭品多量を含む
	18	2.5Y4/1	黄灰色 粘土質シルト	あり	あり	2.5Y6/4 に近い黄灰色シルト少量
	19	5Y2/1	黒色 粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄分少量
	20	5Y4/1	灰色 粘土質シルト	あり	あり	5Y5/1 灰色粘土質シルト少量
	21	2.5Y3/1	黒褐色 粘土質シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量
	22	5Y5/1	灰色 粘土質シルト	あり	ややあり	5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト少量
	23	5Y3/1	オリーブ灰色 粘土質シルト	あり	あり	
	24	5Y4/1	灰色 粘土質シルト	あり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト少量
	25	5Y4/1	灰色 粘土質シルト	あり	あり	5Y5/2 灰オリーブシルト少量 グライ化
	26	5Y2/1	黒色 粘土質シルト	あり	ややあり	5Y5/2 暗灰黄色シルト少量 グライ化

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
池2	1	2.5Y5/1	黄灰色 シルト質砂	ややあり	あり	酸化鉄分少量
	2	2.5Y4/1	黄灰色 シルト質砂	ややあり	あり	酸化鉄分少量 径約5mmの礫含む
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト質砂	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂少量 酸化鉄分少量
	4	2.5Y3/1	黒褐色 シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に近い黄灰色シルト少量
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	あり	径約3mmの炭化物少量 径1～2mmの灰白色粘土少量
	6	2.5Y5/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	ややあり	径約1mmの灰白色粘土少量 径約3mmの炭化物少量
	7	2.5Y5/2	暗灰黄色 シルト	なし	あり	径約24cmの礫含む 酸化鉄分少量
	8	5Y4/1	灰色 シルト	ややあり	あり	径8～32cmの礫含む
	9	2.5Y4/2	暗灰黄色 シルト	ややあり	あり	径8～20mmの礫含む 2.5Y6/4 に近い黄灰色シルト少量
	10	10YR4/2	灰黒褐色 シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
	11	10YR4/1	暗灰色 シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量
	12	2.5Y4/1	黄灰色 シルト	ややあり	あり	2.5Y6/4 に近い黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量

遺構名	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
SD33	1	2.5Y5/1	黄灰色 シルト質砂	強い	あり	径1～3mmの灰白色粘土少量 径約5mmの炭化物少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質シルト	ややあり	あり	径約3mmの炭化物少量 径1～2mmの灰白色粘土少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	ややあり	径約1～3mmの炭化物少量 (竹類) 一竹そのものは現存しておらず、外側(4)部に炭分が付着している状況であった
	4	2.5Y5/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	ややあり	径約1mmの灰白色粘土少量 径約3mmの炭化物少量
	5	2.5Y5/1	黄灰色 砂質シルト	ややあり	あり	径1～3mmの灰白色粘土少量 径約5mmの炭化物少量
	6	10YR5/4	にがい黄褐色 砂質シルト	ややあり	あり	径1～2mmの灰白色粘土少量
	7	10YR4/2	灰黒褐色 シルト質砂	強い	あり	径1～2mmの灰白色粘土少量 径約5mmの炭化物少量

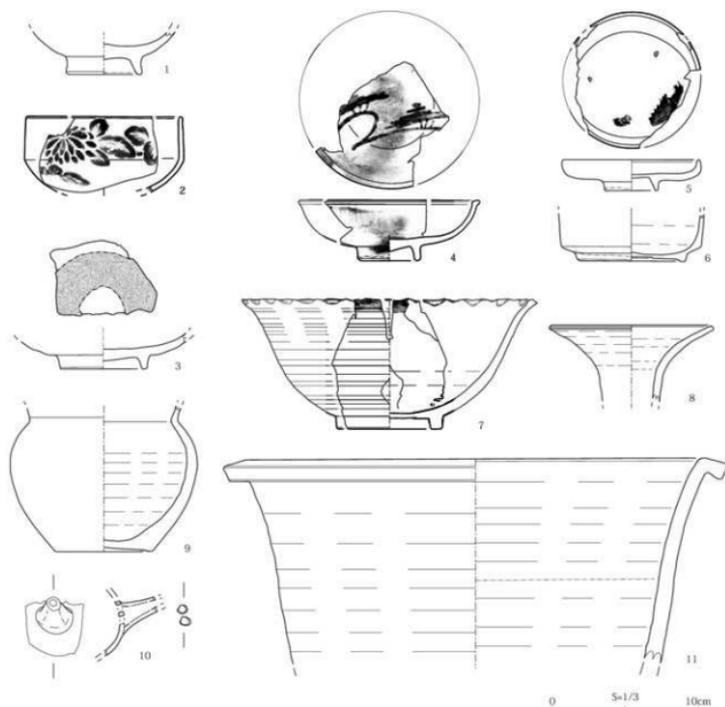
第7表 池1・2 SD33 溝跡・竹垣 土層観察表

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	117-17	2層	陶器	碗	体部～ 高台	やや粗	-	4.4	1.8	唐津	16c 末～ 17c 初	灰輪 胎土目筋有 ヘラケズリ 口ク口：右	J-169
2	117-18	2層	陶器	皿	体部～ 高台	密	-	4.1	(1.6)	大塚相馬	19c 代	灰輪 口ク口：左	J-170
3	117-19	2層	陶器	掛分け 鉢	体部～ 高台	やや密	-	4.7	2.3	大塚相馬	18c 後半以降	灰輪 鉄粒 貫入有	J-171
4	117-20	2層	陶器	裏(桶 状?)	体部～ 底部	粗	-	(11.55)	(9.25)	地方?	19c 前半	灰輪 焼台痕(輪トチン?)有 口ク口：右	J-172
5	118-1	2層	陶器	鉢	口縁～ 高台	やや密	(31.7)	-	(7.0)	唐津	18c 前	鉄輪 灰輪 兔尿 内：白化粧 外：鉄輪 口ク口：左	J-173
6	118-2	2層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	(8.7)	3.2	4.45	瀬戸・美濃	19c	染付草花文	J-107
7	118-3	2層	磁器	碗	高台～ 体部	密	-	4.05	(3.02)	肥前	18c	染付花文	J-108
8	118-4	2層	磁器	西組仏 花器	体部	やや密	(8.25)	-	(7.7)	肥前	18c	青磁輪 貫入有	J-109
9	118-5	6層	陶器	香炉	口縁～ 高台	やや密	(10.0)	(7.2)	6.78	大塚相馬	19c	灰輪 鉄粒 貫入有	J-174
10	118-6	6層	磁器	小碗	口縁～ 高台	密	7.3	3.4	5.6	肥前	18c 後半	染付花文	J-110
11	118-7	6層	磁器	小型皿	口縁～ 高台	密	(8.6)	5.2	2.2	肥前	18c 以降	染付山水文 小型皿	J-111
12	118-8	8層	陶器	香茶碗?	口縁～ 高台	やや密	(12.0)	5.0	7.5	不明	近世	前白	J-201
13	118-9	8層	磁器	盤	体部	密	-	-	0.9	中国 (漳州産系)	17c 前	赤絵 赤彩印 手懸 色絵色 絵輪	J-113
14	118-10	8層	磁器	仏花器	体部	密	-	-	(5.2)	肥前	17c～18c	(藍口) 仏花器 漆線敷有	J-114
15	118-11	8層	陶器	細洋瓶	口縁～ 高台	やや密	2.1	4.25	16.15	大塚相馬	18c	灰輪 貫入有 口ク口：右	J-175

第252図 池1出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
						胎土	口径	底径				
1	118-12	9層	陶器	碗	体部～高台	やや粗	-	(5.2)	(2.95)	肥前	17c 後半	I-176
2	118-13	9層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	(10.7)	-	(5.25)	京焼	18c 第2四半期	I-177
3	119-3	9層	陶器	皿	体部～高台	粗	-	(5.9)	(2.45)	小野粗馬	18c 中～以降	I-178
4	118-14	9層	陶器	皿	口縁～高台	-	(12.4)	4.3	4.2	大塚粗馬	18c 末～19c 初	I-179
5	119-1	9層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	9.40	3.65	2.18	大塚粗馬	19c 前半	I-180
6	119-2	9層	陶器	香炉	体部～高台	やや密	-	7.4	(3.25)	大塚粗馬	19c	I-181
7	119-4	9層	陶器	鉢	口縁～高台	やや密	(20.25)	(7.25)	(9.0)	不明	近世	I-182
8	119-5	9層	陶器	仏花器?	口縁～高台	やや粗	(11.25)	-	(5.25)	埴?	18c 以降	I-183
9	119-6	9層	陶器	土瓶	体部～底部	やや密	-	(6.6)	10.1	在池	18c 代?	I-184
10	119-7	9層	陶器	土瓶	体部	やや密	-	-	(4.1)	大塚粗馬	18c 後半～19c 前	I-185
11	119-8	9層	陶器	榎木鉢?	口縁～体部	粗	(34.4)	-	(14.15)	埴?	19c	I-186

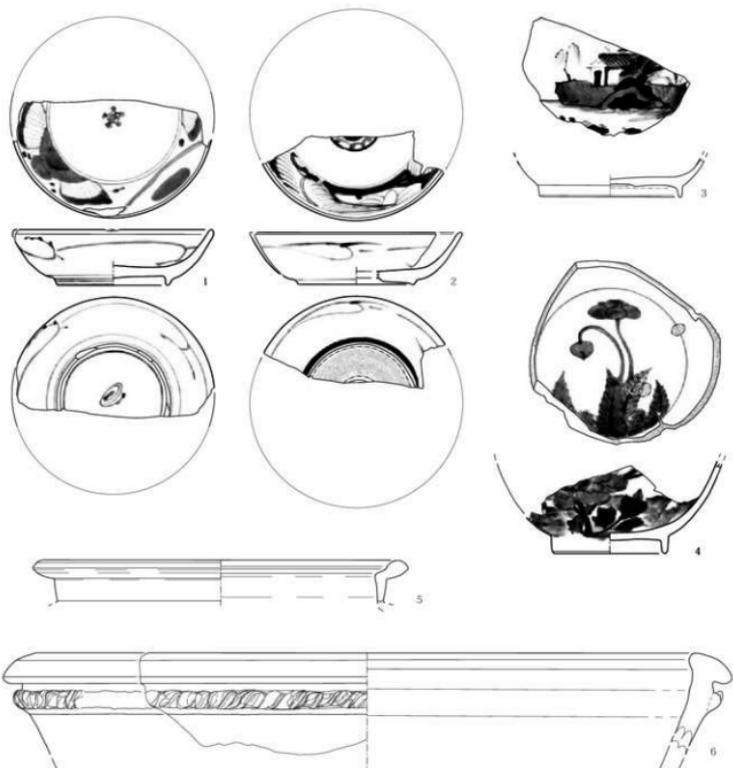
第253図 池1出土遺物(2)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	119-9	9層	磁器	小碗	口縁～ 高台	密	(7.2)	3.0	3.5	肥前	17c 後半	透明釉口ケロ：右	J-115
2	119-10	9層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	(7.45)	(3.5)	(4.75)	肥前	18c 後半	染付鳥（すずめ？）	J-116
3	119-12	9層	磁器	碗	体部～ 高台	密	-	3.8	4.4	肥前	19c 代	染付寿文？ 欄柵き	J-117
4	119-11	9層	磁器	碗	口縁～ 体部	密	(11.2)	-	(4.55)	肥前	18c 後半	染付有 洲廻 二重四線	J-118
5	120-1	9層	磁器	広東碗	口縁～ 高台	密	(11.95)	6.45	6.75	肥前	18c 末～ 19c 前半	染付花文	J-119
6	119-14	9層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	8.9	3.45	4.90	瀬戸・ 美濃	19c	染付有 高台内赤絵文字有「なかに」	J-120
7	120-2	9層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	8.65	3.75	4.55	瀬戸・ 美濃	19c	染付有 貫入有	J-121
8	119-13	9層	磁器	碗	口縁～ 高台	密	(10.5)	(4.0)	5.9	瀬戸・ 美濃	18c	染付草花文	J-122
9	120-3	9層	磁器	蓋	口縁～ 高台	密	(9.35)	(3.2)	2.8	瀬戸・ 美濃	19c 前半～ 中葉	染付草花文 寿文 蓋付碗の「蓋」	J-123
10	120-4	9層	磁器	蓋	口縁～ つまみ	密	10.75	4.35	2.77	肥前	18c 後半	染付七宝文 牡丹文 内側環状に松竹梅文 口縁：四方稚	J-124
11	120-6	9層	磁器	輪花皿	口縁～ 高台	密	(10.4)	(6.4)	2.65	肥前	17c 末～ 18c 前半	染付草花文	J-125
12	120-5	9層	磁器	鉢	口縁～ 高台	密	-	5.50	(2.05)	肥前	18c 後	染付山水繪聞文	J-126

第254図 池1出土遺物(3)

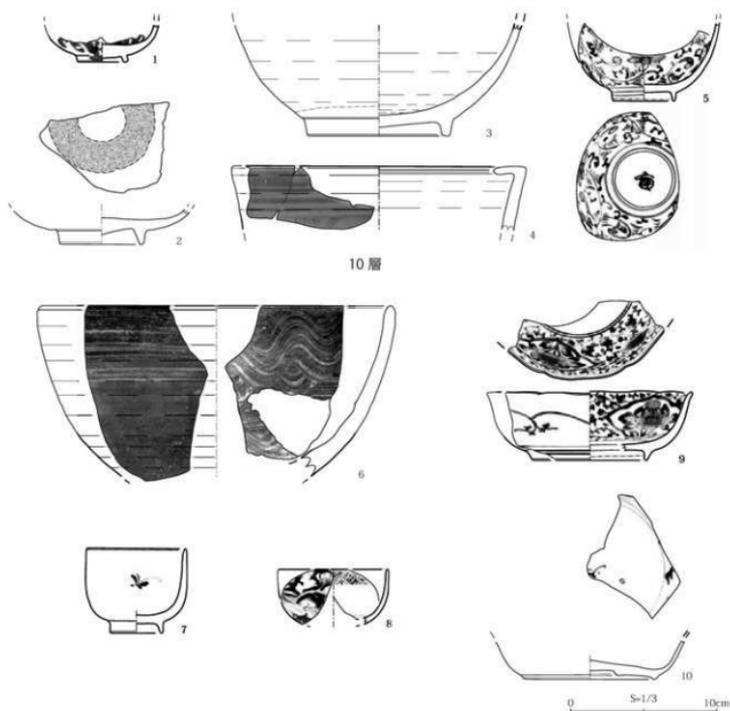


0 5-1/3 10cm

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	120-8	9層	磁器	皿	口縁～高台	密	(13.8)	7.75	(3.85)	波柱見	17c 末～18c 初	染付蔓草に?文 團扇 見込みコンニャク印刷五分花 貫入有	J-127
2	121-1	9層	磁器	皿	口縁～高台	密	(14.6)	(8.0)	3.6	瀬戸・美濃	19c 前半	染付有 蛇の目凹高台	J-128
3	120-7	9層	磁器	輪花皿	高台～体部	密	-	(9.8)	(2.75)	肥前	19c 前半	染付山水様團文 蛇ノ目高台 貫入有	J-129
4	121-2	9層	磁器	鉢	体部～高台	密	-	7.80	6.4	肥前	18c	染付草花文 横瀬ぎぬ有	J-130
5	121-3	9層	瓦質土器	火筒し壺?	口縁～底部	やや密	(25.8)	-	(2.95)	在地	近世	ロウロナデ 口縁部ヘラミガキ	I-187
6	121-4	9層	瓦質土器	火鉢?	口縁	粗	(50.0)	-	(7.0)	在地	近世	ミガキ ロウロナデ ハリツケ	I-188

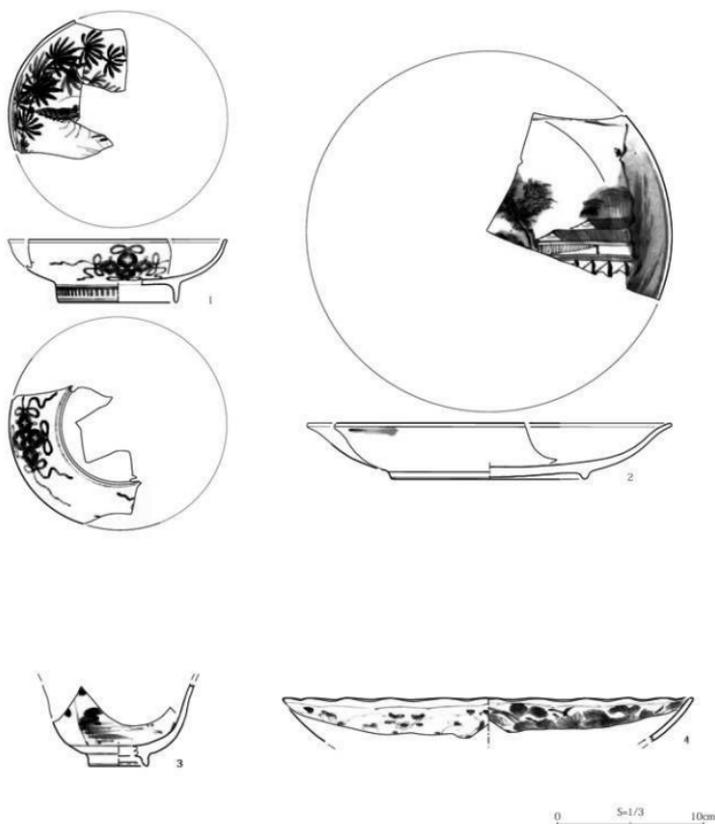
第255図 池1出土遺物(4)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	121-5	10層	陶器	碗	高台～体部	やや密	-	3.45	(2.58)	大畑粗馬	18c 後半	灰釉に垂軸掛け流し 貫入有	J-189
2	121-6	10層	陶器	皿	体部～高台	粗	-	5.80	(2.4)	小野粗馬	18c 中以降	灰釉 蛇の目軸割ぎ	J-190
3	121-7	10層	陶器	片口鉢	体部～高台	やや密	-	(9.9)	(7.8)	大畑粗馬?	18c 後半	灰釉 鉄軸(軸軸)掛け流し 日直 全残存	J-191
4	121-8	10層	磁器	青磁水瓶	口縁～体部	やや密	20.2	-	4.4	肥前	18c?	青磁釉 器別有 沈積	J-131
5	121-9	10層	磁器	碗	体部～高台	密	-	4.3	(5.4)	肥前	18c 前半	染付花唐草文 高台内溝堀	J-132
6	122-1	11層	陶器	鉢	口縁～体部	やや密	(24.5)	-	(11.8)	唐津	17c 後～18c 前	灰釉 胡毛目 白泥 ロタロ・右 胎土目有	J-192
7	122-2	11層	磁器	小碗	口縁～高台	密	(8.75)	(3.6)	5.9	肥前	18c 後半	染付雑文小笠(湯呑)	J-133
8	122-3	11層	磁器	碗	口縁～体部	密	(7.6)	-	(3.8)	肥前	18c 後半	土胎染付(赤胎) 草花文 二重割堀 四方摩	J-134
9	122-5	11層	磁器	輪花小鉢	口縁～高台	密	(14.1)	(8.0)	4.7	肥前	17c 末～18c 初	染付窓に牡丹文 花唐草	J-135
10	122-4	11層	磁器	皿	底部	密	-	(9.15)	(2.7)	肥前	18c 後～19c	染付有 蛇の目割高台 日直有	J-136

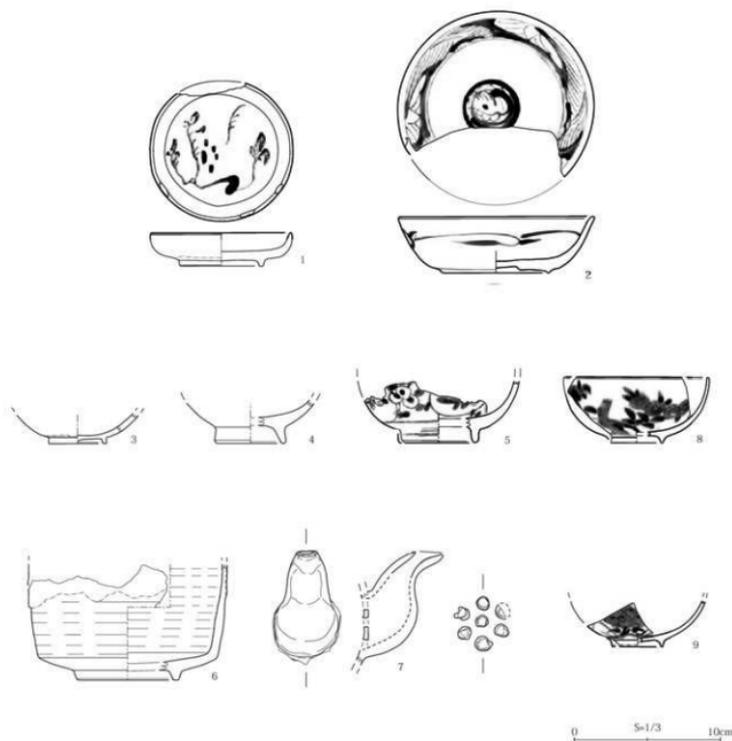
第256図 池1出土遺物(5)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	122-6	9・11層	磁器	皿	口縁～ 高台	密	(15.0)	(8.2)	4.4	鍋島	1720～ 1740年代	染付海老水草文小皿	J-137
2	123-1	11層	磁器	皿	口縁～ 高台	密	25.0	13.45	3.9	肥前	18c以降	染付山水or 風景文 松籬空面有 白面有	J-138
3	123-2	12層	磁器	端反碗	胴部～ 高台	密	-	(4.1)	(5.7)	瀬戸・ 美濃	19c	染付有	J-139
4	123-3	12層	磁器	輪花皿	口縁～ 体部	密	(28.2)	-	(3.0)	肥前	17c後半	染付輪花中皿 花唐草	J-140

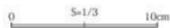
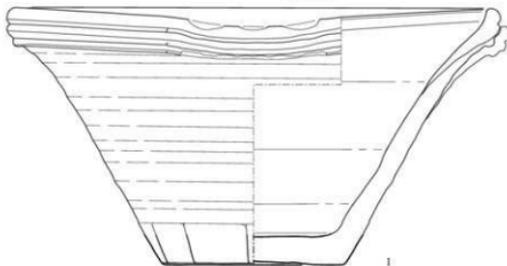
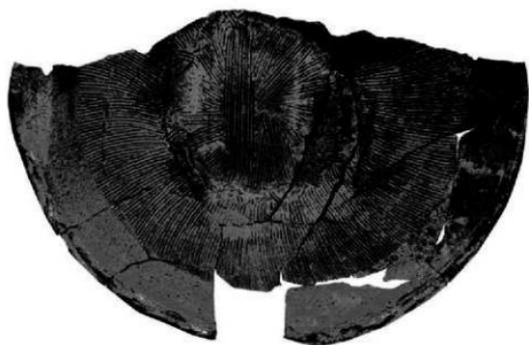
第257図 池1出土遺物(6)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	123-4	14層	陶器	皿	口縁～高台	やや密	9.7	5.8	2.3	大塚相馬	18c後半～19c初	灰輪 見込みに灰須鉄粒有 (鉄粒と灰須の併用は新しい)	I-193
2	123-5	14層	磁器	皿	口縁～高台	やや密	13.3	7.15	3.88	瀬戸・美濃	19c前半	染付有	J-141
3	123-6	17層	陶器	碗	体部～高台	やや密	-	(3.95)	(2.1)	大塚相馬	18c後半～19c前半	灰輪 買入有	I-194
4	123-7	17層	陶器	碗	体部～高台	やや粗	-	4.90	(3.0)	肥前	17c後半	灰輪 買入有	I-195
5	123-8	17層	陶器	碗	胴部～高台	やや密	-	(5.5)	4.3	肥前	17c末～18c初	陶師染付 白化粧 買入有	I-196
6	123-11	17層	陶器	香炉?	体部～高台	粗	-	(7.0)	(8.05)	小野相馬?	18c代後半?	鉄輪 海鼠輪 ハナレ砂付着	I-197
7	123-12	17層	陶器	土瓶	注ぎ口	やや密	-	-	(7.85)	大塚相馬	19c前半～中頃	灰輪 買入有	I-198
8	123-9	17層	磁器	碗	口縁～高台	密	10.0	(3.6)	4.6	肥前	18c中	染付草花文	J-142
9	123-10	17層	磁器	碗	胴部～高台	密	-	3.5	(3.2)	肥前	18c代	染付草花文	J-143

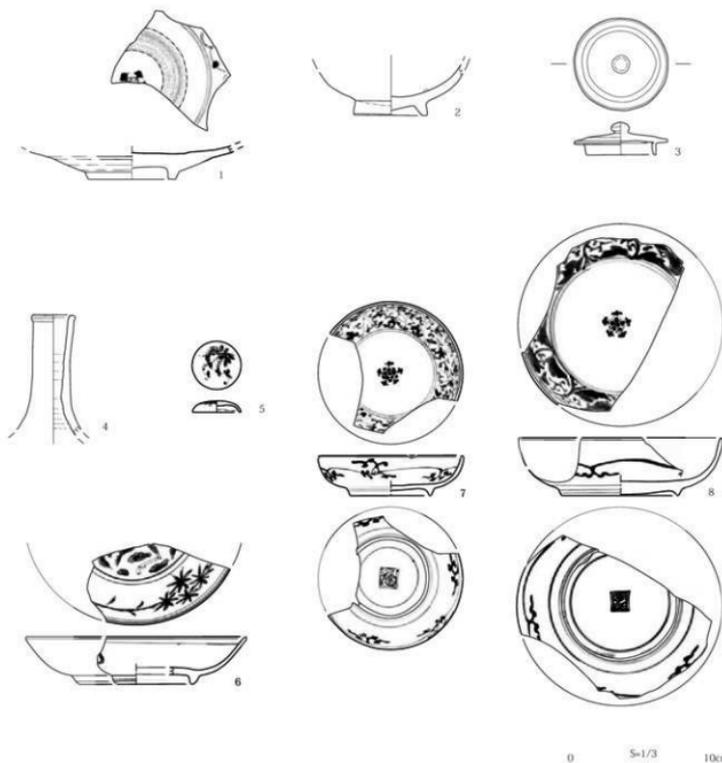
第258図 池1出土遺物(7)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	124-1	17層	陶器	織鉢	口縁～ 底部	粗い	33.8	12.6	17.8	現	19c 前?	鉄輪 或部付定規十字 印配糸切痕有 ロケ口：有	I-199

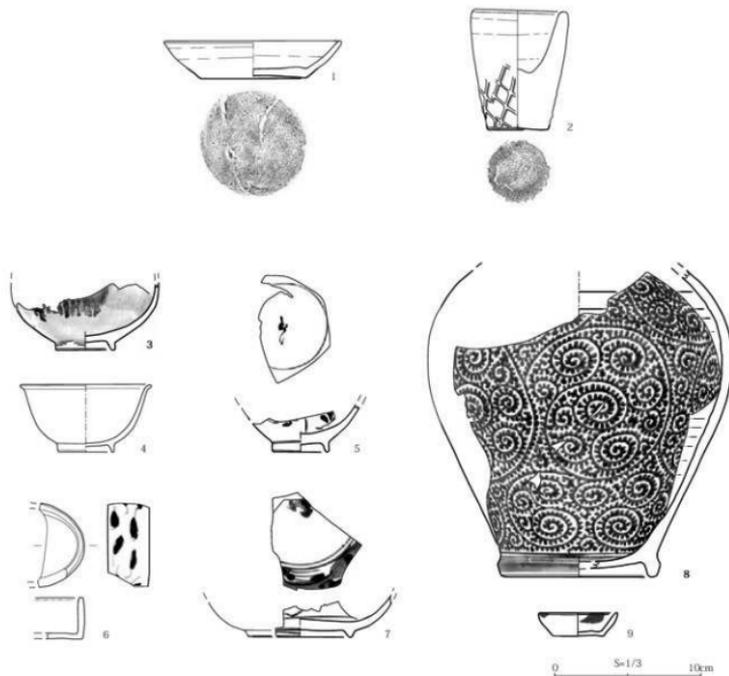
第259図 池1出土遺物(8)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	包録番号
							口径	底径	器高				
1	124-2	19層	磁器	染付皿	体部～高台	密	-	(6.0)	(2.3)	波佐見	18c代	染付有 五弁花 葉の目輪裏ぎ ハブシ砂付着 くらわんか手	J-144
2	124-3	20層	陶器	碗	体部～高台	粗	-	5.1	(3.55)	小野相馬	18c後半?	灰輪 目輪裏1残存	I-200
3	124-4	20層	陶器	蓋	つまみ～口縁	やや密	4.8	-	2.45	不明	18c後	灰輪	I-210
4	124-5	20層	陶器	瓶	口縁～胴部	やや粗	3.0	-	(8.4)	在地	18c以降	鉄輪	I-211
5	124-6	20層	磁器	蓋	口縁～体部	密	3.35	-	0.8	肥前	18c代	蓋物(合子?) 蔓草文	J-145
6	124-7	20層	磁器	皿	口縁～高台	密	(15.1)	(8.25)	3.3	中国	16c末～17c初	染付竹文 見込に染付有 口ハブ 高台砂付着	J-146
7	124-8	20層	磁器	小皿	口縁～高台	密	(10.0)	5.6	2.8	肥前	18c前	染付花唐草 五弁花 高台内肉溝福	J-147
8	125-1	20層	磁器	皿	口縁～高台	密	(14.0)	8.1	4.0	肥前	18c前～中頃	染付花唐草文 五弁花	J-148

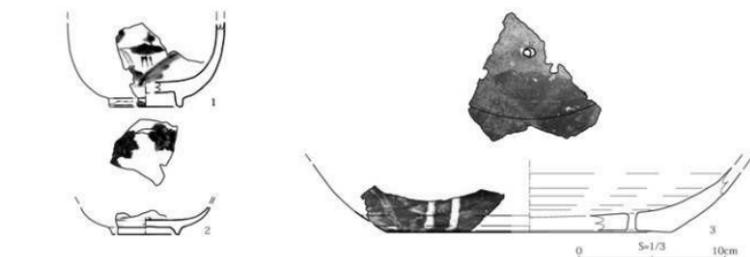
第260図 池1出土遺物(9)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	125-2	25層	土師瓦 土器	かわらけ	口縁～ 底部	粗	12.1	7.2	2.6	在地	近世	ロタロ：右 ロクロナデ 回転糸切直有	F-212
2	125-3	25層	土師瓦 土器	映塩缶	口縁～ 底部	粗	6.7	4.2	8.4	在地	17c 末～ 18c 初頭	ロタロ：左 ロクロナデ 下部：タタキ 回転糸切直有	F-213
3	125-4	2層	陶器	碗	体部～ 高台	やや密	-	4.1	(4.7)	大塚 粗馬	18c 後半	灰輪 鉄軸跡付流し	F-214
4	125-5	2層	磁器	白磁瑠 反碗	口縁～ 高台	密	(8.9)	3.85	4.7	肥前	19c 代	口縁部口紅有	F-149
5	125-6	2層	磁器	碗	高台	密	-	3.9	(3.3)	肥前	18c 後	染付有	F-150
6	125-8	2層	磁器	蟹置	口縁～ 高台	密	-	-	2.9	肥前	18c 代	染付有 イッチン	F-151
7	125-9	2層	磁器	皿	高台	密	-	(7.15)	(2.9)	波佐見	18c 中頃	染付有 見込み：こんにゃく印四五 行燈、ナナシの付着	F-152
8	125-7	2層	磁器	蓋	体部～ 高台	密	-	(10.8)	(21.3)	肥前	18c 中頃	染付胡粉文 酒罇 二重線 地 垂型有	F-153
9	126-1	2層	土師瓦 土器	灯明皿	口縁～ 底部	やや粗	5.5	3.5	1.6	在地	近世	油野付着	F-215

第261図 池1出土遺物(10)

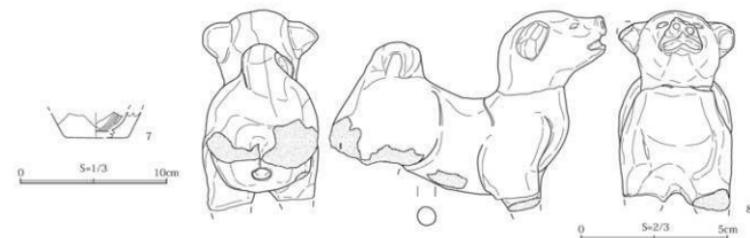
第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	126-2	2層	陶器	甕	体部～高台	中卒粗	-	(5.0)	5.8	肥前	17c 後半	陶胎染付 輪下に黒須・白化粗有 貫入付	I-216
2	126-3	2層	磁器	皿	高台～体部	密	-	(4.6)	(1.9)	肥前	18c 前	コンニャク印判「菊花文」	J-154
3	126-4	2層	陶器	不明	底部	中卒粗	-	(19.8)	(4.45)	肥前	18c～19c	鉄輪 わら灰輪 円孔1 残存	I-217

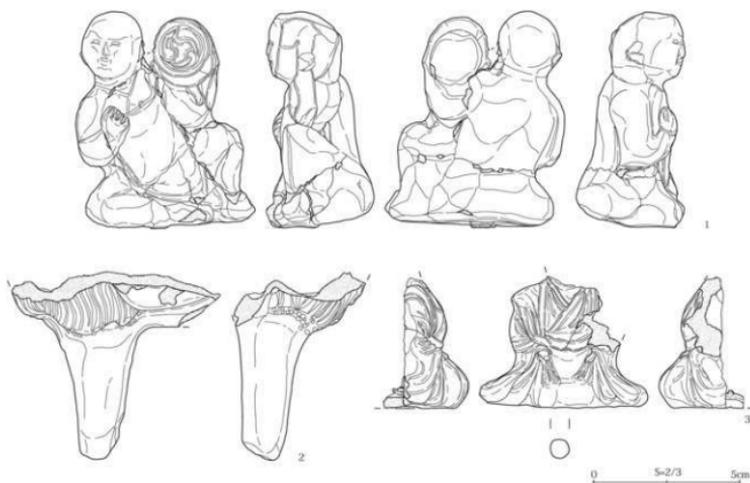


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
4	126-5	2層	平瓦	(8.6)	(3.9)	1.5	古代瓦 外面：毎日庄重有 内面：夕夕キ目	G-5
5	126-6	9層	軒平瓦	(18.6)	(3.9)	5.5	瓦当高：7.1 瓦当厚：1.85 文様区高：2.8 文様区幅：(13.5) 肩縁幅：0.7 幅区幅：4.1 高径：2.0 唐草・三枝柳文 外面：型押し ナブ 雲母粉付着 内面：ヨコナナブ 文様区幅：(5.46) 文様区高：(3.0) 肩縁幅：(0.65) 幅区幅：4.3 瓦当厚：1.58 弧深：(1.69) 唐草文 外面：型押し成形後指による調整 雲母粉付着 内面：ナブ	G-6
6	126-7	20層	軒平瓦	(6.05)	(10.78)	(6.28)		G-7

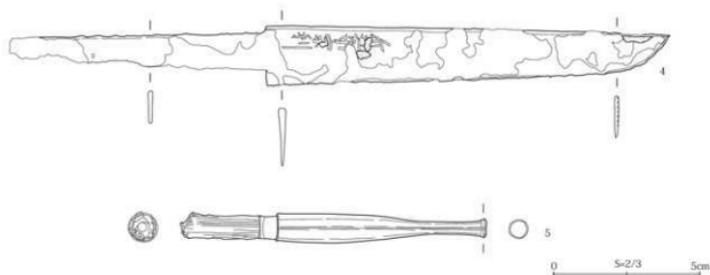


図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
7	126-8	12層	土製品	磁鉢	口縁～底部	肌・	1.40	(4.1)	(1.8)	-	近世	鉄輪 底部付込敷ナブ 回転糸切痕有 口々口：右	P-10	
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考						登録番号	
8	126-9	20層	土製品	6.95	9.45	3.95	(112)	犬 型押し成形						P-11

第262図 池1出土遺物(11)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	126-11	11層	土製品	7.5	6.15	3.72	(69.48)	人形 型押し後十字	P-12
2	126-10	9層	土製品	6.5	7.1	4.5	(57.48)	動物脚部? 型押し成形	P-13
3	127-1	11層	土製品	4.55	5.8	(2.4)	(23.86)	人形 型押し成形	P-14



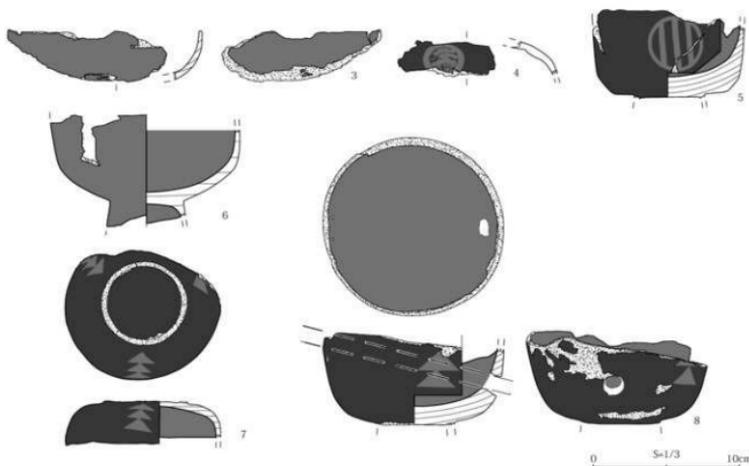
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	127-2	2層	金属製品	22.65	2.02	(0.21)	(33.37)	刀子 身~茎 刃残存 跡有り 「近江守宗利」	N-43
5	127-3	10層	金属製品	10.50	1.05	0.05	(7.14)	押留環! 扉字残存	N-44

第263図 池1出土遺物(12)

第2節 川内駅部Ⅱ区

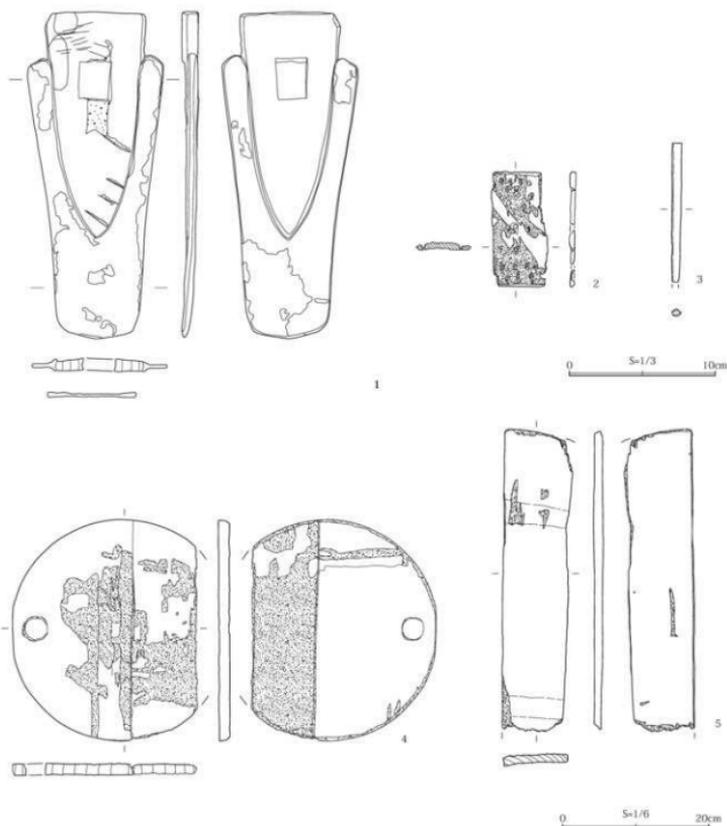


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	127-4	20層	金属製品	7.15	0.7	0.1	(0.91)	簪	N-45
2	127-5	17層	金属製品	5.4	(0.55)	(0.3)	(1.18)	釘	N-46



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高				
3	127-6	17層	漆器	(10.9)	-	(3.5)	横木取り	ブナ属	輪 赤漆	L-27
4	127-7	17層	漆器	(6.6)	-	(2.5)	横木取り	ブナ属	靱部 黒漆に赤漆で松文	L-28
5	127-11	24層	漆器	(10.4)	-	(6.2)	横木取り	ブナ属	輪 外面黒漆に赤漆で三引内文 内面赤漆	L-29
6	127-8	25層	漆器	(12.9)	(5.4)	(7.8)	横木取り	ブナ属	輪 赤漆	L-30
7	127-10	25層	漆器	(10.6)	-	(3.1)	横木取り	ブナ属	靱部 黒漆に赤漆で華文	L-31
8	127-9	25層	漆器	(12.3)	-	(6.4)	横木取り	ブナ属	漆器碗を桶約に転用 外面黒漆に赤漆で華文 内面赤漆	L-32

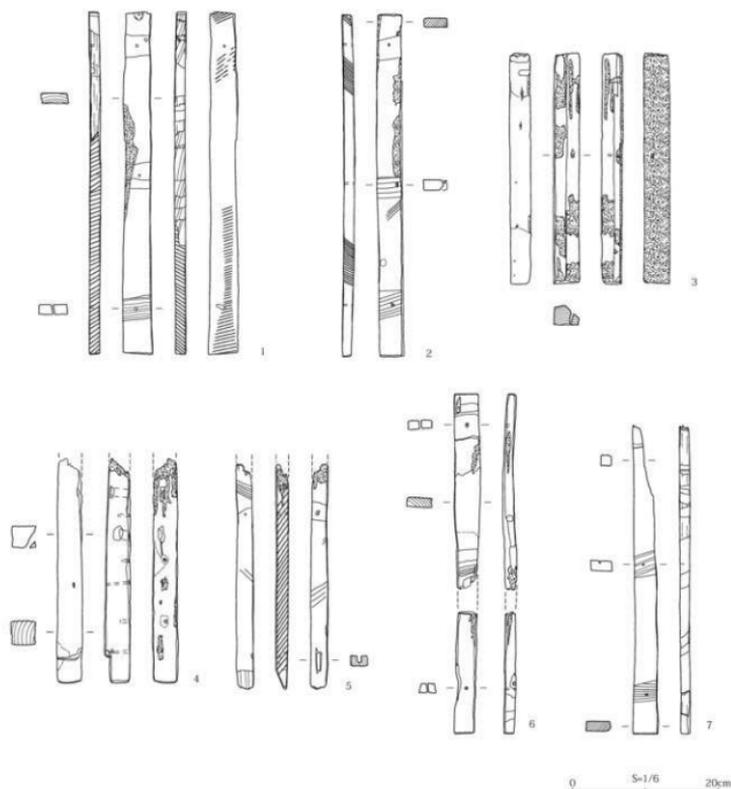
第264図 池1出土遺物(13)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	127-12	11層	木製品	52.0	21.2	2.6	縦目	コナラ亜属 コナラ部	鍍 鉄製函	L-33
2	127-13	11層	木製品	16.0	7.4	0.7	板目	針葉樹	板材 帯状に炭化	L-34
3	128-3	17層	木製品	9.6	0.6	0.5	分割材	スギ	箸	L-35
4	128-1	17層	木製品	30.7	25.0	1.5	縦目	針葉樹	容器 蓋板	L-36
5	128-2	17層	木製品	41.9	9.3	1.3	板目	スギ	桶の蓋 端部を円形に加工	L-37

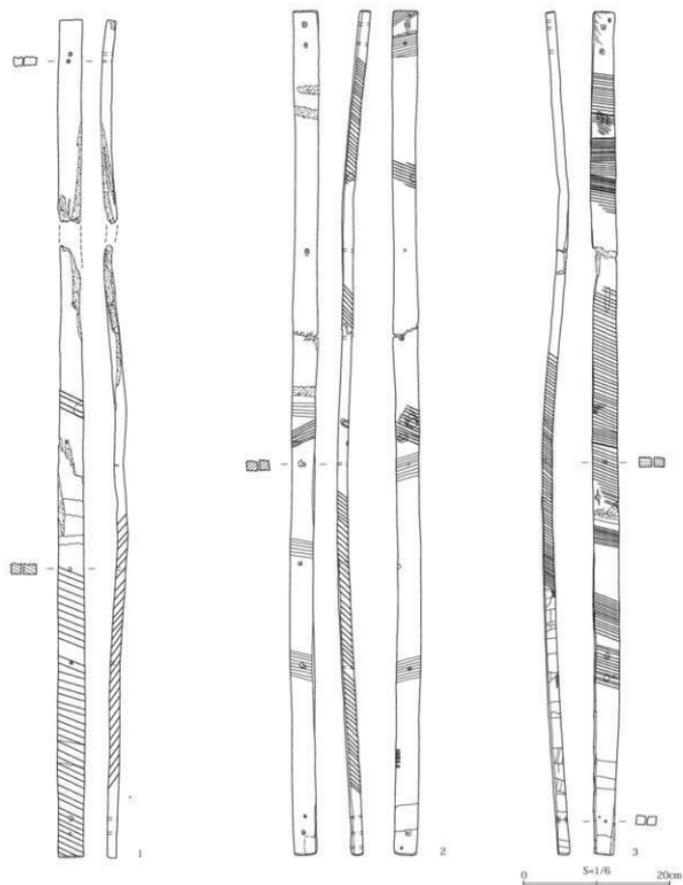
第265図 池1出土遺物(14)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版 番号	写真図版 番号	部位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	128-4	17 刺	木製品	47.3	4.0	1.5	分割材	スギ	部材 側面に断痕 押圧痕 釘穴あり	L-38
2	128-5	17 刺	木製品	47.4	3.3	1.4	分割材	スギ	部材 残? 側面に断痕	L-39
3	128-6	17 刺	木製品	31.9	3.5	2.9	分割材	スギ	部材	L-40
4	128-8	17 刺	木製品	31.1	3.5	3.5	分割材	ヒノキ	部材 釘孔 斜め方向への穿孔	L-41
5	128-7	17 刺	木製品	31.2	2.3	2.3	分割材	ヒノキ	部材 断痕 ほぞ孔	L-42
6	128-9	17 刺	木製品	47.1	3.5	1.7	分割材	スギ	部材 残? 押圧痕 釘孔あり	L-43
7	128-10	17 刺	木製品	42.8	3.1	1.3	分割材	スギ	部材 残? 押圧痕 釘孔あり	L-44

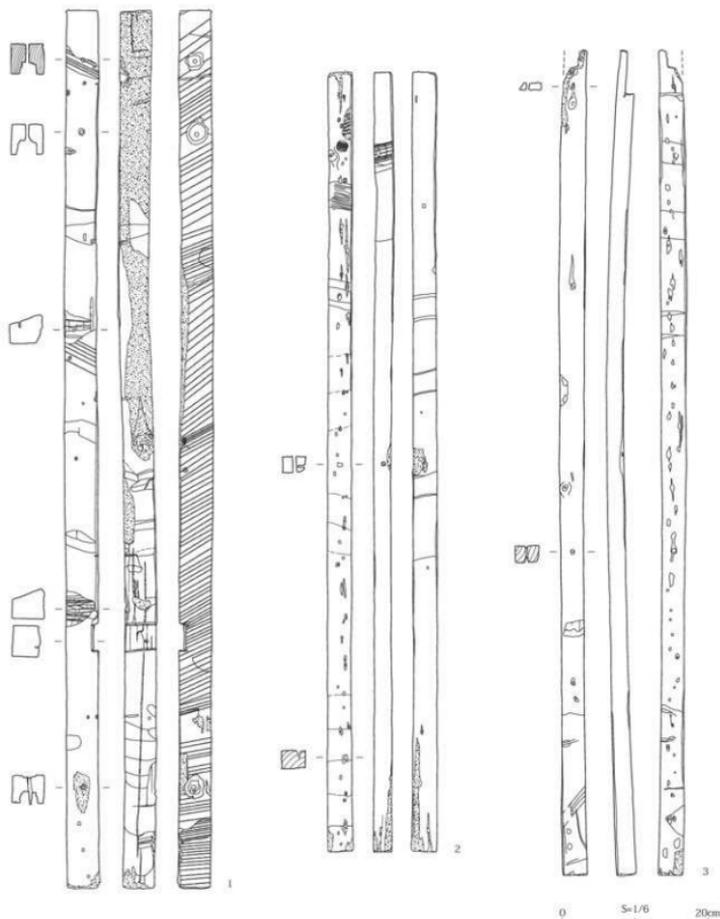
第266図 池1出土遺物(15)



図版 番号	写真図版 番 号	部位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	128-11	17 層	木製品	116.0	3.7	1.4	分割材	針葉樹	部材 残? 側面に鋸痕	L-45
2	129-1	17 層	木製品	117.0	3.4	1.6	分割材	スギ	部材 側面に鋸痕	L-46
3	129-2	17 層	木製品	116.8	3.4	1.3	分割材	スギ	部材 残? 側面に鋸痕	L-47

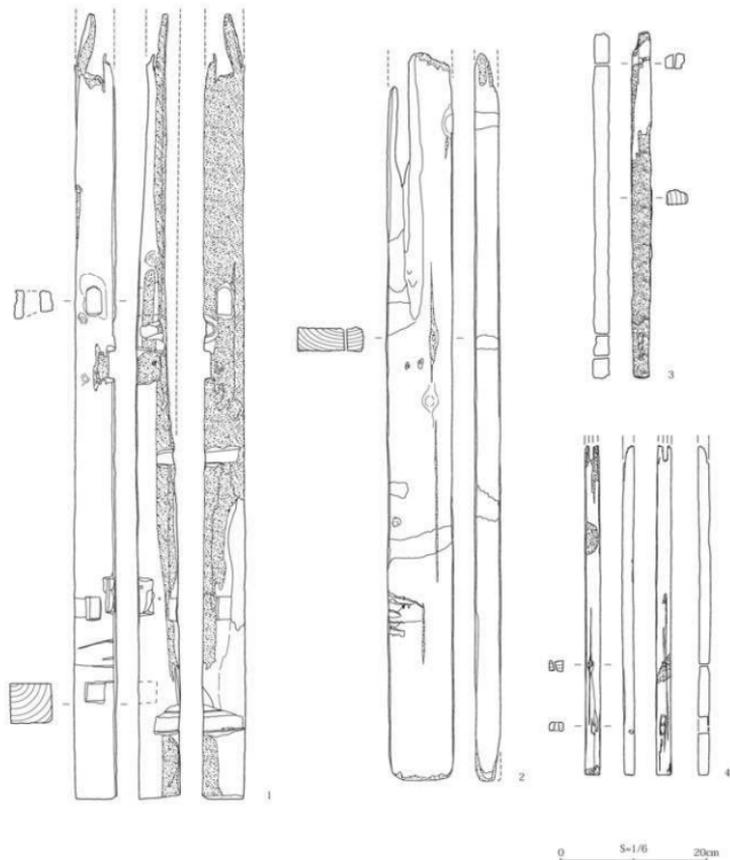
第 267 図 池 1 出土遺物 (16)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	原位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	129-3	17 刺	木製品	121.6	4.4	4.3	分割材	スギ	部材 側面に鋸痕 内面はぞ孔内に釘残存	L-48
2	129-4	17 刺	木製品	108.0	3.4	2.4	分割材	スギ	部材 側面に鋸痕	L-49
3	129-5	17 刺	木製品	114.3	3.6	2.4	分割材	針葉樹	部材 第265図-1の図と組み合わされる	L-50

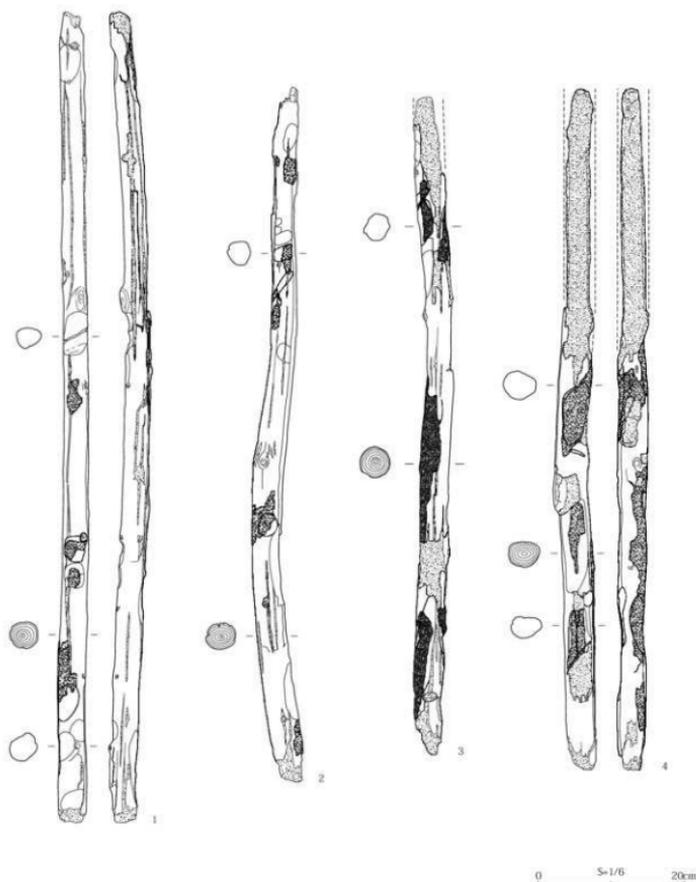
第268図 池1出土遺物(17)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	130-1	17 層	木製品	108.7	5.6	5.7	四分割材	針葉樹	角材 ほぼ孔 (貫通 3ヶ 斜め 2ヶ 他 1ヶ)	L-51
2	130-2	17 層	木製品	100.7	8.9	3.4	板目	スギ	部材 釘孔あり	L-52
3	130-3	17 層	木製品	48.0	2.6	2.2	分割材	スギ	部材 両端に釘孔	L-53
4	130-4	17 層	木製品	45.6	2.0	1.5	分割材	スギ	部材 両端に納孔	L-54

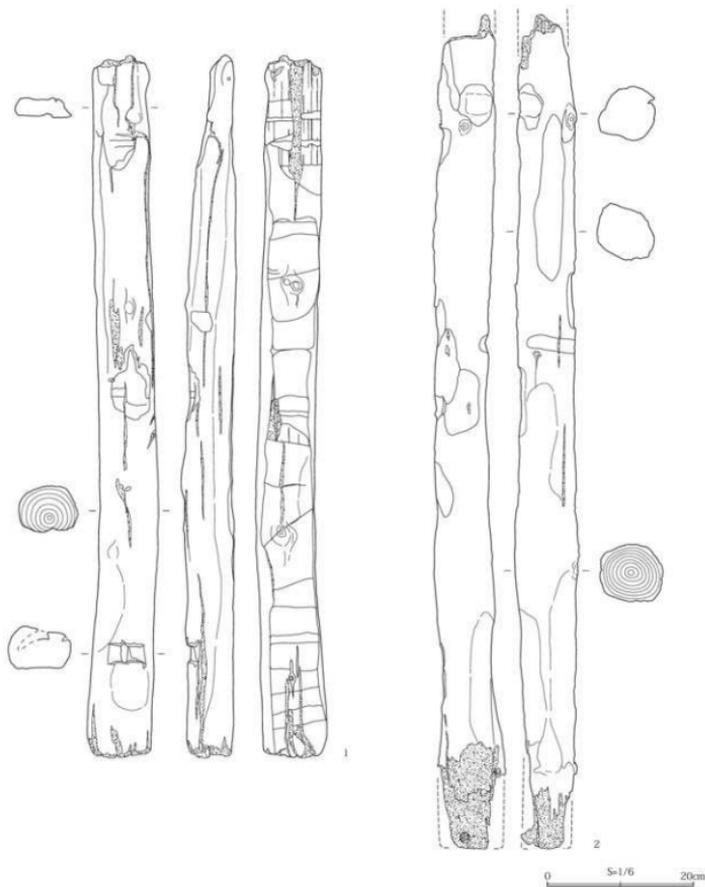
第 269 図 池 1 出土遺物 (18)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	部位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	130-5	17 桁	木製品	112.2	3.8	3.6	芯持材	クワ	桁組部材 挟まれて押圧された痕あり	L-55
2	131-1	17 桁	木製品	96.2	4.3	3.6	芯持材	クワ	桁組部材 押圧痕あり	L-56
3	131-2	17 桁	木製品	91.1	4.1	4.3	芯持材	クワ	桁組部材 挟まれて押圧された痕あり	L-57
4	131-3	17 桁	木製品	94.2	4.7	4.1	芯持材	クワ	桁組部材 挟まれて押圧された痕あり	L-58

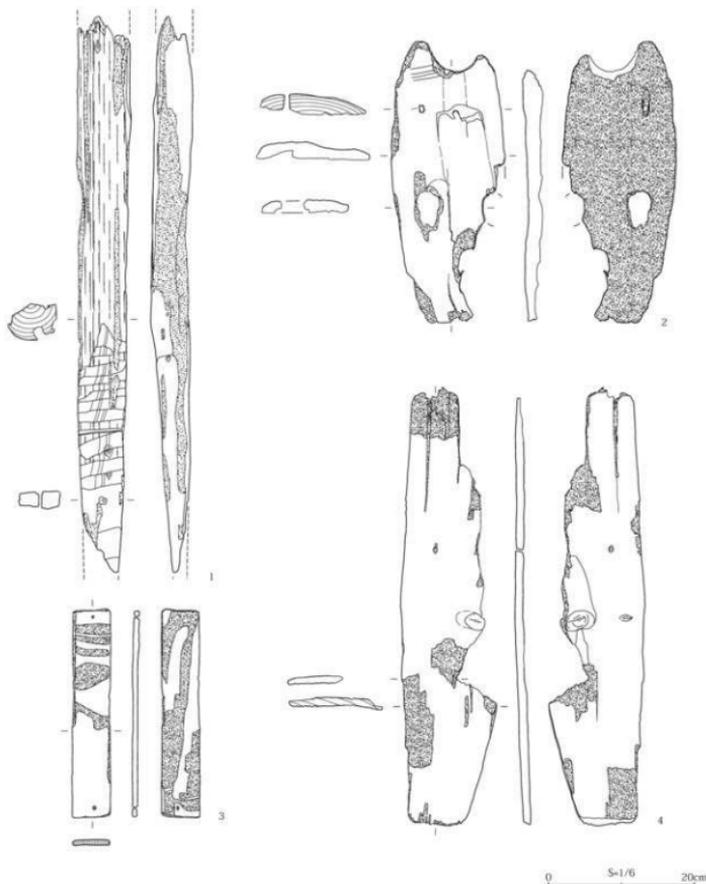
第270図 池1出土遺物(19)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	131-4	17 層	木製品	97.2	8.7	7.0	芯持ち材	タリ	部材 片面面取り ほぞ孔	L-59
2	132-1	17 層	木製品	115.6	8.8	9.2	芯持ち材	本丈コ属	部材 押込道あり	L-60

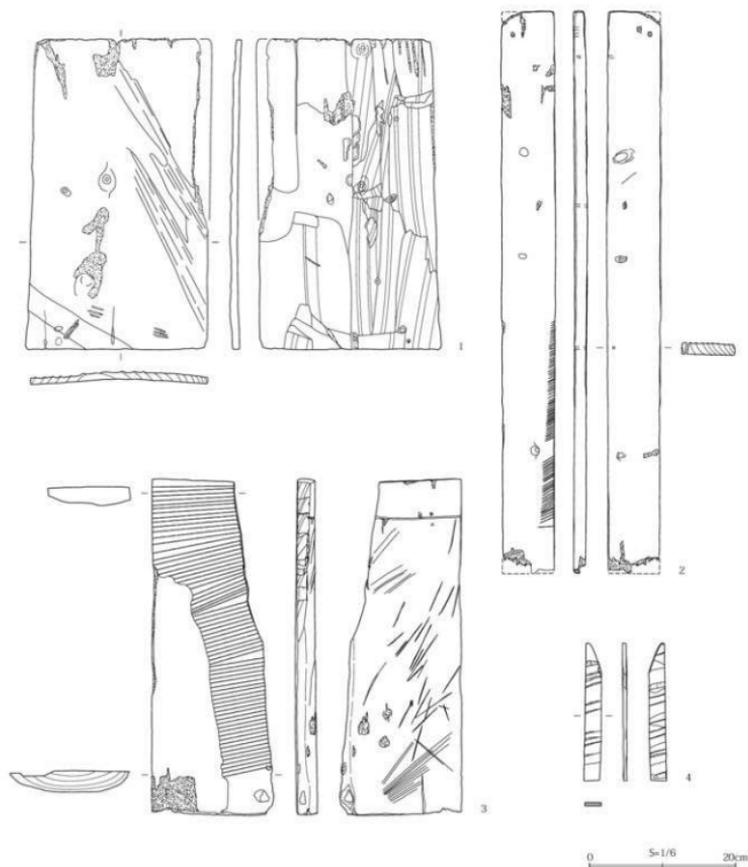
第 271 図 池 1 出土遺物 (20)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版 番号	写真図版 番号	部位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	132-2	17 樹	木製品	76.9	7.3	5.4	分割材	スギ	半割材 片端を扁平に整形	L-61
2	132-4	17 樹	木製品	39.0	15.5	2.7	板目	スギ	部材 2箇所以上登孔あり	L-62
3	132-3	17 樹	木製品	28.9	5.3	0.8	縦目	スギ	板材 両端に釘孔	L-63
4	132-5	17 樹	木製品	60.8	12.7	1.2	板目	スギ	板材 片側に挟り有り 角材と組み合わせた箇か	L-64

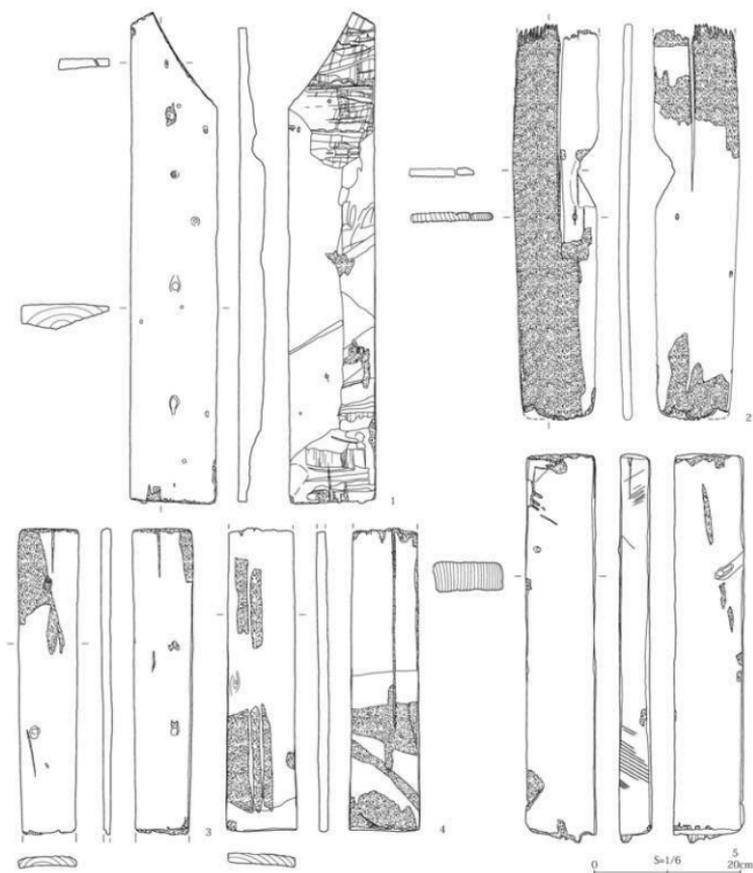
第272図 池1出土遺物(21)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	133-1	17層	木製品	43.1	24.7	1.2	板目	スギ	板材 表面に角材による仕痕 裏面に対痕	L-65
2	133-3	17層	木製品	77.9	7.3	1.7	縦目	スギ	板材 釘孔あり	L-66
3	133-2	17層	木製品	46.6	16.6	2.8	板目	スギ	板材 側面に鋸痕 上半分縁辺を切断	L-67
4	133-4	17層	木製品	19.1	2.3	0.6	縦目	スギ	板材	L-68

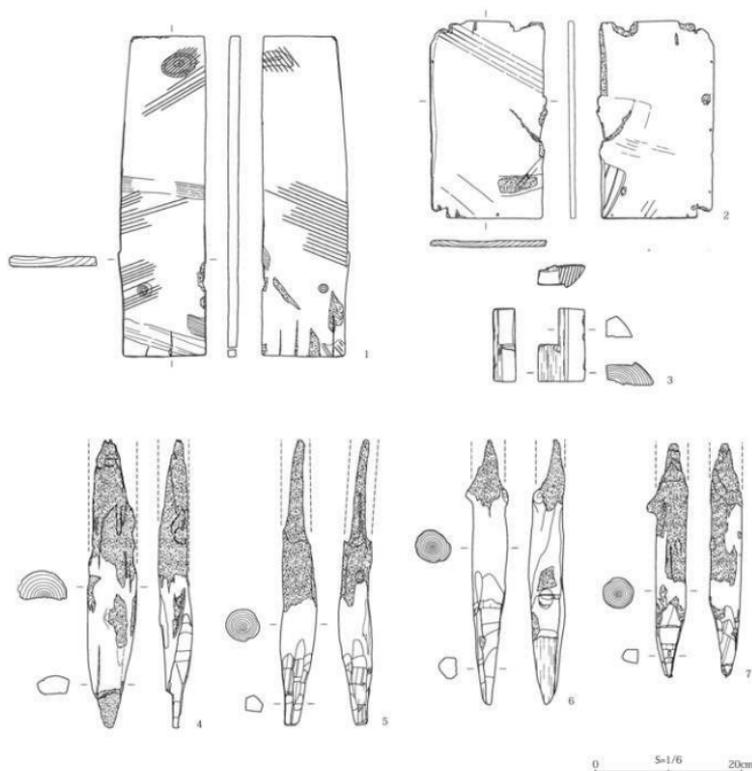
第273図 池1出土遺物(22)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版 番号	写真図版 番 号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	133-5	17層	木製品	68.1	11.9	3.6	板目	スギ	板 表面に2箇所挫り	L-69
2	133-6	17層	木製品	54.8	11.6	1.3	板目	マツ(国産雑木 東半区)	板材 片側に挟り有り 角材と組み合わせた部分	L-70
3	133-7	17層	木製品	42.4	8.3	1.3	板目	スギ	板材	L-71
4	134-1	17層	木製品	42.1	9.6	1.4	板目	スギ	板材	L-72
5	134-3	17層	木製品	53.8	9.6	4.4	板目	マツ(国産雑木 東半区)	縦痕あり	L-73

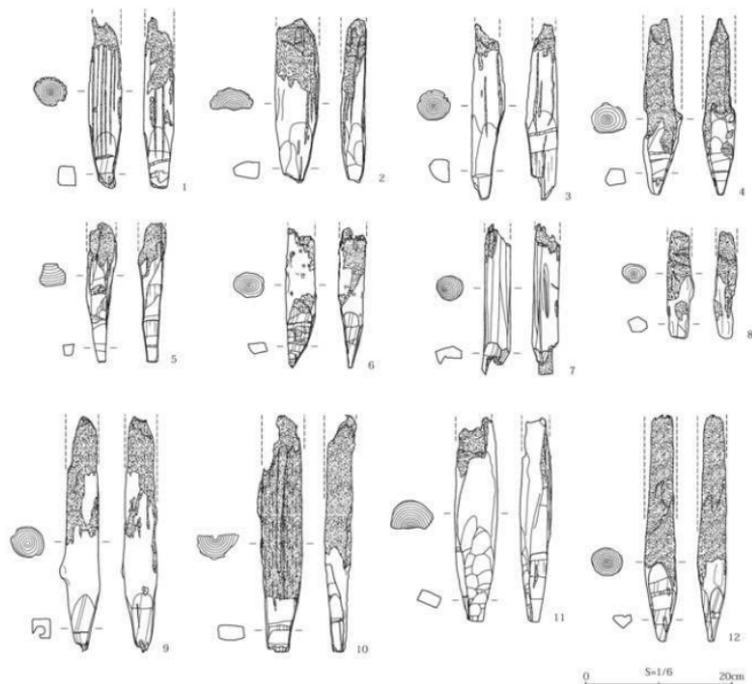
第274図 池1出土遺物(23)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)		木取り	樹種	備考	登録番号	
				長さ	幅					厚さ
1	134-2	17層	木製品	44.4	11.9	1.4	板目	マツ属焼燻管束部類	板材	L-74
2	134-4	17層	木製品	27.4	15.5	0.8	板目	モミ属	板材 材等による圧痕あり	L-75
3	134-5	17層	木製品	10.1	6.4	3.0	分割材	針葉樹	抉りあり	L-76
4	134-6	-	木製品	39.9	6.7	4.4	平割材	シナノキ属	潤厚杭	L-77
5	134-7	-	木製品	39.5	4.7	4.4	芯持材	トネリコ属	潤厚杭	L-78
6	134-8	-	木製品	36.7	5.7	4.6	芯持材	シナノキ属	潤厚杭	L-79
7	134-9	-	木製品	32.4	5.5	4.4	芯持材	トネリコ属		L-80

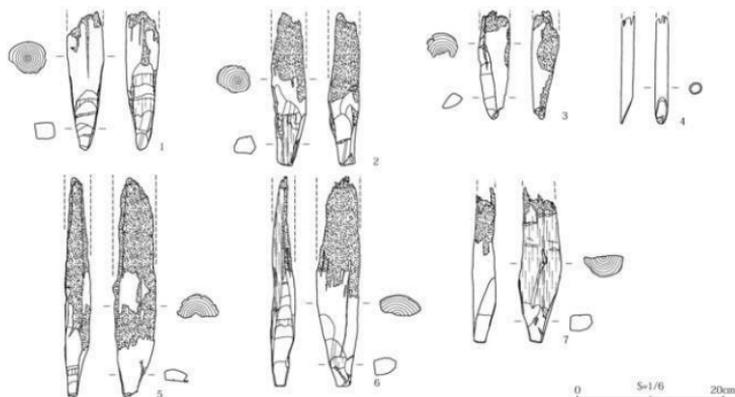
第275図 池1出土遺物(24)

第2節 川内駅部Ⅱ区



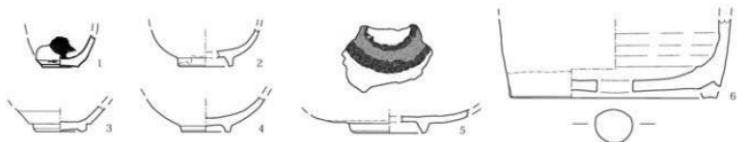
図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	樹種	備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ				
1	135-1	-	木製品	23.7	4.5	4.1	芯持材	クリ	護岸杭	L-81
2	135-2	-	木製品	22.7	6.0	3.2	平割材	トネリコ属	護岸杭 先端欠損	L-82
3	135-3	-	木製品	24.4	4.4	4.4	芯持材	トネリコ属	護岸杭	L-83
4	135-4	-	木製品	24.4	4.7	4.4	芯持材	クリ	護岸杭	L-84
5	135-5	-	木製品	19.3	3.9	3.4	分割材	オニグルミ	護岸杭	L-85
6	135-6	-	木製品	19.4	4.2	3.5	芯持材	針葉樹	護岸杭	L-86
7	135-7	-	木製品	20.9	3.6	3.6	芯持材	モミ属	護岸杭	L-87
8	135-8	-	木製品	15.0	3.6	2.8	芯持材	トネリコ属	護岸杭	L-88
9	135-9	-	木製品	32.5	5.4	4.8	芯持材	トネリコ属	護岸杭	L-89
10	135-10	-	木製品	32.8	6.1	3.7	平割材	クリ	護岸杭	L-90
11	135-11	-	木製品	28.3	5.8	4.3	平割材	オニグルミ	護岸杭	L-91
12	135-12	-	木製品	31.4	4.2	3.9	芯持材	トネリコ属	護岸杭	L-92

第276図 池1出土遺物(25)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			木取り	磨種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	136-1	-	杭	19.2	5.0	4.5	芯持材	タリ	薄厚杭	L-93
2	136-2	-	杭	21.2	4.6	4.2	芯持材	オニグルミ	薄厚杭	L-94
3	136-3	-	杭	15.1	4.2	3.7	芯持材	トネリコ属	薄厚杭	L-95
4	136-4	-	杭	15.0	1.7	1.6	-	タケ巻科	薄厚杭	L-96
5	136-5	-	杭	30.3	5.9	3.5	平割材	トネリコ属	薄厚杭	L-97
6	136-6	-	杭	29.1	5.8	3.2	分割材	トネリコ属	薄厚杭	L-98
7	136-7	-	杭	21.5	5.6	3.1	平割材	トネリコ属	薄厚杭	L-99

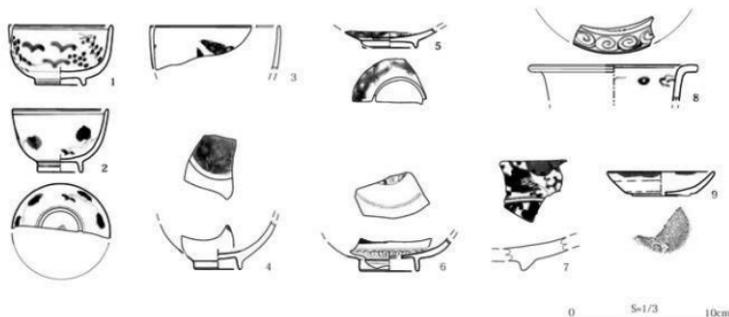
第 277 図 池 1 出土遺物 (26)



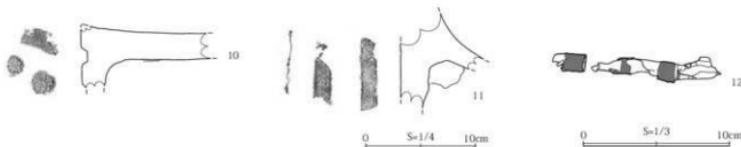
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	136-8	1層	陶器	甕 (豆甕?)	体部~ 底部	やや粗	-	2.5	2.2	在地	19c	鉄輪 ロクロナデ 回転糸切面有 ロクロノ左	I-218
2	136-9	1層	陶器	甕	体部~ 高台	密	-	(3.8)	2.5	大塚相馬	19c前	白霞輪	I-219
3	136-10	4層	陶器	小碗	体部~ 底部	やや密	-	(3.65)	1.7	不明	近世	鉄輪 (種有)	I-220
4	136-11	1層	陶器	甕	体部~ 高台	密	-	3.4	2.4	大塚相馬	19c前	灰輪 貫入有	I-221
5	136-12	4層	陶器	皿	高台	粗	-	(5.15)	(1.6)	小野相馬	18c中	灰輪 蛇の目輪測さ	I-222
6	137-1	4層	陶器	桶木鉢	体部~ 底部	やや密	-	14.2	5.45	瀬戸・美濃	19c	灰輪 ロクロナデ 底部円孔有	I-223

第 278 図 池 2 出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	137-2	1層	磁器	蓋物	口縁～高台	密	7.15	3.45	4.19	肥前	18c 後半	染付鳥・草花文 口縁部輪文タイ	J-155
2	137-6	4層	磁器	小碗	口縁～高台	密	6.6	3.1	4.4	瀬戸・美濃	19c	染付	J-156
3	137-3	4層	磁器	碗	口縁～体部	密	8.9	-	3.0	肥前	18c 後	染付	J-157
4	137-9	3層	磁器	小碗	高台～体部	密	-	(3.25)	(3.3)	肥前	19c 中	染付 見込みに型押しした文様	J-158
5	137-4	1層	磁器	皿	高台～体部	密	-	(3.7)	1.3	肥前	18c 後	染付若松文	J-159
6	137-7	3層	磁器	碗	高台～体部	密	-	4.05	2.3	肥前	19c 前	染付 二重圈線	J-160
7	137-8	4層	磁器	大皿	高台～体部	密	-	-	(2.3)	肥前	17c 末～18c 前半	染付花唐草	J-161
8	137-5	2層	磁器	折縁鉢	口縁～体部	密	(11.5)	-	(2.5)	瀬戸・美濃	19c 前半～中葉	染付渦巻文	J-162
9	137-10	1層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(7.4)	(3.8)	1.7	在地	近世	口々口：右 90°転回切面有 油煙付着	I-224



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
10	137-11	1層	軒丸瓦	(11.85)	(4.63)	(5.65)	瓦当径：(6.00) 文様径径：(3.65) 瓦当厚：2.15 周縁幅：2.00 周縁高：0.60 施縁文 外面：型押し 内面：ヨコナデ	F-11
11	137-12	1層	鳥伏瓦	(7.55)	(9.2)	(8.7)	瓦当径：(14.50) 文様径径：(9.20) 三引縁文 外面：型押し或形模胎による調整 雲母粉付着 内面：ヨコナデ 胎面有	F-12
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)		樹種	備考	登録番号
				長さ	径			
12	137-13	3層	漆器	11.5	1.4	タケ亜科	約平 (?)	L-100

第279図 池2出土遺物(2)

2) 池3 (第280～283図、図版80-2～81-2)

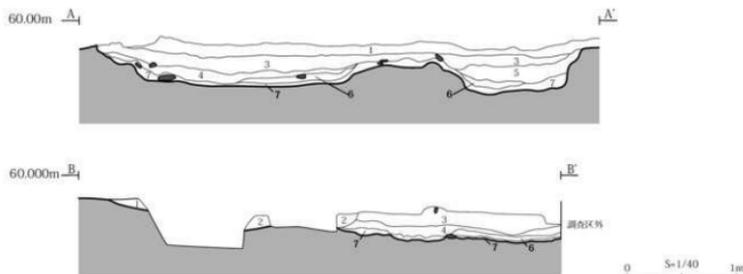
N5-W51・52グリッドに位置し、南側は近代の攪乱で削平され、北側は調査区外へ延びる。SD38、P191・192・221、SX33と重複しており、SX33より古く、他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸6.5m、短軸4.28m、深さ48cmを測り、主軸方向はN-65°-Eを示す。平面形は不整形で、断面形状は壁面がやや外反して立ち上がり、

途中外側に開く段状を呈する。底面は東側と西側が一段深く掘り窪められ、中央付近が一段高くなる形状を呈する。堆積土は7層からなり、1層は黄灰色シルト質砂でⅢc層の整地土である。2層～6層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。7層は粘土質シルトで、池が使用されていた時期に底面に堆積した沈殿物層である。検出状況と堆積状況から本遺構は池と考えられるが、接続する溝跡は確認できなかった。遺物は2層、3層から17世紀末～18世紀中頃の肥前産の磁器、6層から18世紀後半の肥前産の磁器、7層から17世紀末～18世紀前半の肥前産の磁器、18世紀後半～19世紀初頭の大塚相馬産の陶器、磁石、鉄釘等が出土している。そのうち、陶器2点、磁器5点、瓦質土器1点、土師質土器1点、金属製品3点、石製品1点を図示した。

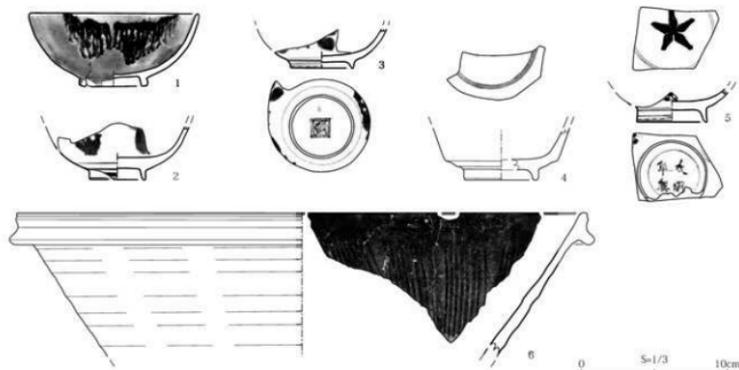


第280図 池3平面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

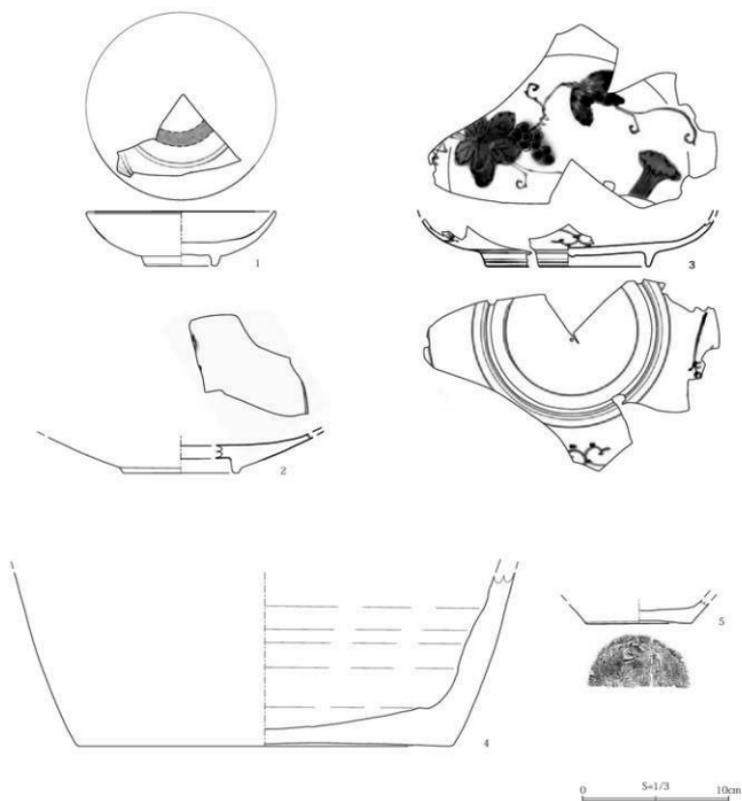


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト質砂	あり	ややあり	径1~5cmの白色粒少量
2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分微量
3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量 2.5Y7/6 明黄褐色シルトブロック微量
4	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト少量
5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分少量
6	5Y4/1 灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分少量 2.5Y7/3 浅黄色シルト微量
7	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄分少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	138-1	2層	陶器	碗	口縁～高台	密	11.6	4.7	5.1	大塚相馬	18c末～19c初	灰輪 胎輪跡付流し 貫入有	J-225
2	138-2	2層	磁器	碗	体部～高台	密	-	(3.8)	(3.7)	肥前	18c中	高台内肉縁 草花文	J-163
3	138-3	7層	磁器	碗	体部～高台	密	-	(4.3)	(2.7)	肥前	18c後	染付 高台内肉縁	J-164
4	138-4	3層	磁器	半肉碗	高台～体部	密	-	(5.1)	(3.6)	肥前	18c後半	青磁染付 蓋付碗	J-165
5	138-5	2層	磁器	皿	高台	密	-	4.8	(2.3)	肥前	太明年製 1630-1650	五弁花	J-166
6	138-6	2層	陶器	摺鉢	口縁～体部	粗	39.0	-	9.9	不明	近世	鉄輪 ロケ口・右 轆1条9本	J-226

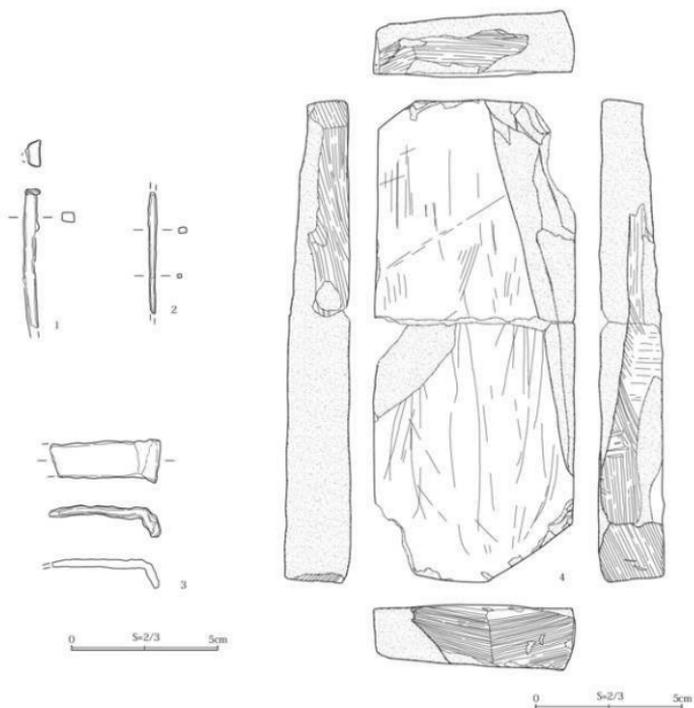
第281図 池3断面図・出土遺物 (1)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	138-7	3層	磁器	皿	口縁～ 高台	密	(13.0)	(5.0)	3.8	肥前	17c 末～18c 前	蛇の目輪刺ぎ 二重圓縁 染付	J-167
2	138-8	2層	磁器	皿	体部～ 高台	密	-	(8.1)	(2.7)	肥前	17 c 後葉	染付 見込輪郭線のみ須 輪に付掛けムラ有	J-168
3	139-1	7層	磁器	皿	高台	密	-	11.3	3.2	肥前	17c 末～18c 前	染付草花文 目直1つ有	J-169
4	138-9	7層	瓦質土 器	甕	体部～ 底部	やや粗	-	25.6	12.0	在地	近世	ミガキ ロクロナデ ロクロ:左	I-227
5	138-10	一底	土師質 土器	かわらけ	体部～ 底部	やや粗	-	(7.35)	(1.6)	在地	近世	ロクロナデ	I-228

第282図 池3出土遺物(2)

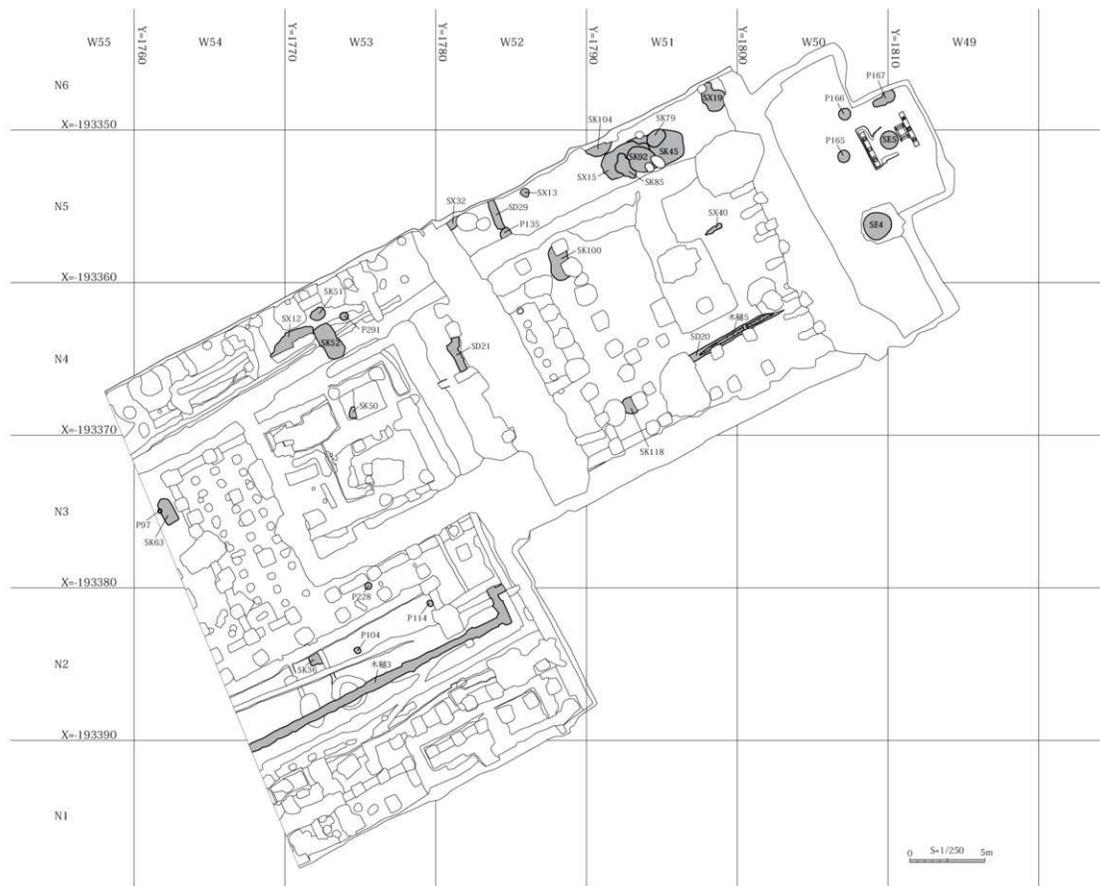
第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	139-3	3層	金属製品	(4.85)	(0.9)	(0.4)	(3.41)	釘	N-47
2	139-4	3層	金属製品	(4.24)	0.28	-	(1.06)	釘	N-48
3	139-5	3層	金属製品	(3.8)	1.50	(0.3)	(6.97)	不明金具	N-49

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
4	139-2	7層	石製品	16.7	6.9	2.2	(37.49)	石炭灰山 岩質白岩	砥石 全体に押痕有	K-11

第283図 池3出土遺物(3)



第284図 II区III層上面遺構配置図

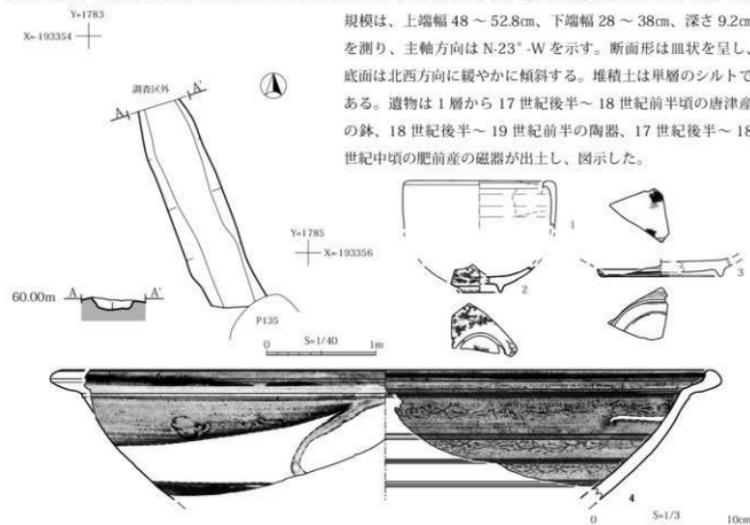
3 Ⅲ層上面検出遺構とⅢ層出土遺物

本調査区において、Ⅲ層は南西側の一部と東側において検出している。溝跡3条、土坑12基、性格不明遺構6基、ピット14基、木樋2基の遺構を検出した。検出状況と出土遺物から、19世紀前半～中頃の遺構と考えられる。また、Ⅰ区のⅢ層上面において検出した遺構と同様に、Ⅱ区のⅢ層上面遺構も、幕末から明治時代への移行期と考えられる整地面と基盤層直上において検出した遺構であり、調査段階において近世に属する遺構か、明治に属する遺構かの判断が困難であった。そのため整理段階において、明治期の遺構であると考えられる不確かな遺構に関しては、Ⅲ層上面遺構としてⅢ面上層遺構配置図に示した。なお、木樋3についてはⅠ区Ⅲ層上面遺構本文において記述した(第142図)。

1) SD 溝跡

1) SD29 溝跡 (第285図、図版82-1・2)

N5-W52 グリッドに位置し、南東から北西方向に総長2.0m 直線的に延びる素掘りの溝跡である。北西側は調査区外へ延び、南東側はP135と重複しており、SD29が古い。南東側に延びる範囲は確認できなかった。残存する規模は、上端幅48～52.8cm、下端幅28～38cm、深さ9.2cmを測り、主軸方向はN-23°-Wを示す。断面形は皿状を呈し、底面は北西方向に緩やかに傾斜する。堆積土は単層のシルトである。遺物は1層から17世紀後半～18世紀前半頃の唐津産の鉢、18世紀後半～19世紀前半の陶器、17世紀後半～18世紀中頃の肥前産の磁器が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	糖化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	139-6	1層	陶器	口縁～ 函つぎ?	口縁～ 体部	やや粗	(10.4)	-	(3.0)	大塚 相馬	18c 後半～ 19c 前半	灰釉 貫入有	J-229
2	139-7	2層	磁器	函	口縁～ 体部	密	-	(3.0)	(1.8)	肥前	18c 前半～ 18c 中	染付唐草文 貫入有 蓋台内嵌付有	J-170
3	139-3	2層	磁器	皿	高台部	やや密	-	(8.4)	(1.2)	肥前	17c 後	染付 湖繪 二重湖繪	J-171
4	139-9	1層	陶器	鉢	口縁～ 体部	やや密	(44.8)	-	8.95	唐津	17c 後～ 18c 初	灰釉 鉄絵 輪下白化粧 磁刻有	J-230

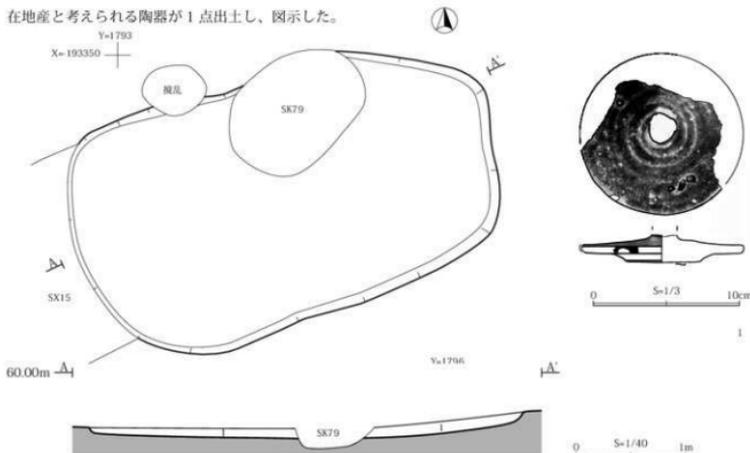
第285図 SD29 溝跡平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

(2) 土坑

1) SK45 土坑 (第286図、図版82-3)

N5-W51～N6-W51 グリッドに位置し、北側の一部を攪乱で削平され、SK79、SX15と重複しており、SK45が古い。西側はSX15に切られている。規模は、長軸4.0m、短軸2.22m、深さ10cmを測り、主軸方向はN-60°-Eを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層のシルトである。遺物は1層から在地産と考えられる陶器が1点出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト微量 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(mm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	139-10	一括	陶器	蓋	口縁～底部	粗	-	5.05	2.0	在地?	19c?	灰輪 回転糸切痕有	I.231

第286図 SK45土坑平面図・断面図

2) SK50 土坑 (第287図、図版82-4)

N4-W53 グリッドに位置し、東側を近代の攪乱で削平され、P84と重複しており、SK50が新しい。残存する規模は、長軸74cm、短軸49cm、深さ21cmを測る。平面形は隅丸正方形が推定され、断面形状は壁面が緩やかに立ち上がり、底面は東側がやや落ち込み段状を呈する。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は出土していない。

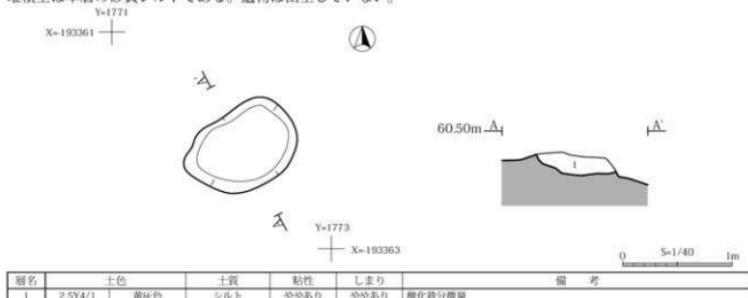


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	径1～5cmの礫少量 径3～5mmの炭化物微量 酸化鉄分微量

第287図 SK50土坑平面図・断面図

3) SK51 土坑 (第 288 図、図版 82-5・6)

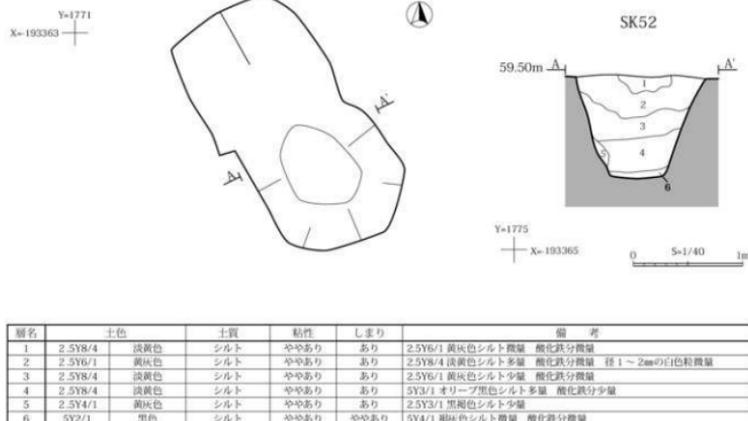
N4-W53 グリッドに位置し、北西側を近代の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸 1.06m、短軸 73cm、深さ 20cm を測り、主軸方向は N-62°-E を示す。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は単層の砂質シルトである。遺物は出土していない。



第 288 図 SK51 土坑平面図・断面図

4) SK52 土坑 (第 289 図、図版 82-7・8)

N4-W53 グリッドに位置し、北西側と中央部を近代の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸 2.52m、短軸 1.28m、深さ 96cm を測る。主軸方向は N-37°-W を示す。平面形は隅丸長方形で、断面形は U 字状を呈する。堆積土は 6 層からなり、すべてシルトである。1～4 層は VI 層由来の淡黄色ないし黄灰色シルトを基調とし、人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

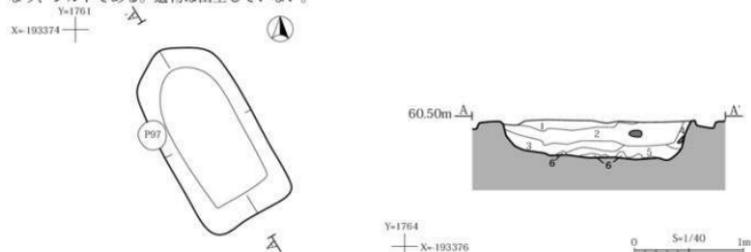


第 289 図 SK52 土坑平面図・断面図

第2節 川内駅部Ⅱ区

5) SK63 土坑 (第290図、図版83-1・2)

N3-W54グリッドに位置し、北東側を上層遺構のP97に削平される。規模は、長軸2.55m、短軸1.74m、深さ36cmを測り、主軸方向はN-31°-Wを示す。平面形は隅丸長方形で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は6層からなり、シルトである。遺物は出土していない。

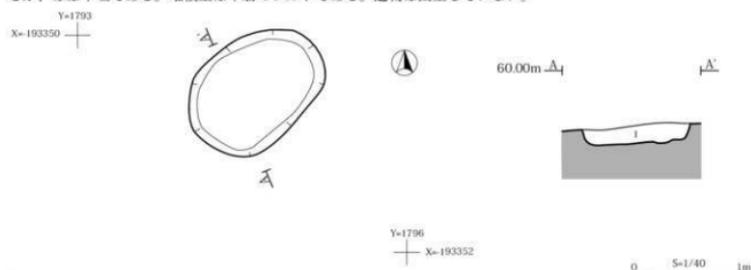


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 酸化鉄分少量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 酸化鉄分多量 2.5Y5/3 黄褐色シルト少量
3	2.5Y5/1	暗灰色	シルト	なし	あり 酸化鉄分多量 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト少量
4	2.5Y5/1	暗灰色	シルト	なし	あり 2.5Y6/2 灰黄色シルト少量 酸化鉄少量
5	2.5Y5/1	暗灰色	シルト	なし	あり 2.5Y4/1 黄灰シルト少量 酸化鉄少量
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 酸化鉄分多量 2.5Y7/6 明黄褐色シルト少量

第290図 SK63土坑平面図・断面図

6) SK79 (第291図、図版82-3)

N5-W51グリッドに位置し、SK45と重複しており、SK79が新しい。規模は、長軸1.34m、短軸92cm、深さ18cmを測り、主軸方向はN-63°-Eを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形で、底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。

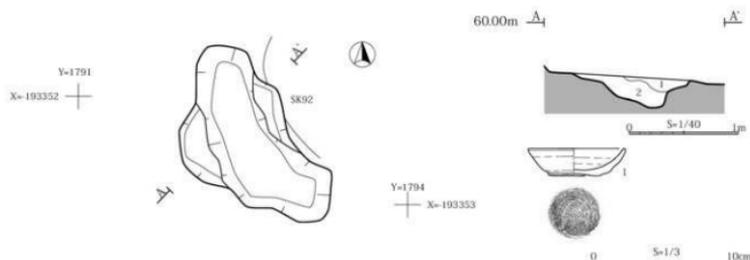


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト少量 酸化鉄分微量

第291図 SK79土坑平面図・断面図

7) SK85 (第292図、図版83-3)

N5-W51グリッドに位置し、東側はSK92、SX15と重複しており、SK92より新しく、SX15より古い。規模は、長軸1.89m、短軸1.03m、深さ30cmを測り、主軸方向はN-33°-Wを示す。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈し、底面は中央部が掘り窪められ段状を呈する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともに砂質シルトである。遺物は在地産のかわらけが出土し、図示した。



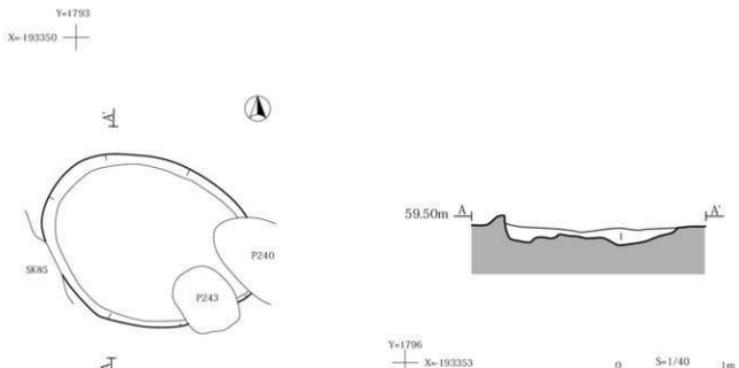
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	2.5Y6/3 におい黄灰色砂質シルト微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	2.5Y5/2 暗灰黄灰色砂質シルト少量 酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	140-1	1層	土師製土器	皿	1.縁～底部	粗	(6.6)	3.5	19	右地	近世	ロウロ・右 ロウロナデ回転糸切痕有	1-232

第 292 図 SK85 土坑平面図・断面図・出土遺物

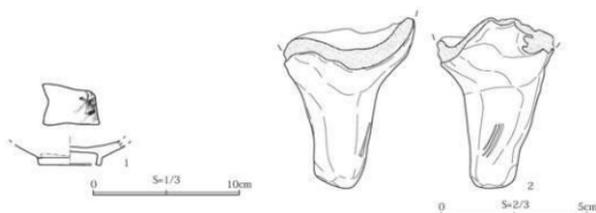
8) SK92 (第 293・294 図、図版 83-4)

N5-W51 グリッドに位置し、西側は SK85、東側は SK87、P240・243、SX15 と重複しており、SK92 が古い。残存する規模は、長軸 2.04m、短軸 1.58m、深さ 16cm を測り、主軸方向は N-35°-W を示す。平面形は楕円形で、断面形状は南側の肩が急な角度で立ち上がり、北側は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であり、堆積土はシルトの単層である。遺物は 19 世紀代の大堀相馬産の陶器、土製品等が出土し、そのうち、陶器 1 点、土製品 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり

第 293 図 SK92 土坑平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)				産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高	重量				
1	140-2	1層	陶器	皿	高台~ 体部	やや密	-	(4.3)	(1.7)	大塚相馬	19c	灰輪 鉄粒 貫入有	I-233	

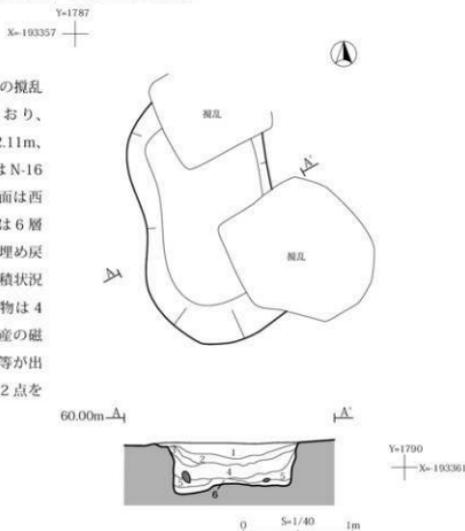
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)				備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
2	140-3	1層	土製品	5.9	4.5	4.0	(49.2g)	動物 型押し成形	P-15

第294図 SK92土坑出土遺物

9) SK100土坑

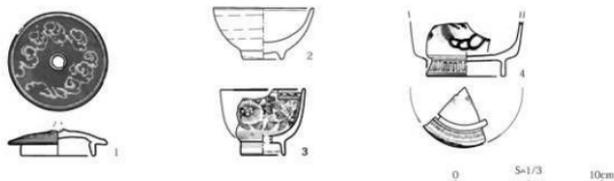
(第295・296図、図版83-5・6)

N5-W52グリッドに位置し、東側を近代の掘削で削平され、南側はSK97と重複しており、SK100が古い。残存する規模は、長軸2.11m、短軸1.25m、深さ47cmを測る。主軸方向はN-16°-Wを示す。断面形は箱形を呈する。底面は西側がやや落ち込み段状を呈する。堆積土は6層からなり、1層～5層はシルトで人為的に埋め戻された堆積土である。6層は有機物で、堆積状況から廃棄土坑の可能性が考えられる。遺物は4層から18世紀前半～19世紀前半の肥前産の磁器、19世紀中頃以降の大塚相馬産の陶器等が出土している。そのうち、陶器2点、磁器2点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり
3	5Y4/1	灰色	シルト	ややあり	あり
4	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり
5	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	あり
6	5Y2/1	黒色		なし	なし

第295図 SK100土坑平面図・断面図

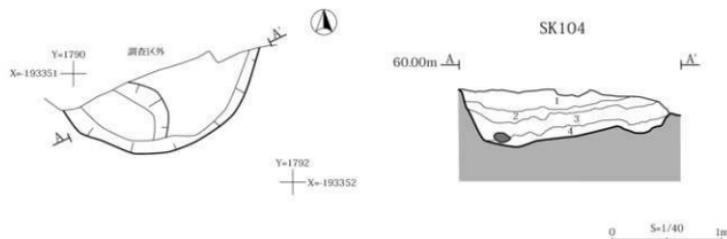


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	140-4	4層	陶器	蓋	体部～紐部	やや密	5.10	-	(1.85)	大塚相野	19c 中以降	灰釉 白濁イッチン有	J-234	
2	140-5	4層	磁器	碗	口縁～高台	密	6.8	2.8	3.6	(1.85)	肥前	18c 前～	ロクロ：右	J-172
3	140-6	4層	磁器	小杯	口縁～高台	密	(5.8)	(3.1)	4.6	肥前	19c 前	染付草花文	J-173	
4	140-7	4層	磁器	平碗	高台～体部	密	-	(5.4)	(3.8)	肥前	19c 前	染付草・羊歯文 高台標画(細線ま) 高台内に「天明製」	J-174	

第296図 SK100 土坑出土遺物

10) SK104 土坑 (第297図、図版83-7・8)

N5-W51 グリッドに位置し、北側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸1.82m、短軸74cm、深さ50cmを測る。平面形は円形が推測され、断面形は逆台形を呈する。底面は西側に緩やかに傾斜し、東端には浅い落ち込みが見受けられる。堆積土は4層からなり、すべてシルトで、1層～3層は人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量 径3mm程度の炭化物微量
2	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト微量
3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/1 黄灰色シルト少量
4	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/6 明黄褐色シルト微量 酸化鉄分微量

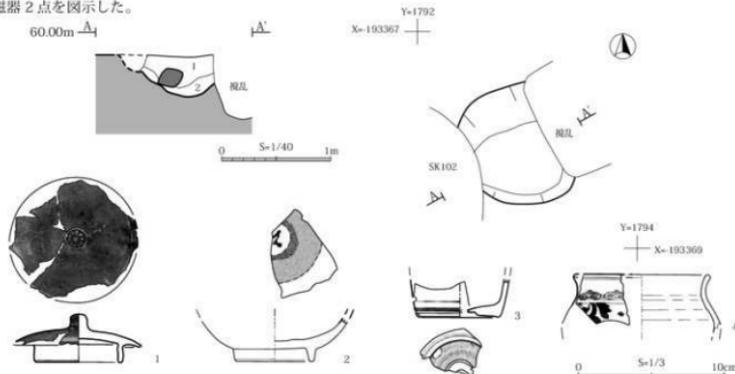
第297図 SK104 土坑平面図・断面図

11) SK118 土坑 (第298図、図版84-1・2)

N4-W51 グリッドに位置し、東側は近代の掘削で削平される。また、SK102と重複しており、調査段階において、SK102が本遺構を切っているものと考えていたが、遺物の年代から本遺構がSK102より新しい遺構であると判断した。残存する規模は、長軸1.04m、短軸77cm、深さ38cmを測る。断面形はU字状を呈する。底面は東側に緩

第2節 川内駅部Ⅱ区

やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、シルトである。遺物は1層から16世紀末～17世紀前半の中国産の磁器、18世紀～19世紀代の肥前産の時期、19世紀中頃の太田相馬産の陶器等が出土している。そのうち、陶器2点、磁器2点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 10YR4/1 細灰色シルト少量 径約15cmの縄文台
2	10YR4/1	暗灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y7/6 明黄褐色シルト輪微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
						胎土	口径	底径					器高
1	140-8	1層	陶器	土瓶蓋	つまみ～縁部	やや密	(6.4)	-	3.3	大塚相馬	19c中	縁輪 つまみ・菊花	J-236
2	140-9	1層	磁器	碗	体部～高行	密	-	(5.4)	(3.0)	肥前	18c～19c	蛇の目輪画び 足込み染付有	J-229
3	140-10	1層	磁器	猪口	高行～体部	密	-	(5.4)	(2.6)	肥前	19c?	側線 二重輪 縁絵/目四高行	J-175
4	140-11	1層	磁器	壺	口縁～体部	密	(9.4)	-	(4.0)	中国	16c末～17c前	染付 二重側線 ロクロ・左	J-176

第298図 SK118土坑平面図・断面図・出土遺物

(3) 性格不明遺構

1) SX12 性格不明遺構

(第299図、図版84-3)

N4-W53・54グリッドに位置し、南側を近代の掘削で削平されている。残存する規模は、長軸3.4m、短軸1.06m、深さ24cmを測る。断面形状は北側が急な角度で立ち上がり、底面にはやや起伏が見られる。堆積土は2層からなり、1層はシルト、2層はVI層由来の暗灰黄色シルトを基調とする堆積土で、いずれも人為的に埋め戻された堆積土である。遺物は出土していない。

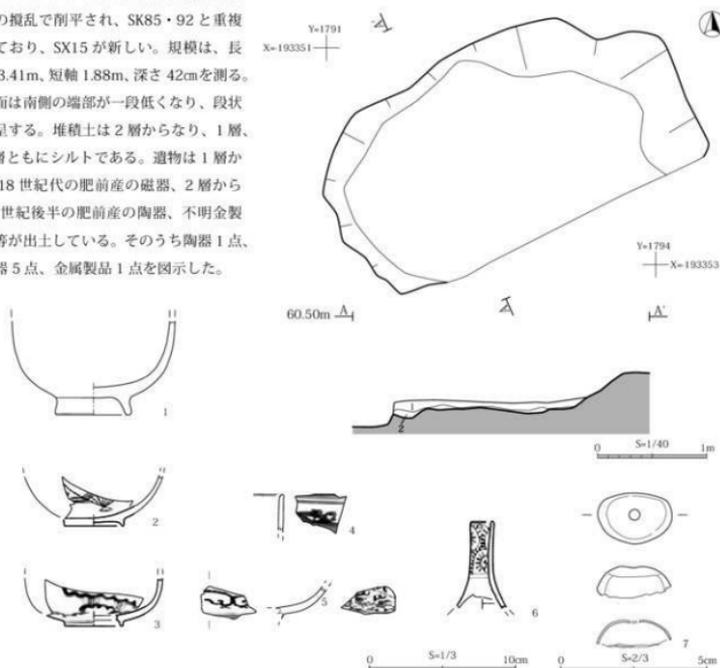


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径3～5mmの白色粒少量 酸化鉄分微量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量

第299図 SX12 性格不明遺構平面図・断面図

2) SX15 性格不明遺構 (第300図、図版84-4~6)

N5-W51 グリッドに位置し、南側を近代の掘削で削平され、SK85・92と重複しており、SX15が新しい。規模は、長軸3.41m、短軸1.88m、深さ42cmを測る。底面は南側の端部が一段低くなり、段状を呈する。堆積土は2層からなり、1層、2層ともにシルトである。遺物は1層から18世紀代の肥前産の磁器、2層から17世紀後半の肥前産の陶器、不明金属製品等が出土している。そのうち陶器1点、磁器5点、金属製品1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	径約5mmの炭化物微量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	ややあり	酸化鉄分微量

図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	141-1	2層	陶器	碗	胴部~高台	やや密	-	5.20	(6.5)	肥前	17c後半	灰輪 貫入有 難れ砂付着	J-237
2	141-2	1層	磁器	碗	胴部~高台	密	-	4.0	(3.5)	肥前	18c代?	土胎付赤絵(局)	J-177
3	141-3	1層	磁器	碗	口縁~体部	密	-	(4.0)	(3.3)	肥前	18c中頃	染付 貫入有	J-178
4	141-4	1層	磁器	半高碗	口縁部	密	-	-	(2.6)	肥前	18c代	染付 二重線線	J-179
5	141-5	1層	磁器	皿	体部	密	-	-	(2.35)	肥前	18c初頭	染付墨文 二重線線 脚線	J-180
6	141-6	1層	磁器	細口瓶	口縁~器部	密	1.55	-	(6.05)	肥前	19c前~	透明輪 輪首草	J-181

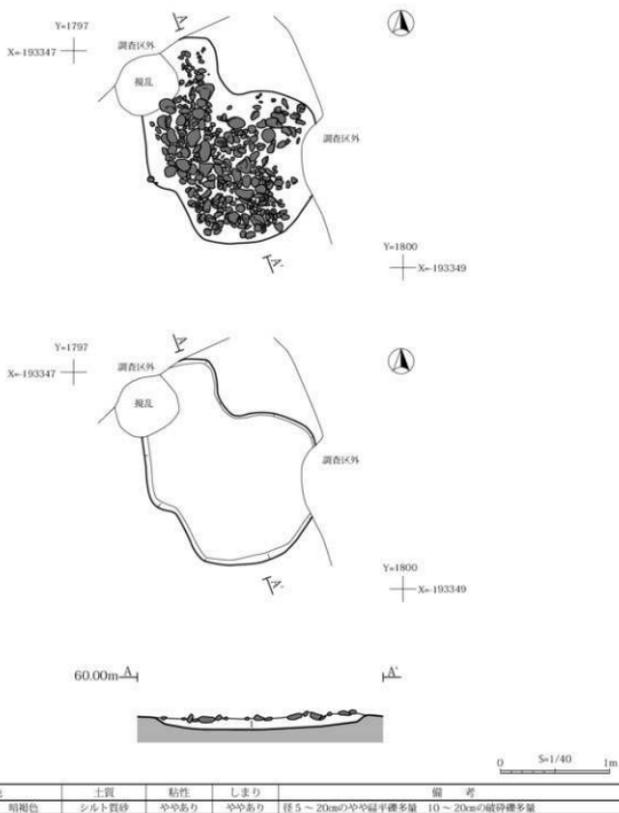
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			
7	141-7	1層	金属製品	1.1	2.55	0.5	(2.83)	不明	N-50

第300図 SX15 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第2節 川内駅部Ⅱ区

3) SX19 性格不明遺構 (第301・302図、図版84・7・8)

N6-W50 グリッドに位置し、石が敷き詰められた石敷き遺構である。東側は近代の造成の際に削平され、北側は調査区外へと延びる。残存する掘り方の規模は、長軸 1.92m、短軸 1.30m、深さ 8.8cmを測り、主軸方向は N-30°-Wを示す。平面形は不整形形で、断面形は皿状と考えられる。底面は平坦である。堆積土は単層のシルトである。上層部には径 5cm～20cmの石を多量に含んでいる。遺物は1層 19世紀中頃～後半の瀬戸・美濃産の磁器、18世紀～19世紀代の大瀬相馬産の陶器、19世紀代の堤産の焙烙、在地産の蚊遣り・播鉢等が出土している。そのうち、陶器4点、磁器2点、瓦質土器1点を図示した。



第301図 SX19 性格不明遺構平面図・断面図



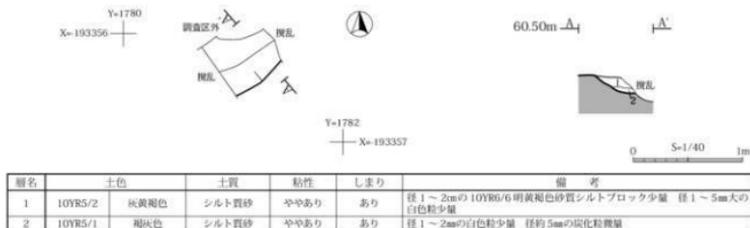
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	141-8	1層	陶器	袋物	高付～体部	やや密	-	(7.65)	(4.5)	大塚粗馬	18c～19c	鉄輪 瓶頸	I-238
2	141-9	1層	陶器	蓋	口縁～体部	やや密	(6.3)	-	(1.75)	大塚粗馬	18c後半～19c前半	白濁輪 土瓶蓋	I-239
3	141-10	1層	軟質陶	磁器	口縁～底部	やや粗	(12.8)	(9.5)	2.25	堀	19c	ロクロナデヘラケズリ	I-240
4	141-12	1層	陶器	漆鉢	口縁～体部	粗	(39.7)	-	9.0	在池	19c	鉄輪 樽1条7本	I-241
5	141-11	1層	磁器	萬葉鏡	口縁～体部	密	(7.3)	-	(4.9)	肥前	19c前?	染付 口箱	J-182
6	141-6	1層	磁器	楠木鉢	体部	-	-	(7.7)	-	瀬戸・美濃	幕末～明治	染付梵文	J-183
7	142-1	1層	瓦質土器	敷道り	体部～底部	粗	-	(15.5)	(15.0)	在池	近世	靱足	I-242

第302図 SX19 性格不明遺構出土遺物

4) SX32 性格不明遺構 (第303図、図版85-1・2)

N5-W52 グリッドに位置し、東側、西側は近代の掘削で削平され、北側は調査区外へと延びる。残存する規模は、長軸 60cm、短軸 56cm、深さ 12.8cmを測り、平面形は不明で、断面形は皿状が考えられる。底面は平坦であり、堆積土は2層で、シルト質砂である。遺物は出土していない。

第2節 川内駅部Ⅱ区

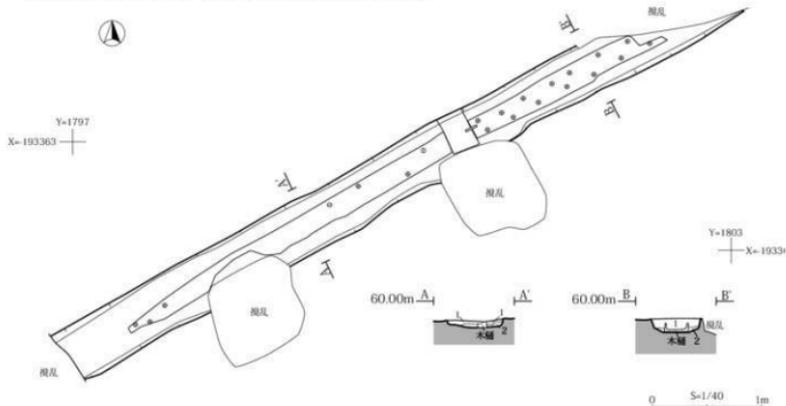


第303図 SX32 性格不明遺構平面図・断面図

(4) 木樋

1) 木樋5 (第304図、図版85-3～7)

N4-W50・W51 グリッドに位置し、遺存状態は悪く、2本の木樋から構成される配水木樋と考えられる。I区Ⅲ層上面検出の木樋1と同様と推測されるが、直接木樋同士を接続させる構造等は確認できなかった。総長は6.9mを測り、攪乱で削平され、I区Ⅲ層上面において検出した上水施設や木樋3との関係は確認できなかった。上層部と南西側、北東側は攪乱で削平され、1本の木樋の残存する長さは1.95～3.39m、幅21.5～24.3cmを測り、主軸方向はN-61°Eを示す。木樋同士の接続箇所には継ぎ手と考えられる角材が確認できた。掘り方の規模は上端幅47.3～52.8cm、下端幅35.5～47.5cm、深さ12.8cmを測り、底面は平坦である。堆積土は2層からなり、ともにシルトで、1層はⅥ層由来の明黄褐色シルトを多量に含む近代以降の盛土である。2層は掘り方の堆積土である。遺物は瓦片等が出土しているが、細片のため図示していない。

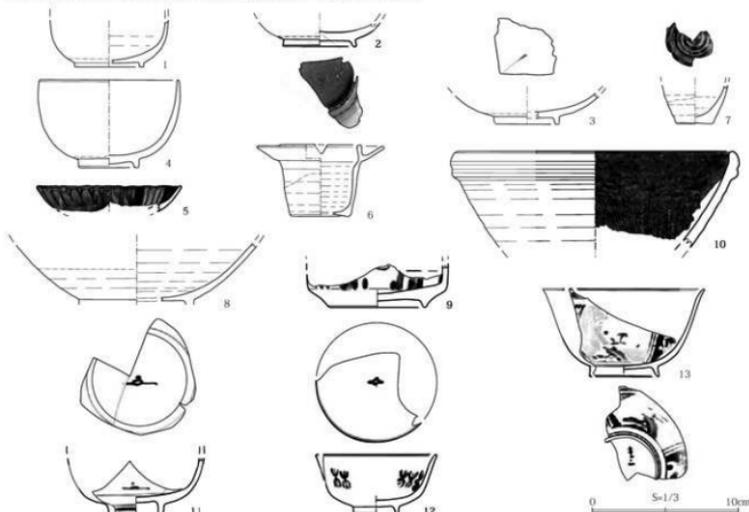


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	2.5Y7/6明黄褐色シルト多量 炭化粒分微量
2	2.5Y4/2 暗黄褐色	シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄灰色シルト少量 炭化粒分微量

第304図 木樋5 平面図・断面図

(5) III層出土遺物(第305～309図、図版142-2～145-9)

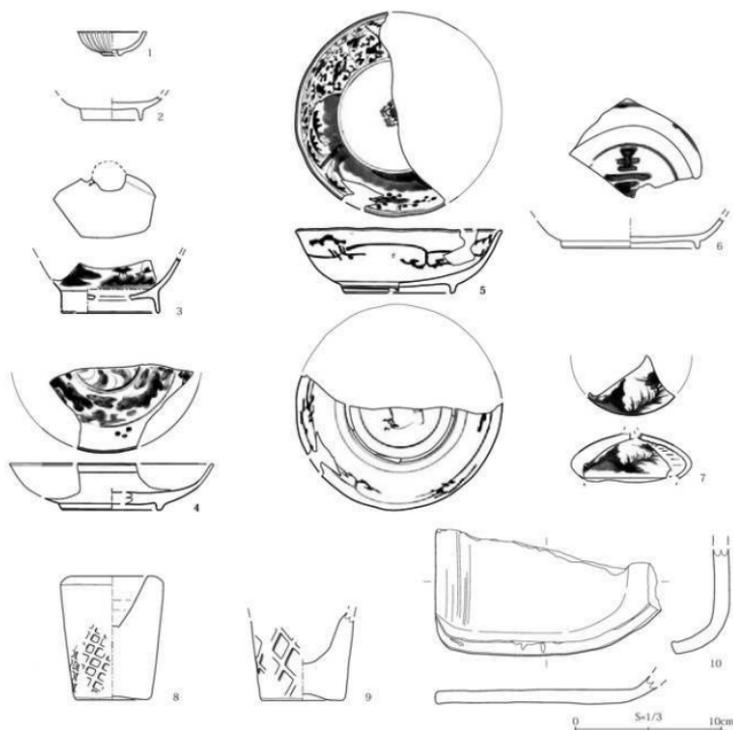
III層上面整地土において、遺物は総数1350点出土した。内訳は陶器614点、磁器517点、土師質土器60点、瓦質土器41点、軒平・平瓦4点、軒丸・丸瓦22点、その他の瓦29点、金属製品44点、土製品8点、石製品6点、自然遺物2点である。陶磁器に関しては17世紀前半～19世紀中頃の遺物が出土している。出土遺物をⅢc層出土とⅢd層出土の遺物に分け、遺存状態の良いものを図示した。



図版 番号	写真図版 番 号	グリッド	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号	
						胎土	口径	底径					器高
1	142-2	N4-W51	陶器	碗	体部～ 高台	やや密	-	(4.8)	(3.25)	大層 相馬?	19c	灰輪	I-243
2	142-3	N4-W51	陶器	碗	高台	やや粗	-	(5.1)	(1.65)	肥前	17c末	灰輪 貫入有 高台に隠刻 文字(清水)	I-244
3	142-5	N4-W51	陶器	平碗	体部～ 高台	やや密	-	(4.4)	(2.15)	肥前	17c末	京焼肥前 灰輪 貫入有 梨須絵?	I-245
4	142-6	N4-W51	陶器	碗	口縁～ 高台	やや密	(9.55)	4.15	6.1	大層 相馬	18c後半以降	灰輪 貫入有	I-246
5	142-7	N5-W51	陶器	輪花皿	口縁～ 体部	密	(9.9)	-	(1.8)	切込	19c中頃	淡し掛 意色系の三彩	I-247
6	142-4	N5-W51	陶器	灯明皿	口縁～ 体部		(8.7)	(4.2)	5.0	在地	近世	銘輪 ロクノ左	I-248
7	142-9	N4-W52	陶器	小鉢	体部～ 底部	やや密	-	2.55	(2.62)	大層 相馬?	19c	銘輪 ロクロナデ 回転糸 切須有	I-249
8	142-10	N4-W52	陶器	袋物?	体部～ 高台	やや粗	-	(7.9)	(4.45)	大層 相馬	19c	灰輪 ヘラケズリ	I-250
9	142-8	N4-W51	陶器	香炉	体部～ 高台	やや密	-	6.7	(3.05)	肥前	18c中?	灰輪 鉄絵 貫入有 ロク ノ左	I-251
10	142-11	N4-W49	陶器	掻鉢	口縁～ 体部	粗	(19.2)	-	(8.65)	在地	19c	鉄輪 纏1条9本	I-252
11	142-12	N4-W51	磁器	碗	体部～ 高台	密	-	3.7	3.95	瀬戸・ 美濃	19c	染付有 ハナレズ才付 懸崖き面有	J-184
12	142-3	N4-W51	磁器	燗反碗	口縁～ 高台	密	(8.3)	(3.15)	(4.2)	瀬戸・ 美濃	19c前～19c中	染付御氏香文 I 跡	J-185
13	142-14	N4-W51	磁器	碗	口縁～ 高台	密	(11.1)	(4.7)	6.1	肥前	19c後半	土胎付有(赤絵 緑輪 梨須 金彩) 色剥落 有 懸崖有 高台付(キナニ)	J-186

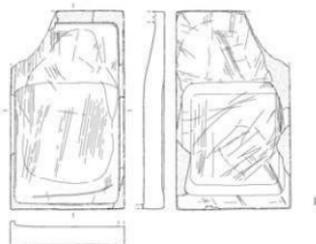
第305図 III c層出土遺物 (1)

第2節 川内駅部Ⅱ区

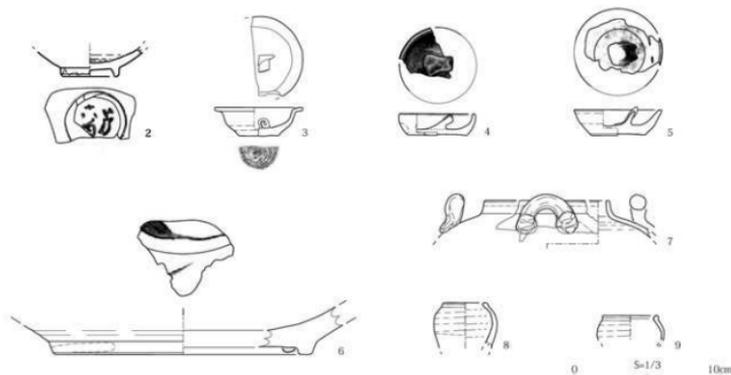


図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	143-1	N5-W50	磁器	紅皿	口縁～高台	密	(4.7)	(1.3)	(1.65)	肥前	18c～19c	型押し	J-187
2	143-2	N4-W51	磁器	白磁碗	高台	密	-	4.15	(1.65)	肥前	18c後半?		J-188
3	143-3	N4-W51	磁器	広東碗	体部～高台	密	-	6.7	3.85	肥前	19c前	染付山水文・焼藥き道有 榊木跡に北照	J-189
4	143-5	N4-W52	磁器	皿	口縁～高台	やや密	14.0	6.8	3.2	肥前	17c中頃	染付 口譜 豆込位花 龍文?	J-190
5	143-4	N4-W51	磁器	輪花皿	口縁～高台	密	(14.2)	(7.65)	4.5	肥前	18c前～中	染付花邊草文 竹輪文 五弁花 (コンニャク印四)	J-191
6	143-6	N4-W51	磁器	皿	高台～体部	密	-	(9.4)	(2.05)	豊後国	16c末～17c前	「門に寿」字文	J-192
7	143-7	N4-W51	磁器	油壺	体部	密	-	-	(3.1)	肥前	18c代	染付春花文	J-193
8	143-8	N4-W52	土師 瓦土器	焼塩壺	口縁～底部	粗	(7.0)	5.2	8.6	在地	近世	ロコロナデ タタキ 回転 系切道有	I-253
9	143-9	N4-W50	土師 瓦土器	焼塩壺	底部	粗	-	5.7	(6.1)	在地	近世	タタキ ヨコナデ	I-254
10	143-10	N5-W51	瓦質土 器	十徳	体部	粗い	-	(15.5)	(1.9)	在地	近世	ヨコナデ	I-255

第306図 III c層出土遺物 (2)



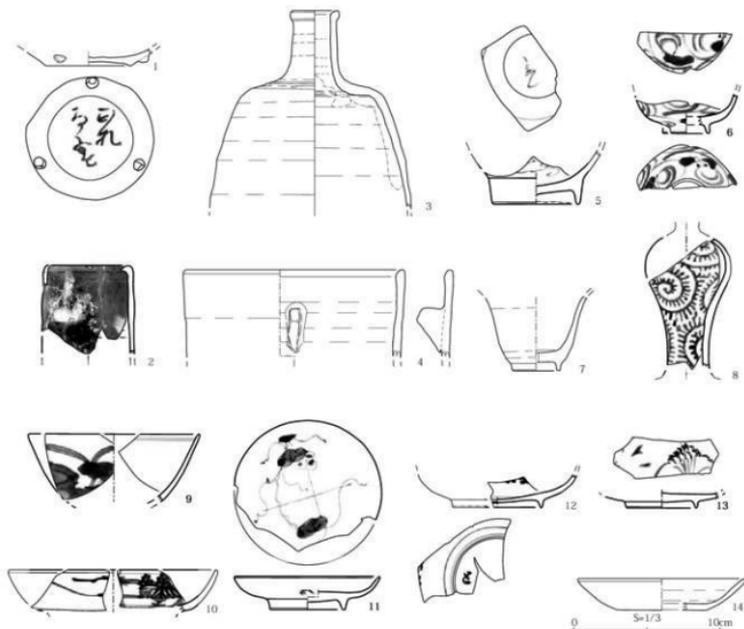
図取番号	写真図取番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	143-11	N4-W51	石製品	13.8	7.8	1.6	304.9	粘板岩系	珉 磨面有	K-12



図取番号	写真図取番号	グリッド	種別	器種	部位	散土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
2	143-14	N3-W53	陶器	甕	高台～ 体部	やや密	-	(4.00)	(2.10)	大塚 粗馬	18c代	灰有 買入赤り 高台内・遺産「土ノ内劣」?	I-256
3	143-12	N3-W53	陶器	急須蓋	縁部～ 底部	やや粗	6.0	2.7	2.0	大塚 粗馬	19c	灰輪 買入有 ロクロ：右 回転糸切取有	I-257
4	144-1	N3-W53	陶器	灯明皿	口縁～ 底部	やや密	(5.2)	(4.0)	1.5	在地	近世	灰輪	I-258
5	144-2	N3-W53	陶器	灯明皿	口縁～ 底部	粗	(6.00)	3.80	(1.98)	在地	近世	ロクロナデ油埋付有	I-259
6	143-13	N3-W53	陶器	鉢	体部～ 底部	やや密	-	(17.7)	(3.3)	瀬戸・ 美濃	17c前～中	灰輪 鉄線 笠原跡	I-260
7	144-3	N2-W53	陶器	耳付甕	口縁～ 把手	やや密	(8.6)	-	(3.3)	大塚 粗馬	19c前～中頃	灰輪に黒軸 買入有	I-261
8	144-4	N2-W53	陶器	甕	口縁～ 体部	やや粗	(3.1)	-	(3.1)	在地	近世	鉛輪 ロクロ：右	I-262
9	144-5	N2-W53	陶器	甕	口縁～ 体部	やや粗	(3.8)	-	(1.7)	在地	近世	灰輪 ロクロ：右	I-263

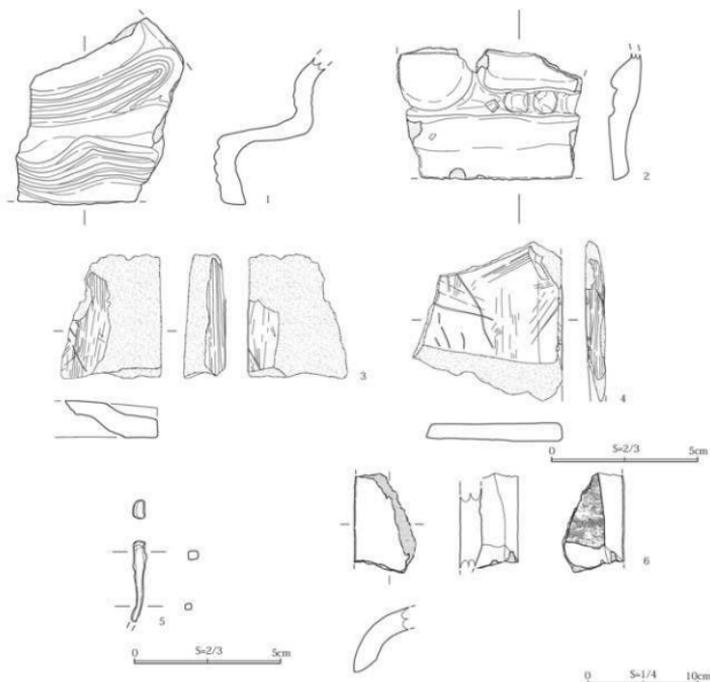
第307図 Ⅲc層出土遺物(3)・Ⅲd層出土遺物(1)

第2節 川内駅部Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口徑	底径					
1	144-6	N3-W52	陶器	土類	底部	やや密	-	5.9	(1.2)	大塚相馬	18c 後～19c 初	3足 灰輪 底面黒書有「正社百五文」	I-264
2	144-11	N2-W53	陶器	灰産し?	口縁～底部	やや密 (5.75)	-	(6.05)	-	大塚相馬	19 c 前～中頃	黒輪 わら灰輪 ナマコ輪 ロクコロ:右	I-265
3	144-7	N2-W53	陶器	瓶	口縁～体部	やや密	3.3	-	(13.7)	瀬戸・美濃?	19c?	鉄輪 日原 10 残存	I-266
4	144-12	N2-W53	陶器	瓶形?	口縁～体部	やや密 (15.2)	-	(6.05)	-	大塚相馬	18c 後半～19c 初頃	白瀬輪 貫入有	I-267
5	144-8	N2-W53	磁器	広束碗	体部～高台	密	-	6.1	(3.7)	肥前	18c 後～19c 前	染付有 間線 足込み染付不明	J-194
6	144-9	N2-W53	磁器	碗	体部～高台	密	-	3.2	2.7	瀬戸・美濃	19c	染付有	J-195
7	144-10	N2-W53	磁器	端反小杯	体部～高台	密	-	(3.3)	5.1	肥前	17c 代	白磁 ロクコロ:右	J-196
8	144-13	N2-W53	磁器	龍首瓶	体部	密	-	-	9.0	肥前	18c 末～19c 初	箱唐草文 ロクコロ:右	J-197
9	144-14	N2-W53	磁器	碗	口縁～体部	密	(11.7)	-	(4.7)	肥前	18c	染付有 二重間線	J-198
10	144-15	N2-W53	磁器	皿	口縁～体部	密	(14.4)	-	2.9	肥前	18c 中	間線 解文?	J-199
11	145-1	N2-W53	磁器	皿	口縁～高台	密	9.95	5.15	2.3	肥前	17 c 後半	菊菊文	J-200
12	145-2	N2-W53	磁器	皿	高台	密	-	(6.15)	(2.25)	肥前	18c 中以降	染付有 地銀ぎ直有 高台比朱書き「五」	J-201
13	145-3	N2-W53	磁器	皿	体部～高台	密	-	4.9	-	肥前	17c?～18c?	灰輪成分の透明輪 草花文? 貫入有	J-202
14	144-16	N2-W53	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	やや粗	(11.5)	5.95	2.2	在地	近世	ミガキ ロクコロナデ	I-268

第308図 III d 層出土遺物 (2)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号		
				長さ	幅	厚さ				
1	145-4	N2-W53	土製品	6.5	5.8	-	(30.099)	人形 型押し成形 断面収有 長石・瀬波母片付	P-16	
2	145-5	N2-W53	土製品	4.60	6.35	-	(31.21)	人形 型押し成形	P-17	
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)			石材	備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ				
3	145-7	N2-W53	石製品	-	(3.4)	1.4	(15.8)	石英(安山岩)質白岩	砥石 断面収有	K-13
4	145-8	N2-W53	石製品	(5.55)	(5.1)	(0.7)	(24.3)	粘板岩	砥石 断面収有	K-14
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)			備考	登録番号		
				長さ	幅	厚さ				
5	145-9	N2-W53	金属製品	2.82	(0.65)	(0.39)	(1.17)	釘	N-51	
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号		
				長さ	幅	厚さ				
6	145-6	N2-W53	丸瓦	(9.2)	(5.6)	(5.95)	鉄軸 外面：ヘラケズリ 内面：コビキ B ヘラケズリ*	F-12		

第309図 III d層出土遺物(3)

第3節 立坑部

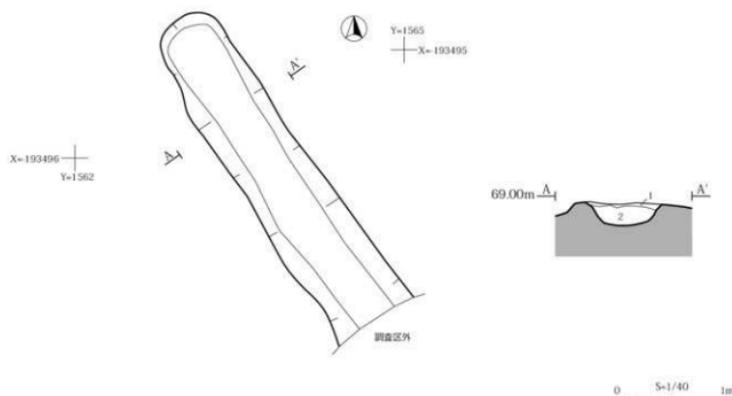
1 Ⅲ層上面検出遺構とⅢ層出土遺物

立坑部の東側は、平成18年度に調査された調査区の1区と隣接しており、平成18年度調査と同様に、表土より約1.76m掘り下げた時点で、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層の時期は、Ⅲ層内と遺構の堆積土内から19世紀前半の時期を主体とする遺物が出土することから、川内駅部1区・Ⅱ区のⅢ層上面と同時期の19世紀前半～中頃の時期が考えられる。また、調査区の西側は、現代の工事に伴う削平により近世の整地面は確認できなかったが、南側の底面付近において杭列を確認した。検出状況から、近世の絵図に見られる沢の側面に打ち込まれた護岸の杭の可能性が考えられる。作業上の安全面から杭の断ち割り等を行えなかったため、検出位置のみを遺構配置図に図示した。Ⅲ層上面において検出した遺構は、溝跡6条、土坑5基、性格不明遺構1基、ピット1基である。なお、整理段階において、SD1・4は近代以降の掘乱、SX1・2・3・5・6・7・8・13は近代の盛土であると判断し、SX4・9・10・12・14はⅢ層の整地層であるため欠番とし、遺構配置図には図示していない。

(1) SD 溝跡

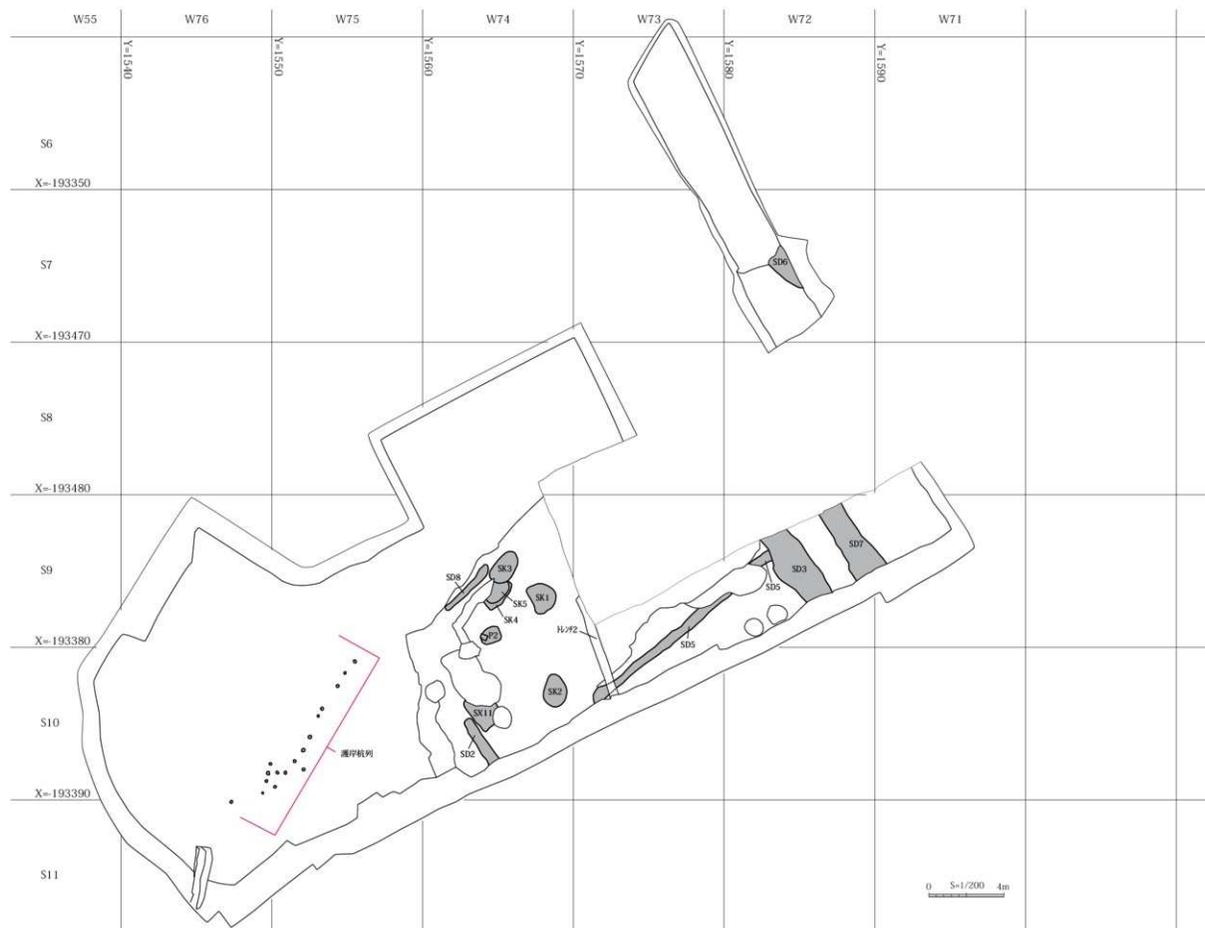
1) SD2 溝跡 (第310図、図版86-1・2)

S10-W74グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に確認された素掘りの溝跡である。南東側は調査区外へ伸び、北西側はSX11付近で先端部が丸く収束する。確認された規模は、長さが3.36m、上端幅60～72cm、下端幅38～48cm、深さ20～25cmを測り、主軸方向はN-35°-Wを示す。断面形は逆台形を呈し、底面は南東方向に緩やかに傾斜する。堆積土は2層からなり、シルトである。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考
1	2.5Y5/2 灰黄色	シルト	なし	あり	砂礫少量
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	なし	あり	2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト微量 砂礫微量

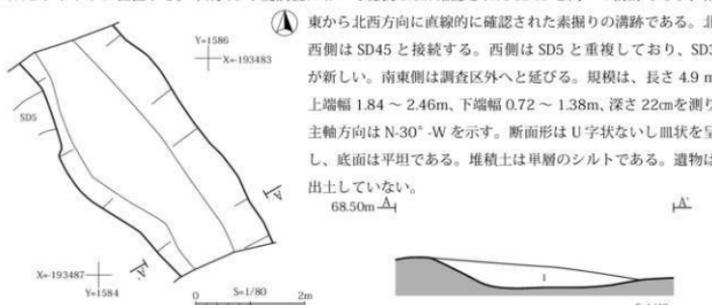
第310図 SD2 溝跡平面図・断面図



第311図 立坑部Ⅲ層上面遺構配置図

2) SD3 溝跡 (第312図、図版86-3)

S9-W72 グリッドに位置する。平成18年度調査において総長5.6m確認されたSD45と同一の溝跡であり、南東から北西方向に直線的に確認された素掘りの溝跡である。北西側はSD45と接続する。西側はSD5と重複しており、SD3が新しい。南東側は調査区外へと延びる。規模は、長さ4.9m、上端幅1.84~2.46m、下端幅0.72~1.38m、深さ22cmを測り、主軸方向はN-30°-Wを示す。断面形はU字状ないし皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。

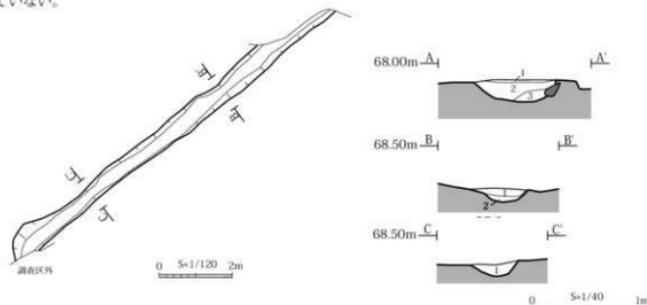


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5V4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	あり 10YR4/1 暗灰色シルト少量 酸化鉄分少量

第312図 SD3 溝跡平面図・断面図

3) SD5 溝跡 (第313図、図版86-4~6)

S9-W72~S10-W73 グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に確認された素掘りの溝跡である。北東側はSD3と重複しており、SD5が古い。南西側は調査区外へ延びる。また、北東側の一部が近代の造成の際に削平され、溝の上端、下端ともに確認できなかった。残存する規模は、長さ15.7m、上端幅44~88cm、下端幅21.6~36cm、深さ20~40cmを測り、主軸方向はN-53°-Eを示す。断面形は壁面がやや外反する逆台形を呈し、底面は南西から北東方向に緩やかに傾斜する。堆積土は3層からなり、シルトである。遺物は出土していない。



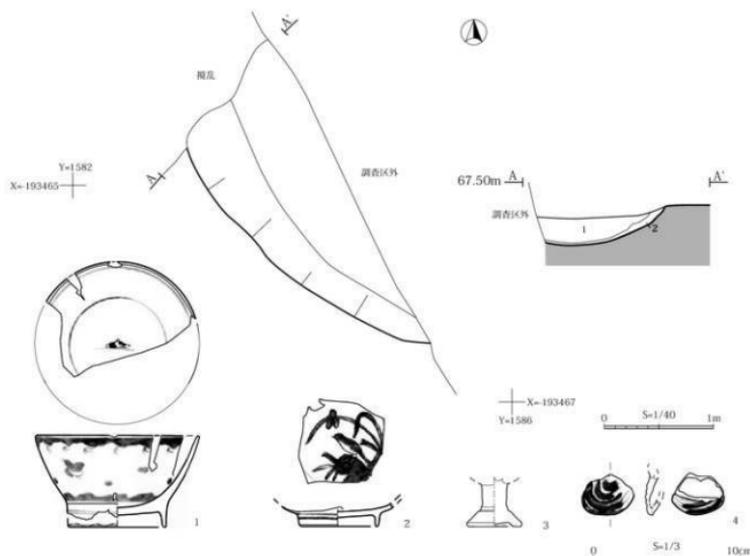
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5V4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり 酸化鉄分微量
2	2.5V4/2	暗灰黄色	シルト	なし	ややあり
3	2.5V5/1	黄灰色	シルト	ややあり	酸化鉄分少量

第313図 SD5 溝跡平面図・断面図

第3節 立坑部

4) SD6 溝跡 (第314図、図版86-7～87-1)

S7-W72 グリッドに位置し、遺構の上層部と北西側は近代の造成の際に削平され、東側は調査区外へ延びるため北側の先端と下端しか確認できなかった。堆積状況から溝跡と考えられる遺構で、残存する規模は、長さ2.52m、上端幅1.2m、下端幅64.8cmを測る。断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層は粘土質シルト、2層は腐食物である。いずれも溝が使用されていた時期に底面に堆積した比叢物層である。遺物は16世紀末～17世紀初頭の中国産の磁器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の大塚相馬産の陶器等が出土している。そのうち、磁器4点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量 一部 5Y5/1 灰色にグライ化
2	5Y2/1 黒色	腐食物			2.5Y4/2 暗灰色黄褐色シルト微量

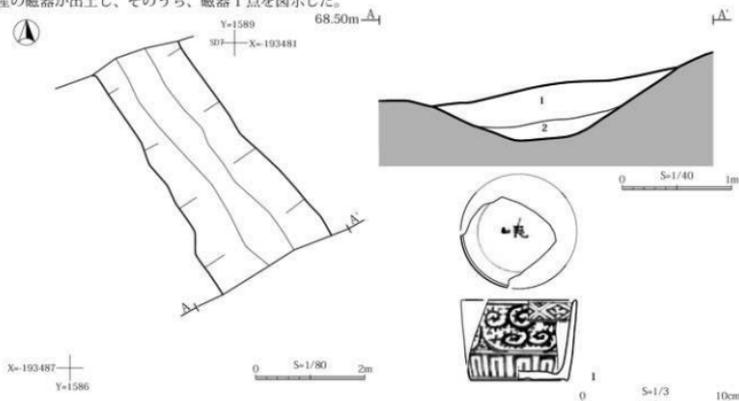
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	145-10	1層	磁器	広東碗	口縁～高台	密	11.2	6.7	6.4	肥前	18c 後	染付鳥文 潤綠 二重潤綠	J-203
2	145-11	1層	磁器	碗	体部～高台	密	-	5.4	1.6	中国	16c 末～17c 前	青花碗 草鳥文 潤綠	J-204
3	145-12	1層	磁器	仏飯具	脚部～底部	密	-	3.75	0.0	肥前	18c ?	貫入有	J-205
4	145-13	1層	磁器	不明	上部～下部	密	-	-	1.0	肥前	近世	只 部分的に透明釉 二種類の鉄軸 入用・水瀝の一部?	J-206

第314図 SD6 溝跡平面図・断面図・出土遺物

5) SD7 溝跡 (第315図、図版87-2・3)

S9-W71・W72 グリッドに位置する。平成18年度の調査において確認されたSD51と同一の溝跡であり、南東から北西方向に直線的に確認された素掘りの溝跡である。北西側はSD51と接続し、南東側は調査区外へと延びる。

確認された規模は、長さ 4.7m、上端幅 1.58～2.2m、下端幅 55～68cm、深さ 48cm を測り、主軸方向は N-38°-W を示す。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。堆積土は 2 層でシルトである。遺物は 18 世紀後半の肥前産の磁器が出土し、そのうち、磁器 1 点を図示した。



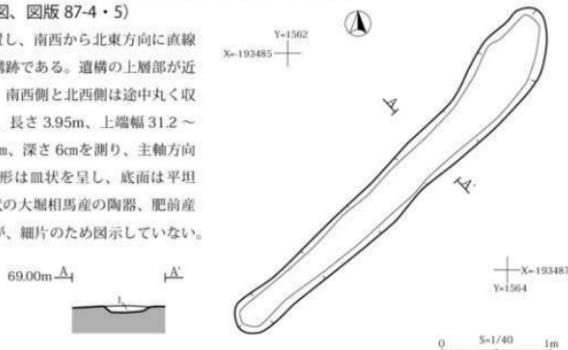
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄分少量 2.5Y5/2 暗灰色砂質シルト微量
2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	あり	ややあり	一部 10BG7/1 明黄灰色にグライ化 2.5Y4/2 黄灰色シルト少量 酸化鉄分少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					
1	146-1	1層	磁器	蕎麦焼口	1層～高台	密	(7.0)	(6.7)	5.62	肥前	18c 後半	染付轆轤草文四方摩肥の目四高台	J-207

第 315 図 SD7 溝跡平面図・断面図・出土遺物

6) SD8 溝跡 (第 316 図、図版 87-4・5)

S9-W74 グリッドに位置し、南西から北東方向に直線的に確認された素掘りの溝跡である。遺構の上層部が近代の造成の際に削平され、南西側と北西側は途中丸く収束する。残存する規模は、長さ 3.95m、上端幅 31.2～60cm、下端幅 20.8～46cm、深さ 6cm を測り、主軸方向は N-38°-E を示す。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。遺物は 19 世紀代の大瀬相馬産の陶器、肥前産の磁器等が出土しているが、細片のため図示していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y6/1 黄灰色シルト微量

第 316 図 SD8 溝跡平面図・断面図

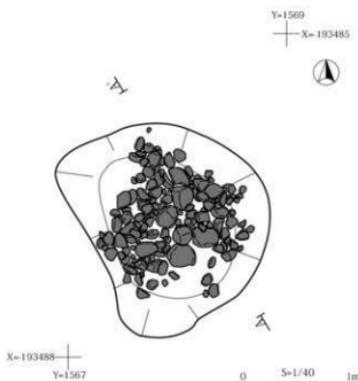
第3節 立坑部

(2) 土坑

立坑部において検出したSK1～3・5の土坑の堆積土には径約4～28cmの礫が多量に含まれ、礫の上層部ないし隙間には腐食物も含まれていることから、当初、建物等の基礎である可能性も検討したが、土坑の平面形状と個々の並びに規則性が見られないことから、礫の廃棄土坑と考えられる。

1) SK1 土坑 (第317図、図版87-7)

S9-W74グリッドに位置する。規模は、長軸1.89m、短軸1.64m、深さ38cmを測り、主軸方向はN-66°-Eを示す。平面形は不整な楕円形を呈し、断面形は壁面がやや外反する楕円形を呈する。底面は平坦である。堆積土は2層からなり、1層はシルト、2層は径約5cm～18cmの礫を多量に含むシルトである。遺物は出土していない。

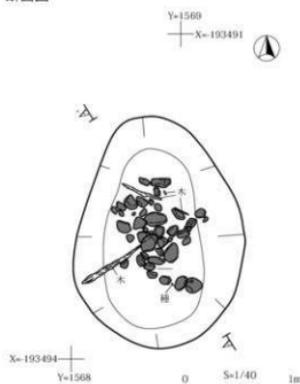
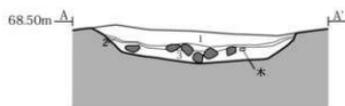


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量 2.5Y4/1 黄灰色シルト微量
2	2.5Y5/2 暗黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	径5～18cmの礫多量 酸化鉄分少量

第317図 SK1 土坑平面図・断面図

2) SK2 土坑 (第318図、図版87-8～88-2)

S10-W74グリッドに位置する。規模は、長軸2.14m、短軸1.56m、深さ30cmを測り、主軸方向はN-13°-Wを示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は3層からなり、1層、2層は砂質シルト、3層は径約5～8cmの礫を含むシルトである。遺物は出土していない。

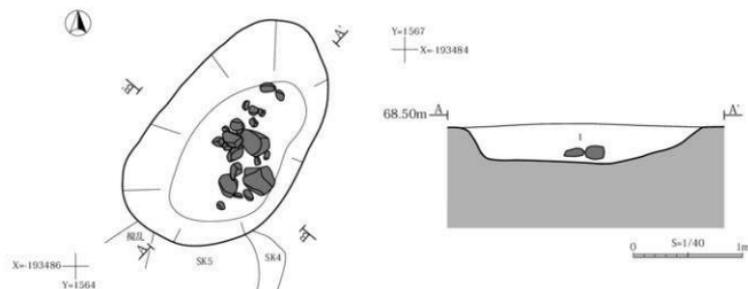


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2 暗黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径3～5cmの礫少量 2.5Y7/6 明黄褐色シルト微量 径3～5cmの礫少量
2	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色シルト少量 酸化鉄分微量
3	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	ややあり	ややあり	2.5Y7/6 明黄褐色砂礫少量 径5～8cmの礫少量 2.5Y4/1 黄灰色シルト微量 酸化鉄分微量 木片微量

第318図 SK2 土坑平面図・断面図

3) SK3 土坑 (第319図、図版88-3～5)

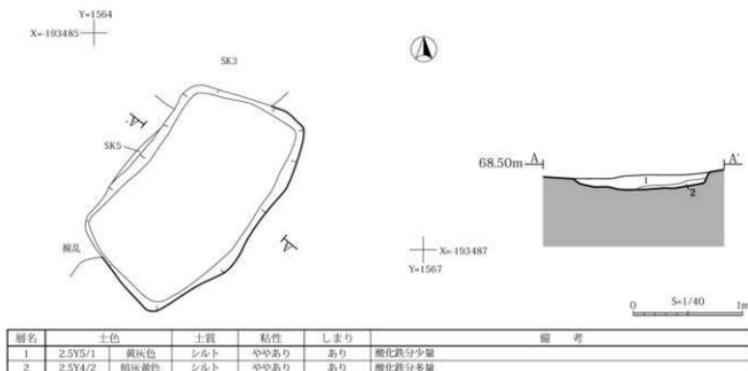
S9-W74 グリッドに位置し、南西側を一部近代の掘乱に削平される。SK4・5と重複しており、SK3が新しい。規模は、長軸 2.34m、短軸 1.36m、深さ 36cmを測り、主軸方向は N-25°-E を示す。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層で、径約 6～28cmの礫を大量に含むシルトである。遺物は出土していない。



第319図 SK3 土坑平面図・断面図

4) SK4 土坑 (第320図、図版88-5)

S9-W74 グリッドに位置し、南東側は近代の掘乱で削平される。北側はSK3・5と重複しており、SK5より新しく、SK3より古い。残存する規模は、長軸 2.08m、短軸 1.24m、深さ 13cmを測り、主軸方向は N-45°-E を示す。平面形はやや不整な長方形で、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は2層からなるシルトで、遺物は出土していない。

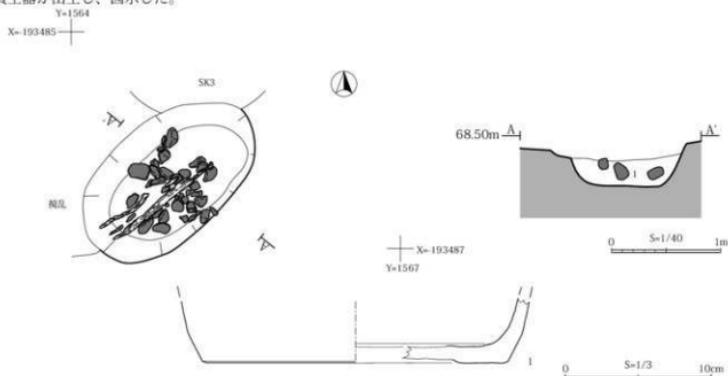


第320図 SK4 土坑平面図・断面図

第3節 立坑部

5) SK5 土坑 (第321図、図版88-5)

S9-W74・グリッドに位置し、南側を近代の攪乱で削平され、北東側はSK3と重複しており、SK5が古い。規模は、長軸1.84m、短軸1.08m、深さ23cmを測り、主軸方向はN-45°-Eを示す。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦である。堆積土は単層で、径5～20cmの礫を多量に含むシルトである。遺物は在地産の瓦質土器が出土し、図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3	暗灰色シルト	ややあり	あり	径5～20cmの礫多量混入炭分少量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	146-2	1層	瓦質土器	丸入れ	体部～底部	粗	-	21.0	(4.4)	右側	近世	ロウロナデ 底部へラミガキ	1-269

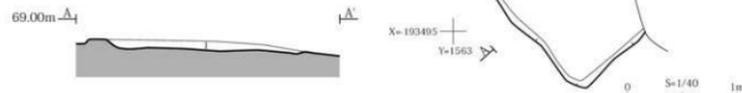
第321図 SK5土坑平面図・断面図・出土遺物

(3) 性格不明遺構

1) SX11 性格不明遺構

(第322図、図版88-6・7)

S10-W74・グリッドに位置し、北側と南側を近代の攪乱で削平されている。残存する規模は、長軸24.3m、短軸1.78m、深さ8cmを測り、主軸方向はN-35°-Wを示す。平面形は長方形と考えられ、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層のシルトである。遺物は出土していない。

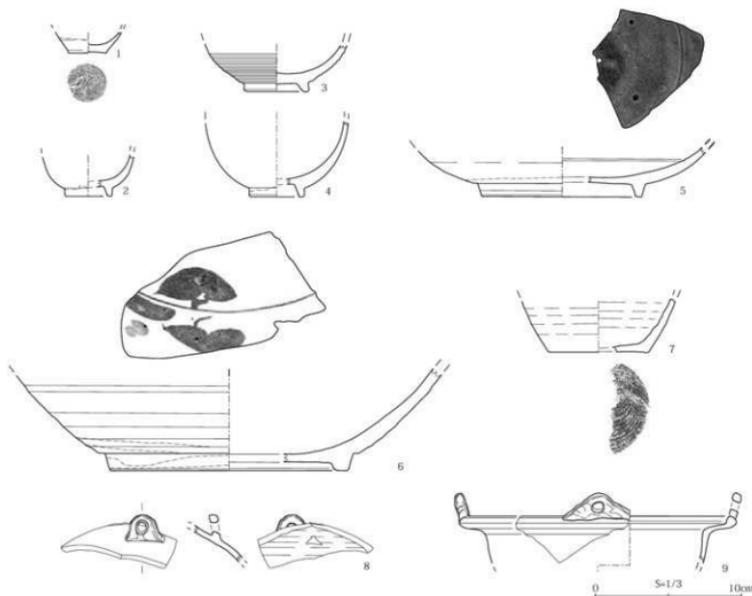


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3	黄褐色シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1黄褐色シルト少量 酸化鉄分微量

第322図 SX11性格不明遺構平面図・断面図

(4) Ⅲ層出土遺物 (第323～326図、図版146-3～148-13)

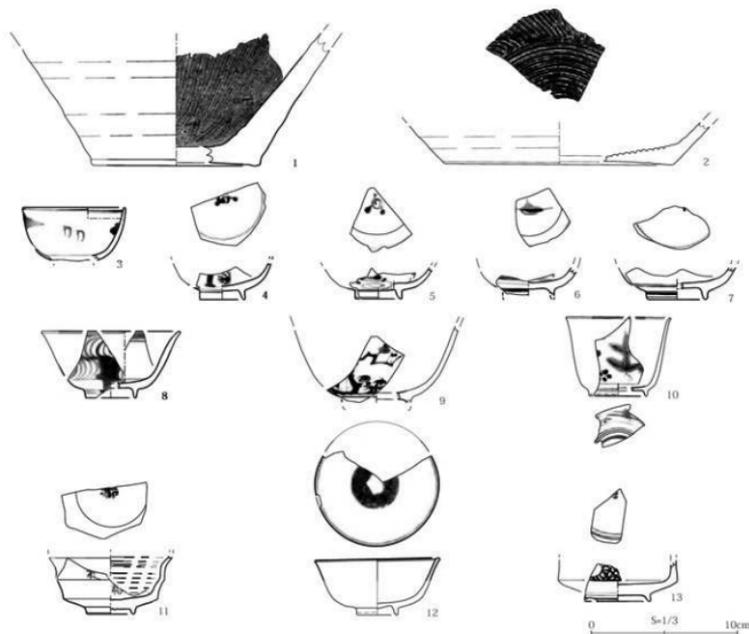
Ⅲ層上面の整地土において、遺物は総数257点出土した。内訳は磁器121点、陶器88点、土師質土器2点、金属製品1点、瓦質土器7点、軒平・平瓦2点、軒丸・丸瓦8点、その他の瓦23点、石製品3点である。陶磁器に関しては18世紀前半～19世紀代の遺物が出土している。そのうち、陶器10点、磁器23点、瓦質土器1点、石製品3点を図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
							口径	底径					器高
1	146-3	S9-W72	陶器	豆麩	体部～底面	やや密	-	2.70 (1.48)	大塚粗馬	19c前半以降	鉄輪 回転糸切歯有	I-270	
2	146-5	S10-W74	陶器	小型碗	体部～高台	やや密	-	3.25 3.85	大塚粗馬	19c	灰輪 白磁輪	I-271	
3	146-4	S9-W74	陶器	碗	体部～高台	やや密	-	4.45 (3.25)	大塚粗馬	18c中～19c前	鉄輪 灰輪 買入有	I-272	
4	146-6	S9-W72	陶器	碗	体部～高台	やや密	-	(3.80) (5.25)	大塚粗馬	18c後～19c前	灰輪 買入有	I-273	
5	146-7	S9-W72	陶器	皿	体部～高台	やや粗	-	(11.0)	3.4	大塚粗馬	18c後～19c	灰輪 目皿2残存 備付有	I-274
6	146-8	S9-W72	陶器	鉢	体部～高台	やや密	-	(16.3)	7.0	瀬戸・美濃	17c前～中	灰輪 鉄輪 ロケロ;左 目皿有	I-275
7	146-11	S10-W74	陶器	壺	体部～底面	やや粗	-	(6.90)	(3.75)	在池	近世	鉄輪底灰輪 回転糸切歯有	I-276
8	146-9	S9-W72	陶器	土瓶	体部	やや密	-	-	(3.67)	大塚粗馬	18c後半～19c前半	白磁輪 買入有	I-277
9	146-10	S9-W72	陶器	土鍋	口縁～体部	やや密	(19.0)	-	(4.8)	大塚粗馬	19c前	鉄輪	I-278

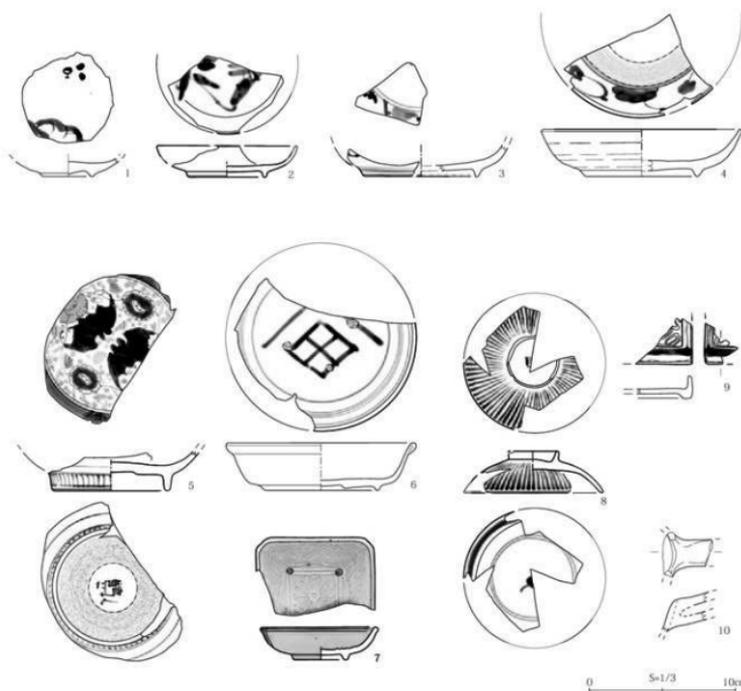
第323図 Ⅲ層出土遺物 (1)

第3節 立坑部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	146-12	S9-W74	陶器	磁鉢	体部~ 底部	やや粗	-	(11.55)	9.15	疑?	19c	鉄輪 ロケロ、右1 螺目1条7本	J-279
2	146-13	S9-W72	陶器	磁鉢	体部~ 底部	やや密	-	(15.7)	(2.9)	丹波	17c前半?	鉄輪 鉄色短 回転糸切痕有 ロケ ロ、右 螺目1条10本	J-280
3	147-1	S9 + 10-W73	磁器	碗	口縁~ 体部	密	(7.0)	-	(4.25)	切込	19c前半	若鳥文 陶線 二重陶線	J-208
4	147-2	S9-W72	磁器	小碗	体部~ 高台	密	-	(3.1)	2.52	瀬戸・ 美濃	19c	染付 二重陶線	J-209
5	147-3	S9-W72	磁器	小碗	体部~ 高台	密	-	(3.2)	(2.2)	瀬戸・ 美濃	19c	染付 二重陶線	J-210
6	147-9	S9-W72	磁器	碗	体部	密	-	-	2.0	肥前 18c後~19c 前	染付 陶線	J-211	
7	147-4	S9 + 10-W73	磁器	碗	体部~ 高台	密	-	(4.2)	(2.2)	瀬戸・ 美濃	19c?	染付 陶線 二重陶線	J-212
8	147-5	S10-W74	磁器	碗	口縁~ 高台	密	(9.5)	(3.45)	(4.65)	瀬戸・ 美濃	19c	染付 焼締ぎ痕有	J-213
9	147-6	S9-W72	磁器	碗	体部	密	-	-	(5.3)	肥前	18c中	染付唐・梅文	J-214
10	147-7	S9-W72	磁器	碗	口縁~ 高台	密	(7.2)	(4.0)	5.5	肥前	18c中	染付若松文 花文 陶線 二重陶線	J-215
11	147-11	S9-W73	磁器	碗	体部~ 高台	密	-	(3.3)	(3.92)	京?	不明	染付有 外面文字有 (詩の一文 契 印) 高台内溝状の残痕有 見込み 砂付着	J-216
12	147-12	S9 + 10-W73	磁器	碗	口縁~ 高台	密	8.5	2.8	3.8	瀬戸・ 美濃	19c中頃	口縁 見込み：胎割の上から何重掛 け雜木文	J-217
13	147-10	S9-W72	磁器	小碗	体部~ 高台	密	-	(4.5)	(2.85)	肥前	18c	陶線 二重陶線 見込み：五弁花? 腰弁	J-218

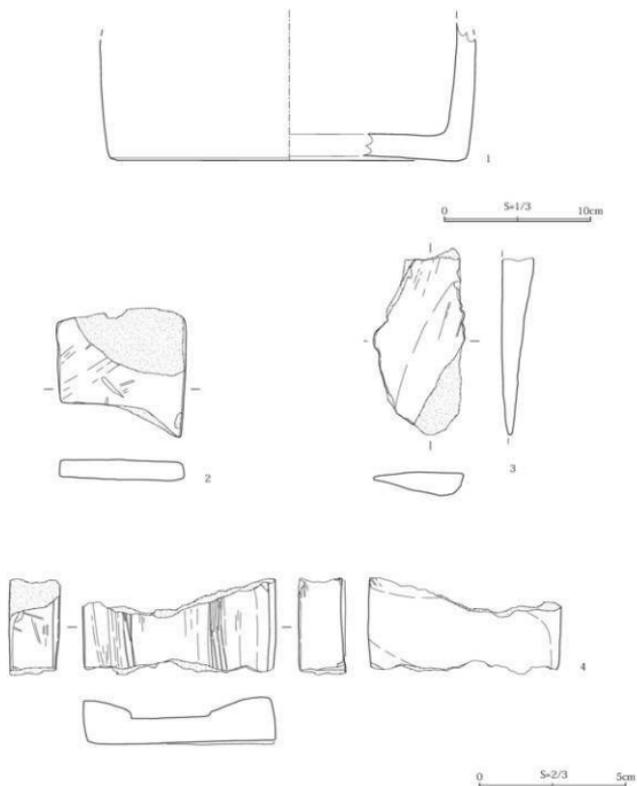
第324図 川原出土遺物(2)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号	
						胎土	口径	底径					器高
1	147-8	S9・ 10-W73	磁器	皿?	体部～ 高台	密	-	3.55 (1.25)	肥前	17c 前～ 17c 後	染付	J-220	
2	148-1	S9-W72	磁器	小皿	口縁～ 高台	密	9(9.6)	(5.4)	2.19	瀬戸・ 美濃	19c	染付草花文? 口縁	J-221
3	148-2	S9-W72	磁器	皿	体部～ 高台	密	-	(7.90)	(2.2)	肥前	18c?	染付草花文? 口縁 二重口縁	J-222
4	148-3	S9・ 10-W73	磁器	皿	口縁～ 高台	密	13(7)	(7.8)	3.25	波佐見	18c 代	くらわんか皿 染付草花文 蛇の目輪洲ぎ ロタロ: 有	J-223
5	148-4	S9-W72	磁器	皿	体部～ 高台	密	-	8.1	(2.75)	肥前	18c	上記染付 輪周文 赤絵 黄輪(花) 緑輪(草) 蛇の目四高台 染付有 高台内朱書き「十五」	J-224
6	148-5	S9-W74	磁器	皿	口縁～ 高台	密	13(10)	7.9	3.3	平清水	19c 前葉～ 中葉	染付 蛇の目四高台 口縁有	J-225
7	148-6	S9-W74	磁器	角皿	口縁～ 高台	密	8.15	3.75	2.275	肥前	19c	型押し 花文	J-226
8	148-7	S9-W72	磁器	蓋	つまみ ～縁部	密	9(7)	つまみ 3.65	3.9	瀬戸・ 美濃	19c	染付 口縁 二重口縁	J-227
9	148-9	S9・ 10-W73	磁器	不明	体部～ 底部	密	-	-	(3.21)	瀬戸・ 美濃	19c?	染付	J-228
10	148-8	S9-W72	軟質磁 輪周部	焙烙	把手	やや粗	-	-	-	埴	19c	透明輪 柄	J-281

第 325 図 川原出土遺物 (3)

第3節 立坑部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	148-10	S9-W72	瓦質土器	火入れ	体部～底部	やや密	-	φ24.3	9.65	在地	近世	ロクロナデ	I-282

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm・g)				石材	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ	重量			
2	148-12	S9・10-W73	石製品	4.45	4.4	0.7	(15.37)	粘板岩	砥石	K-15
3	148-11	S9-W72	石製品	6.45	3.1	1.09	(18.32)	粘板岩	砥石	K-16
4	148-13	S9・10-W73	石製品	6.1	3.15	1.5	(41.59)	粘板岩	砥石	K-17

第326図 川麗出土遺物(4)

第6章 自然科学分析

第1節 仙台城跡の植物化石群

吉川昌伸 (古代の森研究会)

1 はじめに

仙台城跡は、広瀬川右岸の段丘上にあり、今回の調査区の場所は、近世は武家屋敷地、近代以降は主に軍用地として利用されていたことがわかっていて、ここでは主に武家屋敷周辺の植生と生業、遺構の用途や堆積環境などを明らかにすることを目的に、花粉化石、珪藻化石の植物化石群と、寄生虫卵、テフラの調査を行った。

2 試料と方法

分析試料採取地点の位置を第327図に、試料のリストと分析項目を第8表に示す。試料のNo.2と9、No.8と11、は同じ試料である。なお、各地点のセクション図や堆積物の記載については考古の関係する章を参照されたい。

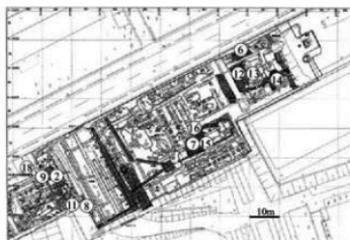
a) 花粉分析

花粉化石群の調査は、花粉試料のNo.11-16の6試料である。これ以外に堆積物の特性を把握するために、珪藻用試料のNo.6-7と寄生虫卵用試料のNo.9についても花粉化石群を調査した。花粉化石の抽出は、試料約2.5gを秤量し体積を測定後に

10%KOH(湯煎約15分)、傾斜法により粗粒砂を取り除き、48%HF(約15分)、重液分離(比重2.15の臭化亜鉛)、アセトリス処理(濃硫酸1:無水酢酸9の混液で湯煎5分)の順に処理を行った。なお、粗粒な植物遺体を多く含むNo.11についてはKOH処理後に250 μ mの篩で取り除いた。プレバート作製は、残渣を適量に希釈しタッチミキサーで十分攪拌後、マイクロピペットで取り重量を測定(感量0.1mg)シグリスリンで封入した。また、堆積物の性質を調べるために、有機物量、泥分(シルト以下の細粒成分)、砂分量、及び生業の指標となる微粒炭量について調査した。有機物量については強熱減量を測定した。強熱減量は、電気マッフル炉により750℃で3時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。微粒炭量は、デジタルカメラでプレバートの顕微鏡画像を取り込み、画像解析ソフトのImageJで微粒炭の積算面積を測定した。

b) 寄生虫卵

寄生虫卵は、花粉の同定、計数と平行して行い、寄生虫卵用試料のNo.8-9の2試料については2%KOHと48%HFを短時間処理した試料についても検討した。



第327図 仙台城跡試料採取地点

No.	地区	遺構	層位	分析項目	時期(世紀)
2	I区西部	SK43	9層	珪藻	17c 中頃~後半
6	II区東部	池3	7層	珪藻	18c 前半~19c 前半
7	II区西部	SK77	5層	珪藻	18c 前半~19c 前半
8	I区西部	SD42	4層	寄生虫卵	17c 中頃~後半
9	I区西部	SK43	4層	寄生虫卵	17c 前半~中頃
11	I区西部	SD42	5層	花粉	17c 中頃~後半
12	II区東部	池1	2層	花粉	18c 前半~19c 前半
13	II区東部	池1	22層	花粉	18c 前半~19c 前半
14	II区東部	池2	4層	花粉	18c 前半~19c 前半
15	II区西部	SK77	4層	花粉	18c 前半~19c 前半
16	II区西部	SK64	4層	花粉	18c 前半~19c 前半
18	I区西部	基本跡M c 層	光山段層	テフラ	

第8表 仙台城跡の分析試料と分析項目

第1節 仙台城跡の植物化石群

c) 珪藻分析

No.2,6,7の3試料の珪藻化石群の調査を行った。珪藻化石の抽出は、試料約1gをトルビーナーにとり、35%過酸化水素水を加えて加熱し、有機物の分解と粒子の分散を行う。反応終了後に、沈底法により水洗を5~6回行った。次に分散した試料を適当な濃度に調整し、十分攪拌後マイクロピペットで取りカバーガラスに展開して乾燥させる。スライドガラスにマウントメディア（封入剤）を適量のせ、これに先程のカバーガラスをかぶせ、加熱して封入剤の揮発成分を気化させて、永久プレパラートを作成した。検鏡は1000倍の光学顕微鏡を使用して、珪藻殻が1/2以上残存したものについて同定・計数を行った。珪藻の同定および各種の生態情報は、Krammer & Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b)、渡辺 (2005) を参考にし、古環境の復元のための指標としては小杉 (1988) と安藤 (1990) の環境指標種群や渡辺 (2005) の有機汚濁とpHなどを用いた。

d) テフラ分析

テフラの検討はNo.18試料で行った。試料を超音波で洗浄して流水下で篩分けして、極細粒砂の粒子組成を把握した。また、No.18試料の火山ガラスの屈折率測定を行った。屈折率は、(株)古澤地質に測定を依頼し、温度変化型測定装置“MAIOT”で測定を行った。

3 結果

a) 花粉化石群

花粉分析試料の堆積物の特性を第9表に示す。分析試料はNo.11を除いて全般に無機物が卓越する堆積物からなり、池1内堆積物(12,13)では砂分量が少ないが他の試料では粗~細粒砂を比較的多く含む。No.11は異質な堆積物で木屑を多く含む。

出現した分類群のリストとその個数を第10表に、主要花粉分布図を図328に示す。出現率は、樹木は樹木花粉数、草本胎子は花粉胞子数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだのは、分類群間の区別が明確でないものである。また、図版に示したAFRMY番号は単体標本の番号を示し、これら標本は古代の森研究舎に保管してある。

第328図は層序と考古遺物編年、および花粉化石群の出現傾向に基づき、各地点の試料をほぼ時間軸に沿って配列してある。主要樹木花粉の層位的産出傾向にもとづき、下位よりSN-I、II、IIIの3つの花粉化石群帯を設定した。なお、No.9と11については後述するように特異な組成のため、花粉帯の設定からは除いている。

遺構	試料	堆積物の特徴	砂	泥	強熱減量 (有機物量)
SD42	11(8)	黒褐色(木屑を多量に含む)	2.6	70.4	27.0
池1	12	灰色粘土質シルト	11.8	79.2	9.0
池1	13	灰色粘土質シルト	16.4	74.2	9.4
池2	14	黒褐色シルト	33.7	59.8	6.5
SK77	15	オリーブ黒色シルト	47.0	41.6	11.4
SK64	16	黒褐色シルト	61.6	29.1	9.3
池3	6	黄灰色粘土質シルト	32.4	58.8	8.8
SK77	7	オリーブ黒色シルト	41.3	51.8	6.9
SK43	9(2)	オリーブ黒色シルト	41.0	48.7	10.3

第9表 仙台城跡の分析試料の堆積物の特性 (重量%)

群 名	学 名	SD42	第1	第1	第2	SK77	SK04	SK77	SK03
		11	12	13	14	15	16	7	9
ヒノキ属	<i>Abies</i>	-	-	-	4	3	1	8	-
マツ属	<i>Pinus</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
マツ属(葉節有葉果属)	<i>Pinus subgen. Haploxyloides</i>	-	-	1	1	1	-	-	1
マツ属(葉節有葉果属)	<i>Pinus subgen. Diploxyloides</i>	-	15	22	41	29	17	33	1
マツ属(十徳)	<i>Pinus (Undulata)</i>	-	1	-	-	-	1	1	4
ツツミヤドリ属	<i>Neohesperis</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
スズノキ	<i>Cypripedium japonicum</i> (L.) G. Don	-	118	45	32	98	137	78	2
イヌハゼ科-ヒノキ科-イヌハゼ科	<i>Tricyrtis</i> <i>Cypripedium</i> <i>Cephalanthus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤネズミ	<i>Bombyx type</i>	-	-	-	-	1	1	-	-
ヒノキ科	<i>Chamaecyparis type</i>	-	-	3	-	1	-	-	1
ヒノキ科	<i>Selax</i>	-	-	-	-	-	-	-	4
ササヅクノミ属	<i>Pterocarya</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
カシノミ属	<i>Aglaia</i>	-	7	8	2	9	2	10	-
カシノミ属-ツツミヤドリ属	<i>Carpinus</i> <i>Quercus</i>	-	3	3	3	-	2	4	3
ハンノキ属	<i>Corylus</i>	-	-	1	-	-	-	1	1
ハンノキ属	<i>Betula</i>	-	-	-	-	1	1	-	3
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	4	3	6	4	5	7	10
アザミ	<i>Fagus crenata</i> Blume	1	5	6	12	4	3	11	9
アザミ	<i>Fagus japonica</i> Maxim.	-	-	-	1	-	-	-	1
コナラ属コナラ属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	-	11	7	3	7	9	10	6
ワラビ	<i>Cinnamomum</i>	-	38	288	-	52	50	27	32
イヌハゼ科	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
アオネ属	<i>Zellera</i>	-	-	1	2	2	4	2	1
ヒノキ科-ムクノミ科	<i>Galla</i> <i>Aphananthus</i>	-	-	-	-	-	-	-	3
ササヅク属近縁種	<i>U. Phana</i>	-	-	2	-	1	1	1	-
サイカシ属	<i>Gleditsia</i>	-	-	-	-	-	1	-	23
サイカシ科	<i>Zanthoxylum</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
セトクノミ属	<i>Ilex</i>	-	1	2	-	4	0	-	3
セトクノミ属	<i>Acer</i>	-	9	7	-	1	-	-	1
トクノミ属	<i>Aralia</i>	-	-	-	-	1	-	-	1
ツバキ属	<i>Camellia</i>	-	-	-	-	3	2	-	4
ツバキ科	<i>Aschmann</i>	-	-	-	1	5	18	-	2
アオネ属	<i>Asche</i>	-	-	1	-	-	-	-	-
アズキ属	<i>Cereus</i>	-	-	-	1	-	-	-	-
マツノミ科	<i>Urena</i>	-	-	-	-	-	-	-	3
カネ属	<i>Dioscorea</i>	-	-	-	-	2	-	-	-
アサノミ科	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
アサノミ科	<i>Elaeagnus</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
イヌハゼ科	<i>Fuchsia</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
アオネ属	<i>Alnus</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
アオネ科	<i>Sagittaria</i>	1	1	-	-	-	2	-	-
イヌハゼ科(イヌハゼ型)	<i>Gonolobus</i> <i>Oxalis type</i>	368	36	17	57	17	11	67	46
イヌハゼ科(樹生型)	<i>Gonolobus</i> (Wild type)	2	3	13	3	3	7	17	6
アサノミ科	<i>Cyperaceae</i>	-	10	3	3	-	-	-	11
イヌハゼ科	<i>Eriocaulon</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
ユツタノミ属	<i>Conoclinium</i>	-	-	1	-	-	-	-	1
イヌハゼ科	<i>Alisma</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
ツツミヤドリ属	<i>Misocarpus</i>	3	6	14	-	1	1	4	3
アサノミ科	<i>Pterocarya</i>	-	-	2	6	1	-	-	-
イヌハゼ科	<i>Fagopyrum</i>	-	1	1	2	23	18	2	-
アサノミ科	<i>Chenopodiaceae</i>	2	7	2	2	10	2	2	17
アサノミ科-ヒノキ科	<i>Chenopodiaceae-Asteraceae</i>	-	-	1	1	3	-	-	13
アサノミ科	<i>Caryophyllaceae</i>	-	3	1	-	11	-	-	3
カタマツノミ科	<i>Thalictrum</i>	-	-	-	-	-	-	-	2
樹生型イヌハゼ科	<i>Salvia</i> <i>Ranunculaceae</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
アサノミ科	<i>Caricaceae</i>	-	4	5	2	2	1	10	27
ワシロコリ属	<i>Sanguinaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
イヌハゼ科	<i>Lupinus</i>	4	-	-	-	1	-	-	1
ヒメハネ属	<i>Polygala</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
アサノミ科	<i>Impatiens</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
アサノミ科	<i>Malva</i>	-	-	-	1	-	-	-	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	-	1	1	-	-	1	1	-
アサノミ科	<i>Silene</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
イヌハゼ科	<i>Plantago</i>	-	7	-	-	1	1	-	6
アサノミ科	<i>Gallium</i> <i>Bala</i>	1	-	-	-	-	-	-	1
イヌハゼ科	<i>Panicum</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
イヌハゼ科	<i>Compositae-Adrophora</i>	-	-	-	1	-	-	-	-
イヌハゼ科	<i>Bromus</i>	21	7	13	12	11	-	18	20
樹生型イヌハゼ科	<i>other Polypodiaceae</i>	2	3	1	1	-	-	-	1
ツツミヤドリ科	<i>Lipidiferae</i>	-	2	1	2	-	-	-	6
シシトフ科	<i>Lycopodium</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
ヒメハネ属	<i>Juncus</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
ヒメハネ属	<i>Glomus</i>	-	-	-	-	-	-	-	2
樹生型イヌハゼ科	<i>other Peridophyta</i>	1	33	5	54	4	5	52	23
イヌハゼ科	<i>Asteris</i>	-	-	-	-	-	-	-	56
樹生科	<i>Pichleria</i>	-	-	-	-	1	-	-	91
樹生科	<i>Chromola</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
樹生科	<i>Rhynchospora</i>	-	-	-	-	-	-	-	5
樹生科	<i>Adiantum</i>	1	214	401	110	230	262	205	115
樹生科	<i>Nephrolepis</i>	401	92	76	94	76	47	156	151
シシトフ科	<i>Fern spores</i>	1	33	5	54	6	5	54	24
花粉・胞子	<i>Pollen and Spores</i>	403	359	482	258	312	314	415	290
イヌハゼ科	<i>Utricularia</i>	0	9	3	1	-	5	3	7
樹生科	($\times 103 \mu\text{m}^2 \text{cm}^2$)	0.08	5.6	28.2	0.2	3.3	10.5	2.1	2.2
樹生科	($\mu\text{m}^2 \text{cm}^2$)	2	192	340	37	320	224	240	340

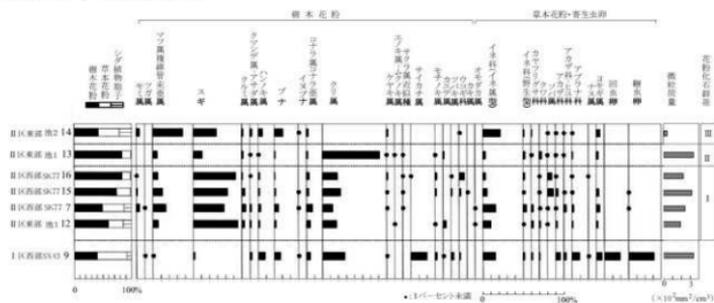
第10表 仙台城跡より産出した花粉化石の一覧表

第1節 仙台城跡の植物化石群

SN- I は、Ⅱ区西部のSK64(16)、SK77(15.7)とⅡ区東部の池1(12)が相当する。スギが高率に出現し、クリ属やマツ属複雑管束亜属を比較的多く作る。他に、モミ属やクミシ属、コナラ亜属、ケヤキ属、ウコギ科、モチノキ属などを作る。草本ではイネ科(イネ属型)やソバ属、アカザ科、アブラナ科を作る。また、SK77からは鞭虫卵が検出されている。微粒炭量は192.320 mm^3/cm^3 とそれ程多くはない。

SN- II は、Ⅱ区東部の池1(13)が相当する。スギ属が減少し、クリ属が72%と著しい優占を示す。他の分類群はSN- I とほぼ同様な産出傾向を示す。

SN- III は、Ⅱ区東部の池2(14)が相当する。マツ属複雑管束亜属が高率に出現し、スギを比較的高率に作る。SN- II で優占したクリ属は検出されない。他にブナやハンノキ属の頻度が幾分高くなるが、出現した分類群数は少なくなる。草本ではイネ科(イネ属型)が比較的多く出現し、ソバ属やアブラナ科などが産出する。微粒炭量は37 mm^3/cm^3 と少ない。なお、No.11では、イネ科(イネ属型)も検出されており、ヨモギ属や水生植物のオモダカ属などを伴い、樹木は稀である。



第328図 仙台城跡の主要花粉分佈図
(出現率は樹木花粉総数、草本・胞子花粉総数を基数として百分率で算出した)

b) 寄生虫卵

Ⅰ区西部SD42(8)、SX43(9)の寄生虫卵の調査を行った結果、No.9には多量に含まれていたが、No.8では検出されなかった。No.9では回虫卵が1064個/cm³、鞭虫卵1729個/cm³、肝吸虫卵209個/cm³、異形吸虫科卵95個/cm³と多量に含まれていた。また、No.9の花粉化石群は他の試料と異なり、クリ属とサイカチ属が比較的高率に出現し、ブナ、ハンノキ属、コナラ亜属、ツバキ属を伴うが、針葉樹のマツ属複雑管束亜属やスギは稀である。また、イネ科(イネ属型)やアブラナ科、アカザ科などが出現し、微粒炭が340 mm^3/cm^3 含まれていた。

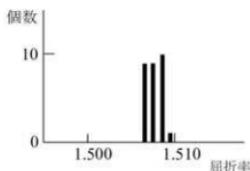
c) 珪藻化石群

検出した珪藻化石群のリストとその個数を第11表に、珪藻化石群分佈図を図329に示す。出現率は珪藻殻総数を基数として百分率で算出した。なお、No.7については総数が100個以下であるが参考までに示した。珪藻化石は、Ⅰ区西部SX43(2)では普通に、Ⅱ区西部SK77(7)では少量検出されたが、Ⅱ区東部池3(6)は稀であった。No.2では、淡水産公布種の *Synedra ulna* や *Pinnularia microstauron* が多く、陸域指標群種の *Hantzschia amphioxys* や沼沢湿地付着生種群の *Pinnularia viridis* などが検出される。No.7は珪藻殻数が少ないが *Hantzschia amphioxys* や *Diploneis elliptica*、*Pinnularia borealis* の陸域指標群種が相対的に多く検出される。No.6は *Hantzschia amphioxys* と *Neidium bisulcatum* var. *subampliatum* のみが僅かに検出された。

第1節 仙台城跡の植物化石群

d) テフラ分析

No.18は細粒～粗粒シルトサイズの白色火山灰である。このテフラは無色透明の軽石型火山ガラス（スポンジ状、繊維状）を主とし、岩片および斜長石、バブル型火山ガラスを含む（第331図）。鉱物組成は、重鉱物6%、軽鉱物93%、強磁性鉱物1%と軽鉱物が大半を占める。重鉱物では斜方輝石のほか単斜輝石を含む。火山ガラスの屈折率は1.506-1.509である（第330図）。



第330図 No.18の火山ガラスの屈折率頻度分布



第331図 試料18の細粒砂粒子の状況
(スケール=0.1mm)

4 考 察

1) I区西部の整地層直下のテフラ

I区西部の整地層直下(18)のテフラは、火山ガラスの形態と屈折率、重鉱物組成が十和田aテフラ(To-a;町田・新井, 1992)と概ね一致し、層的にも矛盾しないことから、十和田aテフラに対比される。No.18は近世の整地層下位で、層厚3cm前後のブロックないしレンズ状に分布しており、このことから一次堆積のテフラと推定される。

2) II区周辺の植生と生業

花粉化石群の層位的変動に基づき、近世から近代初頭頃(18～19世紀末)の植生は、クリとスギ林が優勢な時期、クリが優勢な時期、マツとスギの時期の3つの植生期に区分される。各植生期は花粉化石群帯のSN-I、II、IIIにそれぞれ対応する。

クリとスギ林が優勢な時期(18-19世紀)

武家屋敷周辺の樹木は、針葉樹のスギやマツ、モミ属、落葉広葉樹のクリ、クルミ属、コナラ亜属、ケヤキ、サクラ属近似種などが分布していたとみられる。また、クリ属花粉が13-23%と比較的高率に産出している。クリ花粉はクリ純林内では高率に占めるがクリ林外で急減することが明らかにされている*1(未公表)が、その結果からは分析地点の側にクリが分布していたと考えられる。さらに、II区東部の池1の周りにはカエデ属が、II区西部のSK77(15)やSX64(16)の周りにはモチノキ属やウコギ科、ツバキ属、カキ属が生え、さらに周辺でソバも栽培されていたようである。

クリが優勢な時期(18-19世紀)

II区東部の池1(13)ではクリ属花粉が72%と極めて高率に出現する。この頻度は分析地点がクリ林内にあるいはクリの樹冠の下にあったことを示しており、少なくともII区東部には複数のクリが生えていたようである。他の植物相は前時期と概ね同様であったとみられる。

マツとスギの時期（18-19世紀）

この期には、クリを初めとして多種の樹木が伐採され、周囲はマツやスギなどからなる単調な植生に変化したとみられる。つまり、クリ花粉は検出されず出現した分類群数も少なくなる。さらに、マツやスギは花粉生産量が多く広域に飛散するが、前期より樹木花粉の全体に占める比率が低下しているため、周囲にはマツやスギが疎らに生えていたと推定される。

3) II区東部池3とII区西部SK77の堆積環境

II区東部の池3(6)は乾燥気味の状態、II区西部のSK77(7)ははじめじめした環境にあったとみられる。すなわち、II区東部の池3(6)からは珪藻化石が稀で、さらに花粉化石も稀でシダ植物胞子が僅かに検出されたのみである。こうしたことから、池3のNo.6試料の層準は乾燥気味の状態にあったとみられる。一方で、II区西部のSK77(7)では珪藻化石は少ないが、その中では *Hantzschia amphioxys* や *Pinnularia borealis* などの陸域指標種群が多くを占める。陸域指標種群は「コケ類を含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群」(小杉, 1986)で他の生育地には出現しないか、出現しても主要でない(安藤, 1990)とされている。SK77では陸域指標種群が多くを占めるため、はじめじめした環境にあったとみられる。

4) I区石垣上部のSD42とSX43遺構

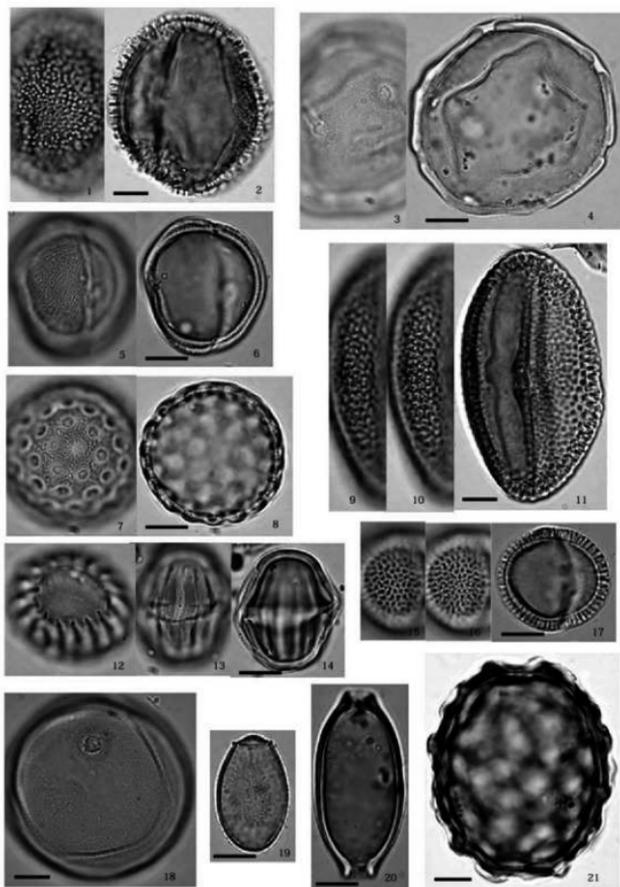
I区石垣上部のSD42(8.11)の溝状遺構の試料では、花粉化石群はイネ属型花粉が92%と大半を占め、ヨモギ属やクワ科、オモダカ属などを伴うが、樹木はブナ1個体のみと特異な組成を示している。また、木屑を多く含む一般的な堆積物とは異質である。このような花粉化石群の特徴からは生活排水溝の可能性も推定される。樹木花粉が稀なのは試料採取地点までの溝が蓋などされ飛来花粉が入らない状態にあったのかもしれない。

I区石垣上部のSX43(2.9)の試料には、寄生虫の回虫卵と鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫科卵が3097個/m²と多量に含まれている。糞便堆積物の目安としては、1000～10000個/m²以上の寄生虫卵の密度が指摘されている(金原, 1999)。寄生虫卵は花粉に比べ保存性が悪いことや感染状況により異なることも想定されるため、一概には言い切れないが、SX43については量的に多いため糞便堆積物である可能性が高い。草本花粉ではイネ属型やアブラナ科、アカザ科などの食用植物の花粉が目立ち、この所見と矛盾はしない。回虫と鞭虫は手指や野菜に付着、塵と共に食物の上に散布した幼虫包蔵卵を経口摂取、肝吸虫はモツゴやブナ、コイなどの淡水魚の生食、異形吸虫科はアユやウグイなどの生食で感染し、いずれも少数寄生の場合はほとんど無症状で、多数寄生すると腹痛や下痢等をきたすとされている(吉田ほか, 1996)。樹木花粉ではクリ属を除いてはサイカチ属が比較的多く検出されている。サイカチの果実は去痰薬に果皮葉はサボニン含有シセッケンとして利用できることが知られているが、花の利用は知られていない。しかしながら、糞便堆積物から比較的多く出現していることは、何らかの利用があったかあるいは周囲に生育していたかのいずれかであろう。また、淡水産公布種の *Synedra ulna* や *Pinnularia microstauron* が多く検出されており、滞水していたことが分かる。これらの種は広い汚濁範囲の水域に分布する広適応性種で、*Synedra ulna* は好アルカリ性水域、*Pinnularia microstauron* は真酸性種であるがアルカリ水域にも出現する。なお、珪藻が出現した層準の水質は、付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数(渡邊, 2005)は44のβ中貧栄養水域を示すため、少し汚れた水質であったと考えられる。

第1節 仙台城跡の植物化石群

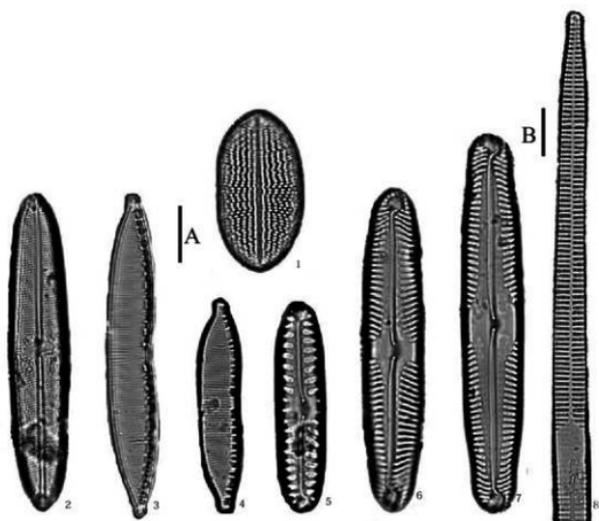
引用文献

- 安藤一男. 1990. 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- 金原正明. 1999. 寄生虫, 「考古学と自然科学② 考古学と動物学」(西本豊弘・松井 章編), 151-158.
- 小杉正人. 1986. 陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望. 植生史研究, 1号, 29-44.
- 小杉正人. 1988. 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b) Bacillariophyceae, 1. Teil, 2.Teil, 3.Teil, 4.Teil, 876p., 539p., 576p., 437p. In Ettl, H., Gerloff, J., Heyning, J., Mollenhauer, D., Susswasserflora von Mitteleuropa, 2(1), 2(2), 2(3), 2(4). Gustav Fischer, Jena.
- 町田 洋・新井房夫. 1992. 火山灰アトラス—日本列島とその周辺—. 276p., 東京大学出版会, 東京.
- 吉田幸雄. 1996. 図説人体寄生虫学, 293p., 南山堂, 東京.
- 渡辺仁治. 2005. 淡水珪藻生態図鑑, 666 p., 内田老鶴圃, 東京.
- (*1) 新潟県立歴史博物館および独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金「縄文時代におけるクリ利用に関する考古学・民俗学・植物学的研究」(代表 荒川隆史)



第332図 仙台城跡より産出した花粉化石と寄生虫卵

1-2: アオキ属, 13.AFRMY 1793. 3-4: クルミ属, 12.AFRMY 1794. 5-6: カエデ属, 12.AFRMY 1796. 7-8: アカザ科, 12.AFRMY 1795.
 9-11: ソバ属, 15.AFRMY 1792. 12-14: ヒメハ半属, 15.AFRMY 1791. 15-17: アブラナ科, 9.AFRMY 1801. 18: イネ科(イネ属型), 11.AFRMY 1797. 19: 肝吸虫卵, 9.AFRMY 1799. 20: 鞭虫卵, 9.AFRMY 1798. 21: 回虫卵, 9.AFRMY 1800.
 スケール=10 μ m.



第 333 図 仙台城跡から産出した珪藻化石

1 *Cocconeis placentalis* var. *lineata*, 2 *Neidium bisulcatum* var. *subampliatum*, 2, 3-4 *Hantzschia amphioxys*, 5 *Pinnulariaborealis*, 7, 6 *Pinnularia microstauron*, 2, 7 *Pinnularia gibba*, 2, 8 *Synedra ulna*, 2. スケール = 10 μ m(A.No.1-17, B.No.18)

第2節 仙台城跡出土木材の樹種同定

吉川純子 (古代の森研究会)

1 試料と方法

仙台城川内周辺では平成18年度から本調査を開始し、川内駅部では江戸時代の18世紀から19世紀にかけての池や土坑などから、木製品や加工材が多数出土している。仙台城における木材利用状況を解明するため、これらの出土木材の樹種を調査した。

川内駅部から出土したのは漆器、箸、櫛などの木製品と杭、枕木、板材などの加工材で、計102試料の樹種同定を行った。出土木材からは直接剃刀を用いて横断面、接線断面、放射断面の3方向の薄片を採取し、ガムクロールを用いてプレパラートに封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。また、遺構SX43からは少量の種実化石を出土したため同定を行った。

2 同定結果

木材：

駅部から出土した木材の樹種同定結果を第12表に示す。出土した樹種は、スギ、クリ、針葉樹、トネリコ属、ブナ属、マツ属、オニグルミ、モミ属、アスナロ属、シノキ属、タケ亜科、コナラ節、クスノ節、ヒノキ、ネズコ属、不明種であった。以下に同定された分類群の記載を行う。

モミ属 (*Abies*):

早材から晩材への移行は比較的緩やかな針葉樹。放射組織は上下縁が不規則な形状となりやすく、壁は厚く数珠状末端壁を有する。分野壁孔はスギ型で1分野に3-4個ある。

マツ属複雑管束亜属 (*Pinus subgen. Diploxyton*):

早材から晩材への移行は急で晩材部の幅が広い針葉樹。垂直・水平樹脂道があり大きい。放射組織は上下に放射仮導管があり、内壁は鋸歯状に不規則に突出している。分野壁孔は窓状である。

スギ (*Cryptomeria japonica* (Linn.fil.) D.Don):

早材から晩材への移行は急で晩材部が厚い。分野壁孔はスギ型で横に長い楕円形となり、1分野に2個ある。

ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* Endl.):

晩材部に樹脂細胞が散在し、放射柔細胞からなる放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に2個ある。

アスナロ属 (*Thuopsis*):

早材から晩材への移行はゆるやかで年輪界が比較的明瞭な針葉樹。晩材部付近に樹脂細胞があり水平壁が数珠状に肥厚する。分野壁孔はスギないしヒノキ型で小さく1分野に2-3個存在する。

ネズコ属 (*Thuja*):

早材から晩材への移行はやや急で、晩材部に樹脂細胞が散在する。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に3-6個ある。また、放射柔細胞の水平壁と接線壁が接する部分の水平壁は山型に厚くなり、接線壁との間に溝状の構造、インデンチャーがよく発達している。

針葉樹:

放射組織は柔細胞のみからなるようであるが、分野壁孔が溶けて確認できないため、ほかの組織も失われている可能性があり、同定不可であった。

第2節 仙台城跡出土木材の樹種同定

図版番号	出土地点	種類	樹種	図版番号	出土地点	種類	樹種
第275図6	池1	杭	シナノキ属	第265図3	池1	箸	スギ
第275図5	池1	杭	トネリコ属	第269図3	池1	角材	スギ
第276図11	池1	杭	オニグルミ	第269図4	池1	角材	スギ
第276図12	池1	杭	トネリコ属	第274図4	池1	板	スギ
第276図10	池1	杭	クリ	第273図1	池1	板	スギ
第276図1	池1	杭	クリ	第274図1	池1	板	スギ
第277図1	池1	杭	クリ	第269図2	池1	角材	スギ
第276図5	池1	杭	オニグルミ	第272図1	池1	半割材	スギ
第275図4	池1	杭	シナノキ属	第271図1	池1	ほぞ孔有り部材	クリ
第276図3	池1	杭	トネリコ属	第269図1	池1	ほぞ孔有り部材	針葉樹
第277図4	池1	杭	不明	第270図4	池1	垣組杭	クリ
第276図7	池1	杭	モミ属	第270図3	池1	垣組杭	クリ
第276図9	池1	杭	トネリコ属	第270図1	池1	垣組杭	クリ
第275図7	池1	杭	トネリコ属	第271図2	池1	丸太材	モミ属
第276図2	池1	杭	トネリコ属	第270図2	池1	垣組部材	クリ
第277図2	池1	杭	オニグルミ	第268図1	池1	ほぞ孔有り部材	スギ
第277図5	池1	杭	トネリコ属	第268図3	池1	角材	針葉樹
第277図6	池1	杭	トネリコ属	第268図2	池1	角材	スギ
-	池1	杭	トネリコ属	第267図3	池1	部材?	スギ
第276図6	池1	杭	針葉樹	第267図1	池1	部材?短い方	針葉樹
第277図7	池1	杭	トネリコ属	第267図2	池1	木片	スギ
第276図4	池1	杭	クリ	第266図2	池1	部材?	スギ
第276図8	池1	杭	トネリコ属	第266図6	池1	部材?	スギ
第59図5	SX43	櫓?	コナラ亜属コナラ節	第266図7	池1	部材?	スギ
第265図1	池1	隙	コナラ亜属クヌギ節	第275図2	池1	板	モミ属
第265図4	池1	容器蓋板	針葉樹	第272図2	池1	穿孔有り部材	スギ
第265図2	池1	板	針葉樹	第37図1	SD15	溝板	クリ
第236図4	SX7	板	針葉樹	第37図2	SD15	溝板	スギ
第196図4	SK64	容器底板	スギ	第38図1	SD15	部材	クリ
第17図2	SK57	くさび	針葉樹	第38図3	SD15	部材	針葉樹
第17図1	SK57	くさび	アスナロ属	第38図2	SD15	部材	針葉樹
第59図1	SX43	切り直材	クリ	第38図4	SD15	部材	針葉樹
第58図6	SX43	板	アスナロ属	第38図5	SD15	部材	スギ
第58図7	SX43	板	クリ	第273図2	池1	板 釘孔有り	スギ
第59図2	SX43	杭	タケ亜科	第59図4	SX43	杭	クリ
第264図4	池1	漆器検査	ブナ属	第274図2	池1	板	マツ属薄層管束亜属
第264図3	池1	漆器検査	ブナ属	第272図3	池1	板	スギ
第264図8	池1	漆器検査	ブナ属	第18図1	SK57	柱材	スギ
第264図5	池1	漆器検査	ブナ属	-	P55	杭	クリ
第264図6	池1	漆器検査	ブナ属	-	P257	杭	スギ
第264図5	池1	漆器検査	ブナ属	-	P258	杭	スギ
第196図1	SK64	漆器検査	ブナ属	-	P259	杭	クリ
第58図5	SX43	漆器検査	ブナ属	第196図2・3	SK64	箸?	-
第64図3	P164	杭	クリ	第273図3	池1	板②	スギ
第64図4	P136	柱	クリ	第274図5	池1	板	マツ属薄層管束亜属
第59図3	SX43	杭	クリ	第275図1	池1	板	マツ属薄層管束亜属
第274図3	池1	板	スギ	第266図4	池1	釘孔有り部材	ヒノキ
第265図5	池1	桶蓋	スギ	第266図1	池1	部材	スギ
第272図3	池1	板	スギ	第196図5	SK64	角材	スギ
第266図1	池1	部材	スギ	第275図3	池1	部材	針葉樹
第273図4	池1	板	スギ	-	池1	漆器検査	ブナ属

第12表 仙台城跡から出土した木製品および加工材の樹種

オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* Kitamura) :

やや大きな道管が単独ないし2-4個放射方向に複合して年輪内に均一に分布する散孔材。柔細胞は短接線状に並び網状柔組織をつくる傾向がある。放射組織は1-2細胞幅でほぼ同性。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.):

年輪はじめに大きな道管が花弁状に配列し、急に径が減じて火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔、放射組織は1~2列ではほぼ同性である。

コナラ属クヌギ節 (*Quercus sect. Acuta*):

年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に厚壁で丸い小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で放射組織は同性で単列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が目立つ。

コナラ属コナラ節 (*Quercus sect. Prinus*):

年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に薄壁で角張った小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で放射組織は同性で単列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が目立つ。

シナノキ属 (*Tilia*):

道管は数個放射方向に複合して、年輪内にほぼ均一に分布する散孔材。道管は単穿孔とらせん肥厚がある。放射組織は同性で1-4細胞幅で角張った矢じり型に見える。

トネリコ属 (*Fraxinus*):

年輪はじめに大きくて厚壁の管孔が2,3列配列し、晩材部では厚壁の小さい管孔が単独ないし数個複合して散在する環孔材。木部柔組織は周囲状および翼状で道管の穿孔板は単一である。放射組織は同性で2列である。

タケ亜科 (Subfam. Bambusoideae):

維管束は、原生木部小管孔と左右に大管孔が1対あり、背軸側に篩部があり、これらを厚壁の維管束鞘が取り囲んでいる。これらが柔組織中に散在している。

種実:

遺構 SX43 から出土した種実を表14に示した。出土した種実はクリ、カキノキ、キュウリ属メロン仲間であった。以下に形態記載を行う。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.):

果皮破片は下に褐色で光沢が無く表面がざらつく大きな基部があり、上は暗褐色で縦に細かい筋はいる。

種類	漆器	箸	桶	容器	櫛	鏡	柱	椀	枕木	杭	角材	加工材	計
スギ		1	1	1			1		6	2	5	15	32
クリ							1			13		5	19
針葉樹				1				1	4	1	1	4	12
トネリコ属													11
ブナ属		9											9
マツ属椎茸属栗属												3	3
オニグルミ										3			3
アスナロ属								1				1	2
モミ属										1		1	2
シナノキ属										2			2
タケ亜科											1		1
コナラ節					1								1
クヌギ節						1							1
不明										1			1
ヒノキ												1	1
ネズコ属												1	1
計		9	2	1	2	1	1	2	2	10	35	6	102

第13表 仙台城跡出土加工材および木製品の種類別出土表

第2節 仙台城跡出土木材の樹種同定

カキノキ：

種子は基部が尖り、上に行くに従って幅が広くなり頂部は丸い。側面観は扁平と非対称の水滴型。種子表面全体に斜めの筋がある。

キュウリ属メロン仲間 (*Cucumis melo* L.)：

種子は基部が尖り左右対称の水滴型。種皮表面には微細な横線があり縦と横の比率がほとんど同じ四角形の細胞が並んでいる。

3 考察

本遺跡から出土した木材の樹種の内訳は、スギ32点、クリ19点、針葉樹12点、トネリコ属11点、ブナ属9点、マツ属とオニグルミが各3点、モミ属、アスナロ属、シナノキ属、タケ亜科が各1点、コナラ節、クスギ節、ヒノキ、ネズコ属、各1点、不明が1点であった(第13表)。最も多く確認されたスギは、板などの加工材や建築材に多く土木建築材の36%を占め、そのほかに箸や桶にも利用されていた。クリは杭のほか加工材や柱にも使われ、土木建築材の23%を占めていた。杭材はとりあえずその場で調達できる、周辺に生育しているような樹種を利用していたと思われる、多く利用されているのはクリ、トネリコ属で、オニグルミ、スギ、シナノキ属、モミ属など様々な種類を使用している。一方、生活具では漆器検が多いため、ブナ属が生活具全体の56%を占めていた。仙台城三ノ丸跡17世紀の樹種同定結果(仙台市教育委員会1985)では、同定対象の漆器とした18点中、ブナ15点、トチノキ1点、広葉樹2点と、ほとんどにブナ属が多用されており、今回の結果と類似した傾向が見られる。

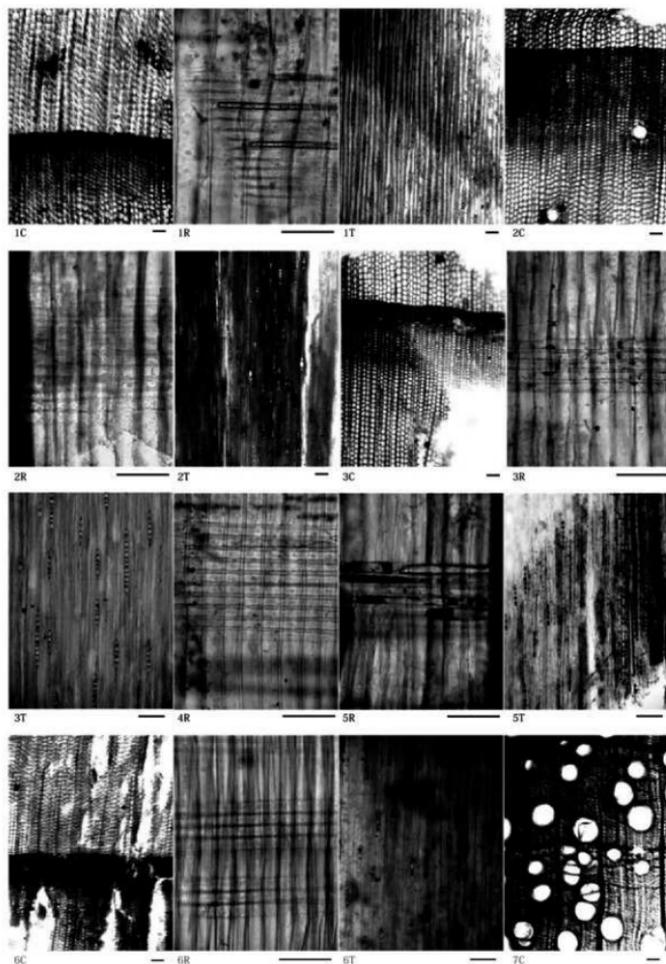
本遺跡のSX43から出土した種実は、クリ、カキノキ、キュウリ属メロン仲間といった食用とされる種類であるため、付近で利用していたものが流れ込んだかSX43内に廃棄されたと考えられる(第14表)。

試料番号	分類群	部位	個数
SX43 ①	キュウリ属メロン仲間	種子	4
SX43 ②	キュウリ属メロン仲間	種子	5
SX43 ③	クリ	葉皮破片	1
SX43 ④	カキノキ	種子	2

第14表 仙台城跡から出土した種実

引用文献

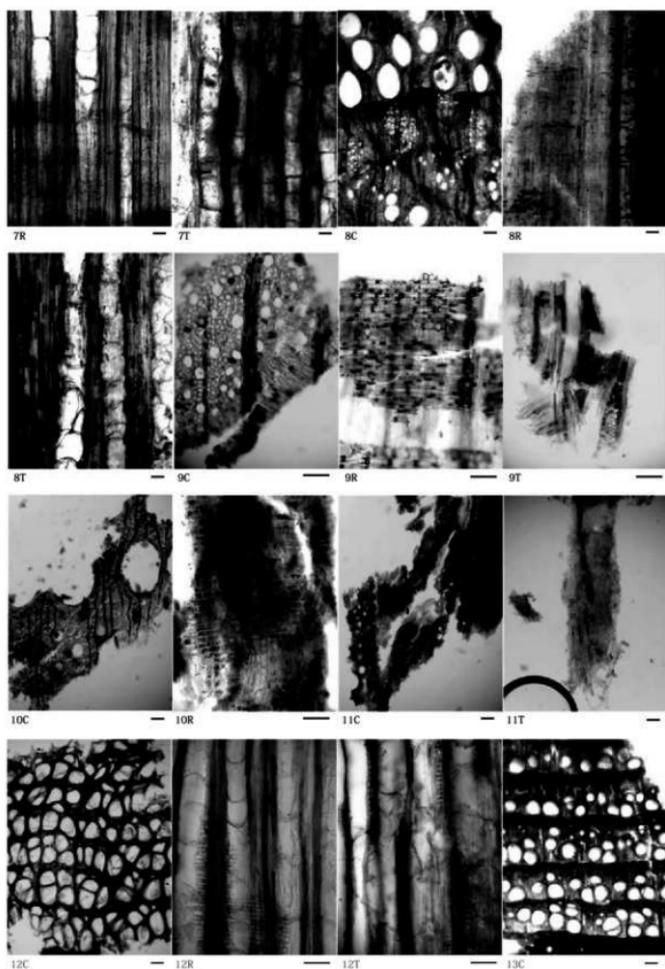
仙台市教育委員会、1985、『仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第76集



第 334 図 仙台城跡出土木材の顕微鏡写真 (1)

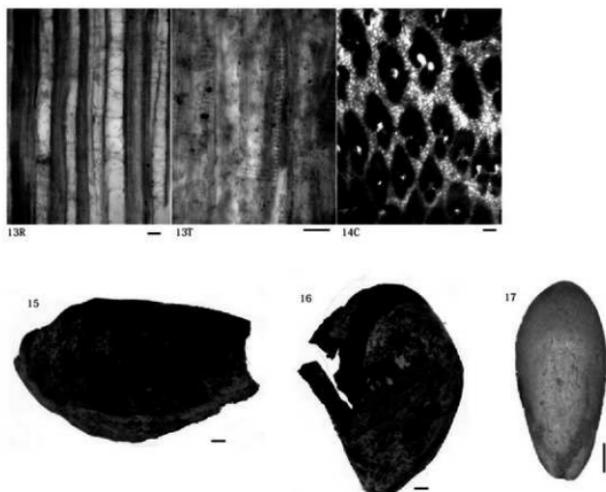
1. モミ属 (77 板) 2. マツ属複種管束亜属 (88 板) 3. スギ (78 部材) 4. ヒノキ (99 部材) 5. アスナロ属 (31 板)
6. ネズコ属 (66 丸太材) 7. オニグルミ (8 杭) C: 横断面 .R: 放射断面 .T: 接線断面 .スケールは 0.1mm

第2節 仙台城跡出土木材の樹種同定



第 335 図 仙台城跡出土木材の顕微鏡写真 (2)

7. オニグルミ (8 杭) 8. クリ (64 垣根杭) 9. プナ属 (37 漆器椀) 10. コナラ亜属クヌギ節 (25 鐙) 11. コナラ亜属コナラ節 (24 櫓)
12. シナノキ属 (1 杭) 13. トネリコ属 (14 杭) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面, スケールは 0.1mm



第 336 図 仙台城跡出土木材および種実の顕微鏡写真

13. トネリコ属 (14 粒) 14. タケ亜科 (35 粒) C: 横断面, R: 放射断面, T: 接線断面, スケールは 0.1mm
 15. タリ、果皮破片 (SX43 ④) 16. カキノキ、種子 (SX43 ④) 17. キュウリ属メロン仲間、種子 (SX43 ①) スケールは 1mm

第3節 仙台城跡出土の動物遺体

中村賢太郎 (バレオ・ラボ)

1 はじめに

仙台城跡は宮城県仙台市青葉区川内地区内に所在する。この調査区は仙台城跡の武家屋敷地にあたる。ここでは、発掘調査で検出された江戸時代の遺構から出土した動物遺体について報告する。

標本の閲覧と同定に関して、国立歴史民俗博物館西本豊弘先生、早稲田大学樋泉岳二先生にご協力とご教示をいただいた。

2 試料と方法

試料は、SX43 から採取された動物遺体 6 試料と、P154 から採取された動物遺体 1 試料の計 7 試料である。遺構の性格は、SX43 が動物遺体の他に木製品、炭化木片、種実などが出土していることから、生活ごみが廃棄された廃棄土坑と推定されており、P154 は柱穴である。遺構の時期は、SX43 が 17 世紀後半、P154 が 18 世紀前半～19 世紀前半である。

試料の採取と選別は国際文化財株式会社により行われた。SX43 の試料のうち、No.1971 は調査現場で 9 層上部から目視で確認され採取された。No.1958-①～④は 9 層を平面的に 4 区画に分けた上で、9 層全部が採取された土の篩分けで採取された。篩分けの方法は乾フルイで、おおむね 1mm 以上の動物遺体が回収された。No.1556 は調査現場で SX43 の 12 層から出土した大型の獣骨である。P154 の試料は 5 層から出土した比較的大型の歯である。

同定は肉眼および実体顕微鏡を用いて、現生標本との比較により行った。ウシについては、Driesch (1976) に従い、サイズ計測を行った。

3 結果

哺乳類、魚類、貝類が見られた。同定された分類群を第 15 表に示し、各試料についての所見は第 16 表に示す。

脊索動物門 Chordata
哺乳綱 Mammalia
鯨豚目 Cetartiodactyla
ウシ科 Bovidae
ウシ <i>Bos taurus</i>
啮歯目 Perissodactyla
ウマ科 Equidae
ウマ <i>Equus caballus</i>
魚綱 Actinopterygii
真骨鱗類 Teleostei
真骨鱗の一類 Teleostei ord., fam., gen. et sp. indet.
ウナギ目 Anguilliformes
ハモ科 Muraesocidae
ハモ属の一類 <i>Muraenesox</i> sp.
タラ目 Gadiformes
タラ科 Gadidae
タラ科の一類 Gadidae gen. et sp. indet.
スズキ目 Perciformes
タイ科 Sparidae
タイ科の一類 Sparidae gen. et sp. indet.
軟体動物門 Mollusca
腹足綱 Gastropoda
腹足綱の一類 Gastropoda ord., fam., gen. et sp. indet.

第 15 表 仙台城跡出土動物遺体種名表

a) 哺乳類

ウシとウマが見られた。SX43の12層では、ウシの右脛骨が1点見られた。脛骨の最大長（GL）は339.0mmである。焼けていない。P154の5層では、ウマの左上顎第3あるいは第4前臼歯1点が見られた。ごくわずかに咬耗が見られた。焼けていない。

b) 魚類

ハモ属、タラ科、タイ科が見られた。SX43の9層では、ハモ属の左歯骨が1点、タラ科の第1あるいは第2椎骨が1点、タイ科の尾椎が1点、その他真骨類としか同定できなかったものが複数見られた。1958-④の真骨類部位不明破片1点が焼けていないことを除くと、魚骨は全て焼けていた。

c) 貝類

SX43の9層で種不明の腹足綱（巻貝類）が1点のみ見られた。焼けていた。

遺物No.	遺物名称	層位	遺物No.	分類群	部位	部分・状態	左右	数量	備考	
SX43	廃棄土坑	9層	1958-①	真骨類	椎骨	破片	—	2	焼	
					貝類	破片	—	1	焼	
			1958-②	不明	—	破片	—	9	焼	
					不明	—	破片	—	3	焼
			1958-③	タラ科	第1/2椎骨	半欠	—	1	焼	
					真骨類	上腕骨付	破片	?	1	焼
			1958-④	不明	—	破片	—	1	焼、小型	
					不明	—	破片	—	9	焼
			1958-⑤	ハモ属	歯骨	ほぼ完存	左	1	焼	
					タイ科	尾椎	ほぼ完存	—	1	焼
					真骨類	椎骨	破片	—	1	焼
					不明	不明	破片	—	1	非焼
					不明	—	破片	—	13	焼
1971	真骨類	椎骨	ほぼ完存	—	1	焼				
P154	柱列	5層	12層	ウシ	脛骨	ほぼ完存	右	1	非焼 GL.339.0mm	
			701	ウマ	歯(上顎)	第3/4前臼歯	左	1	非焼、極わずかな咬耗	

第16表 仙台城跡の動物遺体同定結果

4 考察

17世紀後半のSX43では、ウシは右脛骨1本のみが出土しており、解体後に土坑内に脛骨のみが廃棄されたと考えられる。また、魚類はほとんどが焼けており、おそらく調理後の残滓と思われる。こうした状況からは、SX43を廃棄土坑とする推定は妥当と思われる。ウシは脛骨最大長から体高120cm程度と推定される。タラ科（マダラ、スケソウダラなど）とタイ科（マダイ、クロダイなど）は仙台周辺の海域で捕獲された可能性が考えられる。また、ハモ属（ハモ、スズハモなど）も同遺構から出土している。

18世紀前半～19世紀前半のP154では、ウマの左上顎第3あるいは第4前臼歯が1本だけ見られた。歯の咬耗がごくわずかに見られ、萌出直後と考えられることから、ウマは3才前後の若い個体と推定される。ウマの歯がどういった過程で柱穴内に入ったかは不明である。

引用・参考文献

Driesch, Angela von den (1976) A guide to measurement of animal bones from archaeological sites. 137p. Peabody museum.

久保和土・松井 章 (1999) 家畜その2—ウマ・ウシ. 西本豊弘・松井 章編「考古学と動物学」:169-208, 同成社.

松井 章 (2008) 動物考古学. 312p, 京都大学学術出版会.

第3節 仙台城跡出土の動物遺体



第337図 仙台城跡出土の動物遺体

1. ハモ属左歯骨 (1958-④) 2. タラ科第1/2椎骨 (1958-③) 3. タイ科尾椎 (1958-④) 4. ウシ右脛骨 (1556)
5. ウマ左上顎第3/4前臼歯 (701)

第7章 出土遺物と検出遺構について

第1節 出土遺物について

第4章「調査区基本層序」において述べたように、本調査において、近世の整地面は大別してⅢ層～Ⅴ層の3層が確認され、それぞれの年代は、Ⅲ層（19世紀前半～中頃）、Ⅳ層（18世紀前半～19世紀前半）、Ⅴ層（17世紀前半～後半）である。このうち立坑部においては、Ⅲ層整地面とⅢ層上面遺構のみが確認され、川内駅部Ⅰ区では、Ⅲ層～Ⅴ層、Ⅱ区ではⅢ層・Ⅳ層が確認されている。調査では、これらの近世に属する各基本層・遺構及び明治以降の盛土中から、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、石製品、土製品、金属製品、その他の遺物が出土し、出土遺物の総数は15818点を数える（第17表）。

出土層位	陶器	磁器	瓦質土器	土師質土器	土製品	石器・石製品	金属製品	木製品	瓦	自然遺物	縄文土器	その他	合計
Ⅲ層	1581	3187	43	128	26	17	208	16	756	4	1	23	5990
Ⅳ層	123	236	7	6	2	1	277	65	648	6	0	13	1384
Ⅴ層	776	724	45	78	10	12	39	1	239	5	0	2	1931
Ⅲ層遺構	150	118	7	29	0	0	3	2	2407	2	0	1	2781
Ⅳ層	15	19	2	2	1	0	0	0	71	0	0	0	110
Ⅳ層遺構	1082	854	76	177	32	17	75	280	678	6	0	8	3285
Ⅴ層	7	5	1	1	0	1	0	0	6	0	0	0	21
Ⅴ層遺構	59	60	9	41	5	3	20	71	44	2	0	1	315
盛土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	3793	5303	160	492	76	31	624	435	4969	25	2	48	15818

第17表 仙台城跡出土遺物数量一覧表

川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区では、近・現代の造成の際に、整地層及び遺構は大きく削平されるものの、残存する各基本層と遺構から、まとまった数量の陶磁器が検出された。ここでは、川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区より出土した陶磁器を産地別に分類し、その出土状況を踏まえ本調査区内における陶磁器について述べる。数量表を作成するにあたって、明治期に属すると考えられる遺構から出土した遺物については、数量表から除外した。

1 出土した陶磁器について

(1) 産地分類の方法

本調査において出土した陶磁器は、整理段階において、各基本層、基本層上面遺構ごとに接合作業を行った。川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区のⅢ層～Ⅴ層及び検出遺構内から出土した陶磁器の接合後の点数は、陶器1998点、磁器1634点、総点数3632点となる。これらの陶磁器を産地別、基本層・遺構別に算出し、出土遺物の推移を示す表と図を作成した（第18・19表 第338・339図）。表にみられる不明の欄は細片のため産地・時期ともに判別できなかった点数である。基本層では110点、基本層上面遺構では206点あり、図には表していない。また、Ⅴ層整地土から18世紀中頃以降の大堀相馬産の陶器が5点、18世紀中頃の京焼の陶器が1点、Ⅴ層上面遺構から、18世紀中頃の京焼が1点、18世紀中頃以降の大堀相馬産の陶器が16点、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器が10点出土しているが、検討の結果、後世の混入遺物であると判断したため、表・図ともに数量を示していない。

(2) 陶磁器の出土傾向

陶磁器の産地別の出土状況について述べる（第18表・第338図）。

まず、Ⅴ層整地面とⅤ層上面遺構出土の陶磁器に見られる傾向は、唐津産を含む肥前系が全体の45.5～70.6%、志野・織部を含む瀬戸・美濃系が約20.0～36.4%で、肥前系の陶磁器が全体の出土量の大部分を占める。また、肥前系、瀬戸・美濃系の総点数が出土遺物の81.9～90.6%占めている。中国産、丹波産、岸原産、在地産と考えられる陶磁器は合わせて、9.5～18.2%と非常に少量である（第340図-1-14）。

第1節 出土遺物について

Ⅳ層とⅣ層上面遺構では、Ⅴ層、Ⅴ層上面遺構より出土した遺物とは少し様相が異なる。肥前系の陶磁器は、45.4～82.8%と、さらに出土量が増え、志野・織部を含む瀬戸・美濃系は8.9～12.7%と、出土量が約半分に減る傾向が見られる。変わって、このころから大堀相馬産の陶器が出土し始め、全体の3.7～29.2%の割合を占めている。また大堀相馬産の出土と連動して、小野相馬産が2.4%、堤焼が5.7%、京焼は0.1～1.0%と少量ではあるが出土し始める。岸窯産0.2～0.7%、在地産1.5～2.9%、中国産は0.5～1.5%と、さらに出土量が減少する(第340図-15～18・第341図-1～10・第342図-1～9)。

Ⅲ層とⅢ層上面遺構の出土遺物においては、唐津産を含む肥前系が46.5～50.4%と出土量が減少し始める。志野・織部を含む瀬戸・美濃系が10.3～10.7%とやはり出土量が少ない。大堀相馬産は23.7～31.0%、小野相馬産は1.3～1.7%、堤焼は3.9～5.2%となり、堤焼の出土量がやや増加し、肥前系と瀬戸・美濃系の出土量が減少するとともに、宮城県内及び宮城県近隣で生産されている陶器類の出土量が増加する傾向が見られる。また、京焼は0.9～1.6%、丹波産0.1～0.4%、切込産0.2～0.4%、岸窯産0.1～1.3%、在地産2.8～6.7%、中国産0.3～0.9%と少量ではあるが出土している(第342図-10～14・第343図-1～10)。

(3) 出土傾向のまとめ

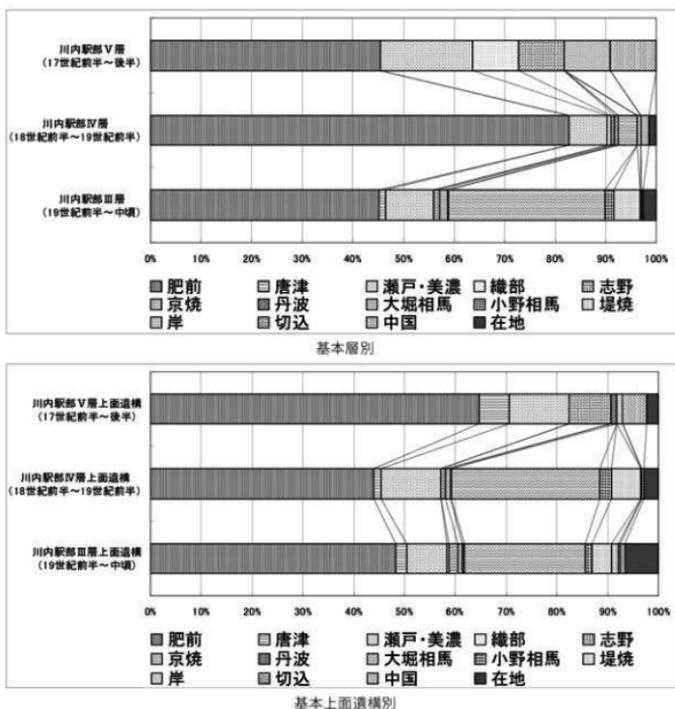
以上のように、川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区のⅢ層～Ⅴ層において出土した陶磁器を産地別に分類し、各基本層別、各基本層上面遺構別にその推移を表した。これらの出土傾向をもとに、調査区内において出土した陶磁器の様相について述べる。

まず、17世紀前半～後半にかけての基本層と遺構から出土する陶磁器の数量は肥前系が4～7割と圧倒的數量を占めている。ただし、基本層と遺構から出土した肥前系陶磁器65点中、51点が磁器の数量である。陶器のみ出土状況を見た場合、唐津産を含む肥前系は、27.3～33.3%、志野・織部を含む瀬戸・美濃系は38.6～50.1%となり瀬戸・美濃系陶器が出土陶器の約5割を占めている(第19表・第339図)。

18世紀前半～19世紀前半代は、基本層と遺構から出土する陶磁器の出土量は、肥前系は陶器の出土量が減少し、磁器の数量が888点と大幅に増え、出土遺物の大部分を占めている。しかし、17世紀前半～後半頃には全体の陶器の出土総数の5割を占めていた、瀬戸・美濃系の陶器が1割程度に減少し始め、それと入れ替わるように、17世紀末に操業を開始した大堀相馬産の陶器が出土陶器全体の約3割を占めるようになる。

19世紀前半～19世紀中頃においても、2割～3割とその割合にさほど変化は見られないが、陶器だけの出土量のみを見た場合、18世紀前半～19世紀前半においては、38.5～47.8%、19世紀前半～19世紀中頃にかけては、37.8～60.4%と出土陶器の約半数を大堀相馬産が占めていることが分かる(第19表・第339図)。また、19世紀になって、生産が開始された瀬戸・美濃の磁器は、本調査区において192点出土しているが、全体の出土総数から見た場合、大きな割合を示さない。

調査区内より出土した陶磁器の様相は、17世紀前半～17世紀後半は肥前産の陶磁器と瀬戸・美濃産の陶器が出土遺物の大部分を占めていたが、18世紀前半以降は、肥前産の磁器の出土量の増加と、瀬戸・美濃系の陶器の減少に伴い、出土量が增大しはじめる大堀相馬、小野相馬、堤焼といった東北産の陶器が全体の出土遺物量の3割～4割を占め、19世紀前半以降は、陶器だけの出土状況を見た場合、全体の約7割を大堀相馬、小野相馬、堤焼といった東北産の陶器が出土量の大半を占める傾向が見られた(第19表・第339図)。



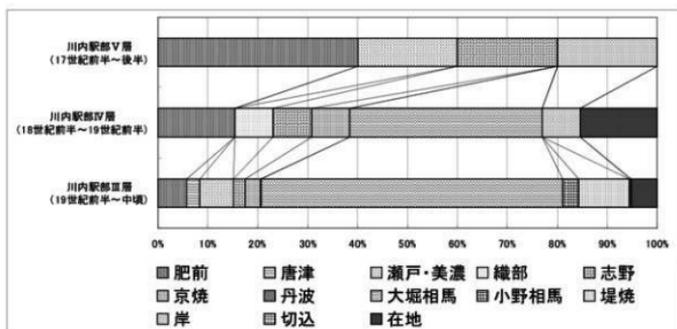
第 338 図 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層出土陶磁器産地別比率

時期	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 各基本層陶磁器産地別数量表													不明	
	肥前	唐津	瀬戸・美濃	織部	志野	京焼	丹波	大堀相馬	小野相馬	埴焼	岸	切込	中国		在地
川内駅部Ⅴ層 (17世紀前半～後半)	520	15	109	0	14	18	0	357	19	60	1	2	4	30	122
川内駅部Ⅳ層 (18世紀前半～19世紀前半)	111	0	10	1	1	1	0	5	0	0	1	0	2	2	2
川内駅部Ⅲ層 (19世紀前半～中頃)	5	0	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	34

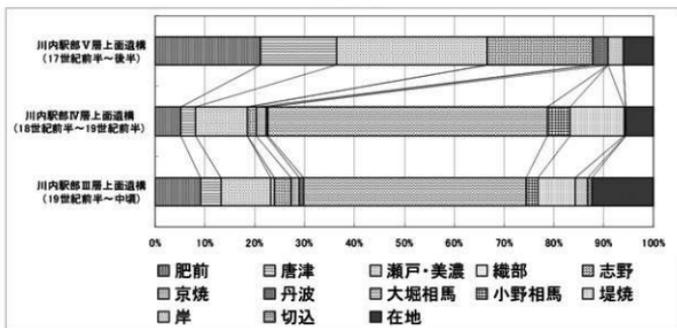
時期	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 各基本層上面遺構陶磁器産地別数量表													不明	
	肥前	唐津	瀬戸・美濃	織部	志野	京焼	丹波	大堀相馬	小野相馬	埴焼	岸	切込	中国		在地
川内駅部Ⅴ層上面遺構 (17世紀前半～後半)	110	5	18	1	4	2	1	54	3	9	3	1	2	15	23
川内駅部Ⅳ層上面遺構 (18世紀前半～19世紀前半)	777	26	208	0	16	38	3	517	42	100	3	0	8	51	170
川内駅部Ⅲ層上面遺構 (19世紀前半～中頃)	55	5	10	0	7	0	1	0	0	0	1	0	4	2	13

第 18 表 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区陶磁器産地別数量一覧表

第1節 出土遺物について



基本層別



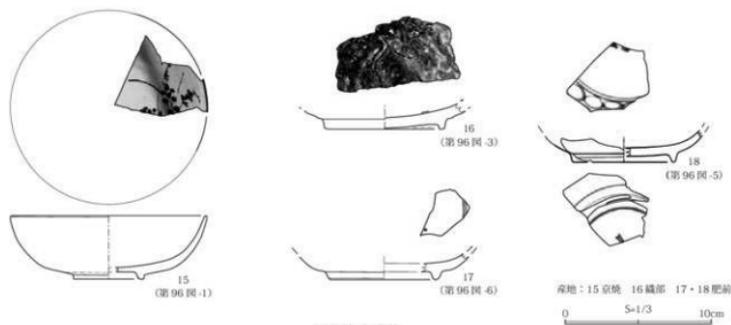
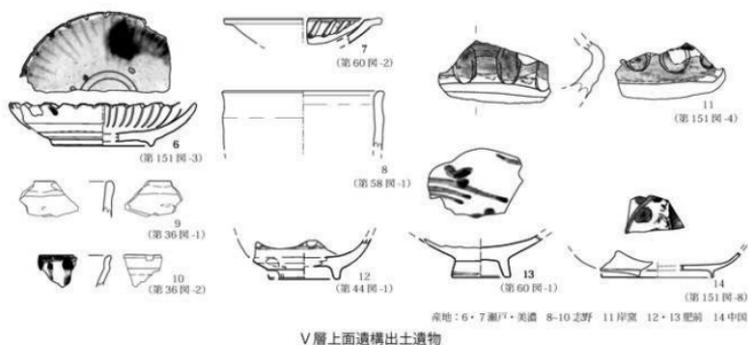
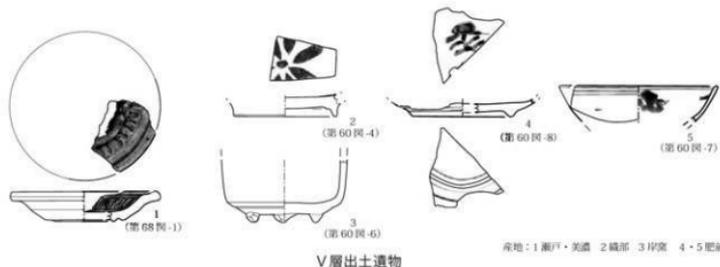
基本上面遺構別

第339図 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層上面遺構出土陶器産地別比率

時期	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層上面遺構出土陶器産地別比率表													
	肥前	唐津	瀬戸・美濃	織部	志野	京焼	丹波	大堀相馬	小野相馬	埴焼	岸	切込	在地	不明
川内駅部Ⅲ層 (19世紀前半～中頃)	34	15	40	0	14	18	1	357	19	60	1	2	30	95
川内駅部Ⅳ層 (18世紀前半～19世紀前半)	2	0	0	1	1	1	0	5	0	0	1	0	2	2
川内駅部Ⅴ層 (17世紀前半～後半)	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1

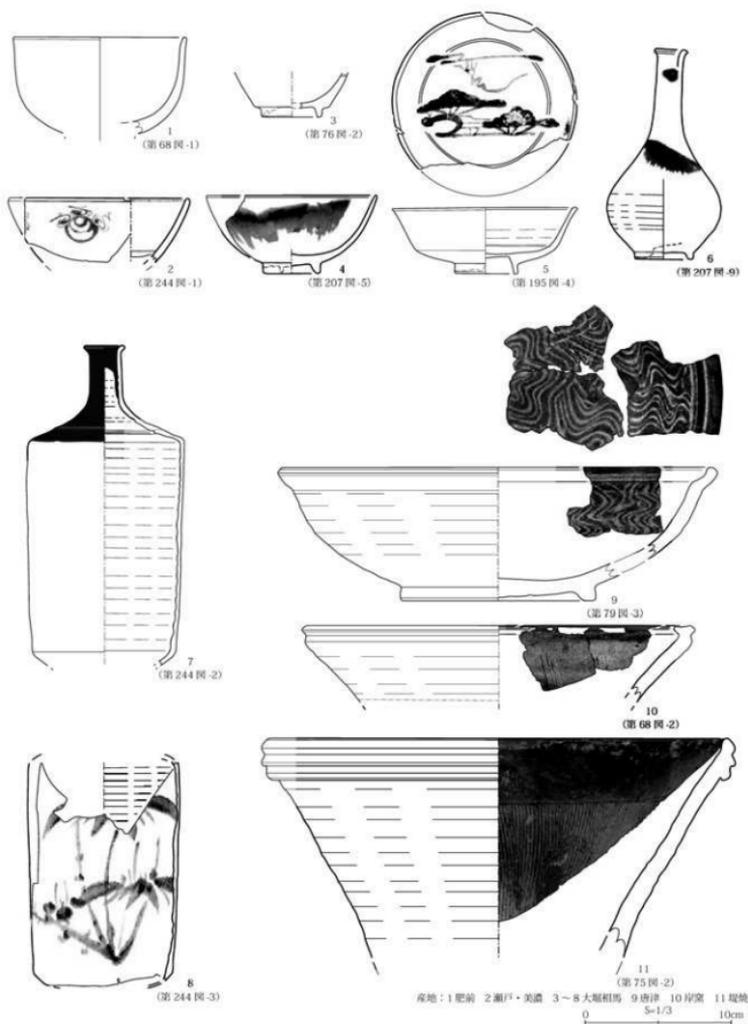
時期	川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区 基本層上面遺構出土陶器産地別数量一覧表													
	肥前	唐津	瀬戸・美濃	織部	志野	京焼	丹波	大堀相馬	小野相馬	埴焼	岸	切込	在地	不明
川内駅部Ⅲ層上面遺構 (19世紀前半～中頃)	11	5	12	1	4	2	1	54	3	9	3	1	15	22
川内駅部Ⅳ層上面遺構 (18世紀前半～19世紀前半)	48	26	97	0	16	18	3	517	42	100	3	0	51	161
川内駅部Ⅴ層上面遺構 (17世紀前半～後半)	7	5	10	0	7	0	1	0	0	0	1	0	2	11

第19表 川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区陶器産地別数量一覧表

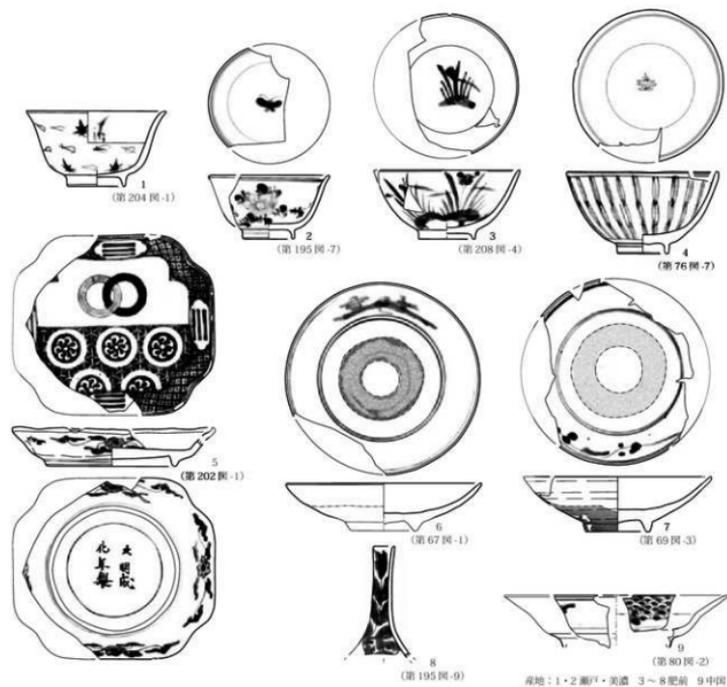


第340図 V層・V層上面遺構 IV出土遺物

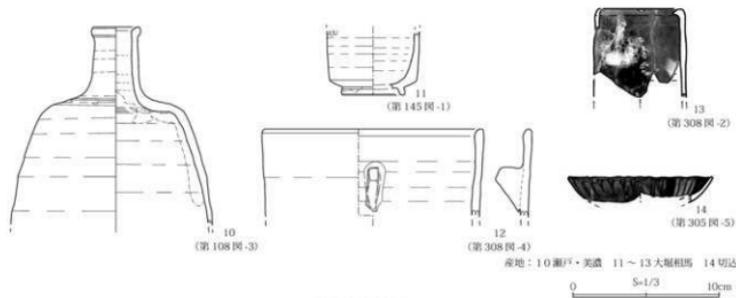
第1節 出土遺物について



IV層上面遺構出土遺物
第341図 IV層上面遺構出土遺物



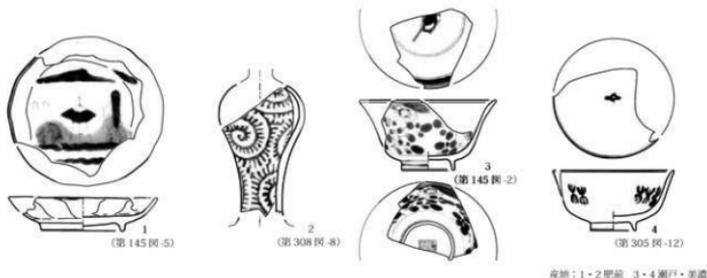
IV層上面遺構出土遺物



III層出土遺物

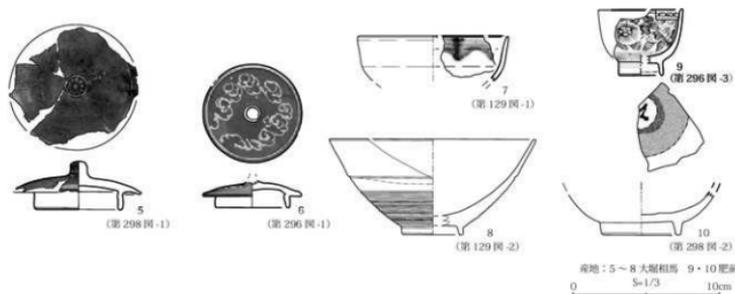
第342図 IV層上面遺構 III層出土遺物

第1節 出土遺物について



産地：1・2肥前 3・4瀬戸・美濃

Ⅲ層出土遺物



産地：5～8大塚相馬 9・10肥前

Ⅲ層上面遺構出土遺物

第343図 Ⅲ層・Ⅲ層上面遺構出土遺物

2 SX21・池1出土の鍋島焼について

(1) 鍋島焼について

鍋島焼は、鍋島藩が將軍家への献上や、大名、公家への贈答品として佐賀の御道具山で特別に作らせていた磁器である。この鍋島焼は、木盃形の皿、柳高台、七宝結び文の組み合わせなどが特徴として上げられ、碗、碗蓋、皿、鉢、猪口、壺、瓶、水注、釜、蓋といった様々な器種が作られている。また、平成元年と平成12年に調査が行われた初期の鍋島焼が製作されていた日峰社下窯の調査成果や、東京を中心とした各消費地遺跡での出土例の蓄積に伴い、それまで初期・盛期・後期に編年分類されていたものが、大橋康二氏によって、草創期・初期・盛期・中期・後期という編年観が新たに示されている。

現在までの宮城県内における鍋島焼の出土例は、宮城県教育委員会によって調査が行われた、上野館跡第3次調査のⅢ区池跡(SX01)において出土した1点のみである。器種は皿で、法量は、底径11.5cm、器高5.2cmを測り、見込みには桃文、外面には七宝結び文、高台には柳歯文が描かれている。年代は1730～1770年に製作されたと考えられ、中期の鍋島焼にあたる。

本調査において出土した鍋島焼は、川内駅跡Ⅱ区Ⅳ層上面遺構のSX21から1点、池1の新段階から1点の計2

点が確認され、県内においては2例目の出土例となる。

(2) 器種と年代

SX21 から出土した鍋島焼は、1層から高台部分が出土している。約2.5cmの細片で、外面には櫛歯文が描かれている。器種は、高台の形状から皿と考えられるが、年代については細片のため不明である（写真1）。

池1新段階の堆積層から出土した鍋島焼は、9層から1点、11層から1点破片が出土しており、同一個体で接合する（第344図）。器種は皿で、法量は、口径15cm、底径8.2cm、高さ4.4cmを測る5寸皿である。形状は、口唇部がやや外反し段状を呈する。文様は、見込みに濃淡の二種の呉須で水草が描かれ、中央には海老が描かれている。外面には四つの玉の七宝結び文、高台部分には櫛歯文が描かれている。また伝世品として伝わっている、口径15cm、底径8.0cm、高さ4.3cmで、見込みに海老水草文、外面には四つの玉の七宝結び文、高台部分には櫛歯文が描かれた小皿は、文様、法量ともに本遺構より出土した鍋島焼の皿と類似する。このことから、池1より出土した鍋島焼も、伝世品と同様に、1720～1740年代頃に製作された中期の鍋島焼であると考えられる（第344図）。

(3) 出土状況

SX21の1層から出土した鍋島焼は、基本層であるⅢ層相当の堆積土から出土し、池1新段階から出土した鍋島焼は9層と11層から出土している。ともに池1新段階の堆積土であるが、9層は廃絶時の埋め戻し、11層は池1新段階存続期の水性堆積層である。そのため、11層帰属の遺物が9層に巻上げられたのは多少困難であるため、9層が埋め戻された際に11層まで混入したものであると考えられる。

(4) まとめ

本調査において出土した鍋島焼は、19世紀前半頃の造成に伴う遺構内の客土から出土しており、両遺構とも、18世紀代の肥前産の磁器、18世紀後半～19世紀前半の大塚相馬産の陶器、19世紀以降の瀬戸・美濃産の磁器等の遺物が共存して出土し、堆積状況も遺物と多量の礫や炭化物が混ざり込む堆積土の中から出土している。これらのことから、出土した鍋島焼は、SX21と池1に直接破棄されたものではなく、造成の際に運ばれた客土の中に混入していたものと考えられる。

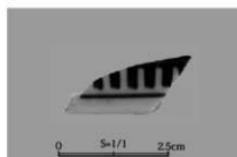
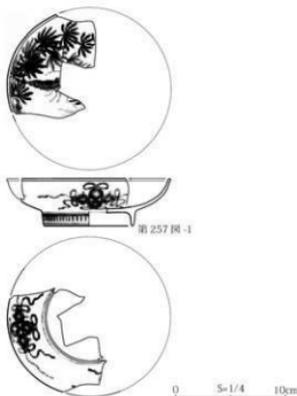


写真1 SX21 性格不明遺構出土 鍋島焼



第344図 池1新段階出土 鍋島焼

第2節 検出された整地層と遺構について

1 各整地層の年代と遺物の接合関係について

本調査では、Ⅰ～Ⅵ層の基本層を検出し、そのうち基本層Ⅲ層～Ⅴ層は近世の整地層である。これら整地層は検出位置と堆積状況から細分することができ、川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区では、Ⅲ層はⅢa～Ⅲd層の4層、Ⅳ層はⅣa1～Ⅳe層の6層、Ⅴ層はⅤa1～Ⅴc層の6層に細分できる。立坑部では、Ⅲa・Ⅲb層の2層に細分される。この各整地層からは近世の遺物が出土しており、川内駅部Ⅱ区の東側で検出したⅢc層、同南西側において検出したⅢd層より出土した遺物及び、同層の下層に堆積するⅣ層の上面において検出した遺構の堆積土内より出土した遺物との接合が認められた(第345図・第20表)。

遺物の接合状況は、第345図・第20表に示したように、川内駅部Ⅱ区の南西側において検出したSK66の1層・SK71の1層(第207図-10)、SK73の2層・Ⅲd層(第210図-4)など、近接する遺構。または、距離の離れた遺構の上層部の堆積や、遺構と基本層であるⅢd層から出土した遺物同士の接合が認められた。これは、第4章の第8図で示したように、SK70等の遺構の堆積土が沈んだ窪地部分にⅢd層が入り込んで堆積したものや、SK71のように、Ⅲd層により整地を行う直前まで、ごみ穴として使用されたか、もしくは、ある時期に遺構の一部を埋め戻したものの、その後、埋め戻されず、開口したまま放置されていたと考えられる遺構にⅢd層が堆積したためと考えられる。

川内駅部Ⅱ区東側においても同様の傾向が見られ、SK103の1層・P192の1層(第229図-2)、池3の7層・SD39の1層(第282図-5)、池2の1層・Ⅲc層(第279図-1)など、遺構間や、Ⅲd層出土遺物同士の接合が認められた。また、SK64の1層・Ⅲc層(第195図-9)のように、Ⅲd層と遺構内に堆積したⅡ区南西において検出した遺構の上層に堆積するⅢd層相当の堆積土との接合も認められた。

これらの接合する遺物の産地と種別は、大堀相馬産の陶器、肥前産の磁器、波佐見産の磁器、在産地の土師質土器で、器種も碗、皿、瓶、水指、土瓶、乗燭と多様である。遺物の年代は、第181図-3、第195図-9が18世紀前半～中頃とやや遺物の時期は遡るものの、概ね18世紀中～19世紀中頃の陶磁器であり、遺物の年代に時期差が認められないことから、同時期に調査区内に運び込まれた整地土である可能性が推測される。

以上の結果と、Ⅲ層整地層の堆積状況から、川内駅部Ⅱ区において検出したⅢ層整地層は、19世紀前半以降に武家屋敷の造成、または、改築等に伴い調査区一帯を整地した整地層であると考えられる。また、このⅢ層上面において検出した遺構からは、19世紀中頃の太堀相馬産の土瓶の蓋(第345図-5)、19世紀中以降のイッチン技法が用いられた太堀相馬産の土瓶の蓋(第343図-6)等が出土しており、出土遺物から、Ⅲ層の下限は19世紀中頃であることが考えられる。

このⅢ層の年代を基準に、下層に堆積するⅣ層、Ⅴ層整地層と遺構の年代について述べる。

まず、上記に述べた結果から、Ⅲ層の直下に堆積するⅣ層整地層とⅣ層上面より掘り込まれている遺構は、Ⅲ層によって造成されるまでは、生活面として使用されていたことが考えられる。また、Ⅳ層上面で検出した遺構の上層部の堆積に見られるⅢ層相当の堆積土以外から出土した陶磁器は、16世紀末～17世紀初頭の中国産の磁器(第342図-8)が一部混入するものの、概ね17世紀末～18世紀後半頃の遺物である(第341図-1・10、第342図-6・7)。整地層であるⅣ層内から出土した遺物は、やや時代の遡る17世紀前葉の織物の皿(第340図-16)等が含まれているものの、遺構内出土遺物と時期差がさほど認められない18世紀前半～後半頃の遺物が出土している。これら遺物の出土状況から、Ⅳ層整地層の上限は18世紀前半頃、下限は19世紀前半と考えられる。Ⅴ層整地層は、第4章で述べたように、川内駅部Ⅰ区の西側端部の一部でしか検出されていない。本報告では、Ⅰ区の東側とⅡ

第2節 検出された整地層と遺構について

区において検出した遺構においてV層上面遺構と判断した遺構は、IV層直下のVI層（基盤層）直上からの掘り込みが確認できた遺構や、SD24のように堆積土内から16世紀末～17世紀代の時期を主体とした遺物が出土していることが認められた遺構を、V層上面遺構としている。このように調査において、V層上面の年代を決定するための情報はあまり得られていないのが実状である。今後、再検討の必要性が考えられるが、第340図1～5に示したように、唯一確認できたV層整地層より出土した陶磁器が、16世紀末～17世紀前半を主体としていることや、平成18年度の仙台城跡の調査のV層上面において17世紀初頭と考えられるSN1（地鎮遺構）が検出されていることなどから、V層整地層の上限は仙台城と城下の普請が開始された17世紀前半頃と考えられる。下限については、V層上面遺構の堆積土内から16世紀末～17世紀後半頃を主体とする陶磁器（第340図-6～14）等が出土していることや、IV層整地層の上限が18世紀前半と考えられることなどから、V層の下限は17世紀後半頃であると考えられる。

これらのことから、川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区、立坑部において検出した近世の整地面と遺構は、

Ⅰ期・・・・・・・・・・V層 17世紀前半～17世紀後半

Ⅱ期・・・・・・・・・・IV層 18世紀前半～19世紀前半

Ⅲ期・・・・・・・・・・Ⅲ層 19世紀前半～19世紀中頃

といったように、大別してⅢ期に時期区分することができる。

なお、川内駅部Ⅱ区の西側に隣接し、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）によって調査、報告された近世の整地面と遺構は、整地層の堆積状況や出土遺物からⅣ期に時期区分されており、それぞれの下限は、

Ⅰ期・・・・・・・・・・17世紀末

Ⅱ期・・・・・・・・・・19世紀前半

Ⅲ期・・・・・・・・・・19世紀中頃（明治初頭）

Ⅳ期・・・・・・・・・・19世紀中以降（明治初期～明治20年前後）

と考えられている。Ⅳ期については明治期に属するため、本調査において時期区分は行っていないが、Ⅰ～Ⅲ期のそれぞれの時期区分に関しては、本調査と大きな相違は見受けられない。しかし、平成18年度に調査、報告が行われた川内駅部Ⅰ区の西側に隣接する仙台城跡の調査では、本調査と同様に大別してⅢ期に時期区分がなされているものの、

Ⅰ期・・・・・・・・・・17世紀前半～17世紀中頃

Ⅱ期・・・・・・・・・・17世紀後半～18世紀中頃

Ⅲ期・・・・・・・・・・18世紀後半～19世紀中頃

と時期区分され、本調査区と東北大学による調査の両調査と照らし合わせると、若干の齟齬をきたしている。整地層とその上面において検出した遺構の年代観のすり合わせ、検討は今後の課題である。

2 区画施設について

前述したように、整地層と遺構の検出状況及び遺物の出土状況から、本調査において検出した近世の整地面と遺構は大別してⅢ期に時期区分することができた。このⅢ期に大別した各整地層上面において検出した遺構のうち、その検出状況と規模から区画施設と考えられ溝跡と柱列跡を、Ⅰ期では溝跡4条、柱列跡1条、Ⅱ期では溝跡4条、柱列跡1条、Ⅲ期では溝跡2条、柱列跡3条を検出している。これら区画施設と考えられる溝跡と柱列跡は切り合い関係と検出状況から時期差が見受けられ、これを時期別に細別すると近世の区画施設はⅠa期～Ⅲa期の5期に細別できる。なお、Ⅲ層整地層上面において検出した明治期と考えられる区画施設はⅢb期とした。この区画施設と考えられる遺構の時期区分は以下に示した。また、区画施設を基準とした、各遺構の時期区分と重複関係は第352図に示した。

Ⅰ期 V層上面遺構（17世紀前半～後半）

〔Ⅰa期〕 SA2、SD31・34・46

＊V層上面Ⅰ期検出遺構と対応

〔Ⅰb期〕 溝跡と柱列（SA5、SD15・24）

＊V層上面Ⅱ期検出遺構と対応

Ⅱ期 IV層上面遺構（18世紀前半～19世紀前半）

〔Ⅱa期〕 SA6、SD14、SD38

〔Ⅱb期〕 SD37

Ⅲ期 III層上面遺構（19世紀前半～19世紀中頃）

〔Ⅲa期〕 SA7、SD8

〔Ⅲb期〕 SA1・3、SD3

＊Ⅲb期はⅢ層上面において検出しているが、明治期の遺構と考えられる。

(1) Ⅰ期 V層上面遺構（17世紀前半～後半）〔Ⅰa・Ⅰb期〕

川内駅部Ⅰ・Ⅱ区V層上面において検出した遺構は、建物跡1棟、柱列跡4条、溝跡11条、井戸跡1基、土坑41基、ビット70基、性格不明遺構14基である。これら、検出遺構のうち武家屋敷に伴う区画施設と考えられる遺構はSA2・5、SD15・34・42・46を検出している。

〔Ⅰa期〕

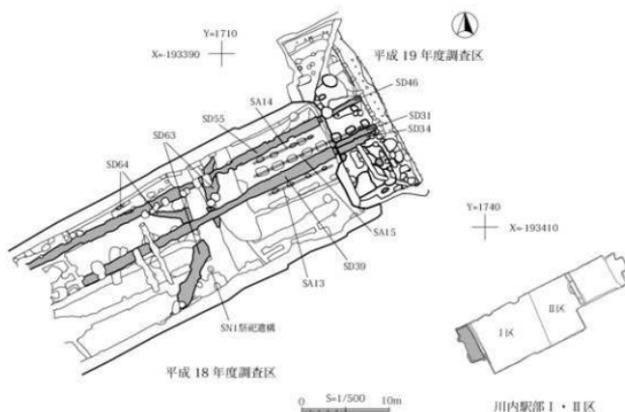
川内駅部V層古段階において検出された区画施設は、Ⅰ区の西端部において、武家屋敷地内における初期の段階の区画施設と考えられる柱列跡（SA2）と区画溝跡（SD31・34・46）を検出している。この区画施設は、平成18年度の調査において確認された遺構と同一の区画施設であり、それぞれの遺構は以下のように対応する（第21表）。

平成18年度仙台城調査区画施設		平成19年度仙台城調査区画施設
SD39	⇔	SD34
SD55	⇔	SD46
SA1	⇔	SA2

第21表 Ⅰa期検出遺構対応表

第2節 検出された整地層と遺構について

SD39・34の総長は、37.5mを測り、主軸方向はN-60°-Eを示す。北側にはSA15・SA2が平行してのびており、規模は、総長11.88m、柱間の寸法は1.80～1.92m（5尺7寸～6尺3寸）を測り、主軸方向はN-61°-Eを示す。この柱列跡の南側には、総長35.5mを測り、主軸方向N-62°-Eを示すSD55・46の区画溝が平行して延びている。SD55・46の東側は近代の造成の際に削平され、東側に延びる範囲は確認できなかったが、SD39・34の東側が調査区外手前で丸く収束することから、SD55・46も同様に収束するものと思われる。また、調査において、SD34は規模を縮小してSD31造り変えられたことが確認された（第346図）。



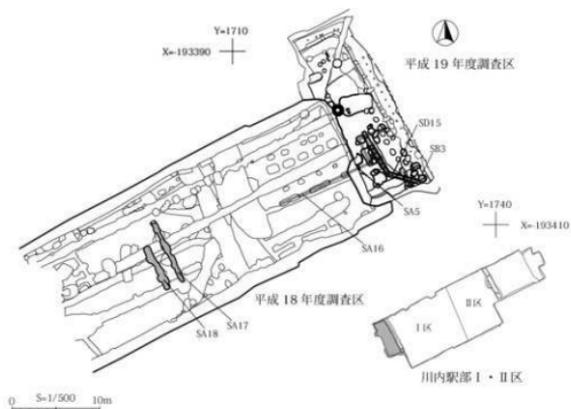
第346図 川内駅部Ⅰ区Ⅰa期の区画施設

[1b期]

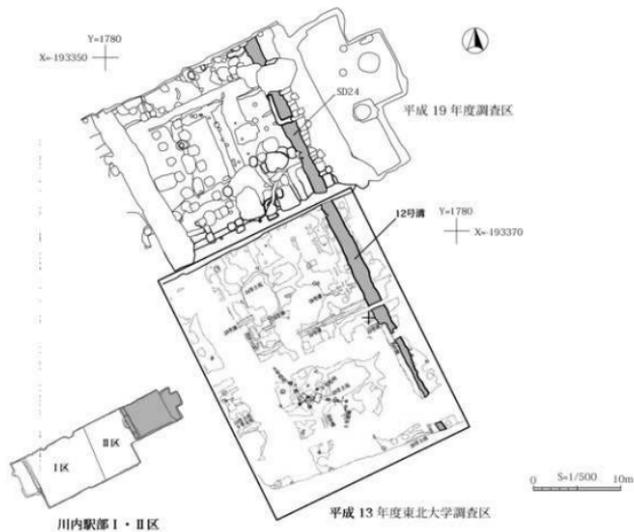
川内駅部V層新段階において検出された区画施設は、Ⅰ区の西端部では、SA5、SD15を検出し、川内駅部Ⅱ区東端部では、SD24を検出している。また、平成18年度の仙台城跡の調査において確認されたSA16は、本調査において検出されたSA5と接続し、総長19.15mを測り、途中、鍵形に屈曲しながら北東方向に延びることが確認された。主軸方向は、N-31°-W～N-62°-Eを示し、柱間の寸法は1.46～1.96m（4尺8寸～6尺5寸）を測る。

また、この柱列跡の東側において検出されたくの字状を呈する溝跡（SD15）は検出状況からSA16・SA5に伴うことが考えられる。主軸方向はN-30°-E～N-73°-Eを示す（第347図）。

川内駅部Ⅱ区において検出したSD24は、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）の調査によって確認された12号溝と同一の溝跡で、南東から北西方向に直線的に50.47m延びる区画溝であることが確認された。主軸方向はN-25°-Wを示している（第348図）。



第347図 川内駅部I区I b期の区画施設



第348図 川内駅部II区I b期の区画施設

第2節 検出された整地層と遺構について

(2) II期 IV層上面遺構(18世紀前半～19世紀前半)〔II a・II b期〕

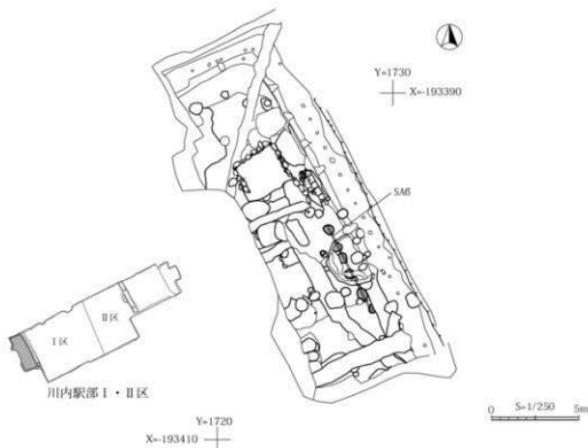
川内駅部Ⅰ・Ⅱ区のIV層上面において検出された遺構は、建物跡1棟、柱列跡1条、溝跡18条、土坑46基、性格不明遺構23基、ピット107基、階段状遺構1基、池跡3基を検出し、そのうち、区画施設と思われる遺構は、柱列跡1条、溝跡3条を検出している。

〔II a期〕

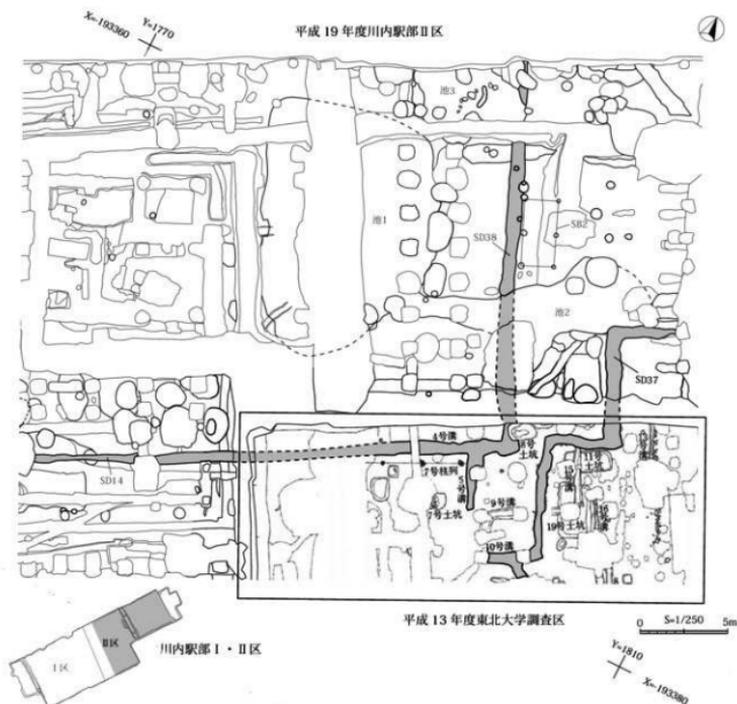
川内駅部Ⅰ区西端部においてSA6、川内駅部Ⅱ区では、SD14・37・38を検出している。SA6の柱列跡は、北西から南東に途中やや屈曲しながら延び、総長5.78mを測る。柱間の寸法は0.96～1.4m(3尺1寸～4尺6寸)を測り、主軸方向は $N-27^{\circ}-E \sim N-37^{\circ}-E$ を示す。検出状況から武家屋敷を区画する柱列跡と思われる(第349図)。川内駅部Ⅱ区東端部において、区画施設と思われる2条の溝跡を検出している。検出したSD14とSD38は、平成13年度に東北大学埋蔵文化財研究センター(現:東北大学埋蔵文化財調査室)の調査によって確認された鍵の手状を呈する4号溝と繋がり、溝の形状はL字状を呈する。総長は29.23mで、武家屋敷を区画する区画溝であることが確認できた。主軸方向は $N-63^{\circ}-E \sim N-30^{\circ}-W$ を示している(第349図)。

〔II b期〕

川内駅部Ⅱ区東端部においてL字状を呈するSD37を検出し、溝跡の南側が、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターの調査によって確認された10号溝と繋がり、総長23.3mを測る武家屋敷を区画する区画溝であることが確認できた。主軸方向は $N-23^{\circ}-E \sim N-30^{\circ}-W$ を示す(第350図)。



第349図 川内駅部Ⅰ区Ⅱa期の区画施設



第350図 川内駅部II区II a・II b期の区画施設

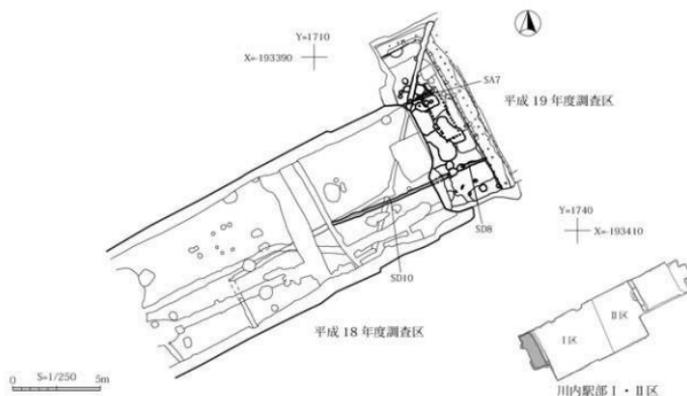
(3) III期 III層上面遺構 (19世紀前半～中頃) [III a期]

川内駅部I・II区、立坑部のIII層上面において検出された遺構は、建物跡1棟、柱列跡3条、溝跡14条、井戸跡3基、土坑40基、ピット90基、性格不明遺構8基、上水施設1基、木樋1条の遺構を検出している。そのうち、区画施設と思われる遺構は、柱列跡1条、溝跡1条を検出している。

[III a期]

川内駅部I区西端部においてSA7とSD8の区画施設を検出している。SA7の柱列跡は総長3.28mを測り、柱間の寸法は1.32m(4尺3寸)を測る。主軸方向はN-62°-Eを示す。SD8の溝跡は、平成18年度の調査において確認されたSD10と繋がり、総長34.28の区画溝である。主軸方向はN-67°-Eを示す(第351図)。

第2節 検出された整地層と遺構について



第351図 川内駅Ⅰ区Ⅲa期の区画施設

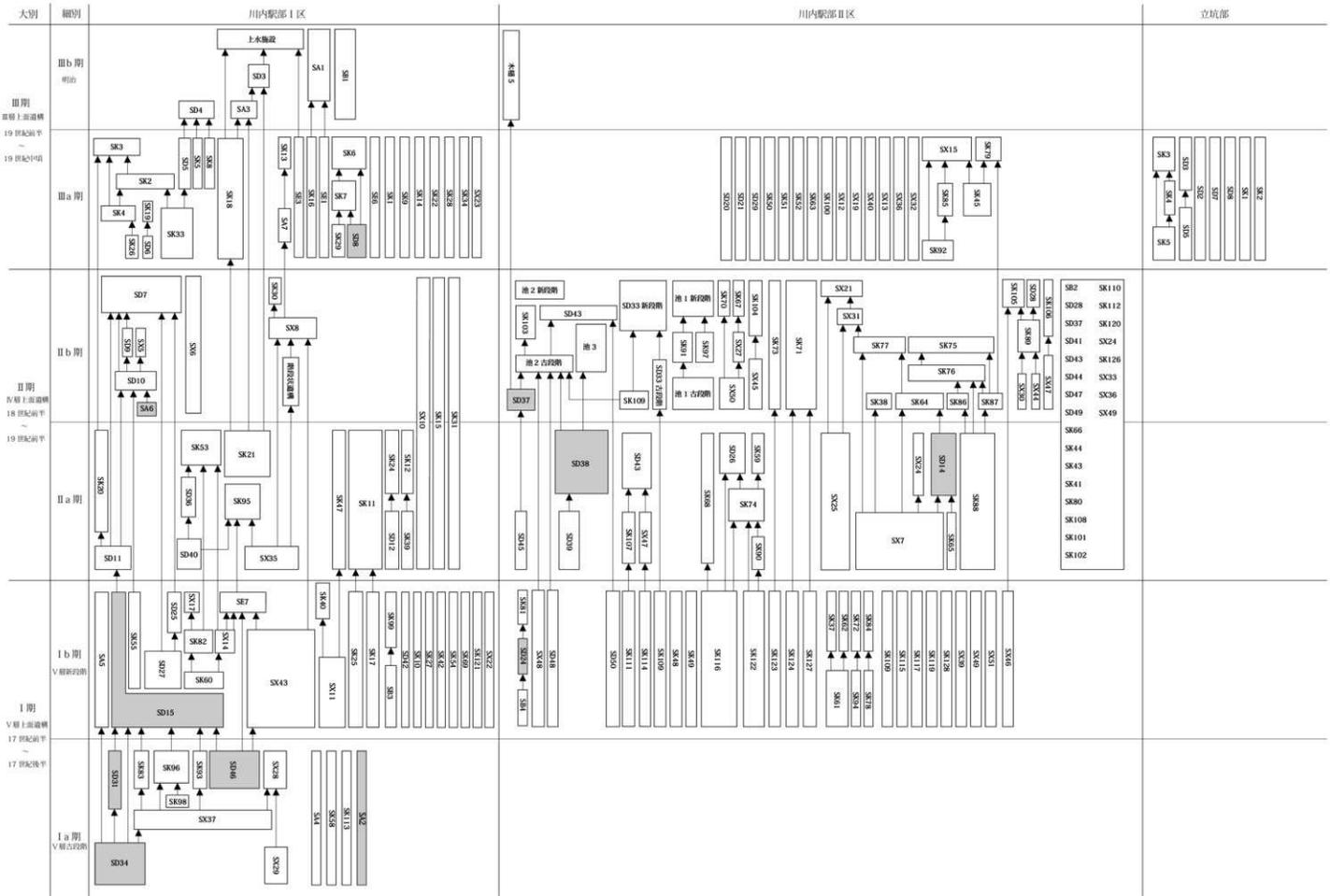
調査区	時期	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅰ区	Ⅲa期	Ⅲ層	SA7	N-62°-E
Ⅰ区	Ⅲa期	Ⅲ層	SD8	N-67°-E
Ⅰ区	Ⅱa期	Ⅳ層	SA6	N-27°-E ~ N-37°-W
Ⅰ区	Ⅰb期	V層	SA5	N-31°-E ~ N-62°-W
Ⅰ区	Ⅰb期	V層	SD15	N-30°-E ~ N-73°-W
Ⅰ区	Ⅰa期	V層	SA2	N-61°-E
Ⅰ区	Ⅰa期	V層	SD31	N-62°-E
Ⅰ区	Ⅰa期	V層	SD34	N-60°-E
Ⅰ区	Ⅰa期	V層	SD46	N-62°-E

調査区	時期	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅱ区	Ⅱb期	Ⅳ層	SD37	N-30°-E
Ⅱ区	Ⅱa期	Ⅳ層	SD38	N-23°-E ~ N-30°-W
Ⅱ区	Ⅱa期	Ⅳ層	SD14	N-63°-E
Ⅱ区	Ⅰb期	V層	SD24	N-25°-E

第22表 川内駅Ⅰ区・Ⅱ区区画施設別方位

(4) 区画施設のまとめ

以上のように、本調査において検出した近世の区画施設をⅠa期～Ⅲa期の5期に分類した結果、それぞれの遺構の検出状況には以下のような傾向が見られた。17世紀前半～19世紀中頃にかけて検出された武家屋敷に伴う区画施設は、南西から北東方向に延びるものと、南東から北西方向に延びるものの2種類に分かれる傾向が見られた。また、主軸方向も南西から北東方向がN-60°-E～N-73°-Eを示し、南東から北西方向がN-27°-W～N-37°-Wを示すことから、同一の方向性、区画性が窺われる。これらのことから、検出された区画施設は、時期によって形状と規模が変わるものの、17世紀の前半～19世紀中頃にいたるまで、土地利用の変化や改築・改修が行われることはあっても、ある一定の規則に沿った屋敷割は、踏襲され続けていたものと推測される。



第 352 図 仙台城跡検出遺構時期別変遷模式図

3 整地層と検出遺構のまとめ

本調査区では、Ⅲ層～Ⅴ層の近世の整地層を検出し、Ⅲ層整地層と遺構内より出土した陶磁器類の接合関係及び各整地層と遺構内より出土した遺物の時期差から、近世の整地層と遺構を大別してⅠ～Ⅲ期に時期区分することができた。また、各時期において検出された柱列跡と溝跡は、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センター（現：東北大学埋蔵文化財調査室）によって行われた調査と、平成18年度に行われた仙台城跡の調査により確認された柱列跡や溝跡と接続するものが確認され、その形状と規模から武家屋敷地の区画する区画施設であることが考えられた（第346図～第351図）。この、武家屋敷地の区画施設と考えられる柱列跡と溝跡は、Ⅰ期では柱列跡2条、溝跡5条、Ⅱ期では柱列跡1条、溝跡3条、Ⅲ期では柱列跡1条、溝跡1条を検出し、検出状況及び遺構の切り合い関係から各区画施設の使用時期に時期差があることを確認でき、これら区画施設を時期別に変遷すると、近世はⅠa期～Ⅲa期の5期、明治期の区画施設と考えられる柱列跡と溝跡のⅢb期を合わせて、6期に細別することができた（第352図）。本調査においては、この区画施設を基準にし、調査によって検出した主要遺構も検出状況と切り合い関係から時期区分している（第352図）。では、近世において武家屋敷として使用されていたと考えられる調査区内の遺構の変遷について時期別に述べる。

Ⅰ期 17世紀前半～後半〔Ⅰa期・Ⅰb期〕

Ⅰ期は、Ⅰa・Ⅰb期に細別される。Ⅰa期は川内駅部Ⅰ区の西端でのみ遺構が検出されている。Ⅰa期の時期は、17世紀前半頃で、南西から北東方向に延びるSD34・46といった大型の区画溝と考えられる溝跡が造られている。同時期と考えられる遺構の検出は少なく、2条の区画溝との関連性が認められる遺構はSA2のみである。しかし、SD34の北側に平行して延びるSA2の柱列跡も、両区画溝が北東から南西方向に40.58～40.87m延びるのに対し、柱列跡は総長11.88mの8間しか柱穴は検出されていない。区画溝跡と平行していることや、柱穴の規模から区画溝に伴う脚跡と推測されるが不明な点も多く、今後、SA2については、再度、検討が必要であると考えられる。また、本調査において検出したSD34の区画溝は、後に規模を縮小したSD31に造り変えられていることが確認できた。

Ⅰb期は17世紀前半以降と考えられ、このころになると、川内駅部Ⅰ区西端部において溝跡（SD15）と硬化面（SX11）を伴う柱列跡（SA5）が造られ、南側には塙に付属する可能性が考えられる柱跡（SB3）や土坑等を多数検出するが、屋敷跡と考えられる建物跡は検出されなかった。一方、北側には井戸跡（SE7）と魚骨、種子等が堆積土内から出土し、廃棄土坑の可能性が考えられるSX43を検出している。北側は南側と様相が変わり、井戸跡や、生活ごみ等を破棄する廃棄土坑等が検出されている。

川内駅部Ⅱ区の東端では南東から北西方向に総長50.47m延びる区画溝跡（SD24）が造られている。このSD24の東側は近代の造成により大きく削平され、西側は、Ⅲ層上面遺構の池1～3に周辺を大きく削平されているため、この区画溝跡に伴う柱列跡等の遺構は検出されていない。

Ⅱ期 18世紀前半～19世紀前半〔Ⅱa期・Ⅱb期〕

Ⅱ期もⅡa・Ⅱb期に細別される。Ⅱa期の時期は18世紀前半～中頃で、川内駅部Ⅱ区において、検出したSD14・38が、平成13年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターの調査によって確認された4号溝と接続が考えられ、総長50.6mのL字状を呈する区画溝であることを確認した。Ⅱ区の東側に位置するSD38は、近代の擾乱や、Ⅱb期に属する池1～3に周辺を削平されているため、やはり区画施設に伴う柱列跡等の遺構は確認できなかった。Ⅱ区南西に位置するSD14の南側周辺は近代の擾乱に削平され、近世の遺構はほとんど確認できなかった。SD14の北側は近世の土坑群が密集しており、やはり、区画施設に伴う柱列跡等の遺構は確認できなかった。また、この、SD14の北側に密集する土坑群は、当初、遺構の規模等から廃棄土坑の可能性も考えられたが、遺構の上層部に堆積するⅢd層からは、多量の陶磁器等の遺物が出土するものの、その下層に堆積する堆積土内からの遺物の出土や腐食物等の堆積はほとんど見受けられなかった。重複関係から、何度も同じ場所を掘り返していた

第2節 検出された整地層と遺構について

ように見受けられるが、不明な点も多く、今後、近世の武家屋敷周辺の土地利用のあり方を考えていく上で、これら土坑群の性格の検討が必要であると考えられる。

Ⅱ b 期の時期は 18 世紀中頃～19 世紀前半で、川内駅部Ⅰ区西端では、南東から北東方向にやや屈曲しながら延びる区画施設と考えられる柱列跡 (SA6) が造られている。この柱列跡は、重複する SD10、SX5 より古く、周辺の遺構と比べるとⅡ b 期の中でもやや時期が遡るものと推測される。また、この柱列跡より北側には、階段状遺構、石組み枘状遺構 (SX8)、石敷き遺構 (SX6) が検出された。川内駅部Ⅱ区の東側では、平成 13 年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターの調査によって確認された 10 号溝と接続すると考えられる区画溝 (SD37) を検出し、総長は 23.4m を測る。池 2 に周辺を削平されているため、やはり区画施設に伴う柱列跡等の遺構は確認できなかった。調査において、この区画溝 (SD37) を削平する池 2 を検出している。この池 2 は池 1、SD33 (竹樋・溝跡) の 3 基の遺構から構成される池跡である。この池跡は、調査により池の造り変えがなされたことが確認され、新旧 2 時期あることがわかっている。また、池の堆積土内からは 18 世紀前半～19 世紀前半を主体とする陶磁器が出土しており、18 世紀後半～19 世紀前半頃にかけⅡ区の東側の屋敷地内は大きく造り変えられていることが考えられる。

Ⅲ期 19 世紀前半～中頃 [Ⅲ a 期・Ⅲ b 期]

Ⅲ期もⅢ a・Ⅲ b 期に細別される。Ⅲ a 期の時期は 19 世紀前半～中頃で、近代の造成により大きく削平されているため、検出遺構数は少ない。川内駅部Ⅰ区の西側端部において、唯一区画施設と考えられる SD8 を検出している。この SD8 は、平成 18 年度の仙台城跡の調査において確認された溝跡 (SD10) と接続する総長 34.28m を測る溝跡である。溝 (SD8) の北側では主に瓦が破棄された廃棄土坑 (SK2～4) が検出されている。立坑部では、SD3・5・6・7 の 4 条の溝跡と 9 基の遺構を検出している。検出された遺構数も少なく、建物跡や柱列跡等も検出されないことから、屋敷境か、屋敷外の可能性が考えられる。

Ⅲ b 期は 19 世紀中以降で、明治期に属する遺構である。柱列跡 (SA1・3)、溝跡 (SD3)、上水施設 (SE2・木樋 1～4)、木樋 5 等が検出され、遺構内から 19 世紀中以降の陶磁器や、明治期の陶磁器が出土している。また、上水施設は調査区全体に巡っており、検出状況から、19 世紀中以降に調査区一体は大きく造り変えられた可能性が考えられる。

以上のように、今回の調査で検出された近世の遺構群は、その整地土の堆積状況や遺構の検出状況、重複関係などから、大別してⅢ期、細別Ⅰ a 期～Ⅲ a 期の 5 期に時期区分されるものと考えられ、近世の遺構の変遷をたどることが可能である。各期において検出することができた区画施設と考えられる近世の柱列跡・溝跡は、Ⅰ a 期～Ⅲ a 期を通してその規模や形状は若干変化しているものの、いずれの場合も同一の方向性・区画性を示していることから、その時々で土地利用の変化や改築・改修が行われることはあっても、ある一定の規格に沿った「屋敷割」は踏襲され続けていたものと推測することができる。今次調査において確認することができた「屋敷割」が、伝世する絵図内のどの部分を占めているのかについては、場所推定の要となる大堀通・裏下馬通・中ノ坂通・亀岡通といった道路遺構の検出がなされきっていない現状では推測の域を出ないが、これまでに調査が行われている周辺部との対比、今次調査で確認することができた近代の沢跡などとの関係から、大堀通・裏下馬通・中ノ坂通・亀岡通に囲まれた範囲と大堀通より西に位置する沢付近が調査区位置付近と推定される。今回調査で検出された建物跡は SB2、SB4 をはじめ数基が存在するが、その規模・形状からは簡易的な構造物の可能性が考えられ、居住区の母屋、庇など主要な建物跡は検出されていないのが現状である。今回の調査成果で確認することができた「屋敷割」の全体像の解明にはいまだ不明な点も多く、今後の調査事例の蓄積と研究の進展が期待される。

第8章まとめ

1. 仙台城跡（川内駅部・亀岡トンネル立坑部）は、広瀬川の蛇行と浸食によって形成された青葉山から北東に張り出す緩く傾斜した仙台上野面に立地し、標高は55.7～70mである。
2. 平成19年4月23日～平成20年2月1日まで発掘調査を行い、調査面積は、川内駅部Ⅰ・Ⅱ区2900㎡、立坑部900㎡である。
3. 調査区周辺は、仙台城跡北側の一角に位置しており、調査では近世を主とした遺物・遺構が検出された。
4. 今回の調査で、近世の遺構は柱列跡8条、建物跡3棟、溝跡43条、井戸跡4基、土坑127基、ピット267基、性格不明遺構46基、階段状遺構1基、池跡3基、上水施設1基、木樋1条の504基である。
5. 整地層と整地層上面で検出した遺構の時期は、整地層の堆積状況と出土遺物から大別Ⅲ期に時期区分できる。また、区画施設と考えられる柱列跡と溝跡の検出状況と切り合い関係の検討から、各期はⅠa～Ⅲb期の5期に細別できる。Ⅰa期は17世紀前半～中頃、Ⅰb期は17世紀中頃～後半、Ⅱa期は18世紀前半～中頃、Ⅱb期は18世紀中頃～19世紀前半、Ⅲa期は19世紀前半～中頃、Ⅲb期は19世紀中以降の明治期の遺構である。
6. 検出された遺構と様相は次のとおりである。
 - Ⅰa期：川内駅部Ⅰ区西端部において区画施設の柱列跡SA2、溝跡SD31・34・46を検出した。
 - Ⅰb期：川内駅部Ⅰ区において、区画施設の柱列跡SA5、硬化面SX11及び一連の遺構と考えられる溝跡SD15を検出した。同Ⅱ区東端部において、区画施設の溝跡SD24を検出した。
 - Ⅱa期：川内駅部Ⅰ区西端部において、区画施設の柱列跡SA6を検出し、同Ⅱ区東端部では、同じく区画施設の溝跡SD14・38を検出した。
 - Ⅱb期：川内駅部Ⅰ区において区画施設の溝跡SD37を検出した。同Ⅱ区において、池Ⅰ・2、SD33（溝跡・竹樋）を検出し、調査の結果、新旧2時期ある事が確認された。
 - Ⅲa期：川内駅部Ⅰ区西端部では、区画施設の柱列跡SA7、溝跡SD10を検出した。また、SD10の北側では、主に瓦を廃棄したSK2～4（廃棄土坑）が検出されている。立坑部では、溝4条（SD3・5・6・7）を検出するものの、建物跡等の遺構は検出されていない。また、近代の沢跡を調査区内において検出しているため、状況から屋敷の端か屋敷外になる可能性が推測される。
 - Ⅲb期：川内地駅部Ⅰ区東側において区画施設と考えられる柱列跡SA1・3、石組溝跡SD3において検出した。川内駅部Ⅰ区・Ⅱ区において検出した上水施設（SE2、木樋1～4）、木樋5は調査区全体に亘っており、明治期に調査区一体が大きく造りかえられた可能性が考えられる。
7. 出土遺物の総数は15818点である。遺物は、縄文土器、瓦、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、石製品、石器、木製品、金属製品、ガラス製品、古銭、土製品等が見られた。出土磁器の産地は肥前、瀬戸・美濃、切込、中国等を、陶器の産地は、肥前系（唐津含む）、瀬戸・美濃系（志野・織部含む）、京焼、岸窯、丹波、大塚相馬、小野相馬、堤焼等の遺物が出土している。
8. 近世の整地面及び遺構から出土した陶磁器は、3632点である。特記遺物として、Ⅳ層上面検出遺構の性格不明遺構SX21から1点、池Ⅰから1点、計2点の鍋島焼が出土している。宮城県内の調査において2例目の出土例である。
9. 調査区内において、区画施設が検出されたことにより、屋敷割の変遷を辿ることができた。しかし、居住区の母屋、庇など主要な建物跡や絵園に見られる通りは検出されておらず、全体像の解明にはいまだ不明な点も多く、今後の調査事例の蓄積と研究の進展が期待される。

第2節 検出された整地層と遺構について

引用・参考文献

- 阿刀田合造 1936『仙台城下絵図の研究』齊藤報恩会博物館図書部研究報告 4
- 伊万里市史編さん委員会 2006『伊万里市史 陶磁器編 古唐津・鍋島』
- 江戸遺跡研究会編 2001『図解 江戸考古学研究辞典』柏書房
- 大橋康二 1994『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』理工学社
- 大橋康二編成 2002『蕎麦箸口辞典』平凡社
- 大橋康二 2007『將軍と鍋島・柿右衛門』藤山各園
- 家家人名事典編纂委員会 2002『三百藩家家人名事典』第一巻 新人物往來社
- 角川書店 1994『宮城県姓氏家系大辞典』
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会 2003『鍋島の生産と流通』第13回 九州近世陶磁学会 資料
- 九州近世陶磁学会 2004『受容層の違いによる九州陶磁の様相』第14回 九州近世陶磁学会 資料
- 坂田啓編 1995『私本仙台藩土辞典』創栄出版
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2006『將軍家への献上鍋島—日本磁器の最高峰—』
- 白金館址遺跡調査会 1988『白金館址Ⅰ』
- 白金館址遺跡調査会 1988『白金館址Ⅱ』
- 白金館址遺跡調査会 1989『白金館址Ⅲ—研究編—』
- 新宮区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡—放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—』
- 瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史 陶磁史篇六』愛知県瀬戸市
- 財団法人瀬戸市文化振興財団 2006『江戸時代のやきもの—生産と流通—』記念講演会・シンポジウム資料集
- 財団法人瀬戸市文化振興財団 2006『江戸時代のやきもの—生産と流通—』平成18年度財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター企画展図録
- 仙台市教育委員会 1985『仙台城三ノ丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集
- 仙台市教育委員会 1995『北目城跡』仙台市文化財調査報告書第197集
- 仙台市教育委員会 2002『仙台城跡Ⅰ—平成13年度調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第259集
- 仙台市教育委員会 2003『仙台城跡Ⅱ—平成14年度調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第264集
- 仙台市教育委員会 2004『仙台城跡Ⅲ—平成15年度調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第270集
- 仙台市教育委員会 2004『仙台城跡Ⅳ—平成15年度調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第271集
- 仙台市教育委員会 2005『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書』仙台市文化財調査報告書 第289集
- 仙台市教育委員会 2006『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書』仙台市文化財調査報告書 第302集
- 仙台市教育委員会 2007『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(3)概要報告書』仙台市文化財調査報告書 第316集
- 仙台市教育委員会 2007『川内A遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ—』仙台市文化財調査報告書第316集
- 仙台市教育委員会 2009『仙台城跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—』仙台市文化財調査報告書第342集
- 仙台市教育委員会 2010『仙台城跡Ⅹ—平成21年度調査報告書—仙台城本丸大広間跡調査成果の総括』
仙台市文化財調査報告書第316集
- 仙台市環境計画課編・松本秀明監修 2001『せんだい空中写真集—杜の都いまむかし』仙台市環境計画課
- 仙台市史編纂委員会 1975『仙台市史8 文書・資料・古代—近世資料篇』
- 仙台市史編纂委員会 1975『仙台市史9 文書・資料・近世—明治資料篇』
- 仙台市史編纂委員会 1975『仙台市史10 年表・書目・索引篇』
- 仙台市史編さん委員会 1994『仙台市史特別編Ⅰ自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史特別編2考古資料』
- 仙台市史編さん委員会 2002『仙台市史通史編3近世Ⅰ』
- 仙台市史編さん委員会 2003『仙台市史通史編4近世Ⅱ』
- 仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史通史編5近世Ⅲ』
- 高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台第一輯』今野印刷株式会社
- 高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台第二輯』今野印刷株式会社
- 東大大学遺跡調査室 1990『東大大学本郷構内の遺跡 法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』東大大学遺跡調査室発掘調査報告書2
- 東京都埋蔵文化財センター 2003『港区宇和島藩伊達屋敷跡遺跡—政策研究大学院大学建設に伴う調査』
東京都埋蔵文化財調査報告書 第141集

- 東京都埋蔵文化財センター 2006『尾張藩上屋敷跡遺跡XⅡ 防衛庁新設建物建設工事に伴う調査』
東京都埋蔵文化財調査報告 第180集
- 東京都埋蔵文化財センター 2006『汐留遺跡Ⅳ-旧汐留貨物駅跡地内の調査-』東京都埋蔵文化財調査報告 第189集
- 土岐市教育委員会 2002『元原敷陶器窯跡発掘調査報告書』(財)土岐市埋蔵文化財センター
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1993『東北大学埋蔵文化財調査年報6』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994『東北大学埋蔵文化財調査年報7』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997『東北大学埋蔵文化財調査年報8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998『東北大学埋蔵文化財調査年報9』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998『東北大学埋蔵文化財調査年報10』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000『東北大学埋蔵文化財調査年報11』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000『東北大学埋蔵文化財調査年報13』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005『東北大学埋蔵文化財調査年報18』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2006『東北大学埋蔵文化財調査年報19』 第1分冊
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2007『東北大学埋蔵文化財調査年報19』 第3分冊
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2008『東北大学埋蔵文化財調査年報19』 第4分冊
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2009『東北大学埋蔵文化財調査年報19』 第2分冊
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2010『東北大学埋蔵文化財調査年報19』 第5分冊
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2010『東北大学埋蔵文化財調査年報24』
- 兵庫埋蔵文化財調査会 1996『日本出土銭総覧』
- 福島市教育委員会 1998『岸窯跡-近世窯跡の調査-』
- 松本秀明・熊谷真樹 2010『広瀬川中流部における完新世の川床高度変化に関する知見』『東北地理学会・北海道地理学会共催秋季学術大会発表要旨 季刊地理学』 Vol.63
- 宮城県宮崎町教育委員会 1990『切込窯跡』宮崎町文化財調査報告書第3集
- 宮城県教育委員会 1994『上野館跡-近世茂庭氏居館跡発掘調査報告書-』宮崎町文化財調査報告書第156集
- 森本伊知郎 2009『近世陶磁器の考古学-出土遺物から見た生産と消費-』南山女子大学研究叢書35 鎌山園
山崎信二 2008『近世瓦の研究』同成社

写 真 图 版



1. I区北壁（南から）



2. II区北壁1（南から）



3. II区北壁2（南から）



4. II区北壁3（南から）



5. II区北壁4（南から）



6. II区北壁5（南から）



7. II区北壁6（南から）



8. II区北壁7（南から）

図版1 川内駅部壁面(1)



1. II区北壁8 (南から)



2. II区北壁9 (南から)



3. II区北壁10 (南から)



4. I区西壁 (東から)



5. I区南壁 (北から)



6. II区南壁1 (北から)



7. II区南壁2 (北から)



8. II区南壁3 (北から)

図版2 川内駅部壁面 (2)



1. II区南壁4 (北から)



2. II区南壁5 (北から)



3. II区南壁6 (北から)



4. II区南壁7 (北から)



5. II区南壁8 (北から)



6. II区南壁9 (北から)



7. 立坑部南壁 (北西から)



8. 立坑部西壁 (南東から)

図版3 川内駅部壁面(3) 立坑部壁面



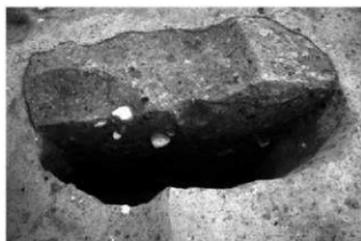
1. SA2・SD34 完掘 (北から)



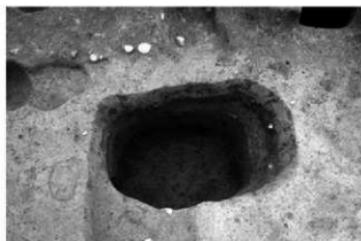
2. SA2-P1 断面 (北から)



3. SA2-P1 完掘 (北から)

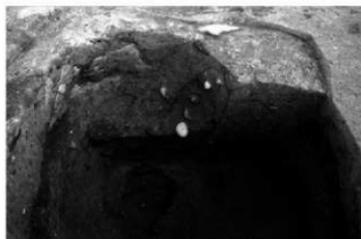


4. SA2-P2 断面 (北から)

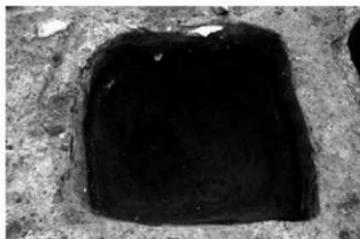


5. SA2-P2 完掘 (北から)

図版4 川内駅部I区V層(1)



1. SA2-P3 断面 (西から)



2. SA2-P3 完掘 (西から)



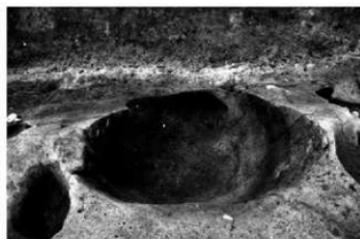
3. SD34A 断面 (東から)



4. SD34B 断面 (東から)



5. SA4-SK56 断面 (西から)



6. SA4-SK56 完掘 (西から)



7. SA4-SK57 断面 (西から)



8. SA4-SK57 完掘 (西から)

図版 5 川内駅部 I 区 V 層 (2)



1. SD31A 断面 (西から)



2. SD31B 断面 (西から)



3. SD31C 断面 (西から)



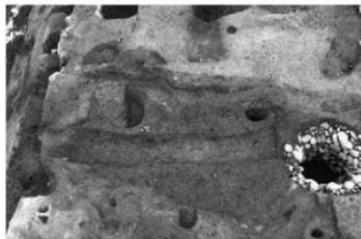
4. SD31 完壁 (西から)



5. SD46A 断面 (東から)



6. SD46B 断面 (東から)

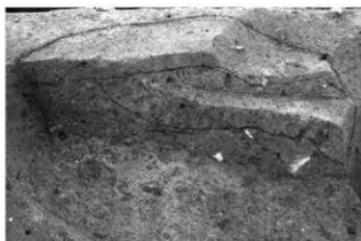


7. SD46 完壁 (北から)

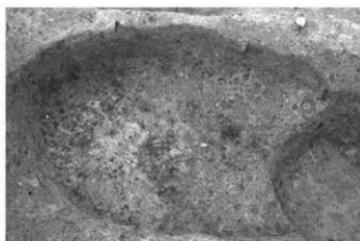


8. SD46 完壁 (西から)

図版6 川内駅部Ⅰ区V層(3)



3. SK58 断面 (東から)



4. SK58 完態 (東から)



3. SK83 断面 (北から)



4. SK83 完態 (北から)



5. SK93 断面 (北から)



6. SK93 完態 (北から)

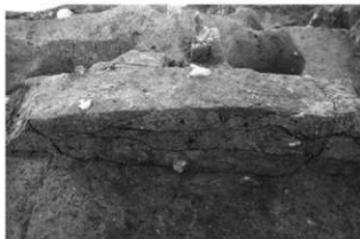


7. SK96 断面 (東から)



8. SK96 完態 (南から)

図版7 川内駅部I区V層(4)



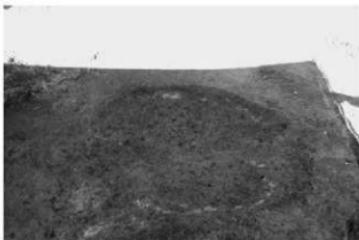
1. SK98 断面 (西から)



2. SK98 先掘 (西から)



3. SK113 断面 (南西から)



4. SK113 先掘 (南西から)



5. SX28 断面 (北から)



6. SX28 先掘 (北から)



7. SX29 断面 (東から)



8. SX29 断面 (北から)

図版 8 川内駅部 I 区 V 層 (5)



1. SX29 有機物層 (西から)



2. SX29 完掘 (西から)



3. SX37 全景 (南から)



4. SX37 断面 (北から)



5. SX37 断面 (北西から)

図版9 川内駅部Ⅰ区V層(6)



1. SAS・SD15 全景 (西から)



2. SD16 断面 (西から)



3. SD16 柱痕検出 (西から)



4. SD16 完掘 (西から)



5. SD30 断面 (東から)

図版 10 川内駅部Ⅰ区Ⅴ層 (7)



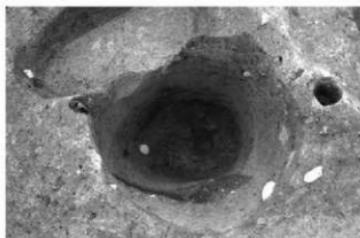
1. P154 断面 (西から)



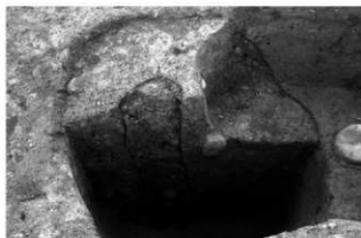
2. P154 完掘 (西から)



3. P199 断面 (北から)



4. P199 完掘 (北から)



5. P229 断面 (北から)



6. P229 完掘 (西から)



7. SD15 北側完掘 (北から)

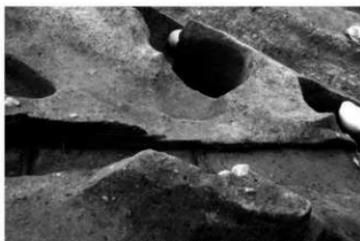


8. SD15 南側完掘 (北から)

図版 11 川内駅部Ⅰ区V層 (8)



1. SD15 東壁倒板検出 (南西から)



2. SD15 東壁倒板検出 (南西から)



3. SD15 西壁倒板検出 (北東から)



4. SD15 西壁倒板検出 (北東から)



5. SD15A 断面 (南東から)



6. SD15 掘り方 A 断面 (南東から)



7. SD15B 断面 (南東から)



8. SD15C 断面 (南東から)

図版 12 川内駅部 I 区 V 層 (9)



1. SD15D 断面 (南東から)



2. SD15E 断面 (南東から)



3. SD15F 断面 (南から)



4. SD15G 断面 (北から)



5. SD15H 断面 (南から)



6. SD15 掘り方H 断面 (南から)



7. SD15 I 断面 (南から)



8. SD15 桟木検出 (南から)

図版 13 川内駅部 I 区 V 層 (10)



1. SD15 構造材検出 (南東から)



2. SD15 掘り方完掘 (南東から)

図版 14 川内駅部 I 区 V 層 (11)



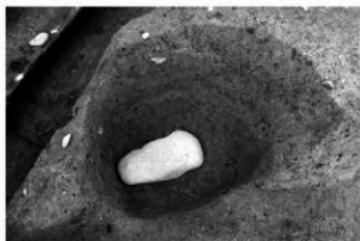
1. SX11 検出 (北東から)



2. SX11 断面 (東から)



3. SB3 P211 断面 (東から)



4. SB3 P211 完形 (南東から)



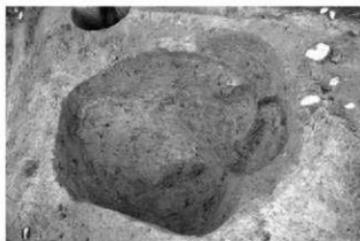
5. SB3 P222 断面 (北から)



6. SB3 P222 完形 (北から)



7. SB3 P223 断面 (北から)

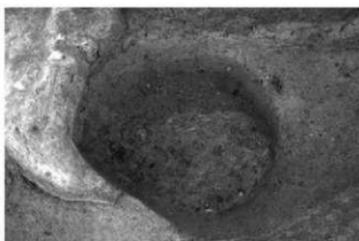


8. SB3 P223 完形 (北から)

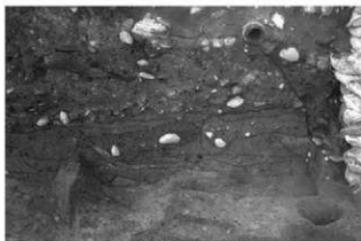
図版 15 川内駅部 I 区 V 層 (12)



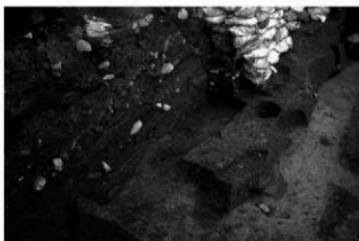
1. SB3 P263 断面 (北から)



2. SB3 P263 完掘 (北から)



3. SD25 断面 (北から)



4. SD25 完掘 (北西から)



5. SD27A 断面 (東から)



6. SD27B 断面 (東から)



7. SD27C 断面 (東から)



8. SD27 完掘 (西から)

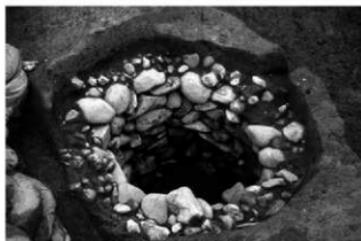
図版 16 川内駅部Ⅰ区V層 (13)



1. SD42 断面 (東から)



2. SD42 完掘 (東から)



3. SE7 完掘 (南西から)



4. SE7 断面 (南から)



5. SK17 断面 (西から)



6. SK25 断面 (西から)



7. SK27 断面 (西から)



8. SK17・25・27 完掘 (南東から)

図版 17 川内駅部 I 区 V 層 (14)



1. SK40 断面 (東から)



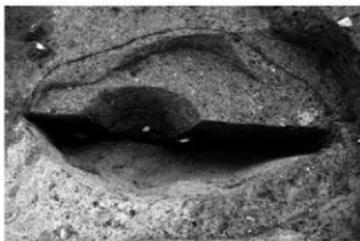
2. SK40 完態 (東から)



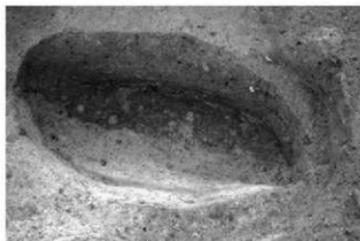
1. SK55 断面 (西から)



2. SK55 完態 (西から)



5. SK60 断面 (北から)



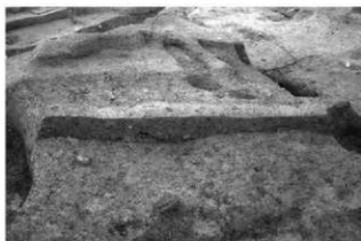
6. SK60 完態 (北から)



7. SK69 断面 (西から)



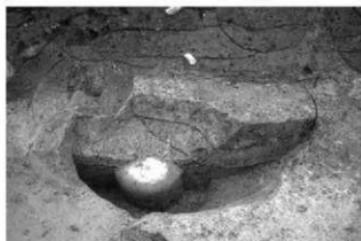
8. SK69 完態 (西から)



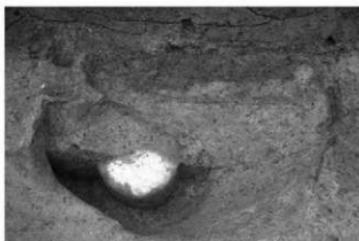
1. SK82 断面 (西から)



2. SK82 完図 (西から)



3. SK99 断面 (北から)



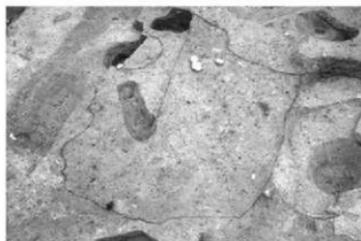
4. SK99 完図 (北から)



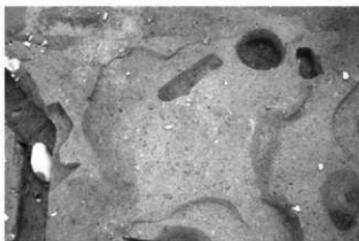
5. SK121 断面 (南から)



6. SK121 完図 (南から)

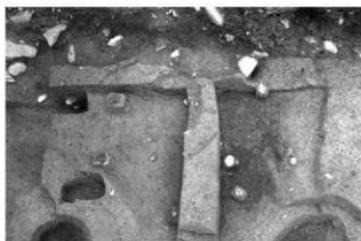


7. SX14 検出 (東から)



8. SX14 完図 (北から)

図版 19 川内駅部 I 区 V 層 (16)



1. SX17 通路出土状況 (東から)



2. SX17A 断面 (北から)



3. SX17B 断面 (北から)



4. SX17 下層 A 断面 (北から)



5. SX17 下層 B 断面 (東から)



6. SX17 完趾 (西から)

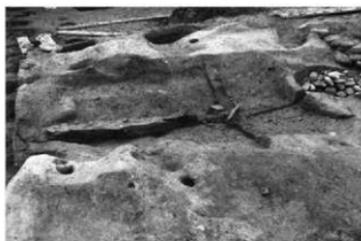


7. SX43 検出 (西から)



8. SX43A 断面 (北から)

図版 20 川内駅部 I 区 V 層 (17)



1. SX43 下層 A 断面 (北東から)



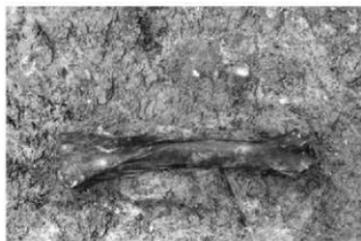
2. SX43B 断面 (東から)



3. SX43 下層 B 断面 (東から)



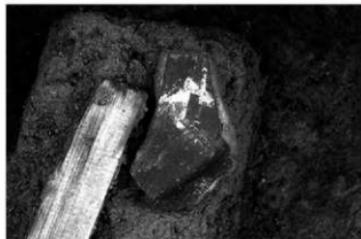
4. SX43 漆器桶出土状況 (北東から)



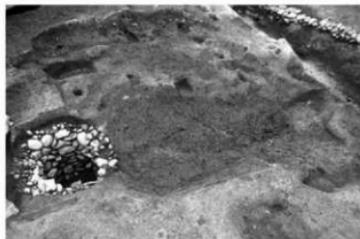
5. SX43 鹿骨出土状況 (北から)



6. SX43 志野出土状況 (東から)



7. SX43 金箔瓦出土 (北から)

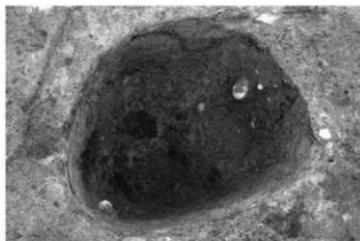


8. SX43 瓦掘 (南西から)

図版 21 川内駅部 I 区 V 層 (18)



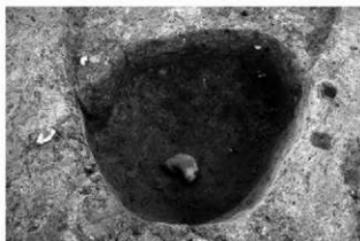
1. SA6 P202 断面 (西から)



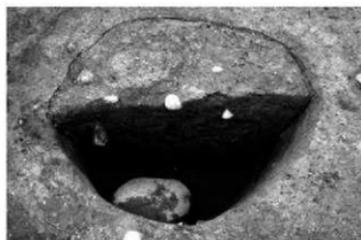
2. SA6 P202 完掘 (西から)



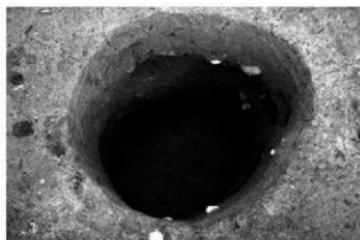
3. SA6 P198 断面 (西から)



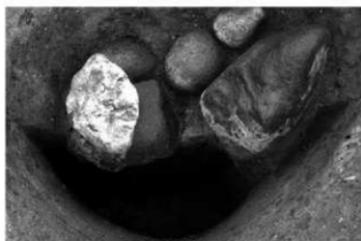
4. SA6 P198 完掘 (西から)



5. SA6 P138 断面 (西から)



6. SA6 P138 下層断面 (西から)

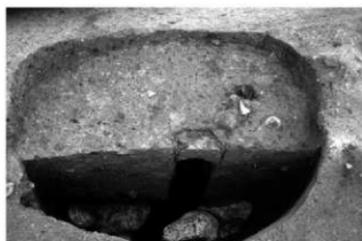


7. SA6 P189 断面 (西から)

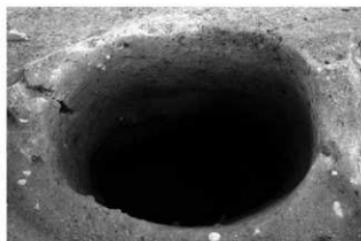


8. SA6 P189 下層断面 (西から)

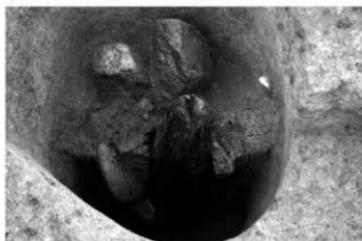
図版 22 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (1)



1. SA6 P164 断面 (西から)



2. SA6 P164 完掘 (西から)



3. SA6 P136 断面 (西から)

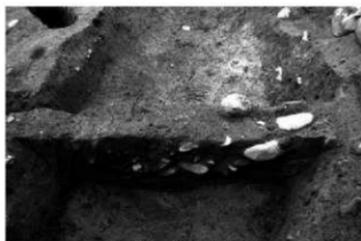


4. SA6 P136 完掘 (西から)



5. SA6 完掘 (南から)

図版 23 川内駅部 I 区 IV 層 (2)



1. SD7A 断面 (西から)



2. SD7B 断面 (西から)



3. SD7C 断面 (西から)

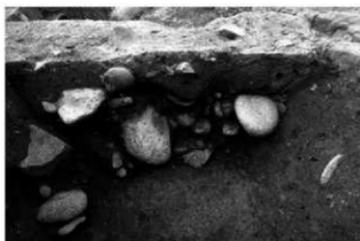


4. SD7 遺物出土状況 (西から)



5. SD7 瓦窯 (西から)

図版 24 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層(3)



1. SD9A 断面 (南西から)



2. SD9 断面 (南西から)



3. SD9 遺物出土状況 (西から)



4. SD10A 断面 (北から)



5. SD10 断面 (南から)



6. SD10B 断面 (北から)

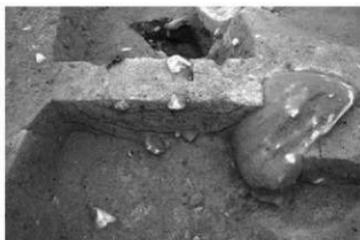


7. SD10C 断面 (北から)

図版 25 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (4)



1. SD11A 断面 (北から)



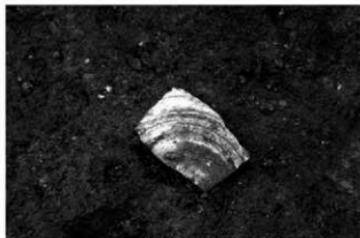
2. SD11B 断面 (北から)



3. SD11 全景 (西から)

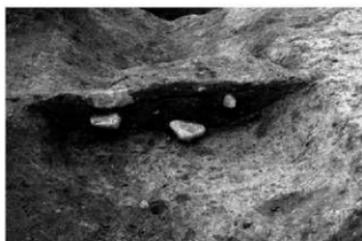


4. SD11 遺物出土状況 (西から)



5. SD11 遺物出土状況 (西から)

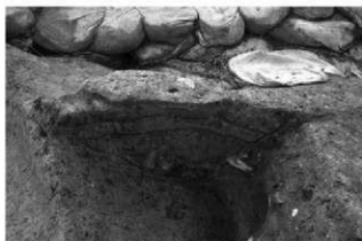
図版 26 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (5)



1. SD12 断面 (東から)



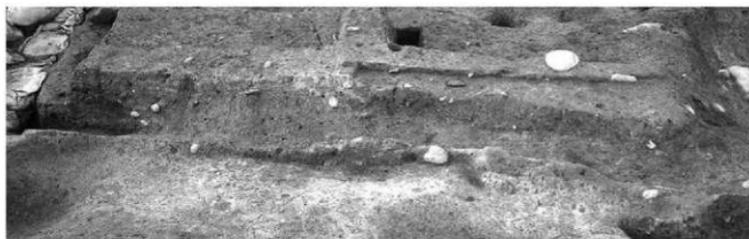
2. SD12 完壁 (北から)



3. SD36A 断面 (東から)



4. SD36B 断面 (東から)



5. SD36 完壁 (南から)



6. SD40・SX35 A 断面 (南から)



7. SD40・SX35 B 断面 (東から)

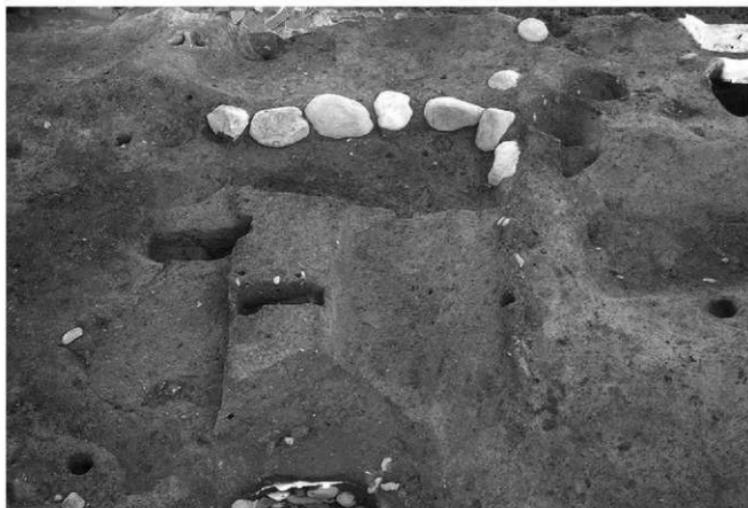
図版 27 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (6)



1. SD40・SX35 C断面 (東から)



2. SX35 発掘 (北西から)



3. SD40・SX35 発掘 (西から)



4. SK11 断面 (西から)



5. SK11 遺物出土状況 (北から)

図版 28 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (7)



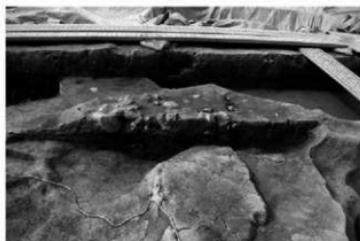
1. SK11 遺物出土状況 (西から)



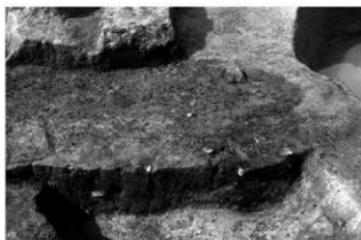
2. SK11 遺物出土状況 (北から)



3. SK12 検出 (東から)



4. SK12 断面 (南から)



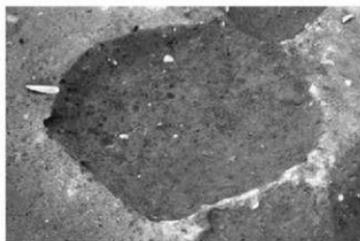
5. SK15 断面 (南から)



6. SK15 遺物出土状況 (東から)



7. SK20 断面 (南から)



8. SK20 発掘 (南西から)

図版 29 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (8)



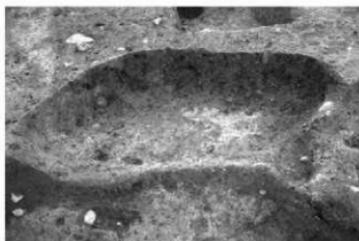
1. SK21 断面 (南から)



2. SK24 断面 (東から)



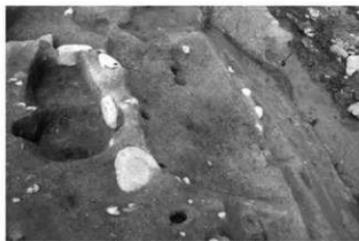
3. SK24 遺物出土状況 (北から)



4. SK24 完掘 (東から)



5. SK30 断面 (南から)



6. SK30 完掘 (南から)

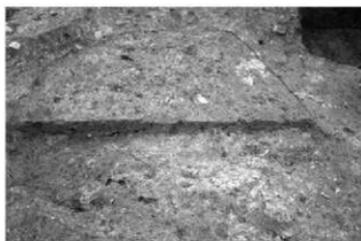


7. SK39 断面 (南から)

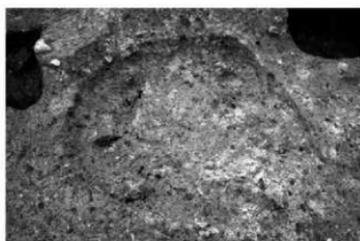


8. SK12・SK39 完掘 (南西から)

図版 30 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (9)



1. SK47 断面 (西から)



2. SK47 完掘 (西から)



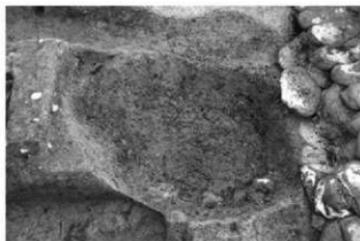
3. SK53 断面 (南から)



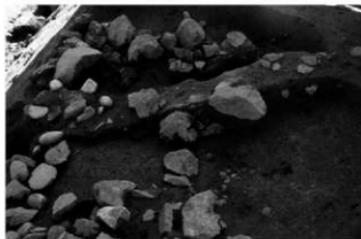
3. SK53 完掘 (南から)



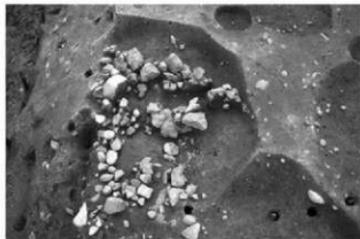
5. SK95 断面 (北から)



6. SK95 完掘 (北から)



7. SX5 断面 (北から)

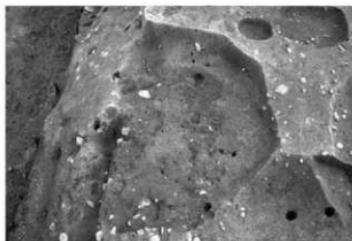


8. SX5 掘出土状況 (北から)

図版 31 川内駅部 I 区 IV 層 (10)



1. SX5 遺物出土状況 (南から)



2. SX5 発掘 (北から)



3. SX5 検出 (南から)



4. SX6A・B 断面 (南東から)

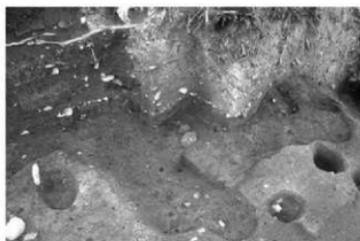


5. SX6 下層 A・B 断面 (南東から)

図版 32 川内駅部 I 区 IV 層 (11)



1. SX6 礎検出 (東から)



2. SX6 完掘 (東から)



3. SX8 検出 (南から)



4. SX8A 断面 (西から)



5. SX8B 断面 (南西から)



6. SX8C 断面 (東から)



7. SX8D 断面 (南から)



8. SX8E 断面 (西から)

図版 33 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (12)



1. SX6・SX8 全景 (南西から)



2. SX8 掘り方断面 (南西から)



3. SX8 穴掘 (南から)



4. SX10A 断面 (西から)

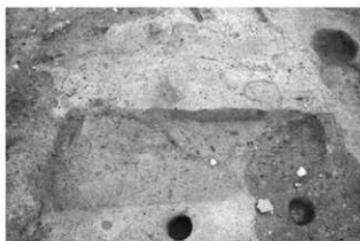


5. SX10B 断面 (北から)

図版 34 川内駅部Ⅰ区Ⅳ層 (13)



1. SX10 遺物出土状況 (北から)



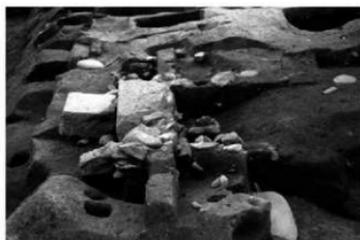
2. SX10 完掘 (西から)



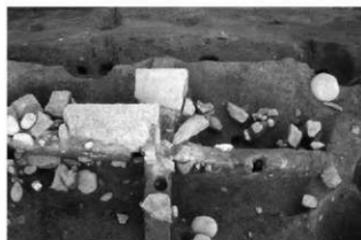
3. 階段状遺構全景 (南東から)



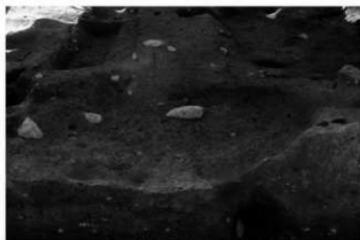
4. 階段状遺構 A 断面 (東から)



5. 階段状遺構 B 断面 (北から)



6. 階段状遺構破砕破砕映出 (西から)



7. 階段状遺構完掘 (東から)

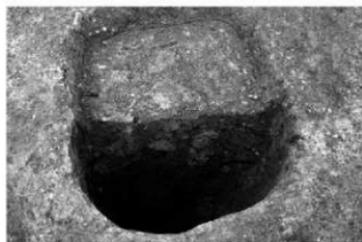
図版 35 川内駅部 I 区 IV 層 (14)



1. SA1-P1 断面 (東から)



2. SA1-P3 (東から)



3. SA1-P4 断面 (東から)



4. SA1-P5 (東から)



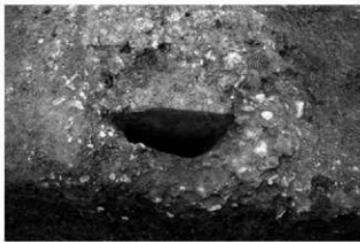
5. SA1-P6 断面 (東から)



6. SA1-P10 (東から)



7. SA3-P1 断面 (東から)



8. SA3-P2 断面 (東から)

図版 36 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (1)



1. SA3-P4 断面 (北東から)



2. SA3-P5 断面 (北東から)



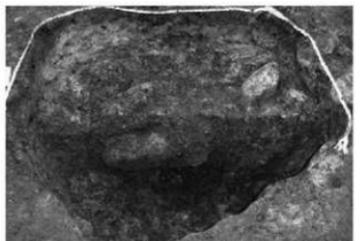
3. SA3-P7 断面 (北東から)



4. SA3-P9 断面 (北東から)



5. SA3-P13 断面 (南から)



6. SA3-P14 断面 (南から)



7. SA3-P15 断面 (南から)

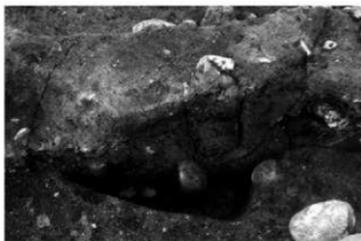


8. SA3-P16 断面 (北東から)

図版 37 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (2)



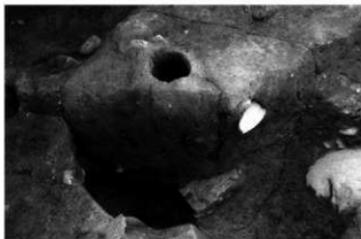
1. SA1 全景 (南東から)



2. SA7 P200 断面 (南から)



3. SA7 P200 完態 (南から)



4. SA7 P63 断面 (北東から)



5. SA7 P63 完態 (北東から)

図版 38 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層(3)



1. SA7 P68 断面 (北東から)



2. SA7 P68 完掘 (西から)



3. SB1 全景 (北東から)



4. SD3 断面 (北西から)



5. SD3 西側壁裏込 (北から)

図版 39 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (4)



1. SD3 全景 (北から)



2. SD3 底面敷石 (南から)



3. SD3 底面木柱検出 (東から)



4. SD3 完掘 (南東から)



5. SD3 完掘 (北から)

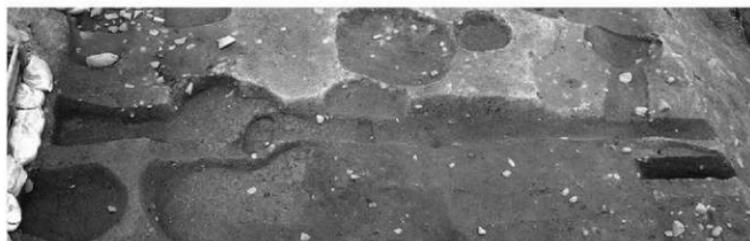
図版 40 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (5)



1. SD8A 断面 (西から)



2. SD8B 断面 (西から)



3. SD8 完掘 (南から)



4. SE1 検出 (東から)



5. SE1 井戸衝石組 (東から)



6. SE1 断面 (東から)



7. SE1 完掘 (南から)

図版 41 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (6)



1. SE3 検出 (南から)



2. SE3 完掘 (北から)



3. SE6 断面 (北東から)



4. SE6 完掘 (北東から)



5. SK1 断面 (南から)



6. SK1 完掘 (南から)

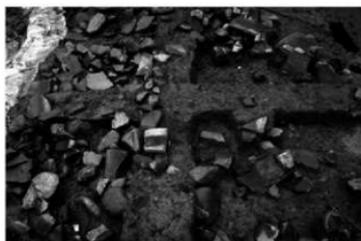


7. SK2A 断面北側 (西から)



8. SK2A 断面 (西から)

図版 42 川内駅部1区III層 (7)



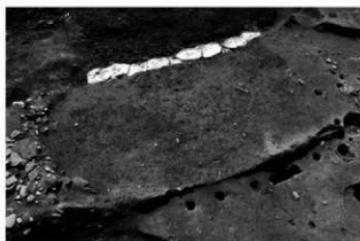
1. SK2A 断面 (南から)



2. SK2 断面全景 (南西から)



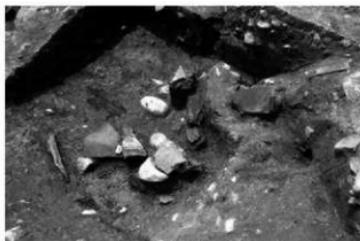
3. SK2 遺物出土状況 (西から)



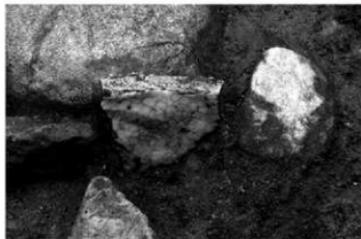
4. SK2 発掘 (南東から)



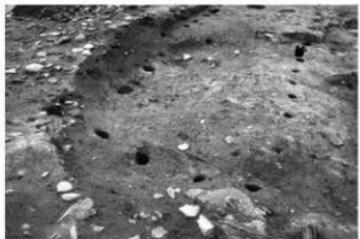
5. SK3 断面 (南から)



6. SK3 遺物出土状況 (北東から)



7. SK3 遺物出土状況 (北から)

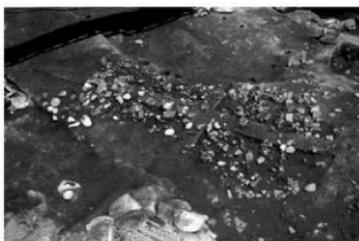


8. SK3 発掘 (南から)

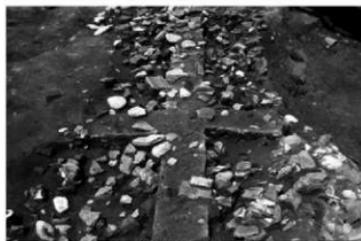
図版 43 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (8)



1. SK4 検出 (南西から)



2. SK4A 断面 (南西から)



3. SK4B 断面 (西から)



4. SK4A 断面下層 (南西から)



5. SK4B 断面下層 (南東から)



6. SK4 完掘 (北から)

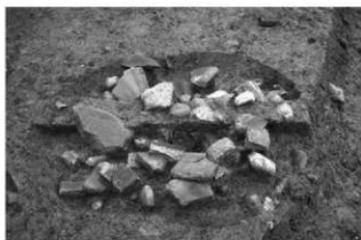


7. SK4 遺物出土状況 (北から)

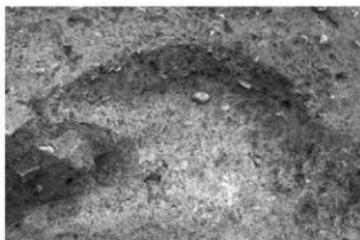


8. SK4 遺物出土状況 (北から)

図版 44 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (9)



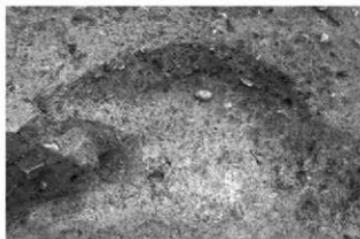
1. SK5 断面 (南西から)



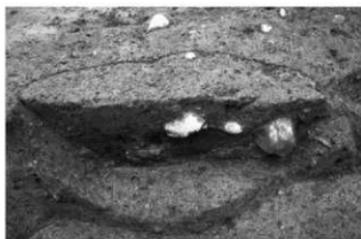
2. SK5 完掘 (南から)



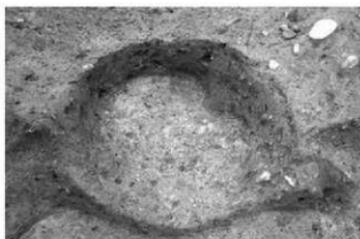
3. SK6 断面 (南から)



4. SK6 完掘 (南から)



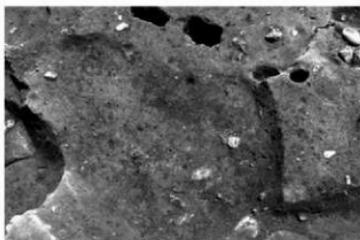
5. SK7 断面 (南東から)



6. SK7 完掘 (南東から)



7. SK8 断面 (南東から)



8. SK8 完掘 (南東から)

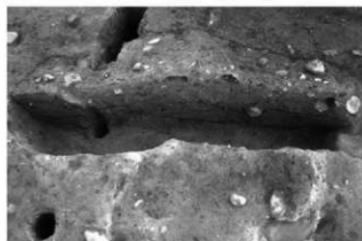
図版 45 川内駅部 I 区 III 層 (10)



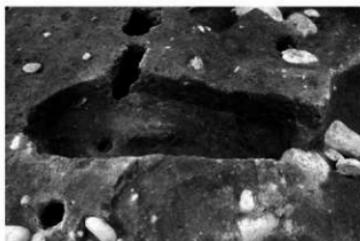
1. SK9 断面 (北から)



2. SK9 完掘 (南から)



3. SK13 断面 (東から)



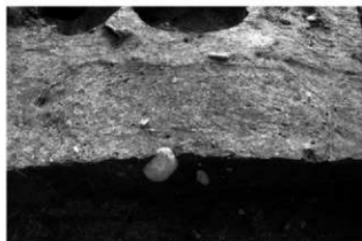
4. SK13 完掘 (東から)



5. SK14 断面 (北西から)



6. SK14 完掘 (南東から)



7. SK16 断面 (北東から)



8. SK16 完掘 (北東から)

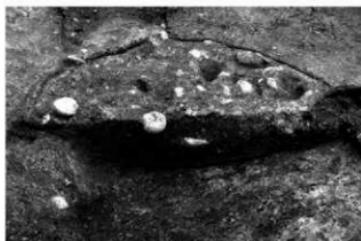
図版 46 川内駅部 I 区 III 層 (11)



1. SK18 断面 (南から)



2. SK18 完壁 (西から)



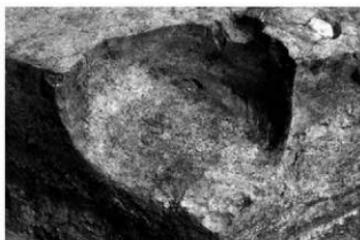
3. SK19 断面 (南から)



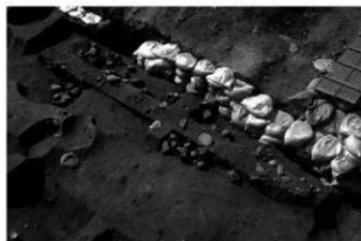
4. SK19 完壁 (南から)



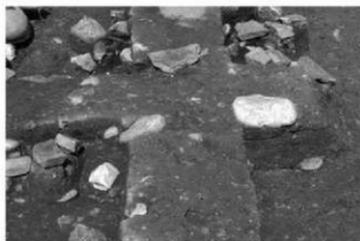
5. SK22 断面 (西から)



6. SK22 完壁 (南から)



7. SK26A 断面 (南から)



8. SK26B 断面 (南東から)

図版 47 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (12)



1. SK26 遺物出土状況 (南西から)



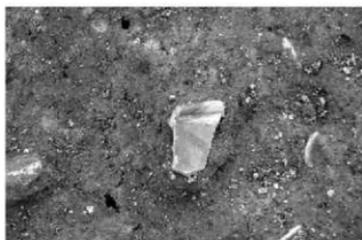
2. SK26 発掘 (南西から)



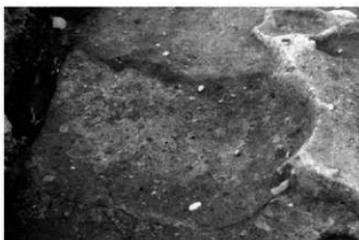
3. SK28 完掘 (南から)



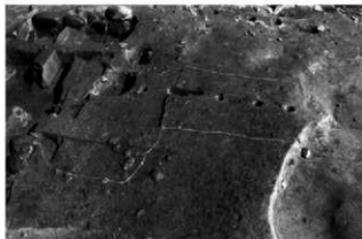
4. SK29 検出 (南から)



5. SK29 遺出土状 (東から)



6. SK29 完掘 (南から)



7. SK33 断面 (西から)



8. SK33A 断面 (南東から)



1. SK33B 前面 (北東から)



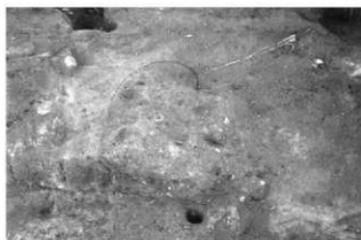
2. SK33C 前面 (北東から)



3. SK33 遺物出土状況 (南西から)



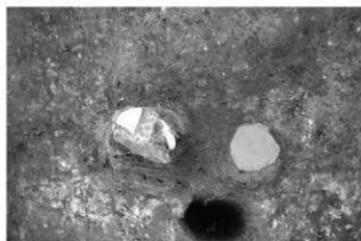
4. SK33 完掘 (南西から)



5. SK34 検出 (北から)



6. SK34 前面 (北東から)



7. SK34 遺物出土状況 (北から)



8. SK34 完掘 (北から)

図版 49 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層 (14)



1. SE2 断面 (東から)



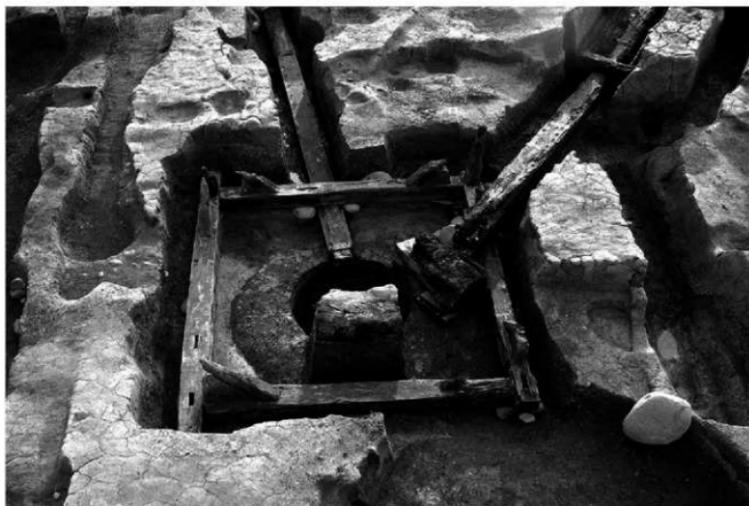
2. SE2 底板検出 (東から)



3. SE2 壁面木樋検出 (東から)



4. SE2A 断面 (南東から)



5. SE2 完掘 (西から)



1. SE2・木樋1・2全景（南西から）



2. 木樋1A断面（東から）



3. 木樋1C断面（西から）



4. 木樋2B断面（南東から）



5. SE2(手前)・木樋2（東から）

図版 51 川内駅部Ⅰ区Ⅲ層（16）



1. 木構 3A 断面 (東から)



2. 木構 3B 断面 (東から)



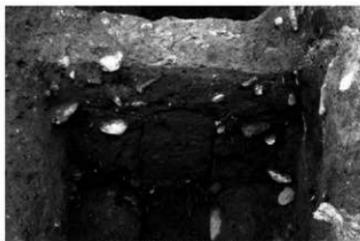
3. 木構 3C 断面 (東から)



4. 木構 4 横出 (北から)



5. 木構 4A 断面 (南西から)



6. 木構 4B 断面 (南から)



7. 木構 4C 断面 (南から)



8. 木構 4 掘り方完成 (北東から)

図版 52 川内駅部 I 区 III 層 (17)



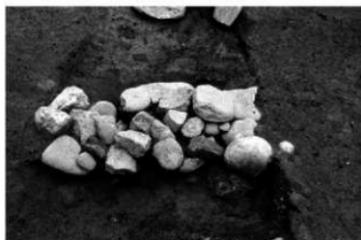
1. SB4 横出 (南から)



2. SB4A 断面 (南から)



3. SB4B 断面 (南から)



4. SB4C 断面 (東から)

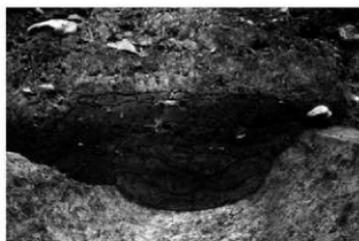


8. SB4 下部構造横出 (南から)

図版 53 川内駅部Ⅱ区V層 (1)



1. S84 瓦面 (南から)



2. SD24A 断面 (南から)



3. SD24B 断面 (南から)



4. SD24C 断面 (南から)



5. SD24 南側瓦面 (北から)



6. SD24 北側瓦面 (北から)



7. SD24 遺物出土状況 (西から)



8. SD24 遺物出土状況 (南西から)

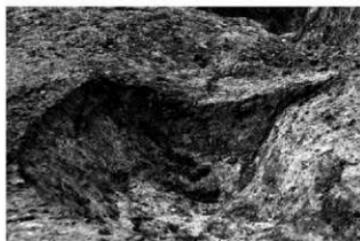
図版 54 川内駅部Ⅱ区V層 (2)



1. SD48 横出 (南から)



2. SD48 断面 (南から)



3. SD50 断面 (北から)



4. SD50 完掘 (南東から)



5. SK37 横出 (北から)



6. SK37 断面 (北から)



7. SK48 横出 (南東から)



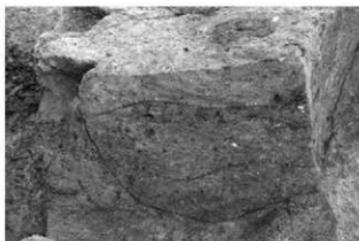
8. SK48 断面 (南東から)

図版 55 川内駅部Ⅱ区V層 (3)

検出遺構写真



1. SK49 完掘 (南東から)



2. SK61 断面 (東から)



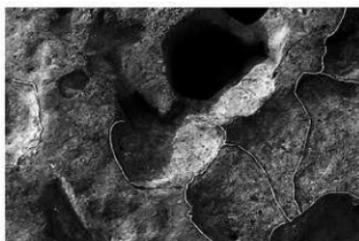
3. SK61 完掘 (東から)



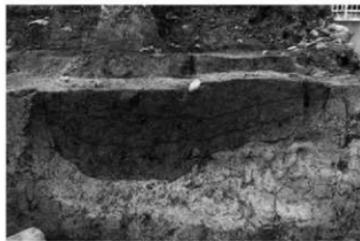
4. SK62 断面 (北から)



5. SK72 断面 (東から)



6. SK78 完掘 (南東から)



7. SK81 断面 (南から)



8. SK81 完掘 (南から)

図版 56 川内駅部Ⅱ区V層 (4)



1. SK84 断面 (東から)



2. SK94 断面 (東から)



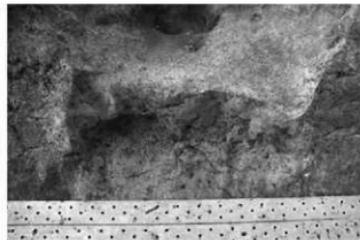
3. SK109 断面 (東から)



4. SK109 先細 (東から)



5. SK111 断面 (東から)



6. SK111 先細 (東から)



7. SK114 断面 (東から)



8. SK114 先細 (東から)

図版 57 川内駅部Ⅱ区V層 (5)



1. SK115 断面 (西から)



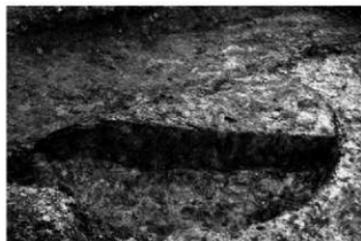
2. SK115 完掘 (西から)



3. SK116 断面 (南から)



4. SK116 完掘 (南から)



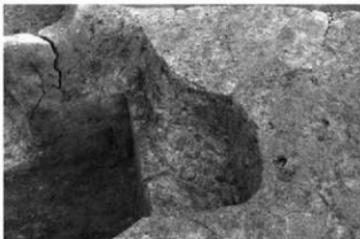
5. SK117 断面 (南から)



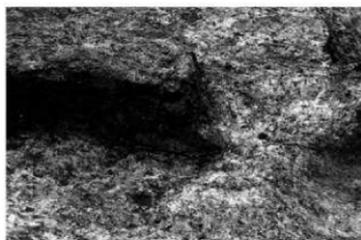
6. SK117 完掘 (南から)



7. SK119 断面 (北西から)



8. SK119 完掘 (北西から)



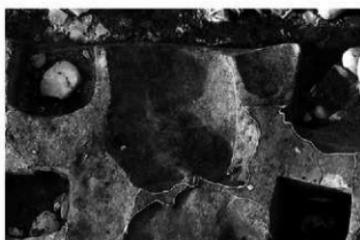
1. SKS 122 断面 (南東から)



2. SK122 完晶 (南東から)



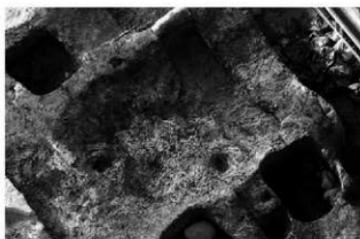
3. SK123 断面 (北から)



4. SK123 完晶 (南東から)



5. SK124 断面 (北から)



6. SK124 完晶 (南東から)



7. SK127 断面 (東から)

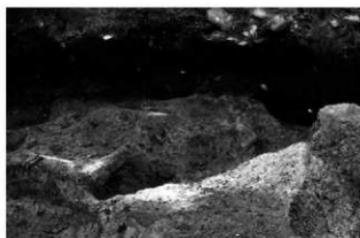


8. SK127 完晶 (南から)

図版 59 川内駅部Ⅱ区V層 (7)



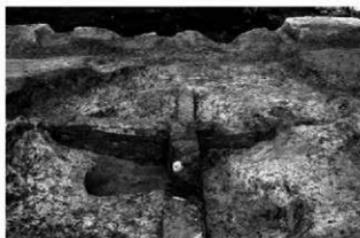
1. SX46 断面 (南から)



2. SX46 完面 (南から)



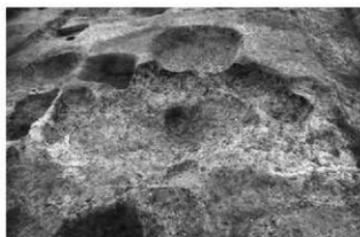
3. SX48 検出 (南から)



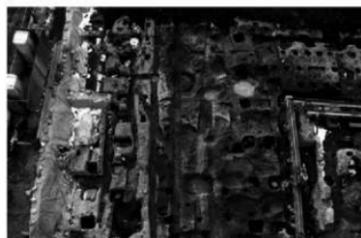
4. SX48A 断面 (西から)



5. SX48B 断面 (北から)



6. SX48 完面 (北から)



7. II区V層東部全景 (東から)



8. II区V層西部全景 (南から)

図版 60 川内駅部II区V層 (8)



1. SB2 完掘 (南東から)



2. SD14A 断面 (東から)



3. SD14B 断面 (東から)



4. SD14 完掘 (北東から)



5. SD38A 断面 (南から)



6. SD38B 断面 (南から)

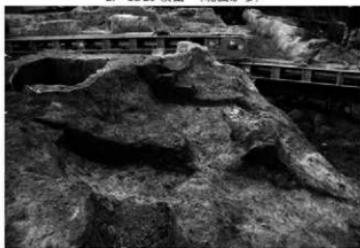
図版 61 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (1)



1. SD38 完層 (南から)



2. SD26 横出 (北西から)



3. SD26 断面 (南から)



4. SD28 断面 (東から)



5. SD28 完層 (東から)



6. SD37A 断面 (北から)



7. SD37B 断面 (南から)

図版 62 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (2)



1. SD37C 断面 (西から)



2. SD37 礎横出 (北西から)



3. SD39A 断面 (東から)



4. SD39B 断面 (東から)



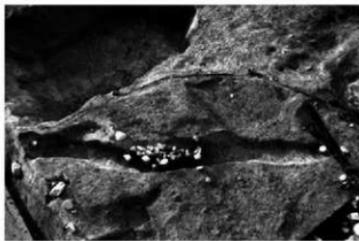
5. SD39C 断面 (東から)



6. SD39 完壁 (西から)



7. SD43 断面 (南から)



8. SD43 完壁 (東から)

図版 63 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (3)



1. SD44 断面 (南から)



2. SD44 完壁 (西から)



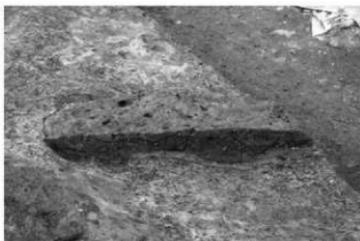
3. SD49 断面 (東から)



4. SK41 断面 (北西から)



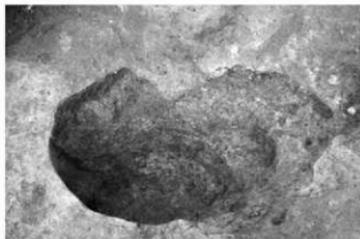
5. SK43 (東から)



6. SK44 断面 (南から)



7. SK59 断面 (南から)



8. SK59 完壁 (北から)

図版 64 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (4)



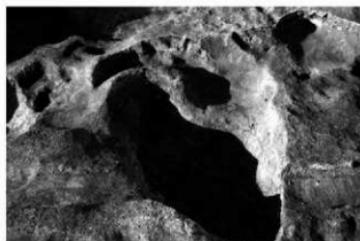
1. SK64 横出 (北から)



2. SK64A 断面 (南から)



3. SK64B 断面 (東から)



4. SK64 完壁 (南から)



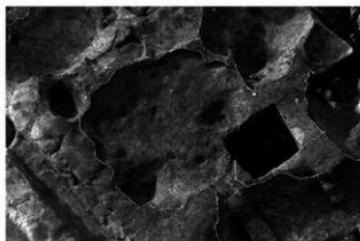
5. SK65 断面 (東から)



6. SK66A 断面 (南から)



7. SK66B 断面 (西から)



8. SK66 完壁 (東から)

図版 65 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (5)



1. SK67 断面 (北から)



2. SK67 遺物出土状況 (東から)



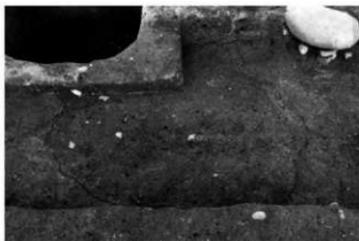
3. SK67 完掘 (東から)



4. SK68 断面 (北から)



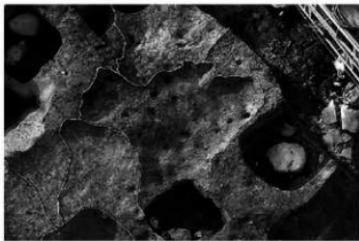
5. SK68 完掘 (東から)



6. SK70 検出 (南から)



7. SK70 断面 (北西から)



8. SK70 完掘 (東から)

図版 66 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (6)



1. SK71 断面 (北から)



2. SK71 遺物出土状況 (南から)



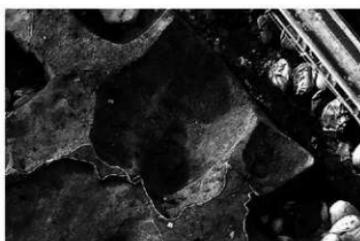
3. SK71 遺物出土状況 (南から)



4. SK71 完掘 (北東から)



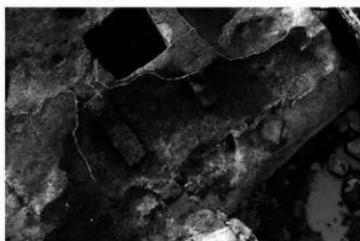
5. SK73 断面 (北から)



6. SK73 完掘 (東から)



7. SK74 断面 (東から)

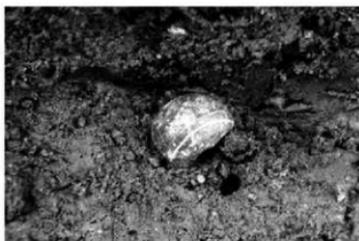


8. SK74 完掘 (東から)

図版 67 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (7)



1. SK75 断面 (南から)



2. SK75 遺物 (とんぼ玉) 出土状況 (南から)



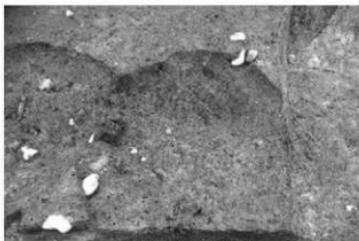
3. SK75 完掘 (南から)



4. SK76 断面 (南から)



5. SK76 遺物出土状況 (南から)



6. SK76 完掘 (南から)



7. SK77A 断面 (東から)



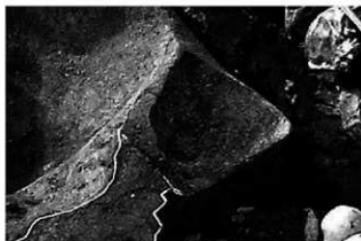
8. SK77B 断面 (西から)



1. SK77 完掘 (北東から)



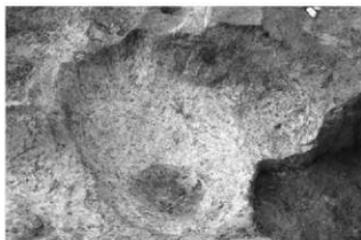
2. SK80 断面 (東から)



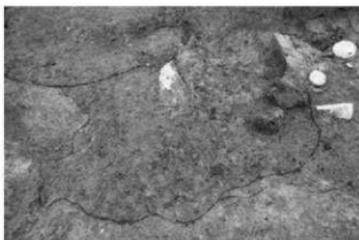
3. SK80 完掘 (東から)



4. SK86 断面 (南から)



5. SK86 完掘 (南から)



6. SK87 検出 (北から)



7. SK87 断面 (西から)



8. SK87 完掘 (南東から)

図版 69 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (9)



1. SK88 断面 (北東から)



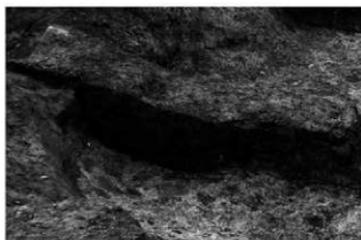
2. SK88 完掘 (北東から)



3. SK89 断面 (西から)



4. SK89 完掘 (南東から)



5. SK90 断面 (北から)



6. SK90 完掘 (南東から)



7. SK91 断面 (北から)

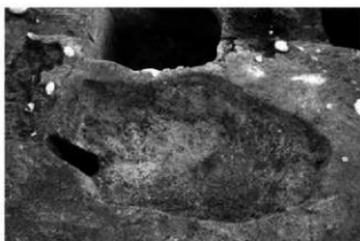


8. SK91 完掘 (南東から)

図版 70 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (10)



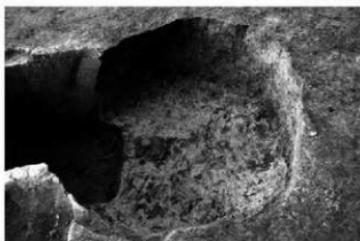
1. SK101 断面 (東から)



2. SK101 完備 (東から)



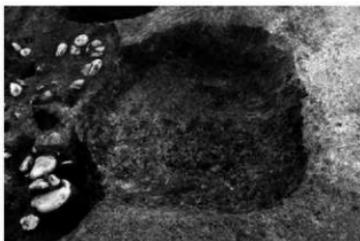
3. SK102 断面 (南から)



4. SK102 完備 (南から)



5. SK103 断面 (西から)



6. SK103 完備 (東から)



7. SK105 断面 (北から)

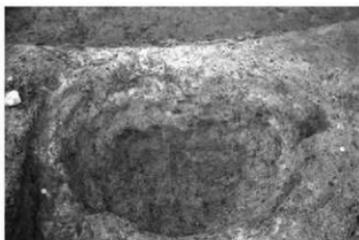


8. SK106 断面 (東から)

図版 71 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (11)



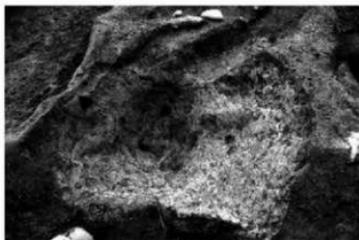
1. SK106 確検出 (西から)



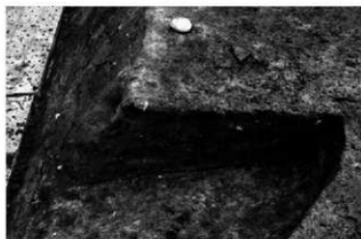
2. SK106 完掘 (西から)



3. SK107 断面 (東から)



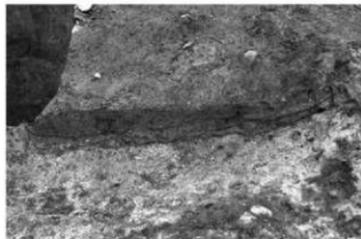
4. SK107 断面 (南から)



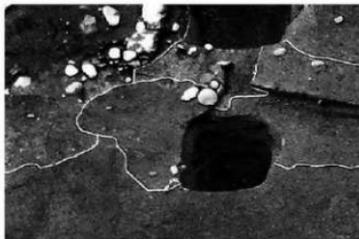
5. SK108 断面 (東から)



6. SK108 完掘 (南から)



7. SK110 断面 (南から)



8. SK110 完掘 (南から)

図版 72 川内駅部 II 区 IV 層 (12)



1. SK112 断面 (東から)



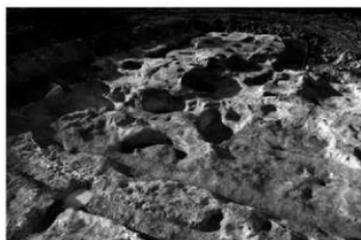
2. SK112 穴掘 (南から)



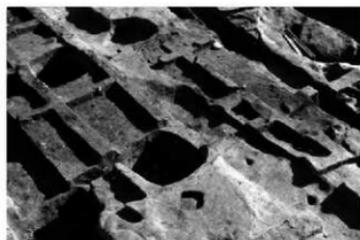
3. SX7 断面 (南東から)



4. SX7 断面 (南から)



5. SX7 穴掘 (南東から)



6. SX21 検出 (東から)

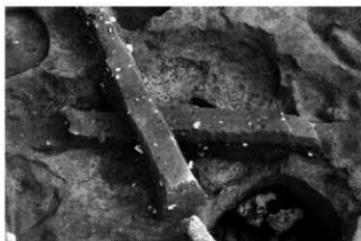


7. SX21・25A 断面 (南から)



8. SX21・25B 断面 (西から)

図版 73 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (13)



1. SX21・25 平面 (北西から)



2. SX21 平面 (南から)



3. SX24A 断面 (東から)



4. SX24B 断面 (北から)



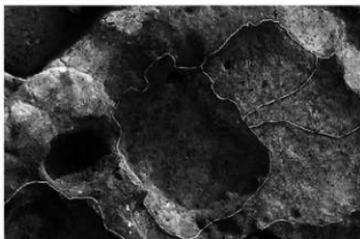
5. SX24 平面 (南東から)



6. SX27 断面 (北西から)



7. SX27 遺物出土状況 (南から)



8. SX67・SX27 平面 (北東から)

図版 74 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (14)



1. SX33 断面 (北東から)



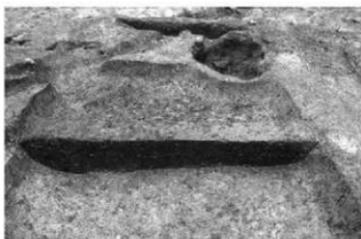
2. SX33 発掘 (北東から)



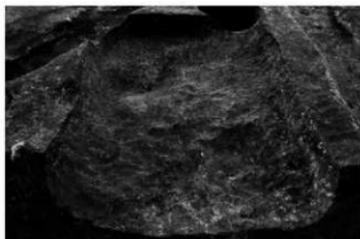
3. SX44 断面 (南から)



4. SX45 断面 (南から)



5. SX47 断面 (南から)



6. SX47 発掘 (南から)



7. SX50 発掘 (南西から)

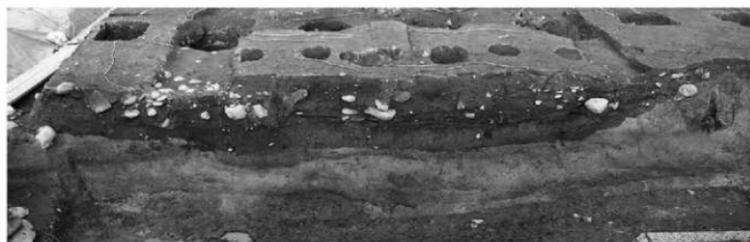


1. SX50 遺物出土状況 (南東から)

図版 75 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (15)



1. 池1横出 (南から)



2. 池1A断面 (西から)



3. 池1B断面西上層 (北から)



4. 池1B断面東上層 (南から)

図版 76 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (16)



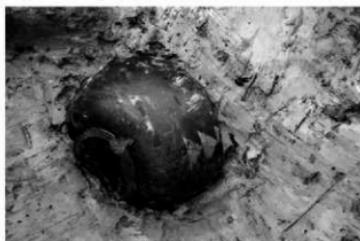
1. SD9A 断面 (南西から)



2. SD9 断面 (南西から)



3. 池1遺物出土状況 (南から)



4. 池1遺物出土状況 (西から)



5. 池1新段階全景 (南から)

図版 77 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (17)



1. 池1古段陥泥掘 (南から)



2. 池2A断面 (西から)



3. 池2B断面1 (南から)



4. 池2B断面2 (西から)



5. 池2B断面3 (南から)

図版 78 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (18)



1. 池2遺物出土状況（北から）



2. 池2遺物出土状況（東から）



3. SD33・池2新段階全景（南から）



4. SD33断面（東から）



5. SD33竹垣断面（東から）



6. SD33・池2接続部（北から）



7. SD33掘り方断面（西から）

図版 79 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層 (19)



1. SD33・池2古段階発掘（南から）



2. 池3A断面（南東から）



3. 池3B断面南（北東から）



4. 池3B断面北（北東から）

図版 80 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層（20）



1. 池3様出土状況（南東から）

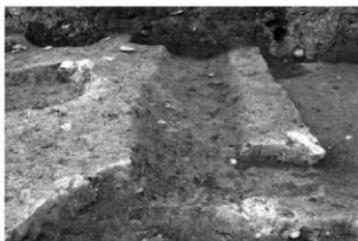


2. 池3完掘（南から）

図版 81 川内駅部Ⅱ区Ⅳ層（21）



1. SD29 遺物出土状況 (東から)



2. SD29 完掘 (南から)



3. SK45・79 完掘 (南西から)



4. SK50 断面 (南から)



5. SK51 断面 (東から)



6. SK51 完掘 (南東から)

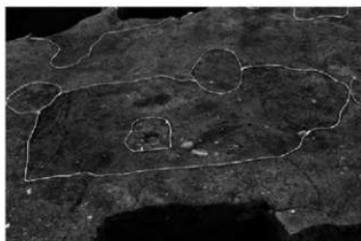


7. SK52 断面 (南から)

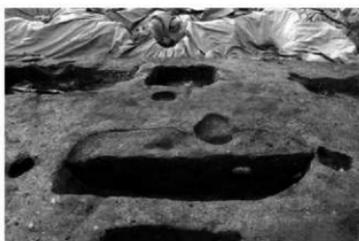


8. SK52 完掘 (東から)

図版 82 川内駅部Ⅱ区Ⅲ層 (1)



1. SK63 検出 (北東から)



2. SK63 断面 (北東から)



3. SK85 断面 (南から)



4. SK92 断面 (東から)



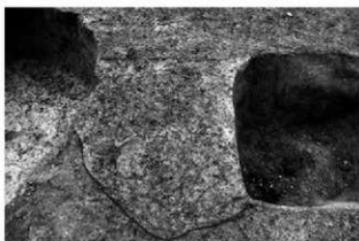
5. SK100 断面 (南から)



6. SK100 6層 (南から)



7. SK104 断面 (南東から)



8. SK118 検出 (北から)

図版 83 川内駅部Ⅱ区Ⅲ層 (2)



1. SK118 断面 (南から)



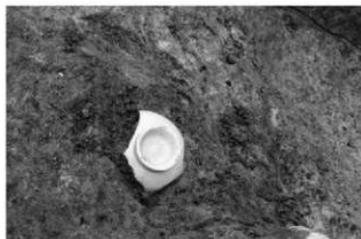
2. SK118 完掘 (南から)



3. SX12 断面 (南から)



4. SX15 検出 (南から)



5. SX15 遺物出土状況 (西から)



6. SX15 完掘 (南西から)



7. SX19 検出 (南から)



8. SX19A 断面 (南から)

図版 84 川内駅部Ⅱ区Ⅲ層 (3)



1. SX32 断面 (東から)



2. SX32 完備 (南から)



3. 木樋 5 棟出 (南から)



4. 木樋 5A 断面 (東から)



5. 木樋 5B 断面 (東から)



6. 木樋 5 全景 (西から)



7. 木樋 5 完備 (西から)

図版 85 川内駅部Ⅱ区Ⅲ層 (4)

検出遺構写真



1. SD2 断面 (南から)



2. SD2 先掘 (北から)



3. SD3 断面 (南から)



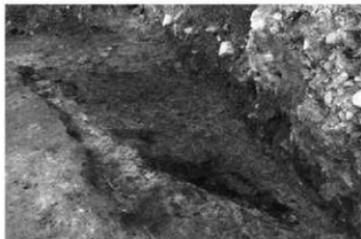
4. SD5A 断面 (北東から)



5. SD5B 断面 (北東から)



6. SD5 全景 (南西から)



7. SD6 検出 (南東から)



8. SD6 遺物出土状況 (北西から)

図版 86 立坑部Ⅲ層 (1)



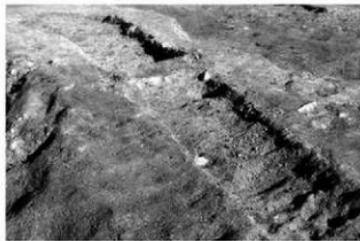
1. SD6 遺物出土状況 (北西から)



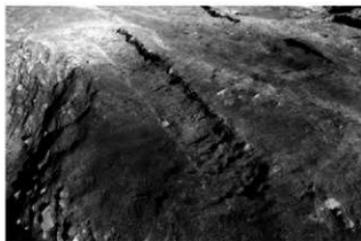
2. SD7 断面 (南から)



3. SD7 完掘 (南から)



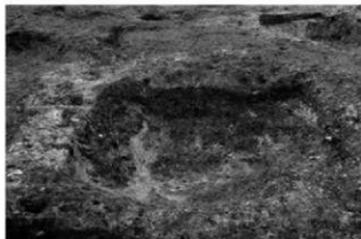
4. SD8 断面 (南西から)



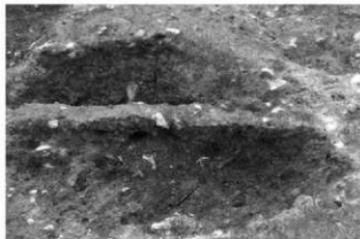
5. SD8 完掘 (南西から)



6. SK1 断面 (北東から)



7. SK1 完掘 (北東から)

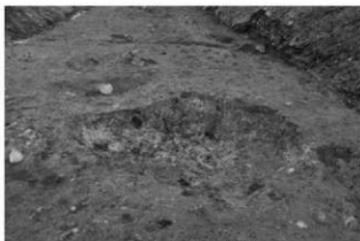


8. SK2 断面 (北東から)

図版 87 立坑部Ⅲ層 (2)



1. SK2 礫出土 (北東から)



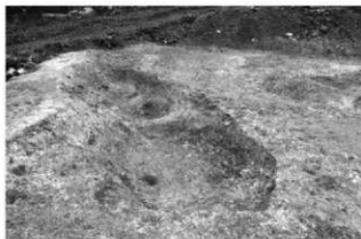
2. SK2 発掘 (北東から)



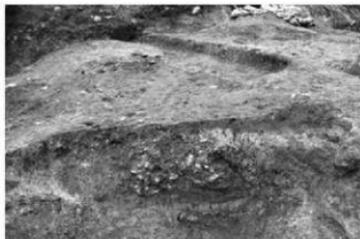
3. SK3 (手前)・4・5 (北東から)



4. SK3 断面 (南東から)



5. 3・4・5 発掘 (南西から)



6. SX11 断面 (北西から)

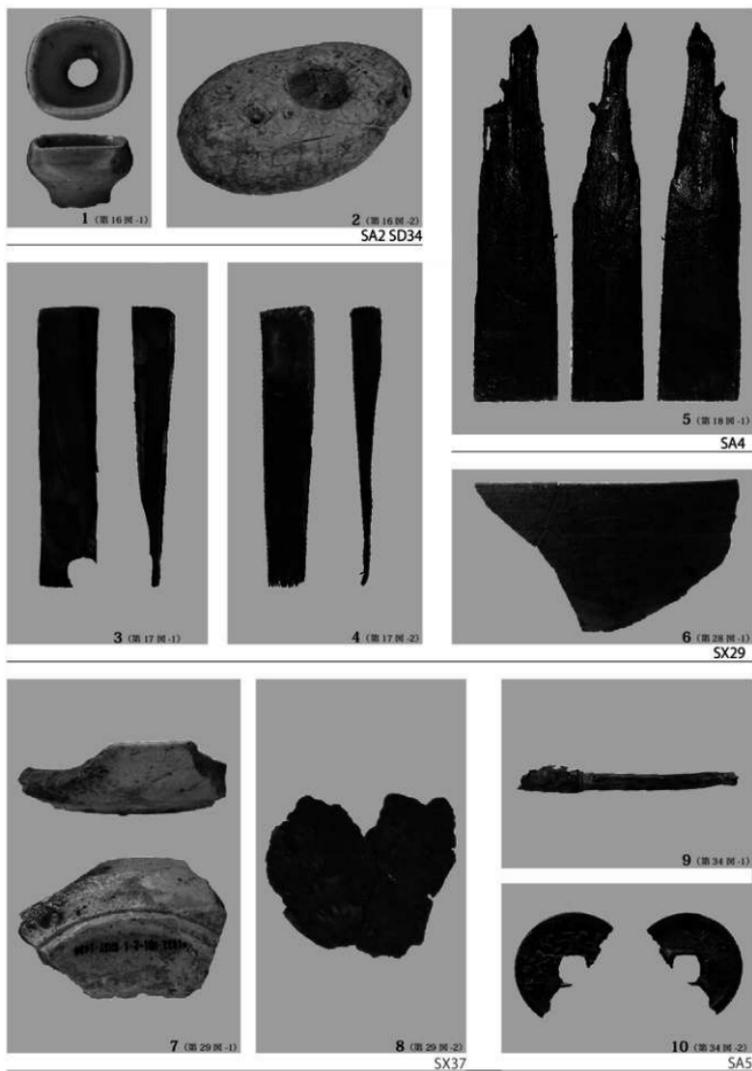


7. SX11 発掘 (北西から)



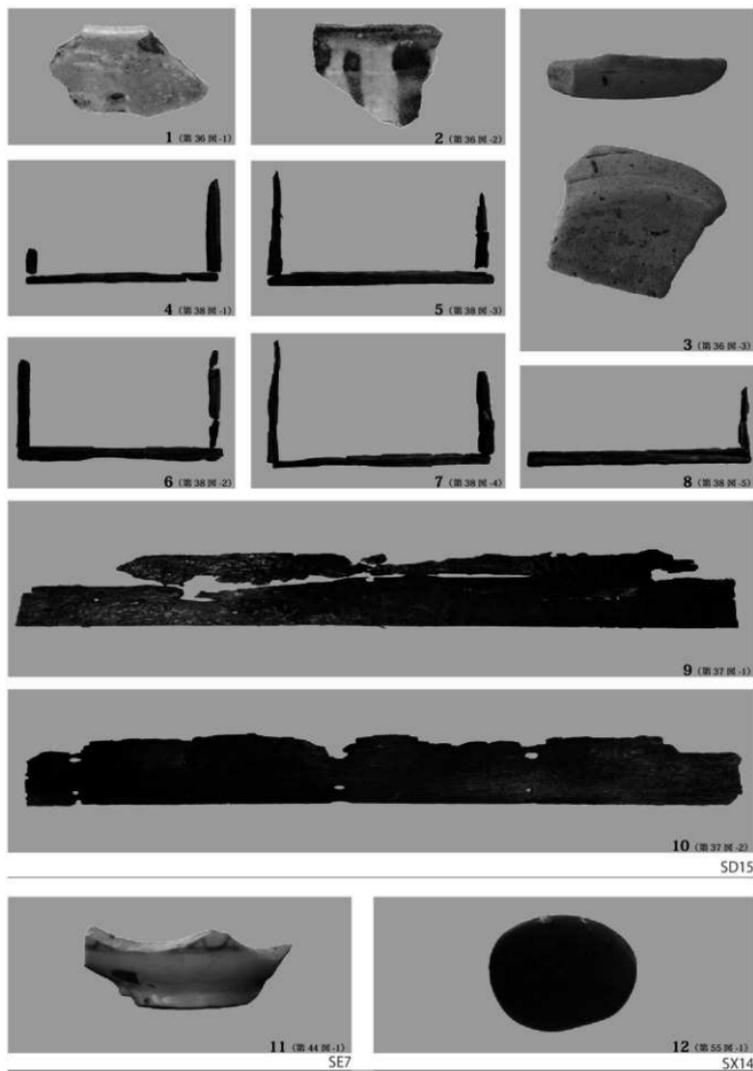
8. 中央土坑群 (南から)

図版 88 立坑部Ⅲ層 (3)

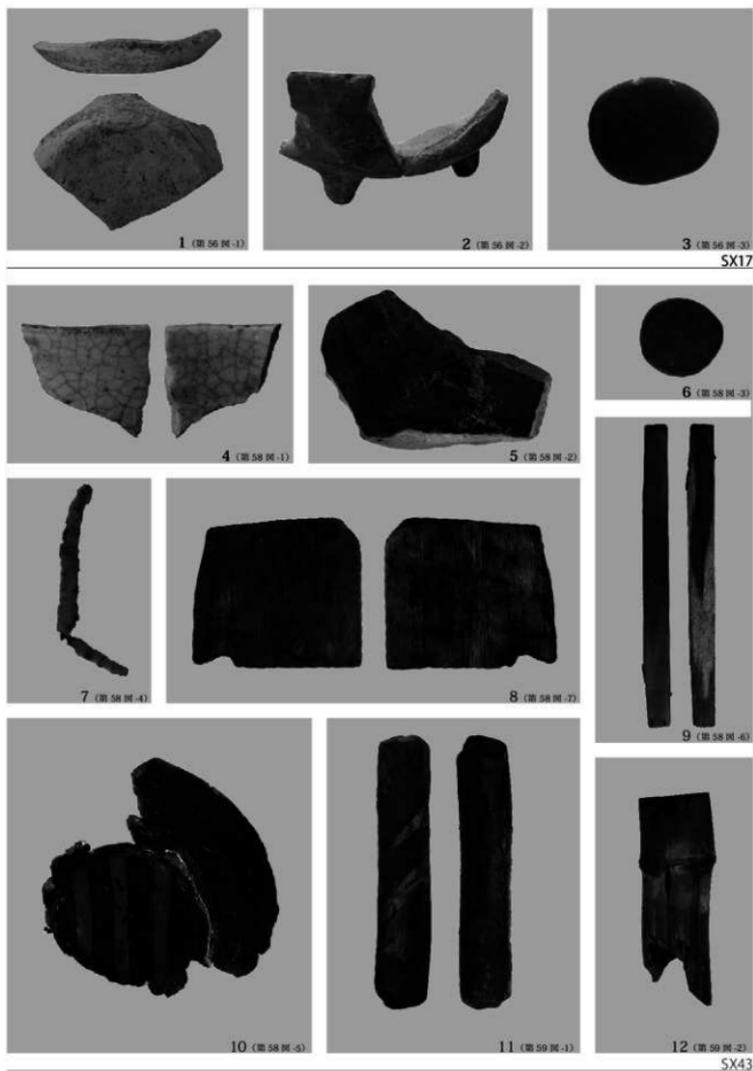


図版 89 川内駅部1区出土遺物 (1)

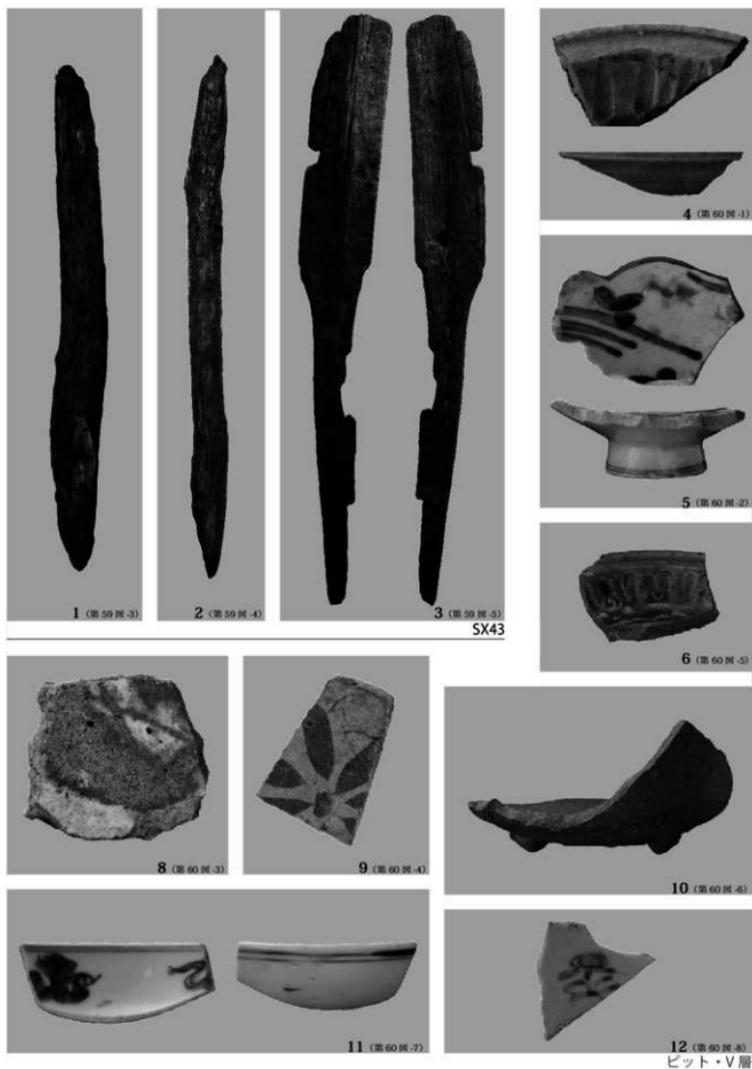
出土遺物写真



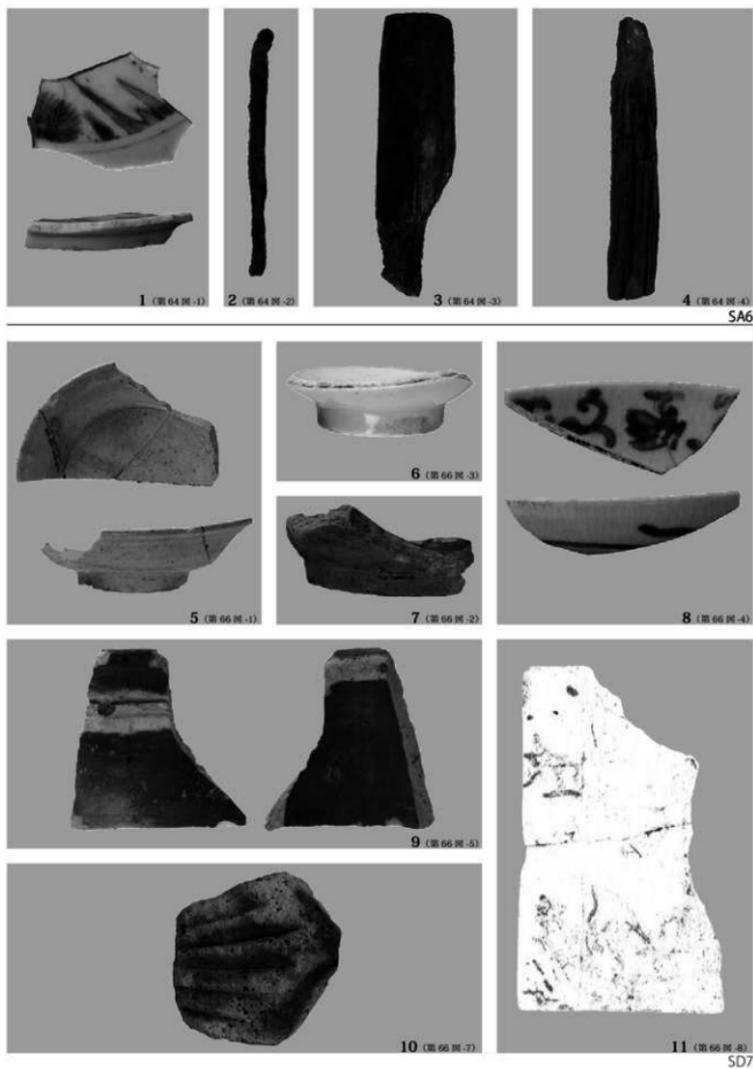
図版 90 川内駅部Ⅰ区出土遺物(2)



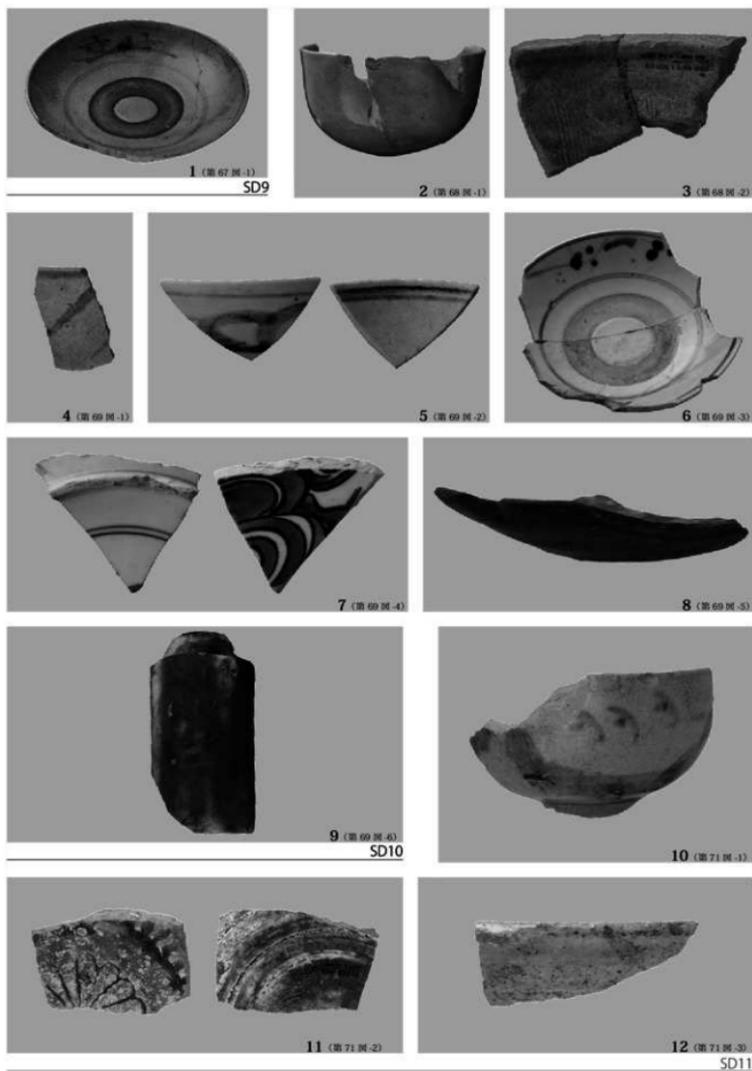
图版 91 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (3)



図版 92 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (4)



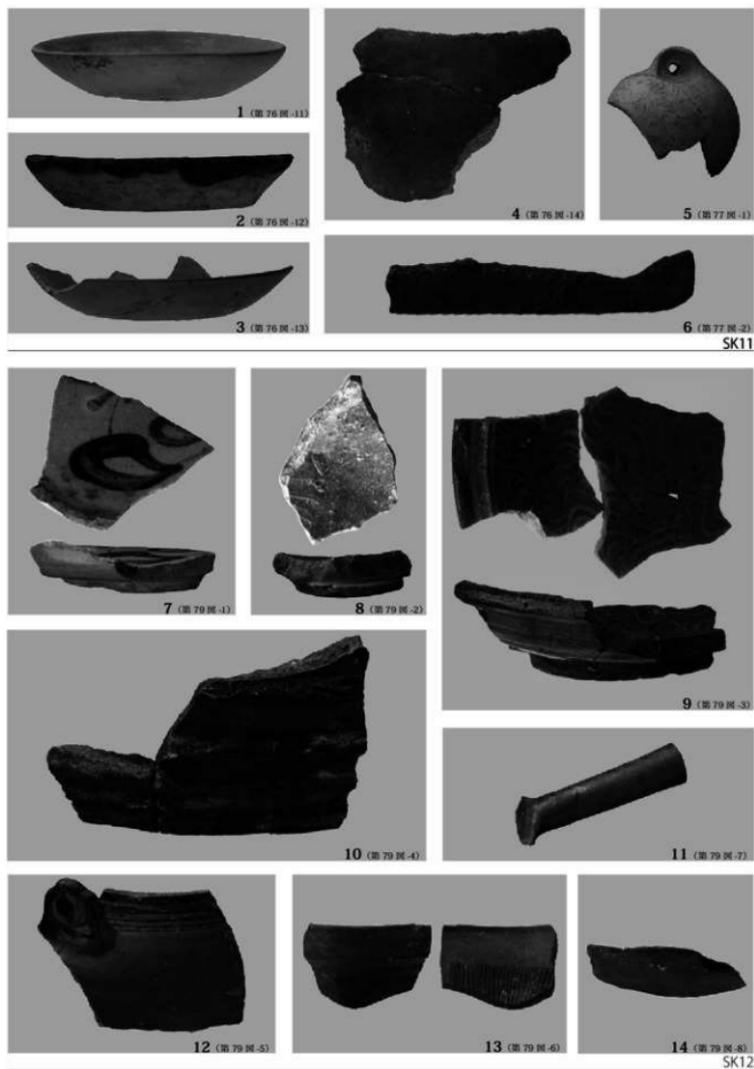
図版 93 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (5)



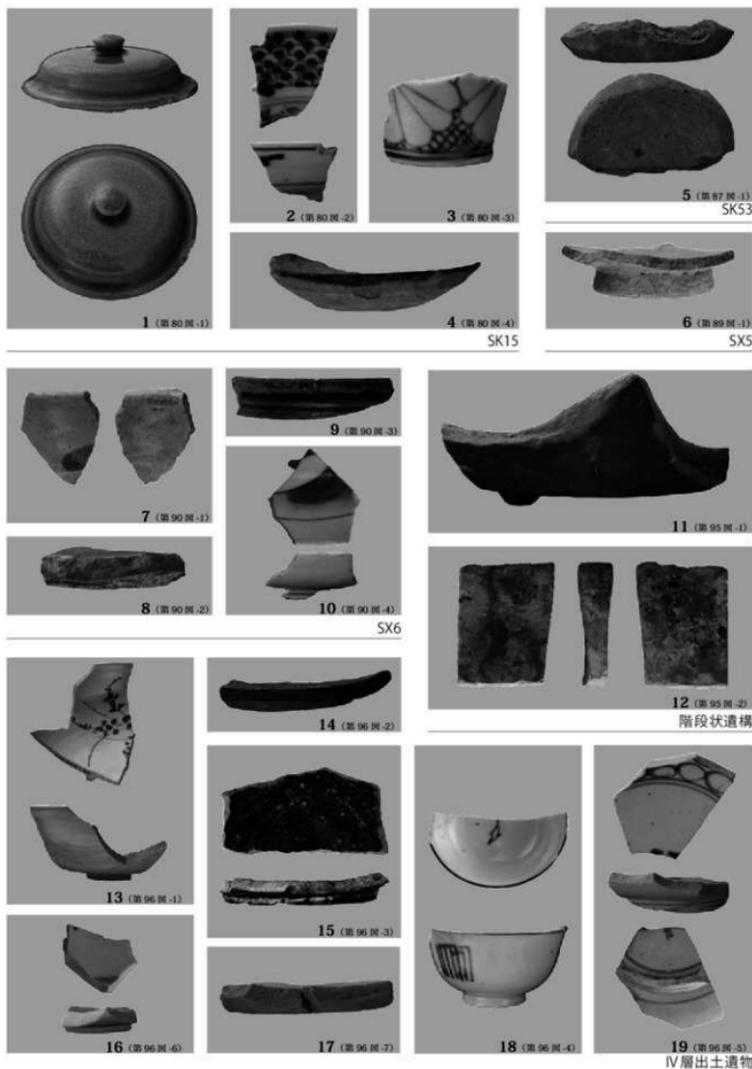
図版 94 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (6)



図版 95 川内駅部Ⅰ区出土遺物(7)



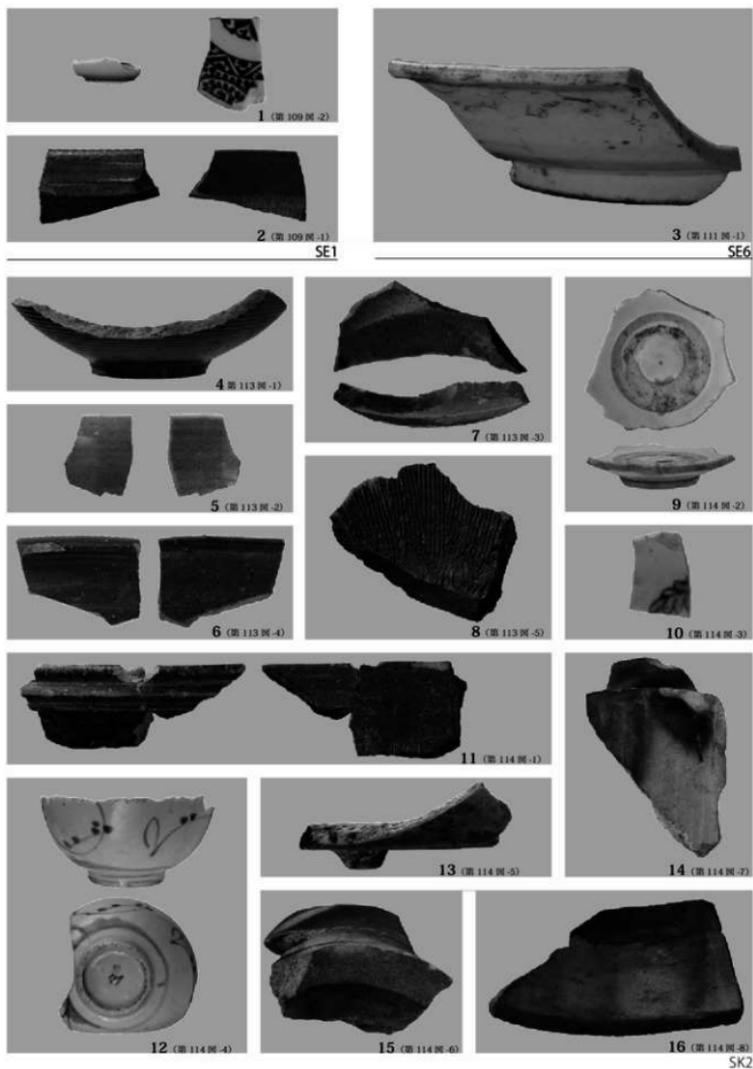
図版 96 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (8)



図版 97 川内駅区Ⅰ区出土遺物(9)



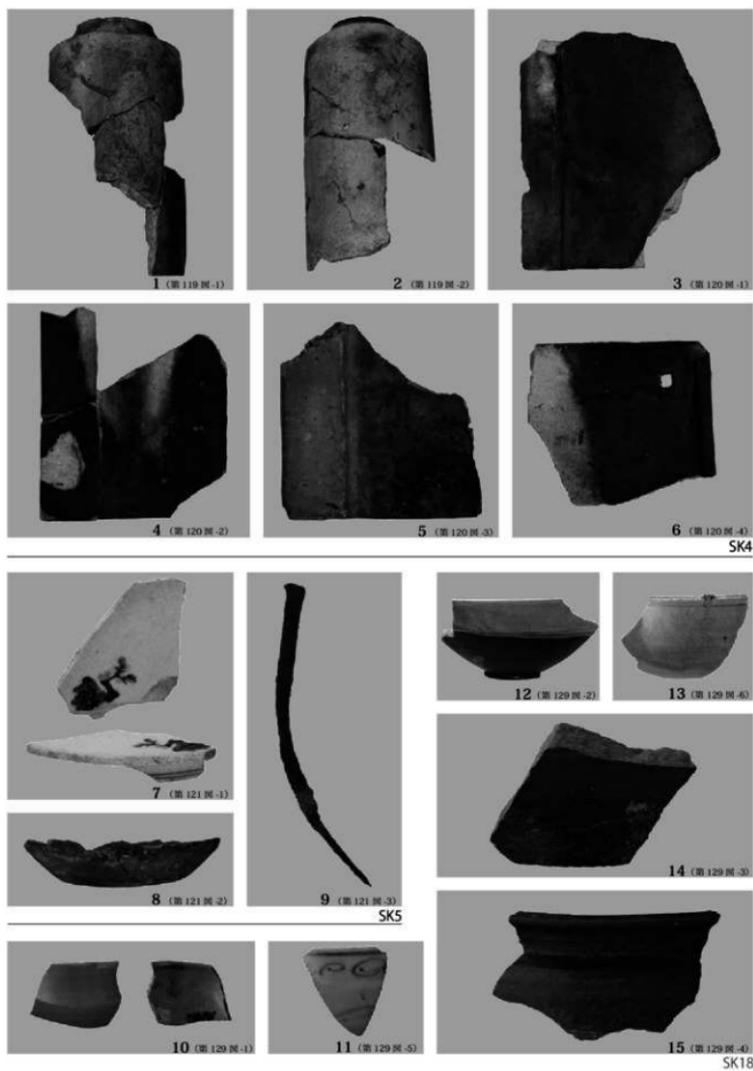
図版 98 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (10)



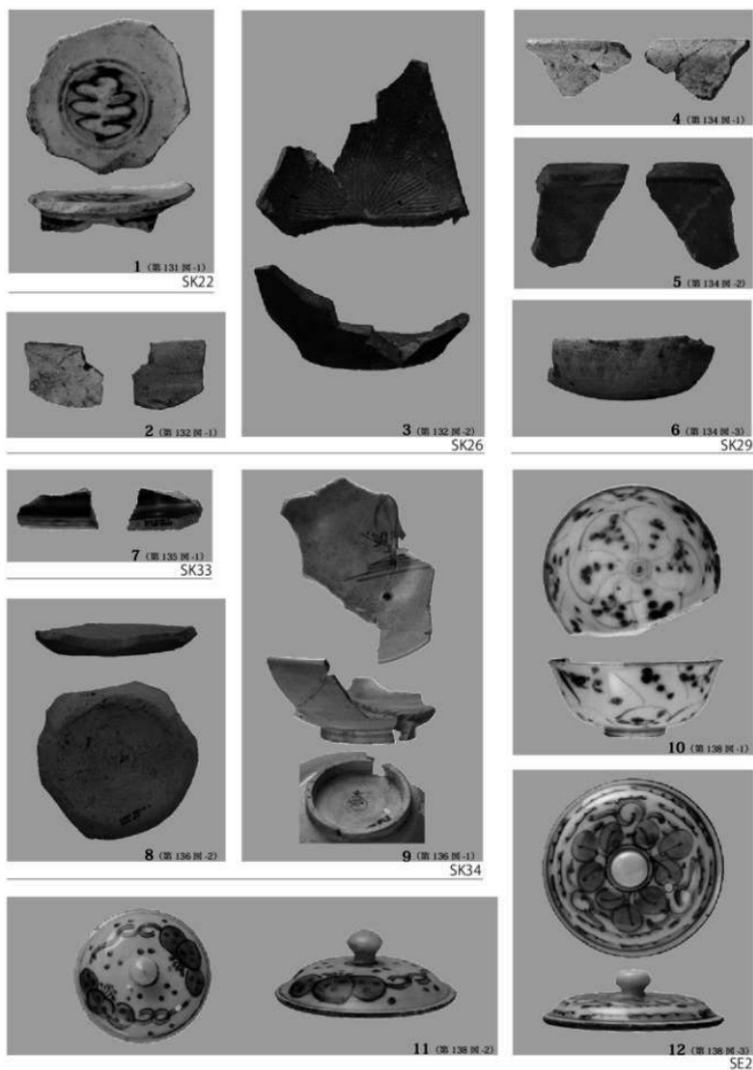
図版99 川内駅部I区出土遺物(11)



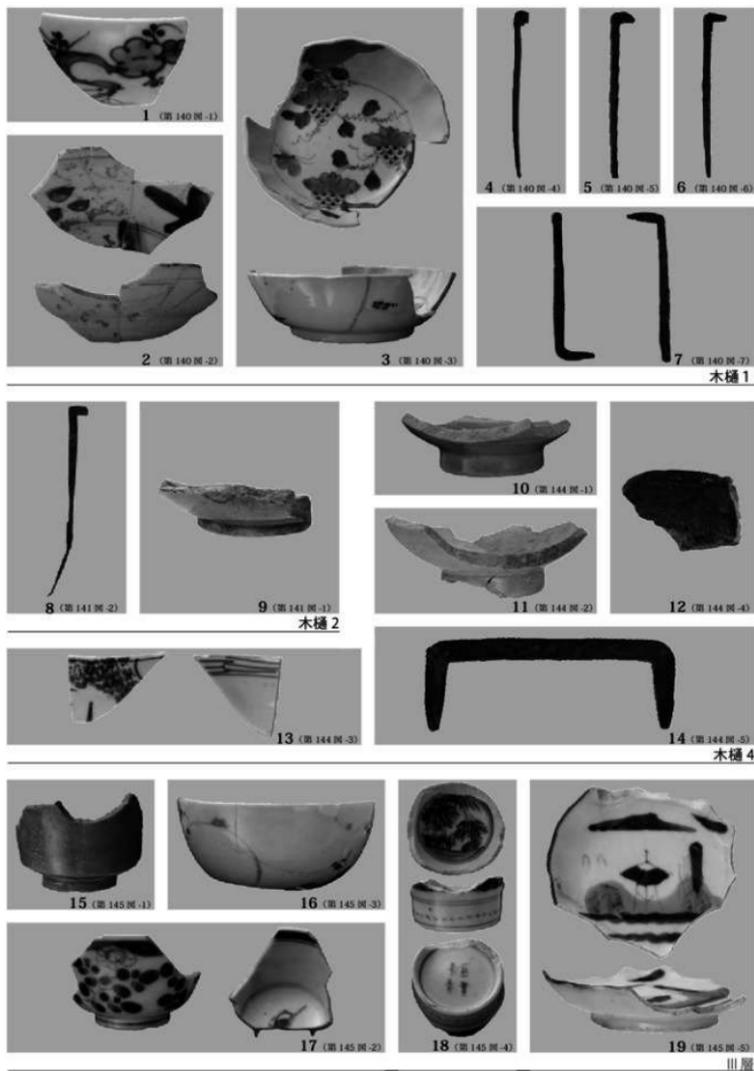
図版 100 川内駅部I区出土遺物(12)



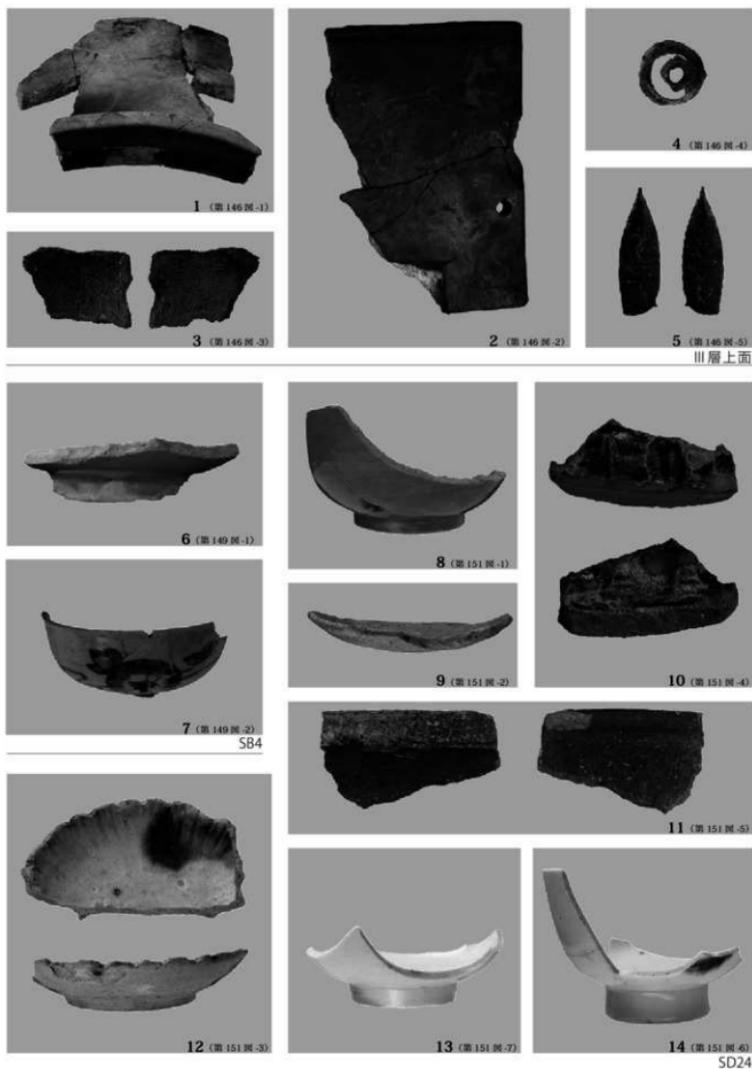
図版101 川内駅区Ⅰ区出土遺物(13)



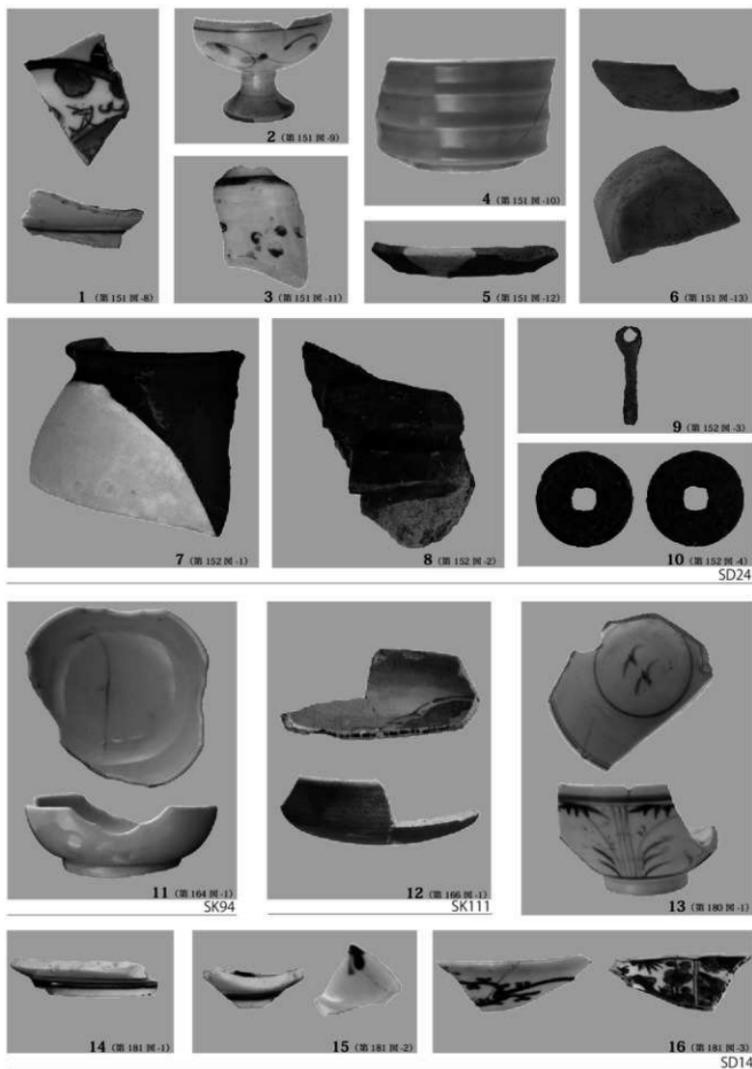
図版 102 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (14)



図版 103 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (15)

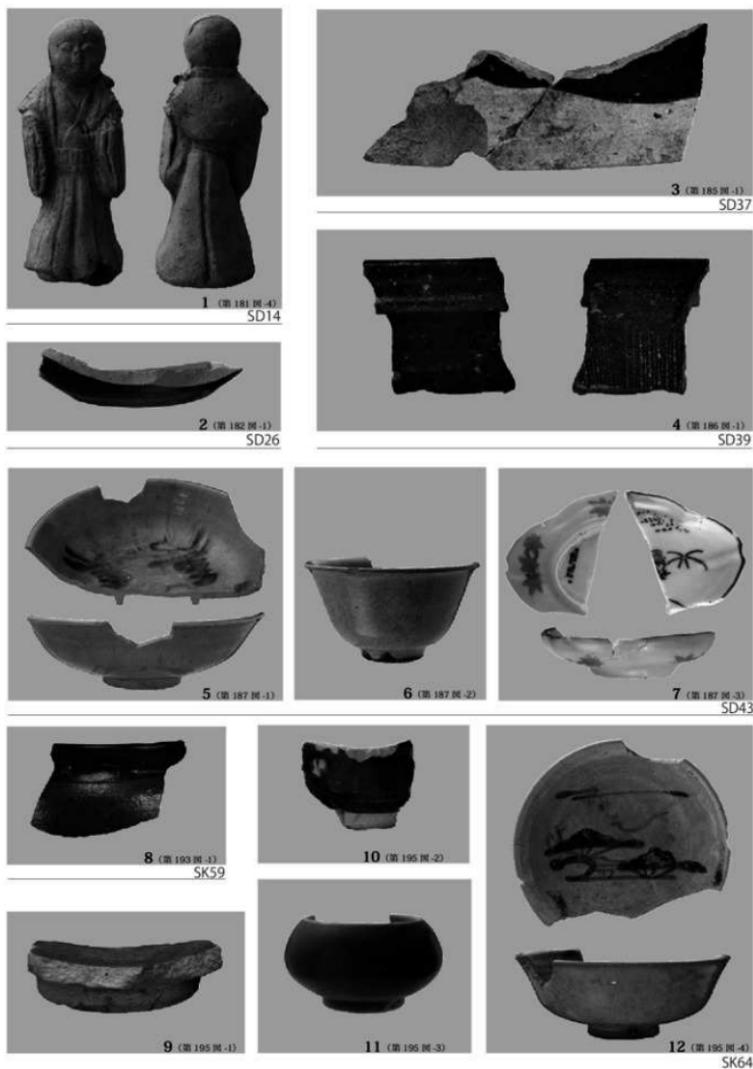


図版 104 川内駅部Ⅰ区出土遺物 (16)・Ⅱ区出土遺物 (1)

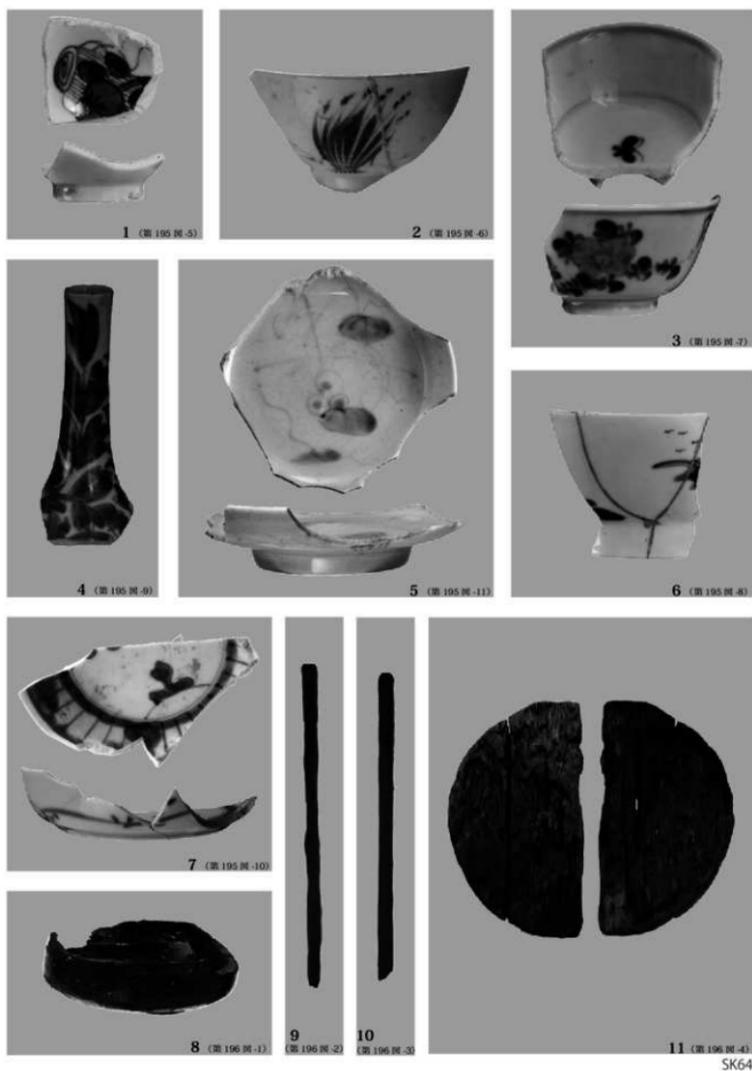


図版 105 川内駅部Ⅱ区出土遺物(2)

出土遺物写真



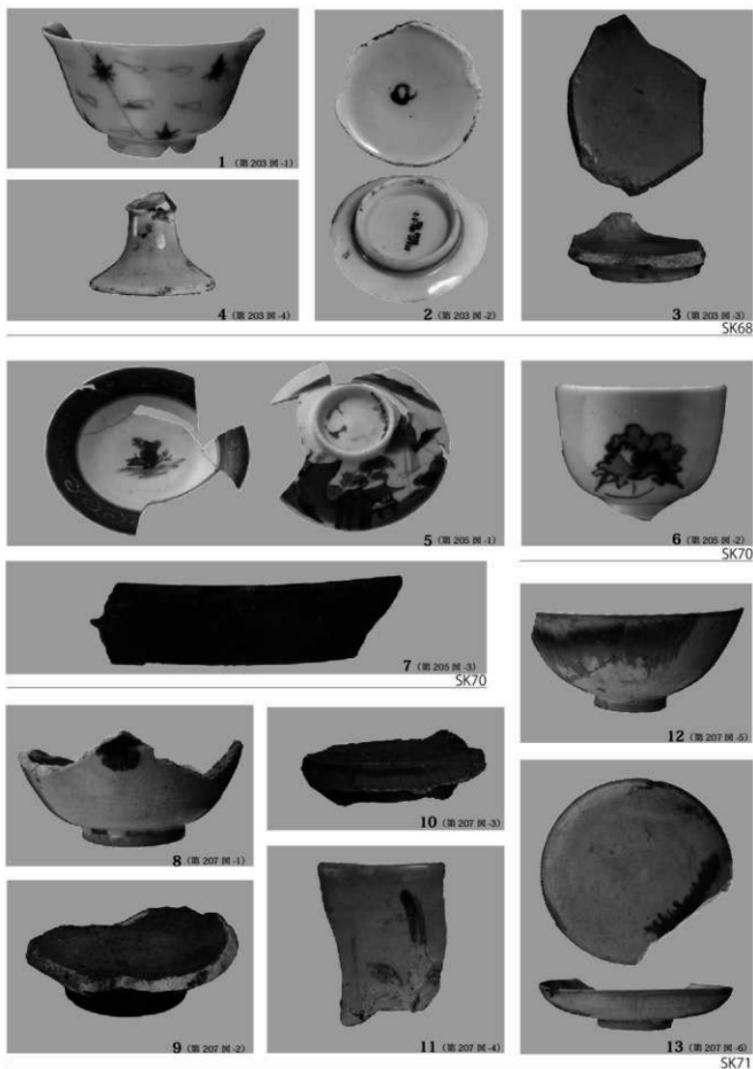
図版 106 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (3)



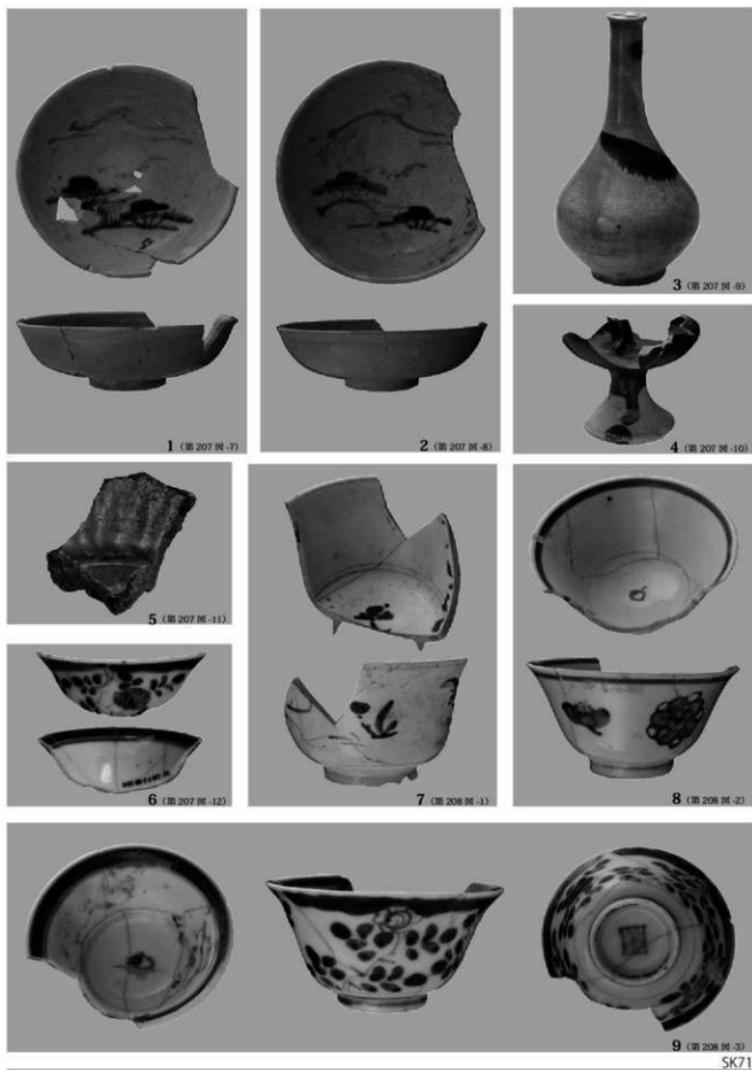
図版107 川内駅部Ⅱ区出土遺物(4)



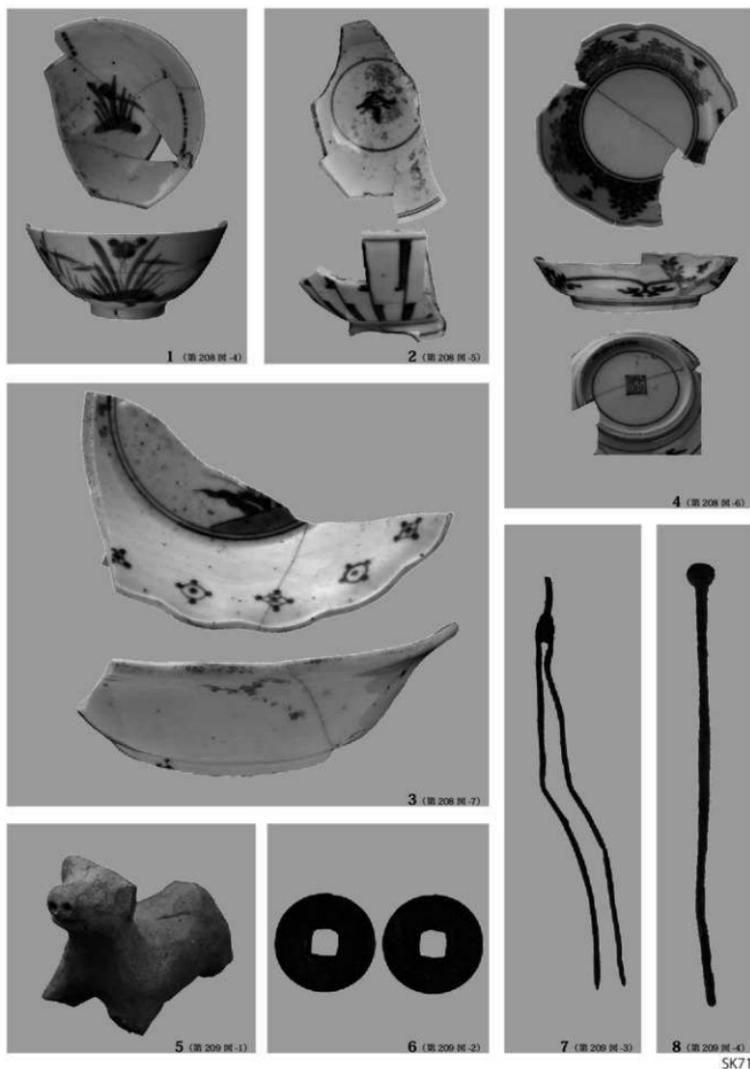
図版108 川内駅部Ⅱ区出土遺物(5)



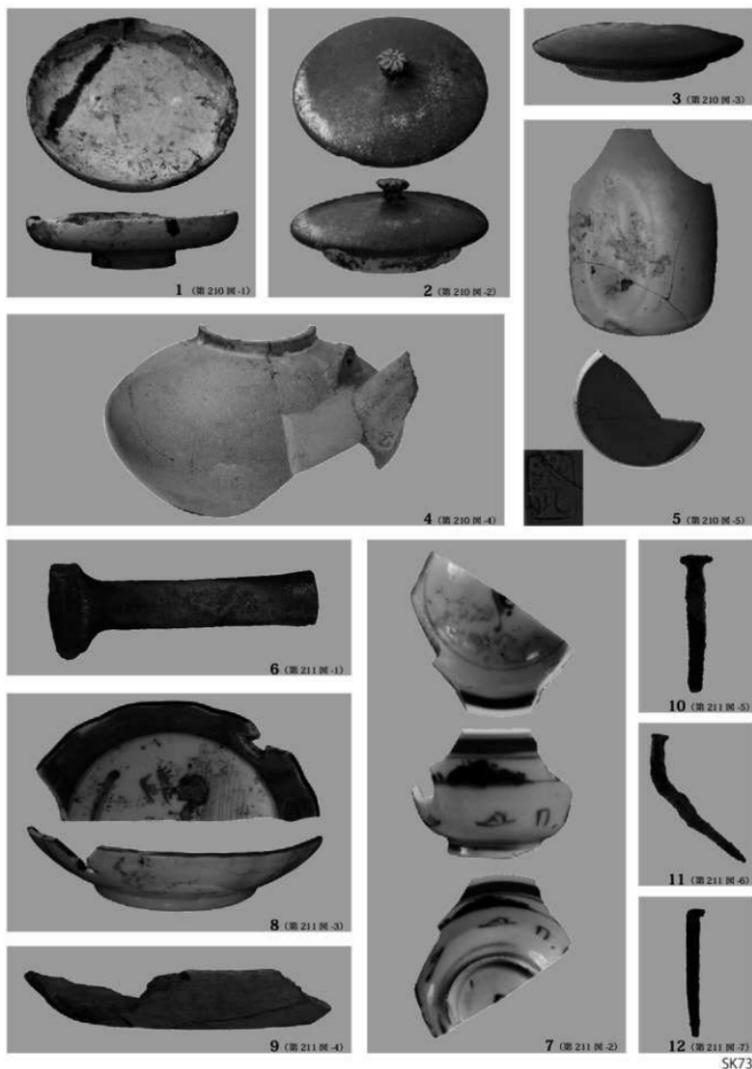
図版 109 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (6)



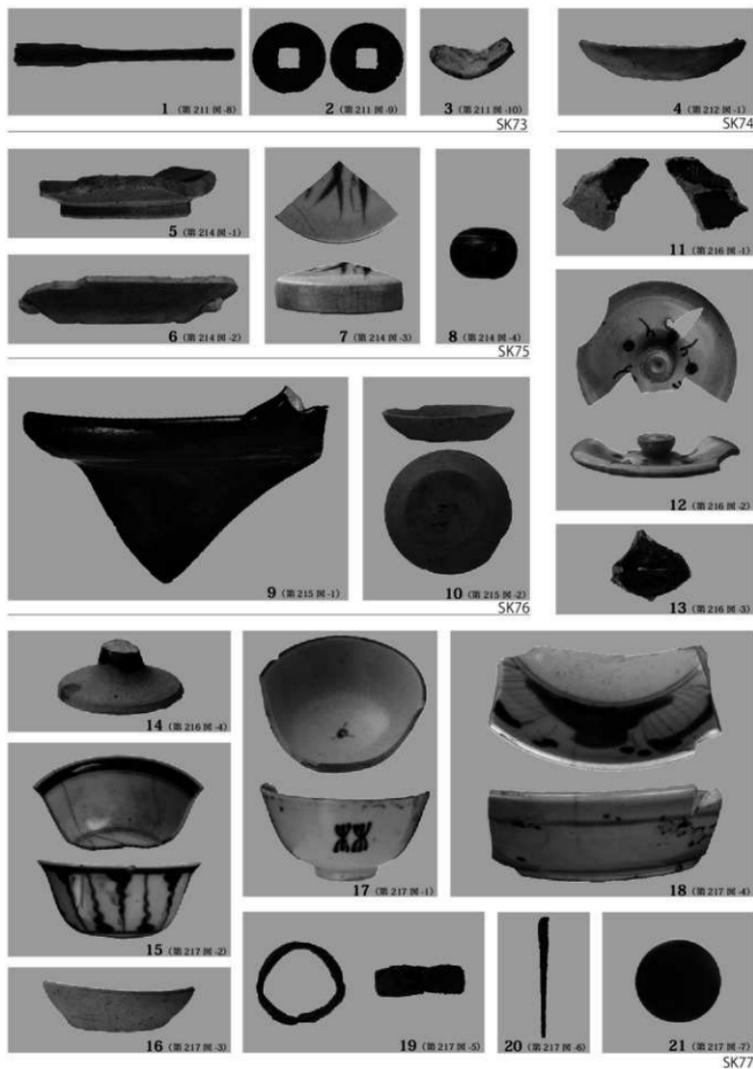
図版 110 川内駅部Ⅱ区土遺物 (7)



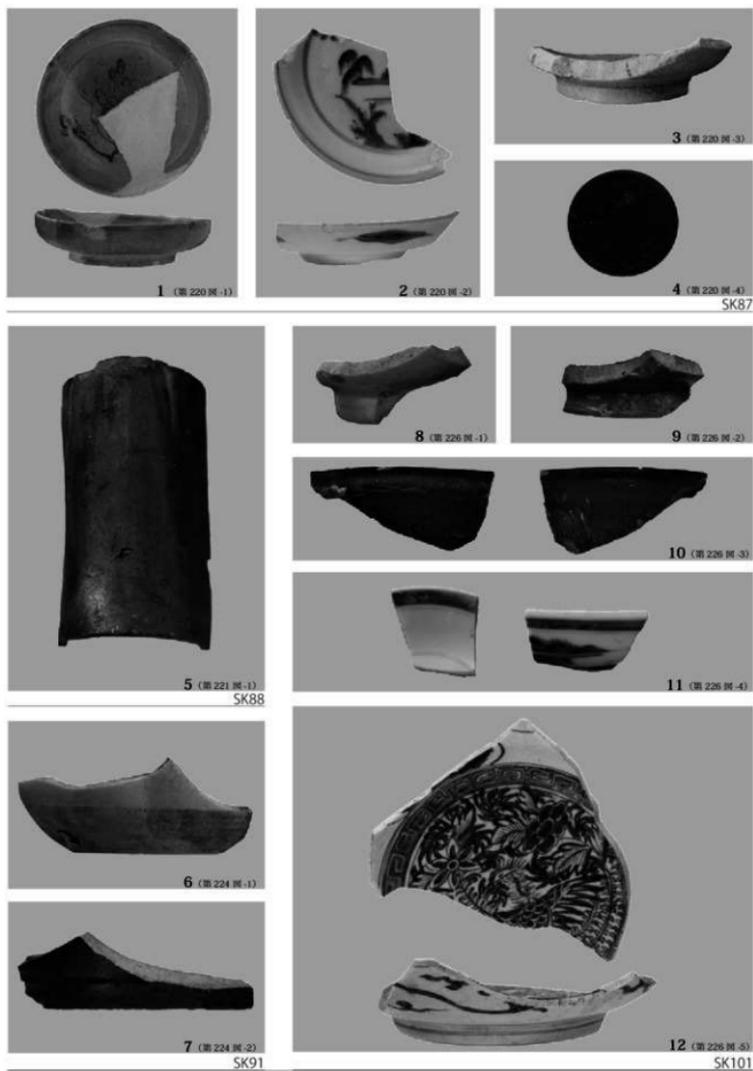
図版 111 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (8)



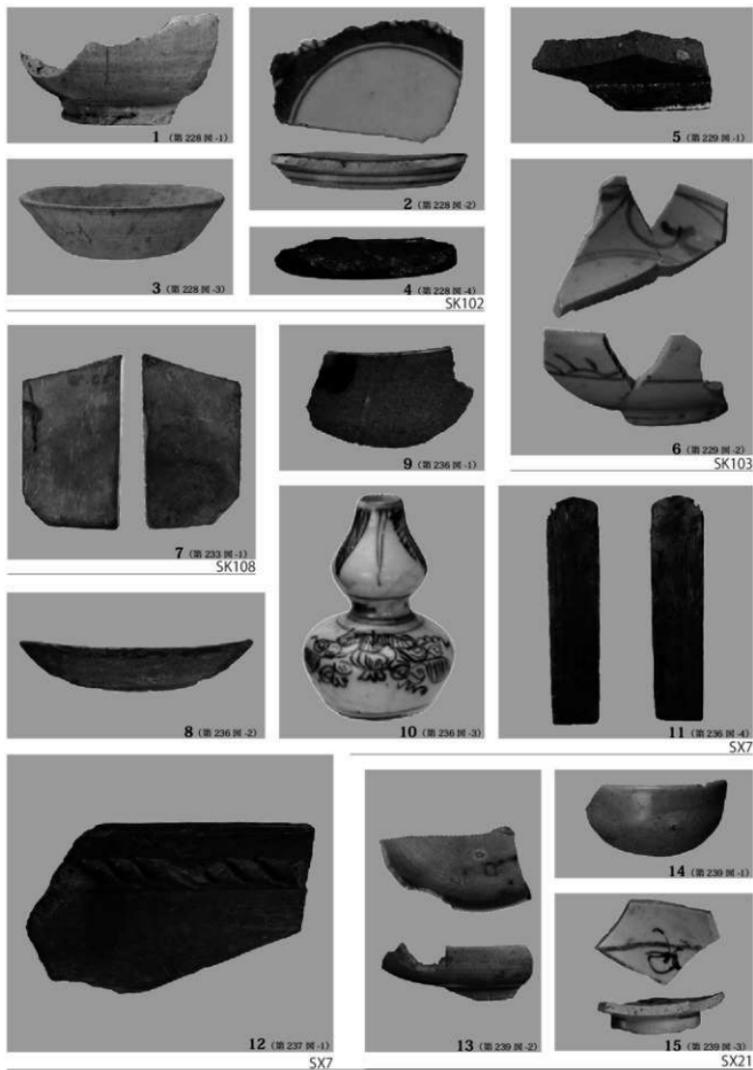
図版 112 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (9)



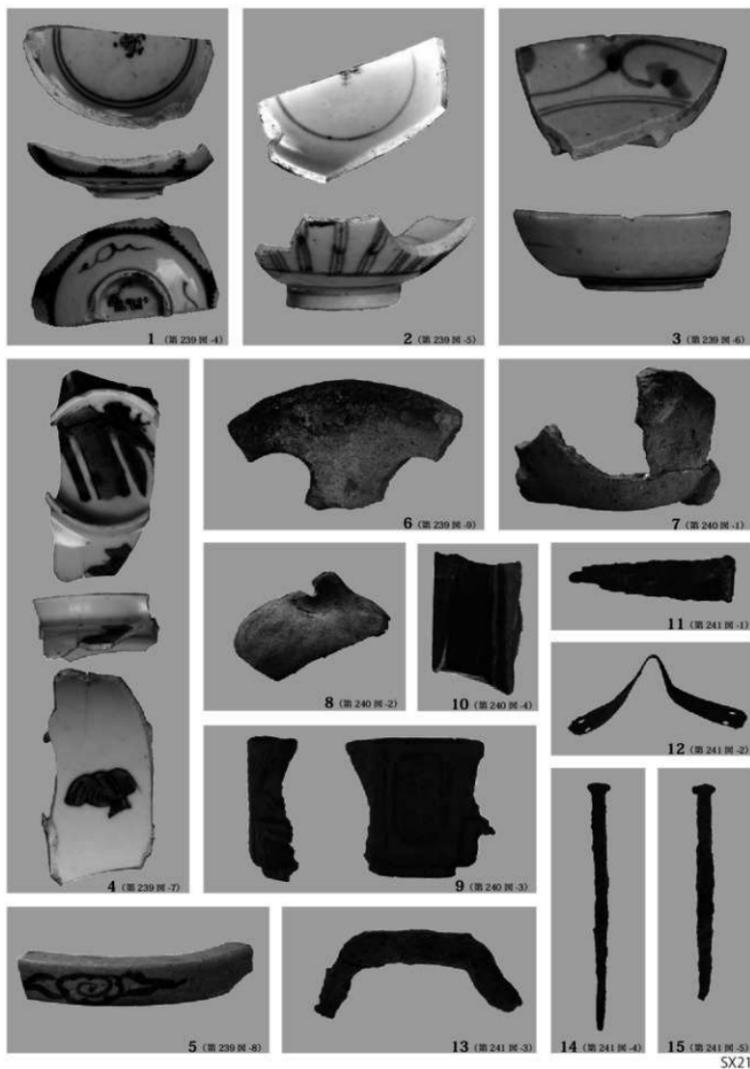
图版 113 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (10)



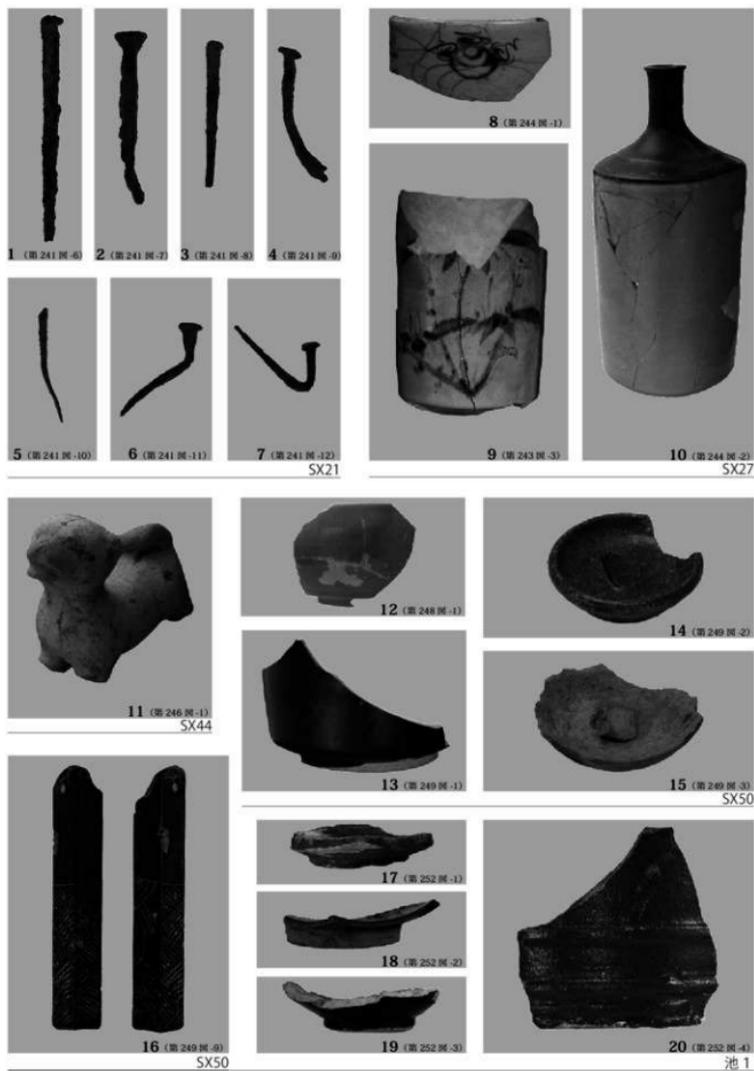
図版 114 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (11)



図版115 川内駅部Ⅱ区出土遺物(12)



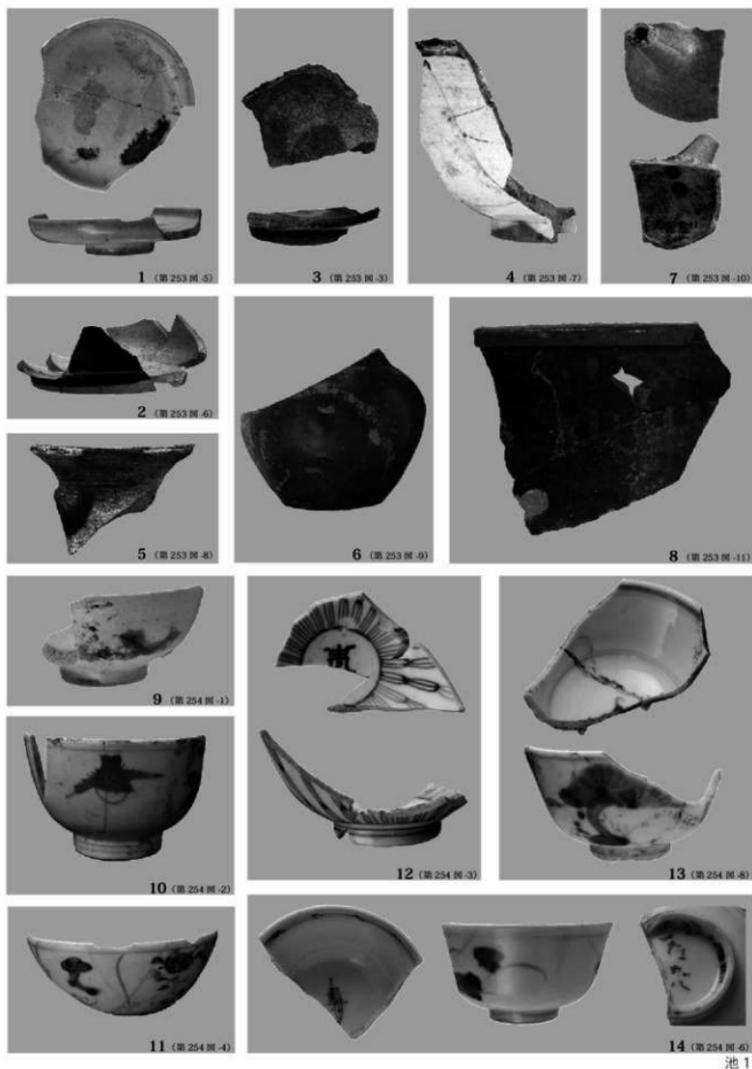
図版 116 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (13)



図版 117 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (14)



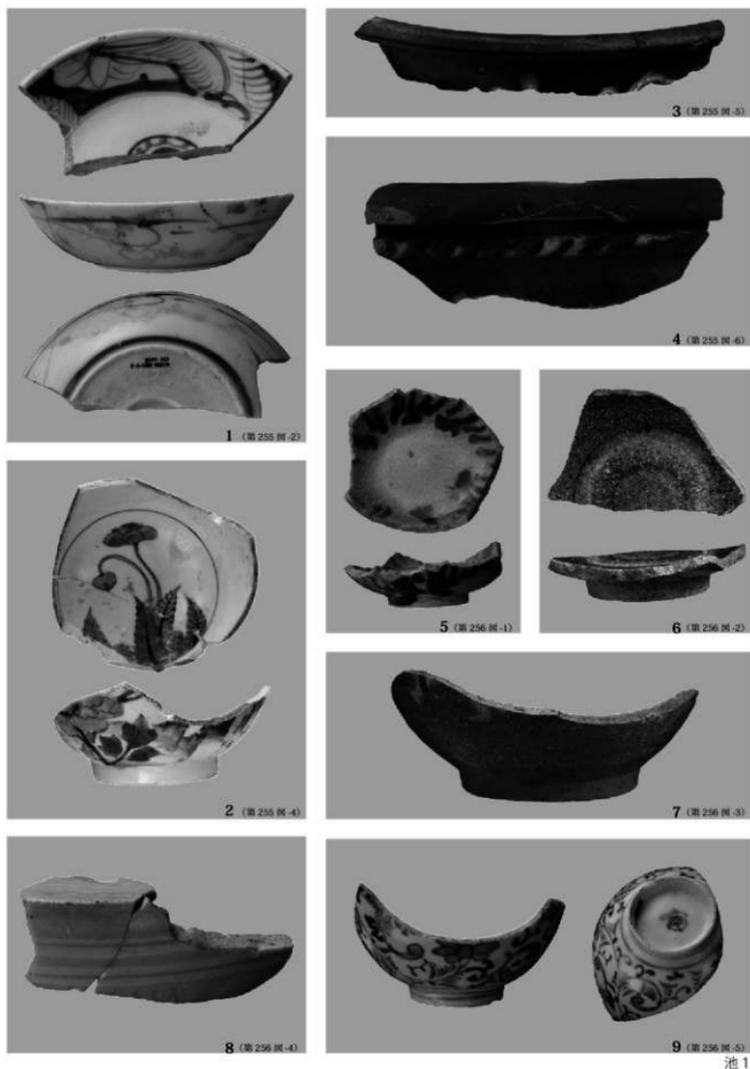
図版 118 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (15)



図版 119 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (16)

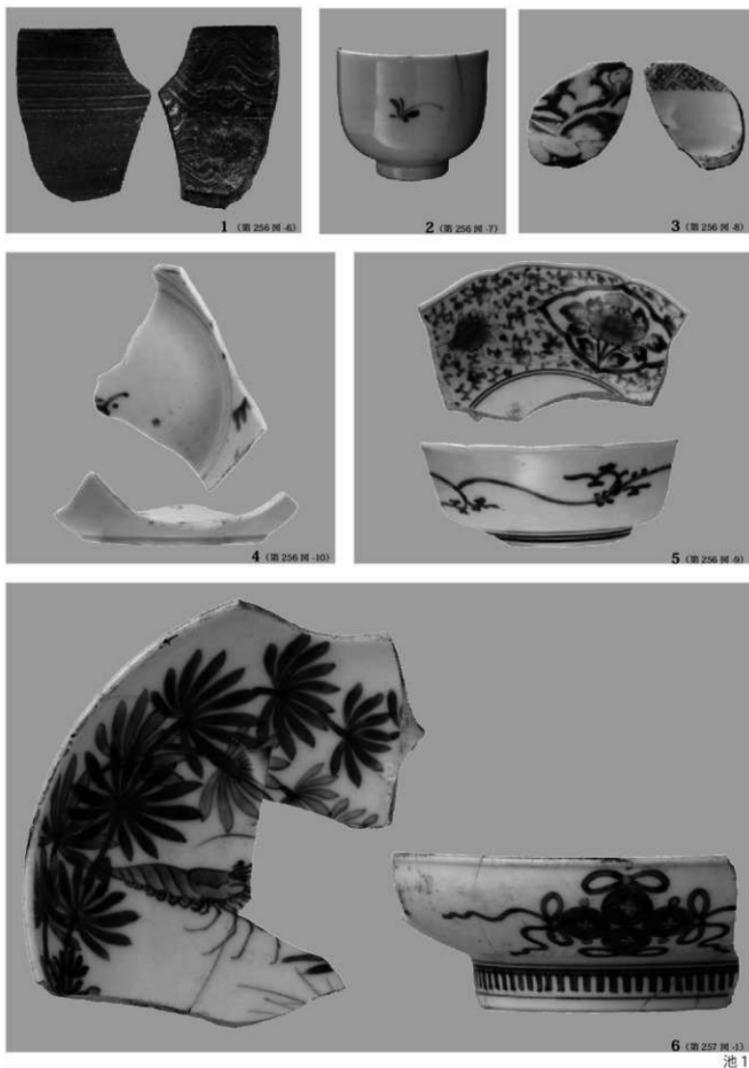


図版 120 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (17)

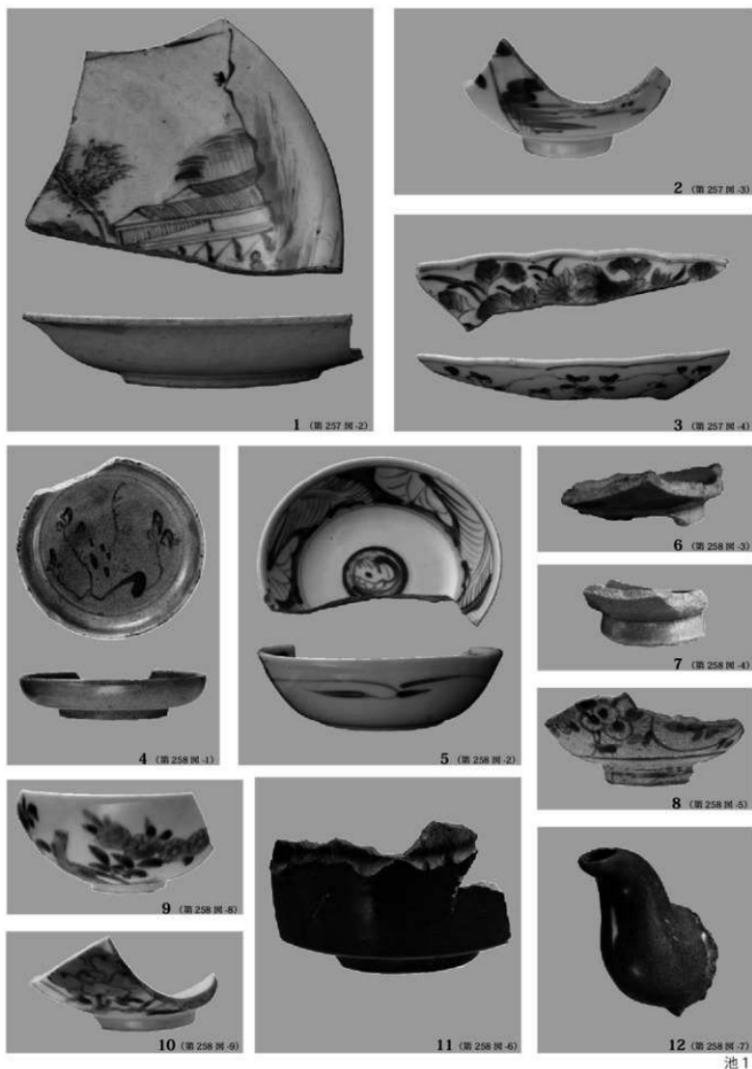


図版 121 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (18)

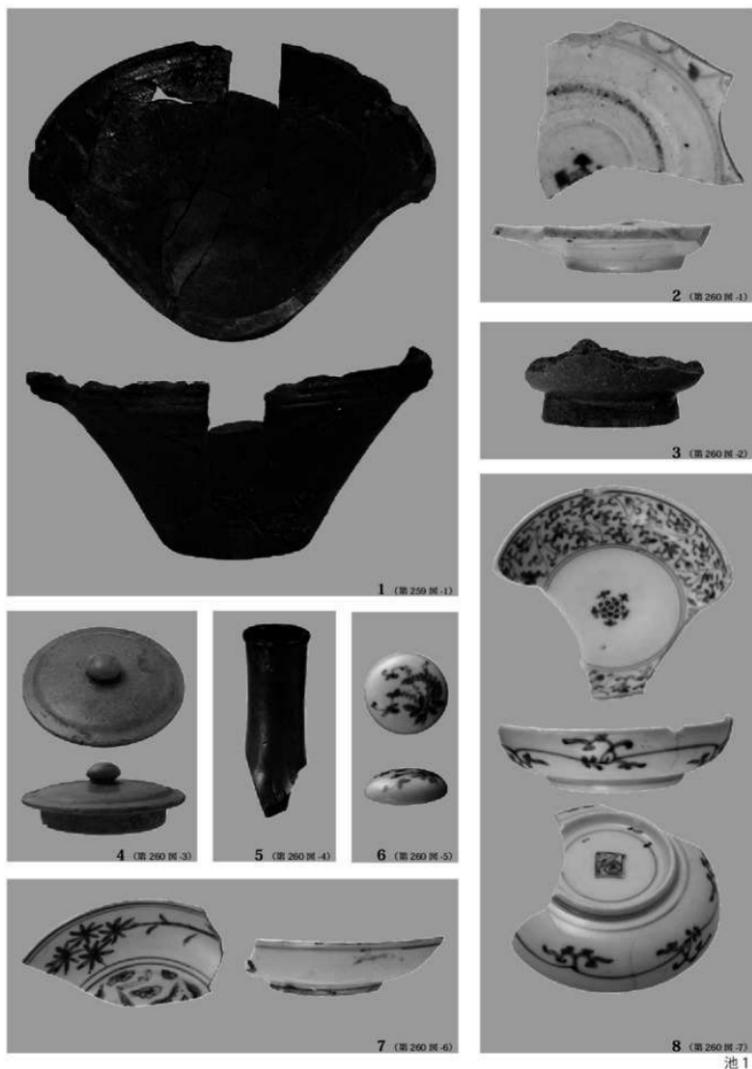
出土遺物写真



図版 122 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (19)



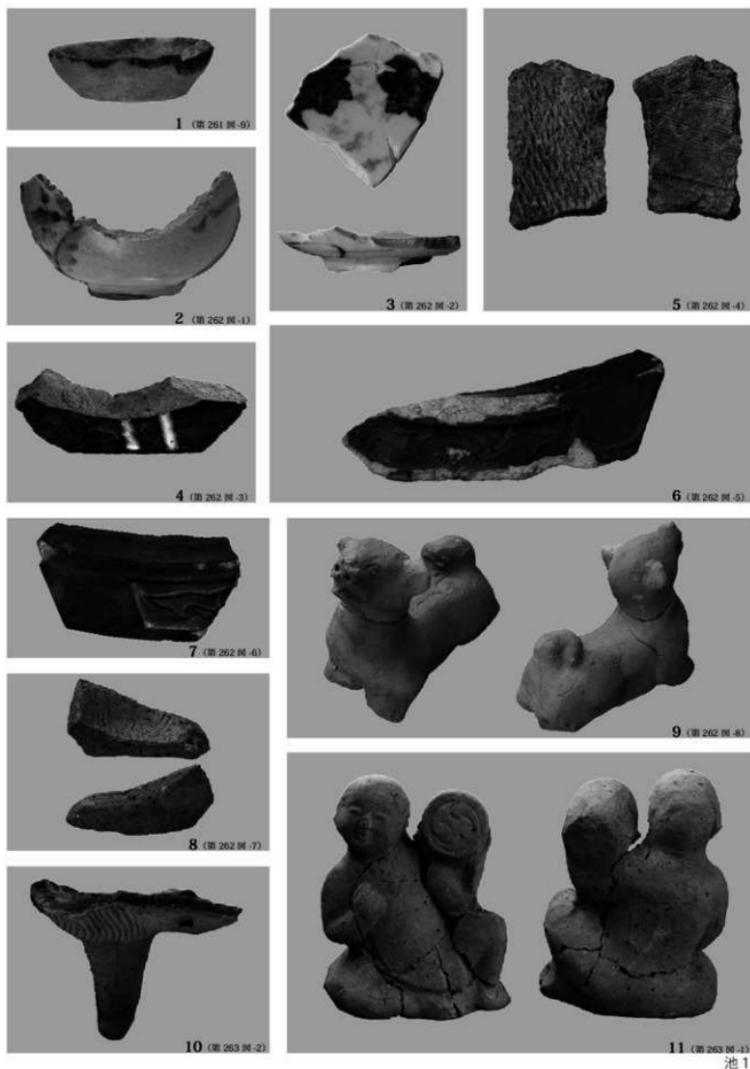
図版 123 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (20)



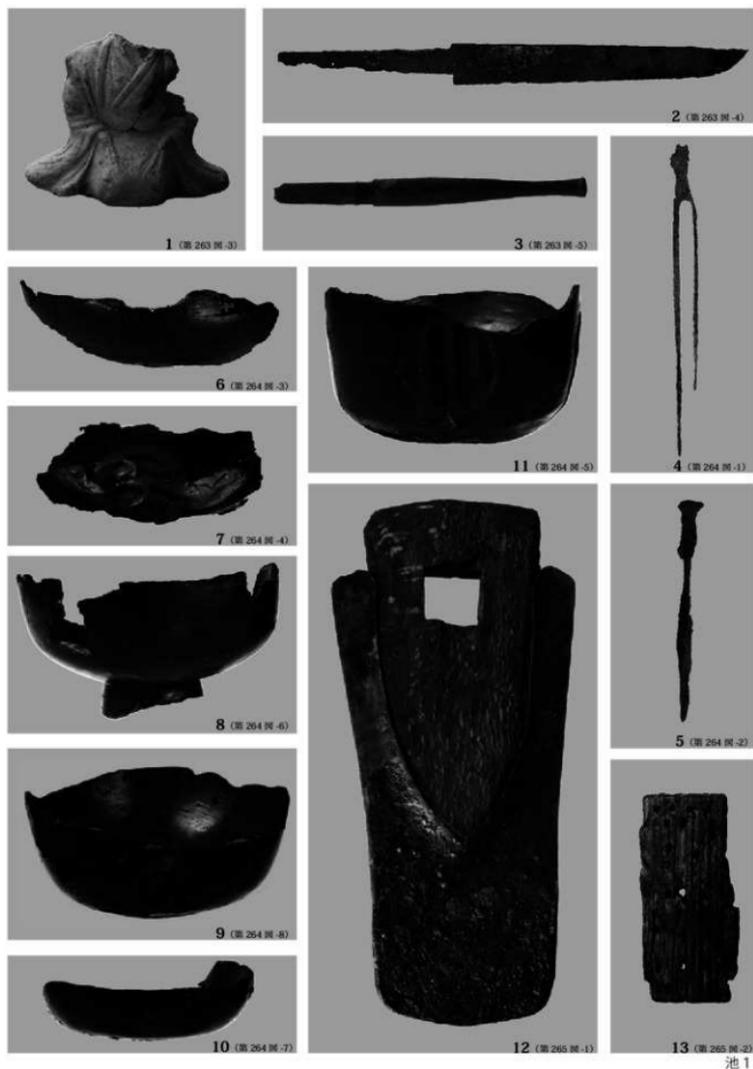
図版 124 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (21)



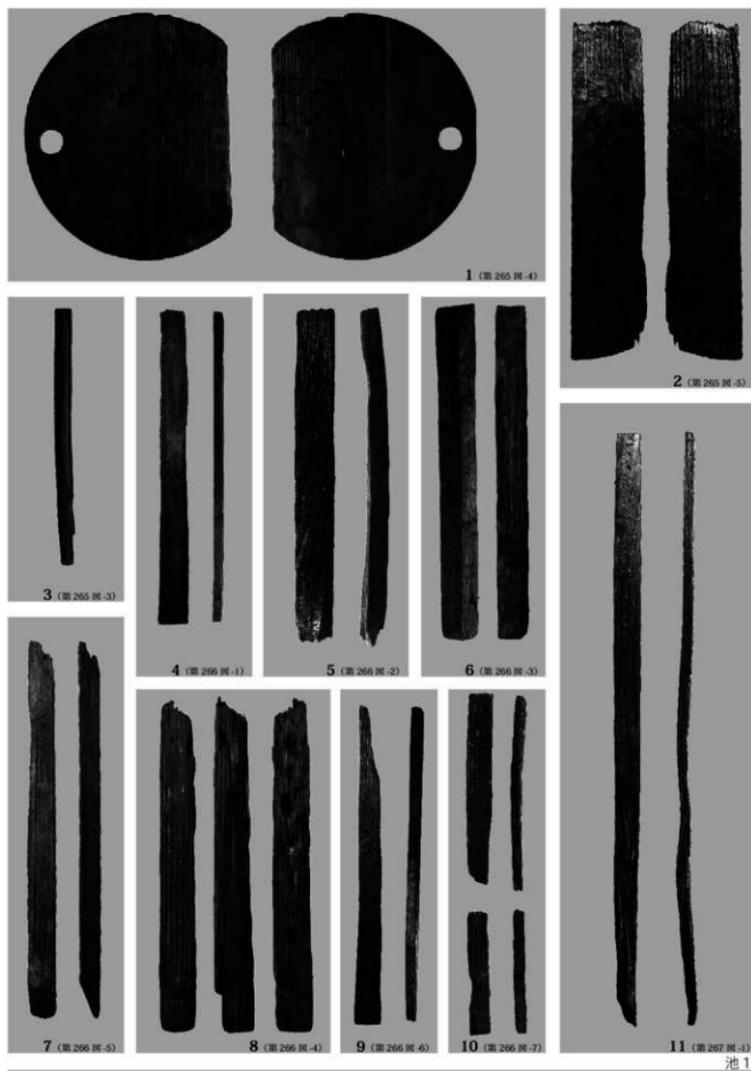
図版 125 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (22)



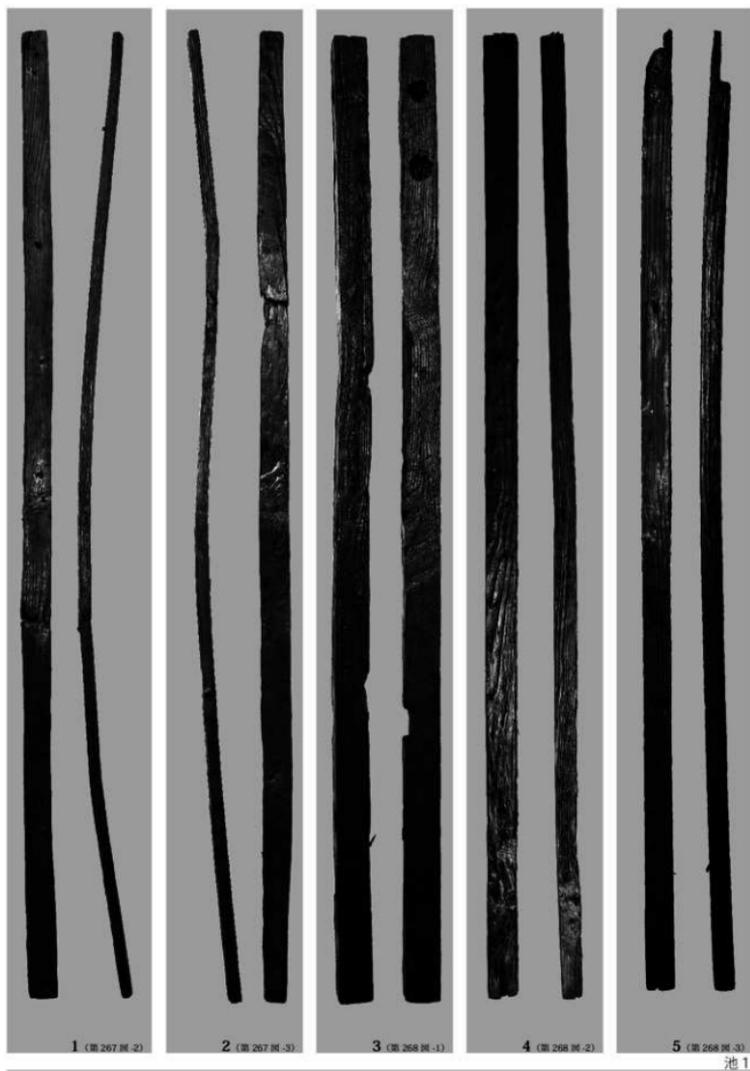
図版 126 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (23)



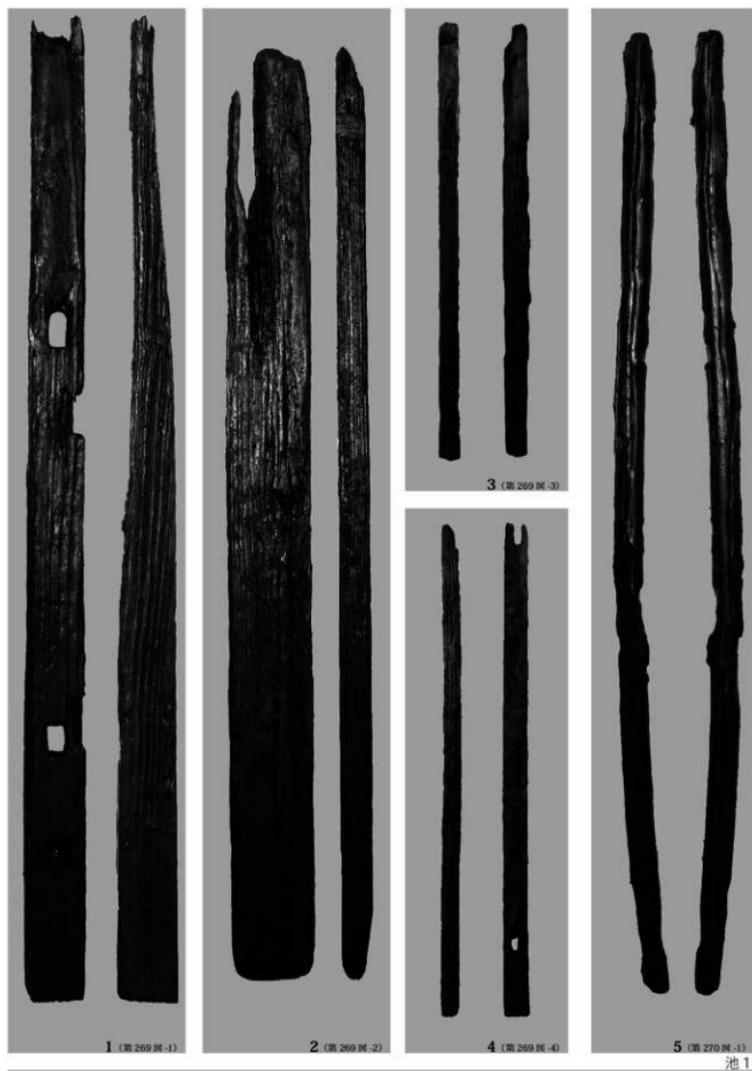
図版 127 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (24)



図版 128 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (25)



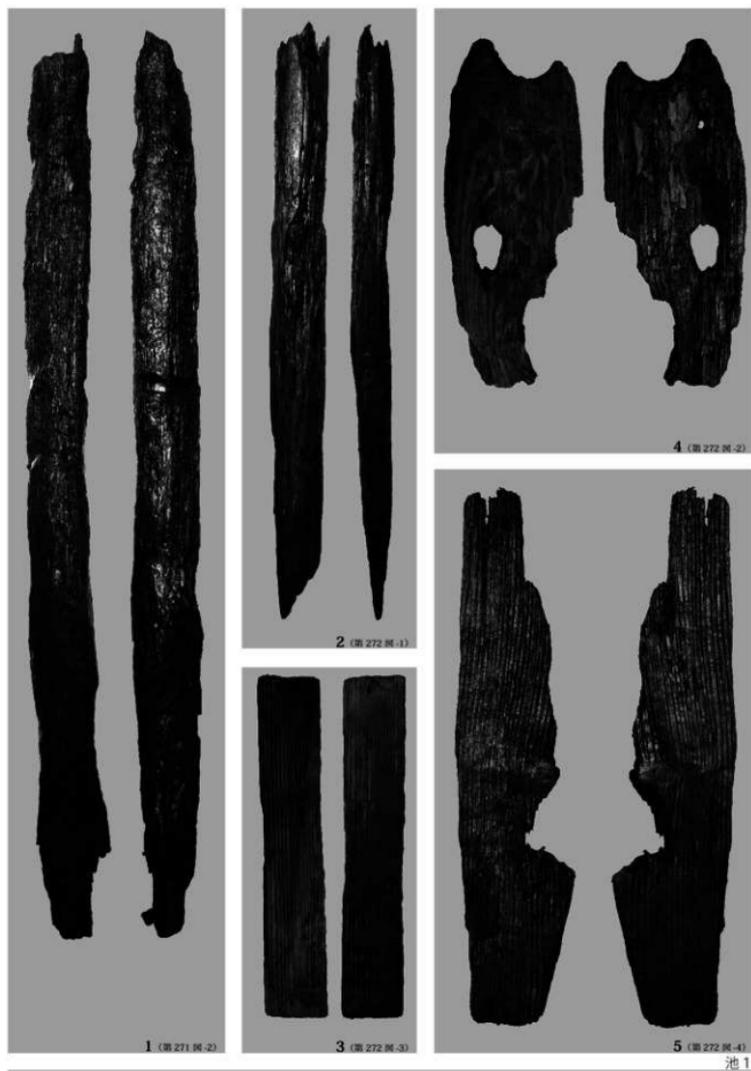
図版129 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (26)



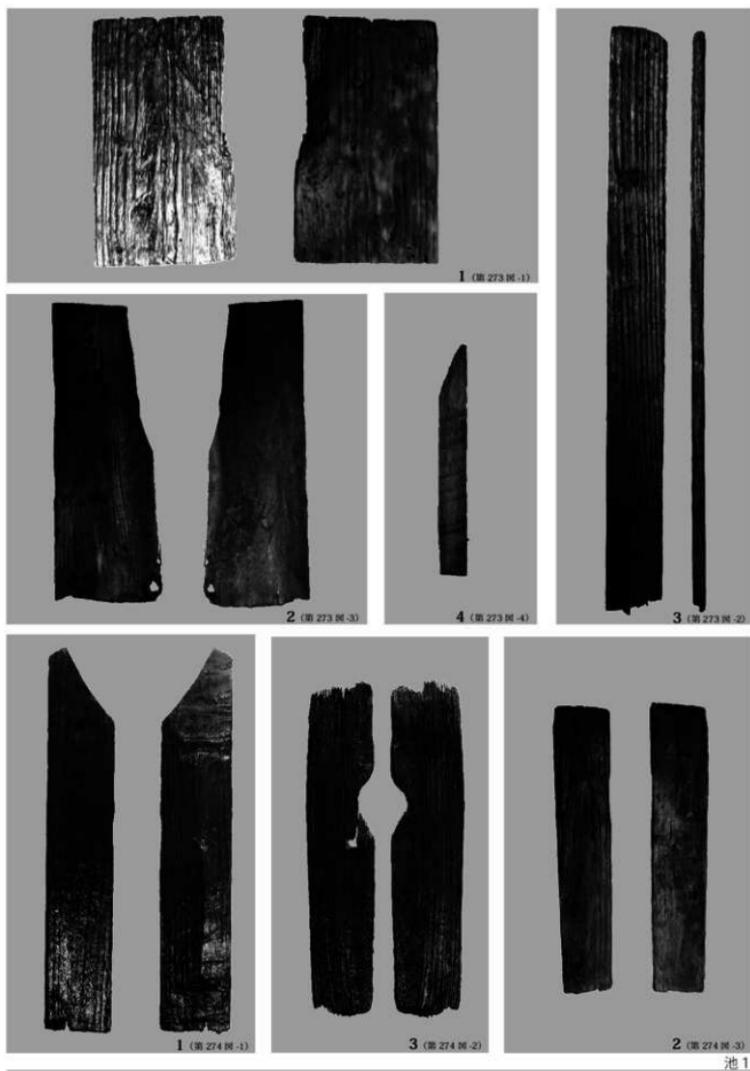
图版 130 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (27)



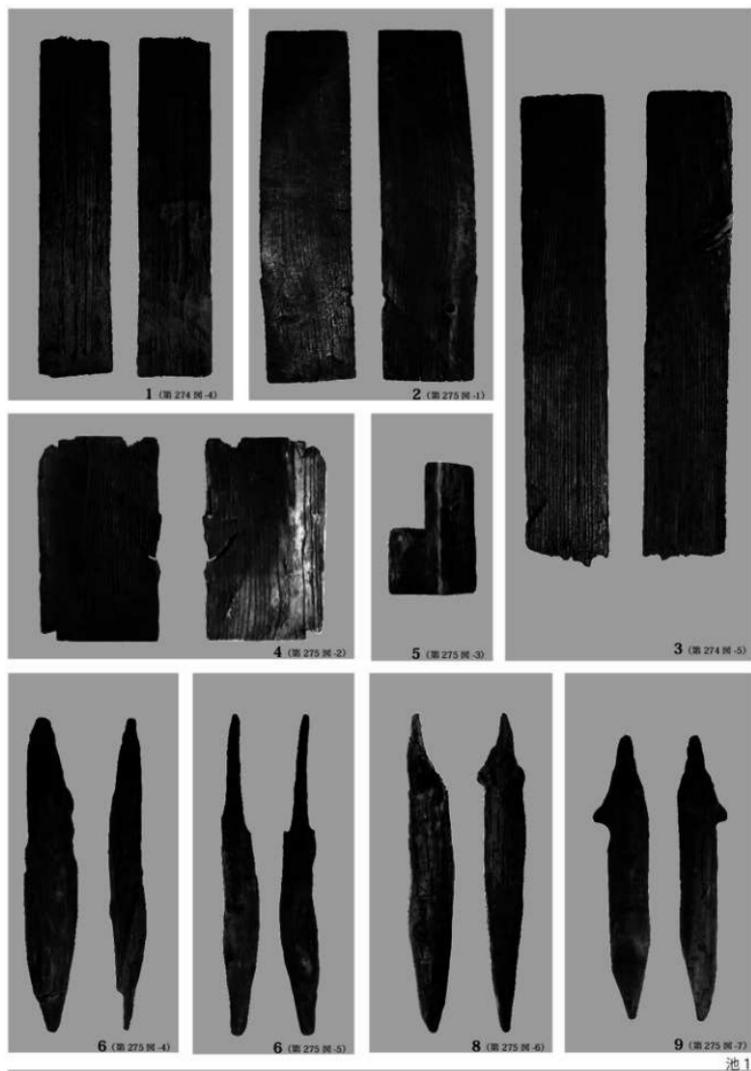
図版 131 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (28)



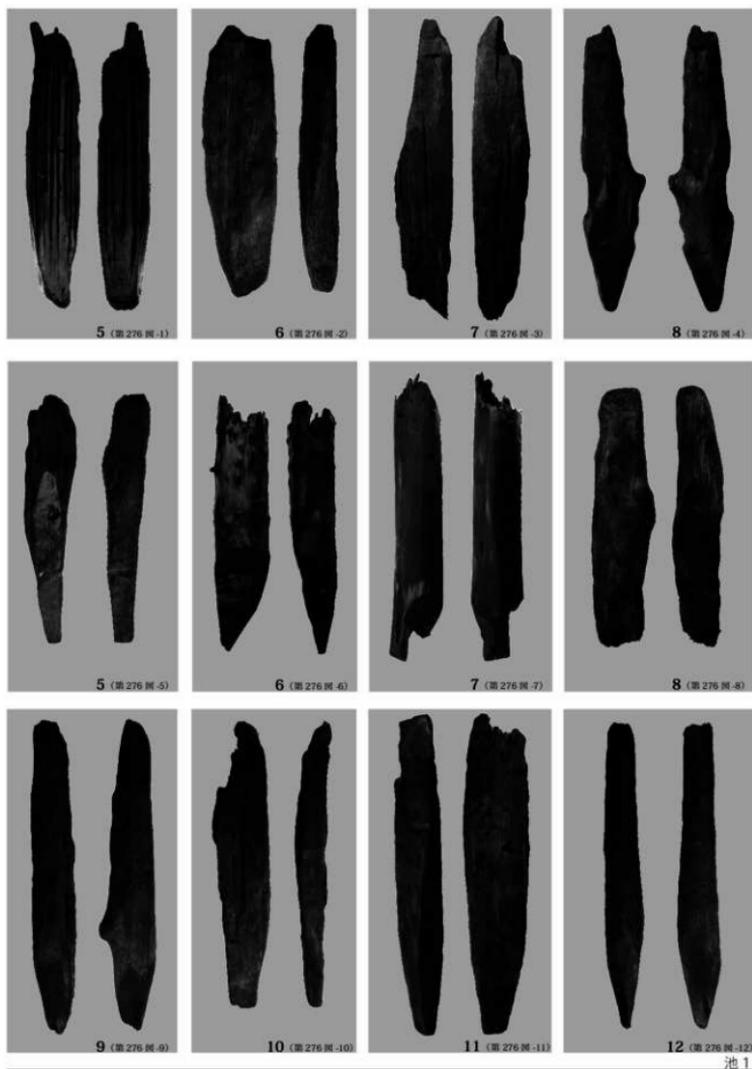
図版 132 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (29)



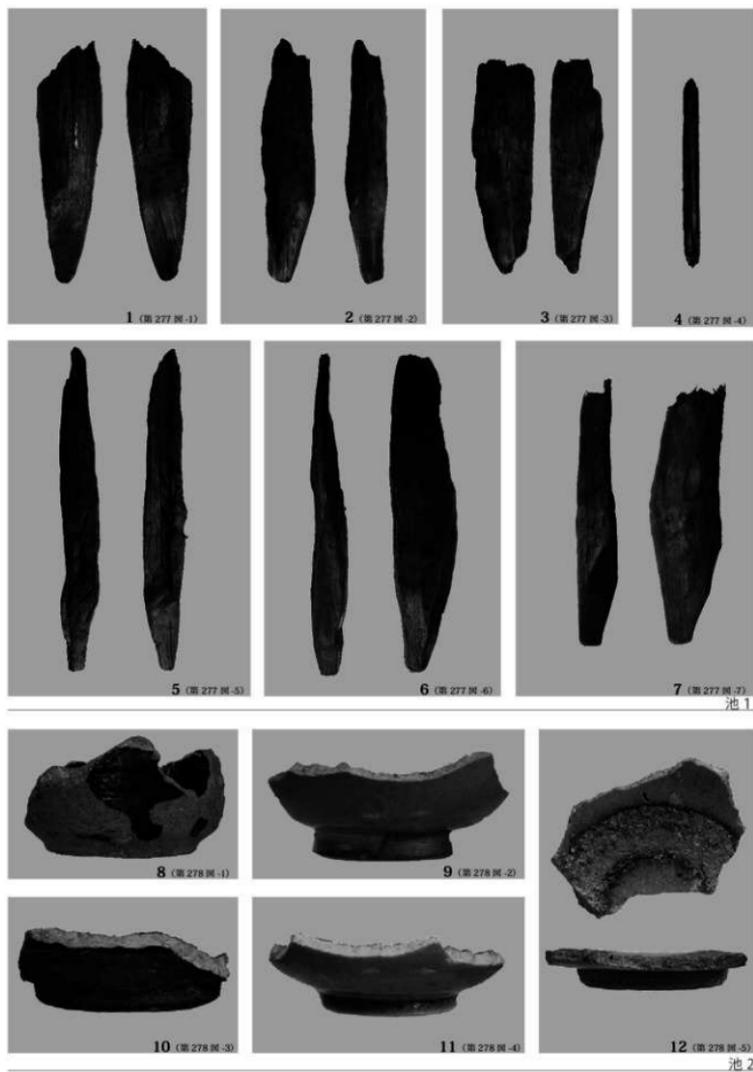
図版 133 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (30)



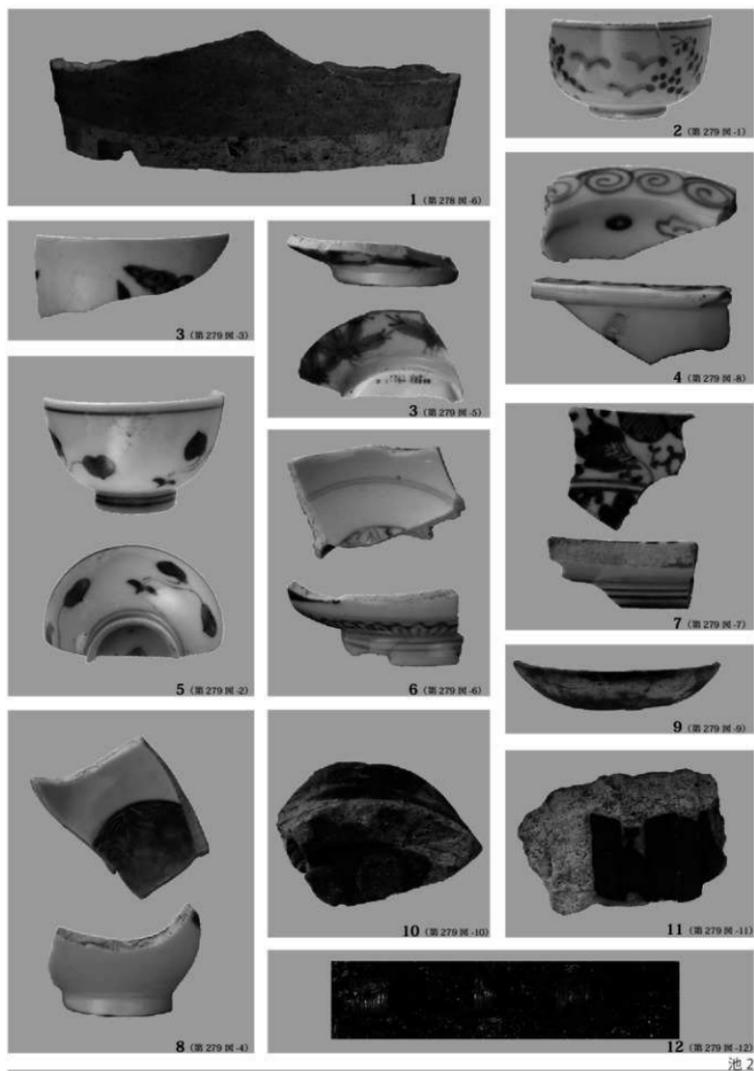
図版 134 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (31)



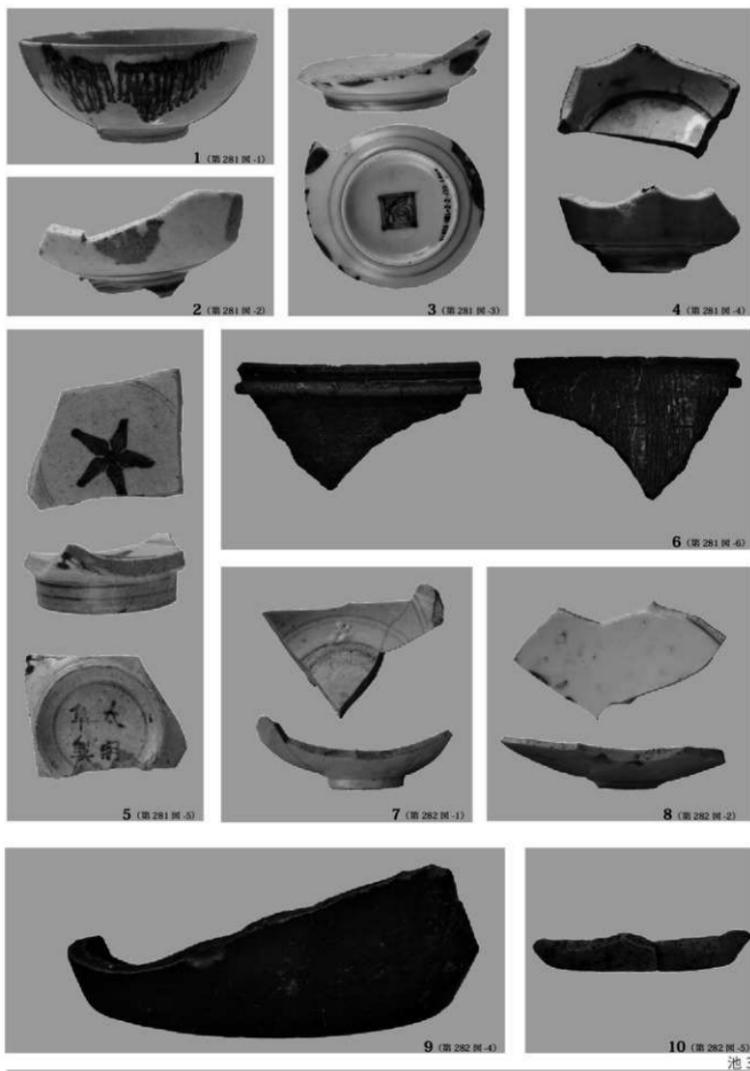
図版 135 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (32)



図版 136 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (33)

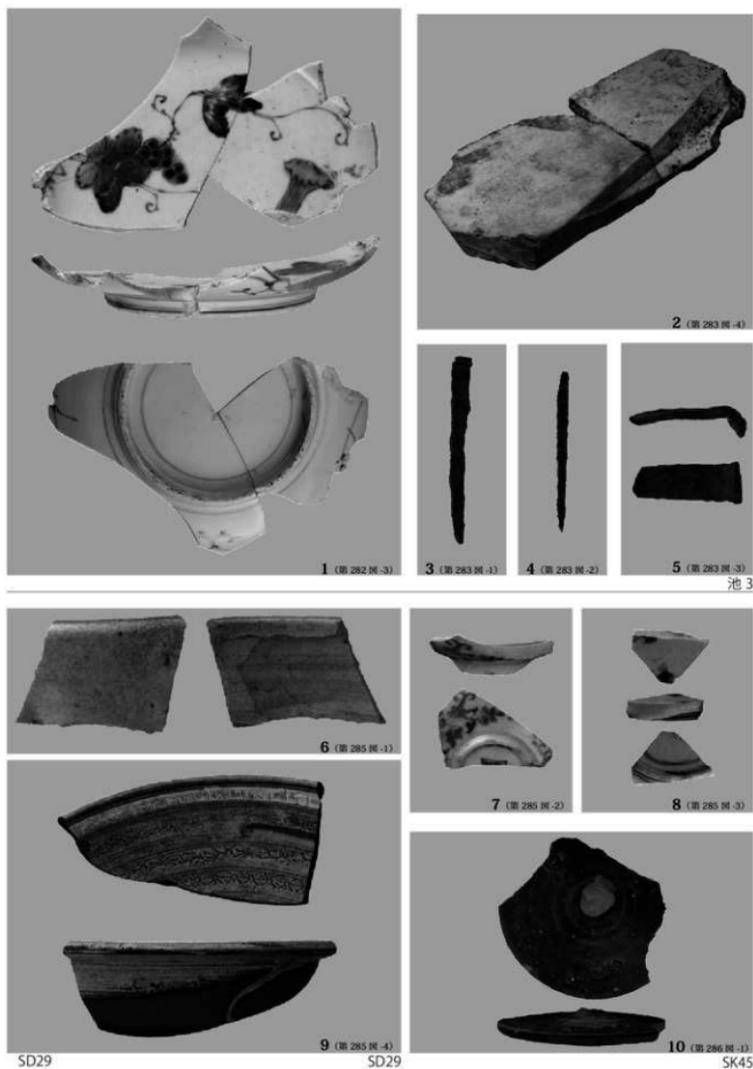


図版 137 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (34)

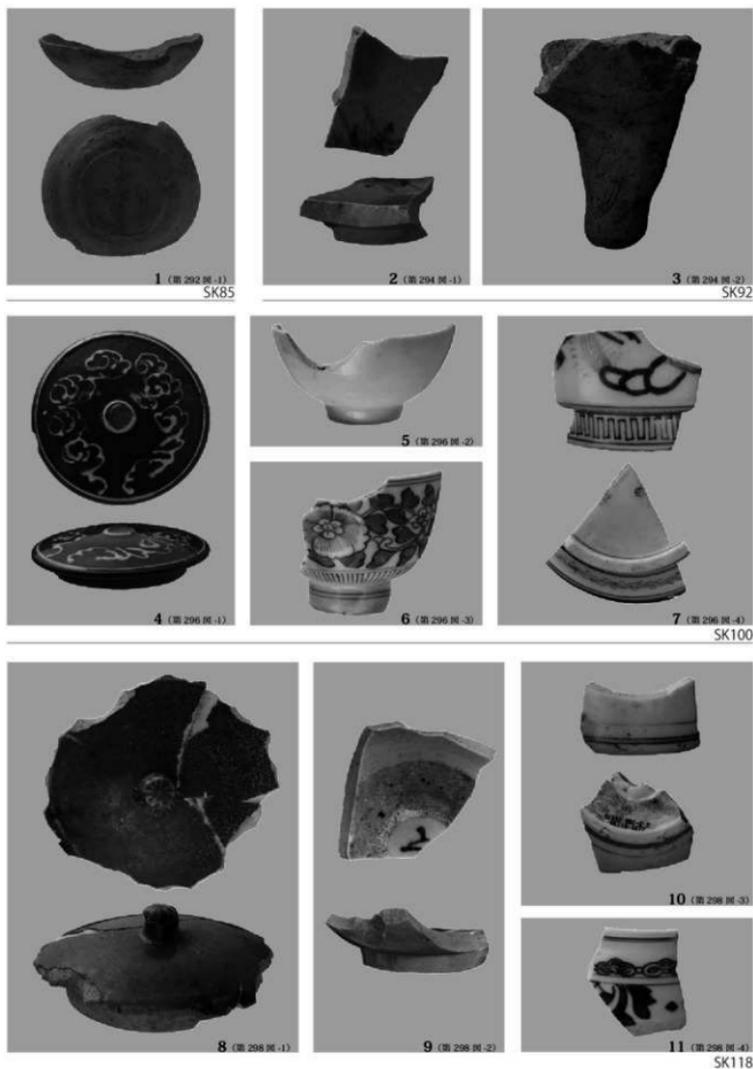


池3

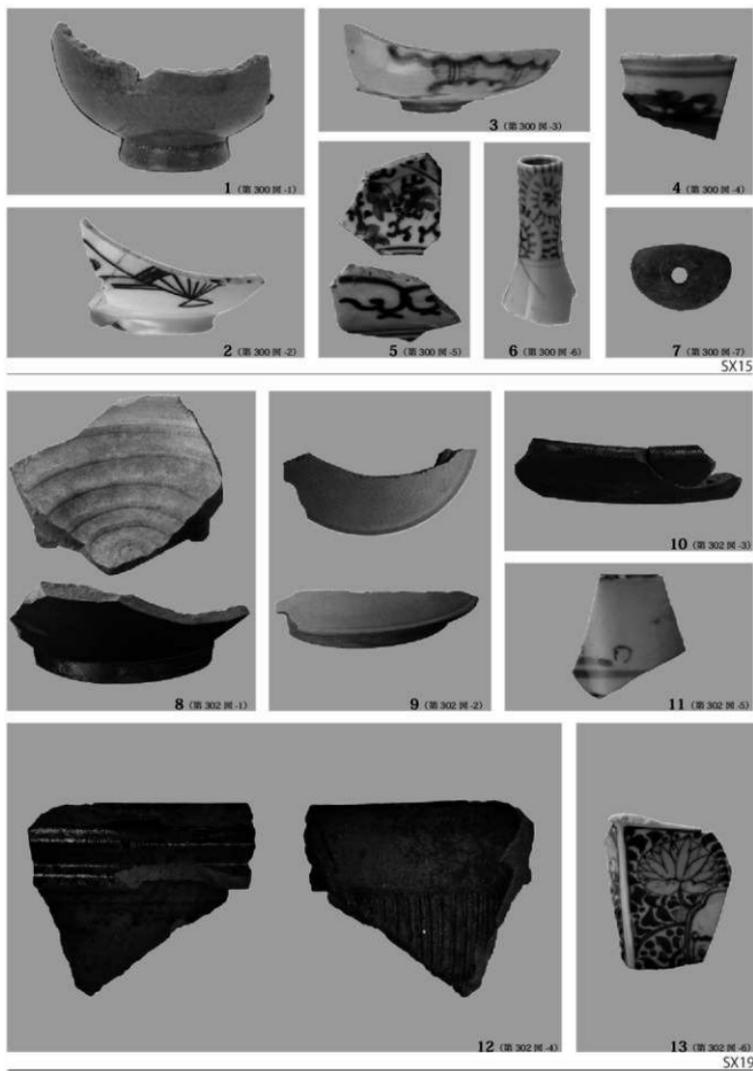
図版138 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (35)



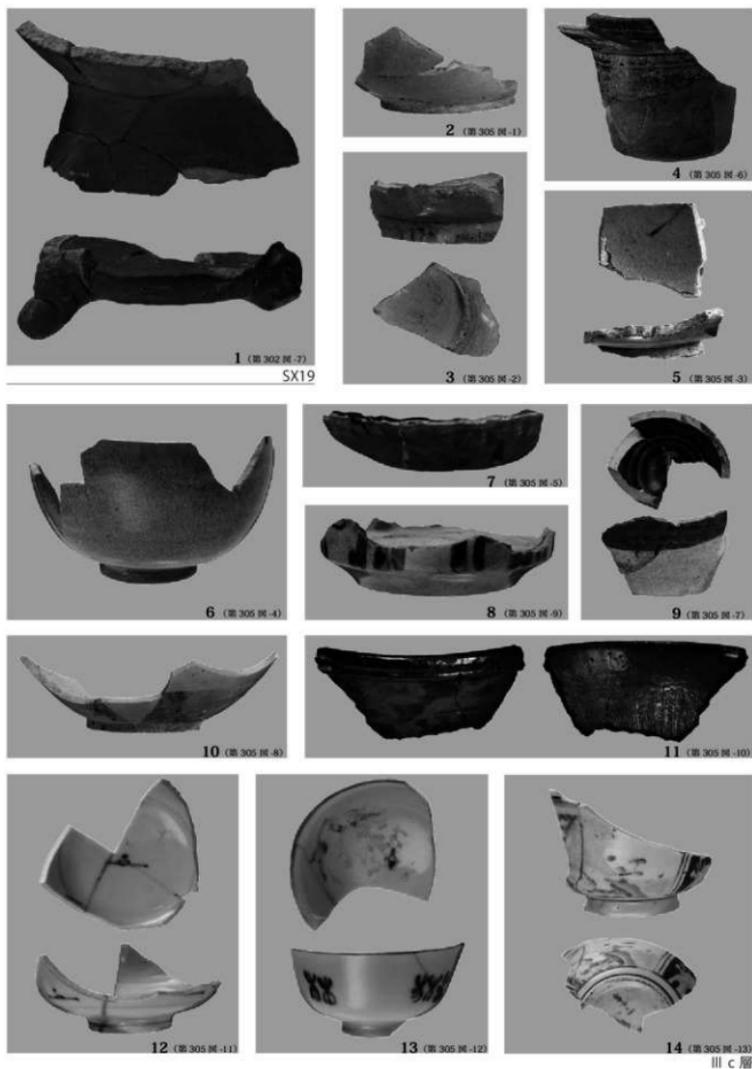
図版 139 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (36)



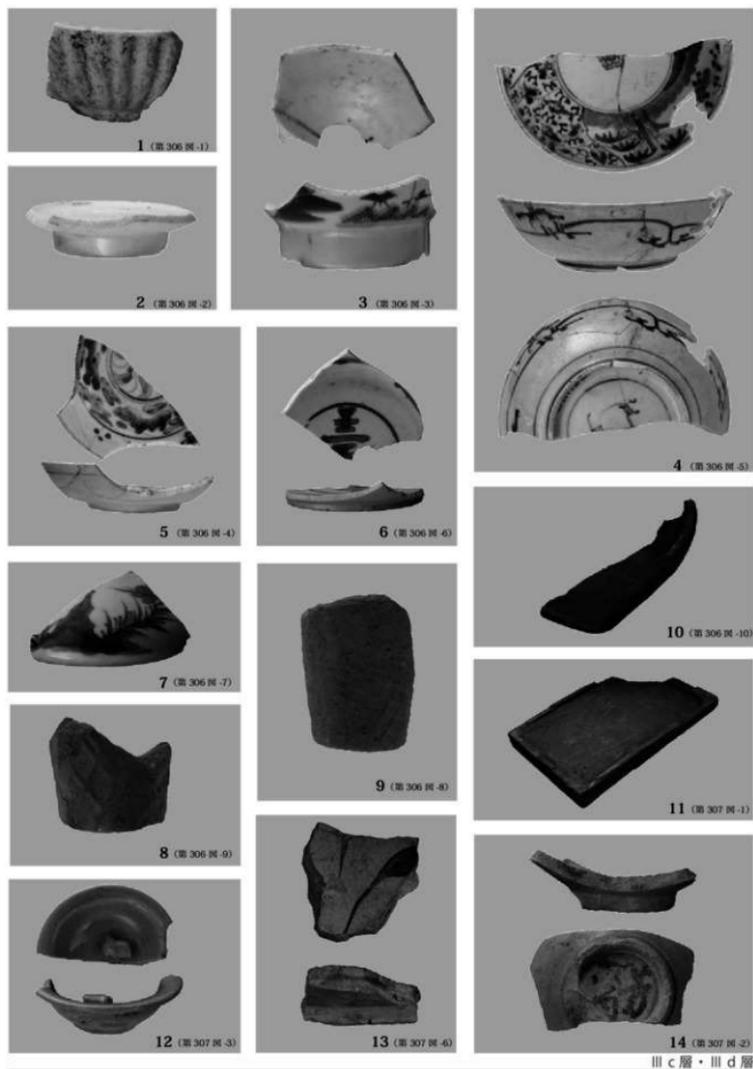
図版 140 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (37)



図版 141 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (38)



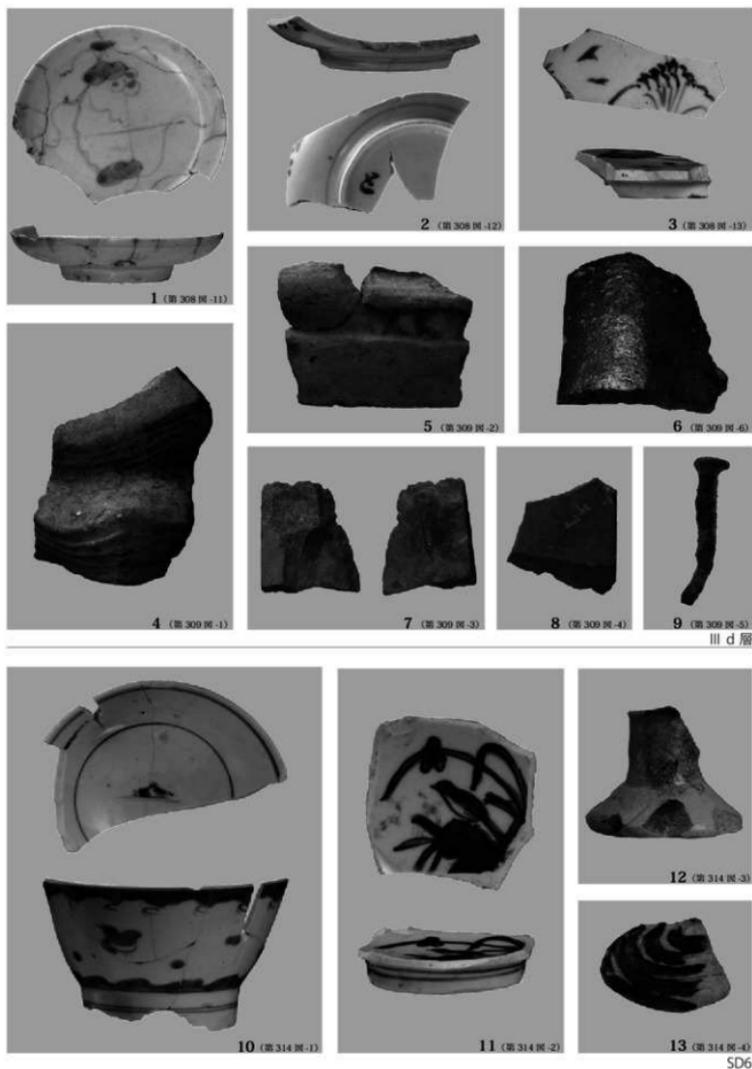
図版 142 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (39)



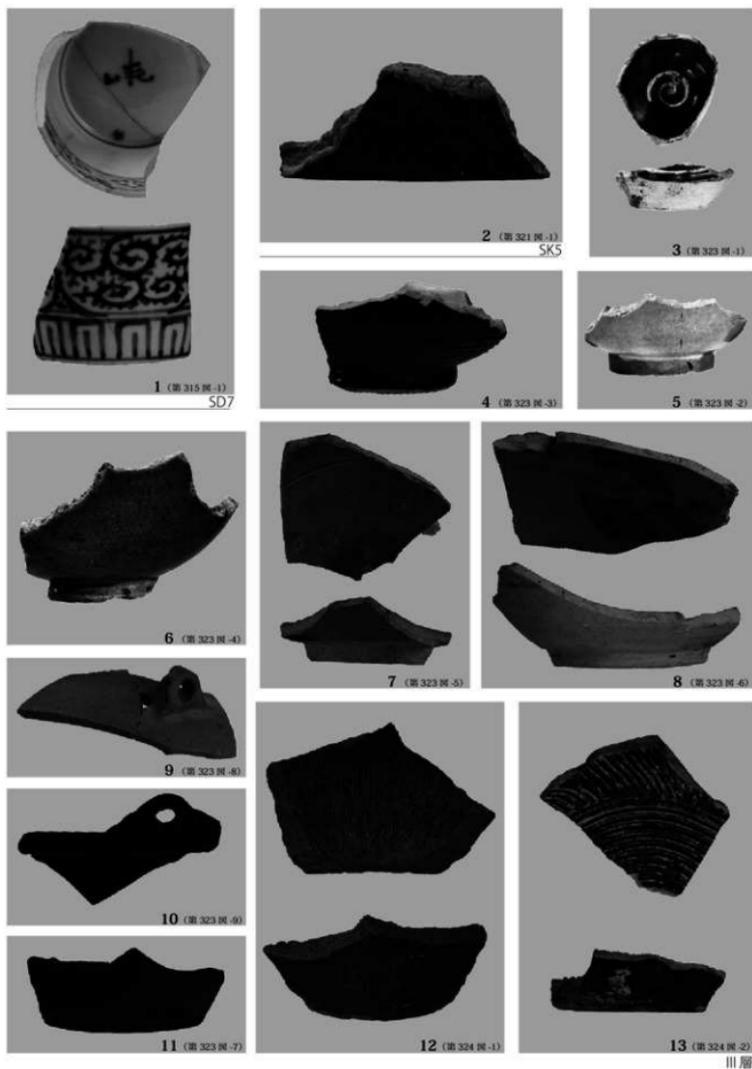
图版 143 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (40)



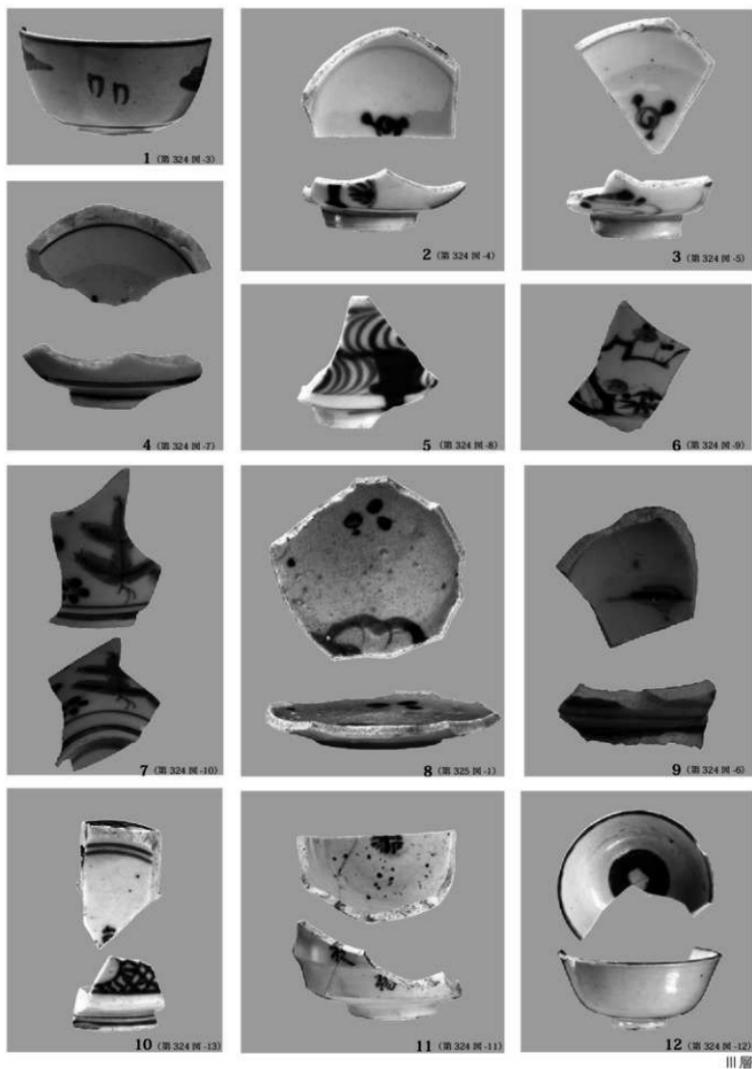
図版 144 川内駅部Ⅱ区出土遺物 (41)



図版 145 川内駅部Ⅱ区出土遺物(42)立坑部出土遺物(1)



図版 146 立坑部出土遺物 (2)



図版 147 立坑部出土遺物 (3)



図版 148 立坑部出土遺物 (4)

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと 一せんだいいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいせいせきはくつちょうさほうこくしきょろく一							
書名	仙台城跡 一仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書VI一							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告							
シリーズ番	第386集							
編著者名	主演光朗 結城慎一 長林 大 辻本 彩							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二丁目1番1号 TEL022(214)8893～8894							
発行年月日	2011年3月11日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいいし 宮城県仙台市 あおおくわわうちちない 青葉区川内地区内	4100	01033	38° 15' 37"	140° 50' 55"	2007.4.23 ～ 2008.2.1	3800㎡	仙台市高速鉄道 東西線建設事業 に伴う発掘調査
所収遺跡名	主な時代	種別	主な遺構		主な遺物	特記事項		
仙台城跡	江戸時代	武家屋敷	柱列跡 溝跡・井戸跡 土坑 階段状遺構 池跡 性格不明遺構		陶磁器 土師質土器 瓦質土器 瓦 金属製品 木製品 土製品	鍋島焼が、川内駅部Ⅱ区 のⅣ層上面において検出し たSX21から1点、池1か ら1点の計2点出土し、宮 城県の近世の調査において、 2例目の出土例となる。		
要約	<p>仙台城跡は、仙台市街西側に広がる、広瀬川によって形成された河岸段丘上に立地する遺跡で、標高は55.7～70.0mである。周辺は近世を通じて、仙台城二の丸北方に展開する武家屋敷跡地であり、平成18年度に3800㎡の調査を行った結果、基本層Ⅲ～Ⅴ層（近世整地層）及びⅥ層（自然堆積層）の上面において、17世紀～19世紀代にかけての武家屋敷地を区画する柱列跡・溝跡と、武家屋敷に伴う池跡、階段状遺構、廃棄土坑とともに、陶磁器を中心とした大量の遺物が検出され、江戸時代における仙台藩の歴史と当時の生活を考えていく上で大きな成果となった。</p>							

仙台市文化財調査報告書 第386集

仙名城跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書VI

2011年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町1番1号
文化財課 022(214)8893～8894

印刷 今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10
022(288)6123